「プロレスとは何か」をクソ真面目に考えよう

紙のプロレス RADICAL

2002 45



●問題提起大特集

『エンターテインメント』とは何か?

平成の『ケーフェイ』
衝撃の問題本を出版!!
ミスター高橋
前田日明他が
爆弾本にリアクション!

「プロレスを救うのは俺しかいない」
ターザン山本

エンターテインメント宣言の先駆者が
来春、丸ごとやってくる!!
どうする日本のプロレス界
WWFが、
ホントに日本上陸!!

今号はルーツのメキシコ現地に潜入!!
22ページ総力取材!!
闘龍門は
プロレスそのものだ

俺っちは突っ走るからよぉ
これがメジャーに真似できるかよぉ?
葛西 純

●巻頭特集

『猪木祭り』とは何か?

杖をついてでも99%出撃!!
髙田延彦

「猪木軍vsK-1」大波乱!!

藤田が衝撃のリタイヤ!!

マット界が乱れ、混乱したときこそ
小川直也の出番!!

爆烈! 12・23『PRIDE.18』ド直前!!
なんと、起死回生のシウバ戦に挑む!
アレクサンダー大塚

12・31迫る!! 「猪木軍vsK-1」は

命がけのエンターテインメントだ!!

祝! デビュー10周年!!
金原弘光

昭和プロレス伝説を再び語るダニ!!
グレート小鹿

驚愕!! 死神が人生相談に答えた
ジェラルド・ゴルドー

総合の中軽量級の
Wエース対談
須藤元気
×
矢野卓見

『紙プロ』旗揚げ10周年&RADICAL創刊5周年記念号

紙のプロレス RADICAL NO.45 命がけのエンターテインメントだ!!

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188



プロレスファンに言いたい。「君たちなんて格好をしてるんだ」と

ミラノ選手、『紙プロ』ウェアはどうですかっ!?

★★★大好評U.M.F Tシャツ★★★

胸を張って着るんだ!

U.M.F. トリムシャツ〈白×黒〉
¥3,000 SOLD OUT or M or L



陰謀によってマット界に生まれた純粋で真っ白な軍団UWF! そんな思いをTシャツにしてみたぞ!

U.M.F. トリムシャツ〈白×青〉
¥3,000 SOLD OUT or M or L



ああ、オレたちはまだまだ青かった! そんな挫折を決して忘れることなく残した一枚だ!

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉
¥3,800 S or SOLD OUT or SOLD OUT



会場でのレーザー光線がまぶしかったオレたちのUWF! あの輝きがTシャツになって再現!

紙のプロレスRADICAL おもいっきりロゴT
¥3,800 S or SOLD OUT or SOLD OUT



残りわずか!

21世紀を記念して作られた『紙プロ』ゆかりの関係者がロゴで総登場Tシャツ!! 背中で語れ!

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉
¥3,500 SOLD OUT or M or L



熱いヤツには赤のSS Tシャツがよく似合う! それでは皆さん、KING OF MAGAJINEを背負いますかーッ!

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉
¥3,500 SOLD OUT or M or L



Tシャツの売り上げなんて勘定してんじゃねえよ! それほど売れてる、おなじみSS Tシャツだ!

紙プロネックピース
¥~~1,200~~➡大特価 ¥600



大特価で人気集中! ネックピースを掛けた俺のクビをカッ切ってみろッ、この野郎!

※SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、バトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

★★リングおじさん引退! 早めにGETしろ!★★

リングおじさんパーカー〈黒〉
¥6,000 M or L



リングおじさんパーカーは永遠に不滅です! 復刻しても大人気のこのパーカーで冬を乗り切れ!

リングおじさんパーカー〈白×黒〉
¥6,000 M or L



クラス全員がこのパーカーを着て登校しているという噂も続出! バックのロゴが決め手だ!

通　販　方　法

希望商品の代金+送料¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300)を郵便振替か現金書留で下記の住所まで送るんだ! 郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーを明記)を必ず表記してください! 記入しないと商品が発送できません。隣のページのTシャツお申込みもOK!

[郵便振替の宛先]
00130-3-769154

[現金書留]
(株)ダブルクロス
〒151-0051東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

[お問い合わせ先]
03-3403-5188

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン東京(TEL.03-3221-6237) ★チャンピオン大阪(TEL.06-6645-5186) ★岐阜・バンザイ商会(TEL.0584-75-4966) ★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160) ★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551) ★グレート・アントニオ(TEL.03-3219-9550) ★大阪・バディスラム(TEL.06-6645-1378)

藤田、アキレス腱断裂!! 髙田、出陣決意!!
バンナKO負け!! 小川はどうなる!?



やる前から大波乱を起こす馬鹿がいるかよ!! でも“馬鹿”になった命がけのエンターテインメントが「猪木軍vs K-1」だ!!

ドラマがある
りとは』
の
り!!



11/16 藤田&ヤスティ、ロス修行へ





11・16、"野獣"藤田和之と"借キング"安田忠夫が、同じ便でロスに旅立った。2人は、ロスでは行動を別にし、地獄の特訓ロードに突入。藤田は現UFCヘビー級王者のランディー・クートゥアらと合流、安田はかつて"ヒクソンが恐れる唯一の男"と言われたマルコ・ファスらと合流しトレーニング。この時点では、藤田は12月からその足でブラジルに出向き、ノゲイラらが所属するブラジリアン・トップチームの元で柔術の源流に触れることになっていた。まさに"修行とは出直しの連続なり"を地で行く藤田は、空港で、新日本の永田裕志がミルコとの対戦を希望していることを明かした。

11/18 永田、『猪木祭り』参戦表明。しかし……。

11・18新日本・伊那大会で、永田が『猪木祭り』に出場する意志を明かした。しかし、自ら照準に入れたK-1戦士のミルコ・クロコップ戦ではなく、相棒の"野人"(orカシンの心の友)・中西学と組み、マーク・コールマン&ゲーリー・グッドリッジ組とのタッグでの決着戦を志願するという、ズバリ言ってズッコケるもの。

12・11大阪で決勝戦が行われる「G1タッグリーグ戦」のヘビー級リーグ戦に中西と組みエントリーしているが、そこでの優勝を条件に、PRIDE戦士で新日本のリングにも上がったことのあるコールマン&グッドリッジ組戦をブチ上げたわけだ。なぜだ!?

これに対しアントン総帥は、「ここまできたら、出るか出ないかは本人の意思次第」と言いつつも、あくまでも永田には対K-1に出陣してもらいたい意向を表明。永田の『猪木祭り』参戦が、対K-1とは別枠になるのか？　それともミルコ戦が実現するのか？　アントン総帥vs新日本の政治的な動向も含め、今後さらに紛糾しそうな予感をもたせた。

11/21 セフォー、アビディ K-1軍に!! 猪木軍には カシン加入か!?

大晦日に向けて、参戦志願者が後を断たないK-1軍。21日に都内で会見を開いた石井館長は、12・8に行われる「K-1ワールドGP決勝」への道を右目負傷で断たれたレイ・セフォーとシリル・アビディの「猪木軍vsK-1」への出陣を発表した。ニュージーランドでは"ストリートファイトの神様"と呼ばれるセフォーは「ミルコの新しいチャレンジは尊敬に値する。オレの相手？　誰でもいい。誰とでも闘う」と、決意を表明した。セフォーは、サクとも激闘を繰り広げ、K-1参戦経験もあるエベンゼール・フォンテス・ブラガと後に特訓に入ることになる。

すでに参戦が発表されていた"拳獣"サム・グレコに加え、セフォー、アビディと一気にK-1軍は陣容が膨れ上がった。この時点でも、GP決勝の結果いかんでは、ジェロム・レ・バンナ、ピーター・アーツらのトップどころも投入予定に入っており、石井館長は、マジで最強軍団を編成し大晦日決戦に臨むつもりだ。日本人選手では子安慎悟も「館長に行けと言われれば行きます」と出陣決意を固めた。

一方、新日本の永田の参戦が微妙で陣容が固まりきらない猪木軍に、ケンドー・カシンが加入するという話もこの頃から出始める。ハイアン・グレイシーにリベンジを果たしたカシンはもともと"心の猪木軍"。カシンの対戦相手には、2週間前から寝技の特訓を敢行しているK-1軍の日本勢・子安慎悟が、ウェイトが同程度であるために浮上した。







猪木軍vsK-1
大波乱!!
11.16
↓
12.14

もうすでにこれだけのドラマ
『猪木祭り』
大波乱の連続なり

9月21日の記者会見からスタートした12・31『INOKI　BON－BA－YE2』(さいたまスーパーアリーナ)。そこからは大波乱の連続!! 史上最大の他流試合が始まる前から、まるでジェットコースターに乗っている気分だ。まさに「猪木軍vsK—1」とは"命がけのエンターテインメント"への壮大なるチャレンジである。

11/24

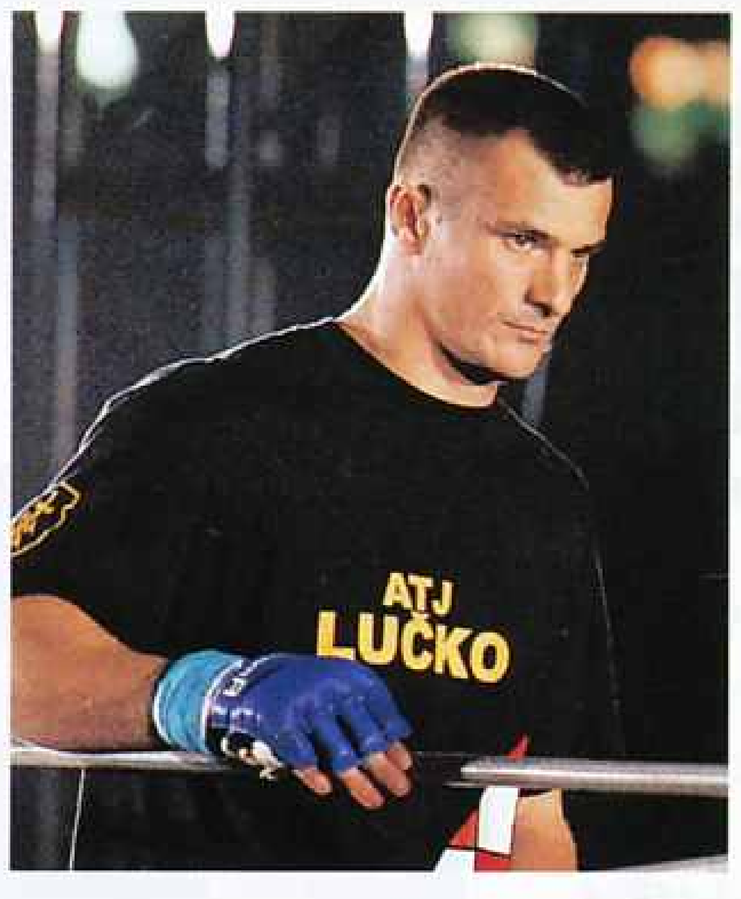
永田参戦問題でドラゴン渡米!!



永田vsミルコのスーパーカードが実現へ動き出した。24日、新日本・藤波辰爾社長と永島勝司取締役は、米サンタモニカに住むアントニオ猪木・猪木軍総帥の元に、『猪木祭り』の最終的なマッチメイク案を話し合うため渡米した。永田はミルコ戦をブチ上げた後に、中西学と組み、コールマン&グッドリッジのPRIDE怪物コンビとの対戦を要求。対K-1とは別枠での参戦も希望していた。実現しない方向に流れかけた永田vsミルコ戦だったが、ドラゴン藤波社長は、このときばかりは"いいコンニャク"ぶりを発揮。「猪木さん次第だが、最高の条件でミルコとやらせたい」とミルコ戦実現に向けて動く意向を示した。ビバ、ドラゴン!!　この時点で永田本人は口を閉ざしているが、関係者によるとすでに臨戦モードだったという。

11/28

猪木帰国!! 永田vsミルコ実現秒読み



「(永田vsミルコ戦を) 実現させるために帰ってきた」と、ロスから帰国したアントン総帥はキッパリと言い放った。ロスで行われた猪木ー藤波会談で合意された永田の『猪木祭り』への参戦は、26日永田自身の口から正式にvsK-1＝ミルコ戦出陣が宣言され、そしてこの日、アントン総帥のGOサインが出たことで、いよいよ実現が秒読み段階に入った。「まだ決まったわけじゃないが、闘いの火をもった人の炎を燃やすのが、俺の役目」という猪木プロデュースが、また一足踏み出されたわけだ。

そしてもうひとり、その動向が注目される猪木軍総大将・オーちゃんについては「本人次第。今回はわずか1週間の滞在だから小川本人と話す機会があるかどうかはわからないが、川村さん（UFO社長）とは話をしてて前向きに考えてくれている」と、あとは小川の決断次第ということを強調。暴走王の『猪木祭り』参戦問題もいよいよ大詰めを迎える様相を見せた。

また、アントン総帥から遅れること約2時間。同日、新日本・藤波辰爾社長も同じくロスから帰国。「永田本人の希望を叶えてやりたい。あとはテレビ朝日と話し合って、問題をクリアするだけ」と全面バックアップを約束。さらに「それよりボク自身12・11大阪で武藤との三冠戦があるから、明日から走りこまなくちゃね」と満面の笑みで、いつものように自分自身の野望実現を強調した。ロスのレストランで偶然ヒクソンと会ったことについても「ボクを見た瞬間、彼の目が闘う男の目に変わった」と断言するなど期待通りのドラゴン語録を爆発させた。ビバ、ドラゴン!!

11/29

藤田、緊急帰国!! 不吉な予感が…



この日、藤田が緊急帰国!!　藤田が11月下旬のロス特訓から、12月にはそのままブラジルで柔術修行に旅立つはずだった。しかし、両ひざに痛みを感じ、予定していたブラジル特訓をキャンセルしての帰国。藤田は自らのコンディションについては、強気に「柔術の練習は、(大晦日の) 対戦相手が打撃系と決まっているいまは、やる必要がない。あと1ケ月で体調を整えたい」と話した。

藤田は、1・4新日本ドームで実現という話が持ち上がった永田戦のことになると、ガゼン言葉の勢いが増した。「いま、新日本の中で俺に挑戦できるのは永田だけ。1・4は、同じ条件下にあるもの同士がやるべき。12・31は俺らにとって通らねばならない通過点。それを乗り越えて、タイトルマッチで闘おう」と、大晦日、1・4と命がけの連闘に燃え上がった。

永田の対K-1出陣が決まれば、藤田と永田は、ともに猪木軍として12・31にK-1軍を迎え撃つ立場。永田が、藤田を破っているミルコ・クロコップとの対戦を希望していることにも「すごい決断だと思う」と藤田はエールを送った。この藤田の緊急帰国に「あのとき不吉な予感がした」とは誰も言っていないが、まさかこの後、大アクシデントが待ちかまえているとは……。

また、この日も『猪木祭り』参戦問題についてはノーコメントだった小川直也は、12・9『真撃4』後は、1・4のドーム大会に全力投球する意向を示した。1・4の風向きは、小川vs健介戦へと、正直傾いた時期だ。



祭り』参戦を、
ン

12/5

パーリングができるくらい回復すれば、出たいという意志はある」とコメントした。

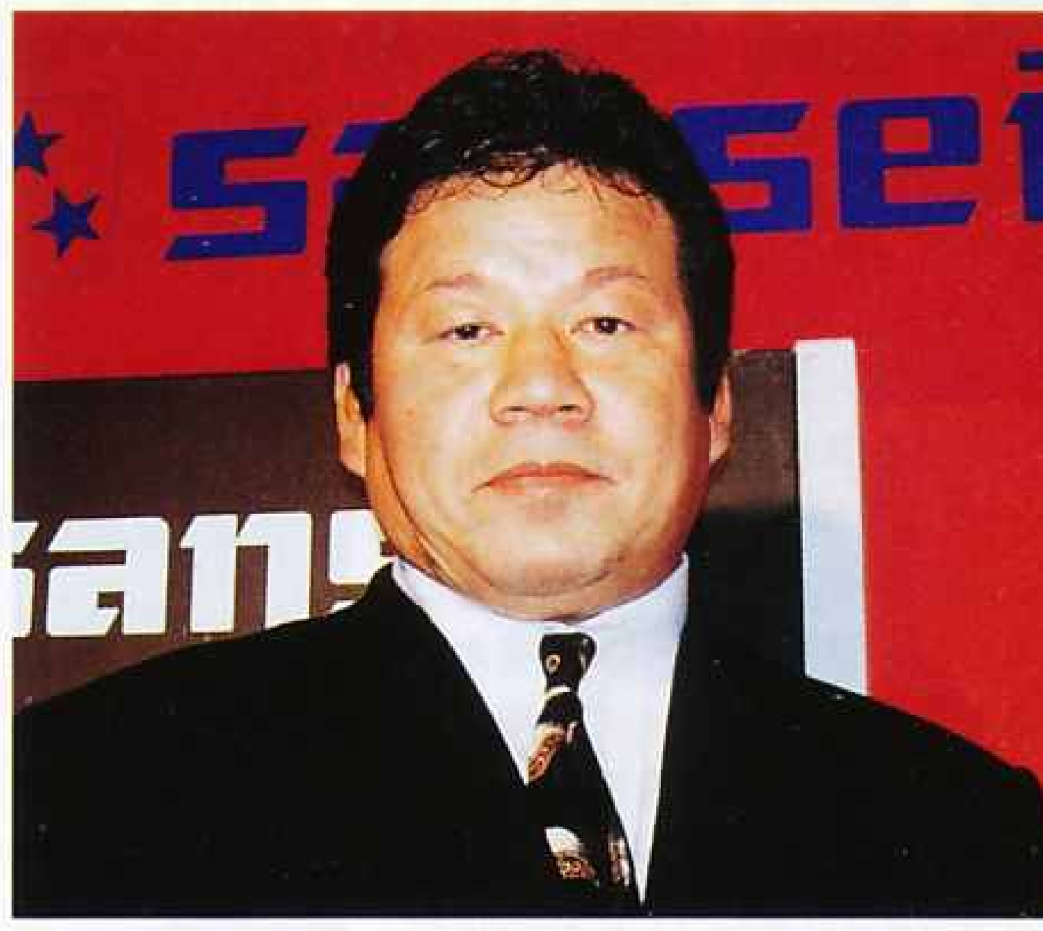
一方、アントン総帥は、注目される小川直也について「小川に関しては、今日、本当は爆弾コメントを用意してたんだけど、川村さん(UFO代表)から電話があって、もう少し待ってくれと。だから、今日は爆弾コメントはフタをしておきます」と不気味なコメントをするにとどまった。

さらに、永田vsミルコ戦についても、「K-1側からは、8日(GP決勝)が終わってから発表してくれという話もあるみたいだけど、ほぼ決まりとみていいでしょう」と話が固まりつつあることを明かした。

また、1・4ドームにアントン総帥を「リングに引きずり出す」と仰天の直接対決をブチ上げた“燃えるドラゴン”藤波社長の発言については、「俺の名前を出さないでくれって。俺の名前を出さずにビックリすることをやってほしい」と、さすがの総帥も苦笑いしながら語った。アントン総帥を苦笑させるとは、さすがだぜ、ドラゴン!!

12/4

ドラゴンが、アントン総帥に挑戦状!!



突如、赤いタイツ&シューズを履き“レッド・ドラゴン”となった藤波社長が、、またもや突如として、ドラゴン革命をブチ上げた。この日、1・4ドーム大会の第1弾カード「藤田vs永田」のIWGP戦、「小川vs健介」の2大シングル戦を発表したドラゴンは、よりによってアントン総帥に一騎討ちをブチ上げたのだ!!

「新日本プロレスの意見を通す意味でも、リングでやる必要があるかも」と言うドラゴンは、今年各地のドーム大会で、再三横ヤリに近い形でアントン総帥にカード変更を迫られてきた。新日本の筆頭株主であるアントン総帥と水面下で暗闘を繰り広げてきたわけだ。

政治的決着をリングでつけようという腹づもりのドラゴンは、12月3日に、永田のカード編成について猪木と会談を持った。先月のロス会談で関係が修復されたはずの両者だが、今後の交渉によっては直接対決になる可能性まで出てきてしまったわけだ。まさに何が起こるかわからない。

1・4に「猪木シート」を設置する意向の藤波社長は「タイツとリングシューズを履いてきてくれれば越したことはない」と言い、さらに「いままで猪木さんのひと言でドームのカードがひっくり返されてきたけど、今度は横ヤリではなく正々堂々とCEO（最高経営責任者）を送り込むと言ってました」と、猪木の考えまでも明かした。CEOの正体について、アントン総帥は「ミスターX」とだけ言ったという。

一時は泥沼化しそうな勢いだった“猪木vs新日本”の対立は、「引退した団体創設者vs現社長」という前代未聞の対決によって決着がつけられるのか？　燃えに燃え、まさに“レッド・ドラゴン”と化した藤波社長の的はずれな要求に対し、“燃える闘魂”はどう返すのか？　自分から対戦を要求した藤波社長も「猪木さんがイザ腰を上げたら怖い部分がある」と言うほど、猪木が本気になったときは怖いものがあるが……。『猪木祭り』は新日本をも巻き込み膨れ上がる一方だが……大丈夫か、ドラゴン？

スーパーサモア人誕生！K-1初制覇!! 藤田vsハント、急浮上!!

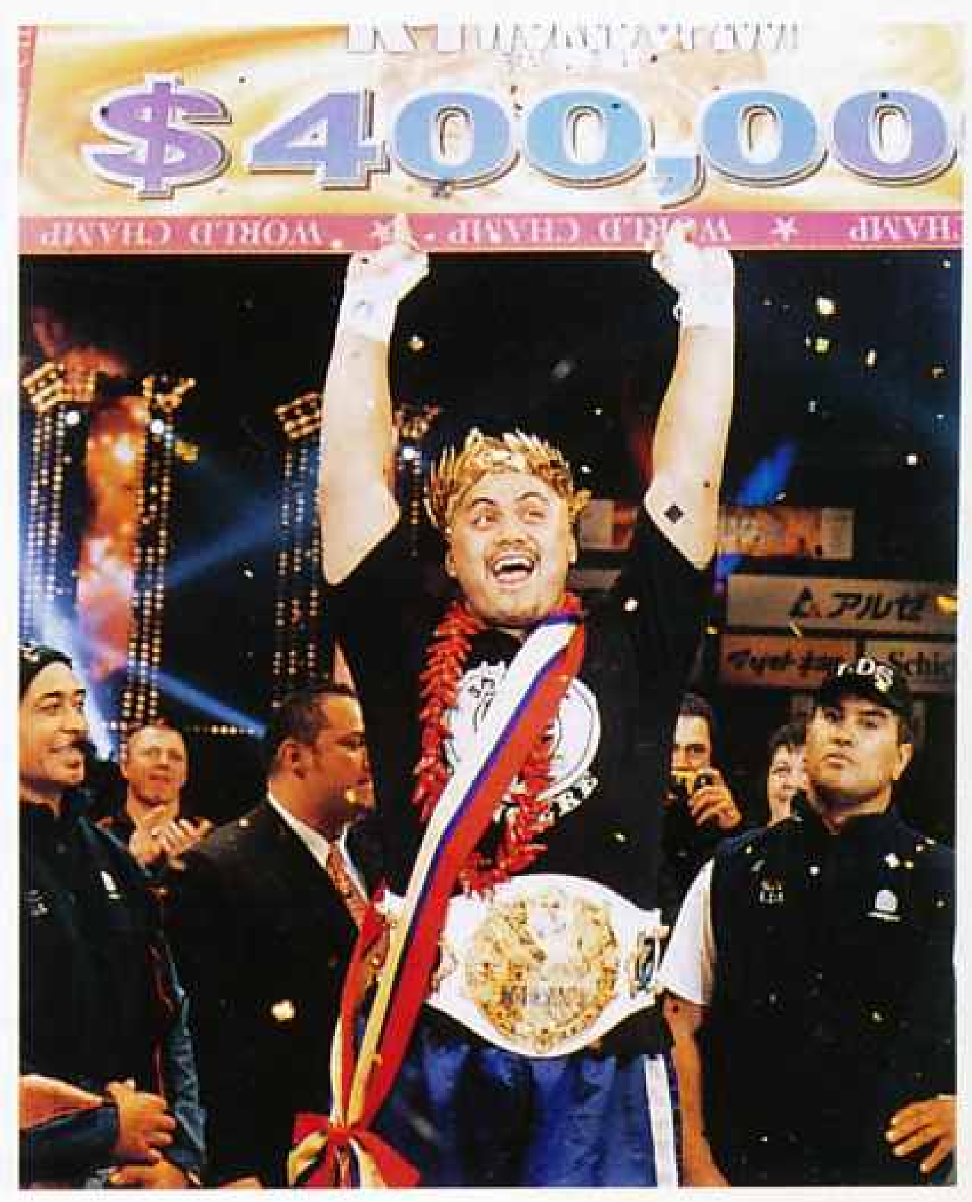
12/8

時”の姿勢で挑む藤田の対戦相手にハントは急浮上した。

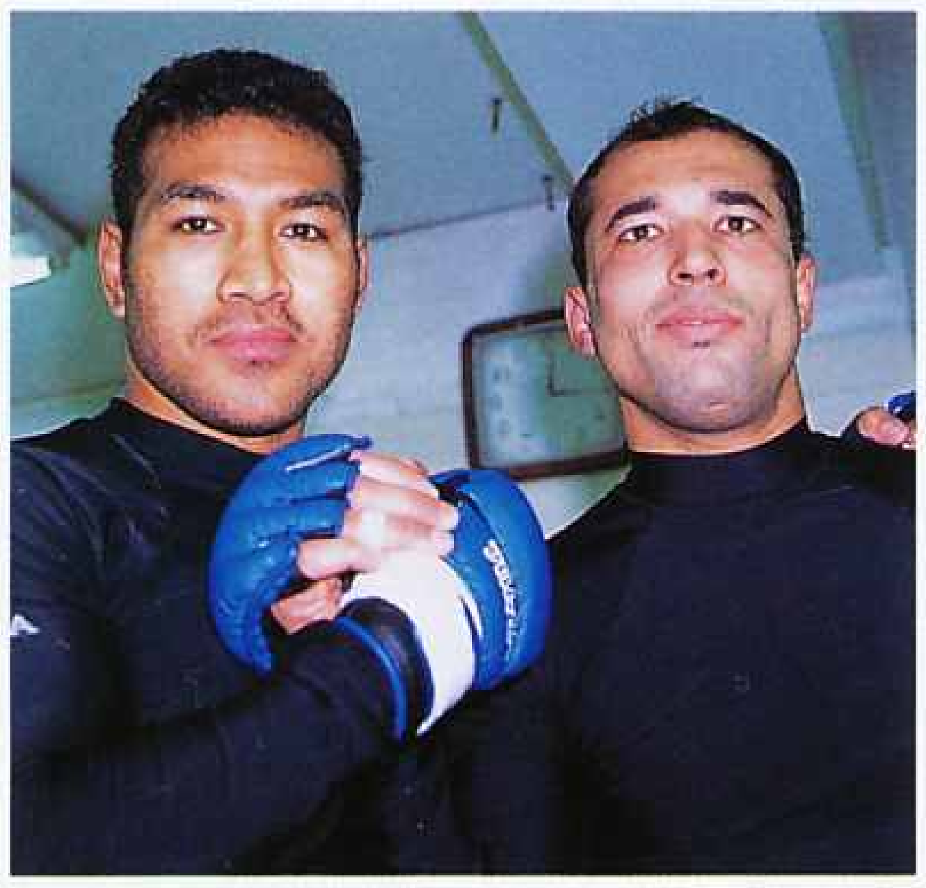
GP翌日（9日）に行われた会見にも、ハントはK-1軍参謀のホイス・グレイシーと共に出席。前日3試合も闘い抜いたのにも関わらず「ダメージ？　青アザぐらいかな」と豪快に笑い飛ばし、この時点では、ハントの大晦日決戦出場も可能性があることを匂わせた。

しかし、K-1・GPでは、ピーター・アーツ、ニコラス・ペタス、アーネスト・ホーストなど負傷者が続出。特に、対猪木軍に出陣が予定されていたバンナのKO負け、アーツの負傷は、K-1軍には痛い。猪木軍同様、K-1軍もメンバーの人選に頭を痛めはじめた。まさに、「猪木軍vsK-1」は、命がけのエンターテインメントの様相を呈してきた。





12/7 風雲急!! ホイスがK-1の参謀に!



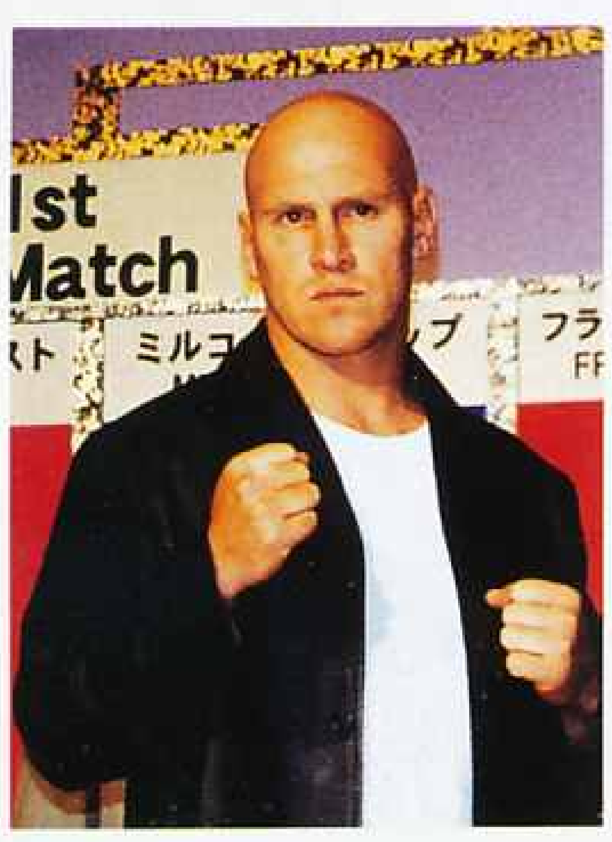
7日午後、あのホイス・グレイシーが、11・3『PRIDE.17』に続き、緊急来日をはたした。成田空港に到着早々、「猪木軍vsK-1」に"緊急参戦"を表明。「石井館長との友情において、K-1選手に総合格闘技の基本的な戦術を教えてヘルプする」と、K-1側の参謀につくことを明かした。ホイスは8日に行われる「K-1 WORLD GP2001」を視察し、その後、レイ・セフォーと約2週間のバーリ・トゥード特訓に入る。「猪木軍vsK-1」本番ではセコンドにつき、ミルコ・クロコップらのサポートもする模様だ。
「猪木軍vsK-1」に出陣してくれれば、誰もが脅威となるK-1勢だが、これにホイスが加勢するとなると、まさに猪木軍にとっては大ピンチとなる。

12/9 暴走王&破壊王、プロレス復権に向けて咆哮!

9日、大阪で行われた『真撃第4章』で、暴走王・小川直也&破壊王・橋本真也の"OH砲"が、途中、仲間割れしながらも、M・ケアー&T・ハワードの超強力ガイジンコンビを撃破!! STOと水面蹴りを同時に放つ、"狩龍怒(かりゅうど)"("ホワイト・ラブ"から改名)、そしてケアーをジャーマンの体勢に担ぎ上げた橋本を、小川が橋本ごとSTOで刈る"無想転生(むそうてんせい)"と、衝撃の合体殺法2連発から、最後は橋本がケアーをスリーパーで斬って落とした。小川は試合後、マイクで「来年もプロレスラーとして打って出る」と宣言。控え室でもノア勢との対戦に興味を示した。しかし、『猪木祭り』については「まだちょっと…」とだけ言って引き揚げてしまった。12月31日、小川直也はどこに……。



12/10 ベルナルドがホイスに弟子入り



対猪木軍との対抗戦に出撃宣言したマイク・ベルナルドが、正道会館でK-1の参謀に就任したホイスに衝撃の弟子入り。バーリ・トゥード特訓を開始した。しかし、「練習を人に見られたくない」(石井館長)との理由で、マンツーマンでグレイシー柔術の奥義を学んだ様子は報道陣には公開されなかった。ベルナルドのセコンドにはブラガが着くという話もある。表面上はマット界に新しい局面を切り拓くことで合致しているアントン総帥と石井館長だが、リング上は別だ。石井館長は本気で大晦日に猪木軍壊滅を狙っている。
またこの日、石井館長は、大晦日、猪木軍との7対7対抗戦の他に2試合を追加する構想も明かした。猪木軍の総大将・小川直也を出場させるべく、UFOの川村龍夫社長との最終交渉も大詰めに入った。12月31日、小川直也はどこに……。



高田の『猪木祭り 猪木が後押し

高田延彦が12/31『猪木祭り』への参戦を表明!! 5日、ロスへ帰国するアントン総帥が、恒例の成田会見を開いた。ここで、アントン総帥は3日夜に都内で高田延彦と会談を持ち、『猪木祭り』への参戦の意志があることを確認したという。高田の参戦については、「いろいろアドバイスをもらってるある人に、高田だけは出すなと言われてるんだけどね。ンムフフフ」と、まずは得意のアントン・ギャグで掴みはOK!!「やっとギブスを外した状態だったけど、『猪木祭り』に参加したいという申し入れがあって、そういうことなら喜んで、という話をした。前回(ミルコ戦)は、藤田が負けたミルコに対して、何がなんでも勝とうというより、引き分けでもいいというハードルで満足しようとしてた。その反省もあるんだと思う」と語った。
その高田も藤田も、それぞれ故障個所を抱えているが、これにも「まぁ、藤田にしても高田にしても杖をついてでもリングに上がってくればいい」と闘魂流の過激なエールを飛ばした。これによって、負傷が快方に向かえばという条件付きだが、高田の『猪木祭り』への出陣が決定。高田自身は「12～13日までにス

スーパーサモア人誕生! 12・8東京ドームで行われた「K-1 WORLD GP 2001」を"サモアの怪人"マーク・ハントが初出場初制覇した。、波乱続出の決勝トーナメントで、ハントは1回戦でバンナを衝撃KOした勢いに乗り、続く準決勝でも負傷欠場したホーストの代打で出場したレコに怒濤の判定勝ち。決勝では、史上初の極真&K-1王者という偉業に王手を懸けたフィリオを延長戦で判定で下した。
ハントという超新星が現れ、新しい渦が巻き起こったK-1だが、石井館長は「私たちは、挑戦を恐れず、年末、そして来年のK-1に突っ走っていきたいと思います!」と宣言。年末の大きな魚・猪木軍に釣り竿を垂らした。
しあかし、当初、バンナの相手は藤田とされていたが、ハントにKO負けを食らったバンナの『猪木祭り』出場は、これにより微妙となってしまった。
「バンナが負けたのは痛い」とうなだれた石井館長は、それでもめげずに、優勝したハントに、即オファー!! 1日3試合の激闘を繰り広げた直後のハントに「史上最高額のファイトマネーを提示しました」とニッコリ。まったくこの行動力は脅威だ!!
それに対してハントは「マネー次第」と言いながらも、「俺が必要なら迎えに来い!」とポリネシアン魂を発揮。"いつ何時"の姿勢を見せた。同じ"いつ何



猪木軍vsK-1
大波乱!!
11.16
↓
12.14

12/11

猪木軍大ピンチ!! 藤田を襲った、史上最大の悪夢!! アキレス腱断裂で緊急手術! 全治6ヶ月!!

「オイ！　ちょっと待て!!」――あのアントン総帥でさえも電話口でアワを喰ったという超衝撃のアクシデントが発生！

猪木軍・大将の藤田和之がアキレス腱断裂、全治６ヶ月のケガを負ったというショッキングな出来事が起きてしまった。このアクシデントは10日前後から、関係者&マスコミの間で公然の噂として出回っていたが、確証が取れたのが11日。マスコミでは東スポ（13日付）が超ド級スクープとして１面を使って報道した。

その記事には、藤田は大晦日決戦に備え、11月下旬のロス特訓に続き、12月上旬から山ごもり特訓を敢行していたが、その特訓中に右足アキレス腱を完全に切ってしまった、と書かれていた。

しかし、不測の事態に急きょ、緊急帰国したアントン総帥は、14日の会見で、衝撃の事実を明かした。藤田のアクシデントは山ごもり特訓中の出来事ではなく「謎のタイ遠征」での出来事だったという。山ごもりをタイで行っていたのか、ケガをしたのが練習中なのかそれ以外でのアクシデントなのかは現在のところ不明だ。しかもこの「謎のタイ遠征」はアントン総帥の預かり知らぬことであり、管理不行き届けでマネジャーを務めていた猪木事務所取締役でもあるＩ氏を無期限の訓告処分にすることも併せて発表した。(詳しくはＰ９～へ)

12月に入ってからブラジル修行も行うはずだった藤田は、11月29日に帰国。当初、その理由は、古傷の両ヒザ悪化と体調不良のためとされていたが、これもアントン総帥によると、「不慣れなブラジルで練習するよりも、日本で練習したいという希望もあった」ということだ。激戦が続いていた藤田の体調不良は確かにあったようだが、大晦日への出陣決意は、まったく変わらなかったという。

いったん帰国した藤田は、12月７日、山ごもり修行先から自分のHP(『藤田和之公式ウェブサイト』)に、『猪木祭り』に向けてのメッセージをUP。そこには噂されていたジェロム・レ・バンナ戦に向けての意気込みが書かれていた。当然、アクシデントはその後のことと思われる。また8日に行われた『K-1WORLD GP』では、藤田が対戦相手に指名していたバンナが、優勝した“スーパーサモア人”マーク・ハントにまさかのKO負け。『猪木祭り』参戦が事実上不可能となってしまった。そこで急きょ、藤田vsハントの“究極の似た者同士対決”が浮上した矢先に襲った究極のアクシデントだった。

藤田は12日に都内の病院で緊急手術を行い「無事成功した」と、アントン総帥は近況を公表した。アントン総帥は全治６ヶ月という報道に対しては、「そんなにはかからないだろう」と語るが、場合によっては完全復帰までに1年を要するという見方もある。

現在のところ、藤田周辺はこの件の詳細については完全に箝口令を敷いており、ミステリアスな空気に包まれる今回のアクシデント。まさに、足並みが揃いきってない猪木軍に暗雲が立ちこめる状況となった。しかもこの暗雲は『猪木祭り』の他にも、１・４ドームのメインで藤田vs永田のIWGP戦を組んでいた新日本にも覆い被さるかかることなり、今後のマット界の流れを左右する大事件に発展してしまった。

12月の８日～10日の間に泥棒に入られ、現金約300万円を盗まれた事件に続いて衝撃の悪夢に襲われた猪木事務所。そして猪木軍にとっては、ひと足早い悪魔からのクリスマス・プレゼントとなってしまった。

だが、その泥棒に対しても「俺は金持ちじゃないけど、まぁ、盗った人がそれで少しでも懐が暖かくなるなら、いいんじゃないですか」とビッグハートすぎるコメントをしたアントン総帥は、まったくメゲずに史上最大の大晦日決戦に向けてテンションを上げ続けている。

昔から、窮地に陥ったときのアントニオ猪木は驚異的な大逆転の力を発揮する。

藤田の負傷欠場は、猪木軍にとっては痛すぎるが、「K-1の野郎、ブッ殺してやる！」というアントン総帥の火種は、今回の件でさらに燃え上がったはずだ。

そして、藤田！　一刻も早く回復し、リングに帰ってきてくれ!!




東京スポーツ
右アキレス腱
中止!猪木祭出場
スクープ!!
藤田手術
断裂
全治6か月
IWGP王座は返上へ



12/13 安田帰国!!「牛とか馬と特訓したんですか?」〈記者〉「しない!!」〈安田〉



13日、ヤスティこと安田忠夫が、ロス修行からの帰国会見を行った。大晦日の対K-1に向けて、"ヒクソンがもっとも恐れた男"と言われたマルコ・ファスの道場でブラジリアン柔術の奥義に触れてきたヤスティは、修行成果を「練習は万全です。万全っていうか、自分なりには納得してます」「根はナマクラですから(笑)。その辺は……」「いままでと違うっていうか、ホント、いままでやらなかったのが、これでわかったんで、すごい自信になってますよね。『なんでこんなことできなかったんだろう』『やんなかったんだろう』っていうくらいわかりやすくて。絶対負らけれないというふうに自分でも思ってます。気持ち的には弱いですけどね……とかいって(笑)!! でも大丈夫だと思います」と自信満々(ちょっとオトボケ風)に報告した。

「他に何にも無いんだよねぇ。ロサンゼルスって何にもないところで、山ん中で牛とか馬がいるってところで」と修行地の感想を漏らしたヤスティに、「牛とか馬と特訓したんですか?」と記者が質問すると、即座に「しない!」とヤスティは破顔一笑。実にヤスティらしい、ほのぼのとした会見となった。

だが、大晦日決戦の話にはちょっぴり気を引き締め、「俺が負けても藤田君がいるから大丈夫と思ってたけど……藤田君の代わりっていうふうにはならないですけど、藤田君の分まで頑張れればいいかなって、いま思ってます」「いま思うのは、とにかくリベンジ!! ま〜た借り作って(笑)。それがこういう風にずっと来たまま、12月31日があるっていうのだけで来てますから」とコメント。意外にも"いつ何時誰とでも闘う"という猪木イズムを発揮した。

藤田負傷欠場、小川直也の出場はいまだ微妙という厳しい状況の中で、「俺が一番弱い」と自分で言い回ってるヤスティの肩に、猪木軍の命運がかかってきたと言っても過言ではない。

大晦日決戦後のプランを、「自分でやりたいのはプロレスなんで、プロレスラーとしてIWGPのベルトを狙いたいと思ってます」と語ったヤスティだが、まずは『猪木祭り』でのK-1へのリベンジ。

"命がけのエンターティナー"ヤスティの闘いに注目せよ!! 頼んだぜ、ヤスダァァァ!!

猪木軍vsK-1
大波乱!!
12.13
↓
12.14

12/14 石井館長、小川を痛烈挑発!! 負傷のP・アーツも出陣!! ハント出陣は見送り



この日、K-1・JAPANガールのオーディション会場で、石井館長が「小川は猪木さんが窮地に陥ってるのに何をやってるんだ」「小川のことは好きだったけど、もし出てこなかったら嫌いになる」と、出陣が微妙なオーちゃんに強烈な挑発を行った。

トドメは「ベルナルドやアーツらK-1軍の方が、よっぽどサムライだ!」というひと言だった。12・8「K-1ワールドGP決勝」で左足甲を打撲したピーター・アーツは、この日までに「ミスター・イシイがボクの力を必要とするなら、喜んで協力する」と出場を宣言したという。アーツは、関係者によると驚異的な回復を示しており、日本に残って決戦の準備に入っている。"GP3回制覇"のアーツとオーちゃんの一戦は随分前から話に上がっていたが暗礁に乗り上げていた。頑なに総合格闘技進出を拒んでいた"豪腕"ベルナルドも「寝かされたら終わりだが、それでもいいのなら館長のためにボクは出る」とすでにホイスとの特訓に入っている。

「彼らの方がずっとサムライの心をわかってるよ」——この館長の挑発は、小川への期待感の裏返しとも取れる。

なお、K-1世界王者マーク・ハントは、3試合の激闘を闘い抜いた直後の試合、対戦候補だった藤田の負傷欠場など、さまざまな事情が重なり出場を見送った。とはいえ、K-1軍はアーツ、ベルナルド、ミルコ、グレコ、セフォー、アビディ、子安の出場7選手が内定。ベテランから新鋭、日本の空手王者ら、史上最強を名乗るにふさわしい陣容となった。猪木軍のピンチは続く。

12/14 大仁田が「大晦日、百八つビンタ受ける」



この日、大仁田厚参院議員が、アフガニスタン難民キャンプ視察のため、松山政司参院議員と共にパキスタンへ出発した。大仁田はニューヨークの消防服を身にまとい、「子供たちと同じ目線で生の声を聞いてきたい。(小泉)総理にも報告します」と目をランランと輝かせた。現地では子供服などを援助する。また、アントン総帥への挑戦、『猪木祭り』への乱入予告を続けていた邪道・大仁田は、「猪木さんから何の返答もない! 猪木さんは去年"百八つビンタ"をやったらしいが、今年もやるなら正々堂々、"百八つビンタ"を受けにいくことを明言します」と言い放った。

藤田欠場！ 小川は不参加？
それでもアントン総帥は……

周りから見ると俺が苦境に立ってるというか
俺はそう
思わないけどね



猪木緊急帰国六本木会見

構成／斉藤中　designed by matsu (Two three)

猪木軍vsK-1
大波乱!!
12.14

「藤田和之アキレス腱断裂！」との衝撃の報を受け、慌ただしく12日に急遽帰国をはたしたアントン総帥。本来ならば藤田を軸としたvsK—1出陣メンバーを想定しながら「K—1の野郎、年越せねえようにしてやる！ンムフフフ！」と、ロスで高笑いを飛ばしているはずだったが、藤田の負傷欠場でアントンプランは大幅に大狂い！狂いが生じたのはアントン総裁だけじゃない。東京ドーム控える新日本、再び参戦問題がクローズアップされた小川などなどマット界は大混乱！TBSも真っ青！プロレスの不沈に関わる大騒動！それでもそれでもアントン総帥は……「元気ですかーッ！」と、元気いっぱいだ！そんな元気なアントン総帥の会見を、今回は恒例の成田からではなく、六本木よりの特別中継でお送りします！それでは、読みますかーッ！

12月14日、メディアビジネスを世界にプロデュースしていく『イノキプロジェクト2002』なる活動発表イベントが行われた。イベントでは始めにアントン総帥が「猪木ボンバイエのテーマ」に乗って元気に登場！そして、開口一番、記者陣しかいない会場に「元気ですかーッ！」といつものシャウト！記者陣爆笑には「まあ、これには飽きちゃったんだけどね。ンムフフフ」と続けてカッ飛ばし、藤田ショックを微塵も感じさせないアントン総帥！この『イノキプロジェクト2002』でも、そんな元気いっぱい夢いっぱいで思わず頬をツネってしまうプランが世界に発信！なんとアントン総帥がアンドロイドになって世界を救う劇場アニメが製作されてるというからビックリ仰天！そんなステキな報告イベントのあとに、記者陣に囲まれ、アントン総帥が言葉を吐いた！



★　★

猪木　別に記者会見やるつもりはなかったんですけど（笑）。たまたまみなさん来られちゃったんで。あの（猪木軍vsK—1カードの）正式な発表、いろんな部分は確かに18日にやる予定になっておりました。本来は、今日（14日に）帰国するつもりでいたんですが、もう皆さん報道されてる通り藤田がアクシデントというか、アキレス腱を切ってしまって出場不可能ということで。選手の健康管理というか、俺自身は直接にはやんないけど、いろんなアドバイスというか。それぞれの選手は試合が決まった瞬間から大変なストレスに見舞われるというか。そのストレスをどう対処していくかっていうか、ストレスに打ち勝つとかいろんな言い方がありますけど。まあ、あの特に最近『PRIDE』の試合であったり、今回の猪木軍K—1とか普段とは違ったプレッシャーが掛かってくるそういう中で、藤田の状態があまり良くなくて。アメリカで私が治療を受けてる人に、一回気分を変えるためにって（藤田を）呼びまして。治療を受けながら軽いトレーニングに入ったら、非常に状態が良くなってきまして。それで本人ちょっと風邪っぽくなっちゃって。ブラジルに行く予定をしておりましたけど、今回相手がK—1ということなんで、ブラジルにいる選手よりも（日本に）帰ってきて別の選手とのトレーニングがいいのかなあってことで（藤田は）帰国しました。私がちょっといまここでは公にはできませんが、いろんな治療方法がありまして。（その治療をやったら）本人テンションがバーンッ！って上がってちゃってですね。いい状態になって、これならいいファイトしてくれるだろうと思って。それで、昨日一昨日ですかね、電話がありまして。実は（藤田は）タイに行ってるということだったんですね。タイに行ってるということ、私は知らなかったんです。まあ、みんなそれはいいと思ってやったことだろうと思うんですが、これを仮に戦争に例えたらどういうことになるんだと。俺が最高司令官だとすれば、戦局が分からずにですね、俺が知らなくて大変なかたちになってしまう。まあ、アクシデントは別にしてですね、結局そういう報告を事後報告というか、そういうかたちで行われたんで。1つには大変ファンの皆さんに期待をしてくれたのに関わらず、それが応えられなくなってしまったという。これはアクシデントだけでは片づけられない。我々も責任者としてそれは何らかの処罰をしないといけない。これを企画したというか、まあ日頃皆さん御存知のIという者がタイであれしたわけですが。そういうことでですね、（藤田は12月31日に）よほどのケガでない限りは結果はともかく（1月4日の）新日本のリングも上がるということで本人は決心しておりましたんでね。そういうことで私が怒ったことを受けまして、新日本側

からですね、（伊藤は）新日本の籍も多少はあるもんですから訓告処分というか、まあ無期限の、大変厳しいのかどうかわかりませんけど、今日書類が届きましたんでそれを了承したわけです。（その書面を読み上げ）『株式会社猪木事務所・所属のプロレスラー藤田和之の今回の負傷により、平成13年12月31日さいたまアリーナ「イノキボンバイエ」及び翌平成14年1月4日新日本プロレス東京ドーム欠場に至った責任は選手管理者Iの管理不行き届けであり、関係者並びに藤田和之出場を期待していたファンに対し、その期待を裏切ったことは誠に重大な過失責任がある。よって株式会社猪木事務所取締役Iは無期限の停職処分とする』と。えー、まあいま、こういう発表せざろうえないんで。猪木事務所最高責任者である倍賞鉄夫からの申し出もあったもんですから、それを承認いたしました（中略）まあアクシデントというかたちだけでは片づけられない。皆さんに御迷惑を掛けたことをお詫び申しあげます。……どうぞ、質問があれば？

――Iさんは事実上の解雇ということなんですか？

猪木 まあ、解雇というか、まあねえ。俺はそこまでしたくないんで。皆さん人間には間違いがあったりですね。ホントはいままで我々の体制が、そういうような管理体制じゃなかったということも1つあるんで。というよりは結局は俺自身はまあ、藤田を見てどういう状態なのかなと。そのためにもアメリカにも呼び、あることをやってもらって。だから、そのトレーナーというものを分からない人間がやったとすれば、プレッシャーだけをかけてしまったり。あるいは調子が良いからって、その調子が良いことが大事じゃなくて。その当日が調子が最高潮に上がることが大事であってね。「いやあ～、最高に調子が良かったんです！」なんていう報告がありましたけど、バカヤローッ！ってね。そんな問題じゃなくて、要するにどうやったら最後の一番の本番のときに調子が最高なるかっていうのが大事であってね。そういうことがわかってないものが勝手に選手を動かすとか許せない。まあ、だから……怒りは怒りとして彼が気づいてくれればね、いつでもまた。無期限ですけど、それはまた考えようと思っております。

――いろんな報道がありますけど。藤田さんはどういう状態ですか？

猪木 俺も詳しく聞いてません。アキレス腱の一番太いやつが切れてるそうです。それで、切れてて具合がいいってことはないんですけど（笑）、要するに複雑じゃなくて、プッツリ切れたんで。まあ、手術の方でキレイに繋げたんで。回復は選手は普通よりは早いんで。多分6ヶ月とか言ってますけど、もっと早い状況でね。

――藤田選手が持つIWGPのタイトルに関しては？

猪木 これは多分、俺は何とも言えませんが返上でしょうね。本人が嫌だと言えば別の話で、これはもう新日本としてなんかしら処置をするでしょうから。

――「イノキボンバイエ」では猪木軍、K―1の両軍ともバンナ、藤田の大将格が抜けるということですが？

猪木 1つは小川というね……皆さんここまで来てて言わないから、俺があえて。ンムフフフ！

――（記者陣苦笑）。

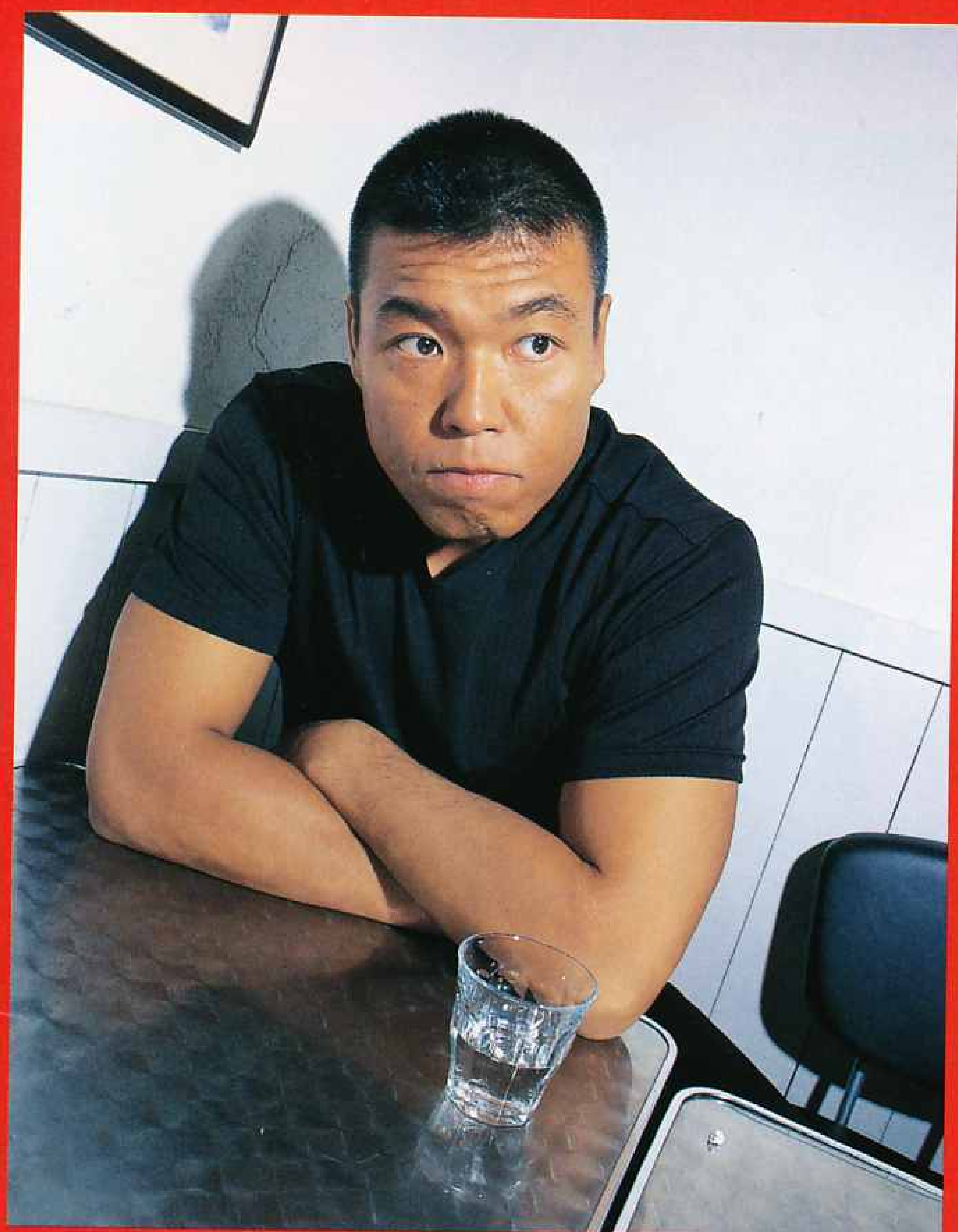
猪木 あの小川という、（イノキボンバイエには）最初に声を掛けてあるんですね。ただ、俺の方も非常に忙しくてですね。選手一人一人を声を掛けるヒマがなかったんですが。まあ、いずれわかってくることなんですが、裏の舞台でいろんなことが動いているようなんです。俺の知らないことがね。俺はそれは知らなくていいことなんですが、1つはギャランティの問題であるとか、いろんなことであるんですけど。とりあえず、UFOの社長の川村さんが話をしてもらってるようです。方向性としては、どうなんでしょう？……いい方向で。俺1つここだけ誤解してもらいたくないのは、藤田がこうなったから、代……代替えっていう言葉でいいのかな？ そういうことじゃないんですね。元々いろんな水面下であったことがなければ、彼は一番最初に馳せ参じてくるだろうと思ってましたし。だ



から、大変難しい興行であるというのは百も承知でね（笑）。昨日、正直石澤もですね、要請が前からあったんですけど声を掛けるヒマがなかったと。彼は「誰が相手だかわからないから準備ができません」という答えだったんですが。俺が説得したんじゃなくて、ちょっとした彼のストレスを取ることによってですね、（石澤は）「やらしてもらいます！」ということで、非常に。まあ、俺がいまある意味では苦境に立ってるというかな。俺はそうは思ってないけど、端から見るとそういう風に見える部分があるんで。「勝敗はさておいて、自分がお役に立てるのなら喜んで参加させていただきます」ということで石澤は決定いたしました。で、小川の件やなんかはトータル的には一応18日は発表にするようなかたちになると思いますので。まあ、俺もこんな局面に出くわすと思っていなかったから。ンムフフフ！

――小川さんは今日の段階では出場の方向にあると猪木さんは思ってるんですね？

猪木　どうですかね？　それはもう本人の納得行くような（条件であれば）。ある意味（小川には）プレッシャーは掛けたくないと思うんですよ。



――vsK―1に関しては現時点において猪木軍のメンバーというのは決まっているのでしょうか？

猪木　まあ、いっぱいいるわけですよ！　ノゲイラとかいろんな選手ね。ハッキリ言うと、K―1選手だってビビる選手がいるわけだから。全部が全部やりたいわけじゃなくて。まあ、でも逆に言えばやりたくてしょうがない、こんな舞台に出たいっていう選手もいっぱい来てるんですけど。それはもうノゲイラなんかは「ノーギャラでお願いします！」って言うぐらいに燃えてくれたりする人もいるんですね。（中略）ただ、やっぱり番組上どうしてもキャラクターとして日本人のキャラクターがほしいわけですから。そういういま言ったような小川選手も、そういう意味では彼が決断してくれれば、大変大きなインパクトを掴めるチャンスであると思うんですね。

――日本人選手は永田、安田選手を含め3人ですか？

猪木　安田はやる気満々で帰ってきてますから。あと高田も含めてね。みんな俺が帰ってきたら、よくこんな状態でやるとか言ってるなていう（笑）。（中略）まあ、他にも出たいという日本人選手はいっぱいいると思うんですよ。アレキ（アレクサンダー大塚）でも何でもまあ、みんな声を掛ければね。ただ、やはりとりあえず猪木軍というかたちで動いている選手を使えればね、一番いいと思うんで。

――こういう状況で準備段階が少ないとはいえ、石澤さんがやりましょうと言ってくれたことについてはどう思いますか？

猪木　いやあ〜、もうホント、ねえ（笑みを浮かべて）。最初は（石澤も）絶望的だったんですよ。俺もそこまで出てこいと言えない部分があるんで。ただ、まあ俺もだます気持ちはないけど「たまには顔見せろよ！」って、ダッハッハッハッ！　で、こういう状況だよと。「ウーン」って一言言ってたけど、しばらく考えてたら「お任せします！」と、言ってくれたんで嬉しく思ってます。

――石澤さんの参戦は嬉しかったんですか？

猪木　いやいや、まあ彼とはパラオとか行ってますから。彼としては、新日本の看板っていうのは崩しちゃいけないと考えるのは当然ですから。（でも）そうじゃなくていいよと。これがファンに夢を与える。オマエが出ることによって、それだけ期待が大きくなるんだからっていう話をさせてもらいました。

――猪木さんの方から小川さんにお話されるわけですか？

猪木　いやいや、だから俺は触らないことにしたから、絶対ね。これはもうUFOサイドで言っててもらったほうが。要するに興行に関わる、石澤みたいな話なわけにはいかないものがあるでしょうから。金銭の問題も含めてね。

――小川さんに対してどういうメッセージを送りますか？

猪木　最大のチャンスだろうね、これは。だから、彼なんかもプライドが強いでしょうから。藤田の代打じゃないよと。これはもう最初から（小川は）候補に挙がってる状況で。ただ、俺はプロデュー

猪木軍vsK-1
大波乱!!
12.14

サーっていうかたちですから。マッチメイカーじゃないんですよ、俺はホントは（笑）。でも、エライ変な役を最後は背負ってしまったな、しょうがねえあっていう、ホント心情ですねえ（笑）。もっともっと俺は看板化して、去年のイノキボンバイエじゃないけど、そういうかたちでですね。まあ、楽はできなねえなあってとこが本音です。ンムフフフフ。

——猪木さんは藤田選手には負傷後に会われましたか？

猪木　まだ、全然。まあ、見舞い行ってあげないといけないなあってな。ちょっと俺も怒りを鎮め間の時間がほしいなあって。ガハハハハ！

——藤田選手とは電話では話をしたんですか？

猪木　タイから電話が掛かってきまして。それっきりですね。

——藤田選手には、怒ったりしました？

猪木　怒んない、怒んない。それはだって（藤田の）声が沈んでて。俺も「ちょっと待て！」と。パニックったわけじゃないけいど、まあ、多少パニックって。「あとで電話しろ」ということで。

——とくに藤田選手自身にはお咎めみたいのはないわけですか？

猪木　彼は別に選手ですから。ただ、それを管理する側の問題っていうか。

——猪木さんから新日本1月4日の藤田vs永田に変わる提案っていうか提言とかはあるんですか？

猪木　彼らが考えることで、俺は（笑）。俺は俺なりにのアイデアがあるけど、とりあえず。だから、新日本に関して言うならば、小川がこの前の三巴戦っていう急遽俺なりの発想を出してあげたのにも関わらず、それをボツにして。1月に再戦は大変ファンからも支持も高いからやりましょうとかって、それもボツしたのは俺の責任じゃねえよと！　そこんとこはいつもいつも新日本に苦情や文句を言って、俺ももうあきちゃったから（笑）。ただ、まあ、面白いこと考えろよと！　俺を呼ぶ以上は頼むから客入れてよって！　うん。もう、俺らが苦しむ時期があったから、座席が空いていたとか。それでも時代の背景の流れの中でね、最善の努力をして試合をしてた時代ですからね。今回の訓告処分というか、Iの問題も含めてね、新日本が1つビリっと締まってもらいたいなって。初めてのケースとして、Iには可哀想な部分があるかもしれない。良かれと思ってやったことかも知れない。ただ、さっきも言ったように軍隊だったらどうするんだと。最高司令官も知らない。テメエが勝手にこんなことになって。だから、責任をちゃんと明確しないといけない部分が。



これが3D劇場アニメ化されるというアンドロイド・イノキ!?　リングに上がる日は来るか!?　レッツ、ゴー！　ワン、ツー、スリー、ダーッ（ヨダレを変わらず）！

——猪木軍のメンバーは、最終的にはいつごろの発表になるんですか？

猪木　俺のとこじゃなっくて、石澤にでも聞いてよ！　ホント、俺はポジション的には看板を掲げてるわけですからね（笑）！　実質に動いている人たちっていうのがいるしさ。

——18日にはカードが発表できるんですよね？

猪木　いや、俺が表舞台に引っぱり出してくるよ！　で、直接聞いてよ（笑）。（中略）ここで最後一番大事なのは視聴率をどう撮るかっていう。TBSさんいまそこにいるからさ（笑）。視聴率を取らなきゃいけないね。取るためにはもっと番宣というか。番宣も含めて、皆さんにもっと取り上げてもらえるような話題を提供していかないといけないし。残念ながら、テレビ局同士のいろんな軋轢があるようです。ビデオは貸さねえとか、選手は貸さねえとか。もう、こざかしいこと言ってんなって思ってさ（笑）。要するに俺はターゲットをNHKに絞ってるわけだからさ。NHKが視聴率50（%）を切れりゃあ、仮にどこが勝利したって、いままであり得なかったことが起きれりゃいいわけだから。まあ、そういうことございますので、よろしくお願いします。また、明日かなあさってかな、またバカをやらしてもらいますので。ダーッハッハッ！　はい！　つまんない記事はやめてよ！

【01年12月14日・六本木ヴェルファーレにて収録】



噂はあったとはいえ「東スポ」の藤田アキレス腱断裂スクープはショッキングなニュースだった。が、前日にも「東スポ」一面を賑わせたショッキングなニュースを御存知だろうか？　そう、猪木事務所に泥棒が侵入し、400万を盗難した事件のことである。その事件の報告を受けたアントン総帥はなんと「俺は金持ちじゃねえけど、盗った人が幸せになるんだったらいいんじゃないですか。ンムフフフ」と、まるで人ごとなコメントを残したのだ。金を盗られてもゴキゲンだ！

スバリ言って週刊じゃねえんだから、『紙プロ』での「猪木軍vsK—1」情報はここまで！　最後に一つだけ！　この『紙プロ』の発売日にはとんでもないことが起こってます！　多分に、でしょ？　とにかく、大みそかは行きますかーッ！



男・髙田延彦 『猪木祭り』出陣決定!!

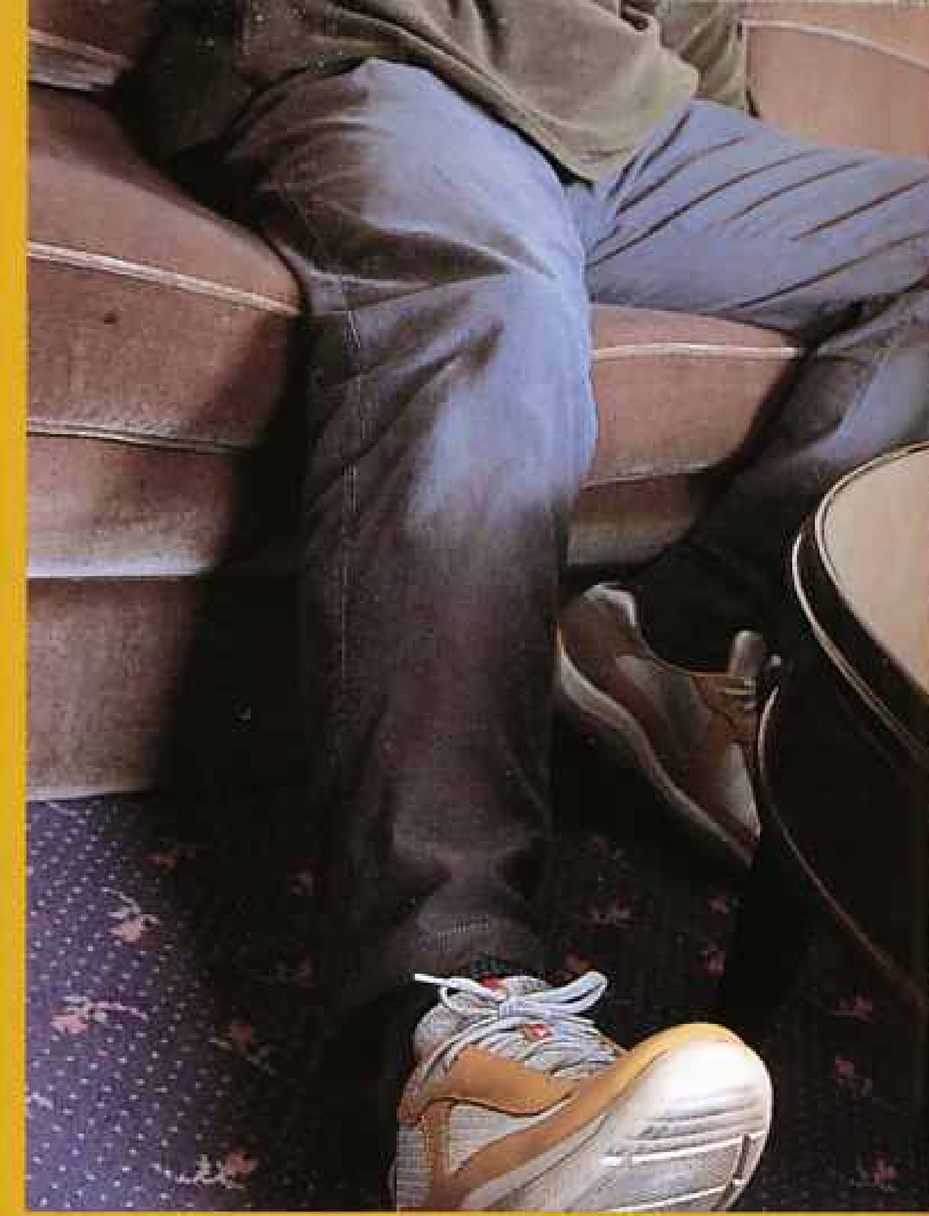
相手はサム・グレコが濃厚
ケガをおして一世一代の花道へ

11・3『PRIDE.17』。ドームに大ブーイングがこだまし、賛否両論を呼んだミルコ戦。しかしまた高田は、「なんとでも言ってくれ、俺は踏み出す」とばかりに、『猪木祭り』へ出陣表明。ミルコ戦で負った右踵骨骨折は、はたして まともに試合を行えるまでに回復するのか？　そして高田を闘いに向かわせるモチベーションの根元とは何か？　もう一丁！

聞き手／山口日昇　撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa (Two Three)



来年のいま頃は俺は間違いなくリングに上がってないということを考えたとき…猪木さんが冠になっている大会に出れるっていうのは“きっとこれが最後だなぁ”ってね



―ケガは大丈夫ですか？

高田　うん。

―だ、大丈夫なんですか？

高田　会う人会う人に聞かれるから、「うん」って答えてるだけだよ。めんどくさいから（笑）。

―で、高田さん、真正面から聞きますけど、正直、ケガの具合はどうなんですか？

高田　そこからいくんだ？

―はい。めんどくさいことは先に済ませましょう（笑）。「（12月）12～13日ぐらいまでに行けるか行けないかがわかる」という、出陣表明がありましたよね。今日がちょうど、その13日なんですけど、状況は好転してますか？

高田　まだ若干、足を引きずって歩いている状態だね。

―普段でも？

高田　そう。日によっては普通に歩けたり、朝起きると固まって歩けなかったり。まだ、決していい状態ではない。それに対するメンテナンスはリハビリ・トレーニングと、あらゆる治療だね。あとは自分でほぐしたりしながら運動機能を回復させることに集中しているよ。

―例えば、雨が降ったりするとヒドク痛んだりするんですか？

高田　最近、雨、全然降ってないでしょ？

―あ、そういえば、今日は久しぶりの雨ですね。

高田　でもね、今日はやっぱり調子よくないよ。雨のせいかもしれないね。

―調子がよくないということは、大晦日はどうなるんでしょう。

高田　当初、昨日今日の段階で結論を出すつもりだったんだよ。行くのか、行かないのかっていうね。というより、行けるのか、行けないのかということだね。それもいまの段階では難しくなってきたかなぁ、っていうのが本当のところだね。でも、あと2～3日、今週いっぱいまで結論を出す期限を延ばしてもらったよ。この状態だと、格段の回復が見込めないなっていうのが現状だね。

―当然、十分な練習ができる状況ではないんですよね。

高田　ウェイトだけ。

―上半身のみですか？

高田　ウェイトトレーニングで上半身のみ。下半身は全く何もやってない。

―ドクターはなんと言ってるんですか？

高田　ドクターからはひと言。「早くて2月だね」って。

―そのひと言のみ！

高田　うん、それだけ。自分がサラリーマンだったら全然問題ないよ。とっくに社会復帰できてるよ。

―社会復帰（笑）。

高田　まぁ、要するに社会人として働けるということ。こういう仕事だから、ここからまだまだ作業があるだろ。この状態からね。

―社長業のみなら、支障はなかったのになぁ、というとこですか。

高田　高田道場の社長業だったら、もっと支障ない。両方ギプスしてても支障はないよ（笑）。

―そんなラクなんですか、社長業（笑）。

高田　ラク、ラク。みんなが優秀だから。社長としてはな～んにもやることない。な？（と言って、広報の丸山氏を見る）。でもね、ギプスを取るまではもう、（『猪木祭り』に）出ることなんて全く頭から消えてたよ。取ってからだよ。急激にモチベーションが上がってきたんだよ。ゼロの状態から30％

位まで。やっぱり身体を動かすと、循環がよくなるんだよ。それで、30からがなかなか上がらんないんだよ。すごくジレンマを感じるね。12月始めにそういう思いになって、「少なくても10日すぎにはジョギングぐらいはできるんじゃないかな?」っていう、自分の中の見込みがあったんだけど、すごくスローなんだよね。回復が。そうすると気持ちの方が追いついていかない。いまからあと1週間経てば、通常だともう練習のペースを落とす時期よ。

――試合前ですからね。

高田　そう。試合前、1週間はね。単純計算で、ハイペースで練習できるのは、あと1週間くらいしかない。それでも、足の痛みがやわらげば「何とかなる」っていう気持ちだよ。

――猪木さんが、「松葉杖をついてでも出てくれればいい」っていう言い方をしましたよね。物理的には無理だとしても（笑）。

高田　うん。

――でも、その言葉に象徴されるような気持ちがあるということですか。

高田　当然ある。まだ諦めてないんだよ。

――はっは〜。それは藤田選手が出れなくなったこととも関係はあるんですか?

高田　いや、それは全く関係ない。個人の問題だね。

――それにしても、ここにきての藤田選手のアキレス腱断裂っていうのは本当にビックリしましたね。

高田　大きいケガなんで、ビックリしたね。でも、この時期になれば、激しい練習するし、疲れもたまってくるよ。アキレス腱断裂ほどではないにしろ、常にケガとは背中合わせで自分をつくってるんだよ。とにかく彼自身が一番つらいよ。一刻も早い回復を祈るしかないよね。

――高田さんも、11月3日に試合して、そこでケガを負って、今度は12月31日。2ヶ月ないわけですよね。その短いスパンの中で、なぜ高田さんの闘いに対する火種が燃えたのか、それが一番興味ありますね。

高田　11月3日のずいぶん前からオファーを受けてたんだよね。この短い期間で、大きな試合を2つ考えるのはいくらなんでも無理だからね。とにかく断ったよ。「できる」と言えるまで「できない」と言っておいた方が、主催者側に迷惑かからないからね。ただ、どこかにやっぱり残ってるわけよ、大晦日というものが。なぜかというと、来年のいま頃は、俺は間違いなくリングに上がってないということを考えたときに……最近、猪木さんとの接点がまた増えてきたけれども、俺をこの世界に導いてくれた猪木さんがプロデュースして、冠になってる大会に出れるのは、〝きっとコレが最後だなぁ〟ってね。そういう意味でね、〝コレは出ておいた方が後悔しないな〟と。こんな自分でもよければ添え物の花にでもなれるんじゃないかということが100%だね。役に立てるかなっていうのが一番。今年の『ボンバイエ』がプロレスだったら、まったく出る気はなかったよ。

――それにしても最近の高田さんは、雑誌のインタビューでも、新聞のコメントでも、言葉が起（た）ってますよね。

高田　またひと回り強くなったんだよ。

――強くなった!

高田　スキルの部分が強くなったとかじゃなくてね。そう言いたいんだろ?

――なにも言ってませんよ、ボクは（笑）。

高田　歳だから空耳がまたヒドクなってるんだよ（笑）。だから、ミルコ戦に向かうことを決めたとき、それから試合をしたとき、そしてあの試合が終わった後の評価と

Nobuhiko Takada

すべてを含めて、ワンセットにして「またいい経験をさせてもらったな」ということだよ。打たれることにまた強くなったよ。

――ウチも含めてマスコミは好き勝手に書きますからね。

高田　書いてくれるよね、好き勝手に（ジロリと睨む）。人を虫ケラのようにね。

――いや、マスコミなんていっても、単なる紙ですから（汗）。でも、ギブスを外す前も、「出ていけるものだったら出ていく」ということを言ってましたよね。そういう気持ちになるのが、「いままでと、なんか違うなぁ」という印象はありますよ。

高田　その辺の気持ちの変化があるのかないのかっていうのは自分ではわからない。ただ、俺もいろいろ批判したこともあるけど、最終的にはアントニオ猪木という人がいたから、この世界に入ってこれたんだよ。要するに導いてくれたわけですよ。だからそれに対して、まだまだ自分が30代の前半くらいの、これからも大きなケガさえなければできるんだという年齢であれば、今回の出場は考えなかったかもしれないね。いまも「無理をする必要はないよ」と周りから言われるよ。でも、明らかに「もう来年はないんだ」というのは自分の中で見えてるから、「最後の最後はなんとしても出ていきたい」っていう気持ちだけなんだよね。だから、俺自身の気持ちのどこに変化があったのかは自分ではわからないよ。

――例えば、バッシングへの反発心とか、そういう小さなレベルではないと。

高田　全く関係ない。

――高田さんぐらいのキャリアがあって、「まだ一皮剥けるか!」っていう印象なんですよ。最近の高田さんの言葉を聞いてると。『週プロ』の佐藤ちゃんをカワイがる部分とかも含めて（笑）。多面性というか、いままで見せたことのないような顔を覗かせてますよね。

高田　それは、周りの環境が動いてるからだよ。石井館長の発言（「プロレスラーはだらしない」）も含めてね。いままでに、あまりないレベルの、色合いの、刺激的な動きがあったからね。それに対して、自分の思うことが、他の人たちが思うことや、発言することと違ったりする。ただそれだけのことだよ。簡単だよ。

――大晦日が「もしプロレスだったら出てない」と言ってましたけど、リアルファイトのリングに向かうときの、ワクワク感やヒリヒリ感みたいなものが、プロレスのリングには感じられそうもないということですか。

高田　いまはもう、何にも感じないね。人間はコロコロ気持ちが変化するものだよ。1年前は「WWFに出たい」なんて話をしてたけど、たった1年でそういう思いっていうのはもう、ゼロ。もう起きないと思うね。

――響くものがないっていうことですよね。

高田　響くものもないし、見てて全然面白くない。

――見てるんですか?

高田　たまにね。新聞とか。

――し、新聞ですか。そりゃ怒られますよ、「試合を見てくれ」って（笑）。

高田　だって（チャンネル）回せば……なんだっけ?　ラッピング?

――は?

高田　ザッピング!

――包んでどうするんですか（笑）。

高田　一応ボケてね（微笑）。でもザッピングしてれば見えちゃうよ。俺にとっては、チャンネルが止まらないジャンルだよ。そういう存在になってしまったよ。「プロレ

ス」が。K—1は止まる。『PRIDE』も止まるんだよ。正直な脳の反応だよ。

——高田さんが、その『PRIDE』なり、「猪木軍対K—1」というものに感じてる魅力の根源、ケガを押してでも出ていきたいと思う気持ちの根源はなんなんですかね。

高田 やっぱり、自分の中に誇りを持てるっていうことが一番大きいよ。『PRIDE.1』までは、〃自分のやってることに誇りを持たなければいけない〃と、なかばムリヤリ意識して自分の中にそういったものを作ってきたんだよ。人様からもいろいろ言われるしね。ところが『PRIDE.1』で、あんなボロ負けしてもね、大きな誇りが確立されてくるんだよ、回を重ねるごとにね。自分の中に意識して作っていた誇りではなくて、自然に芽生えてくる。知らないうちにできあがったんだよ。これが、すごく心地いいんだよ。

——『PRIDE』というのは〃魔性の女〃みたいなもんですか（笑）。

高田 魅力のあるリングだから、1回経験した人間はまた帰って来るよ。飽き足らなくなる。物足りなくなるんだよ。

——でも、高田さんの年齢なら、普通だったらトーンダウンしていってもおかしくはない。体力的な部分も含めて。でも、回を重ねるごとに『PRIDE』のリングを楽しんでいってるように見えますよね。

高田 練習にしても「何が一番足らないのか？ 何をすればいいのか？」を自分で実感できる。でも、それと逆行して歳を取ってることにジレンマを感じるよ。来年40歳だよ。

——ら、来年40歳ですか!?

高田 来年の4月。

——うわ～、不惑じゃないですか。

「もう出ていけない」と思う。でもリングが自分を引っ張るんだよ



高田 もうすぐ前厄だよ（笑）。

——40歳には全く見えないですね。お世辞じゃないですよ、これは（笑）。

高田 周りの人はそう言ってくれるんだけど、やっぱり解説をやってるでしょ。

——『PRIDE』の中継ですね。

高田 うん。自分の道場の選手が出てるときは、自分がやるのと変わらないぐらい、もしかしたら、それ以上に緊張するし、怖さを感じてるんだよ。ただ、それ以外の試合は冷静に見える。比較的、少し引いたポジションからね。そんなときにこのリングの凄さを感じるんだよ。レベルも高いし、レベルが高い分、厳しいことをやってるし、ルールも厳しくなってる。後から後から強い選手が出てくるしね。強い選手の年齢も若くなってるよ。若けりゃ20歳そこそこの選手もいるしね。

——ノゲイラなんかも、まだ25歳くらいですよね。高田さんよりひと回り上に見えますけどね、ノゲイラの方が。顔だけ見てると（笑）。

高田 ホントだよ（笑）。だから、日本人選手が遅れを取ってきてるよ。ひょっとしたらK—1現象になるよ。そういうリングを見ながら、〃このリングには、もう出て行けないな〃って思うんだよ、解説席に座ってると。39歳にもなるおっさんがね、あの最先端の激しいリングに出ていけないなってね。にも関わらず、そのリングが自分を引っ張るんだよ。呼んでるんだよ。さっき言った、〃魔性の力〃だよ。それはすごく強い力なんだよ。

——それは単純にリアルファイトとプロレスの違いではないんですよね？

高田 やっぱり、あそこまで『PRIDE』が大きくなったということも大きいよね。たくさんの人が見てくれる、たくさんの選手が憧れるリングになってきたということね。あの『PRIDE』っていうイベントの価値観っていうものも、大きく作用されてるよ。その価値観の高いリングの中でのリアルファイトっていうことが、一番大きいね。あの緊張感のある中は、しっかり自分を作り上げないとリングに向かえない。他じゃ味わえない。自分を作っていくときのあの期間が、非日常的でいいんだよ。

——過程がすでに非日常的。

高田 すごく新鮮なんだよね、あの空気が。

——なるほど。そのヒクソン戦を始めとした、『PRIDE』の初期の頃っていうのは、いまとはまた意味合いが違う怖さみたいなものがあったと思うんですよ。でも、その怖さはすでに克服してるようにも見えますよね。

高田 そうだね。この表現がうまく伝わるかどうかわからないけど、リングの中が〃闇〃に見えたからね、あのときは。

——闇！

高田 闇に向かって歩いていく。いまはリングの中が見えてるよ。そういう意味では、あの空気や環境には、少しずつだけど慣れてきたんだろう。

——そういえば、1回目のヒクソン戦の前に、「もしリングに立ったときに、リングの上の塵や埃までが見えたら、自分は勝てるかもしれない」って高田さんは言ってたんですよ。でも、塵や埃までは見えなかったわけですか。

高田 見えない。闇の中でヒクソンだけがやたらと大きく見えた。でかかったよ。いまは対戦相手もリングの中も明確に見えるようになった。

——高田さんがケガを押して出ていこうとしてる『猪木祭り』にしても、『PRIDE』にしても、単なるガチンコでもないし、単なるエンターテインメントでもないと思ってるんですよ、ボクは。まだ『PRIDE』自体も未完成なんだけど、やっぱり「命懸けのエンターテイメント」ですよね、目指すべきとこは。そこらへんに、何か高

田さんがリングに上がっていくモチベーションの根源みたいなのがあるような気がするんですよね。単なるリアルファイトって言うと、リアルファイトやってる人に怒られるかもしれないけど（笑）、普通の試合であれば、やっぱり2ヶ月ない間に「もう一丁」とはならないでしょう。ケガもしてるし無理もしないという思考方法になるのが普通ですよね。

高田　自分にファイターとして残された時間がないのに加えて、大舞台っていうのも大きいよね。やっぱりプロとして、それもひとつの大きなモチベーションになるからね。だから、リアルファイトなんだけどエンターテインメントとして、あらゆる層の人達が見れる、そして楽しめる。そう考えると究極のエンターテイメントリアルファイトだよ。選手の質の高さが命だよ。まさに、サク、ヒーリング、ノゲイラ、シウバ、このクラスだね。私にはいまだになしえていない高いハードルだよ。皆がこのハードルを越えたらとてつもないことになるよ。

――そうあってこそ「プロレス」ですよね。

高田　そう考えればね。だって、リアルファイトなんて町中ゴロゴロしてるよ。世界のトップクラスが、コアなファンではない人にも伝わるような迫力や、パーソナリティと全てを含めて、単なるリアルファイトじゃない究極のエンターテイメントに仕立て上げていく。俺がそこに魅力を感じて引っ張られてるっていうのは一つの大きな要素だよ。それが全てではないけど。

――でも、やっぱり観客の数だけでもないと思うんですよね。それを見る人のモチベーションや期待感も高いですよね、『PRIDE』の場合。期待感があるから、ダメだった場合、批判が大きくなると思うんですよ。もはや、いまの純プロレスは批判







ファイターとして残された時間がないのに加えて大舞台っていうのも大きいよ

も出ないですからね。期待感がないから反響もないんですよ。

高田　やったのか、やらないのかわからないもん。

――「なんだかなぁ、人を笑いに来させてるのかな」っていう感じですからね（笑）。

高田　そうなの？

――すべてではないけど、いま純プロレスってそういう見られ方じゃないですか、大方が。〝プロレス＝笑える〟みたいな雰囲気。闘龍門やWWFのように完成されたエンターテインメントだったら十分それでもいいけど、『PRIDE』と、エンターテインメントに挟まれた〝真ん中にあるプロレス〟に対しては、「な～にやってんだか」っていうような空気が、会場にも実際にありますからね。

高田　興味がないよ。マイク持って言い合ってるのを見ると、もう背筋がゾーッってするよ。

――ガハハハハ。ゾーッとしますか（笑）。

高田　俺にはもう出来ないよ。

――「もうアレをやる歳じゃないな」と（笑）。

高田　いや、歳は関係ないよ。それは俺自身のことだよ。俺以外の人は知らないよ。俺がそう感じるようになったってことは、もう自分の中のプロレスに対する思いが末期症状だって事だよ。

――末期症状！　いま、そういう言葉が出たから聞きますけど、ボクも末期症状ですかね？（笑）。

高田　あなたが末期症状だよ（キッパリ）。

――ガハハハハハ！　俺自身が末期症状（悲）。

高田　今度は『週プロ』の佐藤氏と一緒に来ないと。

――ワ～オ！　それは断固として拒否し

サク、トレーニング再開!!



サクは元気ですよーッ！（といっても手術した後だけど）。

11・3、ヴァンダレイ・シウバ相手に2連敗してしまった上に、左肩肩鎖（けんさ）関節が脱臼、左肩の一部靭帯を切るという大ケガを追ってしまったサク。手術が無事成功したのは前号でお伝えしたが、その後のケガの回復具合は順調であるようだ。

現在サクは、リハビリに努めると共に道場にも姿を現すようになり、まだ肩の方は動かせる状態ではないのだが、首や下半身のトレーニングなど、徐々に復活に向けて始動している。

それについて高田総裁は、「サクに関してはケガもよくないところだから、あわてないでじっくりケガを治していってほしい。試合へのモチベーションや周りが盛り上がってくるのを待って、一番いい時にリングに上がればいいと思う」と語った。

シウバに敗れた後、悔し涙を見せ、珍しく感情をあらわにしたのを見る限りでは、いますぐにでもシウバにリベンジしたいと思ってるのではないだろうか。でも、ここはやはり焦らず、しっかりとケガを治して完全に復活した姿を見せてほしいものである。

サク、待ってますよーッ！（ニコニコ）。

高田　ます（笑）。

——ボクも高田さんと同じように純プロレスに対して、高いモチベーションを持てない人種ですからね（笑）。

高田　あ、そう。

高田　そういう人間はプロレスを扱わない方がいいんじゃない？

——扱わない方がいいんですか？

高田　扱わない方がいいよ。結局、魂が入ったものを書けない。だって俺が書くようなものじゃん。

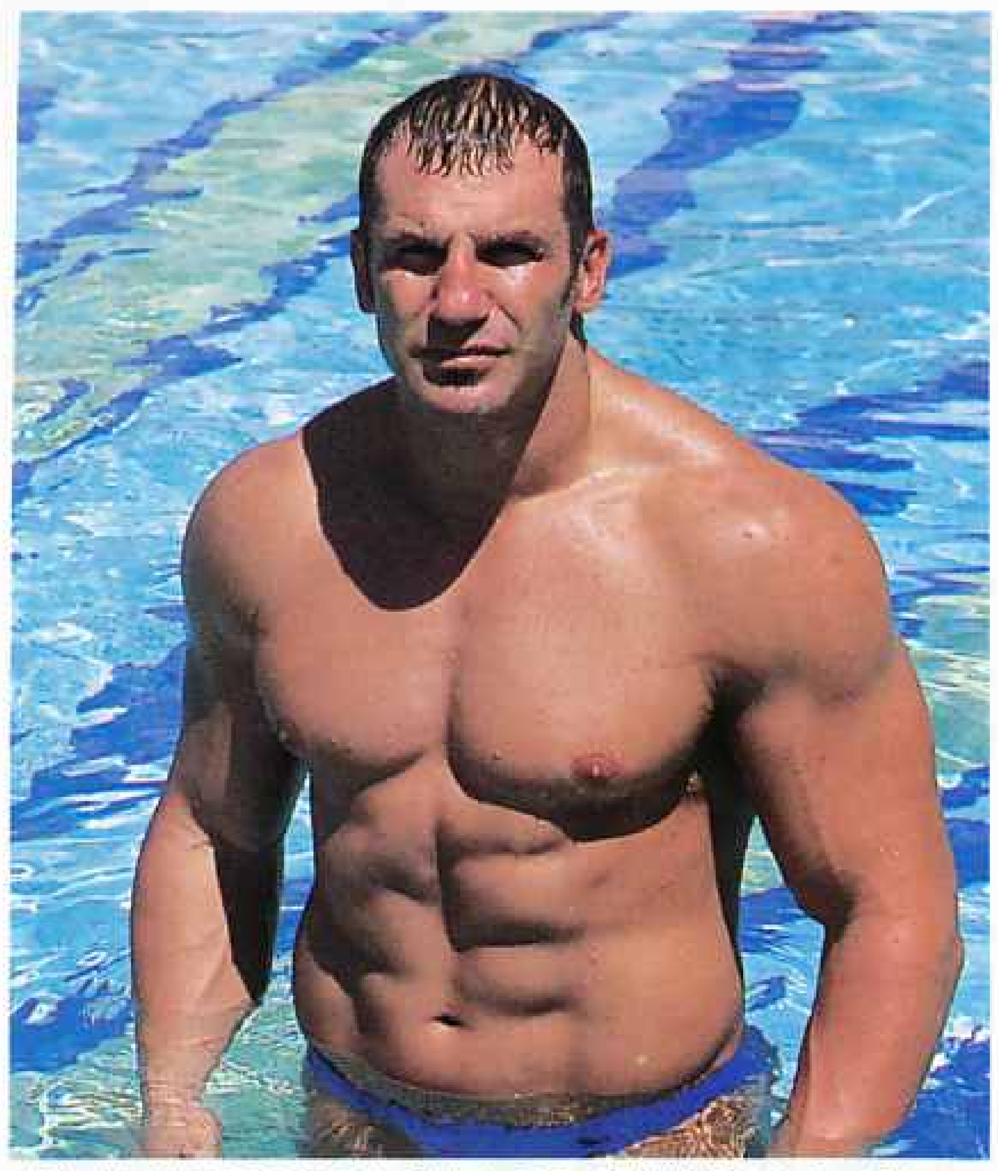
——俺が書くようなもの（笑）。

高田　俺に「書け！」って言っても書けない（笑）。

——ただ、プロレス界には魅力的な人材もまだまだいますよね。人っていう部分で言うと。プロレスっていうフレーム自体には、その末期症状的な感覚はありますけど、小川直也であったり、新日本の選手であったり、魅力的な人材っていうのはゴロゴロいるわけじゃないですか。

高田　小川は魅力的だよ。他はわかんないね。

——キッパリですね（笑）。でも、高田さんから見て、プロレス界に『PRIDE』



出陣すれば高田の相手と噂されるのが“拳獣”サム・グレコ。WCWにプロレスラーとしても上がったことがあるが、今度は純プロレスラーの試合ではない。この圧力に負傷している高田は耐えられるか!?

のリングに上げたいという選手は、他にいないですか？

高田　……いまさらって感じはするよね。だってもう5年経ってるよ。名前挙げてどうすんのって感じしない？　出たけりゃ勝手に出てくるよ。

——う〜ん。

高田　（プロレス界は）ノー・リアクションだから。小川に対しても俺は前から言ってるけどね。

——「小心者協会会長」とまでと言ってましたね（笑）。

高田　でも、早く上がってもらいたいのは、彼ぐらいだろうね。あとは見えない。会社がダメって言ってるのか、本人がビビってるのかわからないけど。いくつもいろんな壁があるのかな。とにかくわからない。

——いま、小川直也に対しては、何か言うことはありますか？

高田　いま、彼の周りが動き出してるでしょ。激動的と言ってもいい。藤田選手があぁなってしまったのもあるしね。だから、きっと強烈なオファーを喰らってるんじゃないかと思うんだよ。でも、それは最終的には本人が判断することだからね。別に俺は小川の直接の先輩でもないし、友人でもないし、親戚でもないし……。

——親戚ではないですね。

高田　会社の上司でもないからね。

——高田さんは、社長ですよ（笑）。

高田　だから、大きなお世話かもしれないけども、ちょっと道を変えて、考え方を変えれば、いまの何十倍ものスーパースターになれるのに、なぜ、その道

Nobuhiko Takada

を自分で閉ざす方向へ行こうとするのか。それが、気づいているけどやれないのか。気づいてないわけがないと思うんだけどね。『真撃』が悪いとは言わないよ。ただ、いまの彼に『真撃』は似合わないね。彼に一番合うのは、今回の『ボンバイエ』、あるいは『PRIDE』だよ。強い選手とやってブッ倒すことが本当の意味でのプロレスラー・小川直也の強さとか、価値を上げることなんだよ。ファンもそれを望んでる。ボクらも見たいし。そういう方向に行くことへ、すぐにでもね、シフトチェンジしていくことを望んでるよ。

——大晦日と1・4を連闘したら、ホントにスーパースターですよね。藤田選手がこういう状況になってしまった限り。逆に言えば、それは健介選手なんかにも同じことが言えるわけですよね。仮にですけど、健介選手が『ボンバイエ』に出て、1・4を連投すれば。大きなチャンスですよね。そういうモードに入らないということは、小川や健介に限らず、やっぱり『PRIDE』というリングに怖さを感じるんでしょうか。

高田　やっぱり、自信がある人はバンバン出てくるでしょ。その競技に対する怖さや、負けることへの恐怖心があるとなかなか一歩踏み込んで出て来れない。答えはそれだけだよ。

——なんせ〝プロレスLOVE〟っていう囲いに入られると手出しができないですからね（笑）。

高田　だから、プロレスがあること自体は、選手養成所としてはいいかもしれないよ。リアルファイトの場へ出ていくための選手養成所としてはね。プロレスラーをその場に送り込む。プロレスラーという肩書があるから、観客が思い入れを持って見れる部

ヤマノリが髙田道場入り!!



12月12日、ヤマノリこと山本憲久が、高田道場入りしたことが正式に発表された。

ヤマノリは今年5月にリングスを退団してから、株式会社ボカラトン所属として活動してきたが、あの9・24『PRIDE』初参戦で悪夢を見た後は、そのスタンスが微妙になっていた。その後、ボカラトンを円満退社し、そして今回の高田道場入団となった。

一部には「なぜ突然！」という声もあるが、ヤマノリは『PRIDE』に参戦する以前から高田道場へ頻繁に練習に通っていた。高田総裁も「人間としての彼との接点っていうのもあったからね。まだまだ未来を感じさせる気持ちも十分にあったから」と、高田道場側も完全にバックアップ体制であることを語った。

またヤマノリは、『PRIDE・18』で、K—1戦士でもあるヤン・〝ザ・ジャイアント〟・ノルキアとの対戦が決まり、念願としていた〝PRIDEへのリベンジ戦〟が早々と実現した。〝大巨人〟を相手に、〝史上最短の11秒負け〟で被った汚名を払拭することができるのか？　練習に専念できる恵まれた環境に移ったヤマノリの今後の動向に注目だ！　ノリノリ。

分があるからね。逆に言うと、そのファンの〝思い入れ〟が逃げ道になってるから、弊害にもなってるよね。そっちにいれば、メシも喰えるし、そこそこ大きなリングで試合もできるからね。

——だから、『PRIDE』は『PRIDE』で勝手にやってろ」っていう空気になるのがイヤなんですよね。それはボク個人の考えですけど。『PRIDE』は『PRIDE』で関係ないところでやってってくれよ。プロレスはプロレスで関係ないところでやって行くから」っていうような意識になられるのが一番、辛いですよね。

高田　基本的にはどこもいまだに背を向けているのに、抑えがきかない選手が出ていって成果を上げれば、商品として使うんだよ。うまいと言えばうまいけど、ズルイと言えばズルイ。意地もコンセプトもアイデンティティもないね。

——ズルイと言えばズルイ（笑）。もし『猪木祭り』がコケた場合、「ほら見たことか。ガチンコで興行なんて組めないんだよ」っていう空気が出てくることも十分予想される。それがイヤなんですよ、ボクは（笑）。

高田　じゃあ、ガチンコの興行がないほうが面白いのかっていったら、そうじゃないわけだ。『ボンバイエ』でどれだけみんなが盛り上がって、どれだけ注目して煽り立ててやってるの？　それだけ面白いし刺激的なんだよ。人がケガして出れなくなったから、『だから、ガチンコはダメなんだ』というのは、まったく観点がズレてるよ。

——でも、そういうところに逃げ込むのはうまいですからね。万が一、『猪木ボンバイエ』がコケた場合は、「だから言わんこっちゃない」という声も出てくることは想定されやすいじゃないですか？

高田　それは、何をやってもそうだよ。成功しないときはね。それをうまく助けてあげるのがマスコミだよね。要するに、長い目でみて、これをもっともっと育てるっていうのもマスコミの役割だよ。

——でも、本当に『PRIDE』なり、『猪木祭り』の目指すハードルっていうのは、メチャメチャ高いですよね。選手にとってはシンドイことこの上ないと思うんですよ。ガチンコを軸にした上質のエンターテインメントというのは、まだこの世にないものですからね。

高田　でも、アメリカのボクシングは世界に向けた素晴らしいエンターテインメントだよ。ヘビー級に限らず、一時代のレナードなんかもそうだったけど。名前を知らない人はいないよ。モハメド・アリの試合なんて世界中をボクシングというエンターテインメントの空間にひきずり込んでいったからね。

——だから、そういう人たちって、例えボクサーでも、やっぱりみんな〝プロレスラー〟に見えるんですよね。「命がけのエンターティナー」が〝プロレスラー〟ですよ。

高田　『PRIDE』も、世界各国の人が見てるんだから。例えば、『PRIDE』のヘビー級チャンピオンのノゲイラが、中近東の田舎の方に行ったたってわかるとかね。

——中近東の田舎。全然イメージ湧かないですけどね（笑）。

高田　うん、俺もイメージつかない（笑）。でも、そういう存在にならないといけないよね。

——そういう意味では、WWFってホントすごいらしいですね。ネパールの山奥に行って、知り合いがプロレス雑誌を見てたら、「あ、ロックだ！」とか、「ストーンコールドだ」とか、みんなが指さすらしいですね。

高田　すごいね。

——そういう種類のエンターテインメントっていうのは、プロレスを軸にして考えた場合はあるんだけど、ガチンコを主軸にしたものは、いままではないわけですよ。それを目指すとなると、選手にとってはとてつもなく高い意識が要求されてきますね。

高田　そうだね。やるほうにとってはシンドイよ。でも、シンドイからこそ、やりがいがある。

——そういう意識になれるのは、高田さんにプロレスというベースがあって、エンターテインメントというものを理解してることが大きいということはいいですか？　普通の選手は、「ガチンコでエンターテインメントだよ」って言われても多分、理解できないと思うんですよ。

高田　選手は当然自分のコンディション、勝ち負けに目がいくからね、私も同じだよ。

——あるいは、観客の前で闘うということが、やっぱり高田さんの身体の中には擦り込まれてるとか。

高田　それはもちろんある。それは擦り込まれてる。でも、擦り込まれてるっていったって、別にプロレスラーじゃなくたって擦り込まれてるよ。観客の前で何かをやる人は。

——それはお笑いとかでも？（笑）。

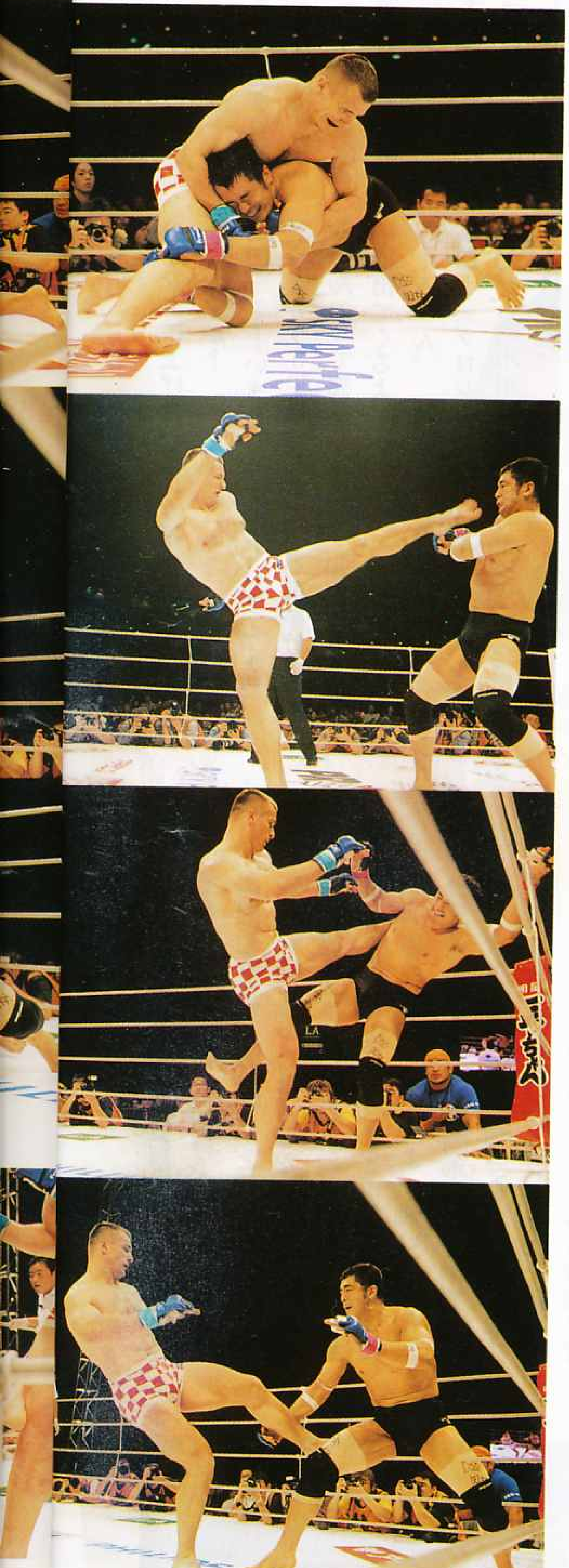
高田　お笑いでも、ボクサーでも、K—1でも、そうだよ。

——K—1ファイターは見事に擦り込まれてますね。

高田　だから、俺の場合は、その理由づけだけじゃないかな。

——理由づけ……。

高田　来年のいま頃はリングにあがってないということ。だから今回、『猪木祭り』に出れるのも俺にとっては最後。それが自分の中では大きな理由なんだよ。あとはもう、自分が必





必要とされるんだったら、なにがなんでも出ていきたい気持ちだけ

要とされるんであれば、なにがなんでも出ていきたいという気持ちだけだね。

――高田さんが「出たい」という意識を持つのも凄いけど、猪木さんの大晦日に賭けるモチベーションっていうのはホントに凄いのひと言ですね。

高田　うん。

――「一歩、足を踏み込んだことには、全力、死力を尽くす」というのを感じますよ。そういうエネルギーってあるじゃないですか、猪木さんに。

高田　ある。驀進するからね。よく動くし。元気があればなんでもできる、だよ。

――久しぶりに猪木さんと接点を持って、そういう部分を肌で感じたのも大きいんじゃないかと思ったんですけどね。

高田　やっぱり、そういう気持ちもあるから、その冠の『猪木祭り』というものに対して、今回、敢えて強いこだわりを持てたのは確かだよ。大元は猪木さんだから、当然そういう部分も自分の中に、しっかりと感じ取るべきだろうね。

――いま「39歳の俺がここまでやってるんだから、もっと若いヤツらはバンバン出て行け」っていうのはありますか？

高田　いや、もうリアクションがないからね。だからもういいよ。近所のうるさい頑固ジジィじゃないんだから。

――ガハハハハ！　頑固ジジィ。

高田　長々とそういうこと言ったってしょうがない。人それぞれ生きる道があるんだからさ。

――もう言うべきことは言った、と。

高田　言うべきことは、言った。

――あとは自分がやるだけですか？

高田　そうだね。

――でも、この間のミルコ戦の高田さんの写真を一枚一枚、もう一度見てみたんですよ。そうしたら、いまのプロレスの中にはない、〝必死〟な顔ばかり。これはもう、いまのプロレス界にはない。言ってみれば、絶滅したものを、『PRIDE』というものが現出できる場になってるワケですよね。で、当然、単なるアマチュア選手の必死さとか、そういう顔じゃない。プロレスの中で、必死な顔って見れないじゃないですか？

高田　プロレスの中では、いまより何十倍も凄い必死さを猪木さんが見せてきたんだから。それはプロレスであろうがリアルファイトであろうが、一番大事なことだよ。猪木さんは、それを伝えてきたからね。ヨダレ垂らしながら（笑）。

――ガハハハ。泡まで吹いてましたからね（笑）。〝必死さ〟という原点は大事ですよね。

高田　そういう必死さが、その時代の中で、ファンに伝わっていったんだよ。

――だから、高田さんのその一枚一枚の写真を見ながら、「どうしてこういう事を前号でもっとうまく伝えられなかったのかなぁ」と、ボクはいま、後悔してる最中なんです（笑）。

高田　後悔してるの？　ずっと後悔してなさい。いま後悔しないで、いつ後悔するの？

――あちゃ～。旗色が悪くなったんで、最後にひと言お願いします。

高田　はい。現状では出れるか出れないかギリギリのところですけど、出るからには、最高のものを見せる気持ちでリングに上がりたい。それだけです。

【12月13日／東京プリンスホテルにて収録】

Nobuhiko Takada



このインタビューの最中は、デリケートだった参戦問題。しかし、その翌日に高田は99％出陣の意志を固めたという。0・1％は出ない方向に行く可能性はある。関係者によると「階段の四段目から飛び降りただけで衝撃が走る」という、「そりゃ無理だろ」という状況だそうだが、ほとんど〝回復見込み〟で、大きなひと足踏み出したようだ。その怪我の状態なら、ヘタしたら秒殺される可能性もある。なぜ、高田はここまでしてリングに向かうのか？　その答えは大晦日に出る!!

命がけのエンターテインメント 開催間近!!



「元気ですかーーーッ!!」――記者陣しかいない（数は多いけど）、「チーム・イノキ」の会見場（P9参照）で、アントン総帥は、テーマ曲付きで入ってきてから一発カマした。

当然、マスコミ陣は観客ではないので、リアクションを取らず、シーン。

その空気を感じ取ったアントン総帥は、「最近は、これにも飽きてきちゃってね。ンムフフフ」とすかさず、クールなフリを装う記者陣のハートをガッチリ掴んだ。

『いつ何時でもモチベーションを上げること』

それが猪木イズムだと仮定すれば、大晦日決戦に向けてのアントン総帥のモチベーション&テンションは異常に高い。

天下のNHK、紅白歌合戦を敵に回して、マット界が勝負を賭ける一大事に闘魂の火種は燃え上がってるわけだ。

聞くところによると、アントンは「プロモーションが足りない」と言い、自らホームレスの格好で全国行脚に出ることを決意したらしい。

さらに、NHKの前にホームレスの方々を1000人集めて、狂牛病でてんてこ舞いの和牛業界をも救おうと、そこで牛肉の炊き出しを配る、なんていうアイディアまで出してるらしいのだ。

オマケに、アメリカのホームレスが集まる地域に寝袋持参で行き、全国行脚の予行演習とばかりに、そこで一晩寝たという。

恐るべし、アントン総帥！

まったく、いまのマット界が見習わなければならないのは、ここだ。

たとえジャンルがなんであれ、命がけで取り組まないことには、人を驚かせたり感動させたりするなんてことはできねぇんです。

アントン総帥がマット界に伝えたいことは結局、それに尽きるんではないだろうか。

ガチンコだから死力を尽くしたことにはならない。エンターテインメントだから死力を尽くさなくていいとは限らない。

では、「命がけ」とは何か？

『ひと度足を突っ込んだら、いつ何時でもモチベーションを上げ、体力と知力と死力と戦術を尽くす』ということだ。

これはできるようでいて、簡単にできることではない。

アントン総帥は、この「猪木軍vsK―1」に命がけで臨んでいる。

うだうだうじうじしているマット界を見ていると、まったくアントン総帥にはかなわない、と思ってしまう。

これを書いている時点で正式発表されてるカードは一つもないし、ファンの一部にも、そんな状況では、どうやって『猪木祭り』に乗っていいのかわからないという空気も感じ取れる。

しかし、決まらないもんはしょーがねぇんです！

『紙プロ』は、このアントン総帥の尋常じゃないモチベーションに乗る。

年の終わりの大晦日に、ガチンコの、しかも噛み合わないかもしれない他流試合を行う。

まったく非常識もはなはだしい話だ。

そんな非常識を動かすには、アントン総帥のように、命がけでスーダラになるしかない。非常識なリングの中に潜むものが、神なのか、悪魔なのか、それを確かめに左ページの勇者たちが立ち上がる。

すでに始まる前から、大波乱の連続の『猪木祭り』。本番ではどんな魔性の力がリング上で立ち昇るのだろうか。

骨折明けの高田は秒殺されるかもしれない。ヤスティがまた白目を剥いて「死んだ」と思うほどのブッ倒れ方をするかもしれない。

単なるガチンコでもない。単なるエンターテインメントでもない。

怖いから笑える。笑っちゃうほど怖い。

まさに、この世にない、命がけのエンターテインメントが、大晦日に繰り広げられる。

さぁ、猪木軍vsK―1を見れマスカラス!!……くだらねぇな、これは。

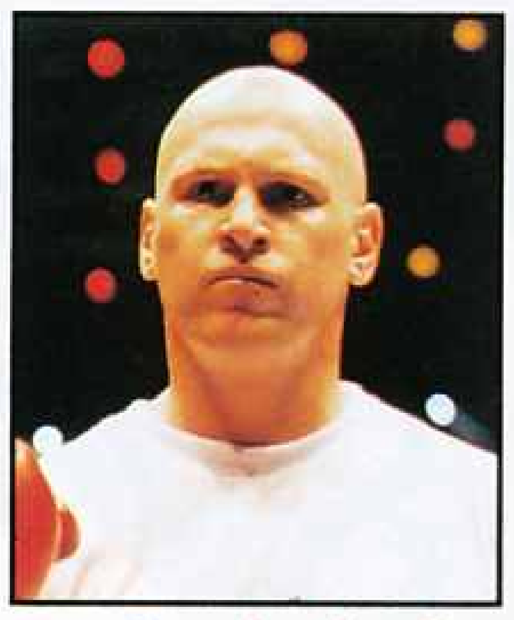
ズバリ言って、日刊紙や週刊誌じゃねえんだから

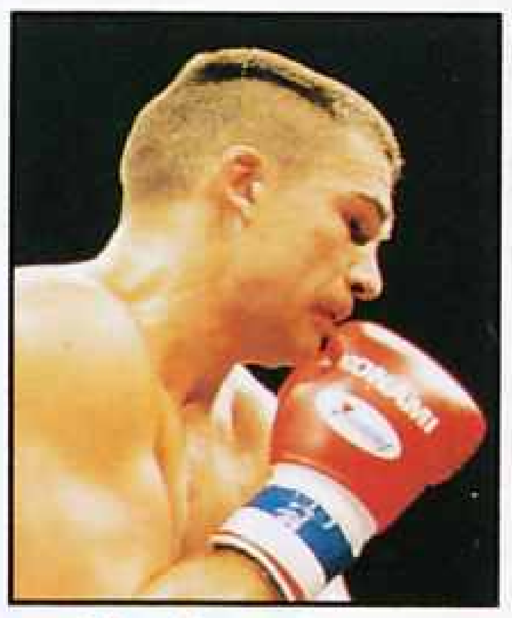
あとは正直、わからん!!

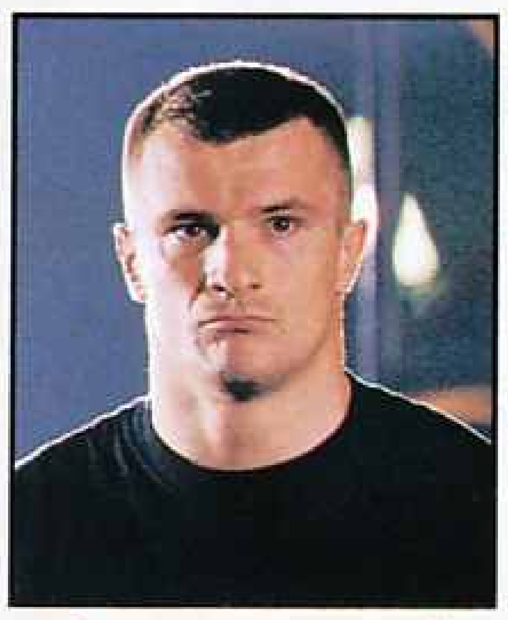
でも、この号が出る頃にはもの凄いことが起こってるはずだ!!

K-1軍

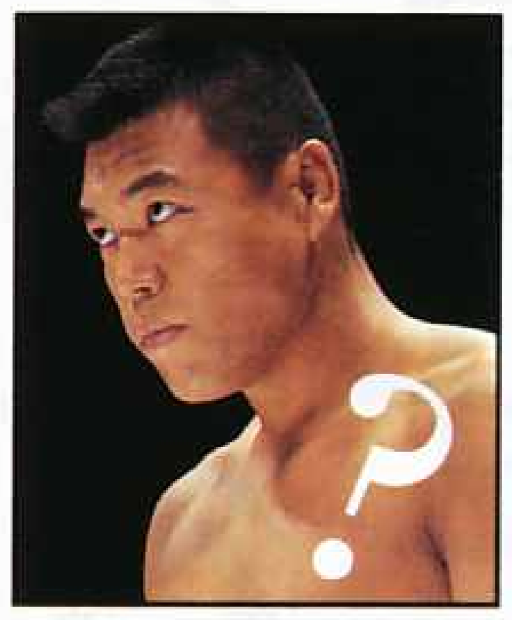
猪木軍


マイク・ベルナルド

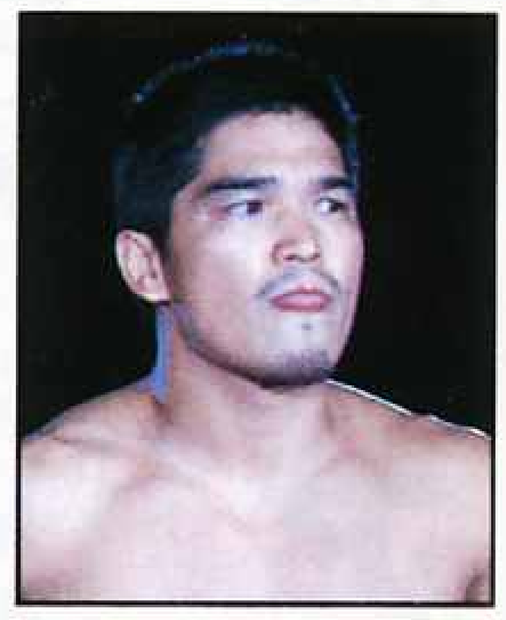

ピーター・アーツ

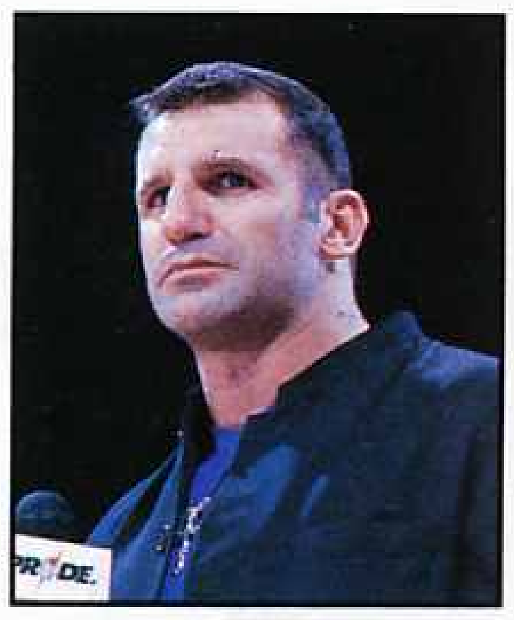

ミルコ・クロコップ


高田延彦

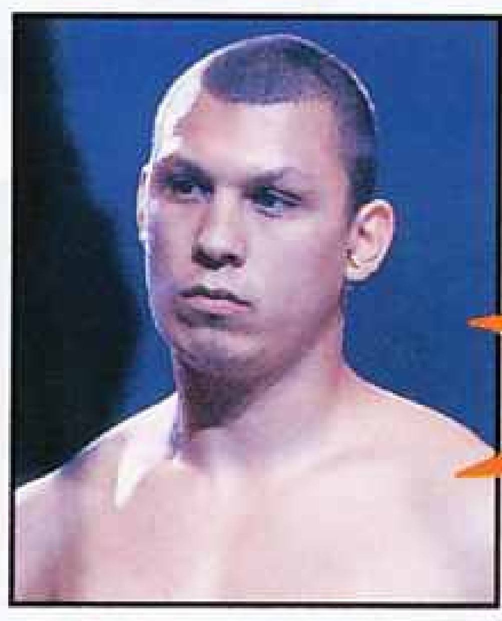


小川直也


石澤常光



サム・グレコ


シリル・アビディ

史上最大の他流試合!!


永田裕志


安田忠夫

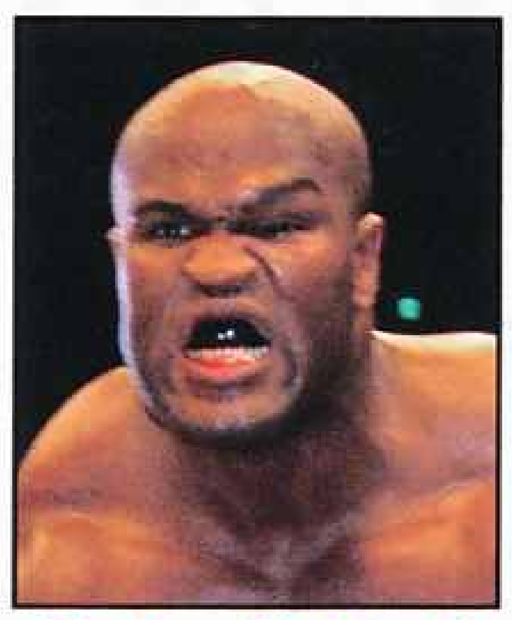

子安慎悟

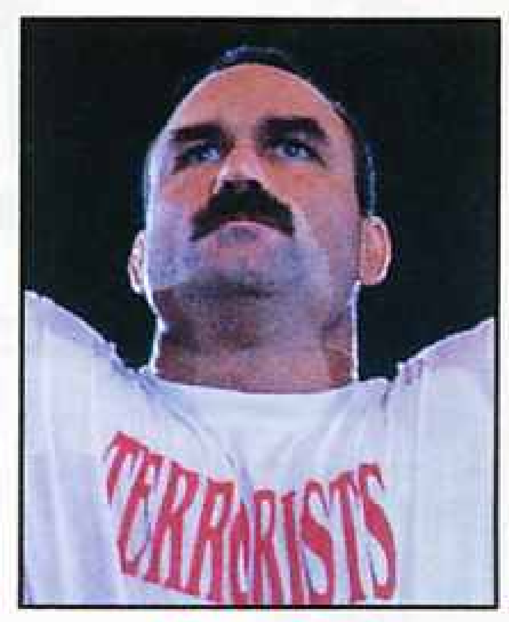

レイ・セフォー


レネ・ローゼ

?

??????????


ゲーリー・グッドリッジ



ドン・フライ

イノキ・ボンバイエ
INOKI BOM-BA-YE 2001
～猪木軍vsK-1全面対抗戦～
12月31日(月)さいたまスーパーアリーナ

■**試合開始** 18:00

■**入場料** ●VIP席¥100,000(専用ゲート・グッズ付き)
●SRS席 ¥35,000～●スタンドA ¥7,000

■**会場アクセス** JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分
JR埼京線北与野駅から徒歩7分

■**お問い合わせ** ドリームステージエンターテインメント
TEL.03-5775-5700

■**TBS「猪木軍vsK-1」関連中継**
12月30日(日)18:30～ ZONE「猪木軍vsK-1最強軍企画(仮)」
12月31日(月)15:00～ 猪木軍vsK-1直前スペシャル
12月31日(月)21:00～ 猪木軍vsK-1全面対抗戦

史上最大の他流試合 予想カードだ―――ッ!!

●高田延彦 vs サム・グレコ
●永田裕志 vs ミルコ・クロコップ
●安田忠夫 vs レネ・ローゼ
●ドン・フライ vs シリル・アビディ
●ゲーリー・グッドリッジ vs レイ・セフォー
●石澤常光 vs 子安慎悟
○小川直也 vs ピーター・アーツ

九州初上陸の『PRIDE.18』でメイク・ミラクル!?

アレク、試練&奇跡のヴァンダレイ・シウバ戦決定

『〝何でだよ!!〟と思ったファンに対してもキッチリと説得力のある試合をお見せします!!』

この号が発売された直後に行われる12・23『PRIDE.18』でメイク・ミラクルは起こるか？　あのヴァンダレイ・シウバにアレクが挑む！　ノンタイトル戦だが、これは〝アレク試練の十番勝負〟第一戦だ（勝手に命名）。

アレクサンダー大塚



聞き手／山口日昇　撮影／寺島耳男

designed by hisa (Two Three)



——ビックリ仰天ですが、（ヴァンダレイ・）シウバ戦が決まりました！

アレク　はい。それよりも、こんな素晴らしいお店に連れてきていただいて……。

——いや、ここで店の宣伝しなくたっていいですよ（笑）。

アレク　光栄に思ってます。ここが『SRS・DX』でやってる座談会で、よく使ってる有名な店ですね。んむはぁ。

——いや、『SRS』の座談会の宣伝もしなくていいです（笑）。

アレク　んむはぁ。

——で、シウバ戦です。

アレク　はぁい。まぁ、ボクの中では、『PRIDE．18』には出ずに、ちゃんと自分の納得できる練習をして、「ヨシッ！」っていう状態で出たいなって思ってたんですよ。来年の2月とか4月とかをメドに。でもまぁ、要はタイミングが合ったということですかね。

——シウバという選手の印象はどうなんですか？

アレク　んあ〜、なんだろう？　勝負にやっぱりドン欲ですよね。まぁ、微妙にプロとしての感覚はボクとは違いますけど。ホントに、いっぱい練習してると思うし。ヴァンダレイが言ってる「一番ベストなパフォーマンスをファンに見せたい」っていう部分で、まぁ、どういう内容が素晴らしいと思ってるか知らないですけど、そういうプロとしての考えは素晴らしいなぁと思います、はい。

Alexander Otsuka

——単純なイメージとしてはどうなんですか？「強い」とか、「大したことない」とか、「弱い」とか、「顔が怖い」とか、いろいろあると思うんだけど。

アレク　『PRIDE．7』（99・9・7）に初めて出たときにカール（・マレンコ）と対戦しましたよね。そのときに見た感じでは、いやホント、イカつい顔して、「ヤな感じだな」っていう感じですよね。んむはぁ。

——魚拓みたいな顔してるよね、シウバって（笑）。

アレク　次の松井（大二郎）君との試合（『PRIDE．8』）の時には、全然、別人のように身体がビルドアップされてて。+アルファでヤな感じになりましたよね。

——ヤな感じ（笑）。

アレク　ボクもああいう、なんかこうグーッと睨みつけてとか、あんまり好きな方じゃないんで。

——桜庭選手との試合は見ましたか？

アレク　見ました。1戦目（3・25）の場合はちょっとルールが変わってすぐっていう状況も含めて、ちょっと微妙に、「まだ、どうなんだろうな？」っていう感じでしたけど、この間の試合（11・3）は、ヴァンダレイが自信を持って臨んで、「必ずブチ倒してやる！」っていうような、そういう気迫が大いに伝わってきましたよね。もちろん、ちょっと押される場面もあったりするんだけど、それをまた、怯まずに巻き返しの展開を作っていきますよね。リングに上がった時点で50・50で、それが展開によって60・40になったり、70・30になったりする。で、自分としては常に50％以上をキープするような闘い方、展開の仕方をしたいと思ってるんですけど、そういう闘い方ができるっていうか。

——たしかに、あんまり怯んだところも見たことないですね。

アレク　はぁい。パーンってパンチやキックで一瞬、バッと意識が飛んだとしても、そのまま、また前進してますからね。だから、そういう意味では、常にオフェンスあるのみっていう感じで、ヤな感じですね。んむはぁ。

——そこでもヤな感じ（笑）。そういう部分に「怖いな？」っていう気はしない？

アレク　う〜ん……怖さも多少はありますね。で〜も、それは客観的に見てであって、いざリングに上がったら、それはあんまり……いつもと同じかなっていう感じですね。

——でも、向こうは勢いがあるじゃない？　で、アレクは勢いがないじゃない？（笑）。

アレク　んむはぁ。

——そのあたりの差をどうひっくり返すつもり？

アレク　あの〜、いまのヴァンダレイの勢いを、そのまま自分の勢いに変えたいって感じですかね。取り込んでしまいたい。

——ダウンロードしますか（笑）。

アレク　はぁい。

——でもシウバ戦は、単純に言って、ものすごいチャンスですよね。運があるなぁと思ってね。

アレク　オファーをいただいて、やっぱり出るって決めたのは、「誰とですか？」って聞いたら、それがまたヴァンダレイっていう部分ですから。それまで、「12月の次

プロとしての〝覚悟〟みたいなものが薄れてたのかもしれないです

に、できればお願いしたい」って言ってたのが、むしろこういうチャンスが巡ってきて。それはボクにとって運が、やっぱりまだ……神様がチャンスを与えてくれてるというか。

——か、神様？　ヘアスタイルから言うと仏教なんだけどな（笑）。

アレク　いろんな神様が降りてきますからね……女神だったり。

——ダハハハ。女神ですか（笑）。

アレク　現チャンピオンとできるっていうチャンスには喰いつきたいし。もちろん、自分が闘ってみたいっていう、単純なそういう気持ちもありますけどね。

——でも、ズバリ言って今年は最悪の年だったんじゃないの？　アレクサンダー大塚っていう選手にとってみては。

アレク　そうですねぇ。21世紀、最悪ですねぇ。

——まだ始まったばっかりですよ（笑）。

アレク　まぁでも、そういう最悪な状態の時に、ボクを盛り上げてくれる、昔の十代のこの、グワーッていう熱を甦らせてくれたモーニング娘。には……感謝したいですね、はぁい。

——は？

アレク　気持ちがすごく和らぐというか、元気づくというか。ホントになんかこう「ウォー！」っていう、なんか熱が出てきます。

——いや、ボクの周りでも、モーヲタは急増してますよ。ひと言で言うとなんなの？　モー娘。っていうのは？　教えて（笑）。なにがそんなに面白いの？

アレク　……わかんないんですよぉ。

——わかんないから面白いの？

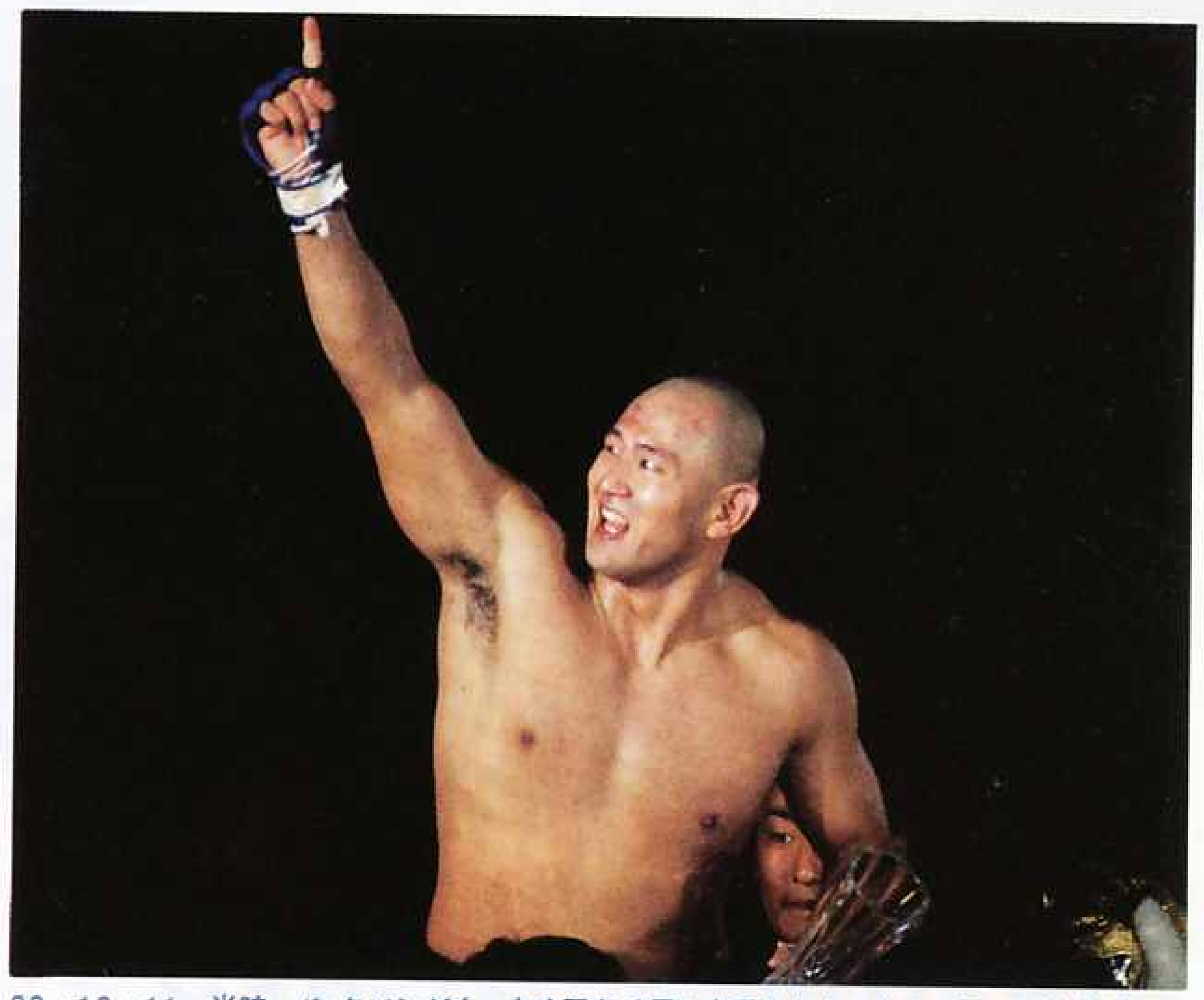
アレク　そうですね、「なにがいい？」って言われたら、なにとは言えないんですけど。やっぱ、とりあえず、まずカワイイですよね。

——はぁはぁはぁ。とりあえずかわいい、と。

アレク　それに石川梨華ちゃんの踊ってる姿見ても元気が出ますよねぇ。

——はぁはぁはぁ。元気が出ると。

アレク　だから、ボク自身も、リング上からファイトを見てる人に、そういう元気を与えるという要素を自分も持っていたいなっていうのもあったんで、それを感じますよね。モー娘。には。



98・10・11。当時、〝ヒクソンがもっとも恐れる男〟と言われたマルコ・ファスを破り、一気にドームを爆発させたアレク。見てみぃ、この晴ればれした顔！

——今年1年は、アレクが、モー娘。的に元気を与えるところまではいかなかったわけだよね、ファンに。

アレク　いやぁ、モー娘。的なところ以前の問題じゃないですかねぇ。全然もう、そんなところまでいってないですねぇ（苦笑）。

——その原因はなに？

アレク　もう、根本的には自分自身だと思います。自分自身がやっぱり、時代の流れに合う歯車にチェンジできなかったっていうのもあるだろうし。その他もろもろ……まぁ、社会的な……。

——は？　社会的？（笑）。

アレク　社会的というか、人間関係の部分だったりだとか、いろいろ……。

——ああ、バトラーツも、いろいろありましたからね。

アレク　ここ最近言われるのが、8月ぐらいから10月の沖縄大会が終わるぐらいまでの間にかけて会ってた人が、「あの時より全然、いまはいい顔してるね」って言うんですよね。

——それはボクも感じますね。

アレク　なんかこう、吹っ切れたというか、元気な感じがすると。その頃よりかは全然。

——確かに、俺も今年の夏あたりは、「アレクはもしかしたら、もう死んでるんじゃないか？」と思ったからね、顔を見て。石像かと思った。一応、生きてはいるんだけど（笑）。

アレク　植物人間状態っていう（笑）。（汁のかかったご飯を見て）うまそうだなぁ。いただきまーす。

——バトラーツっていう問題も大きかったんだろうね。

アレク　そうですねぇ（モグモグ）。うまッ！　うまいですねぇ、コレ。

——今回フリーになって、アレクは「プロレスは自分でやりたいという気持ちが湧かない限りやらない。1年ぐらいは『PRIDE』に専念する」って言ってましたよね？

アレク　はぁい（モグモグ）。ほうでふねぇ、ほれもありまふけど……（茶碗を置いて）もう、ああだこうだ御託を並べる以前の問題ですよね。『PRIDE』なら7、8、GP（２０００）のボブチャンチン戦の頃とか、プロレスなら新崎人生戦に至るまでの流れとか、その頃は、うまく言葉には出来なかったとしても「コレだ！」っていうものが自分の中には明確にやっぱりあった。それが、〝プロ〟のファイター、レスラーっていうだけじゃなくて、猪木さんが言う「白いキャンバスの上に何を描くんだ？」っていうような部分、アーティストっていう部分で、モノを創っていく人として、いつのまにか全然もう、〝プロ〟の域に達しなくなっちゃってた。試合が終わったら、自分の作品が仕上がる。でも、その仕上がった作品を振り返ってみたら、全然、自分でもつまんないし、「何やってんだろう？」って思ったんですよ。

——何かにハマっちゃったんですかね。

アレク　自分がそう思うぐらいだから、もうお客さんもそう思うだろうし、何も伝わらないっていう、そこの当たり前の部分を発見しましたよね。メシを喰っていくためにやってるんだったら、別の仕事で喰ってけばいいだろうし、自分がいままで、プロとはああだこうだ言ってて、出来てないんだったら、リングに上がんないほうがいいなって思ったからですね。

――いまの『PRIDE』って相当なレベルになってるでしょう。プロレスはプロレスで、見る方の目も厳しくなってる。その両方をやっていくっていうのは、いまは正直、難しいよね。

アレク　そうですねぇ。はぁい。ホントにそうだと思いますよ。

――でも、その両方をやらないとアレクサンダー大塚じゃないっていう、こだわりみたいなものはあったでしょ？

アレク　それはもう、ありましたねぇ。こだわりとかファンの目を意識しすぎてた。

――そうしないと個性が出ないとか。

アレク　そうですねぇ。そこに引っかかって、片方に絞るっていう選択をできてなかった。だから結局、いま話してて気づきましたけど、やっぱり自分のためにやってなかったんですよね。いままでは……。

――〝アレクサンダー大塚〟というイメージを守るためにやってたということ？

アレク　そうですよね。ファンに対するアレクサンダー大塚っていうモノのイメージを守るためにやってた。あッ、そうだ！

――はい。なんでしょう！

アレク　プロとアマチュアの違いを、漫画家の先生が〝覚悟〟だと言ってた話。それで喰えようが喰えなかろうが、〝覚悟〟の持ち方が違うっていう話を昔しましたよね。そこの覚悟みたいなものが薄れてたのかもしれない。支持をされようがされまいが関係なく、自分が「これだ」っていうのが出せなかったですね。やっぱり超一流っていうのは、そういう自我を通して、それについて来させるエネルギーを持ってるから超一流になれるんでしょうね。

――なるほど。その覚悟を見せれるかどうかでしょうね。でも正直な話、今回のシウバ戦については、当然やる前から批判は出てくると思いますよ。

アレク　そうでしょうね。まず、何よりもランペイジ（・ジャクソン）戦に勝って次のドームに行けるっていう条件だったのに、負けたボクが、「なんでいきなり『PRIDE.18』に出れるんだ？」って思われるでしょうね。しかもそれが……。

――相手がシウバ！（笑）。

アレク　「なんでだよ！」ってね。

――そういう声に対して、アレクは何を見せつけてやりたいですか？

アレク　う〜ん……。

――そういう声は気にしない？　それとも引っかかったの、それは？

アレク　そうですねぇ。まぁ、多少は気になるかもしれないですけど、それよりも、自分の中で、また新たに掴み取りたい。それを掴むためにファイトしたいですよね。それによって、今回のカードに反論があったファンに対しても、キッチリと説得力がある、納得できるモノを表現できると思うんで。でも、そうやって目の前に転がってきたチャンスを、逃す人は誰もいないだろうと思うんですよね。それが例えば、会社を経営している社長さんが、そこそこ自分のビジネスがうまくいってるときに、目の前に何かビック・ビジネスの話がコロンと転がり込んできた。自分のビジネスがうまくいってたら、そこで、「どうしよう。手を出すか？　出すまいか？」って、やっぱりかなり悩むと思うんですよ。でも、ボクに置き換えれば、ボクのいまのビジネスの状態は全くのゼロ！　そんな状態だと思ってるんで。悩むヒマはなかった。

――「やる前から負けることを考えるバカがいるかよ！」って話ですよね。ゼロならなおさら。

アレク　でも、自分の状態がゼロだったと

Alexander Otsuka

悪夢のジャクソン戦を振り払え





10・14、バトNK大会。〝暴走ホームレス〟とドーム進出を賭けて、PRIDEルールで激突したが、持ち上げられ、投げられ、頭から落とされ、殴られ、金的まで蹴り上げられと、さんざんな目にあわされたアレク。ある意味、今年のアレクを象徴するような一戦だった。しかし、まだ12・23福岡がある。「なんでアレクがシウバとできる」という声をはね返せ!!

しても「やる前から負けること考える」ことはできないです。んむはぁ

――ご飯、冷めちゃうよ。

アレク　あっ、忘れてた。

――まぁ、アレクはいままで『PRIDE』に出る時も、プロレスラーとして面白い試合をファンに提供したいというところに主眼を置いてましたよね。

アレク　はぁい（モグモグ）。

――「結果じゃなくて、結果の先にあるモノが一番大事だ」って言ってますよね。それは絶対そうなんだよね。

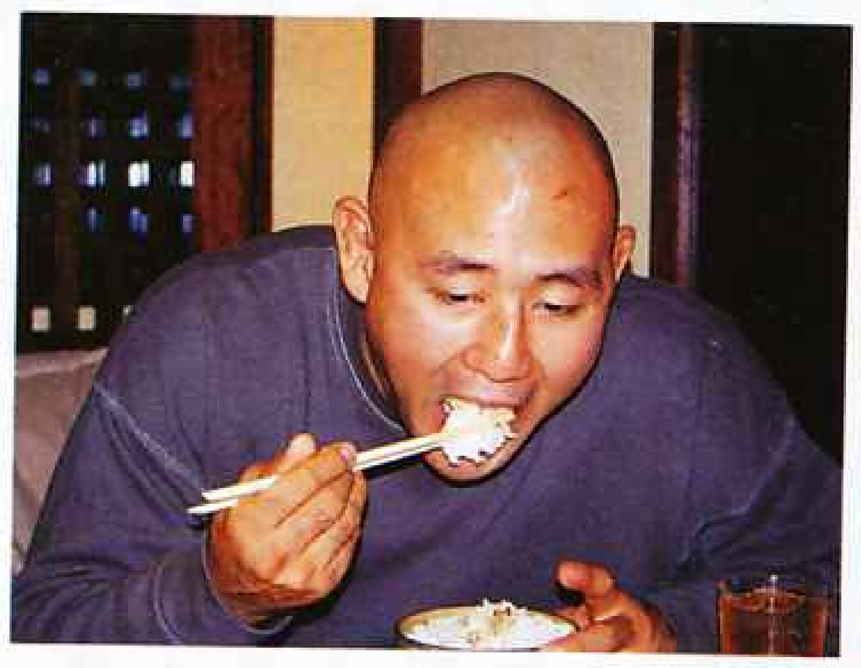
アレク　はぁい（モグモグ）。

――でも、「結果だけじゃない」という尻馬に乗りすぎちゃうと、いまの高いレベルの中だったら、結局ぐずぐずになっちゃう危険さはあると思うんですよね。

アレク　（茶碗を置いて）う～ん、まず一番最初にこの『PRIDE』に上がれるときから言ってたのは、ボク自身、全然強くないし、強くないけどプロレスラーとしてやってる。そこで、（『PRIDE.4』の）マルコ・ファスと1と10の差があるっていうふうには思ってなかった。それは、試合やれば、どっちかが勝って、どっちかが負けるっていう状態は常にありますからね。もしかしたら常に負けるかもしれないけど、でも、全然勝てる要素も持ってるっていう部分をファンに知らしめたかったっていうか。自分自身でも、実際闘って、肌で「やっぱりそうだった」と思いたかったですよね。それで今回、もし勝って結果が出せれば、それは業界的な部分でも、やっぱりファンにしても、「じゃあ、次どうなっていくんだろう?」っていう興味が湧くと思うし。またボクにしても新しい道が開けていくだろうし、またファンのみんながワクワクできる世界を創っていきたいですよね。

Alexander Otsuka







これで負けたら引退する……それくらいの意気込みを持っていると思ってもらえれば

――まさにモー娘的世界。ですね。次に何が起こるかわからない（笑）。

アレク　「次は誰が辞めさせられるんだろう?」とか（笑）。

――それで思い出したけど、バトラーツとの関わりは今後どうなるわけですか?　もう、フリー宣言はしましたよね?

アレク　はぁい、正式に（三度び、ご飯を食べ始める）。だから、ジムには練習に行かせてもらったりはしますけど、試合は出ない。

――ダハハハ!　この人非人!（笑）。

アレク　とりあえず（笑）。いや、そこは何でかっていったら、やっぱり社長（石川雄規）とも、なんのイザコザもないからできるっていう。

――じゃあ、関係は壊れてないということですか。

アレク　そうですね（モグモグ）。それと、自分の後輩。大場（貴弘）や新人の佐藤（学）は、ボクの中では、これからどうにかしてやりたいなっていう気持ちはありますね、先輩として。どうにか一人前に、この世界で食っていけるようになってほしいなぁっていう。チャンスさえうまくアレすれば、どうにかやって行けるだろうって思いますし。

――バトラーツというのはいま現在も存続してるし、これから再興に向けて動いていくんだけど、ボクもアレクも好きな〝あの頃〟のバトラーツはなくなっちゃったのは確かなわけですよね。

アレク　はぁい（モグモグ）。そこは寂しさもある反面、逆に、ある意味、きれいさっぱりして、ホントに社長がいう「一から出直し」っていう部分を表現できるチャンスかな、と思いますね。ボク個人としても。

――やっぱ、〝貯金〟ってなくなるんだよねぇ（笑）。

アレク　あぁ、そうですねぇ（モグモグ）。

――貯金があったとしたら、その貯金をどう使うかのほうが大事ですよね。どうせなくなるんだから（笑）。いくら貯めたと思っても、「貯金っていうのはなくなるときにはなくなるんだな」っていうのは、ありますよね。

アレク　会長（山口日昇のアダ名）の懐もそうですか?　んむはぁ。

――俺は貯金通帳すら持ったことない（笑）。はなっから、ないから。貯金はないけど、俺、金に困ったことないんだよなぁ。で、『紙プロ』も旗揚げして10年経つんだよね。

アレク　あぁ～、そうなんですよね!　今度、イベントやるんですよね?

【ここで、突然、隣の部屋にいたロンドンブーツの淳が登場】

淳　おはようございます!（もちろん夜）

アレク　あぁあぁ、どうもぉぉぉ!　お疲れさまです!

淳　隣で飲んでました。

アレク　あぁ、ホントですか。

淳　またよろしくお願いします。

アレク　あ、こちらこそ!

【淳、帰る】

アレク　ああ、ビックリした……。何かわざわざ来ていただいてね、申し訳ないです。

――なんの話だっけ?　貯金の話だ（笑）。だから、RADICALになってからも5年経つんだけど、猪木さんがよく言う「安住の地なんかねえんですよ」っていうのはつくづく実感するんですよ、最近（笑）。だから、どっかに安住の地を見つけてたんだろうね、アレクが。

アレク　そうですね。そういう意味では自

分の使っている入場テーマ曲『AO CORNER』の歌詞のように、常に挑戦者っていう気持ちが保てなかったですよね、やっぱり。そういうのが、どっかしらに出てたんだと思います。

――で、ズバリ言ってシウバに勝つ自信は？

アレク　う〜ん、自信はそんなないんですけど……。

――ズコッ!!　ないんだ（笑）。

アレク　でも、勝てる要素は大いにあると思います。勝てる展開も思い浮かぶことは思い浮かびますし。なにより楽しみです、ホントに。自分が、いまのこのテンションでリングに立てることが。やっぱり一区切り。バトラーツとキッチリと話はついて、フリーという形になりましたから。

――だから、最終的な結果はどうあれ、「勝ちたい」という意思を見せることも、これもプロとしての使命だと思いますね。

アレク　そうですね。だから、勝敗の部分において、「勝つ！」っていうドン欲さを持てば、勝機は必ずあると思います。

――いつしかプロレス技を見せたり、面白い試合をやることが〝アレクサンダー大塚〟の使命みたいになってたから。

アレク　そうですね。やっぱり何かスリ変わっちゃってましたね。

――決してそれをやらなくても、アレクサンダー大塚の個性っていうのはもう消えないですよ。というか、新しい個性を創っていけばいいと思いますよ。

アレク　別にプロレス技を出すのがアレクサンダー大塚じゃないんですけど、なんか、いつの間にかそっちに寄っちゃってましたねぇ。

――シウバ戦が、新しい個性が見えるキッカケになればいいですよね。

アレク　やっぱり今回、こうやってチャンスをもらった反面、結果が出なかった時に、「こんなんでやってていいのかな？」っていう思いが出てくるかもしれませんね、もしかしたら。もし負けたら……。

――その時はどうするの？　負けたらまさか引退を考えてる？

アレク　う〜ん、わかんないですけど、ボクの中で、なんかそれくらいの感情は持っていますね、正直。いま現状としてはそれぐらいに思ってます。だから、それぐらいこの試合にモチベーション、意気込みを持ってるっていう風に思ってもらえればいいと思います。

――いや、今回はズバリ言って、それぐらいの意気込みを見せてもらわないと、ファンも感情移入できないと思いますよ。

アレク　かといって「コレで負けたら引退します」とか言ったところで、またそれこそ口ばっかりっていうか、話題作りばっかりでってなるのもイヤだし。ただ、ホントにそれぐらいの気持ちでもって今回、いままでの分を、お詫びできるファイトを見せたいっていう気持ちですね。はい。あくまで自分のためにやって、結果的にそうしたいですね。

――じゃあ「負けたら髪の毛伸ばします」ってのはどう？（笑）。

アレク　んむはぁ。いや、もう伸びないかもしんないですねぇ。

――ダハハハハ！　アレク選手には、これからもグングン伸びていってほしいものです（笑）。死ぬ気で頑張ってください！

アレク　わかりました！　頑張るっていう言葉を越えて頑張ります。

【12月某日／青山「季菜」にて収録】

“バト”の今後、表明会見!!

現在、絶賛〝冬眠〟中のバトラーツだが、12月11日に石川雄規、アレクサンダー大塚、島田裕二レフェリーが今後の方向性について語る会見を行った。

ここでアレクは、自ら〝狂犬〟ヴァンダレイ・シウバに挑むことを発表。また、石川社長も情念の火はまったく消えていないことをアピールした。

石川社長は、現在微妙なバトラーツのスタンスについて、「誤解されると困るんですけど、バトラーツに残留する選手、離脱する選手に分かれるのではなく、全員が一度フリーになった上で、お互いの道を進むということです。ケンカ別れではありません。競艇場プロレスは好評ですが、あれはあくまで〝バトラーツ・プロデュース〟という形であってバトラーツとは違うもの。バトラーツ全体の今後の活動に関しては全く未定ですが、臼田（勝美）、カール（・マレンコ）、大場（貴弘）、佐藤（学）らと昔のバチバチプロレスをやっていきます」と、全力で活動再開に向けて動くことを語った。

そして、新日本の1・4東京ドーム大会に村上和成と乗り込むことも示唆した。「今年の大きいのが東京ドーム（『PRIDE.17』）で終わったんで、せっかくだから年始も東京ドームでやろうかなと思っていたら、1月4日に新日の東京ドームがあるということで。以前に村上の野郎と「2人で新日のリングで暴れたいよな」なんて言ってたこともあり、新日の〝闘い〟という部分に自分も感じるものがあります。肌を合わせてみたいと思ってる人がいたら相手は誰でも構わない。俺と村上のタッグと闘いたい者であればいい」と、メジャーの舞台に〝情念〟を叩き込むプランに自らを奮い立たせた。

その後、正式に1・4参戦が決定！　石川&村上vs棚橋弘至&鈴木健三戦が行われることになった。

また、フリーとなった島田レフェリーは、中立的な立場から今後もバトラーツをバックアップしていくという。「来年は大きな舞台でレフェリー業にまい進したい」とこちらも意欲を見せた。

なお、10・26沖縄でバーリトゥード初勝利をあげた大場貴弘が、12月15日にロシア・ウラジルストックで行われるバーリトゥード・トーナメントに出場することも併せて発表された。

〝冬眠〟で閉ざされたと思われたバトラーツの格闘ロードだが、これからもバト魂は連鎖する。情念は死なず！





新生バトは、炭火串焼き「石川屋」を「B−CLUB」の2Fで始める。石川社長は「言ってみれば稚魚を放すようなもの。みんなサケになって、また一本の川になって戻ってくる」と語った。アレク、島田はフリーに

12・23『PRIDE.18』全カードようやく発表!

PRIDE DEAD or ALIVE!

負ければ2軍降格!?

崖っぷちに立たされた男たちの生き残りを賭けた闘いを見よ!

12・31『イノキ・ボンバイエ』とのかね合いか、なかなか発表されずにファンをヤキモキさせた12・23『PRIDE・18』の対戦カードがようやく発表になった。

まず、今回一番注目されたのは、11・3『PRIDE・17』でTKOにて桜庭を返り討ちにし、いまやヒクソン級の〝賞金首〟となったシウバが誰と闘うかということ。そのチャンスをなんとアレクが手にすることになった!

確かにアレクは10・14バトNK大会でジャクソンと『PRIDE』出場権」を賭けた闘いに敗れた男。そのアレクがシウバと闘うというのは「おかしい」という声も当然聞こえてくるが、そのような状況だからこそリスクの大きい一戦と言える。アレクに逆転を呼び起こす力ははたしてあるか!?

次に注目の新顔がひとり。日本ではリングスUSA所属を名乗った〝NHBの鉄人〟ジェレミー・ホーンが遂に『PRIDE』参戦。初戦の相手は小路晃に決定した。ホーンはリングスで目立った結果は残せなかったが、あのUFCヘビー級王者クートゥアーと互角に闘い、ノゲイラをして「もっとも強かった」と言わしめるほどの実力者。『PRIDE』ミドル級にまたひとり強豪が加わることになる。

また早くから噂された高山vsシュルトの巨人対決も正式決定。高山は藤田戦に続き、再び『PRIDE』のメインをつとめることとなる。12月9日までノアのシリーズに参加していた高山が、自分よりデカい相手といかにして闘うつもりなのか? 高山の秘策に期待しよう。

また、ボブチャンチンvsオーフレイムという好カードも決定。オーフレイムは勝ち星こそないが、その潜在能力は侮れない。両者ともにグラウンドもできるストライカーとして好勝負が期待できるだろ。

高田道場からは二人参戦。まず、松井は〝プロレスキラー〟ジャクソンと対決。アレクをボコボコにし、石川を一発KOしたパンチは脅威。体重差もあり松井には苦しい闘いが予想される。そして先日、高田道場入りしたばかりのヤマノリは〝K—1の大巨人〟ノルキア戦が決定した。ノルキアはゲーリーの十字の前に秒殺されたが、その重いパンチは「脳味噌がシェイク」(ヤマノリ語録)される破壊力だろう。ヤマノリ汚名返上なるか?

こうして並べてみると、贅沢なマッチメイクに慣れすぎてしまった『PRIDE』ファンの中には、物足りないと感じる人も多いと思うが、ここは松井、アレク、小路、アレクの4人に注目してもらいたい。

いづれもこのところ負けが込んであとがない選手揃い。このままでは流れの速い『PRIDE』の中では、「脱落」という危険性も出てくる、崖っぷちに立たされた男たちなのだ。

Jリーグなどでは、J2陥落がかかった試合などが、成績上位の試合より遙かに盛り上がることがあるが、それと同様、追いつめられた彼らの必死の闘いは非常に興味深い。

それぞれ松井はジャクソン、アレクはシウバ、小路はジェレミー、ヤマノリはノルキアと一筋縄ではいかない相手揃い。

この中で誰が生き残り、誰が脱落してしまうのか?

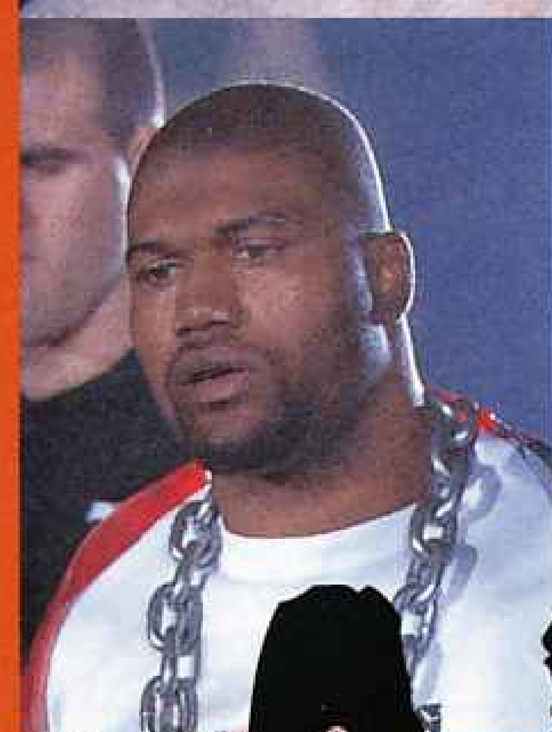
そんなスリリングである意味、残酷なマッチメークが組まれた『PRIDE・18』。松井、アレク、小路、ヤマノリの生の感情を見よ!



アレクサンダー大塚
(フリー)
VS
ヴァンダレイ・シウバ
(シュートボクセ)

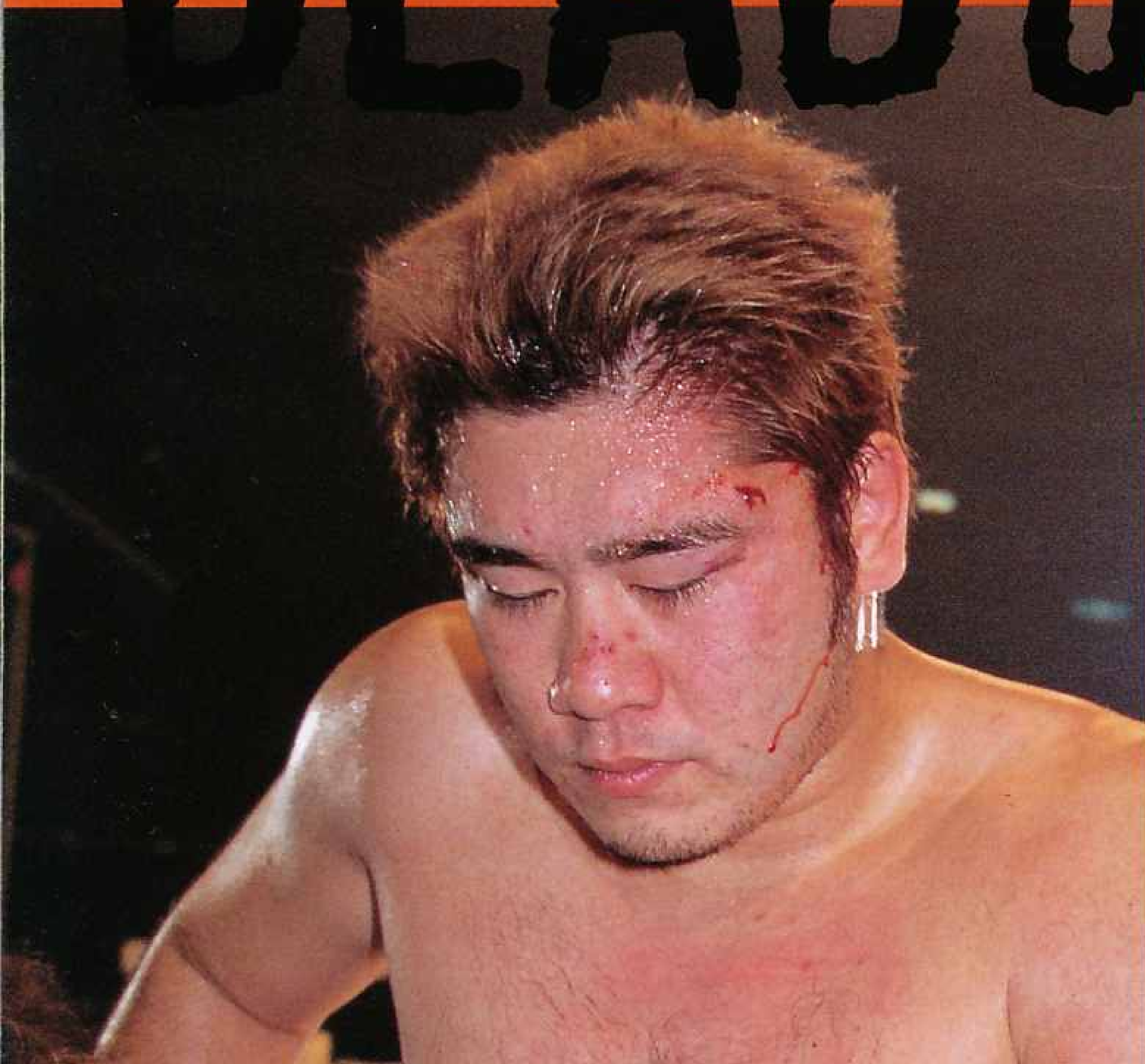






松井大二郎
(高田道場)
VS
クイントン"ランペイジ"ジャクソン
(チーム・イハ)

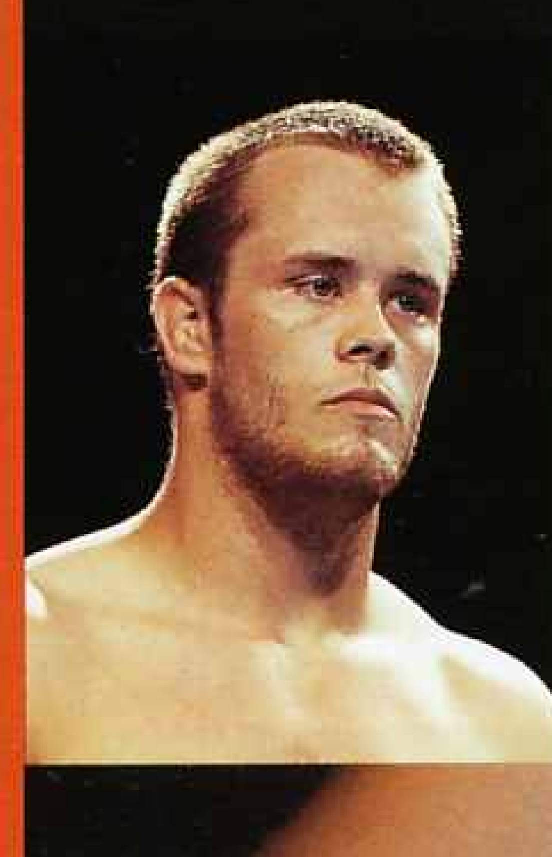
DEAD or ALIVE!



山本憲尚
(高田道場)
VS
ヤン"ザ・ジャイアント"ノルキヤ
(スティーブンズ・ジム)







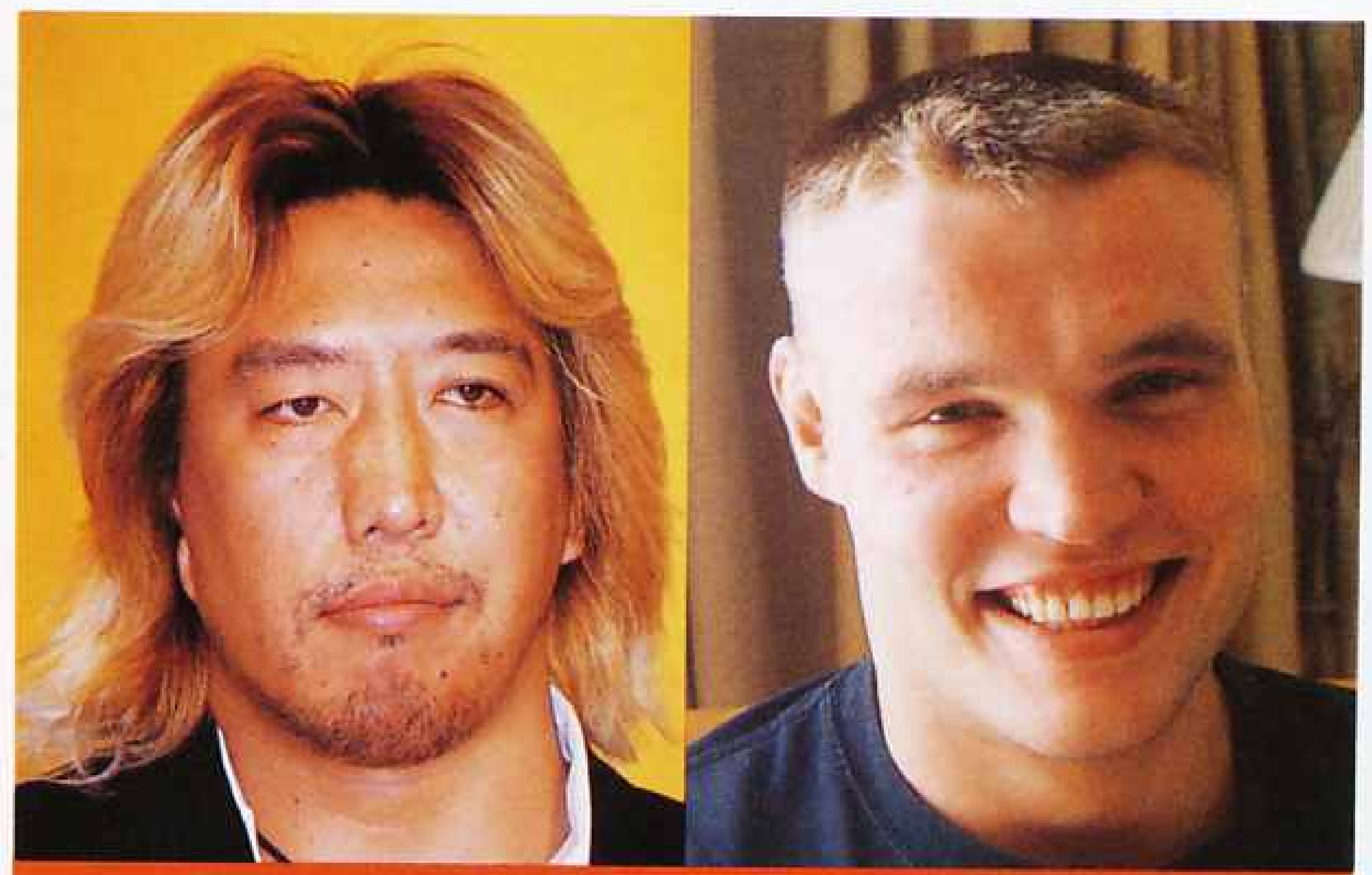
小路晃
(フリー)
VS
ジェレミー・ホーン
(ミレティッチ・マーシャルアーツ・センター)

大打撃戦になるか!?
それとも意外な寝技か?



イゴール・ボブチャンチン
(ウクライナ)
VS
ヴァレンタイン・オーフレイム
(ゴールデン・グローリー)

噂の巨人対決遂に実現!
高山の秘策は何か?



高山善廣
(フリー)
VS
セーム・シュルト
(ゴールデン・グローリー)

『PRIDE.18』 マリンメッセ福岡

2001年12月23日(日)　開場 13:30　開始 15:00

チケット情報(入場料/全席指定・消費税込み)

VIP(ビップ)――100,000円(特典付き)
RRS(ロイヤルリングサイド)――23,000円
スタンドS――13,000円
スタンドA―― 7,000円

[全てに関する問い合わせ]
株式会社ドリームステージエンターテインメント　TEL.03-5775-5700

●SKY PerfecTV!にて完全独占生中継/視聴料:2000円/回
●生放送/12月23日(日)ch.123　15:00～
※大会当日14:30よりch.123/ch.200にて事前カウントダウン番組(無料)を放送。

●再放送

12月
23日(日)ch.113　20:00～
24日(月)ch.114　20:00～
25日(火)ch.122　19:00～
26日(水)ch.121　13:00～
27日(木)ch.121　13:00～
28日(金)ch.121　22:00～
29日(土)ch.113　21:00～
30日(日)ch.121　13:00～
31日(月)ch.114　20:00～

1月
1日(火)ch.121　14:00～
5日(土)ch.114　20:00～

お問い合わせはカスタマーセンターまで。
TEL.0570-039-888(受付時間10:00～20:00)

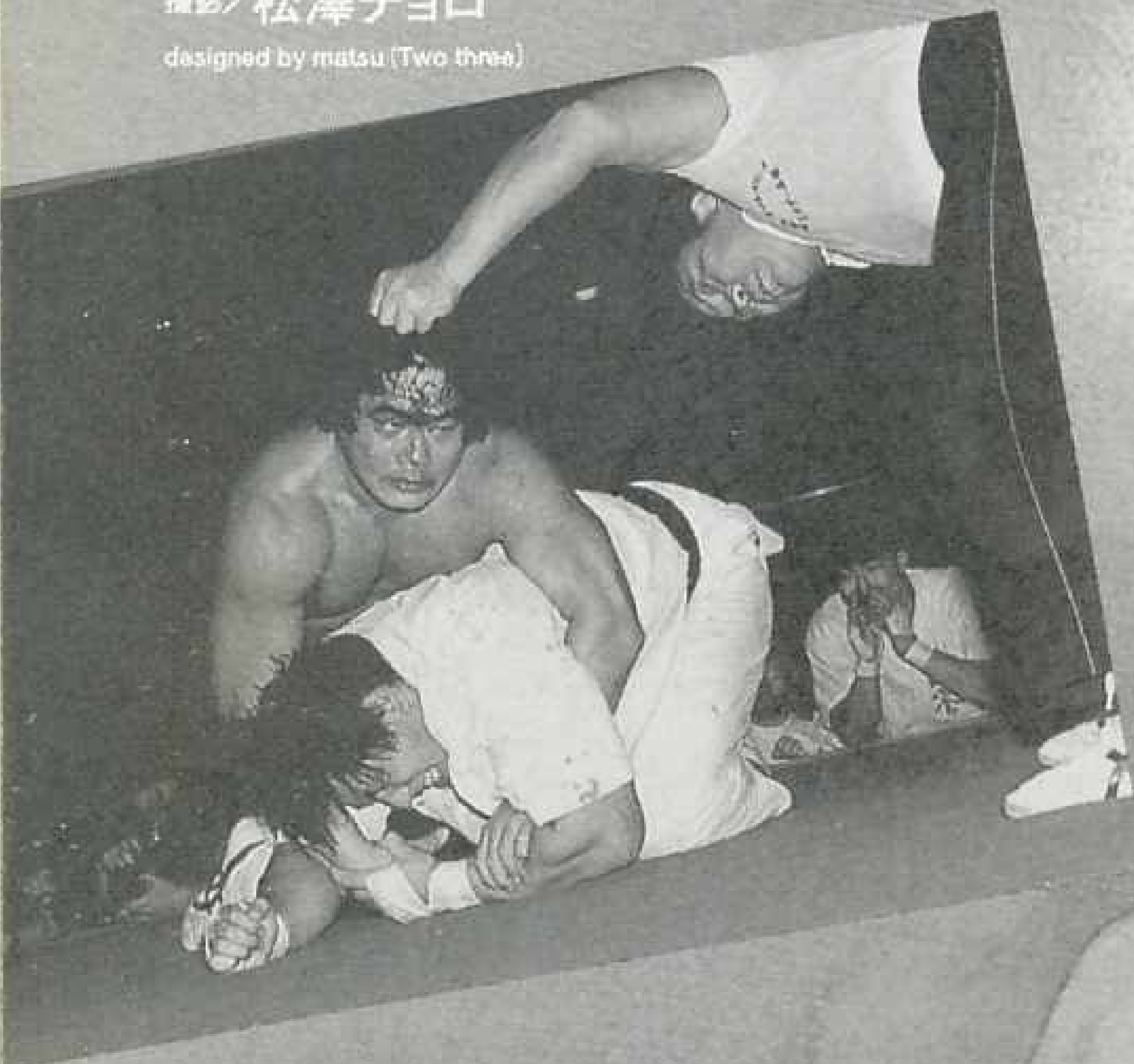
恒例「紙プロ」編集部勝敗予想

	山口日昇	松澤チョロ	堀江ガンツ	スモーノブ	斉藤中
高山 vs シュルト	シュルト [KO勝ち]	高山 [肩固め]	シュルト [判定勝ち]	高山 [ヒザ十字固め]	シュルトKO勝ち [ヒザによる]
アレク vs シウバ	シウバ [一本勝ち]	シウバ [KO勝ち]	シウバ [KO勝ち]	シウバ [レフェリーストップ]	シウバ判定勝ち [アレクのスタミナ切れ]
松井 vs ジャクソン	ジャクソン [TKO]	ジャクソン [判定勝ち]	松井 [判定勝ち]	松井 [腕十字固め]	ジャクソン TKO勝ち [松井大出血!]
小路 vs ジェレミー	ホーン [判定勝ち]	小路 [判定勝ち]	ホーン [判定勝ち]	小路 [判定勝ち]	ホーン判定勝ち [ちなみに僅差]
山憲 vs ノルキア	ヤマノリ [ヤマノリロック]	ヤマノリ [腕十字固め]	ノルキヤKO勝ち [右フック]	ノルキヤKO勝ち [右ストレート]	ノルキヤ [2RTKO勝ち]
ボブチャンチン vs オーフレイム	ボブチャンチン [TKO]	ボブチャンチン [グラウンドパンチでレフェリーストップ]	オーフレイムの一本勝ち [パワーアキレス]	ボブチャンチン KO勝ち [右フック]	ボブチャンチン KO勝ち [秒殺]
ゴエス vs スティーブリンク	ゴエス [判定勝ち]	ゴエス [三角絞め]	ゴエス [チョーク]	ゴエス [三角絞め]	アレックス [判定勝ち]

流血の魔術 最強の演技

すべてのプロレスはショーである

聞き手／吉田豪
構成／中村カタブツ君（38歳）
撮影／松澤チョロ
designed by matsu (Two three)





ミスター高橋

2001年マット界に『ケーフェイ』以来の**爆弾本投下!!**

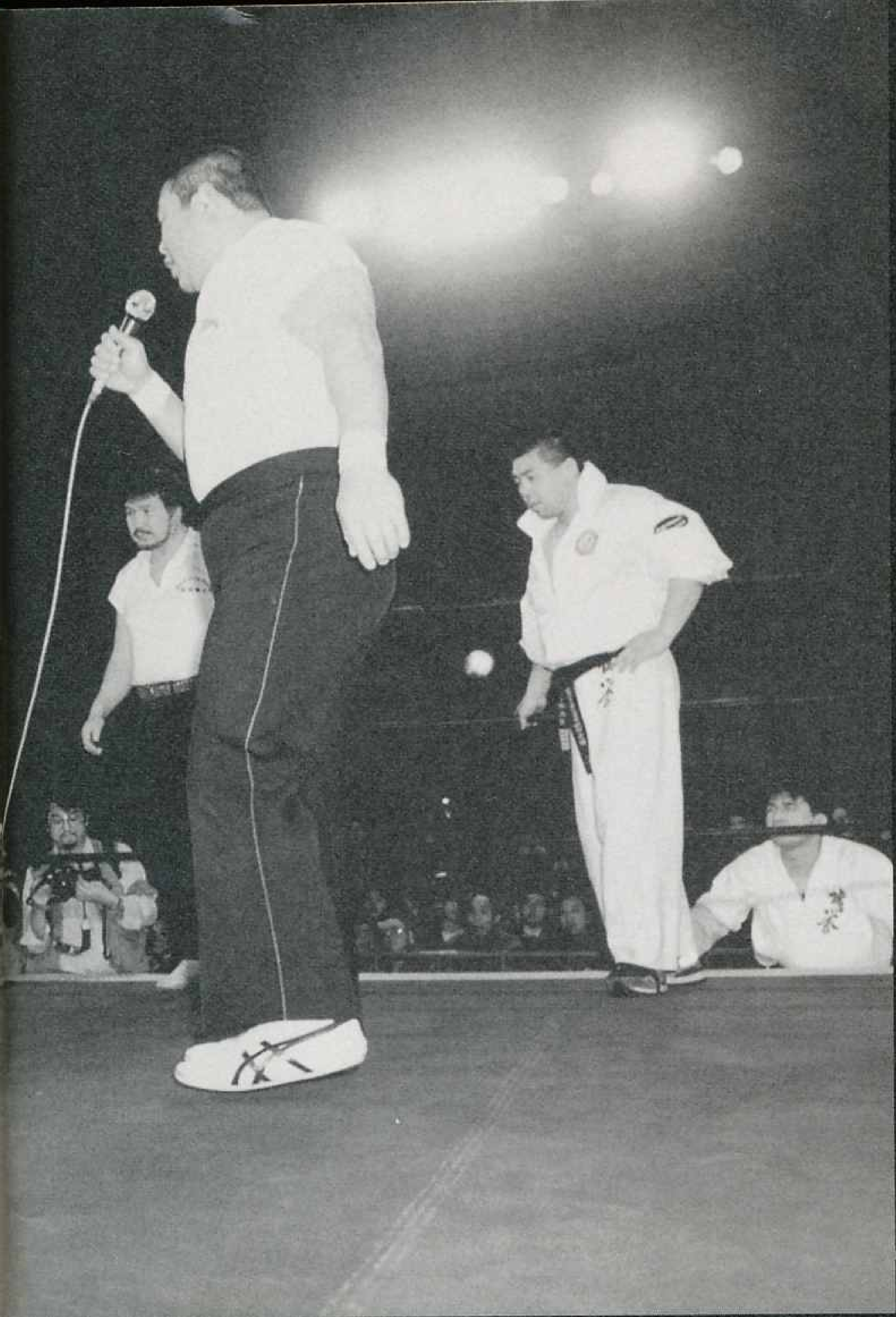
専門誌がことごとく**黙殺**するなか**本誌**は、その**真意**を

元・新日本プロレスレフェリー

著者**ミスター高橋**に

直撃取材!!





日本マット界に電撃が走る！　すでに読んだという読者も多いと思うが『ケーフェイ』以来の衝撃が走ったのではないだろうか？　しかし、この本は単なる暴露本だと思ったら大間違い。いわば、日本のエンターテインメント宣言本と言ってしまってもいいかもしれない。そんな奇跡の本を著した、元新日本プロレス・レフェリー部長・ミスター高橋氏を本誌では早速直撃！　この本を書いた動機とは何か？　新日本プロレスとは何か？　そして、エンターテインメントとは何なのか？　新日本プロレスの全盛期を裏方として体感し、プロレスというエンターテインメントの全てを見てきた男の重厚な言葉に目を逸らすな！　この本『流血の魔術　最強の演技～全てのプロレスはショーである【講談社刊】』を、他の専門誌が黙殺している間に『紙プロ』が独占させてもらいます！

――前回も良かったですけど、今回の本は、かなり衝撃的ですよね。やっぱり反響とかも凄いんじゃないですか？

高橋　そうだといいねえ（笑）。

――いや、ネットとか見ると、かなりの反響ぶりですよ（笑）。

高橋　あ、そう？

――昨日はボクも、この本についてターザン山本さんと考えるイベントやったんですけど、山本さんも凄い興奮してましたからね。特に目次の〝ターザン山本さんの指摘は否定できない〟ってところが嬉しかったみたいで、「やっとわかってもらえた！」って（笑）。

高橋　ハハハハ！　でも、ターザンさんが言ってたことが全部合ってたってわけじゃないけどね（笑）。

――まあそうでしょうけどね（笑）。あと、前田日明さんにも、この本について聞いたんですよ。

高橋　前田、知ってた？

――『週刊現代』の記事を読んでもらったんですけど、「恨みつらみで書いたんだったらどうかと思うけど、マット界のことを考えて勇気を持って出したっていうんなら、手を叩きたい」とのことみたいですね。

高橋　そう（嬉しそうに）。でも、僕の中には前田が言った恨みつらみなんてものは全くないんだけど、そういう風にも感じる？

――正直、そう捉えている人がかなり多いみたいですね。

高橋　う～ん、何でだろ？　僕は新日本に対して何もないし、憎らしい人も誰もいないし。まして選手なんか同じ釜のメシ食ってるんだから。読んだ人が多少でもそういう風に取れるんだったら、ちょっと心外だけどね。

――この本でもちょっと書いてましたけど、いま新日本プロレスリング・セキュリティーの方はどういう形になってるんですか？

高橋　う～ん……。仕事は切れてますね。僕が引退する間際まで、あの会社は新日本の子会社っていうか、新日本プロレス・サービスと同じようなものだったんですよ。全部向こうの資本で。最初はそういう話だったんだけどね。

――ところが、新日本プロレス・サービスも本社に吸収合併されちゃったわけですからね。その辺もあって、多分こういう本を出したんじゃないかっていうような見方もされてるわけですけど。

高橋　それは違いますよ！（キッパリ）。あの話を本の中に強いて入れた理由は、「選手が安心して引退できるような受け皿しっかり作ろうよ」という意味での提案なんです。

――とすると、この本を書くに至ったきっかけは恨みではなく提言というか？

高橋　それは、僕がプロレス界を離れて一般の立場っていうのかね、ファンと同じ目線でプロレスを見れる様になったからでしょう。そうすると、「やっぱり、このままじゃちょっと時代に置いていかれてしまうんじゃないかな？」って感じるところがあるんですよ。いわゆる、真剣勝負だとか格闘技だとかって言い張ってしまうとね。正直に「エンターテインメントです」「ショービジネスです」ってことを情報公開した方が、プロレスの発展に繋がるんじゃないかと思ったんです。

――確かに、いま時代は少しずつそういう方向性に進んでいるとは思うんですよ。

高橋　猪木さんも最近は「プロレスは格闘だ」みたいなことは言ってないでしょ？　ちょっと、違ってきてるでしょ？

――「プロレスは最強の格闘技。ショーだ、八百長だなんてとんでもない話だ。もしそうだったら、俺は酒飲んで女遊びして気楽にやってるよ」とか言い切っていた頃とは、微妙にニュアンスが変わってきてますね。

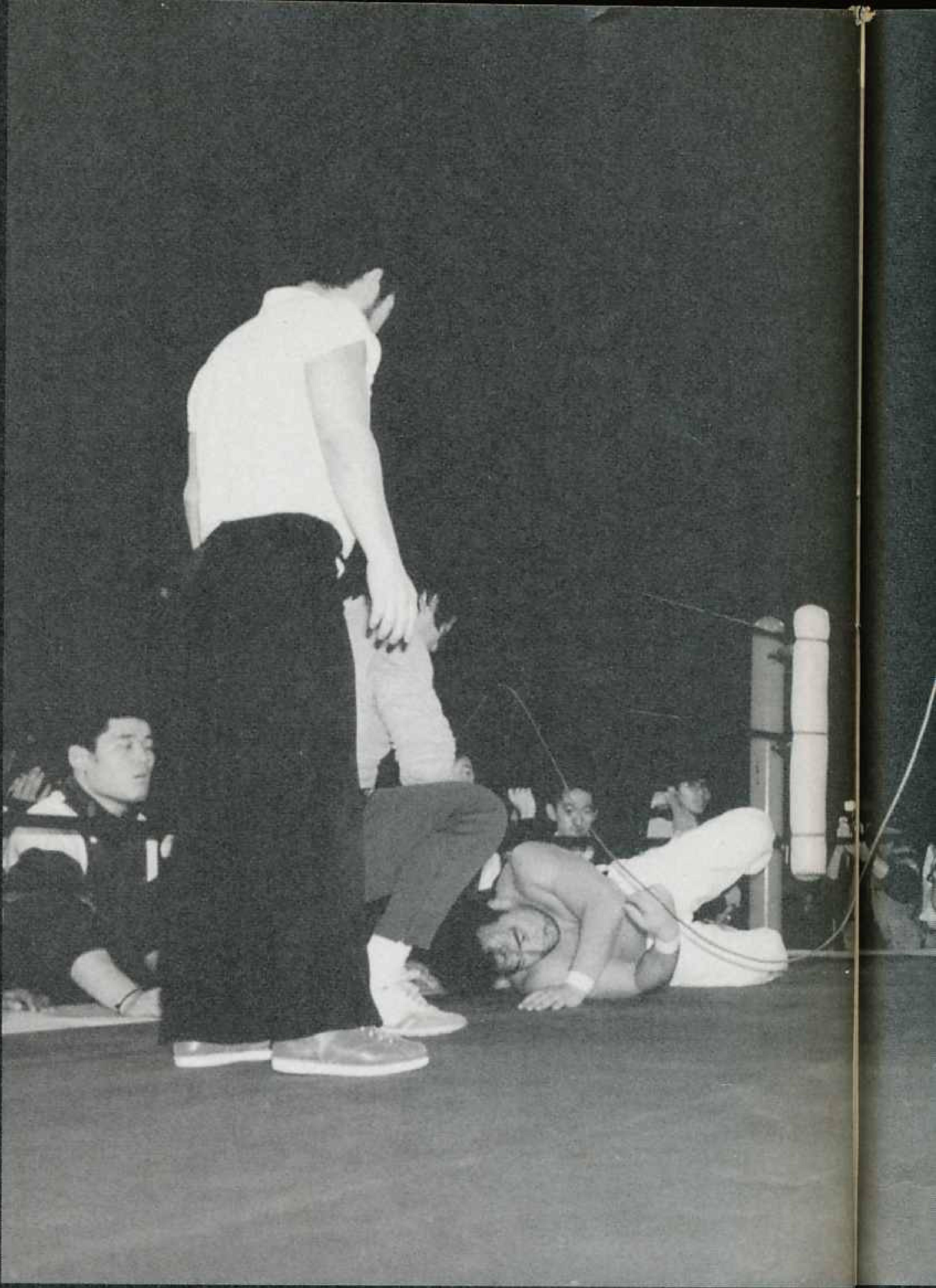
高橋　それでいいんじゃないのって思いますよ。誰だって時代と共に考えは変わっていくんだからさ。僕だって現役でいたときだったら、ずーっと「真剣勝負だ！」って言い張っていたよ。「それがプロレスを守る道だ」と思ってましたんでね。

――そう思っていた高橋さんがここまでプロレスの裏側を書くようになったのは、やっぱりＷＷＦの存在も大きいわけですか？

高橋　大きいですよね。あれでＷＷＦがダメになってしまったんだったら「どうかな？」と思うけど、情報をキチンと公開したことによって、ますます入場者数も増えて、テレビの視聴率も上がってるじゃないですか。だから、成功したわけだよね。それに『ビヨンド・ザ・マット』って映画は見た？

――もちろん観ました。

高橋　あれだってもう日本で公開されてる



正

ミスター高橋

んだしね。それなのに「日本は違うよ」とは、いまさら言えないじゃない（笑）。ストロング・スタイルだって、プロレスの中の一スタイルだからね。ショーマン・スタイルにしろ、ストロング・スタイルにしろ、プロレスのスタイルの1つ。スタイルの違いだけだよね。

――見せ方は違っても、中身自体は同じと。

高橋 そりゃあ同じだよ。

――それはわかるんですけど、やっぱりプロレスのやり方をここまで書いちゃったのはさすがに衝撃的でしたね。

高橋 うん、そうね。だけど、新日本の選手だってごく親しい人には話しちゃってると思うよ。僕がまだ現役でいた時にも、プロレス八百長論みたいなものをふっかけてくるファンはいたんですよ。それで僕が否定してると、「でも○○さんがそう言ってましたよ」って選手の名前を言うんだよな（笑）。

――そういう口の軽い人がいたと（笑）。

高橋 だから、その時は「エッ！ あの野郎は、そんなことしてたか！ とんでもない奴だ！」って言ったりしてね（笑）。

――そうやってプロレスを守っていた、と。

高橋 やっぱり、一緒に飲みに行ったりするとホントのこと言っちゃうんですよ。レスラーって人がいいからね。

――ただ、最近では選手のインタビューでも、アングルやセールとかって隠語が普通に出るようになってきてるんですよ。

高橋 ですから、選手がインタビューの中で業界用語を言ってること自体が「ショービジネスですよ」って言ってるのと同じことになるんだよね。大体、真剣勝負の中に〝ハイスパット〟なんてあるわけないでしょ？

――なるほど。1つ確認しておきたいんですが、この本の中で、〝ジャブ〟っていう単語が出てますけど、ボクはこれは「仕事」という意味での〝ジョブ〟だと思ってたんですよ。

高橋 ああ、それは書き方が違ってるのかもしれないね。例えば、仕事って意味で僕、〝ウォーク〟って書いちゃったんだけど、カタカナで書くと〝ワーク〟だね。その違い（笑）。

――了解しました。で、この本ではつまりプロレスとは基本的にショーでありワークであるということを明らかにされたわけですね。

高橋 だって、「プロレスラーの中で本当は誰が一番強いんですか？」ってファンから質問されること自体おかしいもんね。

――確かに、「6冠王だから武藤が最強だよ！」とは誰も思わないわけですからね。武藤さんを上手い選手だとは思っても。

高橋 そうそう。『本当に強いのは誰か？』って本もあったけどさ（笑）。

――山本小鉄さんの本ですね（笑）。そういう意味では、小鉄さんの「新日本の選手であれば、若手でもヒクソンとかに勝てる」といった発言に対してはどう感じます？

高橋 それは勝てると思いますけどね。ヒクソンの闘い方も研究されてるでしょうから。

――つまり、ちゃんと稽古すれば勝てるってことですよね。

高橋 ちゃんと稽古してますよ！

――いや、そういう有事に備えた専門的な稽古というか。この本でもズバリ「今の新日本はハイスパットの練習が中心になっている」と書かれてましたけど……。

高橋 （遮って）いや、そこは僕の書き方がマズかったんだよね。中心というワケじゃなかったんだけど、ちょっとマズイ書き方しちゃったなと思ってるんですよ。やっぱり〝シュート〟が中心ですよ、新日本の場合。で、オフの時の合同練習とか開幕間近になってくると、〝ハイスパット〟というよりもプロレスの練習に変わって来ちゃうってことです。通常、やっぱりどっちかっていうとシュートの練習の方が多いですね。

――それは今、現在も変わることなく？

高橋 うん。僕が引退する間際まではね。だから、そういう本当の強さを追求してるっていう裏付けがあるからこそ、エンターテインメントもできると思うんですよ。「いつでも誰でも来い！」っていう自信があるからこそ出来るんであってね。

――ただ、長州さんがジャパンから新日本に戻ってきましたよね。あの頃から高橋さんが本で書かれたように練習体系が変わったんじゃないかってボクらも認識してたんですよ。

高橋 戻ってきたっていうよりも、長州が実権を握ってからでしょ。長州が戻ってくるまでは僕がマッチメイカーだったんですよ。

――それがやがて要職をジャパン系の人が占めるようになって、道場長も馳さんに変わったわけですよね。

高橋 ま、全てに於いて実権を握ったというかね。でも、良かったと思いますよ。長州は練習に対しても物凄く厳しいからね。

――それでも、こうしてショーであることをカミングアウトすると、長州さん側は辛いだろうなって思うんですよね。新日本の中でエンターテインメントに対応できる選手って、おそらく武藤さんや蝶野さん側の人たちぐらいじゃないですか。

高橋 あ、そう？

――やっぱり長州さんはそこまで割り切れないタイプだろうし、プロレス内での強さをアピールしたい人たちにとっては、ショーだと宣言するのは難しいんじゃないです

ミスター高橋

今、ここで何を言っても、どっぷりとその中にいる人にはわからないと思いますよ。

かね。

高橋　だから、そういうスタイルのエンターテインメントでいいじゃないですか？　なにも、エンターテインメントっていうのは一つの型にはまったもんじゃないし。それに、彼は頭がいいからね。ただの分からず屋じゃないですから。

——ちなみにターザン山本さんはショーだと公言することについて、「疑いながら見てることに色気がある」と言ってたんですよ。

高橋　つまり「その辺は知ってても、半信半疑で見るところにプロレスの面白さもあるんだよ」ってこと？　ああ、そういう考え方もあるんだ。それはちょっと考えてなかった。でも、やっぱりそれだと誤魔化して嘘つき通してることになるわけでしょ？　その辺に嫌気が差してるファンだっているわけだし、力道山時代から見ているファンも「やっぱり、あれはどう見たっておかしいよ」と思った時に、業界の側は「いや、違う。真剣勝負だ」って言い張ってる。「その辺のところがもうヤダ」って言う人の為には情報公開をきちんとするべきだし、そういうファンも戻したいよね。

——昔のファンとかは「ゴッチとハックの時代は違った」とか「力道山時代は違った」とか言いがちですけども、基本的には同じプロレスだったわけじゃないですか。同じはずなのにだんだん受けとめられ方が違ってきたっていうか、リアリティが薄れてきた部分はあると思うんですよね。

高橋　やっぱり時代の変化だと思いますよ。例えば、力道山が招聘した外人選手の中にも、いわゆる国籍不明だとか、謎のレスラーだとかいてもそれで通ってたわけですよね。だけど、今の子供達にそんな嘘つけないでしょ？

——まず確実にバレますからね（笑）。そうやって嘘がつきずらくなった時代に突入した以上、あとはプロレス界がこの本を踏まえてどういう風に変化していくのかってことなんですけど。

高橋　うん、そうですね。でも、いまは業界の人たちがむしろファンの考えてることがわからないんじゃないかなって思う。ファンのパワーの方がいま、強いじゃないですか？

——専門誌とファンとのギャップもどんどん開いてきてますしね。この本も一般誌的にはすごい反響を呼ぶと思うんですけど、専門誌はまず黙殺するはずだと思うんですよ。

高橋　ターザンさんが新日本についていろいろ書いてる時も、「プロレスでメシ食ってるくせに、そんなこと言っていいのか！」みたいな空気はあったからね。いわゆる専門誌の人たちにしても。でも、全てをそんな風に言っちゃうだけで、ファンが何を思ってるのか、何を求めてるのかをちっとも考えないと、やっぱり最終的には置いてかれちゃうんじゃないかなって思うんですよ。

——プロレスでメシ食うことばかり考えてる内に、いつか食えなくなっちゃうよっていうことですよね。

高橋　それは最初に言ったように、僕自身が中にいた時にはやっぱりそうでしたから。離れてから始めて見えて来るものなんですよ。だから、こんな風に僕が本を書いても、今、ここで何を言っても、どっぷりとその中にいる人にはわからないと思いますよ。

——たとえば、新日本プロレスからはどういう反響が出てますか？

高橋　いや、何も伝わってきてない。

——『週刊現代』の記事だと「あぁ、そうですか」っていう素っ気ない返事が返ってきたみたいですよね。

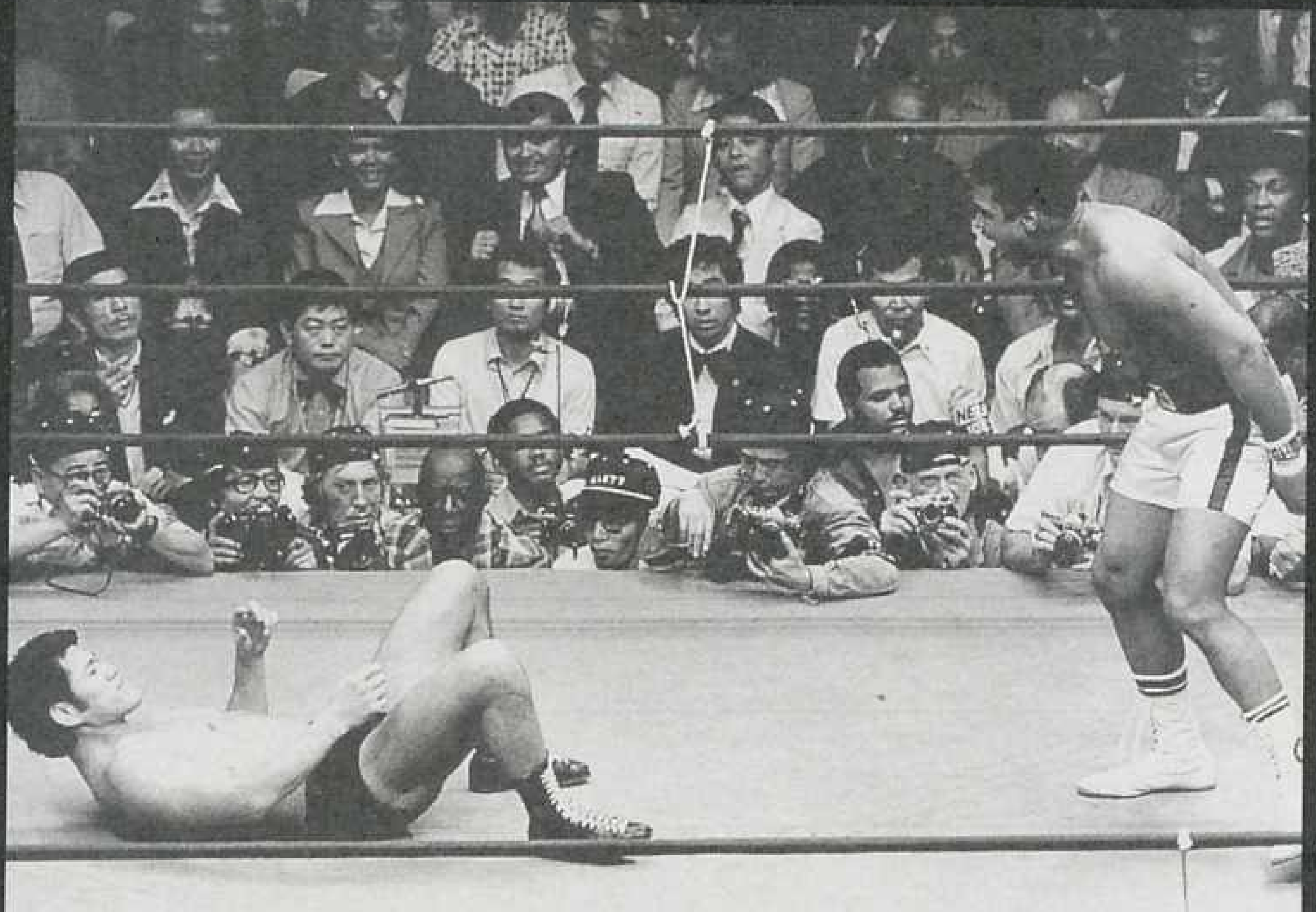
高橋　『現代』の記者から電話かかってきたんですよ。「新日本のコメントは短くて、特に驚いた様子もなかったですよ」って。

——選手の方に「こういう本出すんだ」っていう話はされたんですか？

高橋　しました。選手会長の平田には出る前に言っておきました。「高橋さんのことですから、プロレスのことを考えてくれてるんだと思うけど」ってなことは言ってたな。「読ましてもらいます」って。

——それは内容についてもある程度「こういう感じで書くよ」って言ったんですか？

高橋　いや、内容についてというよりも、こういう思いで書いてるっていうことです。「『プロレスはシナリオがあるんだよ。ちゃんと作ってやってるんだよ』ってところまで書くから。『それを表に出さないと今後のプロレスの発展はないから』」って。「だから、平田とは仲良くしてたけど、場合によっては『このヤロー！』ってなことにも、なんのかな？」って。平田は「読まないとわからないですよ」とか言ってたから、場合によってはそういうこともないとも言えないんじゃないかな。



高橋氏曰く、猪木が２回のみ行ったシュート試合は、このモハメド・アリ戦とベールワン戦だという。しかし、シュート・ワーク関係なく我々を熱狂させられるのは、猪木の超一流たる所以だろう。

——そうなる覚悟もしていたわけですね。でも、武藤さんとか蝶野さんとかはカミングアウトの流れに乗るのかなっていう気もするんですけど。

高橋　その時にも選手会長が言ってたな。「でも、高橋さん。武藤たちはマスコミと話していると きに堂々と言ってますからね」って（笑）。

——やっぱり「中途半端な位置にいてPRIDEとかの格闘技と同じ土俵で比べられるよりは、そっちに行っちゃった方が絶対いい」っていう思いでやってると思うんですよね。

高橋　うん、そうですねぇ。

——武藤さんとか蝶野さんたちが徐々に発言力を増していけば、これからそっちの方に針を振っていける可能性はあるんですか？

高橋　いや、最近は会ってないから全然わからないけどね。ただ、そういう風になってった方が、僕はプロレスは楽しくなると思いますよ。

——変に片意地張ってプロレスを守ろうとするよりも可能性があるっていうことで

すよね。ところで、この本の中では結構、藤波さんに対する表現がかなり……。

高橋　ああ（笑）。キツイように思える？　何か藤波に恨みがあるんじゃないかみたいな風に感じる？

―いや、恨みかどうかはわかりませんけど、この本に出ている藤波さんのエピソードは、基本的に「これでこそ藤波辰爾！」って感じのものばかりでした。ただ、いわゆる"噛ませ犬発言"もアングルだったという衝撃事実が明かされているわけですけど、ファンの間では「もしかしたら、藤波さんだけは何も聞いてなかったんじゃないか？」っていう妄想を抱いてたんですよ（笑）。

高橋　いやいや、藤波さんも知ってますよ。だって、あの時だってちゃんと長州に「長州の名前を先に呼ぶからね。藤波さんが後だから」って言ってあったしね。「そこんところでもってイチャモンつけてくれ」ってちゃんと伝えてありますから。

―じゃあ、もしかしてあの"テロリスト事件"のときに藤波さんが泣きながら「こんな会社、辞めてやる！」って言ったのも？

高橋　もちろんアレだって知ってるよ（笑）。だから、みんな凄く演技が上手いんだ。俳優さん並なんだよ。

―あの時こそ絶対に藤波さんだけは何も聞かされてなかったと思ってたんですが、そんなもんじゃないわけですか（笑）。

高橋　フフフ（笑）。

―演技も上手かった、と（笑）。だから、藤波さんにキツく思えるのは、多分、"藤波さんは強くない。でも、うまい"ってズバリ書いている部分だと思うんですよね。

藤波さんにキツく思えるのは、"強くない。でも、うまい"ってズバリ書いてるから。

高橋　実際、うまいよね。

―つまり、これからは強さよりもうまさを評価すべきだということですか？

高橋　うん。プロレスラーっていうのは強さの裏付けが必要だけど、リングの上でそれが全面に出ちゃうと面白くなくなっちゃうしね。やっぱりプロレスラーの評価ってのは、"うまさ"ですから、それをやらせたら藤波さんなんか超トップですよ。

―実際の強さよりも、むしろ強そうに見せる技術の方が重要ってわけですよね。

高橋　もちろんですよ！　いわゆるプロレスラー同士でもって他の選手を評価するときに"強い"なんて言葉は出てこないしね。

―ただ、高橋さんは「レスラーはやっぱり強くなきゃダメだ！」ってことも言われてたじゃないですか？　だから、なんとなく藤波さんに対してキツく感じるんですよ（笑）。

高橋　えっ？　ホントに？

―「力だけで言えば、長州と藤波の差は、かなり大きい」みたいな書き方もありましたけど（笑）。

高橋　う〜ん、ちょっと表現きつかったね（笑）。でも、ファンが見たってさ、いわゆる"セメント"でいったら長州が強いっていうのはねぇ。

―誰が見てもわかりますね（笑）。

高橋　わかるでしょ？　でも、うまさを比べたら藤波さんは、やっぱり飛び抜けてるからね。

―新日本も「ストロング・スタイル」って打ち出しているけど、やっぱり強さよりも技術を重視すべきだと。

高橋　だから、ストロング・スタイルっていう言葉をたまたま辞書見てたら、「プロレスのスタイルでもって、レスリングの基本がしっかりしてること」みたいなことが書いてあったんですよ。だから、そういう意味だったら、新日本は文字通りストロング・スタイルですよ。基本はしっかり練習させますからね。

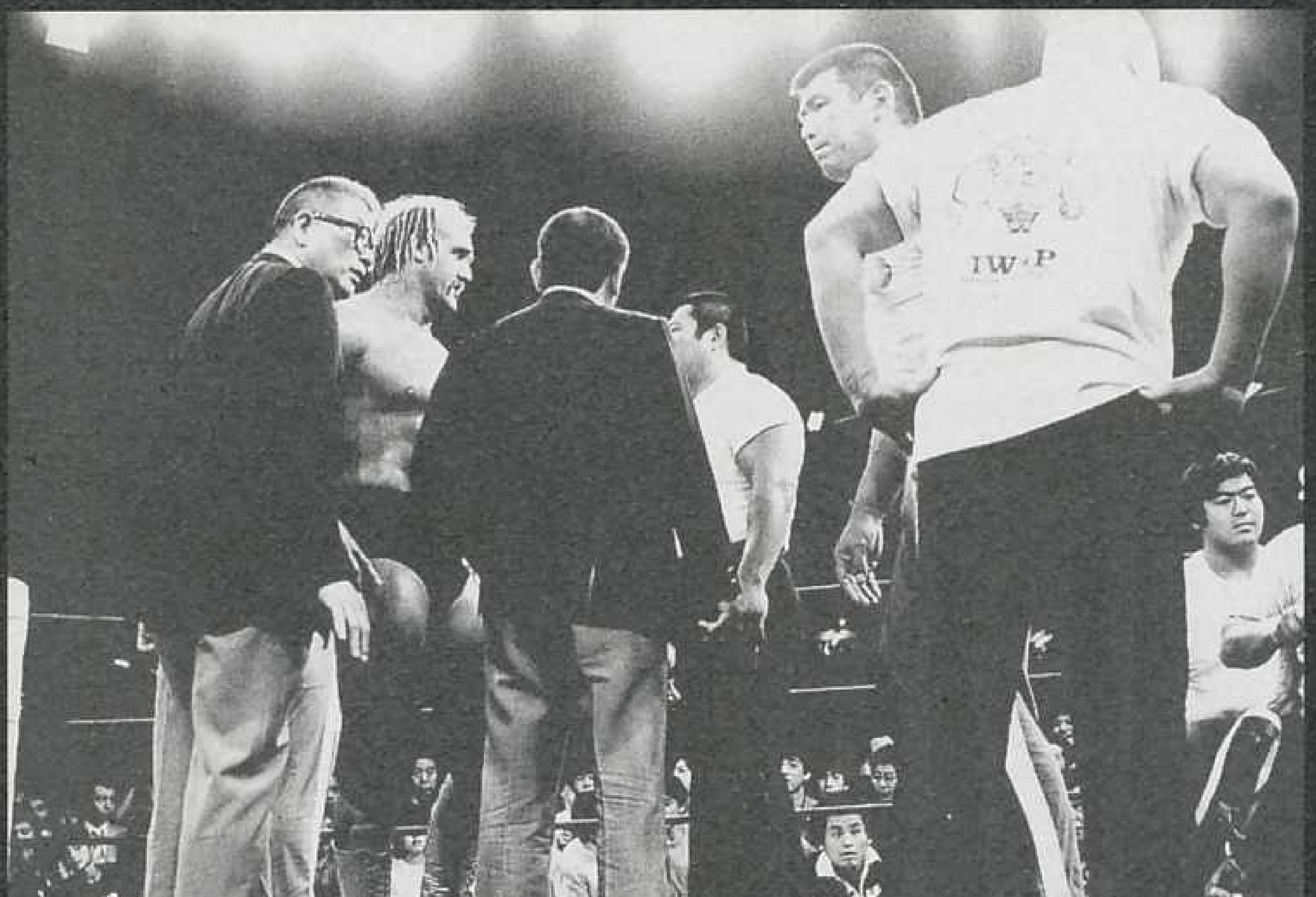
―基本のしっかりした純然たるプロレスってことですね。あと、この本には出てなかったんですけど、猪木vs長州戦で突然、長州さんの手首のバンテージからいきなり大流血したことがあったんですよ。あれって、やっぱり？

高橋　ああ、僕はその試合は知らないですけど、そこにカミソリ隠して、何かの動きで自分の手首を切っちゃったのかな？

―たぶん、そうだと思うんですよね。ただ、その後の猪木さんのアドリブが凄かったんですよ。突然キレて、ロープとか外してヨダレ流してヒーヒー言い出したっていう（笑）。

高橋　さすが猪木さんだよね（笑）。

―アクシデントにより大きなアクシデントをぶつけて対処するっていう猪木さんのやり方には本当にシビれましたね（笑）。



猪木が完全に関係者に対して内容を隠し、確信的に実行した"猪木舌だし事件"。その後、坂口征二が「人間不信」とだけ書かれた置き手紙を残して失踪したのはあまりにも有名な話だろう。

高橋　そう（笑）。だから、その辺の機転が効かないとレスラーはやってられないからね。

―結局、いくらショーだっていっても機転が効かなければお話にならないですからね。そういう猪木さんの素晴らしいほどのいい加減さが、この本を読むとよく伝わってくると思うんですよ（笑）。

高橋　ああ、いい加減さか（笑）。たとえば、昔は絶対に控室に人を入れなかったんですよ。それは厳しかったですから。「絶対に入れるなよ！」って。でも、真っ先に入れ始めたのも猪木さんだから（笑）。

―ホントに「猪木さんらしいな」っていう一言なんですよ。ガチンコを嫌がるエピソードにしても何にしても、ボクみたいな猪木好きとしては「猪木さんなら、これは絶対やりそうだな」「それが、たまらなくいいな」って（笑）。

高橋　でも、それは、猪木さんと会って話したことがあるからそう思うんでしょ？　テレビで観ただけのファンには、いま言った様な感じは伝わんないよね。

―だから、それぐらいしか猪木さんについて知らない人がこの本を読むとキツイかもしれないですけどね。ただ、ああいうタ

ミスター高橋

チの悪さも含めてアントニオ猪木なんだなっていう感じが非常にしました。

高橋　そう?（笑）。

——「強きを助け、弱きをくじく燃える闘魂」っていう目次のフレーズも凄かったですけど（笑）。

高橋　ワハハハ！　キツかったか?別に猪木さんの人間性だとか性格を特に批判したり、それを書こうとしてるわけじゃないんだけどね（笑）。

——プロレスの本質についてカミングアウトしたら、ついでに猪木さんの本質についてもカミングアウトしちゃったというか（笑）。

高橋　まあ、そういうことになるのかなあ（笑）。

——そういえば、確かライガーさんと青柳さんの試合でライガーさんがキレちゃったって言われている試合があるんですけど、ライガーさんを冷静にさせる為に額を切ったとかって噂を当時聞いたことがあるんですよ。

高橋　いや、全く知らない。僕じゃないと思う、そのレフェリーは。

——ああ、その時期になると誠心会館関係のアングルを組まれたりとか、そういう部分でタッチしてたぐらいだったんですよね。

高橋　うん。あの時は本にも書いてある通り、僕はマッチメイカーじゃなかったから。誠心会館では出しゃばったマネしちゃったんで、申し訳ないことしたと思ってますけど。

——いや、抜群に面白かったから問題なしですよ（笑）。ああいう風に周りの選手も騙せるようなアングルじゃないと、やっぱりボクらも燃えないっていうか。

高橋　そうですね。やっぱり小林邦昭がうまかったですからね。

その中で凄いものを見せられたなと思っ



もしゴールデンタイム時代に新間寿という人間がいなかったら、新日本と猪木はここまでの人気を確立できなかったと言っても過言ではない。猪木と双璧をなす程の仕掛けの天才だったのだ。

——猪木対ウィリー戦にしても、周りは全員騙されてたわけじゃないですか。極真のセコンド陣が猪木さんの肋骨を折っちゃったりとかして（笑）。

高橋　セコンドについてた極真の人たちは全く知らなかったからね。逆に興奮して、リングから落っこちた猪木さんを蹴っ飛ばしたりなんかしてましたけどね。

——新日の若い選手にとっても何が起こるかわからないわけだし、そりゃあ緊張感も桁違いになりますよね。

高橋　そうですね。だから、猪木さんってそういう部分を凄く大事にしてたと思うんですよ。あの〝ハルク・ホーガン戦のベロ出し事件〟もその辺がちょっと忘れかかってきたんで、「もう一度ふんどし締め直せ！」ってのを自ら見せたんじゃないかと思うね。でも、マッチメイカーからすると、「俺にだけは話しておいて欲しい」ってなるだろうけど（笑）。

——そのせいで、坂口さんが「人間不信」って書き置きを残すことになったわけですからね（笑）。

高橋　ねぇ（笑）。だって、あの時は僕も相当うろたえたんですよ。だからこそ、あの中に凄い緊迫感漂うものが生まれたんじゃないかと思うね。

——坂口さんには申し訳ないですが、知らせない方がいいこともあるな、と（笑）。

高橋　そうですね（笑）。猪木さんには騙されたけど、逆にあの中では凄いものを見せられたなと思ってます。自分自身が忘れかけてたもの取り戻したみたいなものですよ。

——だから、プロレスは勝敗の決まったショーだと打ち出しながらも、そこに徹しきらず、たまにそういうのが入ってくるってのが理想かなとボクは思いますね。結末としてはプロレスでも、その試合内容が崩れてプロレスを逸脱することは多々あるわけじゃないですか。

高橋　そうだね。エンターテインメントをズーッとやっててぬるま湯的になってしまって、「いいや、いいや」になったらそれも困るしね。「所詮、エンターテインメントだから練習もしなくていいや」みたいになっちゃったら、大変なことになるだろうし。

——ともかく今後、猪木さんから何から皆さんがどういう反応するのかが一番気になりますね。

高橋　そうですね。僕にはなかなか伝わってこないと思うんで教えて下さい。

——はい。こうして本が出た以上は無視するのも難しいし、かといって下手に反応すると本の内容を認めたことになるわけだし。

高橋　でも、この本以前にも、いわゆる「ストーリーがあるんだ」って本は結構出てますよね。こうやって作ってるんだ」って本は結構出てますよね。

——つまり、門茂男さんとかユセフ・トルコさんの本ですよね。でも、高橋さんの本はそれとはスタンスが違うし、より深く踏み込んでいると思うんですよ。やっぱり、その時代ではそこまでしか出せなかったってことなんでしょうけど。

高橋　僕も『紙のプロレス』を時折買って読んだりしてますけれど、引退した選手やなんかがインタビューされてるのを見ると、何となくそういうニュアンスのことを言ってるものね。あそこに出てくる人たちは〝ジャブ〟をやらされた選手が多いでしょ?　そうすると、一生懸命〝ジャブ〟やったのに何も報われなかったんだな、みたいなものがちょっと感じられて寂しいんですよ。僕に言わせたら一番大事にしてほしい立場の人たちなわけですよね。そこを業界がわかってやらないといけないんじゃないかな。スターだけを可愛がったんじゃ、いつまで経ってもよくなっていかないし。〝ジャブ〟ほど一番大切なんですよ。

——そうですよね。とにかく基礎知識としてこういう情報を踏まえた上でプロレスを見たら、見方が変わる部分もあると思うんですよ。いまだにビッグマッチの後には「負けるなんてだらしない！」みたいな意見が多いわけですからね。

高橋　プロレスを見て?　もう、そうなっちゃったら「だらしない」って言われた選手が可哀相過ぎるよ！　まあでも、それがファンから言われてる分にはまだいいけど、自分の子供に言われたらちょっとホントに辛いところだよね。強い弱いだけで見たいんだったら、やっぱりK—1とかを見てく

れればいいしさ。

――やっぱり、子供はストレートだから「お前の親父なんか、八百長野郎じゃねえか！」ってことぐらい言われることもあると思うんですよね。だったら、ＷＷＦみたいにレスラーがエンターテイナー、スーパースターとしてリスペクトされる世界にするべき、と。

高橋　うんうんうん！　向こうは俳優さんを見るようなつもりで見てくれるでしょ。だからね、きちんと「エンターテインメントだ」って公開したら、レスラー自身ももっと誇りが持てると僕は思うんだよね。俳優さんだって、演技に対して立派な賞をもらうわけでしょ？

――だったら、プロレス大賞に"グッド・ジョブ賞"とか、"グッド・アングル賞"とかあってもいいってことですよね（笑）。

高橋　映画だってブルーリボン賞だとか、オスカーだとかって凄いのがあるんでしょ？　だから、あの俳優さんたちと一緒にレスラーが並んだっておかしくないですよ。

――そうやって改善すべき部分として、この本では新日本のプロレス中継についても挙げられてますよね。「見ていてつまらないのは、実況解説が思ったことを言えてないからだ」みたいな感じで。

高橋　う～ん……。実況アナウンサーもそうだけど、解説やってる人たちが終いにはホントに辛い気持ちになっちゃうんじゃないかと思うんだよねぇ。だって、エンターテインメントだっていうのを当然承知していながら、それでもスポーツとしての言い方をしなくちゃならないじゃないですか。



猪木さんには騙されたこともあるけど、逆にそ　の

――『紙プロ』で辻アナにインタビューした時も、ホントにその辺の心情はかなり話してくれましたね。たとえば「新日本は、バーリ・トゥードのような試合はやらないで欲しい。そういうのはＰＲＩＤＥでやるべきだ」とか「藤波さんがビンスみたいな存在になってもいい」とか言われてましたね。

高橋　辻さんがそう言ってるの？　う～ん。……そう、その通りなんだよね。

――だから、辻さんが実況で、高橋さんが解説になったら相当面白いことになるかもしれませんね。「なんだ、しょっぱいなあ！」「確かにしょっぱい試合であります！」みたいな（笑）。

高橋　いやいや、僕なんかとんでもないですよ（笑）。僕は、辻さんと浅草キッドさんが実況・解説とかやったら、かなりプロレス界は盛り上がると思うんですけどね。でも、相撲でも北の富士さんの解説を聞いてると、稽古してない相撲取りのことはモロに言うもんね。でも、プロレスだと、稽古してない選手でもなんとなくかばった言い方するでしょ。身体見たら明らかに練習やってないのがわかるのに、「いぶし銀」だとか「超ベテランの味」とかなんとかさ。

――ありがちなフォローですね（笑）。

高橋　「ちょっと待て！」って言いたくなるんだよ！

――最近の藤波さんも、スポーツ的な視点ではフォローしずらいでしょうし（笑）。

高橋　試合内容、藤波さん、変わりましたか？

――パンツは替わりましたね、とりあえず赤いパンツに（笑）。

高橋　あ、そう（笑）。だからね、身体がしょっぱくなったって、なにしたって、いわゆる、エンターテインメントだって言うんであれば、その辺のところは、いくらでも考慮できるんですよ。50になっても60になっても、あるいは70になってやったっておかしくないんですよ。きちんと「お互いを助け合ってやってるんだ」と言えばですよ。舞台でも映画でも、俳優さんならそういう役割があるし、なくてはならないじゃないですか。

――笠智衆みたいな役割ですよね（笑）。

高橋　それで納得して見れると思うんですよ。でも、「これは真剣勝負だ！」って言ってるのに、なんで50歳が20代に勝てるの？　ムリでしょ、どう頑張ったって。

――"キング・オブ・スポーツ"の看板とは合わなくなってくるわけですからね。

高橋　なのに、その辺のところをかばってやるような解説したんじゃ、ファンも白けちゃうと思うんですよ。お互いのキズ舐め合ってるみたいにしかとれないから。だって昔はプロレスを見てパワーをもらった、活力になったって感じるファンって大勢いたわけじゃないですか。それもいわゆる、そう思わせるようなストーリーを創ってったからそういう風に思ってくれてるわけでしょ。もう、いまの時代はそれを堂々と誇るべきもんだと思うね。

――『ビヨンド・ザ・マット』にしても、ミック・フォーリーが血塗れになってダイブしてくれれば、それは筋書きがあろうがどうしようが「凄ぇよ!!」ってなりますからね。

高橋　凄いよ！　あれは本当に凄いよ！　「ファンを楽しませる為にここまでやるか！」っていう部分ってあるでしょ？　それをファンにも「自分達に楽しませる為にレスラーはここまでやってくれてたのか」って感じてもらいたいですよね。その辺が、一番言いたいところかもしれないね。

――それで最後に聞いておきたいんですけど、この本のタイトルは高橋さんが考えられたんですか？

高橋　あぁ、違う。全くそこには口出しできないんですよ。僕は『プロレスはエンターテインメントだからこそ面白い！』にしてくれって言ったんだけど、「それじゃ弱い！」って（笑）。

――もっとインパクトを出さなきゃいけなかったわけですね（笑）。

高橋　それで、出来たの見たら僕自身が驚いちゃってるんだけど。「もう少し、なんとかしてよ」って言う間に、もう刷り上がっちゃったんで（笑）。

――ちなみにこの本は、高橋さんから話を持ちかけられたんですか？

高橋　いえ、向こうです。前回の『至近距離の真実』ってあるじゃないですか？　あれは、自分からしても消化不良なんですよ。ただ、『至近距離の真実』の時には、「あそこまでだ」と思ってたけど、やっぱり、これも時代の変化だと思いますよ。僕の中でも変化が起きてるのと同じように（笑）。

――それで、ここまで書けるようになった、と。じゃあ、まだまだ書いてない部分もあるわけですか？

高橋　それはもう、山ほど（笑）。

――じゃあ、また時代が移ればさらに出る可能性もあるんですね（笑）。

高橋　いまのところは全く考えてないけど、機会があれば、さっき言ったようなプロレスから勇気とかパワーをもらったっていう人の声を集めた本なんか出してみたいよね。やっぱり、そういう声が多いのもプロレスがエンターテインメントだからこそって部分があると思ってるからね。

――それも楽しみに待ってます（笑）。

【某月某日／都内某所にて収録】

緊急巻頭インタビュー

ターザン山本『ミスター高橋本』に

噛みつく!!



さまざまな波紋を呼んでいる通称"ミスター高橋本"。ご多分にもれず、あの男のバーニング・スピリットにも点火してしまった。そう、世紀の問題図書『ケーフェイ』のプロデューサー・ターザン山本である！　この本を読んだターザンは自身のホームページ『マイナーパワー』で、「俺がプロレスを守りますよ」と早くも声高らかに宣言！　では、ここまでのエゲつない内容からいかにしてプロレスを守ろうというのだろうか？

聞き手／山口日昇　撮影／堀江ガンツ　構成／寺島耳男

designed by matsu (Two Three)

――山本さん、高橋さんの本は読んでるんですよね？

山本　パラパラッと見たねぇ。

――ガハハハハ！　それだけですか。

山本　目次見たらわかるじゃない？　目次の中に全部答えがありますよ。これはプロレスファンなら1回読めば気が済むんじゃないの？　みんな、ある程度わかってたことだもん。

――じゃあ『ケーフェイ』をプロデュースした山本さんから見て、今回のミスター高橋の本を見た感想をまず聞かせて下さい。この2冊は昭和と平成の大衝撃本ですからね。

山本　俺たちは外側にいて書いたわけじゃない。要するに、なにかをバラすにしたってさ、内側にいた人間じゃないからねぇ。

――プロレス団体にいた人間じゃないってことですね。

山本　そうそう。ファンの視線に立って出したわけですよ。現場にいたわけじゃない。

――じゃあ、まずそこが一つのポイントってことですね。

山本　そういうことを言われると高橋さんの方がさ、暴露本としては有無を言わせない現実が提示されてるんですよ。高橋さんが言ったら、反論しようがないんじゃないの？

――高橋さん自身は「暴露本じゃない」と言ってますけどね。だから、インターネットやってる擦れた連中も、今回フォローに回ってるんですよ。「あんなことを書くのは大人げない」とか、「あんなことまで言う必要はない」って。そういう現象についてはどう思いますか？　「プロレスを守ろう」って意識からですかね？

山本　いや、「プロレスを守ろう」って意識じゃないよ。プロレスファンが持ってる一つのバランス感覚だよね。要するに、自分たちの中で、噂話とか暴露話みたいなのをするのは認めるけども、ホントの答えを持ってるヤツが言うと反発するという。

――「ホントの答えを提示するな！　ヤボだ！」と（笑）。

山本　そうそうそう。そうすると結局、ヤオガチ論争が無駄になっちゃうじゃない。だから、遊べる空間をシュートされてしまったわけ。それに対する反発じゃないの？　もう全然遊べないんですよぉぉぉぉ！　だからいままでネットなんかで、グチャグチャ、ああだこうだ、ワイワイガヤガヤとヤオガチ論争言った連中が遊べる空間がこの1冊の本でなくなってしまった。そのことに対して怒ってるんですよぉぉぉぉぉ！

情報公開したほうがいいって？　何それ？　公開しなくていいじゃん。一体何を公開するの？

――「俺たちの遊び場を奪うな！」と。

山本　『噂の真相』的な遊びの空間をミスター高橋がブチ壊してしまったんだよね。それに対する恨みなんじゃないの？

――山本さんはそもそも『ケーフェイ』でなにをシュートしようとしたんでしたっけ？

山本　……なんだったんだろうねぇ？（遠い目）。

――ガハハハハ！　始まった（笑）。もう忘れた？

山本　当たり前ですよぉぉぉぉ！　そんな昔のことは忘れたよぉぉぉぉ！

――ガハハハハ！　『ケーフェイ』のときにはUWFや修斗っていう、その後、運動体になり得る動きがあったじゃないですか。いま、高橋さんがこの本を出すことによって、なにが動くんですかね？

山本　『ケーフェイ』を出したことによる一番の凄い出来事は、なにかってわかってる？

――わかりませんよ。聞かせて下さい。

山本　『ケーフェイ』というのが凄かったのは、旧UWFの人たちが一番反発したんだよ、この本に対して。つまり、実はプロレスだったんですよ。要するに全日本とか、新日本とかの既成の団体の人たちが『ケーフェイ』に対して怒るのはわかるんだけど、当時、一番前衛的と言われていたそのUWFのレスラーの人たちが「佐山は悪者、ターザン悪者」って言ったんだもん。

――革命を起こそうとしてた人たちが一番怒った、と。

山本　実は、旧UWFの人たちも根っこの部分では心理的には全日本、新日本と同じだったということですよ。佐山だけ革命的で、ここに展開されている理論をやりたかったということなんですッ！

――なるほど。その佐山に山本さんが両手を上げて乗ったというのはなんだったんですか？

山本　……なんだろうねぇ？（遠い目）。

――ガハハハハ！　遠い目（笑）。

山本　だから、一番理想的なのは、「勝手に判断して下さいね」と。要するに守るべきものは守るしという。「ケーフェイという言葉そのものが僕に伝わった時点でもうダメだよ」という意味での完全犯罪に対する警鐘というか、それが言いたかったわけですよ、本来は。でも、佐山さんは違うんだよね。そういうプロレスが持っている自己矛盾とか、不条理とか、辻褄の合わないことはやりたくない、と。僕と佐山さんの意図はまるっきり違ってたわけですよ。

――ベクトルが違ってたわけですね。

山本　ベクトルが違ってたけども、これを出すことに関しては「やろう」ってことになったの。

――目的が一致したと。

山本　でも、佐山さんはいつも「あれはターザン山本がやったんですよ」と語るわけですよ。

――言いますよね。で、山本さんは山本さんで「俺は書いてないよ」って言いますしね（笑）。

山本　だって俺が書いたんじゃないもん。喋っただけだもん（かわいらしく）。

――ガハハハハ！　喋っただけ（笑）。

山本　俺が喋った80パーセントが書かれてるわけよ。

――じゃあ佐山が喋ったわけじゃないんですね、これは。

山本　佐山さんと一緒に喋ったわけ。

――一緒に喋ったんですか（笑）。

山本　俺と佐山さんがそこにいて、佐山さんって「どうぞ、どうぞ！　よろしくおねがいしまぁ～す！」って感じで言う人でしょ？　それをテープに録って他の人がまとめたわけですよ。でも、佐山さんは完全なる格闘技の方に行きたかったから、これを出さなくてもいいわけですよ。パッとシューティングに行けばいいわけですよ。この本を出してプロレス界にどうこう言うとか、プロレス界に遺書を残すとか、警鐘を鳴らすとか、そういうことを必要としてる人じゃないわけですよ。でも、僕はプロレスが好きだから、当時あったプロレスのだらしない部分とか、そういったものを構造改革したいと思ってたので、これで一発かましてやろうっていうんで、僕が佐山さんを利

用した形になってるわけですよ。僕はあくまでもプロレス側に立って、プロレスというものを完全犯罪にするために、非常ベルを鳴らしたかっただけ。ある程度毒をぶつけたわけです。

——その当時にしたら、とんでもない毒ですよね。

山本 僕にとっては大したことないよ（キッパリ）。

——aの当時でも？

山本 うん。あの時点で「出すべきだ」と言ったときに、賛同者がいたわけ。この本を作った人、出版した人、書いた人がいたわけだから。

——買った人もそうですよね、ある意味。でも今回の高橋さんの本だって、ボクらからしてみれば「大したことないよ」って部分もあるじゃないですか。でも当時の『ケーフェイ』を読んだ読者も、いま高橋さんの本を読んだ読者も、衝撃は衝撃ですよ。

山本 僕たちは外から見て「たぶんこうだろう」という想像の域の中で書いてるわけじゃない。ある程度理論武装して書いてるわけ。でも、ミスター高橋は現場にいた人でしょ？ こっちは「実はあのときは、こうだったんですよ」って書かれてるわけでしょ？ 衝撃が生々しい形なんだよ。全然知的レベルが違うよなぁぁぁ。クックックッ。

——山本さんの方が知的だと。

山本 「僕は現場にいてあのときこうだった」って言ってるけど、あの姿勢と態度は俺は取れないよ、自分自身に対して。それは守秘義務として守るよ。どんなジャンルにも守秘義務というのがあるから。それは明文化されてないわけよ。

——村松友視さん流に言うと「暗黙の了解」ですよね。

山本 いや、それ以上に価値のあるものです、守秘義務は。その世界に身を置いたら、必ず否応なしに人々は他人から強制されることなく守らなければいけない義務というものを背負うわけ。

——つまり掟ですね。でも今回の本をボクがザッと読んだ感想は、「なんでこんなにホントのことばっかり書くんだろう？」っていうことなんですよ（笑）。想像力をそがれるというか、ツッコむ隙もないし、笑えもしないですよね。そこが一番問題だと思うんですよ。

山本 いや、それはホントのことじゃなしに、たとえば格闘技戦がリハーサルやったとかなんとか言ってるでしょ？ 俺からしたら、それは一つの作戦なんだよね、その当時の。戦略としてやってきたことでしょ？ 表に出たことがホントだよぉぉぉ！

——そういうことですよね。「プロレスは立派なエンターテイメントだと胸を張って情報公開をしない限り、プロレスラーは永遠に悩み苦しむことになる」と言ってますね。

山本 なにそれ？ 別に情報公開しなくていいじゃん。

——あ、それは「非」なんですね。

山本 当たり前ですよぉぉ！ 情報公開って、どんな情報を公開すんの？

——「エンターテイメントだ」と公言するってことですね。WWFのように。

山本 公言する必要ないよぉぉぉ。じゃあエンターテイメントじゃないっていうのはどういうこと？ 僕も「ショーとして公言した方がいい」って、WWFを見て言ったことがあるよ。でも、ここで高橋さんが間違ってるのは、「ガチでないということでエンターテイメントと言いなさい」ってことでしょ？ それは大間違いだよ！

——大間違い？

山本 （急にスクッと立ち上がり）そうですよぉぉ！ ガチかホントかわかんないというのが、真のエンターテイメントですよぉぉぉ！ （机をバンバン叩きながら炎上）。だから公開する必要はないんですよ。もしかしたらガチではないかもわかんないという形で、人々をダイナミックに楽しませるのが真のエンターテイメントですよ。あえて「ガチではありません」とか言うことがおかしい！ ガチとエンターテイメントは一心同体だもん。背中合わせで裏側に存在するものなんだよぉぉぉ！ （机をバンバン叩きながら炎上）。

——そうか、じゃあ高橋さんが本の中で言いたかったのは「全部ガチじゃないと言え！」ということなんですね。

山本 そうそう。「カッコつきの、『（ガチじゃないよ）エンターテイメント』と言いなさい」と言ってるわけでしょ。それはダサいことだよ！ もうダサいを通り越してますよ、そんなもん！ 別にそんなこと言う必要ないじゃない。単に「エンターテイメントだ！」と言えばいいんだよ。それでいいじゃない。

——WWFのエンターテイメント宣言っていうのは、山本さんにしてみればどういうことなんですか？

山本 WWFの場合は、裁判まで行ってしまったので、「プロレスはスポーツじゃありません、ショーです」とハッキリ言ったわけじゃん。要するに「ウチはリングのあるディズニーランドですよ」と言ったんですよ。

——そうですね、「遊園地ですよ」と言ったわけですよね。

山本 だからそれは、割り切った人間は強いよね。

——だから高橋さんも「日本のプロレス界もそういうふうに割り切った方がいいんじゃないか？」っていう問題提起をしてるってことなんでしょうね。

山本 でも、プロレスというのは疑いの目で見るのが面白いんだよ！ 「もしかしたらこれホントかな？」という様々な想像の中で、答えがわかんないわけでしょ？ そういう形で疑いながら見て楽しむというのが、Jリーグとかプロ野球にない楽しみ方なのよ。疑いの目で見て楽しむっていうジャンルは世界中でプロレスしかないの！ 疑いの目で見るってことは、我々を心理的に興奮させるというか、色気と関わってるわけですよ。色気を与えるわけですよぉぉぉぉ！ （机をバンバン叩きながら炎上）。

——艶ですね、プロレスは。

山本 だから、提供する方も、ガチでないみたいなことを装いながら、疑いの目で見



ている人たちを吸収するカードとか、イベントとか、興行とかを鋭く提供すればいいわけですよ！　それが一番理想的ですよ！
——それがなかなか提供し辛くなってるじゃないですか。
山本　それは頭がないから（キッパリ）。
——ガハハハハ！　あ、そういうことですか。
山本　そうですよぉぉぉ！　高等技術に長けてないというか。
——知的戦術に長けてないというか。
山本　知的ゼロですよぉぉぉ！
——知的ゼロ（笑）。でも状況としては、いまこういう本が出てきても当たり前の流れですよね。
山本　いまは『ＰＲＩＤＥ』的なものと、ＷＷＦ的なものにサンドイッチされてるんだよなぁ。挟みうち喰らって。それでどうやっていいか方向性が見つからないから、中途半端な材料しか提供してない。日本のプロレスは最悪の状況ですよぉぉぉぉぉ！
——そういうことなら、「そろそろプロレスのケッフェイを叩き壊して、エンターテイメントとして再生するための大きな挑戦を始めるときだ」という、ミスター高橋さんがこの本を出したときの大義名分は正しいんですか。
山本　それは違うよ！　完全犯罪での新たなるケーフェイを作って、プロレスを立て直すべきだと考えないと。
——なるほど！　完全犯罪での新たなるケーフェイ！　それは面白いですよ！
山本　それが想像力だよ！　それが要するにファンの想像力との勝負になるでしょ？　だから、新たなるケーフェイを作り出せないからダメなわけ。
——それは新しい発見だ！
山本　新たなるケーフェイを作り出すことが、新しいプロレスを次々とやっていく根拠ですよ。いままでのケーフェイは実に古臭い。古ぼけた、カビが生えた、ボロボロのものであるということですよぉぉぉぉ！（机をバンバン叩きながら炎上）。障子が破けたような、そういう世界だっていうことですよ。しかも、破れてることすら気づいてない！　もっと知的に構築された、頑丈なケーフェイを作るべきなんですッッッッ！　そのためにプロレスは、新たな哲学を生み出さないとダメだな。
——芸事でもエンターテイメントでも、なんでもそうなんでしょうけど、いまのプロレスにはそういう部分での緊張感もというのが、実に少ないですよね。芸事を突き詰めるとか、エンターテイメントを突き詰めるとか。
山本　突き詰めるというか、考え抜くというか。作戦と戦略ということを練りに練るとか。そういうのが一切抜け落ちてる！
——ガチンコでもの凄く強くなるということも新たなケーフェイになりえるもんなぁ。
山本　プロレスファンは疑って見に来てるんだから、さらに強固なケーフェイが求められてるんだよ。ファンのレベルと提供する団体側がどのレベルにあるかっていったら、明らかにいまはファンの方が上じゃない。ファンの方が上にあること自体がよくないってことでしょ？　もはやケーフェイが機能してないんだよ。
——あの映画『ビヨンド・ザ・マット』の最後のシーンで、マンカインドが子どもを連れてビンスの前に行くと、ビンスが頭の傷を針で縫われながら「今日ロックが破ったことをお前の本に書け！」って言うんですよね。あれはある意味〝命懸けのエンターテイメント〟ですよね。完全犯罪じゃないですか。その迫力がいまのプロレス界にないってだけなんですよね。ガチンコなのか、八百長なのかってレベルじゃなくて。

完全犯罪での新たなるケーフェイを作って、プロレスを立て直すべき!!



映画、単行本、インターネット等々あらゆるメディア上でプロレスが裸にされている最中の爆弾投下。それが高橋本である。

山本　ホントはあらゆるものを動員して、知力と死力を尽くしてやらなきゃいけないんだよね。
——たとえば山本さんが考えたとしたら、いまの中途半端な現状は打破できるということですか？
山本　僕だったらできますよ！（自信満々に）。
——ほう。一体どういうふうに打破するんですか？
山本　……何するんだろうなぁ？（遠い目）。
——ガハハハハ！　まぁ、いまこの場で考えろっていうのも無理がありますけどね（笑）。
山本　全てを心地よく騙せるものを俺はやるよ。それは要するに、ファンも関係者もマスコミも全部。それぐらいにシビアなものに挑戦するよ、俺は。
——キーワードは「シビアさ」ですね。
山本　うん。騙すということ。騙し合いというか。
——でも疑いの目で見るということは、プロレスを見るっていうことの知的レベルを上げてきましたよね。
山本　村松さんだってそうじゃない。あんなに疑ってる人いないよ。疑っているというレベルが高いから、最高のものにしか興味持たないんだよ。それがアントニオ猪木だったんですよ。あんなにプロレスを疑ってるというのに、疑ってることを微塵も出さずに「最高のものはこれですよ」という形であの人はプロレス論を展開してたんですよ。だから面白かったわけです。あれは一種のカラクリですよ。村松さんはカラクリの名人ですよ。
——でも、状況的にはこの本が出て、どういう影響が出ると思いますか？　全く影響なしですか？
山本　メチャクチャ影響ありますよ。
——どこに一番影響ありますか？
山本　それはある人が言ってたけども、グレーゾーンにいる人たちですよ。俺たちみたいに擦れ切った、免疫のある連中は、そういう人たちは逆に楽しめるわけですよ。この本でさえプロレスできるわけですよ。でもさ、免疫のない人たちで、「プロレスは八百長じゃないだろうな？　どうかな？」って思ってる人がいっぱいいるわけよ。その人たちはやっぱり去って行くだろうな。「あ、やっぱりそうだったんだ」って。

——じゃあ一番ダメージ受けるのは、やっぱり新日本ですかね？
山本　それもわかんないんだよね。新日本のファンはこんなこと書いてること自体に対しても反応しないんじゃないかと思う。俺、この本を読む人たちは、全部マニアのファンだと思うよ。昭和のプロレスファンとかそういう人たち。たとえば昔「マシン1号は誰だった」とか、そういうことばっかり話してる人たちが読むと思うよ。そういう意味では、全然影響力ない本じゃないかと思ってる。
——どっちなんだ（笑）。さっきはメチャメチャあるって言ったじゃないですか（笑）。
山本　買うのは全部プロレスファンですよ。これを買った人たちは、プロレスを見なくなるということはないよ。それでも見に行くよ。
——ましてや闘龍門だとか、WWFのファンは全く関係ないですよね。「いまさらなにを言ってんだ」って世界ですよね。
山本　案外、「ミスター高橋はダセエな」って思ってるかもわかんない。それなのに『週プロ』とか『ゴング』が黙殺というスタイルを取ること自体が、もの凄い古臭い戦略だよ。バカバカしいというかね。俺だったら、これ表紙にしてるよ。「高橋の本が出た！」とかさ。
——そのコピーじゃ売れませんよ（笑）。山本さんが『週プロ』の編集長だった時代でもやってました？
山本　やってた。
——そのとき選手からはどういう反応があると思います？
山本　そりゃ、レスラーとか関係者からは総スカン食うよ、俺は。
——ガハハハハ！　物騒だなぁ、いつ何時でも（笑）。

噛みつく!!

山本　そりゃ総スカンだよぉぉぉぉぉ！
——総スカン食らうのにやりますか。
山本　（即座に）やるよ！
——ガハハハハ！　その原動力はなんなんですか？　ビジネスですか？
山本　それはやっぱり……面白いからだよ。
——ガハハハハ！　「面白いから」っていうのは一番なんでしょうけどね、その中で出てくるいろんな団体や関係者との軋轢っていうのがあるじゃないですか。山本さんがその軋轢に負けないっていう自信はどこから出てくるんですか？　プロレスファンを信頼してるんですか？　「きっとファンが後押ししてくれるだろう」とか。
山本　そんなもん、してくれるわけないよ！
——ガハハハハ！　そりゃそうだ。
山本　誰がしてくれんだよ！　天地がひっくり返ってもしてくれないよ！
——なるほど（笑）。
山本　……ヒロイズムですよ。
——ヒロイズム（笑）。ダーティーヒロイズムですね。
山本　ダーティーじゃないよ！　俺の中では正統なヒロイズムだよ！
——そうかなぁ（笑）。ピュアなんですか？
山本　そうそうそう。編集者だったらやるでしょ？
——そりゃやりますよね。でも、いまのこの時代にですよ、『週プロ』や『ゴング』が黙殺するっていうのは、業界の体質が古臭いってことですよね？
山本　「何年プロレスやってんのか」って言いたいよ。八百長シンドロームにまだかかってんのかって。
——高橋さんも言ってますね、「『真剣勝負だ』と装うから『八百長だ』と言われるんであって、『ショーだ』と公言すれば、そういうショーなんだから『八百長』と言われることはない」って。
山本　その考え方は正しいよ。でも、俺が言ってるのは、高橋さんが「あのときはこうだった」って言ったとしても、俺は自分の記憶を修正することはないからね。新宿の路上のシンとの乱闘事件は、実はシナリオがあるとか言っても、俺はそのとき興奮して楽しんでたからねぇ（しみじみ）。「凄ぇことやるなぁ」と思ったんだもん。それを自分が体験した記憶を、いま「あれは芝居だった」って言われても、俺の記憶は変わんない。高橋さんが何を言ったって、俺は記憶を修正することはないんだよ。で、記憶を修正することは、要するにキリシタンが踏み絵を踏むように、プロレスファンを改宗するようなもんだな。俺は絶対面白かったんだから。それさえも高橋さんは修正しようとしてるわけよ。それはできない！
——そうか、記憶を修正しないって意思が、ファンに「お前が言うな」って言わせるんですね。
山本　そうそう。俺は記憶を修正することは永遠にないよ。
——それは重要ですね。
山本　記憶を修正させようとしてるんでしょ？　「騙されたんだよ」と。俺は騙されてない、興奮したんだから。全然騙されてないんですよ。そのとき興奮したんだからいいじゃない。
——いまこの時代の中で興奮できる新たなるケーフェイを作り出せということですね。
山本　そういうことですよ！　要するに、いま俺たちが興奮できるかどうかなんだよね、プロレスというのは。興奮できるものを作り出してない、編み出してない、生み出してない、考え出してない。そういうことでしょ？　それじゃダメだと言ってるだけよ、俺は。
——それにしても、この本は、UWFから総合格闘技が生まれたように、手順を踏んでようやくここまで辿りついたという見



方をするべきなのか、それとも時代の流れの中で一気にこういうマグマみたいな形で出てきたのか、どっちなんでしょうね?

山本 これは個人的に高橋さんがやったんでしょ? 突発的に。なんかのやむにやまれぬ事情で。なんらかの個人的な恨みでしょ。

――高橋さんは恨みは全くないと言ってましたけどね。でも、もし恨みなんだとしたら、どこに根っこがあるんだろう?

山本 猪木さんとか。そういうのじゃないのかなぁ?

――たしかに猪木さんのことと藤波さんのことはよく書いてないですよね。でも前田日明がこの本について「個人的な恨みでやるんだったら賛成しかねる。ただ、プロレスがエンターテイメントと公言することによって、なにかが動き出すという目的意識を持ってやったんだったら、両手を上げて俺は賛成する」というような言い方をしてるんですよ。それはどう思いますか?

山本 僕は個人的な恨みでやってる方だと思う。

――前田日明と逆ですか。

山本 うん。恨みはやっぱり晴らさなきゃいけないから!!(キッパリ)。

――ガハハハハ!

山本 恨みはやっぱり、絶対にどっかで一手出すよ。だから、恨みを持たれないように先手を打たなきゃいけないんだよね。恨みを持ったヤツを野に放すのは一番いけないことですよ、そんなもん! 俺はいいのよ、恨みは持つけども全てを笑って済ませるからね(かわいらしく)。

――それはどうかなぁ(笑)。

山本 俺は全てをギャグにするよ!

――そうするようになったのは最近だと思うんだけどなぁ(笑)。

山本 でも、俺の恨みは明るいでしょ。全部言っちゃうから。

――まぁ、ポジティブですよね。

山本 うん、公言しちゃうでしょ?

――ジメッとはしてないですよね。

山本 全部先に言っちゃうから。

――だから「タチ悪い」って言われるんですよ(笑)。

山本 タチ悪くないよ! 先に公言してるんだから!

――世間一般の人が見たらタチ悪いと思いますよ。

山本 いや、タチいいですよ!



自らがプロデュースした「ケーフェイ」を自画自賛。これも真の格闘技を啓蒙するために"プロレスの真実"を書いた本だった。

――ガハハ。タチいいですか。

山本 言わないでジーッと恨みを持ってたら怖いよ、それ。俺は表明してるんだから、「あ、こいつ恨み持ってるな」と思ったら、それで安心するじゃない。別にそれ以上のことはしないんだから。言ってしまったら、もう解決したようなもんじゃない。

――山本さんは、とにかく言えば恨みは忘れるわけですね。

山本 言葉に出してしまえば、もう恨みは消費されてるんだよね、それは。だから俺は思い切って初めから言うわけよ。

生き馬の目を抜くとか、死に馬を蹴るとか そういう迫力がこの本からは感じられない!!

――これ、サブタイトルが『全てのプロレスはショーである』ってなってるけど、『全ての表現は恨みである』ってことですね(笑)。

山本 そうそう! 「私はこんだけ恨んでましたよ」と。

――ガハハハハ! 『流血の魔術~最強の恨み』(笑)。そっちの方が山本さん的にはスッキリするわけですね。そう言えば、このタイトルにも噛みついてましたよね。

山本 噛みついたよ。やっぱり、もっと具体的にした方がいいと思うよね。『アントニオ猪木の嘘と真実』とか。やるんだったら、そのぐらいしないとダメだよね。やっぱり色も『ケーフェイ』のときみたいにさ、バックを黒にしないと。

――そういう問題(笑)。『ケーフェイ』は見るからにヤバそうな本ですからね。

山本 それ、計画的にやってるんだもん。で、ケーフェイという言葉も初めて聞いた言葉でしょ? 耳慣れない言葉でしょ? 言葉に文語的なパワーがあるじゃない。完壁に意図的に作ってるからね。視覚的なイメージと言葉の持ってる……。

――想像力も刺激しますしね。

山本 そうそう。そういう形でね、デザイン的にこれ最高だもん。で、バック黒でしょ?

――これ、『流血の魔術』っていのはいらないと思うんですけどね。『最強の演技』だけでいいと思いますけどね。『全てのプロレスはショーである』だけとかね。『流血の魔術』っていうのがピンと来ないなぁ。編集者にはブレイドの表記が一番衝撃的だったんですかね?

山本 じゃあカミソリで切ってるシーンを表紙にするよ! グサッと切ってて、「これが流血の正体だ」みたいな絵を作るよ。それか、「これはマット界のテロだ」というんで、テロという言葉を入れるよ、俺は。

――最近テロづいてますからね、山本さん。

山本 うん(かわいらしく)。

――他に山本さんから見て、衝撃的なことはなかったですか? 「これはマズいだろう」っていうようなところ。

山本 そりゃあ「ターザン山本さんが……」っていう部分ですよぉ(笑)。

――そうですよね。「ターザン山本さんに、地方巡業で手を抜くと書かれたのは、ある意味正しい」って(笑)。

山本 いま頃それ書かれちゃ困るんだよね。そのときに言って欲しいわけよ。

――高橋さんは、そのときに「痛いところを突かれたな」と思ったらしいですよ。

山本 「ターザン山本さん」って、「さん」を俺に付けてるでしょ? あれもちょっと気になってたんだよね。

――『全ての元凶は山本である』って副題を長州だったら付けますね(笑)。だって山本さんはこの本の生みの親とも言えますからね。

山本 (急に真顔になり)いや、高橋さんが出したんだから、高橋さんが自分で責任取らないとね。

――誰も山本さんに「責任取れ」なんて言わないですよ。

山本　いやいや、だから俺に「さん」を付けなくていいよ。誤解されちゃうよ。

――ガハハハハ！　敬称の問題。誤解はするでしょうね。「やっぱり山本か」って前田日明とかが、いまごろ思ってると思いますけどね。

山本　誤解されちゃうよぉ……。でもこの時期に出したこと自体がちょっとテロ的な匂いがするんだよ。

――そこは時代性を感じますよね。

山本　だから、ものを暴露したり、バラすときはやっぱりさ、覚悟してワルになるしかないよ。

――悪者になるしかない。

山本　うん。徹底的なヒールになるしかないよ。

――そうですね。でも高橋さんはこれで決定的なヒールにはなってないですよね。

山本　ヒールになってないとこが寂しいなぁ。全てを敵にまわす、世界を敵にまわすぐらいの迫力があると、これは大問題になってたんだよな。それが、ある妥協点が見えてしまってるわけよ、この本には。

――佐山聡だって『ケーフェイ』出したときには大ヒールになりましたからね。

山本　なったよ。ただ、こういうことをバラしたよってことでしょ？　そこにもの凄い強い相手を叩きのめすさ、ダメを押すというかさ、それぐらいの精神が見えないんだよね。

――畳み掛けるっていうところは感じないですよね。

山本　そうそうそう。生き馬の目を抜くとかさ、死に馬を蹴るとかさ、そういうところの迫力が感じられないわけよ。そこが寂しいんだよ、俺は（しみじみ）。

――やるんだったら徹底的にやれ、と。

山本　世界の全てを敵にまわすぐらいの気持ちでやったら面白かったわけよ。

――そこまでやればファンも関係者も真剣に考えたかもしれないですよね。

山本　第一、日頃からプロレスのことを疑いの目で見てグチャグチャ適当にバラして喜んでる人たちが「ここまで言う必要ないよ」って言ってるわけでしょ？　それを言われたこと自体が高橋さんにとって敗北よ。これは大敗北だよぉぉぉぉ！（机をバンバン叩きながら炎上）。この本は敗北の書だよ！

――ガハハハハ！　ダメ押ししますねぇ（笑）。

山本　そいつらさえも怒らせることはなかったわけでしょ？　それにしても、高橋さんは善人ですよ。これ、第二弾ないもん。もしホントにタチ悪かったら、これ10巻ぐらいできるよ。

――山本さんだったら10巻に分けて出すと（笑）。

山本　売るんだったら。『新日本プロレス創立30周年を暴く』とかね……タチ悪いなぁ、俺。クックックックッ。

――ガハハハハ！　『新日本プロレス、創立30周年記念出版』（笑）。

山本　俺だったらホントに創立から全部細かくやるよ。30年間の新日本プロレスの歴史のビッグマッチを1試合ごとに全部やる！

――ガハハハハ！　タチ悪いなぁ（笑）。

山本　地方興行のタイトルマッチとか、全部年代を追って30巻ぐらいできるよ！

――そりゃ長州力が「誰か山本を殺してこい！」って言うわけですよ（笑）。

山本　いや、俺はやってるわけじゃないよ。

――そうでしょうけど、その思想が怖いんですよ、長州サイドからしてみると。



山本　いや、やるんだったら、そのぐらいやらなきゃ。これ一発で終わりですよ、続編ないもん。続編がないということは可愛いよ。「あ、この程度で収めてるんだな」っていう。だから、覚悟の仕方が中途半端だよね。これ、永遠にさ、昭和47年の旗揚げからやったらどうなる？

――書いてることが同じになりますよ（笑）。

山本　そこまで悪意に満ちてないでしょ？

――悪意は見えないですね。『ケーフェイ』の方がよっぽど悪意に満ちてますよね（笑）。

山本　そこまでやるなっていうような形の

俺だったら10巻ぐらい出しますよぉおおお！『新日本プロレス創立30周年を暴く』って題名で

緊張感を持ってやらないといけないわけよ。これこそ不完全だよ！「高橋さん、そこまで書く必要ない」なんて言われたら、それはナメられ切ってるよ。そいつらの頭をカチ割るぐらいの衝撃的な、史上最大の暴露本になってないわけよ。

——逆にファンから「お前が言うな」ってツッコまれてますからね。

山本　その言われ方もなぁ。高橋さんもナメられたよ。それ言わさせちゃいけないんだよ。高橋さんにそういうことを言うことによって、書かれた側、プロレスとか猪木さんとか新日本を弁護することにまわったわけでしょ？　それ自体敗北じゃない。

——帯には「敗北の書」と打つべきだ、と。

山本　「敗北と挫折の書」と書け！（キッパリ）。

——ガハハハハ！　ダメ押すなぁ。山本さんにはかなわないね、ダメの押し方が（笑）。

山本　それを言われたこと自体、腹立ったもん。高橋さんにみんながそういうこと言ったっていうのは、ナメられちゃってるもん。これ暴露本じゃねぇよ！

——どっちなんだ（笑）。最初に暴露本だって言いましたよ（笑）。高橋さんていうよりも、プロレスが同情されてるような状態になってるんですよね。そこに腹立つわけですよね？

山本　一番許せないのは、「そこまで言う必要ないんじゃないか」っていう解釈だよね。それをのさばらせてる。これは徹底してやった方がいいな（しみじみと）。

——やりますか（笑）。

山本　それだったら先手を打って、たとえばネットで言われてるヤオガチ論争なんかを「あんなもん甘い」とか言って徹底的に書くよ。田中正志が言ってることも、「全部甘い！」とかって全部書くべきだよ。そいつらにもケンカを売るぐらいじゃないと。

——全てを敵にまわす、と（笑）。

山本　要するにネットで知ったかぶり書いてること自体しゃらくさい！「なにもわかってない！　お前たち、騙されてんだから覚悟しろ！」っていう、そいつらに届くような本を作って、挑戦状を叩きつけるべきだよ。

——元気が一番！

山本　届いてないわけでしょ？　情けねぇよ！（吐き捨てるように）

——この本は、届く前に撃ち落とされちゃってるということですか？

山本　これでダメさ加減が出たな。

——ガハハハ！　ダメ押すなぁ、ホントに（笑）。じゃあタイトルは「全てのプロレスは呪いである」にしましょうか（笑）。

山本　同情されたらおしまいだよ。

——でも、ホントにプロレスがそういう存在になってるってことですよ。

山本　（無視して）徹底的に敵の喉元突いてないよ、俺に言わせたら。全然甘いよ！　甘い！　甘くてどうしようもねぇ！　だから読んでねぇよ！（キッパリ）。

——ガハハハハ！

山本　こんなもん読む必要ねぇんだよぉぉぉおお！（机をバンバン叩きながら炎上）。

——だからどっちなんですか（笑）。

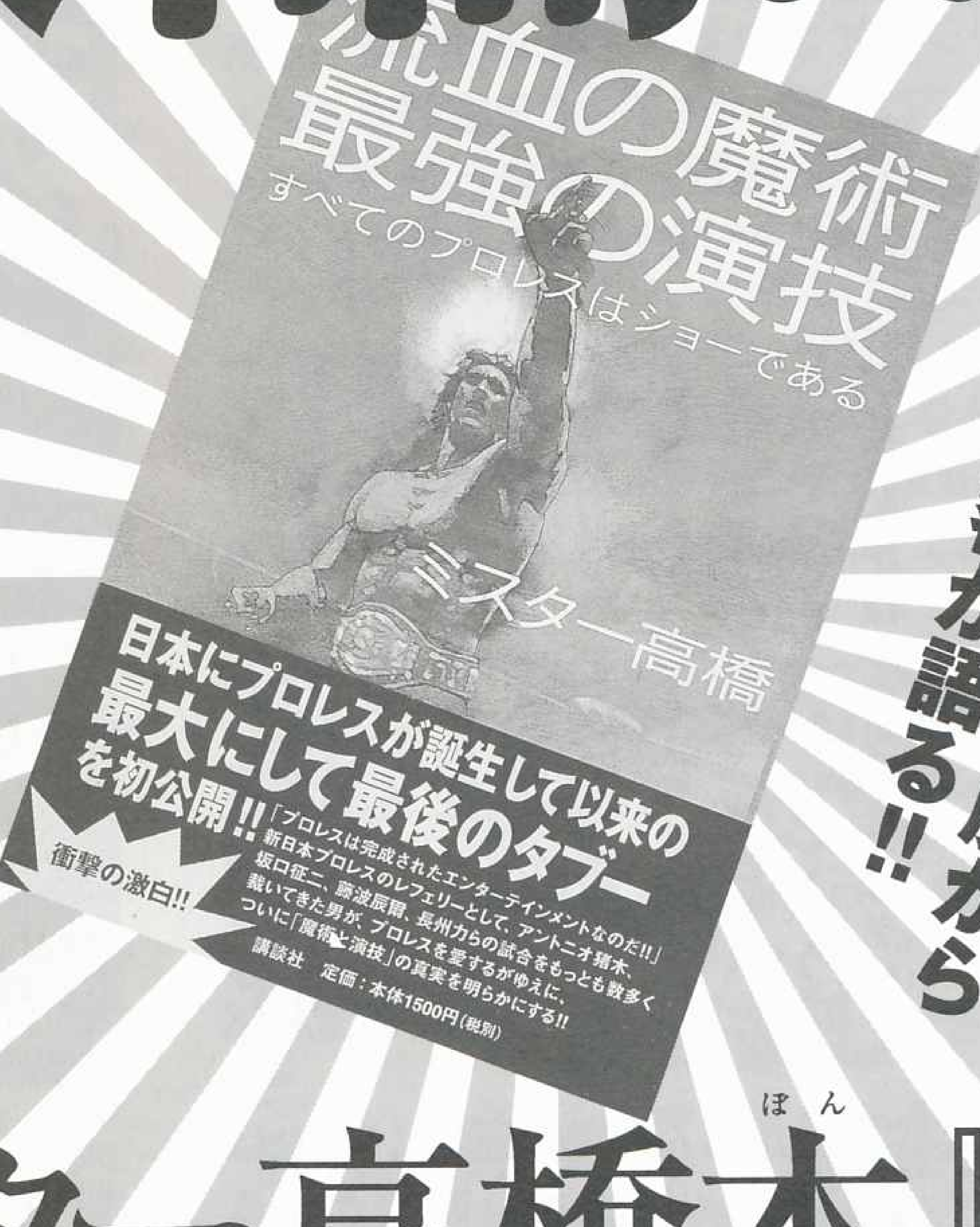
【01年12月12日、青山「季菜」にて収録】

構成／松澤チョロ
スモーノブ
designed by matsu (Two three)

激論!!

賛否両論あらゆる角度から
プロレスの論客が語る!!

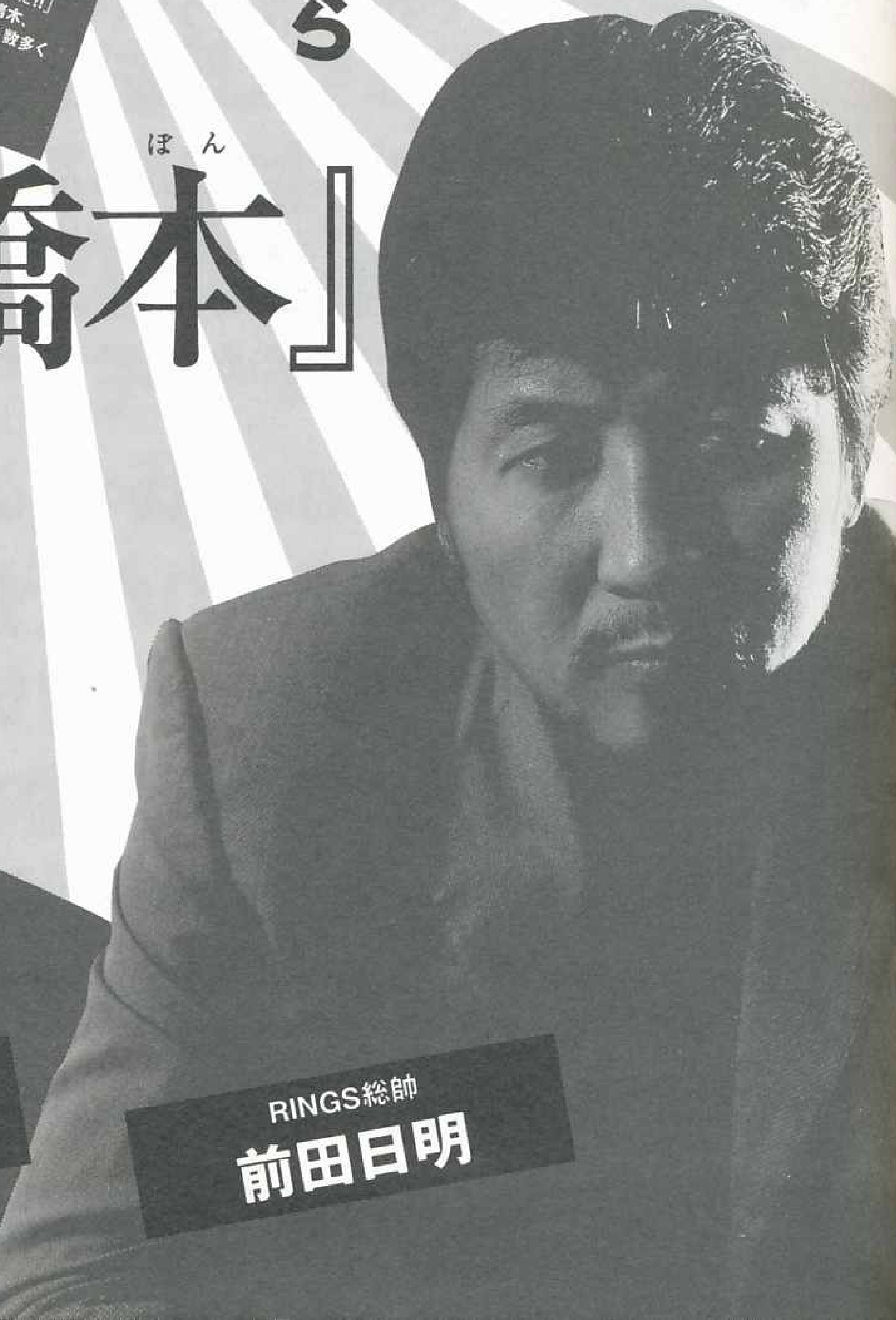
21世紀の『ケーフェイ』か!?
はたまた福音書か!?



『ミスター高橋本(ほん)』







元祖 ケーフェイ 著者?
佐山聡

クマと闘ったヒト でタブー連発
ミスター・ヒト

RINGS総帥
前田日明

激論　No.1

前田日明



ミスター高橋氏がレフェリー時代、新日本プロレスで活躍していた前田日明・現リングスCEO。海外滞在中はWWFもよく見ているという前田社長に「ミスター高橋本」、さらには「プロレスのエンターテインメント化」について直撃！　前田語録でピーター本を感じろ！　【12・4RINGSにて収録】

（プロレス界にとってダメージを与える本になるかと聞かれ）

「俺が言えるのは、プロレスっていうのは、そういう勝ち負けっていう部分が真実なわけじゃありませんていうことだよ。ただ、エンターテインメントプロレスっていう部分は事実なんだよね。だから日本は凄い中途半端なんだよ。日本のプロレス界はうまくそれをやっていかないと、一気にドボンするぞって危機感なんだよね。で、蝶野とか武藤とか、あのへんが凄くやりたがってるんだけど」

「アメリカのプロレスファンが試合を見ても、やっぱりWWFの選手は本当に強いんだろうなとかね、本当にヤンチャな乱暴者なんだなって雰囲気があると思うんだよ。そういう雰囲気を出してんの。日本人レスラーは、『あ、なんだこいつ、プロレスとしてやってんだな』っていうのが、なんかわかっちゃうじゃん」

「どんなもんでも現実というのは認めなきゃいけない時期があるわけ。認めるのも否定するのもあるから。それはハッキリしないと」

「猪木さんが前に……誰だっけ？　ジャニーズのタレントかなんか相手に、どう見ても普通の試合かわかんないようなこと、やっちゃうんだもん」

「プロレスっていう言葉はいつも分裂っていうのが付きまとうんだけど、でも猪木さんはそれで美味しい思いをいっぱいしたから、そういうことを言う勇気がないんだよ」

「アングルっていうのはストーリーとまた違うんだよね。なんか、ファンとかマスコミもアングルって言葉を使いたがるけど、全然違うんだよ」

「プロレスっていうのは不思議なジャンルでね、手を抜けば限りなく抜けるし、ちゃんとやれば限りなく危険だしっていう競技なんですよ、競技。で、どこまで現実も嘘もごまかすか、や。それは本当は命懸けでやらなきゃいけないの、命懸けで！　別人格で。だから、本来は素の人格ではできない部分を越えてやるのがプロレスだから」

「ファンとかが、簡単に八百長だなんだってね、ド素人が言うようなもんじゃないんだよ」

「たまにWWF見たりとかするんやけど、アメリカのレスラーなんか見てると、ホーガンが日本に来ていいものを吸収して、あれだけ試合をやって、あれだけ人気出て、そのホーガンを見習っていろんな選手がやってるのかわかんないけど、向こうの選手は演技とリアルの境界線をわかんないようにやるんだよね。それに、そういう空気があるのよ。そういう空気を敏感にプロモーターとかブッカーが察知して、それを大々的にやったヤツがビンス・マクマホン・ジュニア。まだ、日本でエンターテインメント云々て言うと外に散っちゃうの。表面だけ見てね、そのへんが業界の人間ていうのはハッキリ言って誰もわかってないよ。みんなわかってるように見えるんだけど、でも誰もできる人がいない、“灯台もと暗し”なんだよ」

「山本隆司なんか、あんな偉そうなこと言ってて、深夜番組で『プロレスは断じて八百長じゃない!』とか言っててアホかって。そんなこと誰でも言うの。じゃなくてアンタだったら言うことあるんじゃないのって。そんなこと言うから、いかにも八百長みたいに思われるんだよ。それに雑誌とか読んでも、いかにも八百長ですってわかるようなこと書いてるやん」

「しょうがないよ。しょうがないっていうか、そういう時期に来てるんだよ。言い出しっぺが、あんなんなっちゃって」

「高橋さんと新日本プロレスとの関係が悪くなったっていうタイミングで出たんなら残念だけど、そうじゃなくて、勇気を持って出したって言うんだったら手を叩きたいね」

激論 No.2

ミスター・ヒト

お好み焼き「ゆき」店長

『クマと闘ったヒト』（中島らも）でおなじみ

聞き手／スモーノブ

そういう本を出したらどうなるかわかってるはず

ああ、何か本を出したらしいねぇ。俺の店に来る客が、そんな話をしてましたよ。でも、俺自身はその本を読んでないから、何とも言えないんやけど。え？　内容を教えてくれるの？　それでコメントするのはいいけど。自分の範囲で言えることしかコメントできないよ。それでいいなら別にいいけどさぁ……プロレスの世界にいた人間が**個人的な恨みから書いたんならそりゃいいけれども、プロレスの世界をぶっ潰そうと思って書いたなら許せないことだね。**　それは絶対にやちゃいけないこと！

「勝敗が決まっているという前提でエンターテイメントとしてすばらしいものを作り上げていかないとダメだ」ということを言ってるの？　そんなの自分を守るための**カモフラージュ**ですよ。そういうことを書いたらプロレス全体がどうなるかはわかってるはずでしょ？　どんな内容を書いてるか知らないけど、**プロレスに夢を持ってるファン**を離れさせるようなことをしたらアカンよ。ホントに細かいことまで見てるマニアだけじゃないんやからね。すべてをひっくるめての**「ファン」**なんだから！　そういうことを書いたらプロレス界には戻れないでしょうなぁ。まあ、それだけの覚悟でやったことだろうとは思いますけど……まあ、具体的にどんなことが書いてあるのかわからんからアレやけどね。

俺の本は誰も傷つけてないじゃん？

俺は本を出したといっても、俺の後輩がプロレスをやっているから**プロレスを潰すようなことは書かない**よ。プロレスに楽しい思いをさせてもらったもん。そんなもん**書きたくもないわ！**

お客に夢を与えるようなことを書くのはいいかもしれないけど、お客を**ガク然**とさせちゃうのは良くないよ。本を**売るために、過激なことを書くのはアカン！**

え？　高橋さんは、『紙プロ』の俺のインタビューを呼んで「ここまで言っていいんなら……」って思ったと言ってたって？　でも、俺は別にプロレスを潰すようなことは言ってないじゃない！　あれでは誰も傷ついてないじゃない？　あれ

そういう場合はしょうがないんですよ。**馬場元子さん**のことはちょっと書いたけどさ、あれだって元はといえばあの人に**俺たちが傷つけられた**わけだから。**俺はもう長生きしない**から、ホントのことを言っておかなきゃいけないからね。そういうことでしょ？

だから、繰り返しになるけど、プロレスをやってる若いヤツのマイナスになるようなことは書いたらイカン！

えっ？　流血はかみそり使ってるって書いてるの……？　ワーク、セール、ジョブって隠語も全部出てる？

（しばし絶句）

いまは状況もよくない

う～ん……プロレスのことについて説明するときに、何て言ったらお客さんは納得してくれると思います？　たまにウチのお店にも失礼なヤツが来て、いろんなフザケた質問をぶつけてくるヤツがいるんだよ。**「プロレスは八百長なんですか？」**って聞いてくるヤツがいるの、ホントに。そういうヤツには言ってやるんですよ。

「まあ、俺はプロレスを辞めた人間だからいいけれども、そういう質問を現役の選手にぶつけたら**殴られるぞ。**　口のききかたは気をつけないとアカンで」って。

「耳の穴をほじってよく聞けよ。プロレスっていうのは受けてナンボなんだよ！　攻めるのも大事だけど、**いかに受けて相手を光らせるかどうか。それが出来るヤツが上に行くんだよ。**　歴代のチャンピオンを見てみなさい。みんな受けの上手い選手ばっかりですよ。でも、受けてるからって気に食わないことがあれば**ケンカ**になることもあるから、負けないように体をきたえておかなきゃいけないんだ」って。そうすると大体納得してくれるんですけどね。やはりプロレスは他のスポーツと違って受けることを前提としてますから、お客さんも「なんだ？　八百長か」と思いがちでしょう。

あとプロレスを取り巻く状況も良くないよ。『PRIDE』とか、いろいろ出てきてるから**お客さんの目も肥えてきてる**んやから。最近、猪木さんが新日本と『PRIDE』をくっつけようといろいろやってるみたいだけど、**ああいうのもアカン**よ！　全然別の競技なのに「プロレス＝格闘技」とか言って、同じもののように扱ったりするでしょ？　プロレスにはプロレスのファンが見に来てればいいんだから。ああいうことするから、**「何でプロレスは毎日やってるのに、『PRIDE』は2～3ヶ月に一回なんだ？」**って話になるじゃない。「なんやプロレスは全然ダメージを受けてないんか？」って突っ込まれちゃうでしょ？

まあ、俺が言えるとしたら、その辺は考えなきゃいけないよ。それぐらいのことだなぁ。

個人的な恨みから書いたならいいけど、プロレスの世界を潰そうとしてるなら許せない!!

【13年12月14日、電話取材にて収録】

激論 No.3

掣圏会館　館長

佐山聡

初代タイガーマスク＆『ケーフェイ』著者（？）

聞き手／スモーノブ

よろしくお願いしま〜す。え〜と、今日は何の話ですか？ ミスター高橋さんの本ですか？ 読んでないのでわからないですう。「プロレスがエンターテイメントとして打ち出すべきだ」と書いてるんですか？ へぇ〜。

だって、自分の本とは**イデオロギーがまるで違います**から。あれを暴露本だと言われたのはすごく心外だったんですよ。当時、格闘技は一切見ない人のために「ホントの格闘技とはこういうものなんだよ」というのを啓蒙するための本なんですよ。しかも、ボクは書いてませんからねっ！ 当時の僕のイデオロギーを本にしてくれた人がいただけで、僕が書いたわけじゃなくて。高橋さんがどういう意図で書かれたのかも、わからないですね。

え？ アメリカでWWFの手法が大ヒットしたから、それに倣うべきだといってるんですか？ う〜ん、何とも言えないですよねぇ。

それよりも我々が一番考えなきゃいけないのは、**戦後のGHQが「武士道国家の日本をダメにしてしまおう」ということで、戦前の行為に罪悪感を与えるような教育をしてきたことですよ。**その後は、共産勢力が引き継いでやっていくわけですけど。そこで日本に昔からあった伝統的な精神の強さというものが骨抜きにされてしまった。昭和26年のサンフランシスコ講和条約までは、マスコミも、政治家も、それに沿っていかなければ生きていけない時代だったんですよ。占領地政策の中で彼らがやってきた政策の中に**「3S」**……つまり**「SEX（性）、SCREEN（映画）、SPORTS（スポーツ）」を日本に定着させてしまえば、思想も何もなくなって従順になるだろうと。**その中でプロレスというものは格好の材料だったわけですよ。

つまり、戦後に持ち込まれた**娯楽というのは、そういう目的のものなんです。**だから、娯楽の世界は娯楽の世界で……**何でもいいんじゃないですか？**

また強い日本を育てるんだったら、また違うことをやっていかなきゃいけないと思います。え？ そうです、それが今、僕が取り組んでいることのひとつですね。

それ（プロレス）で芯の強い日本が育つのかといったら違うと思いますけど、**娯楽という意味でのプロレスはまだまだ育つ**んじゃないですかね。**何があろうとプロレスがなくなってしまうことはないですよ。ないです、ないです！ プロレスは「3S」のひとつですから！** 押忍ッ！（敬礼）

【01年12月14日、電話取材にて収録】

娯楽の世界は娯楽の世界で何でもいいんじゃないですか？ 何があろうとプロレスがなくなってしまうことはないです！

【総括】

リアル版“おそろしいほどプロレスのことがわかる本”こと『流血の魔術 最強の演技』（講談社）について、プロレス界の論客たちに、それぞれのスタンスで評価していただいた。……とはいっても、論客の方々に本を読んで頂いたわけではなく、あくまでも「情報公開の是非」についての質問に絞って聞かざるをえなかったわけだが。

その中でも興味深かったのは佐山が指摘した「3S」……つまり「SEX（性）」「SCREEN（映画）」「SPORTS（スポーツ）」。そう、これらのすべてのエキスがWWFにはふんだんに注入されているのである。「見れば見るほど頭が悪くなる」という形容は、あながち間違ってはいなかったようだ。そのWWFについて、この本の中で「今すぐ真似をしろ」とアジるほど感化されているミスター高橋も、著者プロフィールを読むと戦後のGHQの指導に基づいた教育の直撃世代であろう昭和16年の生まれ。何かが一本の線でつながった瞬間であった……と思ったものの、当の本人自身はさほどWWFに熱狂しているわけではない模様。ズコッ！

ミスター・ヒトの「プロレスを潰すようなことを言うべきではない」という言葉には、確かにうなずける。自分の恨みに関しては、自分で落とし前をつけるという姿勢も共感はしやすいだろう。逆に、前田のようにならわかるが、個人的な恨みのためならわかるが、個人的な恨みでやったのなら賛同しかねる」という姿勢も前田らしいと言えるだろう。それぞれが独自のプロレス・キャリアを積んできた男たちの意見だけに、それぞれ違いがあってどれも非常に興味深い。この本を語ることによって、そのプロレスラーの生き様やスタンスを浮き彫りにすることが出来たとは思う。

この本が今後どういう波紋を呼び起こすか、まったく予想もつかない。猪木祭りではプロレスvsK—1が行われ、アメリカからは3月にWWFがやってくる模様だ。この激動のマット界に、出るべくして出たという感じもしないではない。少なからず影響を及ぼすだろう。今後は、あらゆる人々に本の感想を聞いてみたいと思っている。なぜなら、この本は現在のマット界を支えるファン、関係者、プロレスラーに向けて書かれた本だからだ。

（文／スモーノブ）

「俺にも語らせろ!!」という方大募集

というわけで、本誌はありとあらゆる方々から、この本に関する意見を集めてみたいと思っている。読書感想文をガンガン送っていただければと思う。応募はP116〜117の読者ページの宛先を参照。なお、現役プロレスラーも難しいとは思いますが、語っていただければと思うので「我こそはっ!!」という方はよろしくお願いします！

「世界最大にして史上最強のプロレス団体」

（byミスター高橋）

こと

遂に日本上陸!?

詳しい情報はP81からのブチ抜き情報を読め!!

「今すぐ真似をして、新しい日本のプロレスをつくり出すための一歩を踏み出してほしい」と
ミスター高橋さんも絶賛を通り越して感化されてしまったWWF。あの本も、WWFがなければ誕生していなかっただろう。
そんなWWF、日本で見てみたくないですか？

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 AM11:00～PM7:00 年中無休

レッスルのフェアーで御座います。 ●開催期間12/15～1/15●

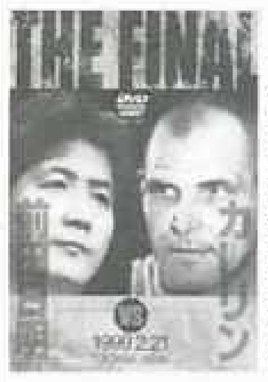
「レッスルフェアー列伝」

レッスルからのお知らせです！

12/31・1/1は臨時休業とさせて頂きます。
なお1/2～通常通りの営業となります。

2001年もレッスル各店をご利用頂き、ありがとうございました。2002年もよろしくお願い申し上げます！

THE FINAL 前田日明 vs カレリン DVD



●カラー50分 5,880円

12年間無敗。オリンピック3連覇。世界選手権9連覇。数々の輝かしい勲章に彩られ、人類最強の男と形容されるロシアの英雄。あまりの大物のため、招聘の可能性はゼロに等しいとまで言われたアレキサンダー・カレリンが、日本の格闘王前田日明と闘う。そのあまりにセンセーショナルなニュースは、瞬く間に世界中を駆けめぐった。最も恐るべき敵を引退試合の相手とした前田日明。格闘技界を揺るがしたファイナルマッチ。

前田日明DVDシリーズ

★前田日明　戦いの証　天の章＆地の章	各30,290円
★リングス創立10周年記念	10,500円

蘇る伝説の虎戦士 ザ・タイガー（復刻版） DVD



● 95分5,880円

このDVDはビデオ「さよなら　ザ・タイガー」「ザ・タイガー新格闘技のすべて」のDVD化したものです。ザ・タイガーとしての勇姿をみせた2日間、無限大記念日を収録。ザ・タイガー＆高田vs前田＆藤原の夢のタッグマッチが再びDVDで見られます。「ザ・タイガー新格闘技のすべて」ではザ・タイガーが空中殺法、当て身技、パンチ＆キックの基礎練習、組技を解説、若～い山崎一夫を従えて分かり易いです。

収録試合　ザ・タイガー＆高田vs前田＆藤原、山崎vsファンタスマ、ザ・タイガーvsマッハ隼人

発売中

★DVD「スーパータイガー」	2枚組311分10,500円
★DVD「タイガーマスク」	6枚組796分31,500円

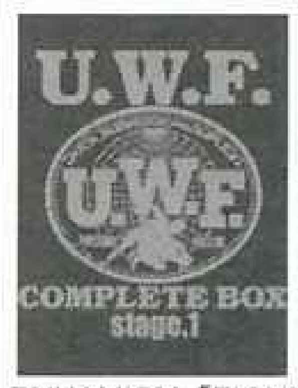
U.W.F.COMPLETE BOX DVD

Stage.1 ●5枚組 カラー944分　税込￥21,000

プロレス界に燦然と輝く金字塔 伝説のU.W.F.が完全版BOXで甦る

全10大会42試合をDVD5枚に完全ノーカット収録！

特典 当時関係者が使用していたバックステージパスを復刻し、BOX内封入！



収録内容　●VOL.1　誰もが待ち望んだU.W.F.の再出発　その日、聖地は超満員の信者で埋め尽くされた～「STARTING OVER」VOL.1・2●VOL.2　U.W.F.の存亡をかけた大一番　欧州のケンカ屋ゴルドーとの格闘技戦「真夏の格闘技戦」「FIGHTING NETWORK 博多」●VOL.3　前田日明 vs 高田延彦　ライバル闘争の始まり「FIGHTING NETWORK 名古屋」「HEART-BEAT U.W.F.」●VOL.4　U.W.F.が仕掛けた新たなメディア戦略　クローズド・サーキットによる全国同時中継実現「U.W.F. DYNAMISM」「FIGHTING BASE 徳島」●VOL.5　鈴木、船木、藤原の3選手が新日本より移籍・U.W.F.の闘いは、より激しく、厳しいものとなった「U.W.F. CORE」「U.W.F. MAY HISTORY 1ST」

ドラゴン・エラ ～闘龍門天下三分の計～



●4,725円

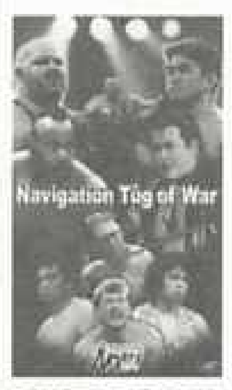
大人気！闘龍門ビデオシリーズ第8弾！今回も盛り沢山の内容！メインとしは闘龍門の天下分け目の三軍決戦、究極の3WAY、至極の5WAYを完全ノーカット！

収録試合～○望月vsマグナムTOKYO○マグナムTOKYO&岡村vs望月＆チョコフレークK-ICHI○CIMA&SUWA&TARUvs望月＆神田＆ダークネス・ドラゴン○ビッグフジ、斉藤　青春の抗争○3WAYダンスマッチCIMA&SUWA&ビッグフジvsマグナムTOKYO&ドラゴン・キッド＆斉藤vs望月＆神田＆ダークネス・ドラゴン○金網5WAYエスケープマッチ　マグナムTOKYOvsドラゴン・キッドvs望月vsダークネス・ドラゴンvsCIMA

闘龍門人気ビデオシリーズ

★開け！闘龍門	4,500円	★闘龍門　日本上陸	3,990円
★Be CRAZY	4,200円	★シーマニア	4,725円
★C-MAXvsM2K	4,725円	★ドラゴンズ ゲイト	4,725円
★エルヌメロ ウノ	6,090円		

ノア Navigation Tug of War



～皇帝光臨～　●12/21発売120分5,040円

GHCの初代タッグ王座を賭け11組によるトーナメントが開幕。トーナメントのメインカードの他、ZERO-ONEの大谷参戦や金丸と高岩が激突したGHCジュニアヘビー級タイトルマッチも収録したメモリアルビデオ！

収録試合　●GHCトーナメント決勝～秋山＆斎藤vsベイダー＆スコーピア、準決勝～秋山＆斎藤vs三沢＆小川、二回戦～三沢＆小川vs大森＆大谷、●GHCJrヘビー金丸vs高岩 他

ノア人気ビデオ＆DVDシリーズ

★バトルレボリューション序章	ビデオ＆DVD各5,040円
★初代GHCヘビー級トーナメント	ビデオ＆DVD各5,040円
★GHCヘビー級選手権試合三沢vs田上	ビデオ＆DVD各5,040円
★ノアvsゼロワン	ビデオ5,040円
★Navigation to the Bright Destination	ビデオ5,040円
★Accomplish Our First Navigation	ビデオ＆DVD各5,040円
★DEPARTURE 2001～秋山vs本田～	ビデオ5,040円
★DEPARTURE 2000～ノア旗揚げ戦～	ビデオ2本組10,000円
★Explosion in Osaka&Kobe	ビデオ5,000円

「LOVE　みちのく」



●12/下旬発売5,040円

2001年11/11東京ディファ有明。田中将斗、邪道、外道、中山香里らコンプリはZERO-ONE、新日本、みちプロ、アルシオン、NEO、GAEA等様々な団体で活躍してきたが今回初めての自主興行。メインはコンプリvsZERO-ONE、田中＆邪道＆外道vs大谷＆星川＆佐藤。現IWGPJrタッグ王者邪道＆外道と初代王者大谷との戦い、田中vs大谷、実力者星川、急成長の佐藤耕平と見所沢山！セミの6人タッグでの大仁田と本間の対戦も注目！

収録試合　田中＆邪道＆外道vs大谷＆星川＆佐藤、大仁田＆保坂＆東郷vs本間＆非道＆中牧、MIKAMI＆石井vs佐々木＆西田、中山vs日向、アジアン・クーガーvs日高

全日本女子プロレスガレージマッチ「ナマ女。」



●ビデオ各3,500円DVD各3,000円

（全試合ノーカット）VOL.4～○2001年10/14大会収録試合～伊藤＆渡辺＆高橋vs中西＆脇澤＆納見、前川vs堀田　他○「ナマ女。外伝」～「カラオケイベント1」「カラオケイベント2」「カラオケイベント3」「貴子イベント　潜入ルポ」

VOL.3～○2001年9/24大会～伊藤＆高橋vs脇澤＆納見、他○「ナマ女。外伝」～「ナナモモ＆新人ちゃんの、1日だけの夏休み」「みんなの着メロ」1～2～3～

VOL.2～○2001年8/19大会～伊藤＆渡辺vs豊田＆前川、納見vs堀田、他○「ナマ女。外伝」～キッスの世界がラジをジャック」「モモラッチカメラ」　他

Jd'ビデオシリーズ VOL.1～5

各3,675円



●VOL.1　ブラディー（90分）　収録試合○00.11/26vs藪下○0.年3/18vsアジャ・コング○01.4/29vs坂井○01.5/6vsロゼッタ＆フレイア

●VOL.2　藪下めぐみ（90分）　収録試合○00.12/29vsザ・ブラディー○01.1/6vs F.鈴木○01.3/4vs D.森松○01.4/8vs井上京子

●VOL.3　阿部幸江（90分）　収録試合○01.1/21vs坂井＆F.鈴木○01.2/24vs F.鈴木○2001年4/29vs三田 他

●VOL.4　西千明・山本千歳・丸山美和（80分）　収録試合○00.12/10山本千歳vs阿部○00.12/29丸山vs大森○00.12/29西vs山本○01.1/6丸山vsおばっち飯塚○01.1/21山本＆大森vs西＆丸山○01.2/10丸山vs坂江○01.3/18西＆山本vs F.鈴木 他

●VOL.5　アストレス（98分）　収録試合○00.11/26大森vsジャガー横田○01.4/8賀川vs大森○01.4/29柏田vs大森○吉田圭子プロテスト○東城えみの軌跡　大森綾乃との遺恨対決～アストレス入りへ

●団体人気プロレスビデオ＆DVD●（Vはビデオ、DはDVDです。）

※こちら以外の商品もたくさんございます。お問い合わせ下さい！

●パンクラス	
パンクラス完全決着2000	6,930円(V)5,040円(D)
船木誠勝我が人生に悔いなし	6,930円(V)5,040円(D)
船木誠勝ハイブリット肉体改造法マッスル編&ダイエット編	各6,930円(V)各5,040円(D)
●FMW	
ストーリー・オブ・ザ・F1	16,311円(V)
ストーリー・オブ・ザ・F2	18,000円(V)
ストーリー・オブ・ザ・F3	16,000円(V)
ストーリー・オブ・ザ・F4～6	各9,500円(V)
ストーリー・オブ・ザ・F7&8	各8,000円(V&D)
FMWハード・コア・バイブル	各8,000円(V&D)
●アルシオン	
コンプリート・アルシオン1～6	各6,930円(V)
アルシオン・グラフィティ1&2	各6,930円(V)
府川唯未SAYONARA	10,500円(D)
●全日本女子プロレス	
脇澤美穂マハロ	3,990円(V)
納見佳容ビッグ・スマイル	3,990円(V)
●大日本プロレス	
葛西純スペシャル	5,250円(V)
札幌伝説1999&2000	10,500円(V)
デスマッチ・バイブル1～3	各6,825円(V)
●ガイア・ジャパン（9は在庫切れ、12だけは9,800円に成ります。）	
フラッシュ・バック・オブ・ガイア1～16	各8,000円(V)
●総合格闘技	
アブダビ・コンバット2000	6,930円(V)
アブダビ・コンバット2001	6,930円(V)10,500円(D)
修斗1999ベスト・バウト	6,930円(V)
修斗2000ベスト・バウト	6,930円(V)5,880円(D)
修斗2001上半期ベスト・バウト	6,930円(V)
バーリトゥード・ジャパン'95	9,991円(V)
バーリトゥード・ジャパン'96-'97、'98-'99	各5,880円(D)
リミックス	各2,940円(V&D)
コロシアム2000	9,975円(V)5,040円(D)
●その他	
これがDDTだ！	4,179円(D)
第2回メモリアル力道山	2,940円(D)
みちのく・バトラーツ・大日本・3団体ベストバウト	5,040円(D)
レスリング・ウイズ・シャドウズ	各5,040(V&D)
MCvsNB～WCW権力戦争勃発！	各4,800円(V&D)
カルガリー・スタンピート・レスリング	6,930円(V)5,040円(D)

真世紀創造。～歴史破壊編～ DVD



●ビデオ83分5,040円 DVD83分＋特典映像97分6,090円

2001年3/2両国国技館。ZERO-ONEの旗揚げ戦を2巻に分けてDVD&ビデオで発売！この歴史破壊編では、星川vs丸藤、谷津vsゲイリー・スティール、橋本＆永田vs三沢＆秋山を収録。やはり今回の見所は、夢のタッグ新日本永田＆ZERO-ONE橋本vsNOAH三沢＆秋山！尚、DVD特典としては、全試合ノーカット収録、出場全選手独占オリジナルインタビューの他にもう一つの山場、小川の乱闘！橋本＆永田vs三沢＆秋山に乱入した小川の乱闘シーンを5台のカメラを駆使し、あますことなく徹底追跡！5。橋本＆永田vs三沢＆秋山、谷津vsゲイリーそしてENDINGも3chマルチアングルで鑑賞可能。

～定義破壊編～　●ビデオ80分5,040円 DVD80分＋特典映像62分6,090円

新日本プロレス・ラディカルファイト3 DVD



●189分7,140円

収録試合　S50～猪木vsテーズ、S51～猪木vsアンドレ、S53～藤波vsエストラーダ、S54～猪木vsデイトン、猪木vsボブ、S55～猪木vsハンセン、S57～タイガーvsキッド、カーンvsジャイアント、S58～藤波vs長州、S60～藤波＆木村vs猪木＆坂口、S61～越中vsコブラ、H元～長州vs猪木、H2～猪木＆坂口vs橋本＆蝶野、武藤＆蝶野vs馳＆健介、H3～藤波vsフレアー、H5～藤波vs馳、H6～橋本vs天龍、ライガーvsハヤブサ他

新日本人気DVDシリーズ

★ラディカルファイト100 VOL.1&2	各7,140円
★一触即発ザ・ケンカファイトVOL.1&	各7,140円
★初代タイガーマスク・ファイナル・コレクション	31,500円
★パワー・オブ・ライガー～マスクマン最強伝説～	10,500円
★飛龍伝説～完結編～	7,140円
★アントニオ猪木物語VOL.1&2	各7,140円
★ザ・グレート・ムタ・コンプリート	21,000円
★武藤敬司スペシャルコレクション	10,500円
★長州vs大仁田世紀末電流爆破決戦！	5,040円
★新日本vs全日本　全面戦争VOL.1&2	各5,040円
★新日本プロレスレスラー名鑑上巻・下巻	各6,090円
★アントニオ猪木引退試合	7,140円
★激闘史1～4	各3,990円
★ベスト・バウト・オブ・1996～2000	31,500円
★革命伝説長州力～熱き魂の闘いの記憶～	31,500円
★新日本超闘列伝VOL.1～革命と抗争～	7,140円
★新日本超闘列伝VOL.2～挑戦～	7,140円
★DOME QUAKE　～7/20札幌ドーム大会～VOL.1&2	各8,190円
★STRONG STYLE 2001　～4/9大阪ドーム大会～VOL.1&2	各7,140円
★ハイパー・ヒストリー・オブ・G1クライマックス1991～2000	21,000円
★DOME IMPACT PART1　～2000/4/7東京ドーム～	5,040円
★2001G1クライマックスVOL.1&2	各7,140円

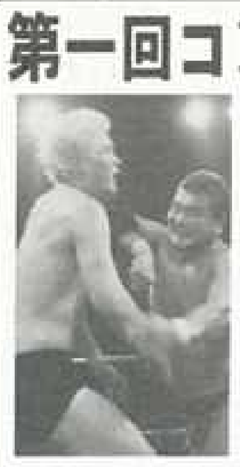
猪木語録 ～燃える闘魂の真実～ DVD



●12/21発売121分5,040円

大好評のビデオ猪木語録の燃える闘魂編と闘魂伝承編（各3,129円）を一つにまとめた超素晴らしいDVDがコレ！VTRに収められた猪木の新日旗揚げから現代までの数々の名言・名シーンを「語録として一挙公開。さらに「ダーッの変遷」、若い時からの華麗な「ガウンの変遷」、そして「入場シーン」も特集。そしてDVD映像特典では「変装コレクション」を収録。まさに全編「アントニオ猪木」で構成。永遠のカリスマ、猪木の「一歩踏み出す勇気」にあふれた、元気の出る作品です！

第一回コンプリート・プレイヤーズ自主興行



●12/下旬発売5,040円

2001年8/19宮城・ニューワールド仙台野外特設会場。新世紀のプロレス界をささえる「みちのくプロレス」。今年最も注目された仙台大会の模様を完全収録。新日本の武藤が白使と組み黒使無双として初登場のメインやIWGPJrタッグ王者邪道＆外道にタイガー＆サスケが挑戦したタイトルマッチ、婿vs舅遺恨マッチグラン浜田vsペンタゴン等面白マッチばかり！

収録試合　黒使無双＆白使vsヒロ斉藤＆後藤達俊、邪道＆外道vsタイガーマスク＆サスケ、浜田vsペンタゴン、東郷＆サイキックvs折原＆西田、矢樹vsつぼ　他

送料一覧　※商品価格に加算して下さい。

各団体Tシャツ、CD、などグッズも！在庫等、お気軽にお問い合わせをお待ちしています！

●DVD・ビデオのみ　→1つ￥500、2つ以上は無料サービス
●グッズのみ
☆CD・Tシャツ・書籍類など　→1つ￥400、2つ以上￥700
☆トレーナー・バッグなど　→1つ￥500、2つ以上￥800
☆テレホンカード　→1つ￥100ずつ
☆フィギュア・カード・小物など　→1つ￥300、2つ以上￥500
●グッズのみ3つ以上（種類に関わらず）→￥800
●DVD・ビデオ1つ＆グッズ　→￥800

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合￥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを1つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！（店頭・通販共）※割引きもあり。

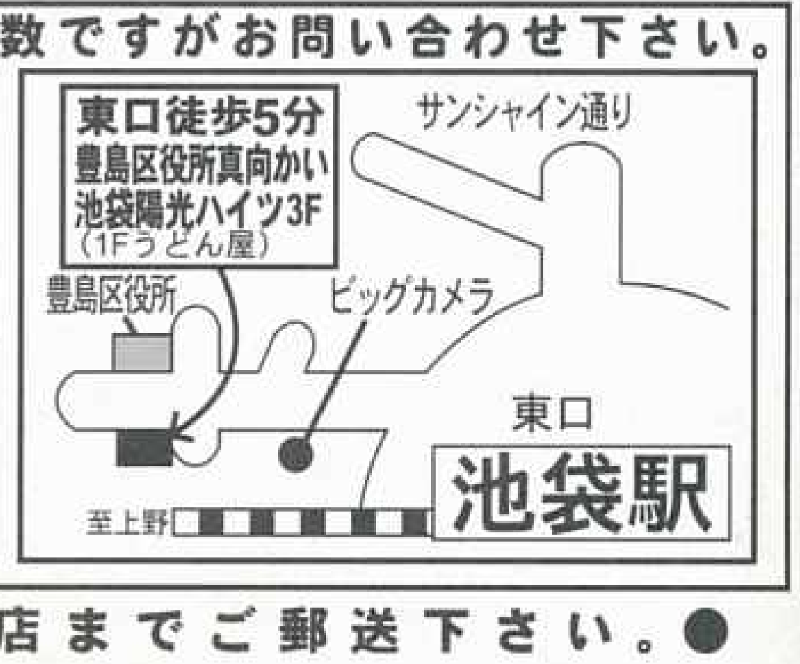
【通信販売お申し込み方法】　●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販

住所・氏名・TEL希望商品名を明記のうえ、現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。※振替通販の問合せは池袋店まで。また代金引換（税込￥5,000以上）に限りハガキかFAXでの注文となります。（手数料￥315がかかります）

レッスル渋谷店　店頭TEL.03-3464-0078　通販部＆FAX.03-3464-1780
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2　第2野々ビル3F

レッスル池袋店　店頭TEL.03-3989-0056　通販部＆FAX.03-3987-7817
〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-36-3　池袋陽光ハイツ306



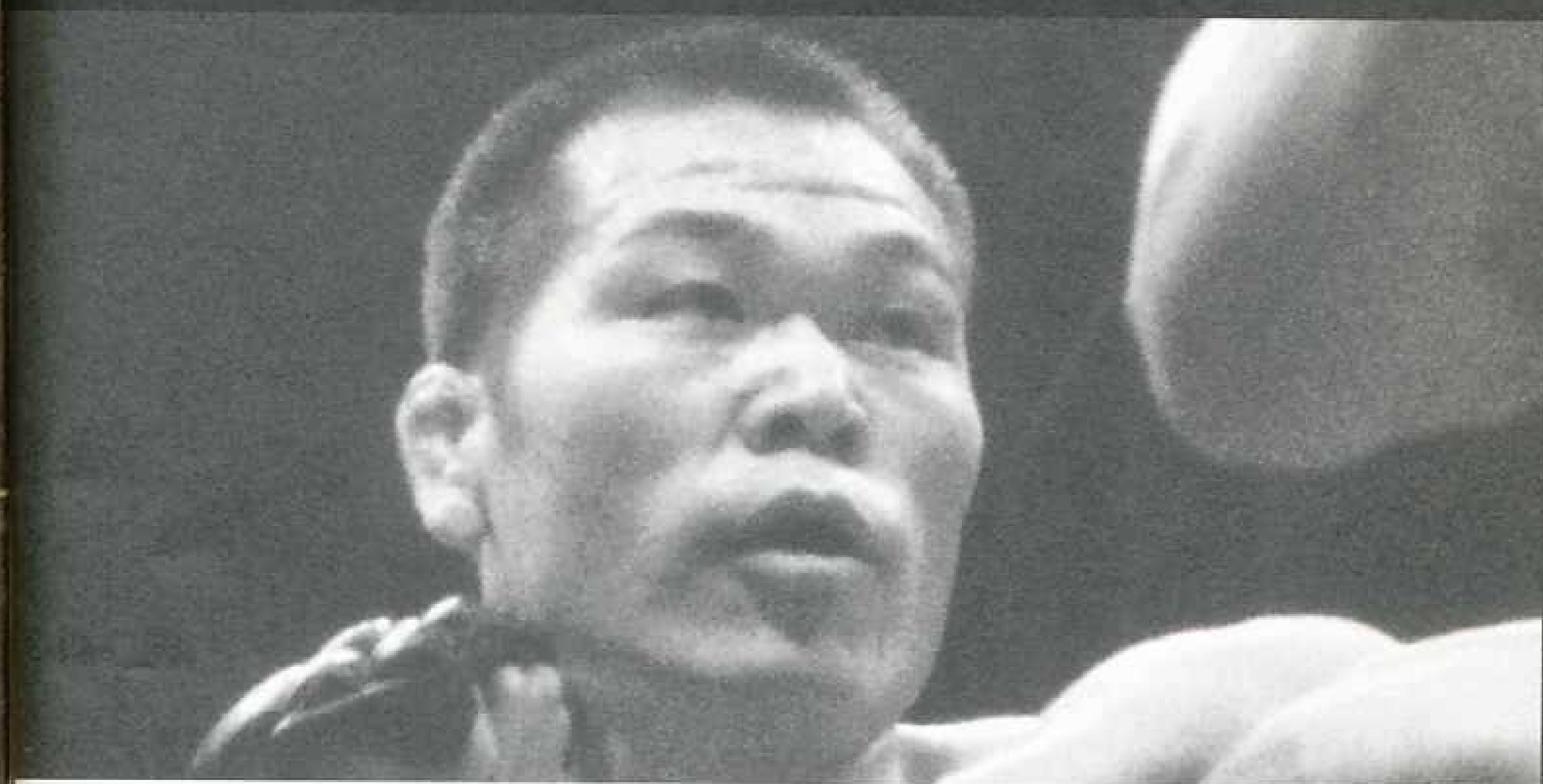
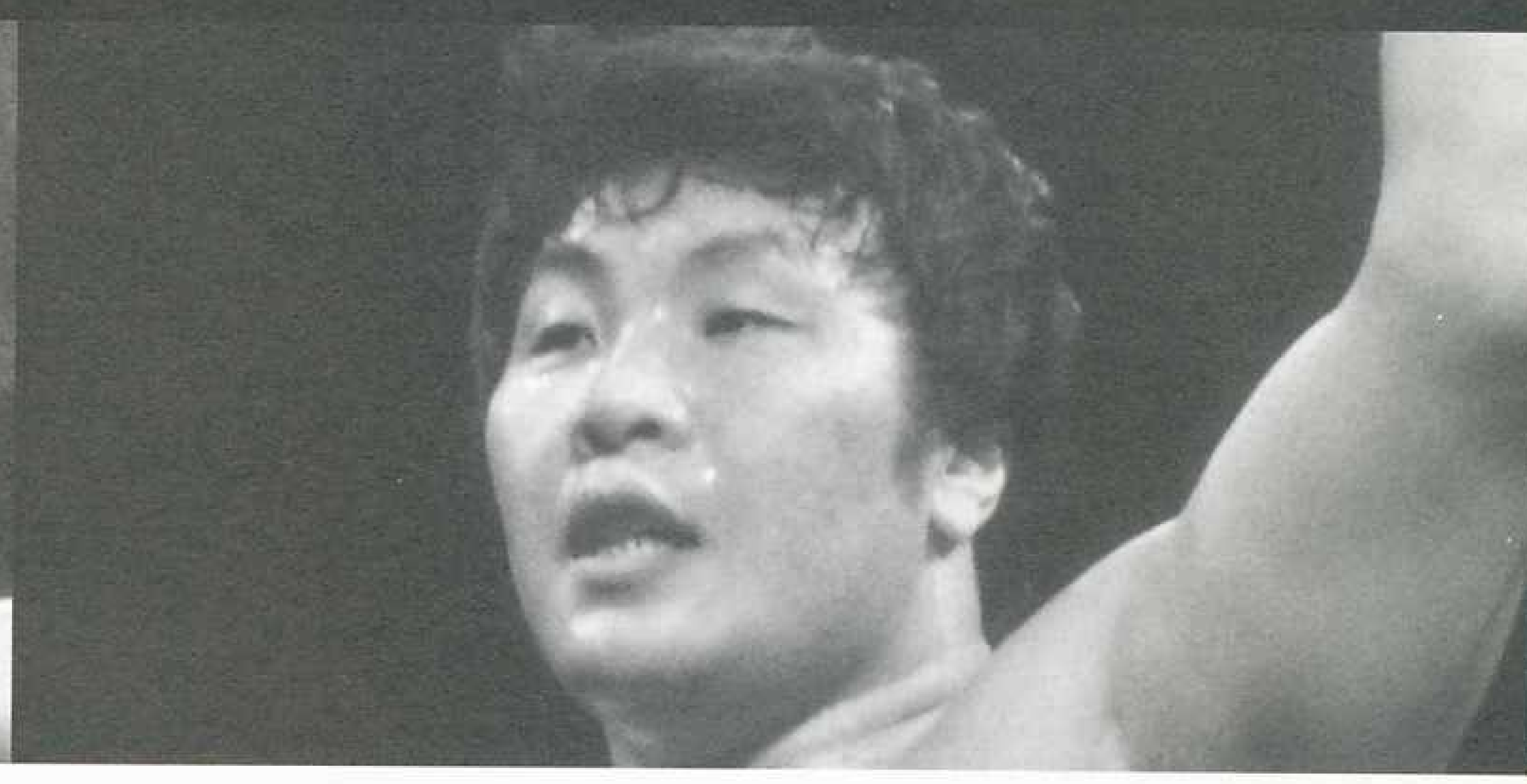


●レッスルスタッフを募集しています！（女性限定、渋谷・池袋勤務）履歴書を渋谷店までご郵送下さい。●

リングス冬の陣。他流派続々参戦の嵐!!
この面白さは観ればわかるさ。
いや、観なければ損をする。

FIGHTING NETWORK RINGS

FIGHTING NETWORK RINGS
ワールドタイトルシリーズ
12月21日(金)
横浜文化体育館

金原 弘光デビュー10周年メモリアルマッチ

☆メインイベント

金原 弘光 VS ポール・カフーン
(リングス・ジャパン) (リングス・オランダ)

遂に相まみえる!!ヴォルクハンの一番弟子、ロシアの**一撃破壊狼**と**世界のTK**が激突!
世界の**関節**か!?**頭蓋骨粉砕**パンチか!?

☆セミファイナル

髙阪 剛 VS ヴォルク・アターエフ
(リングス・ジャパン) (リングス・ロシア)

家出息子が**帰ってきた**!そして相手は**アイツ**だ…。
格闘技界を**揺るがす**日本人中量級の**最高レベル**の闘いが実現!

山本 喧一 VS 須藤 元気
(パワーオブドリーム) (ビバリーヒルズ柔術クラブ)

シーザー武志がシュートボクシング**立ち技ヴァリートゥード**軍団から
第2の刺客を送り込んできた…

シュートボクシング級チャンピオン
寝屋川ジム所属
前田 辰也 VS ステファン・ギリンダー
(寝屋川ジム) (リングス・オーストラリア)

☆リングス世界無差別級チャンピオン決定トーナメント準決勝

クリストファー・ヘイズマン VS エギリウス・ヴァラビーチェス
(リングス・オーストラリア) (リングス・リトアニア)

エメリヤーエンコ・ヒョードル VS リー・ハスデル
(リングス・ロシア) (リングス・イギリス)

☆ユニバーサルバウト

戦闘マシーン 第2回KoKリミテッド準優勝
小谷 直之 VS 飯田 崇人
(ロデオスタイル) (A³ジム)

佐々木 恭介 VS 門馬 秀貴
(U-FILE CAMP) (A³ジム)

在庫一斉処分祭

会場に来てくれた皆様だけへご奉仕!!リングスオフィシャルグッズを20%〜30%off!!
オリジナルパーカーやKoKグッズなど大量販売。え、こんな物まで!?というレアな掘り出しものが見つかるかもしれない!
今しかない!!横浜にみんなで走れ!!!
※セール品は対象商品のみとさせていただきます。数に限りがありますので売り切れの際はご容赦ください。

入場料金

ロイヤルリングサイド	残りわずか	¥ 20,000
アリーナリングサイド	残りわずか	¥ 15,000
リングサイド		¥ 10,000
SS(1F ひな壇)		¥ 7,000
スタンド S		¥ 7,000
スタンド A		¥ 5,000
スタンド B	残りわずか	¥ 3,000
学生特別優待席 A	残りわずか	¥ 2,000
学生特別優待席 B	残りわずか	¥ 1,000

※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ	TEL：03-5237-9999 (Pコード 594-030)
ローソンチケット	TEL：03-3569-9900 (Lコード 39125)
CNプレイガイド	TEL：03-5802-9999
後楽園ホール	TEL：03-5800-9999
レッスル渋谷	TEL：03-3464-0078
レッスル池袋	TEL：03-3989-0056
書泉ブックマート	TEL：03-3294-0011
大山アメリカン	TEL：03-3962-6443
ビデオショップ・チャンピオン	TEL：03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店	TEL：03-3265-4646
格闘技プロショップ・イサミ	TEL：03-3352-4083
イサミ尚武堂	TEL：03-5214-6487

お問い合わせ (株)リングス TEL：03-3461-0257
※インターネットで予約受付中 http://www.rings.co.jp/
WOWOW特別優先予約 TEL：045-683-8031

㊗デビュー10周年　ボヤキ節久々に大爆発!



「紙の新聞」年末スペシャル

語録で振り返る マット界 2001

今年も大事件、小事件、笑事件とさまざまな出来事があったマット界。そして事件の数だけ、プロレスラーたちの名言、迷言が存在した。そんな数多くの事件を語録で振り返るこのコーナー。ドラゴンが健介が破壊王が発した素晴らしき名ぜりふで、2001年を締めくくってみよう。

・構成／堀江ガンツ
designed by hisa (Two three)

語録で振り返る マット界2001

いま俺は人生のホームレスをやっております（アントニオ猪木）

■2月18日　アントン、ホームレス姿でタイソン戦をアピール

新日両国大会にホームレス姿で登場した、どうしてもサービス精神が旺盛なアントンが「タイソンの事務所からオファーが入りました」と発表！「いま決まっていることは6月中に実現するということ」と断言！　でも、この話どこいったんでしょうね……。

我々は殺し合いをしてるんじゃないんだ！（藤波辰爾）

■1月4日　長州vs橋本戦、「ドラゴンストップ」で中途半端なノーコンテスト

ドラゴンが新年早々やってくれた！「遺恨凄惨」と銘打たれ、究極のケンカマッチとしてファン注目の一戦であったこの日の長州vs破壊王戦の最中、パーマ頭がやおらリングに近づき普段はちっとも機能しない社長権限を無意味に発動。レフェリーでも何でもないクセに突如「両者レフェリーストップ」を宣告し、おまけに客席から大ブーイングを浴びると「我々は殺し合いをしているんじゃないんだ！」と逆ギレ！　ドラゴンの不可解な迷走のおかげで、新日本はいきなり暴動寸前で2001年のスタートを切るハメになったのであった。

新日本は崩壊しました！（柴田惣一）

■東スポの柴田記者、「ワールドプロレスリング」の解説者解任

「平田だなぁ？」に続く名台詞を吐いたとたんに解雇。これがダメなら蝶野やカシンはとっくに解雇にならなきゃおかしい。カムバック、柴田！

いい形に戻る！（藤波辰爾）

■1月11日　新生WCWスタートするも崩壊

この日、かねてから噂されていたWCWの身売りが正式発表され、新社長にはあのNWOの黒幕E・ビショフが就任することが判明した。このニュースによせばいいのにドラゴンが強い関心を示し、新社長が旧知のビショフだというだけの理由で「（WCWと）いい形に戻る！」と断言。しかしご存じの通り、その後この話はご破算になり、WCWはWWFが買収。ドラゴンが断言することは、海の向こうまで正反対になるのであった。

あいつは飛行機代あんのか!?（アントニオ猪木）

■1月28日　安田忠夫、ロスへ格闘技修行出発

"平成の借金王"安田忠夫が「PRIDE」出陣を決意し、「ローマ字も読めない」（破壊王・談）にも関わらずロスへ格闘技修行に出発！　そこでアントンは「あいつは飛行機代あんのか？」「遺言はあるか？　生きて帰ってくるつもりなの？」と酷いセリフを連発。しかし、その安田がいまや猪木軍の中心なのだから世の中わからない。



天山、小島が王者なのは宇宙の秩序に反する（西村修）

■1月30日　西村修契約更改

説明不要！　これぞ西村節！

もう一度ベストな状態になるまで引退しない！（藤波辰爾）

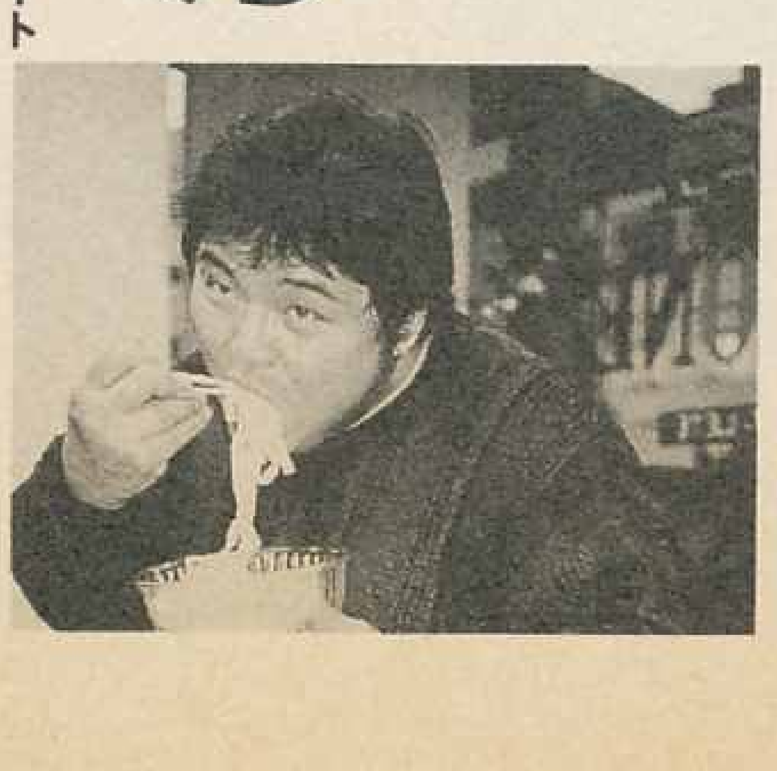
■2月3日　ドラゴンまたしても引退撤回

前年5月にスタートしながら、ちっとも進まないドラゴン引退カウントダウン「エピローグ・ドラゴン」が早くも一時凍結。この日、藤原組長と対戦したドラゴンは「体が動かない。自分自身に納得いかない。引き際だからこそ、もう一度ベストな状態になるまで引退しない」という勝手な理由でカウントダウン無期限停止宣言！　普通は納得のいく闘いが出来なくなって引退するものだが、ドラゴンにそんな理屈は通用しないのであった。

ダイエットなんか糞くらえだ！（橋本真也）

■破壊王弁当販売スタート

今年、なぜかコンビニ業界を吹き荒れたプロレス食品ブーム。その先駆けとなったのが言わずとしれたサンクスの「破壊王弁当」シリーズである。食えば誰もが「破壊王ボディー」になりそうな超ボリュームを誇るこの弁当。ファスティング経験者である当の破壊王は「俺は断食の厳しさを知っている。そこから導き出した答えは……ダイエットなんか糞喰らえだ！」と断言！　破壊王、最高！



もう、俺たちの時代だ!（佐々木健介）

■1月28日「ジャイアント馬場3回忌追悼記念興行」川田、健介組が天龍、馳組を破る

「ああ、そんなこともあったね」という声が聞こえてきそうな、健介と川田の夢の小結タッグ結成があったこの日の全日ドーム。ここで天龍＆馳と対戦し、あからさまなジャブボーイ（ミスター高橋風）馳を下した健介が、「馬場追悼興行」なのになぜか最後にマイクを掴み、いまさらながらの「俺たちの時代」宣言！　その後、この健介の叫びは賛同者0のまま、健介自身が時代から転げ落ちていったのだから皮肉だ。



パンクラスはハッキリ言って落ち目。桜庭さんとやりたい（近藤有己）

■2月4日　近藤、桜庭戦をアピール

"隠れたコンニャクファイター"近藤節爆発!「ヒクソンとやりたい」「田村さんとやりたい」に続いてこの日は突如「パンクラスはハッキリ言って落ち目。桜庭さんと闘いたい」と今度はサクへの挑戦表明。しかし、このShow氏プロデュースのフライング発言は周囲に物議を醸しアッサリ消滅。まさに「鶴田とやりたい」「前田とやりたい」「オレだって三沢とやりたい」と言いながら、ことごとく実現しない、ドラゴン・イズムを確実に受け継いでいるのであった。

今年は中国に進出!!（アントニオ猪木）

■2月12日　アントン、カリフラワーアレイクラブで受賞

元気が売り物、我らがアントニオ猪木が、プロレス版名球会としてお馴染み「カリフラワー・アレイ・クラブ」（会長ルー・テーズ）の年次総会で、長年の活躍が評価され、「プロレス栄誉賞」とでも言うべき「マーシャルアーツ功労賞」を受賞。しかしアントンは受賞のコメントもそこそこに、「今年は中国に進出!」と相変わらずのグローバルなアドバルーンをブチ上げる、いつものアントンぶりなのであった。

お前らの思い通りにはしねぇよ、絶対!（三沢光晴）

■3月2日　ZERO—ONE旗揚げ、三沢と小川が初遭遇

新日本、ノア、UFOが入り乱れる夢の舞台として、大熱狂の旗揚げを迎えたZERO—ONE。しかもメイン終了後には小川が乱入し、「三沢～、対戦を受けてもらおうじゃねぇか!」と迫るファン狂喜の展開。そこへ冷や水をぶっかけるように言い放ったのが、この三沢のセリフ。これ以降、三沢の言葉どおりノアが思い通りにならないZERO—ONEは急速に苦戦していくのであった。来年こそ、もう少し思い通りにしてやってください三沢社長ぉお～!（破壊王風）





あれは小川の車や!お前知ってたやろ!（橋本真也）

■2月23日　謎の白覆面　ZERO—ONE道場に出現

清原クンをスカウトしたい（木村健悟）

■3月2日　新日本プロレス・スカウト部設立

新たなスター作りが急務である新日本プロレスがスカウト部を設立。そのスカウト部長に歌手・木村健悟の就任が決定。いきなり就任挨拶で球界の番長・清原の獲得を宣言するという、狂いっぷりでキムケンウォッチャーを喜ばせた。

もうZERO—ONEに選手は貸さん!（藤波辰爾）

■3月5日　ドラゴン、ZERO—ONEへの選手貸し出し凍結

ダーク・ドラゴンまたしても現る!　旗揚げ戦にトップ選手である永田を貸し出すなど、友好関係にあったZERO—ONEと新日本であったが、興行が成功するとドラゴンが突如豹変。「ZERO—ONEはもうライバル団体。いつまでも協力するほど甘くない。潰しに行く可能性もある」と、友好どころか、突然の不可解な宣戦布告。前年、引退問題でドラゴンのコンニャクぶりに振り回された破壊王が呆れ返ったのは言うまでもない。

何も俺の許可を得てない。俺の気持ちは尋常じゃない（藤波辰爾）

あれはノールールの試合じゃないです（サダハルンバ谷川）

■4月7日　藤田がノートンを「ノールール」で倒す

歴史的迷言「正直、スマン」を聞いたアントンが激怒。当初の健介vs藤田戦から強健発動で急遽変更になった王者ノートンvs藤田のIWGP戦は、記念すべきなんちゃってVT時代の幕開けとなったのであった。

■3月20日　猪木軍がリングジャック

4・9大阪ドームを控えたこの日の代々木第2体育館にアントンが登場。藤田、安田、そして破壊王という当時の「猪木軍」を呼び寄せ、まんまと新日リングジャックに成功した。これに激怒したのがご存じドラゴン。自慢のパーマ頭を逆立たせながら「何も俺の許可を得てない。俺の気持ちは尋常じゃない」と、飛龍革命2001をブチ上げそうな勢いで吐き捨てた。ドラゴン、またしても何も知らされていなかったのね。

正直、キレました（藤波辰爾）

■3月23日　ドラゴン、出社拒否

「正直、スマン」の3日後に迷言ライバルである健介に対抗するかのように発したドラゴン語録。この前日に4・9大阪ドームのカードを白紙撤回したアントンに対し、「正直、キレました」というドラゴンは、なんと出社拒否!　引きこもり中年となったドラゴン47歳の春であった。

今日が最後の試合だと思ってやりました。今までありがとうございました（成瀬昌由）

■3月20日　成瀬復帰、そしてリングス退団

椎間板ヘルニアによって長期欠場していた成瀬が実に1年半ぶりに復帰。初めてとなるKOKルールでフィエートから見事復帰戦を勝利で飾り、試合後マイクを握った成瀬は「今日が最後の試合のつもりで闘いました。いままでありがとうございました」と挨拶。館内に「まさか引退?」のムードが漂ったが、おそらく今思えば、成瀬のリングスファンへのさよならのメッセージだったのであろう。

呼ばれてきたけど何ですか?（ハイアン・グレイシー）

というわけでリベンジマッチが決まったようです（アントニオ猪木）

■3月25日　石澤vsハイアン決定!



リングス冬の陣。他流派続々参戦の嵐!!
この面白さは観ればわかるさ。
いや、観なければ損をする。

FIGHTING NETWORK RINGS

元気ですよーーッ!（桜庭和志）

■5月27日　桜庭元気に挨拶

なぜ、あんなことを言ってしまったのか自分でもわからない。あんなことを言った自分に腹が立つ。この自分への怒りを橋本にぶつける（佐々木健介）

■4月2日　4・7大阪ドーム橋本vs健介決定!

「正直、スマンかった」発言に対するあまりの反響の大きさに、当の健介も「恥ずかしいことを言ってしまった」と反省。それだけでなく「なぜ、あんなことを言ってしまったのか、あんなことを言った自分に腹が立つ」と一本気な健介らしく自己嫌悪に陥ってしまった。このままドラゴンばりに引きこもり中年になりかけた健介だが、突然「この自分への怒りを橋本にぶつけてやる!」と、怒りの矛先を方向転換。自分への怒りを他人にぶつけるという、八つ当たり以外の何物でもない決意を表明された破壊王はいい迷惑だったろう。

今日はここにいて、リングにはあがりません。じっくり見させてもらいます（藤波辰爾）

■4月7日　大阪ドームで「ドラゴンストップ」封印宣言

単なるTV解説者なのだからリングに上がらないのは当たりまえなのだが、ドラゴンは大まじめに宣誓。



小結とか言ったけど、アイムソーリー（武藤敬司）

■4月14日　武藤、川田を破る

10・9健介vs川田の新日全日頂上対決を「小結同士の闘い」と秀逸なコメントを残したムトちゃんが、実際に川田と一騎打ちをやったあとに川田の実力を認めて謝罪。しかし、その後低迷が続く川田はもはや幕下陥落寸前か……。

ウガーッ!!（ファットマン白覆面）

■5月5日　福岡ドームに太った白覆面登場

長州&中西vs小川&村上戦でUFO側のセコンドに付いた謎の太った白覆面は試合後、追いすがる報道陣に対して「ウガーッ!」と絶叫。「プロレスっていいな」と思う一瞬である。



うめぇ〜〜!うめぇ〜〜!（藤波辰爾）

■ドラゴン「ウルルン滞在記」で豚の丸焼きを食って涙ぐむ

2001年度、最優秀テレビ番組賞を勝手にあげたいくらい最高だったドラゴン出演の「ウルルン滞在記」。ハッキリ言って永久保存版である。

俺がKOKルールで闘ってもいい（藤波辰爾）

ボクは世界でもっとも心の強い格闘家でした（山田学）

■5月13日　山田親分引退

パンクラスの山田学がこの日、シューティング時代の同期・朝日昇とのエキジビションマッチを最後に引退した。最後の挨拶で山田は10歳のときから原因不明の小児糖尿病にかかり、現在も加療中であることを告白。そして最後に「ボクは世界でもっともハンディキャップを背負った、最も心の強い格闘家でした」と発言。多くの観客の頭の中に「自分で言わなくても……」というツッコミがよぎったが、みな言葉を飲み込んだのであった。



今回は政治のこと勉強した（堀田祐美子）

■5月24日　堀田、2度目の参院選出馬

「暴走族には発砲せよ」という佐山サトルや、アントンの実兄・相良寿一、そして週プロ初代編集長・杉山さん。さらには千葉マリア、月亭可朝、荒勢に横浜銀蝿の嵐という「紙プロ」的にたまらないデタラメなメンバーを揃えた徳田虎雄率いる「自由連合」。そんな蒼々たるメンバーと共にひょっこり2度目の参院選出馬を果たしていたのが全女の堀田祐美子である。そして堀田が出馬の際に発した言葉が「今回は政治のこと勉強した」って、前回は!

俺だって三沢と闘いたい（藤波辰爾）

金魚のフンみたいなのとは一緒にしないでほしい（秋山準）

秋山について触れるのはやめましょう。終わり終わり!（藤波辰爾）

■5月28日　秋山、新日出陣宣言。そしてドラゴンとドタバタ抗争

秋山の「新日マットで永田さんとやりたい」発言を受け、三沢・藤波のトップ会談も実現。長年の夢であった"サミット"が開催できたドラゴンが、「俺だって三沢とやりたい」と、浮かれているところに冷水をぶっかけるように放たれた秋山の「金魚のふん」発言。「交流話に便乗するな」と痛いところを突かれたドラゴンは、突如ダークドラゴンに豹変し「もう秋山の話はなし!」と逆ギレ!　まったく大人げない藤波辰爾47歳であった。



■7月12日　新日本がリングスへ選手貸し出しを打診

成瀬の新日参戦とときを同じくし、突如持ち上がったリングスへの新日本選手貸し出し案。小原などが候補に挙がる中、ドラゴン自らがリングス出陣も辞さない構えを見せた!　まさかドラゴンvsアターエフという超夢の対決が見られるのかと思いきや、ドラゴンの本心は「来年はウチも30周年。そこで俺が前田とKOKルールでやるのもいい」……なんてことはない、いつもの通り自らの欲望を露吐しただけのドラゴンなのであった。

㊗デビュー10周年　ボヤキ節久々に大爆発！
そして11年目の野望を吐露!!

歴代王者なら俺にも挑戦する権利があるハズ

（藤波辰爾）

■6月8日　武藤、三冠王者に！

この日、天龍を「今年のベストバウト」と呼ばれるほどの熱戦で下し、新日本のレスラーとして初めて三冠王者になった武藤が試合後新日レスラーとの防衛戦も示唆。その条件として「歴代IWGP王者であること」を突きつけた。この発言をおそらく東スポを読んで知ったドラゴンは「歴代王者なら俺にも権利があるハズ」と、例によって鼻息荒く過剰反応。そして「万が一俺が取ったら、迷わず我々の世代でベルトを回し合う！」と、三冠王座をシルバーベルトにしかねない、恐怖の妄言を言い放ったのであった。

東スポおるか、フィルムださんかい！

（前田日明）

■「前田結婚していた」等の誤報により悪化していた前田と東スポの関係が遂に爆発！



8月11日にリングスに上がるとは言っていない

（藤波辰爾）

■新日本、リングスへの選手派遣中止

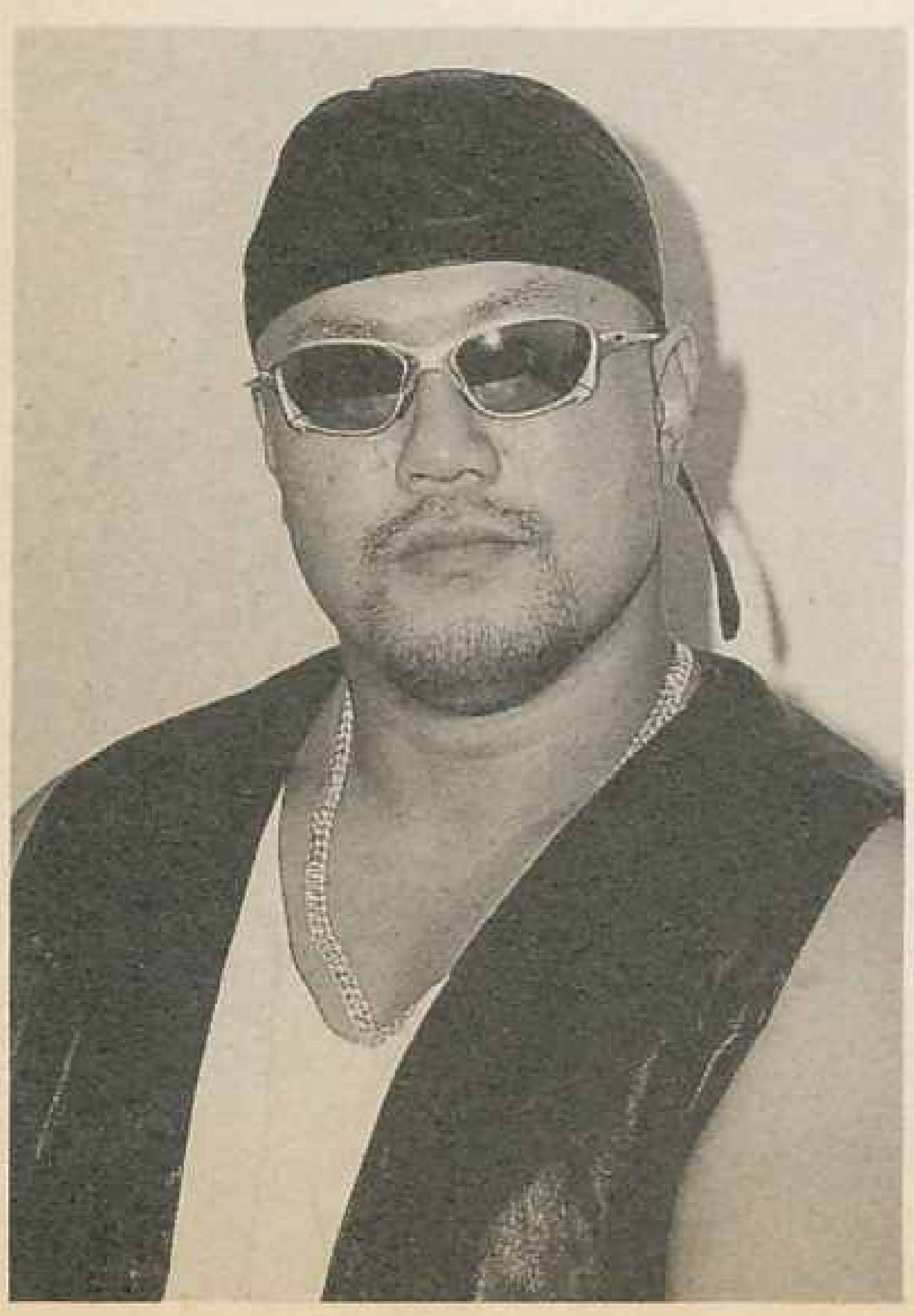
「これは新日本がリングスにもちかけた話」「オレがKOKルールで闘ってもいい」など、リングスとの交流にノリノリだったドラゴンが、この日突然「8月11日にリングスマットに上がるとは言っていない」という屁理屈をくりだし、勝手に時期尚早という結論を出した。いつものコンニャクドラゴンと言ってしまえばそれまでなのだが、今回の交流延期は冷静に分析してみるに、ドラゴンが勝手に前田と話を進めてみたものの、決定権を持ち合わせていないドラゴンのリングス出陣命令に、きっと誰も従わなかったということなのであろう。

正直、俺っていうのをじっくりみてほしい

（佐々木健介）

■9月18日　米国VT特訓を終え、健介復活！

4・9大阪ドーム、悪夢の橋本戦KO負け以来、日本から姿を消しアメリカに渡り、ドン・フライの下でアルティメット特訓に明け暮れた健介が大きくなって……というか、体重絞ったために小さく萎んで帰ってきた！　しかも驚くべきことに健介と言えば後ろ髪、後ろ髪と言えば健介というほど定着していた、髪をバッサリ切り、スキンヘッドで登場。正直、言われなくてもみんなじっくり見てしまう、驚愕の風貌なのであった。



猪木、見てろよ!!

（藤波辰爾）

■9月23日　藤波＆西村、まさかのIWGPタッグ奪取

神様のタチの悪いイタズラか？　なんとドラゴンが47歳9ヶ月にして、IWGPタッグ王座をまさかの奪取！　その勢いにまかせて、ドラゴン節を轟かせたのでご報告したい。「絶対に引退なんてしてられない。意地でもプロレス界をもう1度盛り上げます」とまずは恒例の引退撤回宣言から、続いて「長州と一緒にオレらのプロレスを復活させる」と衝撃のオレ達の時代宣言。そしてとどめに「猪木見てろ―！」と呼び捨てして、アントンを挑発した。47歳にして始まった第2次飛龍革命。まさに狂い咲きドラゴンロードである。

やっぱり現役じゃないとダメなのかな。足を止めてくれないいんだよね

（木村健悟）

■8月5日　キムケンのCD、やっぱり不振

我らが〝歌うスカウト部長〟キムケンこと木村健悟が、突如試合出場を熱望！　やはりG1クライマックスを毎日解説席で見ているウチに、レスラー魂が燃え上がってきたのかと思えば、本当の理由は「やっぱり現役じゃないとだめなのかな。足を止めてくれないいんだよね」……なんと！　会場で即売会を開いている自分のCD（キムケンが永ちゃんや河島英伍をカヴァーした迷盤「稲妻伝説」。「若者へのメッセージソングです（健悟・談）」）の売り上げが芳しくないのを、嘆いてのものだったのだ。CDを売りたいためにリングに上がるなんて……らしくもないぜ。

このままじゃ済まさん！

（藤波辰爾）

■8月6日　ドラゴン、村上を秒殺

ドラゴンが自慢のパーマヘアを怒りで震わせた！「今年が最後」と誰も信用していない決意を胸に抱いて、選ばれし者の闘いG1に挑んだドラゴンにとって、無法ファイトでかき回す村上がゆるせなかった！　この日も村上はドラゴンをリングしたに け落とすなど、きっと本人も「ちょっとやりすぎちゃえ」と思いながらの大暴走。これに激怒したドラゴンはなんと！　G1史上最短の36秒で村上を秒殺してみせた！　でも技は首固め、ダメージゼロの丸め込み技……おおよそ制裁にはほど遠いフィニッシュ。そしてドラゴンは叫ぶ！「このままじゃすまさん！」

小原は桜庭より関節技が上手い
（ゲーリー・グッドリッジ）

■10月　新日の裏番長、『PRIDE』の門番と遂に対戦
んなこたぁない（コージー冨田風）



ドスカラスJr.のマスクを剥いでやりますよ（謙吾）
あのままいけば腕だけじゃなく足も折れた（ドスカラス）

■8月19日　ドス・ジュニア、謙吾を骨折病院送り
2001年度もっとも痛快だった一戦。試合前の謙吾の発言、「男の中の男〜」という謙吾の素敵なテーマソング、そしてドスカラスの試合後のコメントすべてが完璧だった。



出ると言ったもんはケツ拭けよ（三沢光晴）

■8月28日　ノアからZERO—ONEに選手貸し出し決定
ZERO—ONE側からノアに対しての度重なる参戦要求に、あからさまに嫌悪感を示すノア・三沢社長が放った、「しかたねぇなぁ」感漂う一言。

チックショ〜、どいつもこいつも馬鹿にしやがって!!（大谷晋二郎）

■8月27日　大谷晋二郎、遂にブレイク！
今や、プロレス界を正気の沙汰じゃない言動でプチ激震している大谷晋二郎のエポック・メイキング的名言。この発言は、真撃第2章においての邪道戦法をまざまざと見せつけられた大仁田厚戦後に放たれた。この発言で吹っ切れたのか、愚痴を大声で叫んだり、刀を振り回すようになるなど、もはや、プロレス界で最も危険、もとい、アブない男へと変貌を遂げるまでになった。



それは言葉の行き違い。プロレス界を代表する4人の試合をメーンにする
（藤波辰爾）

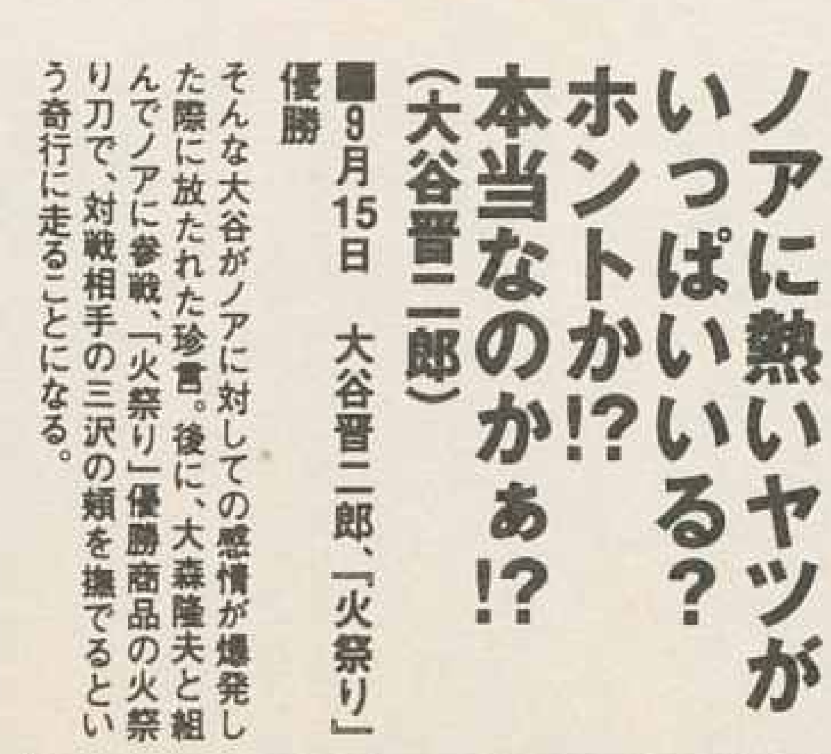
■9月1日　アントン10・8ドームで小川vs藤田ブチ上げる！
「金魚のフン」騒動の続く、ドラゴン×秋山劇場第2弾。秋山参戦のことなどすっかり忘れて「小川vs藤田はメーンを空けて待っている」と不用意発言をかましたドラゴン。それを聞いた秋山が不快感を示すと、舌の根も乾かぬ内に「プロレス界を代表とする4人の試合をメーンにする」と180度反対の意見を堂々と言い放ついつものコンニャクぶりをまざまざと見せつけたのであった。

え〜、本当なの? 猪木さんがこのカードを組んでくれるなら二つ返事ですよ。メインを空けて待ってます！
（藤波辰爾）

藤波さんがそう言うならそれで結構。俺を必要としないという方向なら、これが最初で最後になるかも
（秋山準）

ノアに熱いヤツがいっぱいいる? ホントか!? 本当なのかぁ!?
（大谷晋二郎）

■9月15日　大谷晋二郎、「火祭り」優勝
そんな大谷がノアに対しての感情が爆発した際に放たれた珍言。後に、大森隆夫と組んでノアに参戦、「火祭り」優勝商品の火祭り刀で、対戦相手の三沢の頬を撫でるという奇行に走ることになる。



猪木さん、百瀬さん、ありがとうございます
（アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ）

■9月23日　ノゲイラ、『PRIDE』王者コールマンに完勝
あえてノーコメント。

（藤波は）猪木さんにちょっかい出されても何も言えないグズ
（武藤敬司）

10・19別府でライガーと組み、藤波&西村の「無我師弟コンビ」の持つIWGPタッグに挑戦することが決定した武藤が、王者ドラゴンをコケにした！　「（藤波は）猪木さんにちょっかい出されても何も言えないグズ」「社長の肩書と選手のプライド、すべてをかけて出てこい！　どっちつかずのヤツなんかプロレス界に必要ない」と、ドラゴンの存在自体を否定！

今日の挨拶は西村に任せます!
(散々しゃべった後)(藤波辰爾)

■10月7日　「無我」復活

ドラゴン・ボンバーズに続き、またしてもうやむやのまま消滅するかと思われた「無我」が突如復活! その開会セレモニーでマイクを持ったドラゴンは、散々これまでの経緯を喋ったあとに、堂々「今日の挨拶は西村に任せます!」。いまのは挨拶じゃないよかよ!

これからは日本一のセールスドライバーを目指します!(仲野信市)

■10月7日　仲野信市、古巣新日本のリングで引退

昭和新日イズムを感じされる数少ない生き残り、仲野信市がこの日を最後に引退。実に感動的な引退式でした。

新日本プロレスのみなさん、元気ですかーーーッ!
(アントニオ猪木)

■10月8日　アントン、K—1のリングに登場

会場が違いますよ〜。その頃、藤田はマットに膝を打ち込んでました。



■6月14日　ヤマノリがオーちゃんを襲撃

振り返るたびに「あれは何だったんだろう?」と思う、ヤマノリのオーちゃんリング上襲撃事件。結局、小川と闘わず「PRIDE」を戦場に選び、アスエリオ・シウバに11秒殺されたヤマノリは、逆に観客から「お前こそ、もう終わりかよ〜!」と言われてしまうのであった。

天龍、長州、俺が組んで、いい時期に武藤、蝶野、川田、秋山らと闘いたい
(藤波辰爾)

■10月1日　天龍がドラゴンのWAR軍加入を示唆

天龍の「WARに出たことがある選手。長州、藤波もWAR軍に入る可能性がある」という発言に、ドラゴンがまたしても過剰反応した!「すぐは無理。でも全日本のリングに上がることは、やぶさかじゃない」と全日本に上がる意志があることを明言し、「昭和世代が業界のために踏ん張らないと。天龍、長州、オレが組んで、いい時期に武藤、蝶野、川田、秋山らと戦いたい」と例によって、15年遅れの「オレ達の時代」をアピール。普通、業界のことを考えたら後進に道を譲るものだが、ドラゴンにそんな理屈は通用しないのであった。

これからは社長として自分の意志を貫く!(藤波辰爾)

「無能社長!」(蝶野)、「バカ社長!」(猪木)、「グズ!」(武藤)と言われ続けてた男が社長就任2年4ケ月目にして遂に立ち上がった! マッチメークに口を出し続けるアントンに対し、「これからは社長として自分の意志を貫く」といまさらようやくの決意表明! 今後、迷走船長ドラゴンが舵を握るのかと思うと、新日の行く末が楽しみで仕方がない今日この頃である。

藤原さんとやるのは10年早かった
(高岩竜一)

■10月24日　GHCジュニア王者高岩、藤原に完敗

「真撃」が開催されるたびに「なんで俺、グローブなんてしてるんだろう?」といったムードが漂いまくる好漢・高岩竜一。いまや新日本とノア両団体の王座を制するという、史上初の快挙を成し遂げるほどジュニアでは地位を築きながら、この日、組長に完敗を喫するとこの発言。ちょっぴりプロとしては謙虚すぎるのであった。

勝ったぞ! 1・4小川待ってろ! それともうひとつ、藤田逃げるな!
(佐々木健介)

■10月28日　健介、巴戦出場決定トーナメント優勝

2週間前に完敗を喫した相手に「逃げるな!」って……。

キドってないで、馬鹿になれ!
(アントニオ猪木)

■11月2日　木戸修引退

"いぶし銀"木戸修の引退に対し、はなむけとして送った貴重なお言葉。よりによって、アントン駄洒落が送られた木戸の心情に同情。

藤波なら確実に防衛できる保証があるから、全日本も簡単にOKするでしょう
(武藤敬司)

■11月13日　武藤、三冠挑戦者にドラゴンを指名

「藤波だったら確実に防衛できる保証があるから」という素晴らしい理由で三冠戦の挑戦者に指名されたドラゴンが、持ち前のコンニャクぶりをいかんなく発揮して、「(3冠挑戦を)先に長州に譲って、後でおれが勝った方に挑戦するってのもいい」なんていう勝手な理由で、左ふくらはぎ肉離れで全治2ケ月の長州に挑戦権を譲ろうとしたりと不可解なドラゴンぶりを全開。



万が一俺が三冠を取ったら、迷わず我々の世代でベルトを回しあう!
(藤波辰爾)

勝つ前から、負けること考える馬鹿いるかよ! ここにいた……。

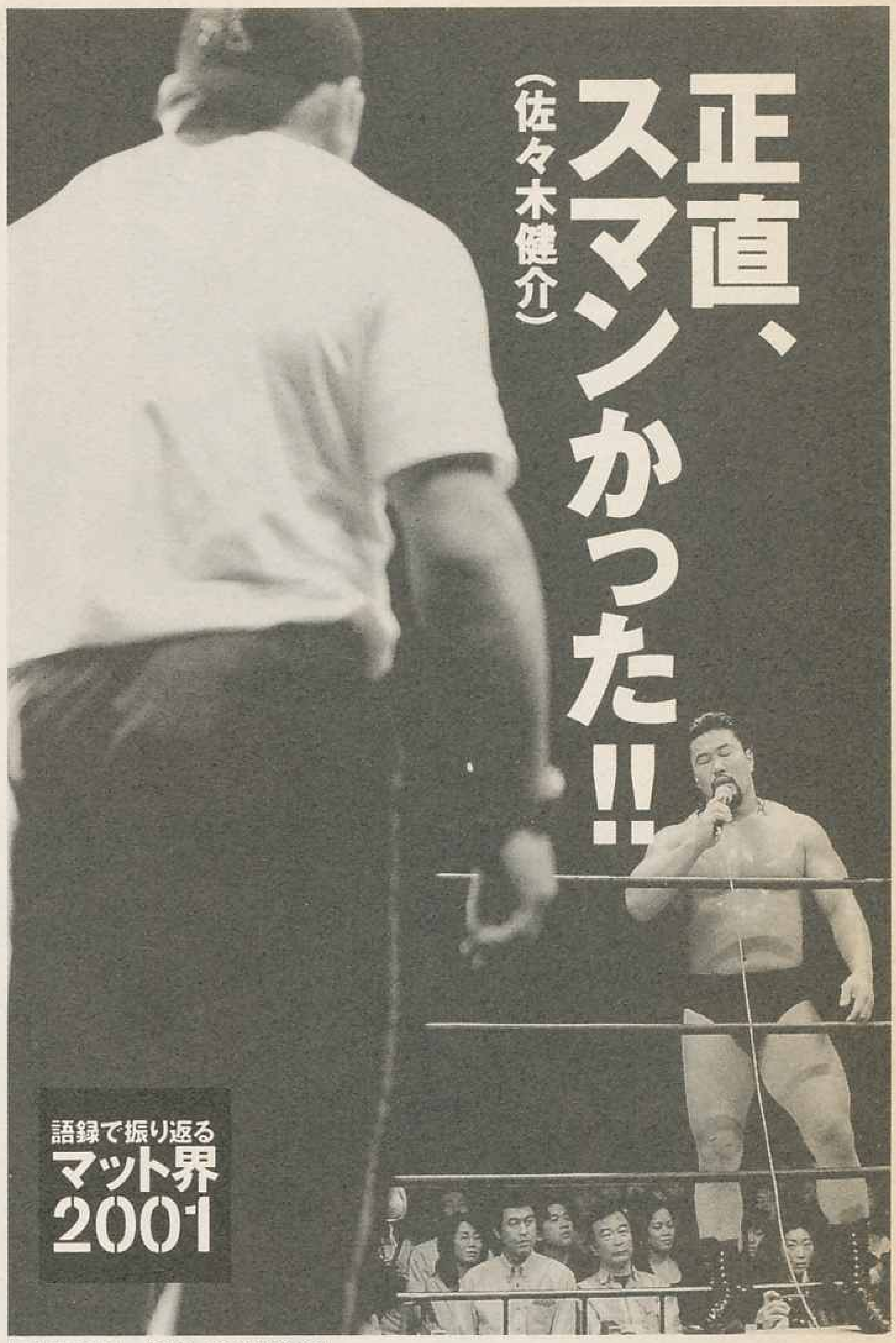
ケーフェイ!
(ゲーリー・グッドリッジ)

■谷津とグッドリッジ友情対談実現

「PRIDE」のリングで1度の激闘と1度の?闘を繰り広げた谷津とグッドリッジの対談が「紙プロ」誌上で実現。いつものように業界のタブーを頭からすっ飛ばしたトークを繰り広げる谷津に対し、ゲーリーが心配して「ケーフェイ」と一言。どっちがプロレスラーなのかわかったもんじゃないが、ミスター高橋本が出た今、もういいんだよ、ゲーリー……。

語録で振り返る
マット界2001

正直、スマンかった!!（佐々木健介）



■3月20日　健介、歴史的謝罪

2001年マット界流行語大賞を選定するとしたら、ブッチギリで大賞受賞確実な歴史的迷言。ノートンに敗れIWGP王座を失い「藤田……正直、スマンかったベルト」と謝ってしまったばかりに、アントンの逆鱗に触れ、藤田戦消滅。代わりの破壊王戦では惨敗。その後、ドン・フライの下で修行し、インディーVTに出場するもねつ造疑惑が囁かれ、VT特訓の成果を見せるべく出陣した復帰戦では藤田相手にいきなりラリアット……。ああ、健介って素晴らしい!

マッチメイク委員会の渡辺が勝手に決めやがった（ケンドー・カシン）

■11月23日　1・4ドームでの松井戦決定をカシンが暴露

来年の1・4、東京ドーム大会で、高田道場・松井戦が決まったのを聞いての発言。最近のカシンは、やけにフロントの名前（永島、倍賞など）を出す場合が多く、よっぽど腹に据えかねてるものがある様子。



格闘技界の頂点に君臨する猪木さんの毒をのみ込むことにしました（藤波辰爾）

■11月25日　ドラゴン、アントンにビンタ

飛龍革命2001勃発! あの88年の飛龍革命以来、ドラゴンが猪木の顔面に手を置いた……もとい、張った! それにしてもなぜ上半身裸……やっぱり不可解ドラゴン!

ボクを見た瞬間、彼（ヒクソン）の目がギラついた!（藤波辰爾）

■11月26日　ドラゴン、ロスでヒクソンと遭遇

ドラゴンがロスのレストランでヒクソンと遭遇! プライベートということで挨拶だけで終わったようだが、ドラゴンは「ボクを見た瞬間彼の目がギラギラ光った」と明かな勘違い。いまにも「俺だってヒクソンとやりたい」と言い出しそうな勢いで目をギラギラさせていた。

猪木さんの顔色がみるみる変わった。目もギラギラって光り出した（藤波辰爾）

■12月4日　ドラゴンがアントンに対戦要求

ヒクソンに続きて、アントンまでドラゴンとの対戦に目をギラつかせた! もちろんドラゴンの勘違い。妄言もここまで来れば立派だ。

あいつのへばりを予想してWタイトル狙っていたのに、乗ってこなかった。今ならベルト6本取れるチャンスだったのになあ（藤波辰爾）

■ドラゴン、しぶしぶ三冠、タッグ王座同日開催を断念

50歳近い自分のスタミナは棚に上げて武藤のへばりをなぜか予想! それにしてもせこい戦略。これぞドラゴン!

上半身裸で張り手ゴッコ……、まるでコントだな（蝶野正洋）

■東スポ紙上で蝶野が猪木批判

『紙プロ』読者が選ぶ2001年マット界名（迷）言大賞

1 佐々木健介「正直、スマン!」

2 桜庭和志「元気ですよーッ!」

3 石澤常光「一言……ありがとう。それだけです」

4 三沢光晴「オマエらの思うようにはしねえよ、絶対!」

5 高田延彦「忘れ物は小川」／武藤敬司「プロレスLOVE」

7 大谷晋二郎「熱いヤツ、集まれ」／ミルコ「高田はチキン」

9
藤波辰爾「我々は殺し合いをしてるんじゃないだ!」
アントニオ猪木「元気ですか! 元気があれば何でもできる!」
アントニオ猪木「くだらねえあ、これは」
大谷晋二郎「本当かあ!? 本当なのかあ!!」
橋本真也「破壊なくして創造なし」
乙葉「とても大きくてビックリしてます」
中西「安田のパンチはおばあさんが座る」
桜庭和志「もっと練習してきます」
高田延彦「オレは刺身のツマか」
安田忠夫「誰でも猪木軍に入れると思うな」
藤波辰爾「こんなときだから引退してられない」
カシン「石澤がベルト獲ったのか。よくやった、オレがもらっとく」
ハヤブサ「オレが命を懸けたFMWを見捨てないでくれ」
藤波辰爾「猪木、見てろ!」
シウバ「サクラバ、カカッテコイ」

佐々木健介ブッチギリの大賞受賞!!

最多迷言賞
藤波辰爾「俺だって三沢とやりたい」「こんなときだから引退してられない」「我々は殺し合いをしてるんじゃないだ!」「オレがKOKルールで闘ってもいい」など多数。

優秀名言賞
武藤敬司「プロレスLOVE」「元子さんはオレが守る」「藤波は中途半端なグズ」

劇場賞
★ケンドー・カ・シン　「中西にプロレス習ってる奴に、時間かけてられるか!」「中西は馬&鹿Tシャツを着てこい」「意味はない」（招待した松井の席に中西のTシャツをおくことについて）

発言テロ賞
アントニオ猪木　「テレ朝、死んじまえ!」「ドームが一杯になったフリするとか、そんなんじゃねえんだよ!」

紙プロ 特別賞
金原「エッ、マジ？　ギャラいくら!?」（高山の『PRIDE』出場について）
サスケ「行ったと言うより、むしろ行ってる」（TV番組で、覆面のままイメクラ通っていたのかと質問さ

㊗デビュー10周年　ボヤキ節久々に大爆発！
そして11年目の野望を吐露!!

金原弘光

祝、デビュー10周年！　これまでUインター、キングダムと2度の団体崩壊を経て、リングス入団。そして現在は外様ながらエースとして強豪ばかりと文字通り身体を張って闘い続ける金ちゃん。エンセンをして「最も過小評価されている選手」と言わしめる、その10年に渡る不遇の境遇を今宵もボヤキ倒します！

なぜだ!?
「目標は山崎一夫さん」



Boyaking 10th Aniversary

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

Boyaking 10th Aniversary

―今回はデビュー10周年を迎えたということで、10年間に渡る不遇のレスラー人生をボヤキ倒して頂こうと思います（笑）。とりあえず振り返ってみてどうですか、10周年っていうのは？

金原　気付いたら10年だもんね。もう10年かっていうのと、まだ10年かっていうのと半々だね。

―やっぱり入門したときに考えてたような10年後とは、ギャップがあったりするんでしょうか？

金原　あるよね。そもそも俺がUインター入って最初に目指してたのはね、山崎（一夫）さんになりたかったのよ。

―え！　山崎さん!?　それはまたなんで。

金原　なんでかって言うとさ、山崎さんって月1回くらいしか道場に来なかったのよ。それで試合やったらいい試合するわけじゃない。もう理想だったね（笑）。

―ガハハハ！　理想の省エネレスラー（笑）。

金原　練習はどっか他でやってたのかもしれないけど、とにかく理想だったね。団体背負わなくてもよくて、仕事のポジションもよくて、練習もどっかで自分で好きなようにやればいいって。もう、早く山崎さんになりたくってさ（笑）。

―早く楽なポジションになりたい（笑）。

金原　で、現役やりながら鈩の資格も取ったじゃん。それってプロレスラー辞めたあとも職があるってことでしょ？　まさに理想だよね（笑）。あんな理想的な先輩はいなかったよ。若いとき同期の前田（雅和＝引退）君ていたんだけど、彼と「いやぁ、山崎さんになりたいね」って二人で言い合った思い出があるよ（笑）。

―そう考えると、いまはエースとして団体背負わなきゃいけないし、若手を引っ張っていかなきゃいけないし、興行を締めなきゃいけないし、もちろん練習しなきゃならないしで、山崎さん的立場とは正反対ですよね（笑）。

金原　そうなんだよね（苦笑）。いまは練習しないと、どうしようもないからね。でも最近練習やってても面白くなくてさ、道場来るのが嫌んなってきたのよ。

―それはヤバいですね。

金原　ヤバいですよ。この前、永ちゃん（矢沢永吉）のコンサート行ったらさ、永ちゃんも「音楽やってて全然つまんないときがあったんだよね」って言っててさ、「あ、俺と一緒だ」って思ったから（笑）。

―ガハハハ、永ちゃんと金ちゃんが同じことを考えてましたか（笑）。

金原　でも永ちゃんはさ「あるときそれがフッと変わるときが来るんだよ。また音楽凄い好きになっちゃってさ」って言ってたのよ。だから俺もまた格闘技が楽しくなるときが来ると思ってさ、それで救われたんだよね（笑）。

―いやぁ、永ちゃんのおかげですね（笑）。

金原　だから、まだ俺はフッと変わる時は来てないけど、その日が来ることを信じて最近嫌々練習してるよ。

―何かのきっかけで変わるかもしれない、と。

金原　そうそう。いま、一皮剥けようとしてるところじゃないかな。サナギから成虫になるように。だから、物ごとをを極めるっていうのは、そういう壁にぶつかるんじゃないの。

―ぜひ一皮剥けてほしいですけど、産みの苦しみみたいな意味で、10年間やってきて今年が一番キツかったんじゃないですか？

金原　そうだね。2月の両国で肋骨折ってからずっと、今年はなんか怪我が多いよね、厄年でもないのに。

―前田さんは厄年ですけどね（笑）。

金原　その厄が俺に来たんじゃないかと思ってさ（笑）。

―ガハハハ！　文字通り厄介なモノが（笑）。

金原　だから前田さん、頼むからお祓いに行ってくれと思って。だって前田さん厄年でさ、思いっきり当たってるわけじゃん。スポーツ紙や週刊誌に変なこと書かれるわでさ、今年の前田さんて散々じゃない？

―ホント、そうですよね（笑）。

金原　それをさ、「人間万事塞翁が馬」で全て片付けるんだよね、格言で。そういう意味で前田さんは偉大だよ（笑）。男42は厄払い行ってもらいたいんだけどね。この前も前田さんに言ったのよ「若い選手もホントに怪我が多いから、道場をお祓いしてもらいたいんですけど」って。そしたら「そんなもん、塩撒いとけばいいんや」って言われてさ（笑）。

―それでお清め完了（笑）。

金原　トレーナーが「道場でお化けとか見たんですけど」って言っても「そんなもん、あらへんわ！」とかね。ホント道場はなんかあるんだよ。治療に来てもらってた先生が「道場で治療すると、どうもうまくできない」って言うしね。なんか、そういうことばっかりみんなから言われるからね、道場嫌だなとか思ってさ。だって俺だけじゃなくて、若い選手も怪我が多いのよ。滑川とか横井もやってるし、伊藤も、みんな怪我してるでしょ。絶好調なのは和田さん（レフェリー）だけだよ（笑）。なんかそういうこともみんな前田さんの厄のような気がしてさ（笑）。

―ガハハハ！　厄が伝染しまくってる、と（笑）。

金原　だってさ、所属選手もジャパンが4人離脱して、外人選手も4人ぐらい離脱してさ。それで道場内みんな怪我してるし、前田さん個人も騒がれてたら、これは前田さんの厄でしょ（キッパリ）。俺はそうとしか思えないんだけど。

―じゃあリングス再生は、まず前田さんの厄祓いから。

金原　そうそう。前田さんお願いします（笑）。

―それは紙面で大きく載せておきましょう（笑）。怪我の他にも、試合的に非常にキツいポジションというか、メインイベントを締める立場になってしまいましたけど。それはかなり影響しました？　春以降、金原さんの試合が堅いなというか、そういう気がしたんですけど。

金原　確かに慎重になってるよね。だから、冒険ができなくなってるかもしれない。前はもうちょっとリラックスしてたけど、固くなってきたね。やっぱそれはあるんじゃないかな？

―思いがけないところからハイキックが出たりとか、そういう意外性が少なくなってきた気はします。

金原　そうそう。でも、それは頑張ってやってくしかないかよ。最近、怪我も多かったし、調子もあんまりよくなかったからね。でも今は6月や8月ほど悪くないから。

―一気に試合の話も聞いちゃいますけど、12・21横浜の10周年記念試合はポール・カフーン戦が決まりましたけど、この選手はどんな選手なんですか？

金原　オレもゴールデングローリーに所属してて、ヒース・ヒーリングのスパーリングパートナーっていうことぐらいしか知らないんだけど。

―今度、リングスオランダ大会でメイン

Boyaking 10th Aniversary



リングス再生のためにも、前田さんには厄祓いに行ってもらいたいよ（笑）

イベント張るらしいですよ。

金原 あ、そうなんだ。それはきっとカフーンがヨープ・カステルをKOしたからじゃない？ オランダに行ったときヨープ・カステルの人気が凄くて驚いたんだけど、そのカステルをKOしたんだからメインも当然なんだろうね。

——リングス・オランダ次世代のエースみたいな感じなんでしょうね。そんな選手を10周年で迎え撃たなきゃいけないっていうのも、ある意味金原さんらしいですけど（笑）。

金原 嫌だよね、俺らしいかなぁ？

——最近は金原戦帰りはみんな出世してますし（笑）。

金原 そうそう、みんな出世してるもんね。なんだろうね、あれ（笑）。

——デイブ・メネーとマット・ヒューズがUFC王者になって、ノゲイラがPRIDE王者になって（笑）。

金原 （ヒカルド・）アローナもなんかなりそうだしね。ホント、逆の立場になりたいよ！

——試合で運を吸い取られてるんじゃないですか（笑）。

金原 だからこれからみんな俺とやりたがるんじゃないかな（笑）。たとえファイトマネー安くても「カネハラとやれるんなら出世できるからやるよ」とか言い出すんじゃない？

——ますます無名で強い選手が名乗り上げてきそうですよね（笑）。でもノゲイラやメネーの出世で最近ようやくファンも気付いてきたみたいですね。「金原は相当キツい試合で連戦してきた」って。

金原 だって、結局ずっとチャンピオンクラスとやってるってことでしょ、毎回、毎回。判定とかで負けても。だって、マリオ・スペーヒーなんかも、散々オレが強いって言ってたのにさ、みんなヒクソンの方が強いとかそういうこと思ってたでしょ？

——ボブチャンチン戦も下馬評では、ボブ有利という声の方が断然多かったですからね。

金原 あ、そうなの？ 俺なんかみんなに「マリオ・スペイヒー秒殺するよ」って言ってたからね。その通りだったたから、やっぱりなって思ったけど。だから、そういう人たちに頑張ってもらって、俺は一線を退いて様子を見てた方がいいかもしれない。もう疲れたよ。ホントに疲れた、いまは。

——金原さんのKOK以降の試合のDVDとか出して欲しいですよね。

金原 そうだね。あと、毎回ベストコンディションで出れるようになりたいよね。強い相手とやってるのに、ずっとできてないんだもん。それがおかしいよね。

——間隔的には3～4ヶ月に1回がベストですか？

金原 そうだね、年に4試合ぐらいがベストじゃない？ いま試合して怪我したらもう終わりだもんね。治す暇なく練習しなきゃいけないし。すぐ次の試合があるから。オフがないからさ、オフなしですぐ調整して、次の試合のための体作らなきゃならないでしょ？ 間に合わないよね、全然。ホントにキツいよ。エスケープも復活したし（苦笑）。

——恐れていたことが（笑）。

金原 あれはビックリしたよね。

——試合前に選手を交えてのミーティングみたいなものはなかったんですか？

金原 正式決定したっていうのは聞いてなかったよね。それで、ちょうど前田さんが道場に来たときにさ、「前田さん、新ルールは決定なんですか？」って聞いたのよ。そしたら「おう、決まったことや。しょうがないじゃん、わかってくれ」って。そう言われたら「わかりました」って言うしかないよね（笑）。

——事後報告（笑）。

金原 あれは焦ったね。「選手の意見はこうなんですけど」って言う暇もなかったね。でも海外だとエスケープありの方が人気あるみたいだね。

——ロシアとか、そうみたいですね。なんでなんですかね？

金原 長い時間試合が見れるし、展開があるからじゃないの？ やってる方はキツいけど、見る方は楽しいんじゃない？

——逆に言うと、ロシアやリトアニアなんかはまだファンがそういう段階なのかもしれないですね。

金原 ウチは時代に逆行してくから。

——選手が言っちゃダメですよ（笑）。

金原 でも最近リングスの興業とか見てても、ラウンドガールが一人になったりとか、段々淋しくなってきてさ、時代に逆行してるよ（苦笑）。

——確かにどんどんいまはどこもショーアップされた興行になって来てる中、リングスはどんどんシンプルになってきてますよね（笑）。

金原 花火上げろとまでは言わないけどさ。ラウンドガールが一人になったりとかさ、照明が暗くなったりとかさ。そういうところを縮小してっても、しょうがないんじゃない？

——格闘技もショービジネスですから、そういうのは大事ですよね。

金原 大事だよ！ 次につなげるためにどうしようかっていうのを考えなきゃしょうがないからさ。ホントは選手がそんなこと考えちゃいけないんだけど、言いたくなるような段階に来てるんだよね、興業の打ち方とかさ。平日に横浜でやるか？ とか思うもんね。

——1日ずれて土曜日だったら全然違うんでしょうけどね。

金原 それがわけわかんなくってさ。で「チケット売れない、売れない」って俺らのせいにしてさ。ま、それもあるだろうけど、そんなのたまんないよ、ホントに。

——いろんな意味でハード面のテコ入れは急務ですよね。

金原 うん。ホントは年間の試合スケジュールとかも出してほしいんだけどね。そうすりゃファンだって予定立てやすいだろうし。こんなこと選手が考えることじゃないんだけどさ。Uインターの頃から若い選手らとそういうふうに言ってたんだよね。だから余計目につくんだよ。

——暗い話になってきちゃいましたので、話題を変えますけども。ハード面はともかくソフト面、試合の方はシュートボクシングの選手が入って来たり、軽量級でも須藤選手とかいい選手が上がって来て、賑やかになってますし、評判は上がってきてますよね。

金原 試合自体はそれなりの試合をやってると思うよ。だからいま新しい選手が上がってくれてるけど、そのへんをどう契約していくかだよね。村浜（武洋）選手だってウチに上がって来たと思ったら、もう『DEEP』と専属契約結んじゃったでしょ。なんでそれをウチがやってないのかなっていうね。みんなそうやって踏み台にしようとしてるわけじゃない。その状態がよくないよね。例えば逆に『PRIDE』の選手が「リングスに上がりたいな」っていうような状況にしたいよね。いま、リングスと『PRIDE』どっちが美味しいかって言ったら、そり

Boyaking 10th Aniversary



Boyaking
10th
Aniversary

山本（喧）の復帰は反対だったよ
でもそれでリングスが盛り上がるならいいと思う

ゃあっちの方がどう見ても美味しく見えるわけだからね。そのへんは変えてかないとね。

―いろいろ選手が来る中で、山本喧一選手が今回リングスに戻って来るというか、久しぶりに出場しますけど、それについて何か感想はありますか？

金原 最初聞いたときは反対だったよね。

―やっぱり反対。

金原 あいつ、辞めたあとにゴチャゴチャ言ってたからさ、そんなこと言っといて、よく戻って来るなって。立つ鳥跡を濁しまくってさ、それでまた「お願いします」とか言ってるから、アホじゃねえかと思ったよ。でもいまはあいつが上がることによって注目が集まれば、別にそれはいいんじゃないかなって納得したけどね。滑川なんかも「やりたい」って言ってるし、だったらいいんじゃないかって感じかな。

―本人は「リングスジャパンの気持ちで」って言ってますけどね。

金原 いつジャパンに入ったんだよ（笑）。入ったんならまず道場に練習しに来いよ。

―来たら受け入れ態勢は？

金原 来たら別にいいけどさ、彼はもうジャパンじゃないでしょ。『パワー・オブ・ドリーム』の館長だか取締役だか、そういう肩書がある人だからね。

―高阪さんが日本に帰ってきましたけど、前田道場にも来てるんですか？

金原 来るよ。週に2回ぐらい。

―じゃあ高阪さんも忙しいですね、週3回ケビンさんのジムにある自分のクラスで教えて、週1回小田原で教えて。それで自分の練習もあるでしょうからね。

金原 彼、体力あるからね。オレなんか日曜の休み以外に水曜あたりにも休まないとキツイんだけど、TKなんか「週1休みで全然平気ですよ。寝たら治ってます」っていうからね、あの人は凄いよ（笑）。

―人間の回復力とは思えない（笑）。

金原 格闘技クラスの名前が『ゴリラ・スクエア』だからね（笑）。

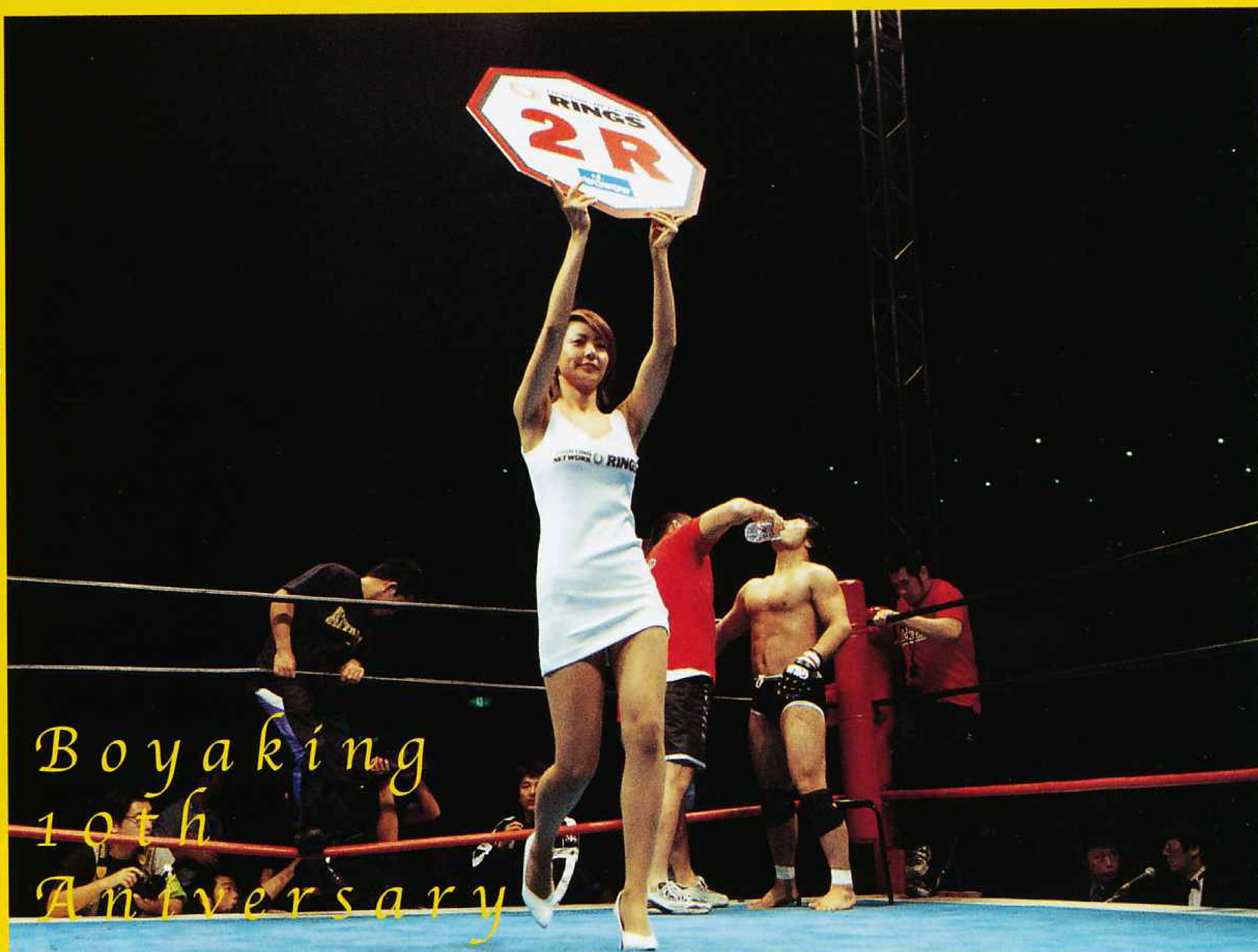
―『G―スクエア』です！（笑）。

金原 でも、そのTKが「もうあんまり長く現役できない」とか言ってるからさ、オレなんかもっと厳しいのかと思ってさ（笑）。いま31で、40ぐらいまでできればいいと思ってたんだけど、最近焦ってるよ。

―では、これからはますます一戦一戦が大事になってきますよね。そんな中でいま闘ってみたい相手とかいますか？

金原 具体的に誰っていうより、毎回注目されるような相手と、いい会場でやりたいよね。

ラウンドガールが何人もいるような きらびやかな舞台で闘ってみたいよ（笑）



―きらびやかな会場で（笑）。

金原 そうそう。ラウンドガールが何人もいるような（笑）。リング下に控えのラウンドガールもいるような（笑）。

―できればエスコートガールまでいるくらい（笑）。

金原 そうそう（笑）。それで試合前なんかも控室に綺麗な女性リポーターが来て、控室の中の表情を伝えたりとかさ、そうなるのが一番いいよね。それでわざとカメラに「出てけ、この野郎！」って怒鳴ったりとかさ、一度でいいからやってみたいよね（笑）。

―ガハハハハ！ それがプロの世界だろう、と（笑）。

金原 そうですよ！ それでアナウンサーがインタビューに来たら張り手やってね（笑）。理想ですよ、それが。でもファンも控室から見たいんじゃないかなぁ。ボクシングなんかもやってるもんね。

―最近プロレスではそういう番組作りないですけど、昔はコマーシャル前に控室前でプッシュアップする映像とか、よくありましたよね。

金原 そうそう！ ああいうの見るとさ、盛り上がってくるよね。昔、ディック・マードックがIWGPの決勝で猪木さんとやるときに、国技館の控え室の映像が流れてさ。そのとき試合前にディック・マードックが相撲のテッポウしてたんだよね。それが鮮明に覚えててさ、俺、選手になって初めて国技館の控室に行ったとき、まずテッポウしたもんね（笑）。

―ガハハハ！ やっぱりそういうの大事ですよね。

金原 そうだよ。猪木さんが「やる前に負けること考える馬鹿いるかよ！」ってバーンて張ってるの見てさ、「おぉ凄ぇ！ これはマジだぜ！」って思うわけじゃん。

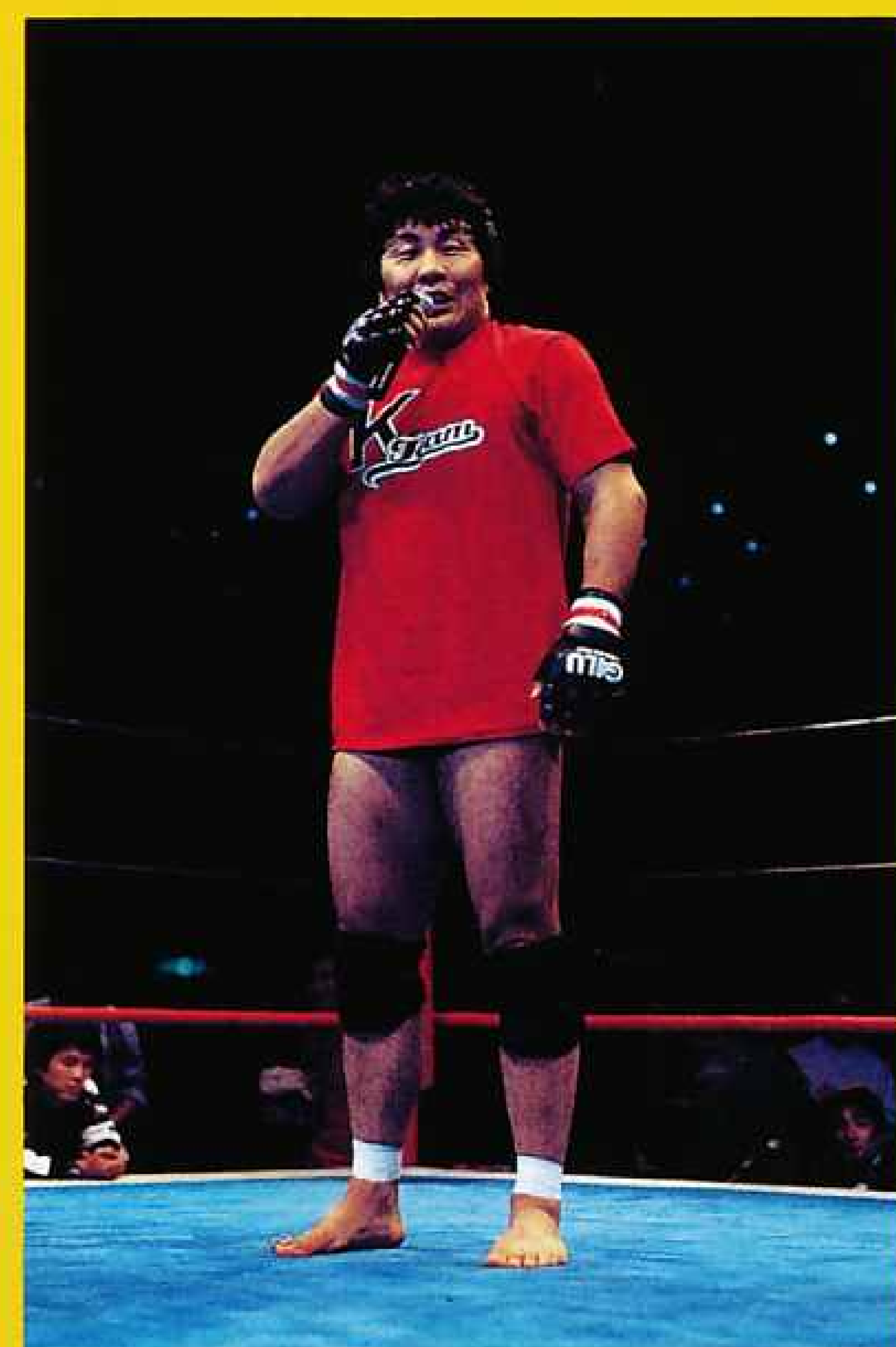
ミルコやシウバとはやってみたいね 大晦日はいちおう空けておくよ（笑）

――何年経ってもそういうシーンは忘れないですよね。

金原　忘れないよね。藤波さんがどっかで猪木さんを張り返したときも「うわっ、なんで張るんだろ?」とか思ってさ、怖かったもんなぁ。あのシーンがあったから俺、この世界入って先輩に張られたら張り返さなきゃいけないんだってずっと思ってたもんね（笑）。

――ガハハハ！　いつか金原革命を起こさなきゃいけない（笑）。

金原　そういう世界なのかと思ってたの。先輩といえども、やられたらやり返さなきゃいけない世界なんだと思って。



今年は苦しい闘いが続いていたが、10・20代々木大会でケリー・ジェイコブを3度極めて完勝。また連勝街道を突っ走ると宣言。山ちゃん目指してがんばれ金ちゃん！

――猪木さんで思い出しましたけど、ホントは猪木軍vsK―1なんて、試合内容的には金原さんが一番ピッタリみたいな感じですけどね。

金原　出たいよね。猪木軍とやってもいいし、K―1とやってもいいし。

――どっちでも出れますか（笑）。

金原　どっちでもいいよ。

――ミルコ・クロコップと金原さんなんかやったら面白そうですけどね。

金原　そうだね。1回やってみたいよね。

――ちなみに金原さん、大晦日のご予定は?

金原　ないよ（笑）。いちおう空けとこうかなぁ?　でもカードまだ発表してないんでしょ?　俺、オファー来れば喜んで出るよ。まぁ、前田さん次第だけどね。俺よりも前田さんがOKするかどうかじゃん。俺的にはOKだから。前田さん、よろしくお願いします（笑）。

――今回は前田さんへの要望がたくさんありますね（笑）。

金原　怒られないかなぁ?　やんわりと書いといて。

――わかりました（笑）。では最後に11年目への目標を聞いて終わりにしましょう。

金原　目標は山崎さん！

――ガハハハ！　やっぱり山崎さんですか（笑）。

金原　一日も早く山崎さんのようになれるように頑張ります！（笑）。

【01年11月28日／前田道場にて収録】



Wエースが揃い踏み

新プロジェクト発進間近!

須藤元気

［ビバリーヒルズ柔術クラブ］

満を持して

『紙プロ』初登場!

総合・中軽量級の

矢野卓見

［烏合会］



おまっとさんです！　以前より読者から多数届いていた「ヤノタクのインタビューが読みたい！」という声に応え、遂に矢野卓見『紙プロ』初見参！　今回は一緒に練習するなど接点のある須藤元気との対談。ヤノタクはDEEP、須藤はリングスと、お互いに大一番を前にした２人の居酒屋トーク（アルコールはナシ）をお届けします！

聞き手／大坪ケムタ＆松澤チョロ

撮影／丸山剛史

designed by さおとめの事務所



最初、矢野さんと会った時、靴下が赤と青だったんですよ（笑）

矢野　なんで『紙プロ』は今まで俺、出してくれなかったんですかね？（笑）。

——いやぁ、前から「ヤノタクを出してくれ」って声は多かったんですけどね。

須藤　矢野さんといえば「あの道場」の話ですからねぇ（笑）。『紙プロ』的にまずかったりするんじゃないですか？（笑）。

——いや、マズイとかマズくないとかじゃないですよ！　というわけで、今回は「あの道場」の話以外で盛り上げようということで、よろしくお願いします！（笑）。

矢野　そんなもん、俺が独り言で喋ってたって言えばいいんだよ！　あと例え話とかで言ってたとか（笑）。このTシャツだって「エセ骨法」って書いてあるって、よく言われるけど、コレは正式には右から読むんだから。「法骨セエ（ほうぼね・せえ）」って。

——それは初めて知りました（笑）。今回は矢野選手と須藤選手の対談という形でお願いしたんですが、二人の繋がりって分かんない人もいると思うんですよ。

矢野　はじめましてって感じかな（笑）。

須藤　普段からその格好（作務衣）なんですか？（笑）

——アハハハハ！　何を今さら（笑）。お二人の最初の出会いは、矢野選手が率いる烏合会ということで。前回の須藤選手のインタビューの時にも伺ったんですけど、元々どういうきっかけで須藤選手は烏合会で練習するようになったんですか？

須藤　以前レスリングの練習を西沢さんって方とやってて、その人シューティングとかもやってたんですよ。それで自分も総合やろうと思った時に紹介してもらったのが烏合会。それで「総合教えてもらうならこの人がいい」って教えてもらったのが矢野さんで。最初会った時、靴下が赤と青だったんですよ（笑）。

——それは印象的すぎます（笑）。

須藤　右が青で、左が赤で。「これはタダモノじゃないな」と思ってたら、ホントにタダモノじゃなかった（笑）。

矢野　キカイダーだよ。

——そっち系好きみたいですからね。その頃、烏合会っていうのは、他にはどんな選手が練習してたんですか？

矢野　ワイルドフェニックスとか、まぁその時々によって違うから。

須藤　結構、いろんな人いましたからね。まぁ、出たり入ったりみたいな感じで。

——道場とかでガチッと教えられるよりも、やっぱりそういう環境の方がやり易かった？

須藤　そうですね。自分は、まだその時アマチュアだし、総合もよく分かってなかったんですけど、出稽古とかやらしてくれる所って他はそんなに無いじゃないですか。ボクは、ただ飛び込んでいって、また飛び込んで次は菊田軍団っていう感じでアチコチで練習して。

矢野　基本的にレスリングは出来てたから、それが良かったんじゃないのかな。

須藤　教える程じゃないんですけど、レスリングがある程度出来たんで、それを教える代わりに、寝技を教えてもらってました。

矢野　何にもなくって最初っからウチだったら、ずっと下しかいれないよ（笑）。

——二人は結構、練習の時は教えあったりとかしてたんですか？

須藤　ボク、教えてもらってばっかりです。

矢野　元気君に教わっても出来ないからね、俺は。

——レスリングは出来ませんか（笑）。

矢野　出来ない（笑）。

須藤　ボクは（総合の）ベース自体、一番最初に矢野さんに教えてもらったようなもんですからね。元々自分もトリッキーなものが凄い好きなんですよ。そこに矢野さんにそういう変わった技とか教えてもらって。凄いピタッと来たっていうか。

——師匠が良かったんですね。

須藤　そうですね（笑）。

——トリッキーなのが好きっていうのは、やっぱり性格的なものなんですかね。

須藤　そうですねぇ。でも、みんな好きなんじゃないですかねぇ、何か人と違うのって。

矢野　同じようなレベルのことをやるんだったら、正面突破するより違ってる方が目立つでしょ。みんな街で同じ制服着てボウズ頭だけど、一人だけ眉毛がないみたいなさ（笑）。

須藤　変な風に意地張ってますね、それ（笑）。

——確かに（笑）。でも矢野さんって基本的に練習の時からトリッキーな動きはしたりするもんなんですか？

矢野　いや、練習の時はトリッキーっていうか…。

須藤　矢野さんのはトリッキーとは違いますよね。なんか、「変」なんですよ（笑）。

——トリッキーとは違うんだ（笑）。

須藤　自分のスタイルはなんか、自分でも言うのも何なんですけどトリッキーだと思うんですよ。でも矢野さんは「パパパパッ！」ていう早さじゃなく、なんか「のそ〜っ」と。

——アハハハ！　先の読めなさ加減がちょっと他の違うっていうか。

矢野　俺の中では、あれがオーソドックスなんですよ。

——これがオレのスタイルだ、と（笑）。

矢野　アレが自分の中で積み上げてきた感じなんですよ。だいたい総合って俺が始めた頃はセオリーってなかったんで。グレイシーっていうのがガードとか提示はしてたんですけど、ホント見よう見まねでずっと意味分からずやってただけなんで。特に日本だとみんな同時に「ヨーイドン」だったわけだから。

——そういう意味で総合を教えてくれる指導者が、ほとんどいなかったんですね。

矢野　要は教える人間がいない中でね、じゃあ「どういう風にやればうまくいくのか」っていうので試行錯誤やってたら、ちょっとセオリーとは違う形になって。

——たまたま自己流を通してたら今の形に落ち着いたと。

矢野　なんて言うんですかね。もちろん、やっぱり体格的な部分もあるし、あとはそれこそスタミナとか、そういう身体能力とモノの考え方。まぁ、あとは育った環境とか（笑）。

——なるほどなるほど。

矢野　多分そういう部分の偶然の必然じゃないですけど、そういう環境にいたからこそ出来たものだと。もし木口道場入ってたらまた違ったような形にもなるかも知れないし、どっかの修斗のジムとか、SAW入ったりしてたらまた違ったろうし。

須藤　ホント、骨法さまさまですね（笑）。

矢野　ホントに先生に頭上がんないですよ。



酒は飲めないというヤノタクと、プロテインをグイッと飲み干した元気の居酒屋トーク・スタート！



矢野卓見
中軽量級Wエース対談
須藤元気

だからもう、ホント足向けて寝られないですね。ケツ向けて寝てるけど（笑）。

――アララ。須藤選手はそういう師匠に付いて築き上げられた部分って大きいですか？

須藤 その後、渡米して、あっちで矢野さんに教わった技とかやると、「どこで習ったんだ？」って逆に驚かれてたんですよ。「ヤノって人に教わったんだよ」って言って。

――「日本に凄いヤツがいる！」ってビバリーヒルズで言われてたんですね（笑）。

須藤 そうですね（笑）。ＴＫシザースとか、ああいうのは自分が渡米する前から、矢野さんやったりしてましたから。

――あ～、そうなんですか。特に名前とかはつけずに？

須藤 別につけてなかったですね。もうホント普通にやってて。他にも今の総合で定番の逃げ方とかも、まだ一般的になる前に矢野さんから教わってたんで、あっち行っても驚かれるようになりましたね。

――もしかして、センタク挟みとかも、だいぶ前からの技なんですか？

矢野 そうですね。それこそ寝技始めた頃からやってますね。だから、ＴＫシザースもそうなんですけど、誰でも普通にやろうとすると思うんですよ。なんかやれそうだから。

――あぁ、確かにそうですね。

矢野 出してみると、「あぁ！」って思いますけどね。なんて言うんですかね、素人から始めて単純にマウント取られたら、まず足引っかけようとか思うじゃないですか？

――そうですね、それでなんとか逃れようと。

矢野 ただ、やろうとしてもなかなか出来ない。だから、やるにはどうしたらいいかっていう。出来るときもあるし出来ないときもある。じゃあその違いは何だってなる。それは「技術」って部分ですよね、体の大きさとかじゃなくて。要は誰がやってもそういう風にやれば出来るし、出来ない人はそこの部分が疎かになってるから出来ないっていうだけで。それは全部の技がそうだと思いますけどね。だから、技が変わってるって言われるのは、やっぱり使う頻度が、みんなと違うだけだと思うんですよね、単純に。

須藤 だけどセンタク挟みはできないッスよ、アレは（笑）。

矢野 でも、あんまりアレ、なかなかうまく極められないよ。

須藤 いや、やっぱり腕が違いますよ。なんかコツがあると思いますよ（笑）。

――コツが必要ですか（笑）。

矢野 コツっていうより、多分、相手の頭の大きさとかそっちの方が重要なんだよ。

――こっちの足が相手の首にハマるかどうか、みたいな。

矢野 あとは「これはイケそうか？ イケなさそうか？」って感覚的部分だと思う。「これハサミで絞まるのか？ それとも絞まらないけど、うまく引っかかって相手コントロールできるか？ これじゃちょっと抜けられちゃうかな？」って感じて、その後どう動くかってのは決まってくるだろうし。

――流れで変わるでしょうからね。で、須藤選手の方は総合を習い始めた時点で、いずれどこかの団体でプロデビューしたいっていうのがあったんですか？

須藤 そうですね、もうパンクラスに出ようと思ってて。当時確立してた総合っていうとパンクラスぐらいでしたからね。

――矢野選手はそういう「プロの格闘家として喰っていくぜ！」っていう野望は無かったんですか？

矢野 「やってければいいなぁ」とは、ぼんやり思ってたけど、どうやってやりゃあいいのかよく分かんなかった（笑）。

須藤 ボクも凄く薦めてたんですけどね。「プロでやんないんですか？」って言ったら、「俺、根性ないから。体力もないし」って（笑）。「勿体ないなぁ、この人。絶対イケるのに」って思ってましたけど。

矢野 今にして思えば、やっぱり続けてたから（プロデビュー出来た）ってのはあるけど。でも逆に言うと、逆にプロを目指してなかったからなれたっていう。プロ目指して、なれなくて「じゃあ、やめた」ってなっちゃったらそこで終わりじゃないですか？

――変なときにデビューして、そこで終わりってこともありますからね。

矢野 まぁ、そればっかりは早くプロデビューできたからいいとか、遅いから出来るもんじゃないっていうか、タイミングですね。ま、俺にとっては結果的には全部いいタイミングだったと思ってるけど。

――順調満帆にきてると。結局プロデビューってコンテンダーズ２０００（昨年7月1日ＺＥＥＰ ＴＯＫＹＯで開催、門脇英基にセンタク挟みで一本勝ち）になるんですっけ？

矢野 まぁ、そうですね。メジャー・デビューって感じで。まぁ、アレが出世試合みたいな（笑）。

――じゃあまだプロ一年生なんですね（笑）。

矢野 だから、そのコンテンダーズでたまたまセンタク挟みとか変わった技で極めれて。だから、そういう意味ではホント運が良かった。やっぱ運、ですかね。

――あれが普通に判定負けとかで終わってたら、それで終わってた可能性もあると？

矢野 そのあともチャンス与えてもらったから、ある程度は出来ただろうけど。ただアレで、（見る側が）「もういいや」ってなっちゃってたらねぇ。

――そうですね。注目のされ方は絶対違いますからね。実際、あの試合から矢野＝センタク挟みになっちゃったわけですから。

矢野 でもセンタク挟みで勝った試合ってその一回だけなんですよ。もっと得意な技いろいろあるんですけどね。

――あの時の印象があまりにも強過ぎちゃったんでしょうね。

矢野 だから結局、さっきの話じゃないけど、みんながやってる技より、誰もやってない技の方が注目されるっていう。別に注目されないはね、俺としてはどうでもいい話なんですけど。やっぱそれが三角絞めだったりすると、話題にもならず普通に流されちゃうじゃないですか（笑）。まぁそういう意味ではね、トリッキーな技とかで勝ったりすると、同じ一本勝ちでも、ＫＯとか絞め落としたりするのとは評価も違うから。そういう意識がプロになったってことでしょうね。簡単に狙えるもんじゃないですけど。

須藤 ボクのジャイアントスイング（からの足関節）も3試合ぐらいやって、4試合目ぐらいでやっと決まりましたよ。

――常に狙ってはいるわけですね。

須藤 グラウンドになったら絶対やろうと……特にガードになったら。

――状況で出せる技は限られますからね。でもその時のコンテンダーズっていうのは二人の試合がダントツで沸きましたよね！（須藤はメインで宇野薫と対戦、判定勝ち）

矢野 バクチと一緒だと思うんですけども、プロだったら大きく勝った方がいいわけだし。結局、小さく勝っても負けても一緒。どうせ勝つんだったら派手に勝った方が嬉しいし、地味に判定勝ちしても、誰も憶えてないじゃないですか？ そこがプロかアマかっていうことなんだろうけど。

須藤 ボクはそういうので足りない部分を補うために、入場パフォーマンスをまず（笑）。

――アハハハハ！ いま「プロ意識」って言われましたけど、矢野さんの場合、アマチュアの大会、それこそアブダビの予選とかでも、派手な試合をしてましたけど、やっぱり客の目はかなり意識してるんですか？

矢野 それはもう単純に俺はプロレスファン



センタク挟みで勝った試合って一回だけなんですよ。もっと得意な技あるのに

だったんで、空気が分かるんです。自分で自分の試合っぷり見て、「ここはちょっと意味ない動きでも動いとかなきゃダメだなぁ」とか思いますからね。つまんない試合しちゃったら、後でビデオ見ても「あの時、アレやっておけば良かったかな」とか思っちゃうし。

——自分の試合中でも、相手だけじゃなくって客のことも見えてるんですね。

矢野 膠着したりしてお客さんが引いてるのを見ると焦るんですよ。「何かしなきゃ忘れられてしまう！」って（笑）。

——でも、それがやっぱりプロですよね。

矢野 多分、そういう性格的な部分っていうか、単純に生まれついたモンなんだろうね。まぁ、末っ子だからっていうのもあるけど。

——アハハハ！ やっぱり、育った環境は大事なんですかね（笑）。

矢野 やっぱねぇ、一番上は黙ってても相手にされるけど、末っ子は何かしないとかまってもらえないから（笑）。

——それは説得力ありますね（笑）。でも、矢野さんはプロレスファンだったんですか？

矢野 昔はそうでしたよ。でも、今のプロレスラーとか見てても、俺の中では、みんな前座クラスなんですよ。

——おお〜！ また凄いこと言いますねぇ。でも、それはどういう意味なんですか？

矢野 深い意味はなくて、記憶が黄金時代で止まってるだけで（笑）。UWFが出来た頃で、感覚的に多分止まってると思う。

——よく観ていた頃、前座だった選手が、いまトップでやってるって感じなんですね。UWFまでは見てたわけですか？

矢野 う〜ん、新日が一番見てたかな…。やっぱりホーガンとか、要は『プロレススーパースター列伝』とか、ああいうのやってた時代ですね。

——それがプロレスから離れたのは何故なんですか？

矢野 ターザン山本が『週プロ』で「プロレスは八百長」って書いたから、「あぁ、そうなんだ」って思って。



前田社長も歴史好きで、凄く話して合う部分がありまして（笑）

——プロレスから離れたのはターザンが原因だったと（笑）。

矢野 「真剣勝負をちゃんとやるプロレスはUWFだ！」って書いていて、「あぁ、そうなんだ」って思って、それからUWFです。

——まぁ、八百長と直接書いてはいないと思うんですけど（笑）。

矢野 いや、もう俺がそう受け取ったんで。というか、「そう受け取れ」って書いてたハズですよ。

——やっぱり『ケーフェイ』とかも読んだんじゃないですか？

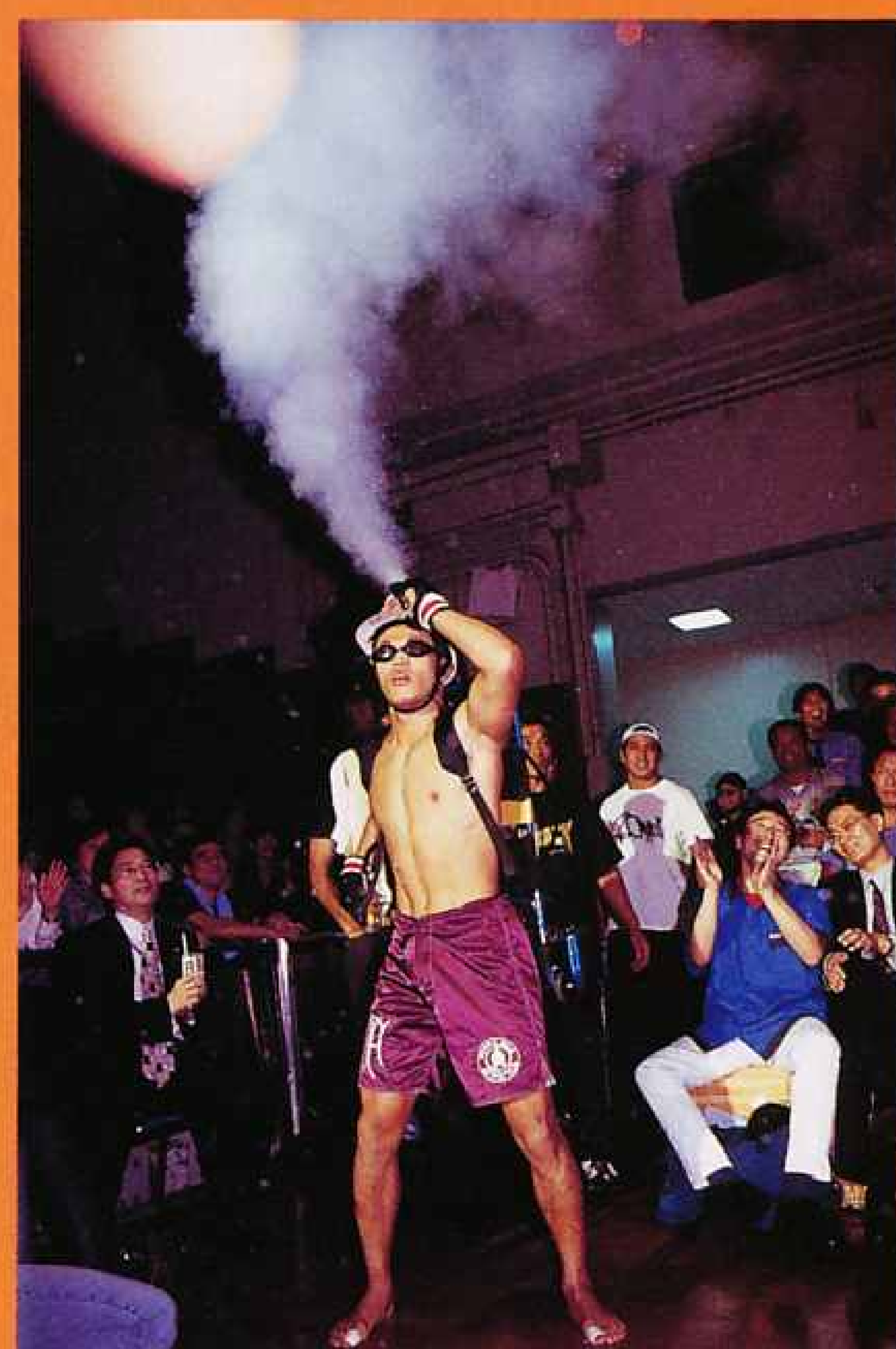
矢野 あぁ。で、またUWFが崩壊になって、その後やった対談かなんかで、「UWFもプロレスだったんです」って書いてあるのを読んで「えっ!?」って。「ターザンがUWFは格闘技って言ってたのに」って（笑）。

——そこでもまた（笑）。

矢野 「オイオイ、ちょっと待て！ 俺はお前に騙されたよ」って。それで、ウチの先生がターザンと仲良くて、ちょくちょく顔出すんですよ。それを複雑な気持ちで「オイオイ、今までよく嘘つきやがったな！」って思って見てましたよ（笑）。

——さすがに面と向かっては言えなかったんですか？（笑）。

矢野 いや、言ってました、心の中で（笑）。



——アハハハ！ そういうのもあって、リングスで試合に勝ったあとに、ターザンを指さしてのパフォーマンスをしたわけですね。

矢野 パフォーマンスっていうか、「お前、何でいるんだ！」って（笑）。

須藤 これ書いたら、怒りますかねぇ？

——いや、大丈夫だと思いますけど（笑）。

矢野 結果的に俺を格闘技の道に歩ました人間ではあるわけですからね（笑）。結果的に良かったかも知れないですね。

——最近、ミスター高橋さんが出された本が話題になってるのはご存知ですか？

矢野 あれも、普通にズーッとプロレス見てきた人間だったら、「今さら言われてもねぇ」って感じですよ。

須藤 かなり波紋を呼んでるんですか？

——呼んでますね。

矢野 （遮って）だからそんなんでショック受けるのは、もう「プロレス最強！」とか未だに信じ込んでる、オツムの足りない脳味噌溶けてるようなバカばっかりなんだから。

須藤 そうなんですか（笑）。

矢野 ハッキリ言ってね。だから、それこそ子供の頃からテレビとかで見て、「プロレスは八百長」って言う人たくさんいましたからね。まぁ、政治の方が八百長だろうけど。

——いきなり政治に飛びますか（笑）。

矢野 昔だって、それこそ新間寿がユニバーサル作って、ホーガンも来る、アンドレも来るとか言って、「ホンマかいな？」って言ってやってたのが、なんか途中から、ちょっと格闘技っていう方向になって、「今までみんなが怪しいと思ってたものは一切排除します」みたいなことをやりだしたじゃないですか。やっぱり、あの頃も八百長を匂わすような情報もいっぱいあったし。

——オレはそう受け取ったと（笑）。

矢野 受け取った（笑）。それに、やっぱりレスラーが好きだから、何でも知りたいじゃないですか？ でも知れば知るほど、これは格闘技とは別のベクトル向いてるって思って。そういう人の受け皿としてUWFはあったと思うし。まぁ、自分はUWFの試合は見たことなかったんですけど、雑誌で見てるだけで見た気になってましたね。

——情報だけ得て、「そうだ」ってターザンに教え込まれてるっていうパターンですね。

矢野 ただある意味ね、何か、それが自然のような気もするしさ。どこの国の歴史でも、もし格闘技っていうが出来てくるとすれば、多分そういう形に辿ってると思うんだよね。やっぱり最初は何もないわけじゃないですか。何にもないとこからいきなり、「さぁ、潰しあえ！」って言ったら、それこそ怪我人の続出じゃないですか？ 「あ、これは危険だから無理なんだ」っていうところから、「じゃあ、ショーでやりましょう」となる。でもショーって言っても、お客さんにはガチンコでやってるって見せないと盛り上がんないから。その中でやっぱり嘘ついてるのが心苦しくなって「じゃあ、ホントにやりたい」っていう人も出てくる。そんないろんな思いが集まってきての歴史だと思うんですよ。だからそういう意味では、やっぱり一番の貢献者はやっぱり前田さんだと思いますよ。

——おぉ〜、そこで前田さんですか。

矢野 よく、ガチバカみたいなのが前田さんの試合とか悪く言ったりしてるけど、俺が見たら、ちゃんと格闘技やってましたからね。スーパー・タイガー戦とか。

——その試合は会場で見てたんですか？

矢野 いや、この前、スーパー・タイガーのDVD買ったら入ってた（笑）。

——わざわざ買ったんですか（笑）。

矢野 見てたら、やっぱり、その試合は異質な感じで。まぁ異質なんか言ったら失礼だけ



矢野卓見
中軽量級Ｗエース対談
須藤元気

ど、いま見たら普通の、当たり前の格闘技で。

——急所蹴りとかで揉めた試合ですよね？

矢野 そう。だから、「なんでこれで揉めんの？」って思えるぐらいで。なんでこれが危険なケンカマッチって言われるかくらい普通のスポーツライクな試合でしたけど。

——いまのレベルで見ちゃうと、そう見えますけど、でも当時では、ああいう試合はケンカマッチになっちゃいますからね。

矢野 多分あの時は、それこそみんなでプロレスやってたわけじゃないですか？　で、まぁ燃えた流れで「ガチでこのルールやってみようやん」っていうのがあったと思うんですよね。で、やってみたら意外や意外、前田選手、圧倒してしまいました、と（笑）。佐山さん、アレでちょっと心折れたんじゃない？って俺は見てましたね。

——そういう見方をしていたわけですか。

矢野 いろいろ言い訳は言ってるんだけど、試合見たらわかりますよ、それは。やっぱり人間は行動に出るから。口ではいくらでも取り繕っても、絶対に行動で本音が出るから。結局、前田日明がＵＷＦに残って、佐山聡が去ったのは、要は負けたからだと思うよ。

——前田さんなんかは、「ＵＷＦ時代も、最初の頃はアキレス腱固めとか出しても沸かなかったけど、段階を経て今の総合のスタイルが確立してきた」というようなこと言ってますけど、そういう意味では、前田さんの考えが分かるっていう部分があると？

矢野 歴史っていうのは大体そういうもんじゃないですか？　要は理解してもらえないと支持者は付いてこないですから。うまく導いてくれれば、引っぱれられるわけだけど。あとはもう単純に技術的にまだ、それを出来る段階じゃなかったってことだと思うけどね。だからその部分ではやっぱりグレイシーの功績はもの凄い評価できるし。そこにプロレスっていうものが全て合わさって、総合って出来てると思うし。

須藤 そういう意味ではグレイシーはやっぱ凄いですね。ヒクソンがいなかったら総合はここまで実際になってないですよ。

矢野 まぁ単純に興行って部分でもそうですけど、技術的に、総合格闘技っていうものを成立させたのはグレイシーですよ。

——それは言えますよね。それで、二人は揃って９月のリングス後楽園大会にも出られたわけですけど、前田さんの印象を、改めてお聞きしたいんですけど。

矢野 まぁ、一言で言うとスターですよ。今のおじさん、おばさん世代の石原裕次郎みたいな感じだよね。もう、俺なんか、それこそ急にヨーロッパ代表でＩＷＧＰに出て、武道館で7色のスープレックスって言ってた時から見てたから（笑）。

——初対面はどんな感じだったんですか？

矢野 俺はアブダビで初めて会わせてもらったんですけど、その時は骨法ネタで盛り上がりましたね（笑）。

——前田さんと二人で（笑）。須藤選手は、あまりＵＷＦとかは見てなかったって言ってましたよね。

須藤 う〜ん、あんまり読者受けするようなそういうネタはないですねぇ（笑）。

——須藤選手の前田さんの印象は？

須藤 この間、記者会見の時に1時間ぐらいずっと、ありがたい話を聞かせていただいて（笑）。「プロっていうものは」っていう話を、随分聞かせてもらって。それに前田社長も歴史好きで、凄く話して合う部分がありまして（笑）。それでなんか、武道精神じゃないですけど、侍精神みたいなのが、自分も最近そういうのに惹かれてて。お侍さんとかに凄い憧れてるんで、そういう話をしたら、結構、前田さんもそういう話……。

矢野 ノッてくるでしょ？（笑）。

須藤 いろんなこと引用して来るんで（笑）。あぁ〜凄いって思って。それで、いろいろと声を掛けてもらってて、リングスの社員の方にも「普段、こんなことは言わないんです。須藤さんに期待してるんですよ！」って、何かフォローしてもらいましたよ（笑）。

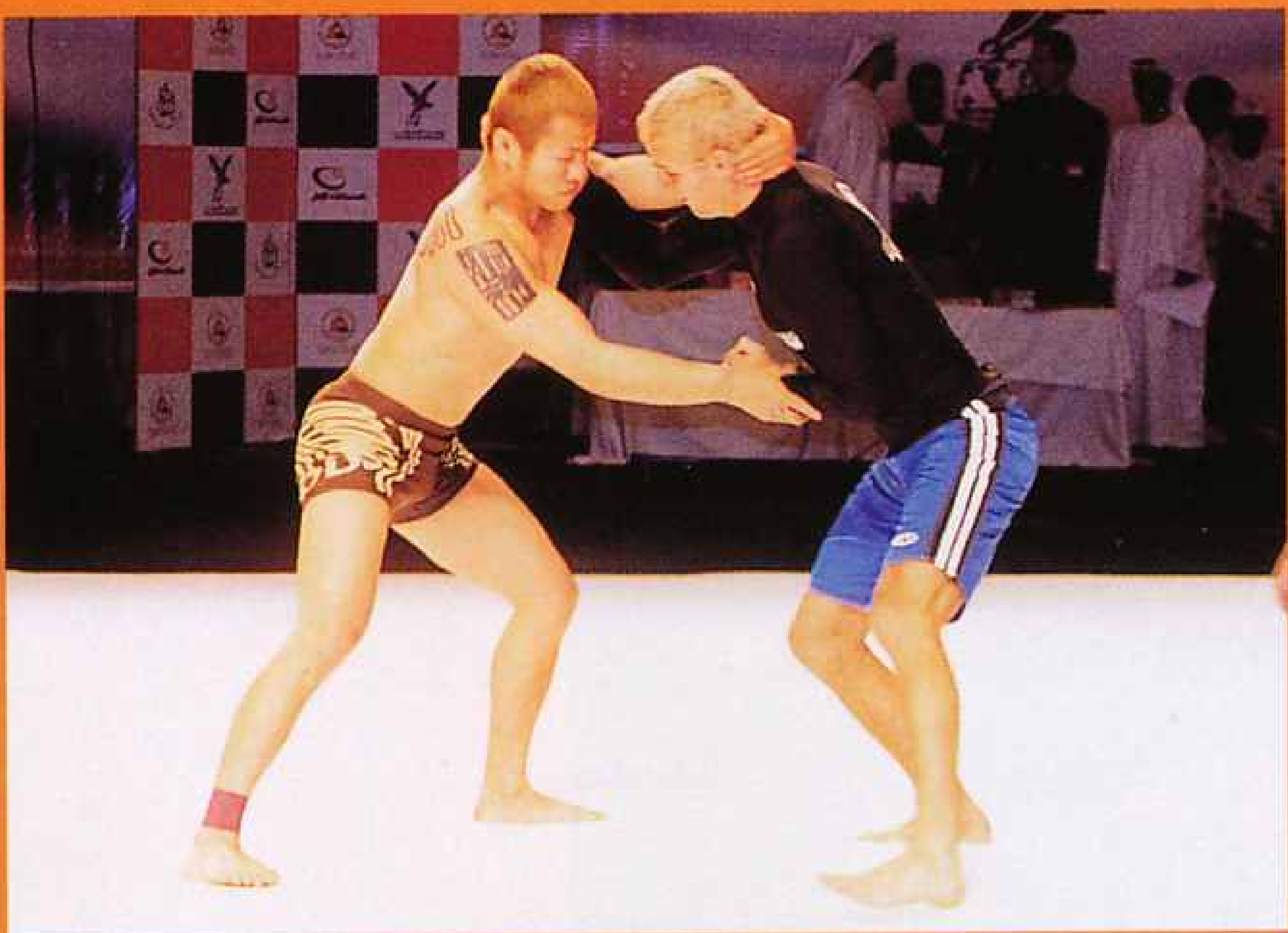
矢野 いや、俺にもそんなこと言ったよ（笑）。

——2人とも期待してるんですよ（笑）。

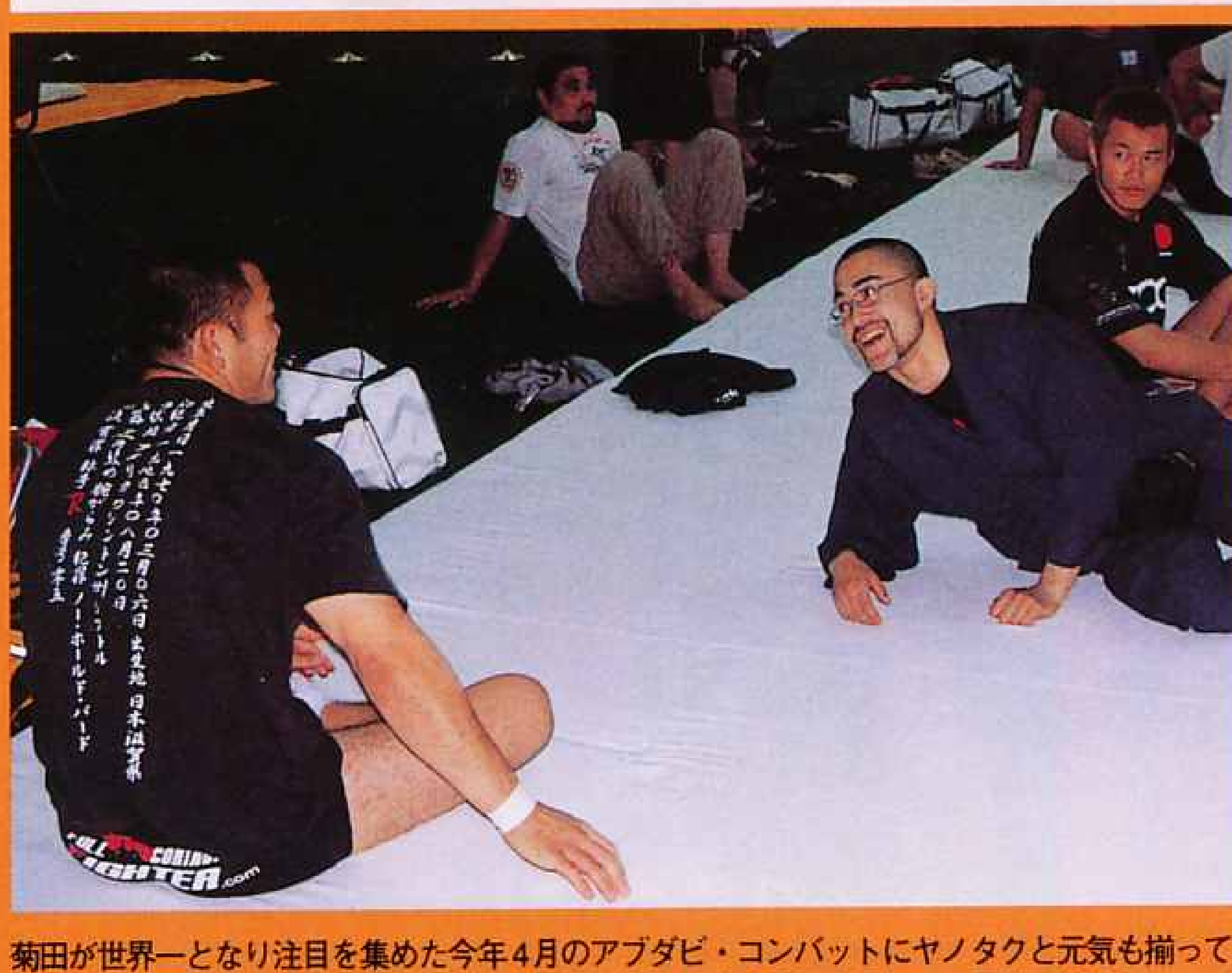
矢野 なかなか人の名前覚えてくれないですからね。俺は、いまだに〝エセ骨法〟で憶えられてる（笑）。

須藤 でも前田さん、言ってることは凄いッスよね。格闘技に対する姿勢っていうか。

矢野 まぁ、だから結局、前田さんのこと、とやかく言う人もいるけど、そんなこと言ったところで結局、天にツバしてるじゃないけど、親がいるから子供がいるんであって。ホントにさ、その歴史を否定したら自分自身を否定することになるんだよね。「じゃあアン







菊田が世界一となり注目を集めた今年4月のアブダビ・コンバットにヤノタクと元気も揃って出場していた。階級別だけではあきたらず無差別級にも出場した元気。一回戦でビクトー・ベウフォートと対戦するも、残念ながら大物食いはならず。一方のヤノタクは2回戦で敗れたものの、センタク挟みを繰り出すなど“東洋の神秘”ぶりをアブダビでアピール。合同練習では、ヤノタク、元気、TK、田村、さらに谷津団長といったアブダビならではの顔合わせも実現！

タ、その時代に恵まれた体格持たされてみて、そういう時代にいて同じこと出来たの?」っていう。情報もなんにもない中でさ、「じゃあ、このルールでやれ」って言われて。結局、そういう中で積み上げてきたわけだから。その恩恵をもらって、結局はみんなやってるわけじゃないですか?

――そうですね。

矢野 感謝の心が足りないよね。

須藤 あとプロ意識の話をさせてもらったのは凄い勉強になりましたね。

――そういう話をしてくれる人って、なかなかいないですよね、普通。

矢野 まぁ、前田さんにしても、周りで、そういうことを語れる人間が少なくなってると思うし。ある程度までいった人は、若い人間に自分の経験を伝えたいっていうのがあるだろうから。

――今の総合系の人はアマチュア総合から来た人が多いから、プロ意識というか、そういう部分が足りないのかもしれないですね。

須藤 それはホント思います。だから、いま、鈴木みのる選手は改めて凄いと思って。パンクラスに一緒にいたときは全然意識しなかったんですよ。でも実際、いまみたいな立場になって、前田社長に言われたことや、自分なりにちょっと勉強して、「誰がうまいのかな」とかいろいろ見たりしてたら、やっぱ鈴木選手が一番かなと。あの目のあげ方とか、視線とか、一つ一つ洗練されてますからね。リングの入り方もそうですし。プロだなって感じますね。

――そういう意味ではプロレス出身っていうのはやっぱり……。

須藤 あっ、それは絶対大きいと思いますね。その辺はもう、凄く感じますね。

――最近は純粋な格闘家でも、だいぶキャラが立ってきましたけどね、郷野選手とか、パンクラスでは大ヒールですからね。

矢野 (ボソッと) 彼は素だけど。まあでも、プロにとってブーイングも歓声と一緒だから



今度のランバー戦は自分の中で、もう負けてますから(キッパリ)



ね。会場盛り上げてるのは事実ですから。

――賛否両論あるってのは大事ですからね。

矢野 いや、否だけでもいいんだよ。大きければ大きいほど。話題性という意味では。

須藤 それに勝たないといけないってボクの中のプレッシャーが増しますからね。

矢野 田代まさしだって、この後も使ってもらえるんだったら、アレはアレでOKでしょ(笑)。

――今回ばかりは厳しいでしょうね(笑)。

須藤 でも、ある意味、サッチーも凄いッスよね。ちゃんと自分のキャラを突き通して捕まりましたからね。いや~、凄いッスよ、サッチー! (笑)。

――知名度って意味では最近、矢野選手も須藤選手も、かなり上がってきてるんじゃないですか?

矢野 そうでもない。でも「サイン下さい」ってたまに言われるようになりましたよ。

――じゃあ、あとで書いてもらって載せましょうか(笑)。

矢野 多分、載せられないと思います。師範の似顔絵がサインですから。どこにも「矢野」って書いてない。似顔絵だけ(笑)。

――じゃあ、いいです(笑)。プロ意識っていう部分に繋がると思いますけど、やっぱりファンには優しいわけですか、矢野さんは?

矢野 ていうか、「サインくれ」とか、「写真撮ってくれ」って言われたらするよね。男しか来ないけど。しかも「骨法の方ですよね?」って(笑)。ちょっと違うんだけどなぁって(笑)。

――アハハハハ! 二文字足りないですね。須藤選手は声掛けられたりとか、そういうのはあまりないですか。

須藤 そんなにないですけど、でもテレビ出たときは凄いッスよ。一回、モーニング娘。の番組に出て、次の日に、その時テレビと同じ格好して街歩いてたんですけど(笑)。

――アハハハハ! それ、ワザと?

須藤 いや、たまたまだったんですけど(笑)。そしたら、20人ぐらいに声掛けられましたね。やっぱりテレビの力は凄いなぁと思って。

――さすがモーニング娘。(笑)。モー娘。の何ていう番組に出たんですか?

須藤 昼間にやってる『ハロー! モーニング』とかいうヤツですね。なんかお見合いみたいなので、格闘家とお見合いっていうことで。

矢野 誰とお見合いしたの?

須藤 中澤裕子とお見合いして。それで選ばれてうまくいったんですよ(笑)。

矢野 番組の中だけでしょ(笑)。

須藤 それで、翌日とか声掛けられて「どうだったんですか?」って。改めて「テレビって凄いなぁ!」って。雑誌とかだと誰も声かけられないですけど(笑)。

――で、なんて答えたんですか?

須藤 「まぁ、別に何もないですけど」って。「付き合ってる」って言えばいいのに(笑)。さて、この号が出る翌日に須藤選手はリングス横浜大会で山本選手と対戦するわけですが、勝ったら格闘技界を揺さぶる大きなことを発表するということですけど。

須藤 大会前なんで詳しくは言えないですけど、新しいチームを作って世間に討って出ようかと。自主興行もいずれはしたいですね。

――それは期待してます。まあ、詳細はリングスの会場に行けば聞けるわけですね。

須藤 そうですね。

――万が一、負けても発表はします?

須藤 万が一はないと思いますけど、負けたら格好悪いんでしませんか(笑)。

――そうですか(笑)。やっぱり、モー娘。



今回ヤノタク×須藤対談で使用させていただいたのは、東京・高田馬場にある居酒屋『格闘家』。お店の名が示すとおり店内には、プロレス、K―1、総合格闘技からボディービルまでポスターがズラリ。メニューも「格闘家スペシャルステーキ」「シーザー武志サラダ」「グレイシーチャーハン」等、それ系のメニューがいっぱい。朝までやってるので、みんなでゴーッ! TEL.03-3204-9101



矢野卓見
中軽量級Wエース対談
須藤元気

じゃないですけど、世間に対してアピールしていくようなものをやっていきたいと。

須藤　そうですね（笑）。いかに一般の人たちに売り込めるかっていうのが勝負ですよね。自分も思うんですけど、人気っていかに露出したかっていう部分ってあるじゃないですか。桜庭選手とか。もちろん実力もともなってなきゃダメですけど。

矢野　桜庭さんみたいな顔は、今までだったら正直、スターになれなかったでしょ。でも、しっかりと実績を残して、その結果、露出度が高くなっていけば人気は出ますからね。

須藤　ボクは、格闘家として世間に討って出て成功するには、いかにプロレス的なチームを作れるかだと思ってますから。WWFを意識したような、キャラクターをしっかり作って。格闘技の世界ってそういう部分が足りないじゃないですか？

矢野　ああ、ないない。

須藤　たとえば、ドラマがかったことをやるにしても、格闘技の世界だと統一感っていうものがちょっとないんで、だから撮影の時とかも全員同じ服着たTEAM2000みたいな感じで統一したら売り込むときも売り込みやすいと思うし。いずれは横浜アリーナ埋められるくらいの人気になりたいですね。

——まさに格闘家版・モー娘。ですね（笑）。

須藤　そうですね（笑）。でも、そういう発想とかが、いまの総合格闘技に足りない部分だと思うし、どうしても格闘家に華がないからプロレスラーに頼ってるって感じるんで。

——それはありますよね。

須藤　それに山本戦後の試合の予定とかも大体決まってきてるんで、今年は頑張ります。

矢野　（須藤は）毎回話してるときは次のビジョンが、ちゃんと出来てるんですよ。

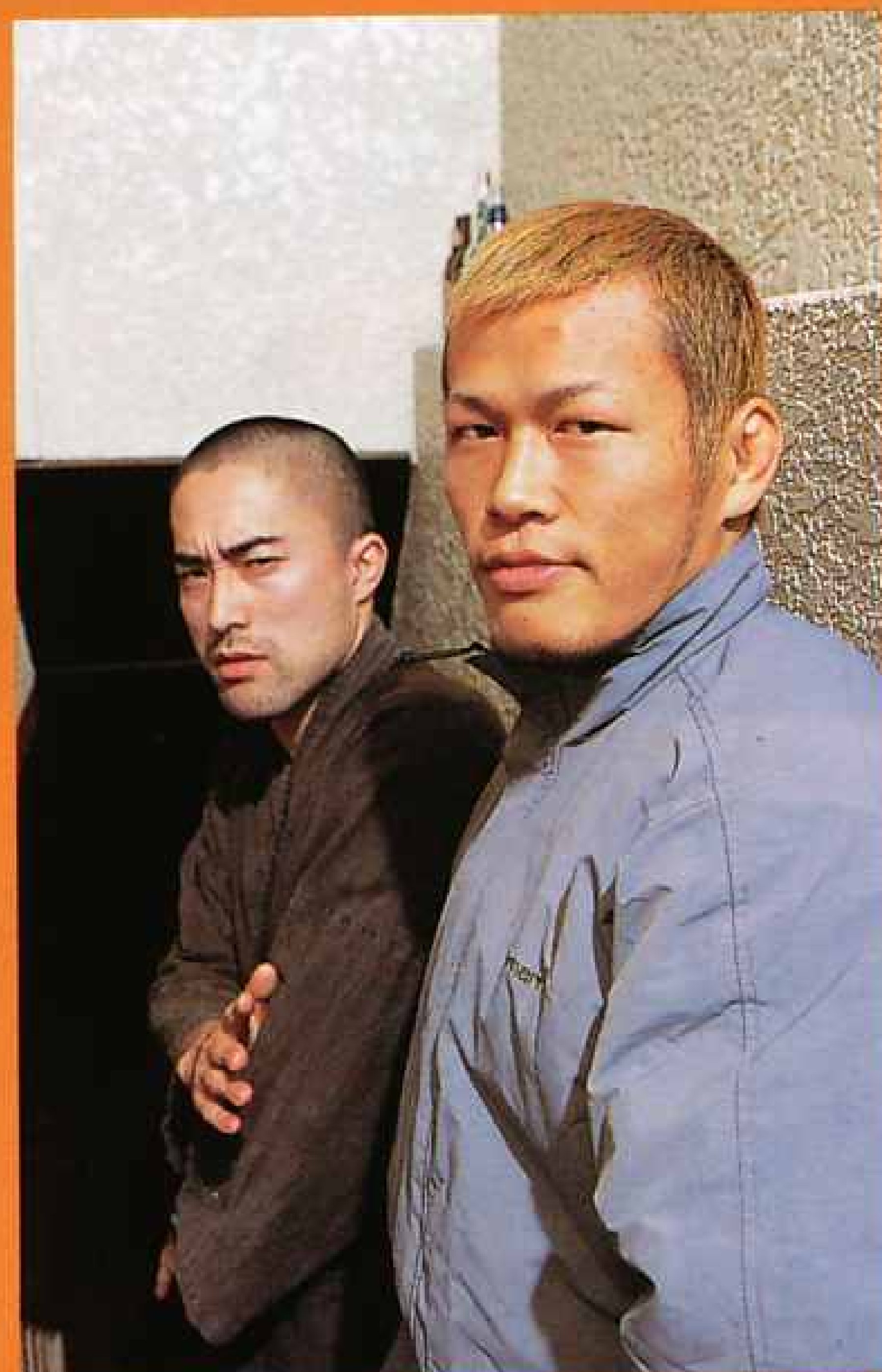
須藤　エヘヘヘ（笑）。

矢野　俺なんか次の試合の結果次第でどうにでもなっちゃうからなぁ。

——総合の世界では、なかなか「その次の試合」まで考えてる人はいないですよね。

須藤　その辺を自分で凄く疑問に思ってて、やっぱ勝って負けて勝って負けて勝った勝ったとか、そういうのを繰り返してると、普通に年取って終わっちゃいますよね。格闘家人生でどうせやってんなら、桜庭さんくらいまでは行きたいですから！（キッパリ）。

——志は高い方がいいですからね。



須藤元気［すどう・げんき］1978年3月8日生・東京都江東区出身。177cm・73kg。学生時代はアマレスで全日本大会優勝の実績を残し、その後、烏合会・菊田軍団・ビバリーヒルズ柔術クラブ等で総合を学ぶ。その後パンクラスに参戦し、再渡米後今年9月リングスで国内久々の試合を行い、ブライアン・ロアニューを三角絞めで破る。

Genki Sudo

矢野卓見［やの・たくみ］1970年1月3日生・東京都杉並区出身。171cm・65kg。骨法3年を経たのち烏合破門会を結成。2000年・2001年とアブダビコンバット大会に出場し、その独特の風貌とリズムから繰り出される関節技から「東洋の神秘」と謳われる。フックンシュート・リングス・パンクラス等にも参戦。得意技はセンタク挟み。

Takumi Yano

須藤　やるからには。

——矢野さん的にどういう選手とやりたいとか、そういうのは？

矢野　（答えづらそうに）……まあ、いつもと同じ人になっちゃうけど（笑）。

——正直難しいと思います（笑）。

矢野　（不満げに）1試合もやってないのにあの知名度ですよ。

須藤　なんか、猪木さんと春一番の関係になってますよ（笑）。

矢野　師範が闘ったらどうなるかって思ってる人の疑問を、俺がちょっと代わってやってますって感じで（笑）。……技術的には俺の方が上だと思うんだけど。

須藤　「実は……」かもしれないですよ（笑）。

矢野　それはそれで……むしろいいことですよ。

須藤　「先生はホントに強かったんだ。俺の選択は間違っていなかった」って思いながら死にたいと（笑）。

矢野　とりあえず先生の実力を示して死ねるんだったら本望かなって……。そんなこと絶対ないけど（笑）。

——で、矢野さんの方もDEEPでのランバー戦が直前に控えているわけですけど。

矢野　だって、人に聞くとみんな「ランバーはヤバイですよ！」みたいな話ばっかりで。そんなに言われると、じゃあ、もうとりあえず「負けた！」って感じで。

一同　アハハハハハ！

矢野　そっから先の試合でどう盛り返していくかを考えないと。

——負けを前提に、すでにランバー戦後のことを考えていると（笑）。

矢野　ホントそうです。自分の中で、もう負けてますから（キッパリ）。

——猪木さんじゃないですけど、やる前から負けること考えてちゃダメですよ（笑）。

矢野　でもねぇ、情報を総合するとねぇ。やる前から負けること考えてますね（笑）。

須藤　でも、打撃に付き合わなきゃ負けないんじゃないですかね。

矢野　付き合わなきゃって、打撃は付き合いようがないから（笑）。

須藤　あ、そうですね（笑）。

矢野　どう付き合っていいのか、よく分からない（笑）。

——付き合い方を知らないっていう（笑）。

矢野　（ボソッと）前にあった漫画の中では、骨法は結構ムエタイに勝ってるんだけどな。

——アハハハハ！　ありましたね（笑）。十年遅れのムエタイ対骨法の決着戦ですか？

矢野　ていうか、元々ムエタイを倒すのが骨法の目的だったんだから。そういう意味では自分は貢献してると思うんだけど。

——う～ん、してるんですかね（笑）。まあ、矢野選手も須藤選手も次の試合は、いろんな意味で期待してるんで頑張って下さい！

【12月10日／東京・高田馬場　居酒屋『格闘家』にて収録】

12.21 RINGS横浜決戦5秒前!

須藤元気と対戦する山本喧一の意気込みを聞け!

構成／松澤チョロ
designed by さおとめの事務所



「良かっただけじゃダメ。二人には「一番凄かった」っていう試合をして欲しいね

リングスファンにもう一回元気を与えたいって気持ちが一番です! 来なかったら損するぐらいのものは必ず、お見せします!!

—須藤選手は山本戦について「エスケープがあるんで三本取って勝ちます」とか「自分に勝てると思ってるのかな」など、かなり強気な発言を連発してますけど、どう思いますか?

山喧 エスケープがあるんだったら、俺はいい試合できると思ってたんだけど、ヤツは「秒殺する」とかほざいてるみたいだからね。そんな口を叩く悪い子ちゃんだったとは俺は知らなかったんで、悪い子ちゃんなんだったら、せっかくリングスのルールも改正されたことだし、その三本分、目一杯可愛がってやりますよ（ニヤリ）。

—可愛がりですか（笑）。

山喧 俺も「秒殺してやる」とかね、言いたいところだけど、それじゃあ面白くないでしょ、と。どうせだったら時間一杯、マット界名物可愛がりでもってラッパでも吹かしてやりますよ。彼は新弟子経験がないっていうから、そういう体験もしてないだろうしね。俺は彼が考えもつかないぐらいの毒を飲んできて、その毒を中和して今日に至ってるんで。選手としてはもとより、それ以前に人間として成長してる山本喧一にホントに彼はついて来れるのかな。まあ、二度と俺の前ではそんな口を叩けないようにしてやりますよ。

—対戦が決まる前は須藤選手に対して、どういう印象があったんですか?

山喧 いい選手だなっていう印象は、ぶっちゃけた話、ありますよ。でも、いい選手だなとは思いますけど、実際いまの俺の敵ではない、と。

—今回は75キロ契約なんで、減量がキツイんじゃないかと思うんですが?

山喧 そういう意味では減量だけですね、俺に不利に働くことがあるとしたら。いつもと変わらないように練習はしてますけど、契約は過去最低の体重なんで。ただ、ここ最近は80キロキープしてたから前のUFCのときの減量ほど辛くはないですけどね。ただ、自分は無差別級で勝っていくっていうのが本来の格闘哲学で追求したい部分なんで。今回はたまたま、この階級で闘いたいヤツがいて・それが須藤選手だっただけでね、俺がメジャーに上がるからには相手に合わせるのが当然ですよ。

—今回リングスに出場するにあたって、山本さんが一番重要視していることは何ですか?

山喧 客を入れることだね。客を入れることと、来た客に山本喧一を知ってもらうことかな。自分は〝アイ・ラブ・リングス〟なんで、やっぱりリングスファンにもう1回元気を与えたいって気持ちがね、それが一番ですよ。出るからには、客を一杯入れて、さらに、寒い寒い懐事情の師走をみんなで乗り越えて、来年へのいい兆しになれば、光になれば、俺がリングスへ復活した意味があるかなって思いますね。

—須藤さんは「試合後に格闘技界を揺さぶるような大きな発表をします」と言ってましたけど。

山喧 彼もそういう意味でプロだと思うし、いろいろ考えることはあると思うけど、それは別に俺の知ったこっちゃないしね。まあ、そういう風に格闘技界のことを考えてやる行動に関しては俺はOKだと思いますけど、ただ勝負は別モンだから、やるからにはプロの仕事を見せますよ。

—プロの仕事を見せてやる、と?

山喧 やっぱり自分がリングスに上がるからには、プロとして、やりたい相手と、そのとき旬というか盛り上がる相手と、体重は別に意識しないでやっていきたいなっていうのがあって。相手がカレリンであろうが、須藤元気であろうが、ホントは別に体重気にしないで闘えるのが自分の理想なんで。

—無差別級でも問題なしと?

山喧 そうだね。まあ自分は、リングスを離れていた2年半の間にやりたい練習ができてきたんで、そういう意味ではいい勉強になったなと思いますよ。中学卒業して正道会館入って、もう10年経つんだけど、そういう意味ではいい形で、この10年間を終われたかなって。フリーになって約3年間のうちに厄をビッチリ落としたんで（笑）。


—厄払いができたと（笑）。

山喧 自分は、ちょうど厄年にリングスを出たんですよ。前厄、本厄、後厄って。ちょうど厄で毒を思いっきり吸い入れながら、いまはそれをキッチリ吐き出したんで（笑）。

—綺麗な体になったんですね（笑）。

山喧 そう（笑）。それで、前田さんは「技術とかはもちろんのこと、全人格賭けた凄い試合が見たい」って言ってたけど、俺もそういった気持ちがあるし、そこの部分でも負けない気持ちがあるんで。まあ、来なかったら損するぐらいのものは必ずお見せします!


11月28日、リングス事務所で須藤元気と前田社長が同席のもと会見が行われた。元気はヤマケンからの対戦要求を受けてたつと宣言。「一本取る自信はかなりあります!　でも、エスケープがあるんで三本くらい取って勝ちます!（笑）」と自信満々なコメントを残した



先取り情報
2連発!!

遂に日本に上陸!?
どうする日本プロレス界!?

Jスカイスポーツが
WWFのクラシック番組を開始!!

遂に3月1日、日本大会開催!?　本誌は願望もこめてこう言うぜ!!

It's TRUE!!
It's TRUE!!

構成／坂井ノブ　designed by matsu（Two three）

WWFが3月1日、日本で大会を開催!?



日本でも一般層を中心にファンが急増中のWWF、その人気はますます加速している模様だ。来年3月にカナダで行われるレッスルマニアの観戦ツアー旅行は、テロの影響など意にも介さず、発売開始から数日間でほぼ完売してしまったという。本国アメリカでは視聴率の低下やファン離れが急速に進んでいるというが、11月にはNWA～WCWの象徴的存在であるリック・フレアーが登場して、ビンス・マクマホンと抗争に突入するなど、その展開はまったく先が読めない状態だ。そんな中、ある衝撃情報が編集部に舞い込んできた……。

それは、まさに青天の霹靂だった。

「WWFが日本に来襲するらしい」

本誌編集部には、すでに11月にはそんな情報が入ってきていた。「3月2日、3日と東南アジアでツアーを行うWWFが、3月1日は日本に上陸するらしい」というものだった。どんなにテレビで見て恋焦がれても、アメリカまで行かねば見ることはできないものと思っていたWWF……。それが、なんと向こうからやって来てくれるというではないか！　こんな嬉しいニュースはない。正直、嬉しかった。仕事を抜きにして見に行きたいと思ったし、アメリカでWWFを目撃した人が口を揃えて「無邪気にハシャぐファンの感覚に戻ってしまう」と語っているその感覚を味わいたいと思った。

その情報を裏付けるかのように、さまざまな媒体でその情報が公になっていく。

最初に「WWF　日本再上陸か」との大見出しで報じたのは、12月6日付（11月29日発売）の『週刊ファイト』だった。しかし、比較的飛ばし記事も多い『ファイト』の情報だから、あまりこの情報を信用していない人も多かったのではないだろうか？

しばらく間を置いて12月12日の『日刊スポーツ』が「米プロレス界唯一のメジャー団体WWFが、来年3月に日本興行を行うことが11日、明らかになった」と断定的に報じ、日本大会が実現に向けて大きく動き始めていることを匂わすような紙面構成となっていた。そもそも、なぜ日刊スポーツだけがスクープでこのネタを扱っているのか？　誰かが情報をリークしたと考えるのが妥当な線だろうが、いったい誰が？　まさかビンス？　あるいはリンダ？　謎はどんどん深まっていくので、このへんで推測はやめておこう。気になる内容だが、「ザ・ロック、カート・アングル、クリス・ベノワ、スティーブ・オースチンら主力選手全員の来日は内定。今やスター選手に上り詰めたTAJIRI（田尻義博＝31）も凱旋（がいせん）帰国する。今日12日以降にインターネット上で広報活動を開始。来年1月下旬には代表選手が出席しての記者会見も予定」と細かい内容にまで言及している点は見逃せない。



WWFで活躍するTAJIRIやKAIENTAIも、日本大会にラインナップされているはず。WWFごとやってくれば、まさに凱旋帰国！　そんな折、TAJIRIの来日が緊急決定！　P83の囲みを参照。



ロック、アングル、オースチン！　ここにビンスとシェーンとフレアーとアンダーテイカーも追加して、さらにハーディーボ……（以下、略）とにかく、全員来てほしいというのが個人的な願望ではある。

ちなみにテレビ業界では、WWFを放送しているテレビ東京、Jスカイスポーツともに正式決定していない段階なので放送できるかどうかハッキリした答えは聞くことができなかった。

一方でこうした報道を「先走りすぎ」と言う一部の関係者もいる。「まだ何も決まってないですから。アメリカ人のやることですからビジネスにならないと判断したら平気で中止になる可能性だって否定できませんよ」とのこと。たしかに、極悪人ビンス・マクマホンのやることをうかつには信用できない。準備期間が短いのも気になる。あと実質的には2ヶ月程度しかないのだ。あわただしく日本に上陸してずっこけた94年のマニアツアーの再現だけはしてはなるまい。つまり入場ゲートも花道もなく、観客席はガラガラで、「究極のエンターテイメントには程遠い」と酷評され、挙句の果てに青柳館長が日本刀片手に入場してクモの糸を投げたりするようではイカン！ということである。マニアツアーの大きな失敗によって、その後日本はWWFの視界から消えてしまうわけだが……これと同じことを繰り返すことは許されないのだ。当時と現在ではWWFに対する日本の興味も段違いだとは思うので、会場の半分以下しか埋まらないような事態にはならないと思うが……。

地上波でWWFの放送が始まり、過去の映像まで放送されている（詳細は84ページから）日本の現状にWWF関係者は大きな興味を示しているという。情報もある。ただ単に試合が放送されているだけで、T



新日本プロレス創立30周年の時期に黒船が大砲をぶっ放す!!

シャツやフィギュアといったグッズ展開もしていない日本で、なぜこんなにもWWFが盛り上がっているのか、理解に苦しんでいるのだそうだ。まあ、無理もない話ではある。何にも手入れをしていなかった荒地が、気がついた瞬間には一面の野原になったような感覚だろうか。

両者ともに興味が急騰している中で行われる（という情報の）WWFの日本大会、まるで赤い糸が引かれあうように、両者は3月1日に日本でめぐりあう（?:）。是非とも成功していただきたい。そして、再来年あたりから普通に『RAW』や『SMACK DOWN』が日本で開催されてしまうような状況になっていてほしいと願わずにはいられない。

いずれ確定情報がリリースされたとき、日本の団体がどのようなリアクションを取るかも非常に興味深い。間違いなく藤波あたりは「俺が迎え撃つ」と宣言していると思う。新日本の社長としての立場をすっ飛ばして、レスラー個人としての発言を。ちょうど新日本プロレスの創立30周年の時期に、黒船が思いっきり大砲を撃ちにやってくるわけだ。当然、猪木は真っ向から牙を剥いてくるはず!! どんなことを言うか……これまた楽しみだ。さまざまな思惑が絡まりあった大きなイベントになりそうな予感はプンプンする！　さあ、乗り遅れる前にこの大きなうねりに巻き込まれよう！

あのアメプロSHOP「SOLLUNA」がWWFのCDを発売！

12·29大阪&横浜での記念サイン会にTAJIRIが緊急飛来!!

【日時・会場】12月29日/13時〜　大阪・SOLLUNA
12月29日/19時〜　横浜・横浜タワーレコード・モアーズ店

【サイン会参加方法】SOLLUNAがリリースするCDを22日より各店頭で予約した方先着200名に限りサイン会整理券を配布します。整理券はなくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。

【CDとサイン会の詳しいお問い合わせ】http://www.sollunawwf.comをご覧ください。もしくは、SOLLUNA（TEL.06-6282-0020）、横浜タワーレコード・モアーズ店（TEL.045-321-6211）までお問い合わせください。

【CD】ハーディーボーイズ、ダッドリーボーイズ、TAJIRI、ウィリアム・リーガルなどのテーマ曲全14曲をガッチリ収録した「WWF WRESTLING MUSIC LIBRALY」が￥2,800（税込）にて12月29日に発売されます!

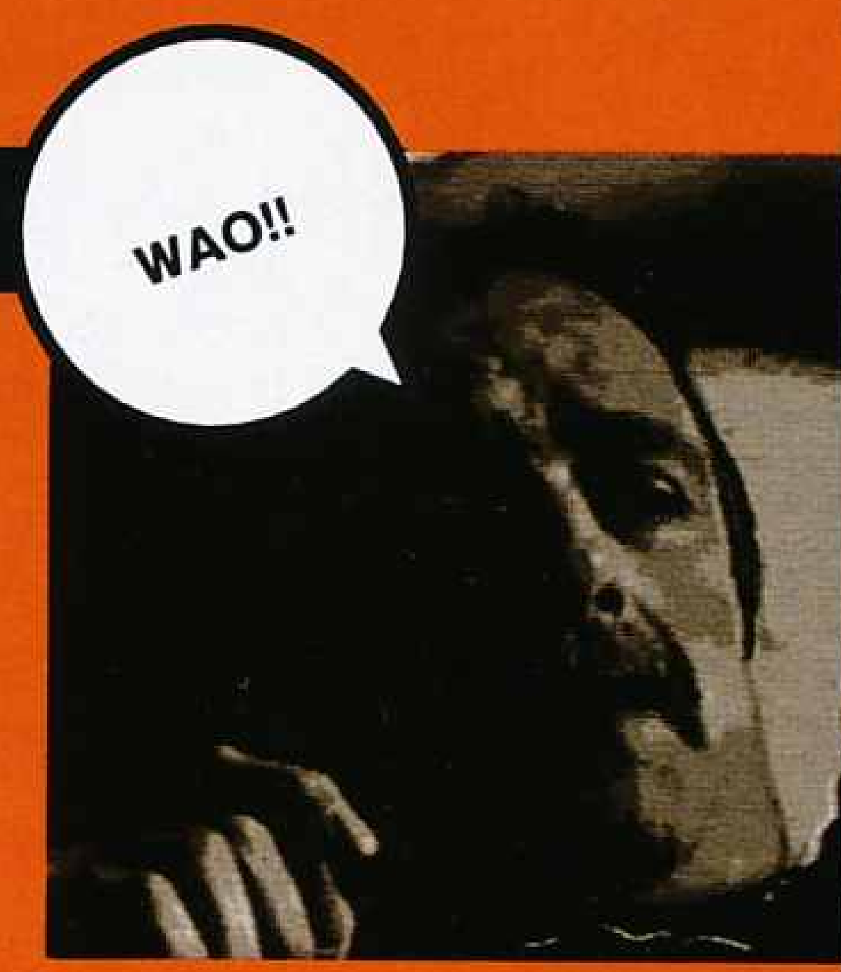
WWF来日に関するこれだけのウワサ

- チケット販売は94年のマニアツアーの際に請け負った大手某社が担当するらしい
- そろそろ正式決定の発表が行われるらしい（12月14日現在）
- 会場はさいたまスーパーアリーナか横浜アリーナになるらしい
- ひょっとしたら、来ないかもしれない!?

♪ウワサを信じちゃいけないよぉ〜、
というわけで当たるも
八卦当たらぬも八卦！
何がどうなるか、
予断は一切許されません。
情報を逐一追いかけよう！

衝撃先取り情報 PART2

Jスカイスポーツが WWF クラシック放送開始

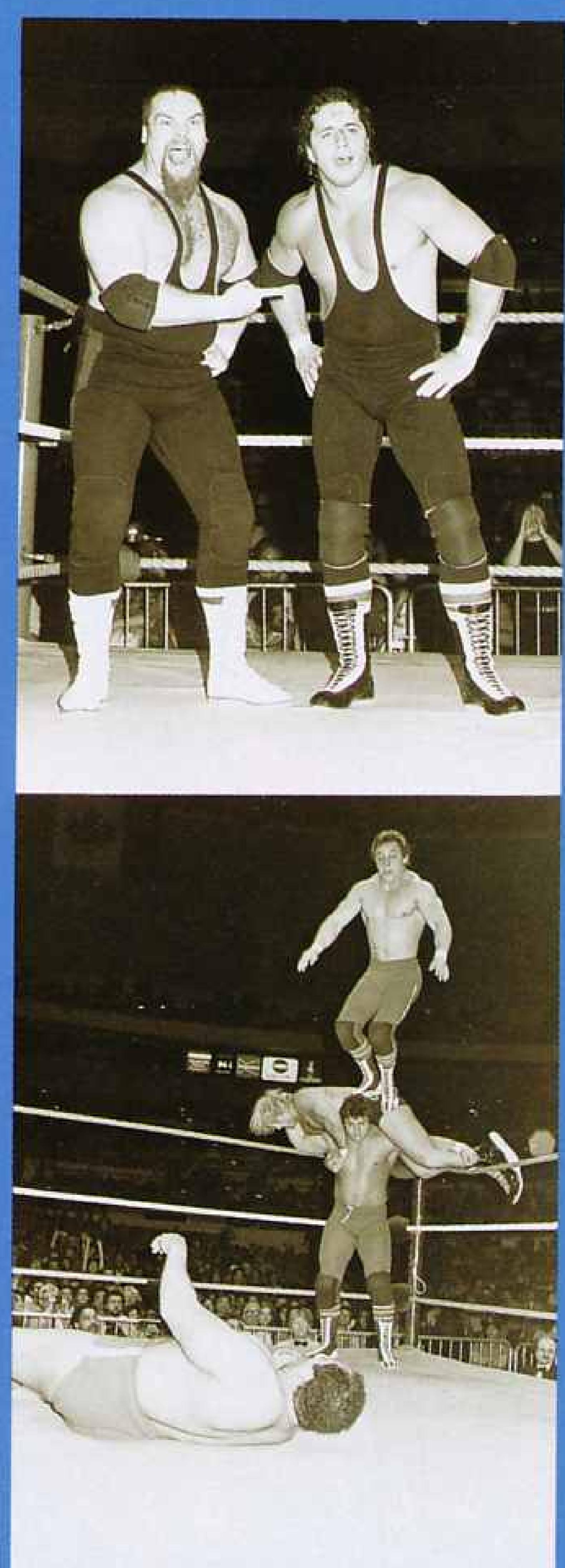


と
どまるところを知らないWWFの日本侵攻はまだまだこんなもんじゃない！ というわけで、現在のところWWFをガンガン放送して我々を興奮の坩堝に叩き落とし続けてくれているJスカイスポーツがまたまた放送枠を広げてくれるらしいという情報が飛び込んできた。イッツ・トゥルー！ イッツ・トゥルー！

気になるその内容だが……今回はWWFの昔の番組が放送されるというではないか！ 「第一次WWFブーム」と言われてた86～7年のWWFオフィシャル番組『チャンピオンシップ（のちにチャレンジと改称）』の中から名勝負を選りすぐって放送するというから、まさにマニアはヨダレもの！ いわゆるアメリカンプロレスのOLD SCHOOLであり、激ヤバトラック満載であり、当然マスト！ということである。1月から『ワールドファイティング』という番組の枠内で放送されることは既にリリースされているが……ここでさらなる本誌独占の衝撃情報が飛び込んできたのでお届けしよう。なんと！ 97年頃の映像が同じくJスカイスポーツで放映されることも正式決定したのだ！

こちらは映画『レスリング・ウィズ・シャドウズ』で取り上げられたビンスによる史上最大の裏切り事件が発生した、まさにあの頃のWWF！ WWFが現在のスキャンダラスな路線に方向転換するターニングポイントだ。

いやぁ、素晴らしい！ 現在のWWF放送が大きな反響を呼んでいるからこそ実現したイケイケドンドン状態である。っていうか、こんな幸せな状況が出来たことが信じられない。というわけで、今回はJスカイスポーツの人に、「なぜこんな凄い事態になってるのか」を聞いてみた。応対してくれたのは広報担当の中西さん。もともとプロレスファン（全日派）だったというだけあって、単なるテレビ局の広報さんとは一味も二味も違うナイスガイである。


86年の放送はダイナマイト・キッドやブレット・ハートなどカルガリー・マット出身者を中心に展開していく。レスリングセンスは折り紙つきなのでマニアから初心者まで楽しめるはず。サブテキストも豊富なので要チェック！

そもそもWWFのクラシック映像を放送しようと思ったのはなぜなのか？ しかも86年という微妙な時期を選んだのはなぜなのか？ そのへんの疑問からぶつけてみた。

「やはり、いま30代の人たちがプロレスを見ていた頃のWWFというと80年代だろうと。ただ、そういった年代は今プロレスから離れてしまってるかもしれない。そういった人たちをプロレスに呼び戻すと共に、Jスカイスポーツに加入していただこうという狙いです」

なるほど、ビンスばりのしたたかな戦略だ。しかし、今回放送されるのはダイナマイト・キッドやブレット・ハートの映像が中心だという。これを聞いたとき、正直「地味だな」という印象を持った。80年代WWFといえば、ハルク・ホーガンであり、アンドレ・ザ・ジャイアントではないのか？ そういったスーパースターを敢えてハズしたのは何か理由があるのだろうか？

「やはり彼らの試合、特にレッスルマニアの映像はビデオもたくさん発売されてますし、ちょっとありふれてるかなと。さっきも言ったように、新日本ブームを支えた人たちにこそ、80年代の新日本の象徴だったダイナマイト・キッドや日本にも根強いファンが多いブレットの試合を放送してみようか？ ということなんです。しかも、そのブレット・ハートが、WWFから追放されるのが97年なんですよね。ですから、今回放送する86年と97年の映像はブレットを軸にリンクしてるんです」

おお、そんな二段構えになっていたとは！ 試合内容では定評のあるカルガリー出身者たちが中心になることで、ネームバリューだけに捕らわれないクオリティの高い放送になりそうだ。さらに中西さんは、〝大人のファン〟の楽しみ方をこのように提案する。

「いまはかなりプロレスの情報公開が進んでますよね？ キッドも、こないだ出版された自伝（『ピュア・ダイナマイト』）の中でステロイドのことなどをカミングアウトしてましたけど、そういう裏の部分も踏まえた上で、当時の映像を見てみるのも面白いと思いますよ。こういう壮絶な歴史があった上で、現行シリーズの徹底したファンタジー路線が成り立っている。そういう見方で楽しんで頂くことも出来ると思います」

ここ数年、急激に増えつつあるプロレスラー自身によるカミングアウトの数々……相変わらず業界関係者からは白い目で見られがちな行動だが、「なぜ、そうしなければならなかったのか？」という理由が当時の試合映像を見ていれば伝わってくると思う。物事は表から

見るだけでも不十分。表裏両方見て初めて立体的な見方が出来るのだ。アメリカン・プロレスに裏口入学した人には最適の教科書となることだろう。これぞ文字通りのOLDSCHOOL！　ある意味理想的なリンクの張り方だ。

86年はまさにビンスJr.がビンス・シニアから引き継いだWWFを全く新しいものに作り替えようとしていた頃。変化に対応できず、時代に取り残された選手も少なからずいた。

「ちょうどギミックが出始めた頃ですよね。肩にオウムを乗っけたレスラーが出てきたりして、『何だこりゃ！』っていう。あとはリッキー・スティムボートが、変なカンフーのキャラクターをやったりして……凄く違和感がありましたけどカッコ良かったですよね（笑）。だから、"エンターテイメント・プロレスの夜明け"という見方も出来ると思うんですよね。いくらビンスといえども、いきなり現在のようなハイ・ボルテージのドラマを創ったわけじゃなくて、最初は肩にオウムを乗っけたりする程度だったんです（笑）。でも、そういう試行錯誤の結果、WWFは現在の形になったわけですからね」

ある意味、当時の浮世離れしまくったキャラクター路線よりは現在のドラマ路線の方が現実的と言えるかもしれない。ちょうど時を同じくして、この頃の日本のプロレスも大きなターニングポイントを迎えていた。UWFによるプロレスの原点回帰運動である。

「日本で85～86年頃というのはプロレスファンの夢が打ち砕かれた時代なんですよね。タイガーマスクがマスクを脱いでプロレスを辞めちゃったり、UWFが出来たり、凄い事件がいっぱいありましたよね？　日本のプロレス史の中でも、大きな節目だったと思うんですよ。でも、そういったムーブメントが現在の『PRIDE』シリーズになるまで脈々と続いてきたわけですよね？　日本でも第一次UWFから『PRIDE』に行き着くまでには同じように15年かかってるんですよね。WWFを見るときでも黎明期をちゃんと抑えた上で現行シリーズを楽しんでほしいと思うんですよ」

このように考えると、「86年のWWF」を「第一次UWF」と置き換えてみると、日本のプロレス文脈になぞらえて捉えやすくなる。すると、来年2月から放送が開始される97年頃のWWFは「キングダム」と言えるだろうか？　どちらもマニア筋では非常に評価が高い。

というわけで、97年の映像を放送することになったいきさつを聞いてみた。

「WWFの地上波で放送が始まったことによって、当然こちらにも視聴者が流れてくる。そういった場合に、現在放送されているストーリーの実質的な第1話がなきゃいかんだろうと思ったんです。こちらとしては、映画『レスリング・ウィズ・シャドウズ』の題材にもなったブレットの事件（97年11月9日）を第1話と考えていますが、そこに至るまでの流れが分かるように、事件の3～4回前から放送開始となります。こちらはPPV放送『イン・ユア・ハウス』を2月から月1回放送していく形になります。主にベルトの移動を取り上げていくような形になりますね。現行シリーズでハマった人にも見やすいと思います」

こちらは当時の特番を3時間丸々完全放送！　マニアにはたまらない、初心者にも優しい番組だと言えよう。喰わず嫌いをせずに、見てみよう！

現在まで続くWWFブームの最初の火付け役は、この頃から台頭してきた"ストーンコールド"スティーブ・オースチンだ。全米規模の人気を獲得する前のオースチンには、やはりマニアならずとも注目しておきたい。

「この時代のオースチンは最もワイルドでしたからねぇ。今はコメディアンみたいになっちゃってますけど、ホントにカッコいい悪役でしたから。悪役と言ってもタイガージェット・シン的な悪役じゃないわけですけどね。ダーティヒーローと言った方がいいかもしれません。プロレスの文脈にはなかったキャラクターですよ。単に怖いだけじゃなくて、カッコいいし、おもしろい部分もありますから」

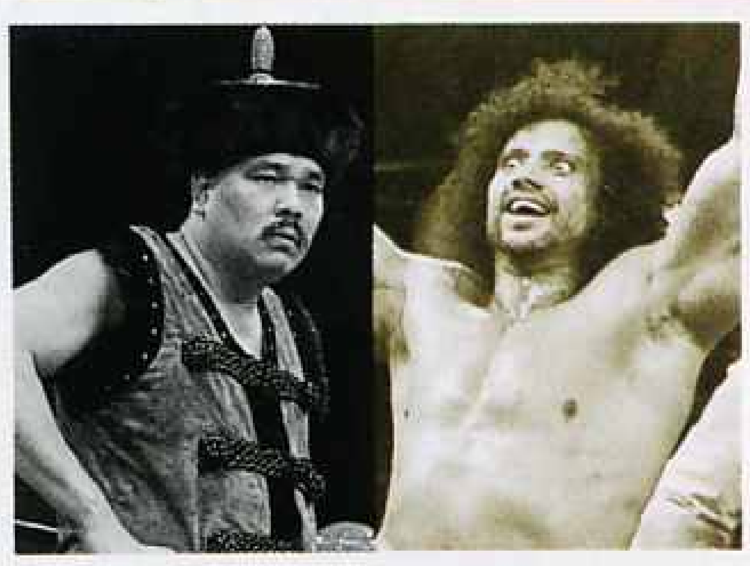
そのオースチンはやがてビンスとの抗争に突入していくことになる。

さらには第一回目の放送で、若き日のザ・ロック（当時はロッキー・メイビア名義）がインターコンチネンタル王座を奪取するというお宝映像まで放送！　ロックが頂点に登り詰めていく道程も非常に楽しみだ！　マイクアピールが最初は全然ウケないのが、ある意味フレッシュ！　わずか4年前の映像だが、この短期間に怖ろしく進化していることを実感できるはずだ。

2002年からJスカイスポーツは、さらに幅広くWWFの放送を手掛けていくことになる。今からでも遅くはないので、スカパーに入るなり、ケーブルテレビに加入するなりして番組を目撃して頂きたいと思う。というわけで、WWFを世界で最も嫌っている人間の1人であろうカール・ゴッチの言葉で締めてみたい。

「古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもある」。必見だ！

次号予告



80年代に日米を股にかけて大暴れしたこの2人が次号で紙プロに登場！　いまや歌舞伎町にちゃんこ屋を移転させて勢いに乗るキラー・カン!!　そして先日FMWに出場したジミー・スヌーカ!!　絶対見逃すな!!



2001.12.9
有明コロシアム

武藤の色気と三沢の身のこなしを持つ男！
秋山も絶賛したこの日のMVPは丸藤正道!!

観戦REVIEW

「来年のノアは完璧になります!!」

秋山の言葉を信じよう!!

「来年、ノアは完璧になります」

ベイダーを破り、GHC王座を防衛した直後に秋山はそうコメントした。「じゃあ、今年は完璧じゃなかったのか?」という意地の悪い突っ込みが出来るかもしれない。そう、確かに今年のノアは完璧ではなかった。大黒柱となってノアを支えていくはずだった小橋建太が長期戦線離脱しており、戦力的には不十分だったと言わざるを得ない。

そんな2001年を締めくくるビッグマッチが、12月9日有明コロシアムで開催された。刺激の強い対抗戦には頼らずとも、観客は12000人の超満員。集客が難しいことでは定評のある有明コロシアムで、この動員力はさすがと言えよう。この大会ではノアが誇るGHC三大王座（ヘビー、タッグ、Jr.ヘビー）の選手権試合が組まれたわけだが、現有勢力で提示できる最高のラインナップが並んだ。

そんな中で最も光っていたのは、ZERO－ONEの高岩竜一から文句なしのピンフォールを奪って、GHC Jr.ヘビー級王座を奪取した丸藤正道だった。本誌でもたびたび取り上げてきたこのブライテスト・ホープは、ある意味ノアを象徴する選手の1人である。年功序列的な価値観から実力本意の価値観へ移行していく中で、その評価がウナギ昇りに上がっていった早熟の天才――武藤敬司ばりの色気と三沢光晴の身のこなしを兼ね備えた天才肌の選手と説明すればイメージしやすいだろうか? 実際のところ、初代タイガーマスク以来のずば抜けた身体能力の持ち主だと思う。高岩のもちつきパワーボム等を受けきりつつ、華麗な技術で観客をも翻弄しながら最後にはシューティング・スター・プレスで見事勝利! あの辛口の秋山が絶賛したほどのすばらしい内容だった。試合内容自体はいわゆる古典的な展開なのだが、丸藤がやるとすべてがフレッシュ! こうした若手の台頭が、今年のノアの最も大きな収穫であろう。



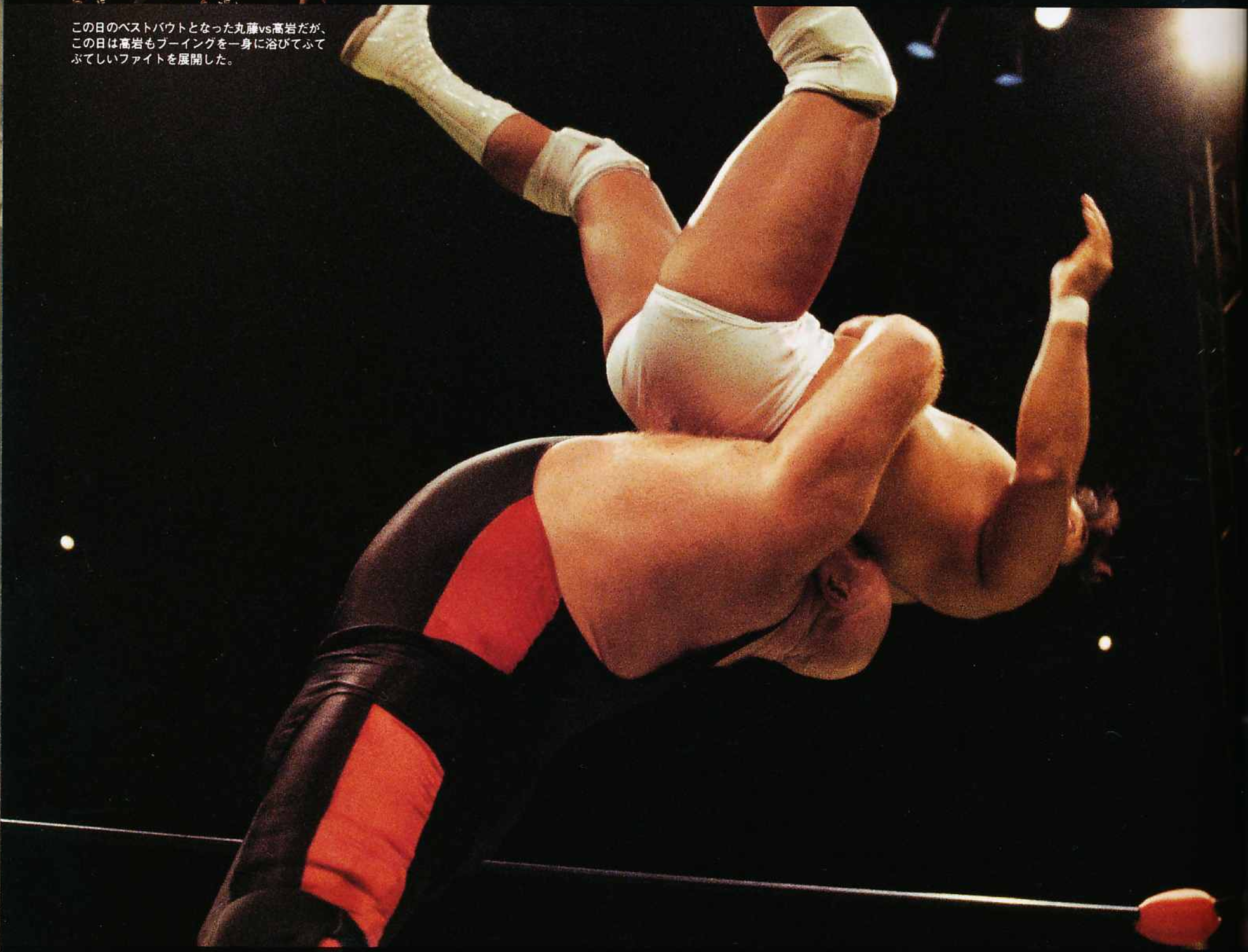


秋山は初公開の「変形ネック・アンド・アーム・ブリッジ」でＧＨＣ王座を防衛！　パワーに対抗するための技術が光った試合だった。次期挑戦者はいったい誰だ？



マスコミ紙上で繰り広げてきた因縁がリング上で大爆発！　三沢のエルボー、高山はワンツーパンチをともにエグい角度で叩き込んでいく。王座はノーフィアーが奪取した。

この日のベストバウトとなった丸藤vs高岩だが、この日は高岩もブーイングを一身に浴びてふてぶてしいファイトを展開した。



今年最も成長したのが丸藤なら、今年最も活躍したのは秋山だ。フライング気味に新日本プロレスへ飛び込んで個人としての新境地を開拓しつつ、団体全体に目を光らせてノアに刺激を持ち込んだ功績はとてつもなく大きい。しかしながら、秋山本来の毒々しいエゲつなさは、少し鳴りを潜めた感もなきにしもあらず、ではあった。〝主役としての振る舞い〟を十分に計算した上でのことだと思うが、少し寂しい。この日の試合も、ベイダーのパワーに圧倒されながらも、最後の最後で新たなるサブミッション技を披露して勝利をものにした。その試合後の勝利者インタビューで出てきたのが、冒頭のセリフである。

その発言の真意はどこにあるのだろうか？　さらなるヒントは控室でのコメントの中に隠されていた。

「（小橋さんが帰ってきたら）また面白くなるんじゃないですか？　俺が動きやすくなると面白くなると思うんで。今年はちょっかいを出す相手があんまりいなかったんで、おとなしかったかなぁとは思います。また、あの人が帰ってきたら引っかき回してやろうかなと。僕はチャンピオンですけど、僕の仕事というのはそういうことだと思うんで」

このセリフ、いかがだろうか？「さすが秋山！」とうなるしかあるまい。小橋の長期離脱でターゲットを失った秋山自身も、今年は思うように動けていなかったのだろう。とことん真正面な小橋が帰ってくる来年こそ、本当の意味でエゲつない秋山らしさが爆発するかもしれない。

そして、締め切り間際の12月12日、「小橋建太の復帰戦が2月17日の日本武道館大会で正式決定」という発表があった。気合の現われだろうか、早くも小橋は金髪になっていた！　さあ、舞台は整った！　秋山の言葉を信じて、来年のノアを凝視せよ！

（文／スモーノブ）

『真撃第四章』
2001.12.9 大坂城ホール



B-I砲にはまだまだ及ばないが、抜くつもりがないと抜けん！（橋本）

観戦REVIEW

小川〜ッ！マット界を丸ごと狩れッ!!（破壊王調）



OH砲結成当初から囁かれていたオリジナル合体技を初披露！　STOと水面蹴りを複合した、その名も“刈龍努（かりゅうど）”「夜もヒッパレ！」での名デュオぶりを見る限り、2人は“白い恋人達”になった様だ。試合では、それを上回る新合体殺法も披露！

と思いきや、試合が始まると、リングサイド、リング内かまわず小競り合いを始めた小川＆橋本。「初タッグ結成即解散か？」と周囲をヒヤヒヤさせるも、最後は例の合体技をケアー相手に畳み掛け、渾身の破壊王のスリーパーでケアーがタップ。見事初陣を飾った



今回の『真撃』は大阪城ホールである。大阪城ホールと言えばプロレス＆格闘技団体にとってはビッグマッチもビッグマッチ、一大勝負を賭けるべき会場と言えるだろう。

この日の『真撃』が西のビッグマッチなら東ではＮＯＡＨが有明コロシアムで三大タイトルマッチをメインにビッグマッチをぶっ放していた。こちらは1万2千人超満員のＮＯＡＨファンを集め興行的に大成功に終わった。

一方の『真撃』はというと、場内の演出こ、そ、すっかりお馴染みとなった真撃テイスト満載の豪華な和風ゲートがこしらえていたものの、正直、大会場には寂しい客の入り（主催者発表で7527人）となった。

今大会の一番のウリでもあった橋本と小川の本格タッグ結成は、『週プロ』の表紙を飾ったり、〝白い恋人〟（のちに『刈龍怒』に改名）をはじめ、いくつかの合体殺法まで披露し、かなりの話題となっていたのは事実。

しかしながら、今回の対戦相手はマーク・ケアーとトム・ハワードのリアル・アメリカンパワーコンビである。バリバリのバーリ・トゥーダー時代のケアーならともかく、今やすっかりプロレス修行中といった雰囲気が漂っているケアーと、正直いい選手ではあるが、まだまだビッグマッチのメインを務めるには知名度も、そのキャラクターも浸透しきっていないハワードでは、橋本＆小川組の相手には役不足といった感が否めない。

当初、噂されていたウォリアーズと橋本＆小川組が対戦したところで、絵的には申し分ないが、この日、大谷＆田中組と闘ったウォリアーズのファイトを見る限り、このカードは組まなくて正解だったかもしれない。

確かに橋本＆小川組はドリームタッグと言えるのかもしれないが、やはりタッグチームは相手があってこそ。しかるべき相手と闘わなければ、客もそうそうは会場へと足を運びはしないということだろう。

とは言え、いざ試合が始まると、「刈龍怒」や、それを上回る破壊力で「小川ーッ！　俺

大谷、ウォリアーズを狩れず大荒れ!



当初は橋本&小川組との対決も噂されていたウォリアーズ。結局、対戦相手は大谷&田中組となったが、ウォリアーズはベストコンディションにはほど遠い状態で、全盛期の暴れっぷりを知るファンからは落胆のため息が。敗れた大谷も「ガキの頃、憧れてたウォリアーズはどこ行ったんだ!」とバックステージの衝立を何枚も蹴破るなど大荒れ晋二郎であった



お前ら茶番劇に付き合わすんじゃねえよ!



小川とケアーがリング上で初対峙。ケアーのプロレスを学ぼうという姿勢は伝わってくるが、正直、小川とは格闘技戦で見たかった!

坂田亘、真撃ルールで星川を狩る!



高岩あたりをブッ倒して、大谷、村上と闘ってみたい!

試合後のコメント

とにかくプロレスでデビュー飾れたんで良かったです。(星川は)いい選手だったし、気持ちもビンビン伝わってきた。あの流星なんとかっていうのを出してもらいたかったけど。俺もとっておきの技があるんですけど、まだ今日は出来てなかったんで出さなかった。橋本さんには一本、道を通して貰ったわけで、プロレスには義理を感じてます。勉強のつもりで、タッグマッチもやってみたいですね。ホントにやるなら、そろそろ田村さんにも重い腰あげて欲しいし。自分の中で「かみ合うんじゃないか」って奴は高岩。ゴツゴツした奴は好きだし、殴り甲斐がありそうだし。高岩あたりブッ倒して、大谷、村上とフラフラになるような試合してみたい。俺も負けたくないんで、意地張って練習して自分を高めて行きたいですね。フリーになって、いろんな意味で楽しくなってきました。まあ2週間後にDEEPもあるんで、そっちもよろしくお願いします。窪田が「ブッ潰す」とか言ってるみたいなんで。ブッ潰されないように、っていうかブッ殺してやりたい。(真撃には)てっきりスリーカウントとかあるもんだと思ってたから、どうせだったら俺はそっちもやってみたいって気もある。



星川の強烈な延髄蹴りや、低空ドロップキックを喰らい、かなりのダメージを受けたという坂田だったが、カウンターの掌底を絶妙のタイミングで浴びせ、そこから衝撃度大の跳びヒザ蹴りでフィニッシュ! プロレスデビュー戦を勝利で飾った



入場してきた坂田の手にはグローブはナシ。グラウンドでは星川から何度もマウントを取り、顔面へ掌底を叩き込んだ坂田。序盤は「ピチピチやるな!」と野次も飛んだが、中盤からは強烈なローや高角度バックドロップでインパクトを残した



小川のベストマイクといえば、やはり「目を覚まして下さい!」であろう。しかし、ここ最近は、今一つインパクトも欠け気味か?



前回の大会に続いて辻アナが来場。"1・4事変"を闘った2人とその実況の辻アナの3ショットだ。次回大会は真撃中継実況へ進撃ッ!

ごと刈れッ!!」の言葉を発した破壊王もろとも失神に追い込んだジャーマン&STOの合体技を公開。おまけに場外での小競り合いから、リング上での〝目を覚ましてください〟ビンタまで飛び出し、本格発進第一戦目としては、まずまずの滑り出しを見せたOH砲。

試合後、リング上から「橋本選手と組んで、プロレス界をドンドンアピールしていきたいと思います!」とマイクを握った小川。

ただでさえ、相手に嫌がられそうな橋本&小川組の強力コンビに団体や対戦相手を選んでいる暇はない。橋本ももちろん、小川～～ッ! マット界を丸ごと刈れーーッ!!


ダブルテロリスト、外人に狩られる!



前回に引き続き、またもやUWFルールの採用かと思われた藤原組長対ディック・フライの一戦。結局、試合は真撃ルールで行われ、フライが顔面キックで組長を沈め真撃初勝利を収めた。次回、真撃では犬猿の仲対決パート2、ゴルドー対フライが見たいぞ!



日米ブチ切れ対決となった村上和成対ジョシー・デンプシー。前回の小川戦後の異常な切れっぷりは記憶に新しいが、この日もやっぱりエキサイト。村上を秒殺すると、メイン終了後インタビュースペースで小川を急襲! さかんに再戦をアピールしていた



不定期連載 No.3

死神通信【特別編】

構成／松澤チョロ
撮影／蘭光祭
designed by matsu（Two three）

This is オランダ・ルール

ジェラルド・ゴルドー先生の『脱いでも凄い恐怖の人生相談』

アナタの困った悩みを解決するレスラー人生相談！毎回好評の破壊王、そして日本一熱いプロレスラー大谷晋二郎は今回は所用でお休み。代わりにと紹介してくれたのが、なんと、あのジェラルド・ゴルドー先生だ！困ったときの死神頼みじゃないが、ゴルドー先生がアナタの悩みを正拳突きで粉砕！ 押忍！ 押忍！ 押忍！

Q 「ゴルドー先生はじめまして。僕は35歳の会社員です。僕は見た目も貧弱ですが精神的にも小心者です。通勤途中で中学生にガンをつけられても目をそらしてしまうぐらいです。ゴルドー先生、ぜひケンカの必勝法を教えてください（P.S.自分が本当のピンチのときしか使いませんから）」

（春乃／35歳・会社員・♂）

A 簡単な質問だ。オレの道場に来い！ 1ヶ月も稽古をすれば問題は解決する。オランダまで来ることによって1つ自信が付く。そして稽古をすることによってさらに自信が深まる。そうやって行動することによって自信は大きくなっていくんだよ。格闘技をやるのはキツイと思うんであればスイミングでもかまわないさ。何でもいいから行動してみろ。たとえ周りがバカにしても、自分でできると信じて見返してやるっていう気持ちを忘れるな。**こう見えてもオレは幼い頃は体も小さくてバカにされたりもした**けど、「絶対チャンピオンになってやる！」と信じて稽古を続けた結果、いまのオレがあるんだ。とにかく、一歩踏み出せ！ いまのままじゃ10年経っても何一つ変わりはしないだろう。他の読者も**自分に自信がないヤツはオランダに来ればいい。**ケンカの必勝法だけじゃなく、他のことも自信が付くようにタップリと指導してやるよ（ニヤリ）。押忍！

Q 「私の彼は、かなりの巨乳好きで、私の胸が小さいのをいつもボヤくのです。それで怒ると『お前のことは好きだけど、胸は別だ』と言われてしまいました。ゴルドー先生、男性にとって女性の胸は大きくないとやっぱりダメなのでしょうか？」

（お尻も小さい女の子／26歳・OL・♀）

A **その男は狂ってる！** 病院送りにしてやった方がいいかもな（笑）。それでも治らないなら、オレの道場に連れてこい！ じっくりと治してやるよ。オレの好きなタイプか？ オレは全ての人を愛しているよ。ただ、あんまり黒人や大きい女は好きじゃない。まあ、**ちゃんと女性に見えれば構わない**けどな（微笑）。押忍！



可愛らしく「私の化粧を落として」とお願いしてみろ！

Q 「ゴルドーさんはじめまして。23歳のOLです。2年間付き合ってる彼と結婚を考えているのですが、化粧を取った自分の素顔を彼に見せることがどうしてもできません。自分の顔色は低血圧で貧血気味で青を通り越してドス黒く、そればかりか近視なのでコンタクトを外すと目つきが悪く、トドメには眉毛は描かないとありません。そんな素顔だから夜のコンビニに行くと必ず警察に職務質問されたりします。自分でも寝起きの顔を鏡で見ると、あまりの凶暴さにため息が出てしまいます。ここ2年間は落ちにくい化粧で彼をうまくごまかしてきましたが、結婚して寝食を共にすれば素顔を見せないわけにはいきません。早い時期に見せるべきだったのですが嫌われてしまうのではと不安だったのです。こんな私にアドバイスをお願いします」

（愛美／23歳・OL・♀）

A 彼のことを本気で愛して、本気で結婚したいと思っているなら躊躇している暇はない。一刻でも早く彼に素顔を見せるんだ。素顔を見せずに結婚して、不安になったり、それが原因で離婚なんてことになってしまうんだったら、いまのうちに正体を明かすべきだ。覚悟を決めて彼自身にメイク落としをやってもらうんだな（笑）。**可愛らしく「私の化粧を落として」とお願いしてみろ！** その結果、彼の愛が真実かどうかがハッキリするはずだ。押忍！

Q 「ゴルドー先生、聞いて下さい！ 先日、私は電車で痴漢をされたんです。周りに助けを求めたのですが誰も助けてくれず、結局逃げられてしまいました。私は痴漢されたことよりも、誰も助けてくれなかったことが凄くショックなんです。ゴルドー先生、自分の身は自分で守るしかないんでしょうか？」

（田代まさこ／19歳・大学生・♀）

A **オレがその場にいたら、そのクレイジーはこの世から抹殺していたかもな。** 最近はそういった、くだらない連中が多いから、自分の身を守るためにも、女の子であろうが格闘技を習った方がいいだろう。とりあえず、オランダのオレの道場に来るん

だ。ファッキン・クレイジーを叩きのめす技を優しく伝授してやるよ。押忍！

Q 「私の彼は左利きです。そんなことはどうでもいいのですが、彼はマリファナをやっているんです。はじめはさすがに注意したのですが、逆ギレされるのがオチなので、今ではもう何も言えません。しかし、回を重ねるたびに、その質・量ともに上がっています。グラス先進国オランダ御出身のゴルドー選手は、どこまでなら大丈夫とお考えですか？　また、度を越してしまった場合、どう彼を止めたらよいでしょうか？」

（匿名希望／17歳・女子高生・♀）

A 彼の人生だから**キマりたいなら吸えばいいが、**その男は間違いなく狂ってしまうぞ。彼女は**「あと2ヶ月は吸いなさい。**それで止めなかったら別れる！」ぐらい彼に言わないとダメだ。そうしないと、このままでは彼女もマリファナに手を出すことになる。生まれてくるベイビーも吸うことになって、**家族全員でキマっちまって不幸な結末を迎えるよ。**マリファナっていうのはオレの**経験上、**脳に凄く悪いブツなんだよ。これは間違いない！　オレは**17歳のときにコーヒーショップ**を経営していたんだが、**客が全員キマっているっていう**クレイジーな雰囲気で、それが嫌になって店を閉めたんだ。確かに、人生において何事にもトライするのは大事なことだと思う。でも、それには理由が必要だ。マリファナを吸うことによって人生が素晴らしいものになるとか、精神が強くなるのであればオレもやるけど、そうはならないだろ？　その彼が言うことを聞かないようだったら、オランダに連れて来い！　**オレがどんなことをしてでも止めさせてやるよ。**押忍！

Q 「僕は両親や付き合ってる彼女、友達から「子供だ」「幼い」「いつになったら大人になるんだ」といつも言われます。僕自身はそう感じたことは一度もないし、かえって同年代より大人びてると思ってるのですが……。いったい大人の定義とはなんですか？　ゴルドー先生、教えてください！」

（花道小僧／24歳・♂）

A ジュラシック・パークやサンタクロースを信じているうちは子供だよ（笑）。大人っていうのは、自分の意思でイエス、ノーを決めることができて、それに対して責任がとれるようになることだ。例えるなら、**マリファナを吸ってるうちは子供で「これは吸ってはいけないものだ」と気づくのが大人だな。**オレが何歳までサンタを信じていたかって？　10歳ぐらいだったかな。オヤジが早く死んでしまったんで、オレは早く大人にならなきゃいけなかったんだよ。そういう意味で、オレには子供らしさっていう部分が抜け落ちているのかもしれないと思うこともあるよ。普通の子供が経験するようなことをオレは経験してないからな（寂しげに）。まあ大人になりたいんだったら、オレの道場に来い！　大人の世界を嫌と言うほど教えてやるよ（ニヤリ）。押忍！



ゴルドー先生からの
クリスマスプレゼント

ゴルドーサイン入りドージョー・カマクラ特製ワッペンをセットで3名様にプレゼント。これを付ければ怖いモノなし！　宛先はP157参照！　押忍！　押忍！

Q 「相談ではないのですが、ゴルドー先生が過去にやった一番悪いことをどうしても聞きたいのです！　ぜひ、お願いします！」

（ガチンコ・フェイククラブ／27歳・サラリーマン・♂）

A オレが若い頃は……（あまりにも危険なエピソードのため編集部判断により自主規制）**……だがな、悪いことをしたと反省することなど1つもない。他人から見れば悪いことだと思われるかもしれないが、オレにとっては誠実な行動だからな。**たとえば、オレのガールフレンドや道場の生徒が何かされたりしたら、そいつを殴ったり、**刺したり、撃ったりするのは当然の話だろ？　オレの中ではオレがルールなんだよ（ニヤリ）。**押忍！

Q 「ゴルドー先生、突然の相談失礼します！　ボクはどんな仕事をやっても長く続きません。長

試合後、アントニオ猪木、そして藤田和之に対戦表明!!（なぜだ？）

12・9『真撃』大阪城ホール 因縁のゴルドーVSナイマン プチレビュー



試合後「次に闘いたい相手は？」という質問に対しゴルドーは「しいてあげるならば、アントニオ猪木、それに藤田和之だ」と突然の対戦表明。それは見たい！





ゴルドーが道衣を脱ぎグローブを外すと、それだけで会場は大騒ぎ。この日は拳を痛めていたにもかかわらず、正拳、そしてサミング！　最後はなんと腕十字で勝利！



同じオランダ人だというのに一切話もしないというほど仲がよろしくないゴルドーとナイマン（＆フライ）。ナイマンのセコンドにはヨープ・カステルが付いていた

続きするコツを教えてください！　たとえば、ゴルドー先生がされていた仕事の話なんかを参考にしたいのですが……」
（能登悠真／23歳・無職・♂）

A オレは道路工事やテレビのアンテナの取り付け、車の修理、ペンキ屋など何でもやっていたよ。**バーバーショップもやっていたことがあったな。カットはもちろん、髪を染めたりもしていたんだ。ライセンス？　そんなもんは持ってなかったけど、評判は良かったよ。誰も文句を言ってなかったしな。**たまに「おまえはプロなのか？」って聞かれたけど（ギロリと睨んで）何か問題があるのか？」と言ったらノープロブレムさ（笑）。ライセンスなんか関係ないんだよ。なんたって、オレの兄貴が軍隊でサージャントをやってたんだけど、**書類を勝手に書き換えてオレがサージャントに**なりすましていたこともあったぐらいだからな（笑）。要はやる気とそれ相応の技術があれば何も問題はない。押忍！

Q 「ゴルドー先生、いま日本は狂牛病で大変なことになってます！　自分は牛肉が大好物なので本当に困ってるんです。ゴルドー先生、なんとかして！」
（デビット・ミンチ／予備校講師・26歳・♂）

A その問題については、オレは**オランダ政府に非常にハラが立っていることがある！**　もっとも、オレがオランダ政府に怒っているのは、その件だけじゃないんだが、狂牛病問題に対してオランダ政府がしていることを教えてやろうか？……（日蘭の国交問題までに発展しかねない内容のため編集部判断で自主規制。押忍！）

Q 「ゴルドー先生はこないだのニューヨークで起きたビル爆破テロについてはどのような見解をお持ちでしょうか？　平和ボケしている日本人に、ぜひともゴルドー先生が感じたことをお教えください」
（ファイヤー／45歳・会社役員・♂）

A （急に険しい顔になり）**ビン・ラディン！　バキッ！（某ホテルラウンジのテーブルに亀裂）。オレは罪のない人間にあんなことをするヤツは許せない！　いますぐブチ殺してやりたい！　オレが戦場に出向いて正拳突きを喰らわしてやってもいいぞ！**　それはこないだの池田小学校の刺殺魔も一緒だ！　ああいう人間のクズどもは残り漏らさず抹殺するべきだ。押忍！

Q 「何をやっても集中できません。とにかくひとつのことに集中できないのです。テレビを見てると新聞が気になるし、コーヒーを飲んでいると緑茶が飲みたくなるし、恋人ができると違う人が気になってきます。どうしたら集中力がつくのでしょうか？」
（ヤング友田／24歳・飲食店勤務・♂）

A 似たような質問が多いな。**何度も言わせるな。**悩んでいる暇があったらオランダのオレの道場まで来ることだ。わかったか？　押忍！



ビン・ラディン！　いますぐブチ殺してやりたい!!



まだまだ相談したいヤツはオランダに飛んでいけ！　えっ、ゴルドーが怖いって？　じゃあ、優しいマーク・ケアーと、お互いの悩みについて意見交換でもするかッ!?　とにかくなんでもいいから、ハガキを送ってこい！

【宛先】
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス　『紙のプロレスRADICAL』編集部
『俺ごと悩みも刈ってくれ！』係まで

PANCRACE 2001
PROOF TOUR
12.1 横浜文化体育館

やめられない、とまらない！
パンクラス連合軍vsグラバカ対抗戦
またもや大爆発!!



ここ一番で恐ろしいまでの力を発揮する
この男が帰ってきたぜーーーッ！

文／大坪ケムタ　構成／チョロ
designed by hisa (Two Three)

大将戦は大方の予想を裏切り近藤の"圧勝"！ パンクラスマット、No.1ヒール郷野を病院送り!!





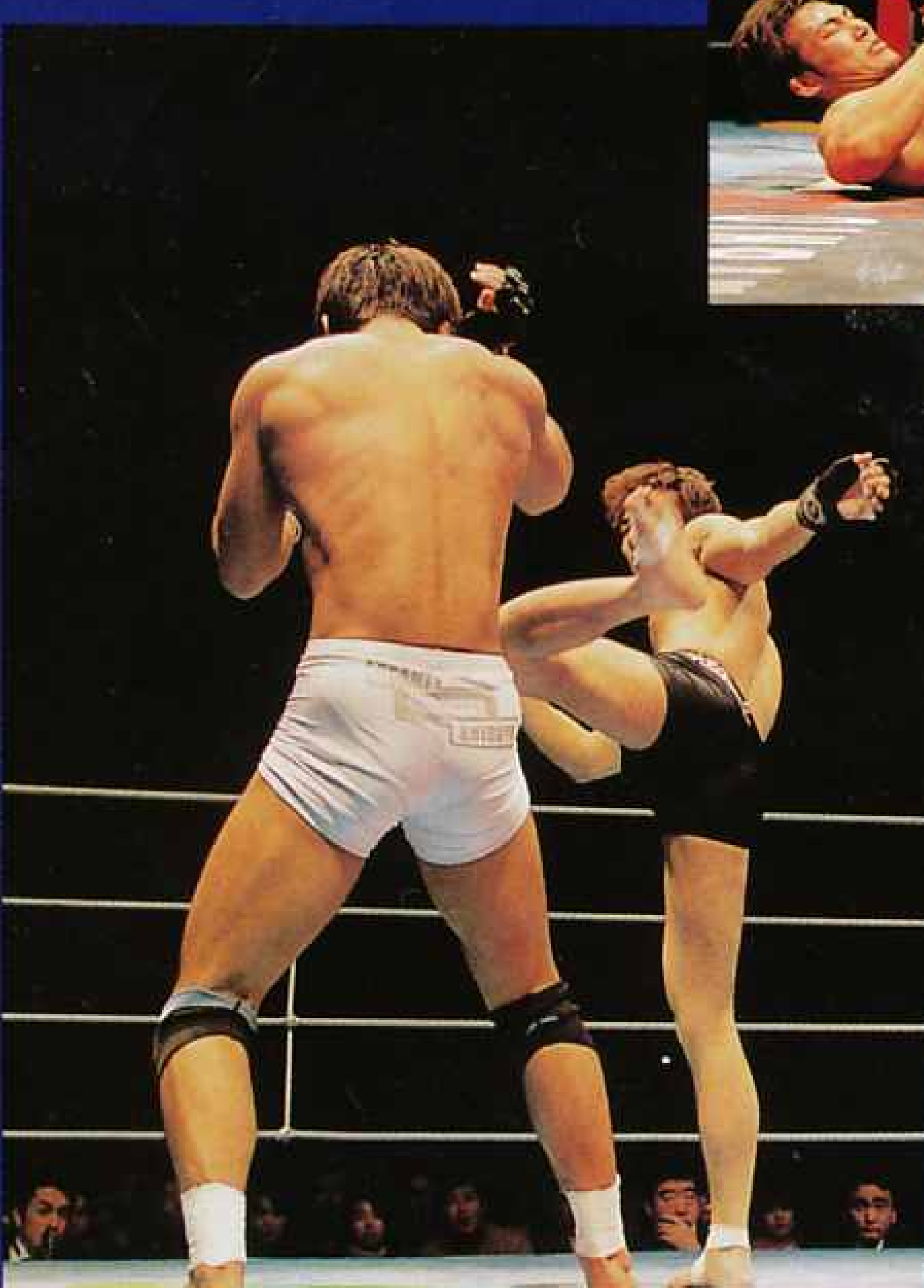




大金星まであと一歩！
対抗戦最前線の経験は
ムダでなかった渡辺

パンクラス移籍後、菊田をここまで追い込んだ日本人選手は初めてだろう。しかもデビュー4年の選手……。郷野・佐々木・石川・佐藤と対グラバカに明け暮れた渡辺の一年。寝技ではその遠すぎる距離を見せつけられたが、自らの成長も菊田に見せつけた。しかもコンテンダーズで菊田と対戦する鈴木は「穴が見えた」という……。この一穴がパワーバランスを変えるか？





好試合の予感が
一転凡戦に……
佐々木の安定感
崩せぬ渋谷、
いい所なく完敗！

グラバカトップ勢と当たるのは初めての渋谷。佐々木の守りの堅さにレスリング技術を封印、というより攻め手が無いのか……。佐々木は前回の石井KOに次いで今度は極めての勝利。美濃輪に負けたとはいえ、総合的なバランスの良さはパンクラスでもトップクラス。1月の山宮戦で勝てば再び美濃輪戦、または近藤戦とランク上位との闘いが見えてくる。





ティト戦から一年、
モデルチェンジして
エースが帰ってきた！

フィリョ戦でグラウンド対応力の向上が見え始めていたとはいえ、郷野に完勝するとは……。持ち前の腰の重さと打撃の強力さを存分に活かしたスタイルは最大のグラバカ対抗策。試合後は「(挑発しあうような)そういう闘いは最後にして欲しいですね。自分たちの闘いは「憎しみ合い」じゃないんで」とやっぱり癒し系のコメント

現在のパンクラスが東京・横浜道場連合軍とグラバカの対抗戦を中心に熱く回っているのは、パンクラスに興味のない人でも最近の各プロレス・格闘技誌の好評ぶりを見れば周知の通りだろう。

　この2派、生え抜きである連合軍＝ベビーフェイス、外様であるグラバカ＝ヒールの構図で語られることが多い。というか一方的に郷野が煽りまくるもんだからグラバカが悪役路線まっしぐらな訳なのだけど。しかしこの2派は善悪というよりプロ野球のセ・パ両リーグに似たものを感じる。よくいう「人気のセ、実力のパ」というヤツである。

　そんなパンクラス内日本シリーズとも言える直接対決第3戦が行われたのが12月1日、横浜文化体育館。

1戦目の9月30日、横浜大会では菊田が美濃輪を下し、2戦目の10月30日後楽園大会での5対5全面対抗戦では3勝1敗1分と勝ち越しグラバカが完全優位に立った。

　今回第3戦、それこそ野球の日本シリーズならば3連敗すれば完全敗北。しかも美濃輪が負けた今、連合軍ファン最後の心のよりどころ近藤有己の出撃！　しかも相手は“悪のグラバカ”の象徴とでもいうべき郷野聡寛。コメントを見てもキャラ的に正反対なこの対決、今年の全プロレス界を見渡してもここまでベビー・ヒールがクッキリ分かれた対決は無かっただろう。まさに今年最後の大一番にふさわしい一戦！

　それに渡辺大介vs菊田早苗、渋谷修身vs佐々木有生を加えた3番勝負。これに勝ち越した方が以前、後楽園で郷野が要求したブラジリアントップチームとの対抗戦を行う権利が与えられることになっている。

　この先にある「世界への挑戦」を目指し勝つしかないグラバカ。生え抜きの意地を見せるべく負けられないパンクラス連合軍。世間で対抗戦といえば猪木軍vsK―1軍だろうが、ココだって負けてはいない。アチラが大物選手の対決が売りなら、パンクラスには9年の歴史の上で築いてきた賭けるべき物がある。それだけに今回近藤が負けたら木っ端微塵……そういう恐ろしさをパンクラスファンは多かれ少なかれ持っていたに違いない。

　そんな不安の中の対抗戦第一試合、菊田vs渡辺。ハッキリ言って渡辺の勝ちを予測していた人は万に一人もいなかっただろう。それだけにファーストコンタクトに文体が揺れた！　ゆっくりと近づく菊田に渡辺が跳びヒザ一閃！　予想外の攻撃に転倒する菊田に対し、その上からパンチの連打を加える渡辺。効いているのか混乱状態なのか上手くガード出来ない菊田。もしかしてもしかする？　といきなりの文体爆発‼　……だったが、落ち着きを取り戻した菊田がスイープからマウントを取り肩固めというフルコースで、終わってみれば寝技での実力を見せつけた。しかし本気のイラだち顔でとっとと リングを後にした菊田に対し、涙ながらに礼をして大きな拍手を浴びる渡辺。今年は2勝4敗1分と結果的には負け越しに終わったものの、この最終戦で渡辺は菊田相手に大きな傷跡を残した。これは大きな成長。もう通過させるだけの門番とは言わせない。ある意味、今大会最大の成果なのかもしれない。

　続いて第2戦は渋谷vs佐々木。ここで負ければ大将戦の近藤を待つまでもなく対抗戦敗北が決定するため負けられない渋谷。とはいえ消化不良な「負けない試合」は見たくない。「さすが生え抜き、さすが渋谷！」という試合こそ今の彼に望むべき物なのだ……しばらくそんな想いを果たしてもらってない故。1Rはお互いの腕、脚を取りに行く積極的な姿勢が光る好勝負の予感！　しかしそんな期待に反して、2R以降は渋谷インサイドガードでの膠着試合に。そんな3R途中、注意が両者に出され

均衡が破れた。渋谷がタックルで上を取るも、一瞬崩れた隙をつき佐々木が下から三角絞めに捉える。そのまま腕十字に移行し、渋谷遂にタップ。またも、ここ一番の弱さを露わにしてしまった渋谷。渋谷がこのトンネルを抜ける日はいつなのか？

この時点で2敗、休憩前でグラバカ勢の勝利は確定してしまった。しかし大将戦での勝敗はここまでの2戦と同じ位重要ともいえる。郷野が近藤を下せば「パンクラスに敵無し」を胸を張って言える完全勝利。何より負けたら「寝技なら寝起きでも勝てる」「スッキリ勝って早く遊びたいですよ、忘年会、飲み会、合コンと（笑）」といった郷野のこれまでの自信に満ち溢れた発言が全てパーになってしまう。


1分12秒KOとアッサリではあったがメインはしっかり務めた高橋。ヘビー級の問題は挑戦者を誰にするかということ。対抗戦に負けない熱気をベルトに取り戻すことがこれからの高橋の責任なのは間違いない。


対抗戦の熱い空気が覚めやらぬまま始まったミドル級王座防衛戦。これが終始膠着で客席を冷えきらせる結果に。ブーイングを静まり返す為にも、國奥は魅力ある挑戦者と好勝負を繰り広げるしかない。

近藤の復活・渡辺の成長…連合軍巻き返しの予感！

マシンガンの銃声響くジュノ・リアクターに対して、癒し系なエンヤと入場曲も対極な二人。リング上でも目前でガンを飛ばし挑発する郷野。1R、打撃にはさすがに警戒し組み付いて倒そうとする郷野。中にはバックドロップ気味の投げも。しかしなかなか倒れない上、転がされても即立ち上がりスタンドを再開させる。近藤の打撃といえば「跳びヒザ」だが、パンチの威力も相当な物。ヒベイロ戦でのフィニッシュの連打、UFCのダンテス戦での強烈な一撃とその破壊力&命中率共に証明済み。ラウンドが進むにつれ、その拳が郷野のガードをこじ開けて入り始める。脚を取ってグラウンドに引きずり込もうとする郷野だがほとんど近藤がカット、上から押し潰しては鉄拳を浴びせていく。2R終了後には赤く腫れた郷野の右目にドクターチェックが入るも続行。近藤の優勢は動かない。

そして3R直後、近藤が郷野からマウントを奪い再びパンチの連打！しかも相手コーナーの目の前、セコンドの菊田に見せつけるような圧倒ぶり。完全に動きを鈍らせた郷野に菊田は遂にタオル投入、予想を大きく裏切る近藤の「圧勝」だった。美濃輪も菊田もいるけれど、やはりパンクラスの主人公はこの人しかいない。ティト戦から1年、組技対策を万全にして若きエースが帰ってきた！

ここ一番で恐ろしいまでの力を出すこの男が！ 対抗戦の2敗のショックを一気に消し飛ばす快勝に沸き上がる観衆。それに対し郷野を病院送りにされたグラバカ勢は沈黙。

この結果で次回ライトヘビー級タイトルマッチは菊田vs近藤になるのは、ほぼ間違いないだろう。高橋・美濃輪が菊田に負け、渋谷・石井がそこまでたどり着けない今、近藤は最後の切り札となった。


相変わらずノンストップなドタバタした試合なのに終わってみればキッチリ完勝という美濃輪流横綱相撲。もはや若手ではない、という風格すら漂わせる試合内容。試合後の天を指さすポーズとＯｉ！コールもすっかり定着。来年は外に出ていく姿も見たい！

そのベルトを巡る試合がセミ・メインと組まれた、けれど対抗戦後では盛り上がりも悪く……ここが今のパンクラスの難点である。「王者の為に試合を組んでるのか、挑戦者の為に組んでるのか？」と揶揄されまくりなミドル級タイトルマッチは微妙な判定で國奥麒樹真がネイサン・マーコートを下し念願の初戴冠。膠着気味で観客からブーイングも出る試合だっただけに、今後「王者らしい試合」を見せられるかが課題だろう。

一方1分強でアッサリ藤井克久を強烈なフックで仕留め、初代ヘビー級王座についたのは高橋義生。コメントも落ち着いたもので王者二人はUFC挑戦を匂わす発言。菊田にもUFCのオファーが来ており、近藤も「ベルトよりUFC」とコメントしていることからも来年のパンクラスは再び外に討って出る年になるのかもしれない。

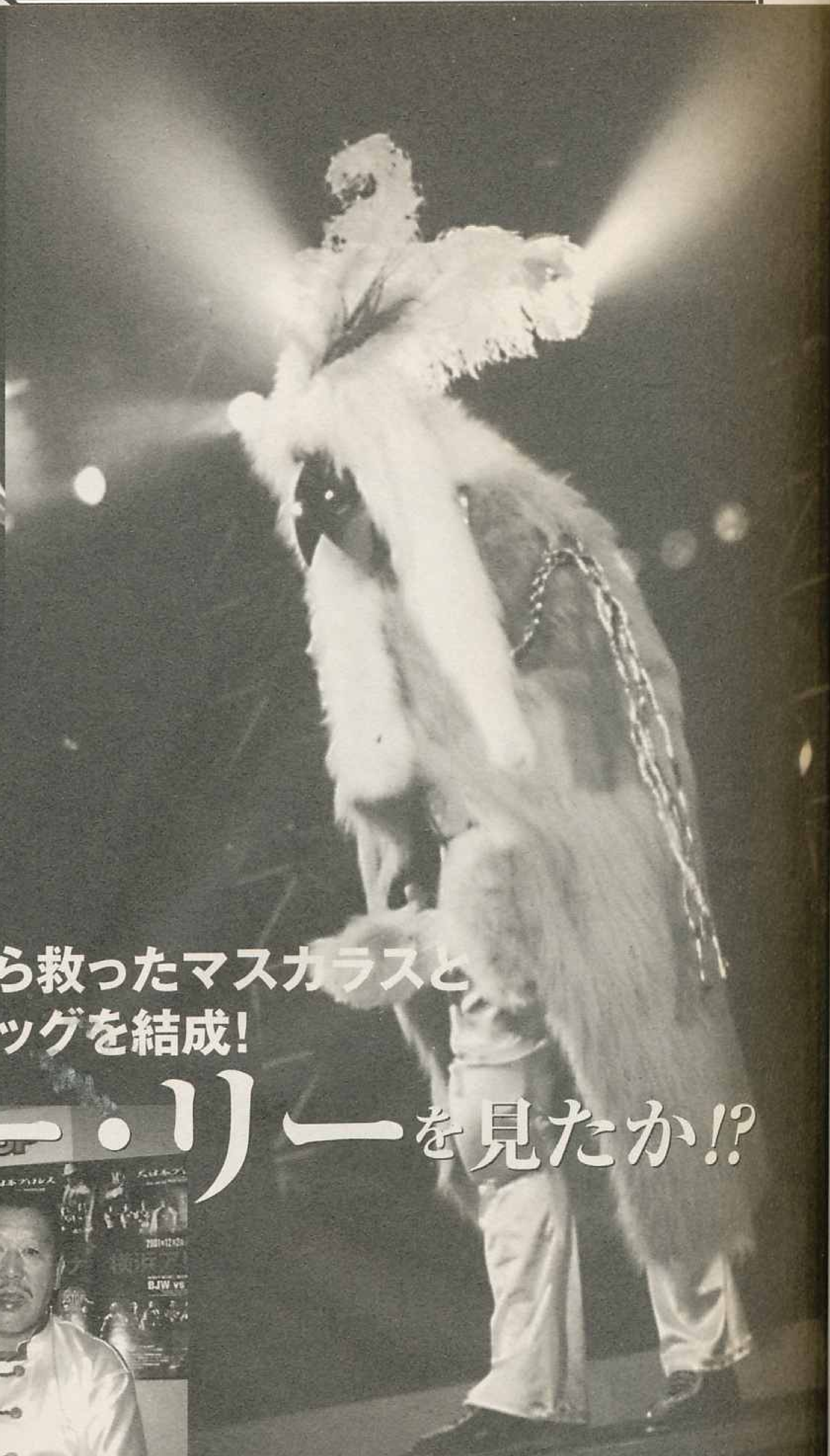
また、この日はRJWの柴田寛と対戦した美濃輪育久。相変わらずの上に行ったり下に行ったりの野獣のようなファイト、キーロックも繰り出し最後はヒザが相手の額をカットしてドクターストップ、危なげなく復帰戦を飾った…と思ったら、急遽23日のDEEPに出場決定！日高vs伊藤戦の中止に伴った代替カードとしてU－FILEの大久保一樹と対戦することに。総合で一ヶ月2試合なんて普通なら考えられないが、無謀節は師走も来年も止まらない勢いだ。

船木引退から1年。見事に過去の匂いを消し去り、新しい風景を打ち立てたパンクラス。来年はベルト中心にカードは組み立ててると尾崎社長の発言もあるが、やはり基本は連合軍、グラバカ、そしてRJWや慧舟會といった他団体との対抗戦。この一年で渡辺が急成長を遂げたように本隊も新しい力が芽生えつつある。もちろん旗揚げ世代もまだ引きずり下ろされないどころか、高橋・鈴木は調子を上げてるのでは？と思わせる節もある。団体、世代、ファイトスタイル、イデオロギー、全てがクロスオーバーする2002年のパンクラス。このリングの磁力の強さはまだ消えない！


船木引退後の本隊を引っ張ってきた道場長2人。高橋は選手としてヘビー級王座を奪取、鈴木は指導者としても再び脚光を浴び、両者とも良い一年だったと言えるだろう。まだ来年も大きな壁として存在し続けそう

爆笑連載!?





リンチの危機から救ったマスカラスと
友情タッグを結成!

キミはクンフー・リーを見たか!?



昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

前編大反響! 横浜アリーナ大成功! 隼隊魂は燃え続ける!!

グレート小鹿［後編］



キミはグレート小鹿インタビュー前編を見たか!?
それは、豪快極まりない日プロ黄金時代やマスカラス・リンチ事件の真相などの知られざる秘話が続出し
戦時中の隼隊を彷彿させる小鹿社長の暴れっぷりに反響が殺到した前号のことである。
今号でも、古き良き全日本プロレス時代を中心に、その隼隊魂溢れる小鹿社長の半生を辿るのだ!

聞き手／吉田豪　構成／斉藤中　designed by matsu (Two three)

――これまでお話を伺ってみて日本プロレス時代が相当楽しかったのはよくわかりましたけど、それと比べると全日本プロレス時代はどうだったんですか？

小鹿　そりゃあ、もちろん日プロの方が断然楽しかったよ（キッパリ）！　全日本には、不満がかなりあったからね。

――それはなぜですか？

小鹿　やっぱり殿様が人の言うこと聞かなかったからでしょ！

――つまり、馬場さんがですね。それは元子さんの力によるものでもあったんですか？

小鹿　多分にね。それは最後の方になれば元子さんの力も強かったんだろうけど、でも最初の頃は馬場さんが自分の思うようにやってたんじゃないの？

――じゃあ、全日での元子さんの影響力が強くなったのはいつ頃からなんですか？

小鹿　まあ、噂なんだけども……。旗揚げして3年目ぐらいにで数千万円の借金が出て、そんとき元子さんがある程度資金援助してやったと。それから馬場さんが元子さんの言うこと聞くようになったって人から聞いたけどね。定かじゃない、多分にね。

――以前、カブキさんから聞いた全日時代のエピソードなんかだと巡業中のバスの中で宴会やったりしてたっていうから、てっきり日プロ時代並に豪快な楽しい毎日なのかなって思ってたんですけど。

小鹿　ガッハッハッ！　馬場さんは飲んでもあんまり酔わなかったけどね。

――ホント、酔わないらしいですよね。



全日がフィリピン遠征したときの集合写真。左から大熊元司、小鹿、マイティ井上が並び、とにかくタダ者ではないことがわかるのだ。

小鹿　胃袋が大きいのか、どっか人と違うのかわからなかったけど（笑）。でも、三日酔いにさせたときがあったなぁ。

――三日酔いですか！

小鹿　全日本のシリーズ中に、オレとトンガ（キング・ハク＝ミング）と天龍と高千穂（明久＝グレート・カブキ）で馬場さんを囲んで宴会やってな。

――また、異常にお酒の強そうなメンバーですねぇ（笑）。

小鹿　馬場さん、立てなかったからね。元子さんに「小鹿さんッ！　アンタの責任よ！　アンタが部屋まで連れて行ってちょうだい！」って怒られて（笑）。

――酔わないはずの馬場さんを潰して、影のドンを怒らせたと（笑）。でも、馬場さんがそんな状態なら全員三日酔いじゃなかったんですか？

小鹿　オレらは要領いいから（笑）。馬場さんはみんなから「社長、どうぞ！」って何回も酒を注がれてさ。一番飲んだんじゃないか？　ガッハッハッ！

――馬場さんはずっと周りからお酌を受けてたと（笑）。全日時代の宴会も豪快だったんですね。

小鹿　ただ、全日本には飲む人がいなかったんですよ。だから、全日本では番持ちでの宴会が多かったっていうかね。

――番持ちの宴会ですか？

小鹿　たとえば、全日本の営業がある会社に切符を買ってもらったと。そうしたら、その社長と選手が一緒に飲んでくださいって営業の方からくるわけですよ。

――いわゆるスポンサーの接待ですね。

小鹿　そうしたら、番持ちに行くのなんて全日本ではオレとクマ（大熊元司）しかいないじゃん。鶴田は酒飲まないし……（小指を立てて）あっちは好きだけどな（笑）。

――みたいですね（笑）。

小鹿　天龍はあの通り北向いて行かないでしょ。

――酒は好きだけど、そういう席には行かないっていう（笑）。

小鹿　だから、営業が馬場さんに言わないでオレとクマさんに直接来るんだよ。「切符200枚買ってくれた社長さんがいますから、お願いしますよ！」ってな。オレは「いいよお、オレは自分で飲んだほうがいいから！」って言うと「今度来たとき買ってくれなくなりますよ！　お願いします！」って。それが毎日だよ、毎日！

――毎日ですか！　かつての全日のシリーズはかなり長期間でしたからそれは大変でしたね。

小鹿　そう！　それでオレらが帰ってくると、馬場さんはホテルのロビーで葉巻吸ってるじゃん。

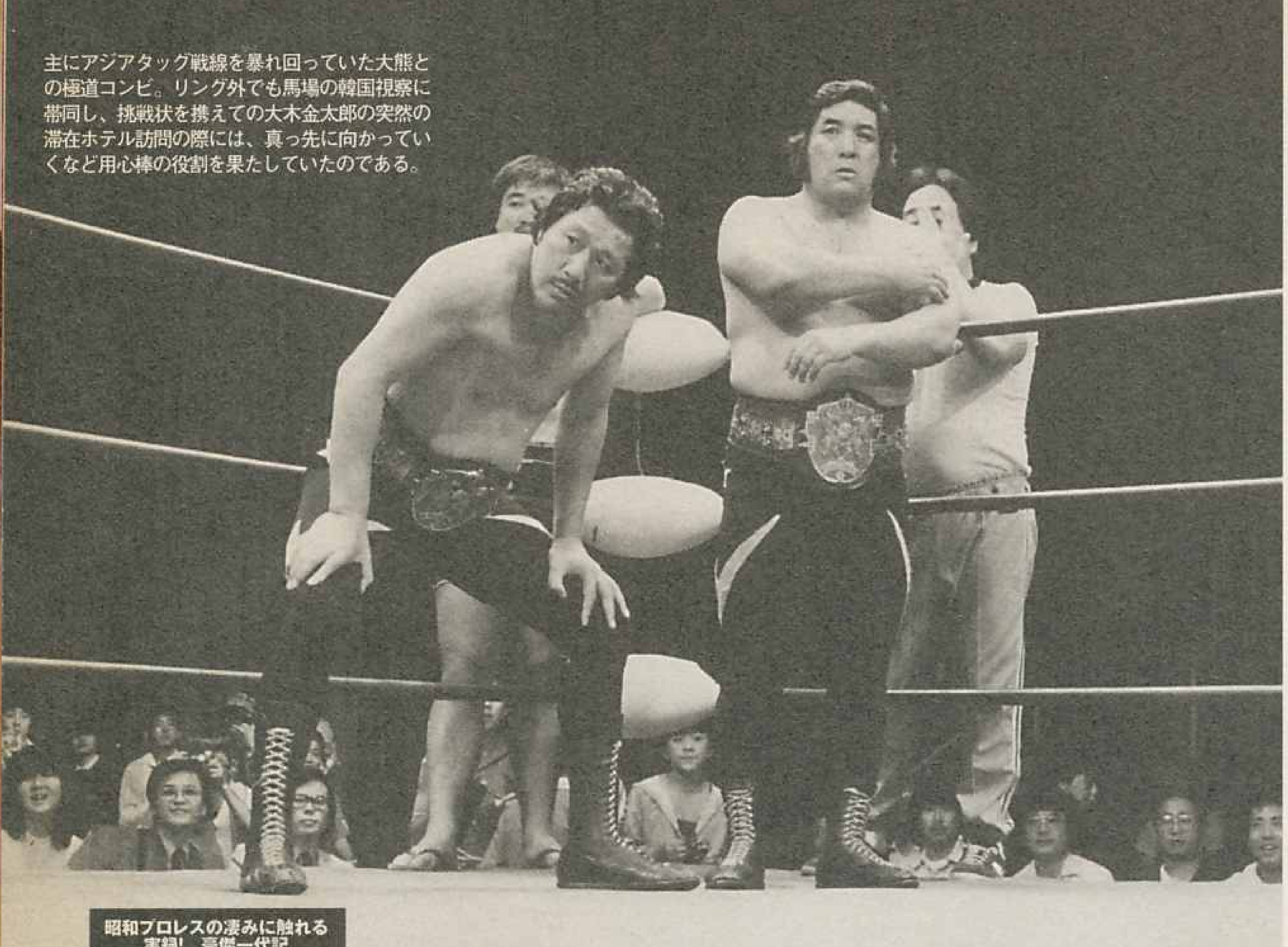
――また優雅ですねぇ（笑）。

小鹿　別に社長だから、のんびりしてんのはいいけども。オレらが「お疲れさまです！」って挨拶すると、「オマエラはいいなぁ。毎日タダ酒飲めて」って、こうくるんだよ（あきれて）。

――それはさすがにカチンときますね（笑）。

小鹿　オレが「営業に言われて行ってるんですよ」と言っても、馬場さんは「それでもタダ酒飲めるんだからいいじゃねえか」って。そういうことはいっつも言われ

爆笑連載！?



主にアジアタッグ戦線を暴れ回っていた大熊との極道コンビ。リング外でも馬場の韓国視察に帯同し、挑戦状を携えての大木金太郎の突然の滞在ホテル訪問の際には、真っ先に向かっていくなど用心棒の役割を果たしていたのである。

てたよ。

――タダ酒にもいろいろありますからねえ。

小鹿　それなら、自分で焼き鳥とかラーメン食って飲んだ方が楽しいじゃん。「社長、今回はありがとうございます！」って頭下げて、オレも下手くそな歌を歌って場を盛り上げて、「来年もお願いします」って営業してるんだからさ。そんなこと言われりゃ、カチンとくるよな。それで「もういいや！」と思って行くのやめたんだけど。あるとき行かなくてトラブルになったもんな。名古屋とかどっかで営業が挨拶にこないって。

――うわ！　それは地元の組関係ってことですか!?

小鹿　（無言で頷き）それでウチの人間がその事務所に呼ばれてな。それでオレのところに『「とにかく許さない！」』って怒ってます!!」って電話をかけてきたんですよ。

――大変じゃないですか！　それで小鹿さんはどうしたんですか？

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

タオルとTシャツを手土産に、組関係と話をつけましたよ

小鹿　オレは「おし、わかった」って言って、ジャイアント・サービスのシャツとバスタオル2枚ぐらい持って事務所に行ったよ。

――ダハハハ！　手土産はそれだけですか（笑）。

小鹿　それで「営業が入ったばっかの新人で、ボクらも任せっきりだったもんで。すいませんけど、これ納めてください」とかうまいこと言ってさ（笑）。そしたら、先方も「まあ、オマエが来たらなあ」って、コロッと態度変わって話がついたんだよ。

――いちいち体張ってますねえ！　まさに極道コンビだったというか（笑）。

小鹿　ガッハッハッ！　いやあ、極道コンビっていうのはリング上だけで、そういうところまで利用してほしくなかったよ。だって、そのときのタオルとシャツ代、オレの給料から引かれたからな！

――え～っ！　ホントですか!?

小鹿　「オマエ、勝手に持っていっただろう！」って。それはないだろう!?

――さすが細かいですね（笑）。

小鹿　そんなね、こまいことならいっぱいあるよ！　たとえば、全日のバトルロイヤルの賞金っていうのは優勝者がもらうんじゃなくて、スポンサーから出るその賞金を選手会が管理して年末に全選手に均等割りにするんですよ。それが年間500万とかになるんだけど。

――あ、てっきり賞金は出てないものかと思ってましたから、それはそれでいいシステムじゃないかと思いますけど。

小鹿　でも、鶴田はバトルロイヤル一回も出ないのに均等割りになるんだよ！　そんなことやってたら若いやつから文句が出るだろ？　若いやつは小遣いなくてピーピーしてるんだから。それで、オレは全日では選手会長でもあったから、馬場さんに「微々たるもんですから、鶴田のサイン会のギャラの一割でも選手会に入れてください」ってお願いしたんですよ。

――それで選手間の不公平をなくそうとしたわけですね。

小鹿　そう。3万円だったら、3000円で微々たるものだからね。オレは「それでみんな納得しますから」って言ったんだけど、馬場さんは「ダメだ！　サイン会は鶴田のものだ」の一点張りですよ。じゃあ、「バトルロイヤルは誰ものですか？」って聞いたら「それはみんなのものだ」なんて言うから「だったら、鶴田は出てないじゃないですか？」って返したら「テメエ、この野郎！」ですよ。

――ダハハハ！　しかし、馬場さんに対しても隼隊根性で喰ってかかってたんですね（笑）。

小鹿　馬場さんは物言えなくなると、いっつも「テメエ、この野郎！」でしたから。若いやつだってそういうことだったら、ちゃんと試合やるでしょ。キャリア1年2年でバトルロイヤルで勝てるわけないんだから。

――全日でも闘ってきたわけですね。

小鹿　いい役も悪い役もやってんだから。だから風辺りが強いんだろうね……。

――でも、そういったプロモーターとかとの付き合いが、いまになって興行面でも役だったりしてるんじゃないですか？

小鹿　う～ん、ないとは言わないけど……ないよ！

――ないとは言わないけどない、ですか（笑）。

小鹿　なぜっていったら、小鹿の名じゃなくて、全日本の馬場で営業に行ってたわけだから。たしかに馬場さんの名が大きいっていうのはありましたよ。でもね、悪いけどオレは全日のときに品川の新高輪プリンスホテルで20周年記念パーティーやって、500人の招待のところ800人も来たよ。そんなパーティーやったのはプロレスラーでオレが一番最初だから（キッパリ）！

――そ、そうだったんですか!?

小鹿　ウソでもなんでもないよ。そりゃあ、半分ぐらいは全日本の客がいたかもしれないけど、オレはちゃんと人に受けた恩を返してるから集まったことであって。いま付き合ってる大日本のプロモーターって、全日本のときのは1人もいないですよ。会社変わったら冷たいもんです。それはハッキリしてますよ！

――小鹿さんは全日本の興行も手掛けてたんですよね。

小鹿　やってましたよ。年間で10試合ぐらい買ったっけ。ブッチャーの最盛期のときなんて1週間やりましたよ。

――ブッチャーの全盛期だったら、かなり儲かりそうですよねえ。

小鹿　でも、馬場さんはまけないよ（キッパリ）。新日本だったらギャラ1割、2割引いて選手に渡すけど、まともに金取るよ。

——さすがだなあ（笑）。

小鹿　そういう部分は馬場さんはピシッとしてましたよ。オレが引退興行をプロモートしたときも、損して催促されて払いましたからね。

——とことんシビアですね（笑）。

小鹿　う〜ん、シビアっていうのか、ガメついっていうのかなあ（笑）。鉄の、氷の精神ですよ。こないだ木戸（修）の引退興行があったでしょ。オレとの待遇の差がこんなんだよ（両手を大きく広げて）。普通は半分にするとか、何割引くとかね。調べてみなさい！

——調べようがないですよ（笑）。確かに全日では、ある選手が引退したときにリング上で功労金の目録を渡されたけど、結局お金はもらえなかったっていう話がありますからね（笑）。

小鹿　誰が引退したとき？　平井？

——いや、●●さんなんですけど（笑）。

小鹿　●●●●か（苦笑）。それはオレが辞めたあとだからわからないけど、しかし（苦笑）。…その功労金のシステムもね、オレが作ったんですよ。

——そうだったんですか!?

小鹿　ミツ・ヒライさんがね、神戸で名前だけの引退興行（昭和53年）やったの。そんときに選手のギャラをみんなゼロにしてヒライさんに送ろうってさ。それからですよ。オレも25周年のパーティーときももらったし。そういうシステム作ったのはオレ。

——小鹿さんは水面下でいろいろ闘ってきたんですね。

小鹿　闘ったけども……良いか悪いかは別にして、結局権力者には負けるわな（しみじみと）。

——そんな小鹿さんにも、三沢さんをガス台をブン殴ったっていう物騒な過去があるみたいですね（笑）。

小鹿　……あったなあ（ボソッと）。

——なんでまたガス台だったんですか？

小鹿　あの頃はいい若手が5、6人おったんだよ。それでオレも一緒に練習して、みんな基礎体力もついて楽しくやってたんだけど。たしか、三沢だけ残してみんなトンズラしちゃったんだよ。そうしたら馬場さんにこっぴどく怒られてな。「小鹿、テメエこの野郎！　オマエの練習が厳しいからみんな逃げちゃったぞ！」「そんな練習するから逃げるんだよ！」ってギャアギャア言われてな。カチンときちゃってさ。チャンコやってるときに「三沢、来い！　この野郎、テメエも逃げろ！」って、ガス台をブン投げたんだよな。

——「逃げろ！」って（笑）。

小鹿　三沢は「ボクは逃げません！」って度胸があったよ。

——要するに、三沢さんはまったく悪くなかったんですね（笑）。

小鹿　うん。ごめんなさいって言っといて（かわいらしく）。

——ダハハハ！　遅いですよ（笑）。

小鹿　そうなんだけどな（笑）。三沢にとっては、あんな仕打ちは一生忘れないだろうな。オレもそういうことはやったこと少ないから忘れてないけど……あれは人間として恥じるべき行為だよ（笑）。

——結局、原因は小鹿さんが馬場さんに怒られたせいだったんですね（笑）。

小鹿　……馬場さんは、いいときには「小鹿、小鹿」って言ってくるんだよ。上田馬之助とか平井とか高千穂とか松岡巌鉄とか……彼らは馬場さんから「あれは斬るよ」って言われて、オレが「わかりました」ってクビにしたんだから。

——小鹿さんが馬場さんの汚れ役をやってたんですね。

小鹿　……だけど、オレも馬場さんが死んだときは2時間も並んで武道館に手を合わせてきたしさ。それはオレの気持ちだから（しみじみと）。それで新聞社の人がインタビューに来たら、百田の光男が来て「小鹿さん、ここでインタビュー受けないでください」って言われて、武道館の外に出たけどな。

——武道館で馬場さんのリング葬が行われたときの話ですね。

小鹿　俺は「わかった」って言って出てきたけど、あれは百田の気持ちではないと思うよ。元子さんが言わせたかもしれないし。でも、いま考えればケツの穴ちっちゃいっていうか、嫌らしい言い方になるけど、気持ちがちっちゃいよな。

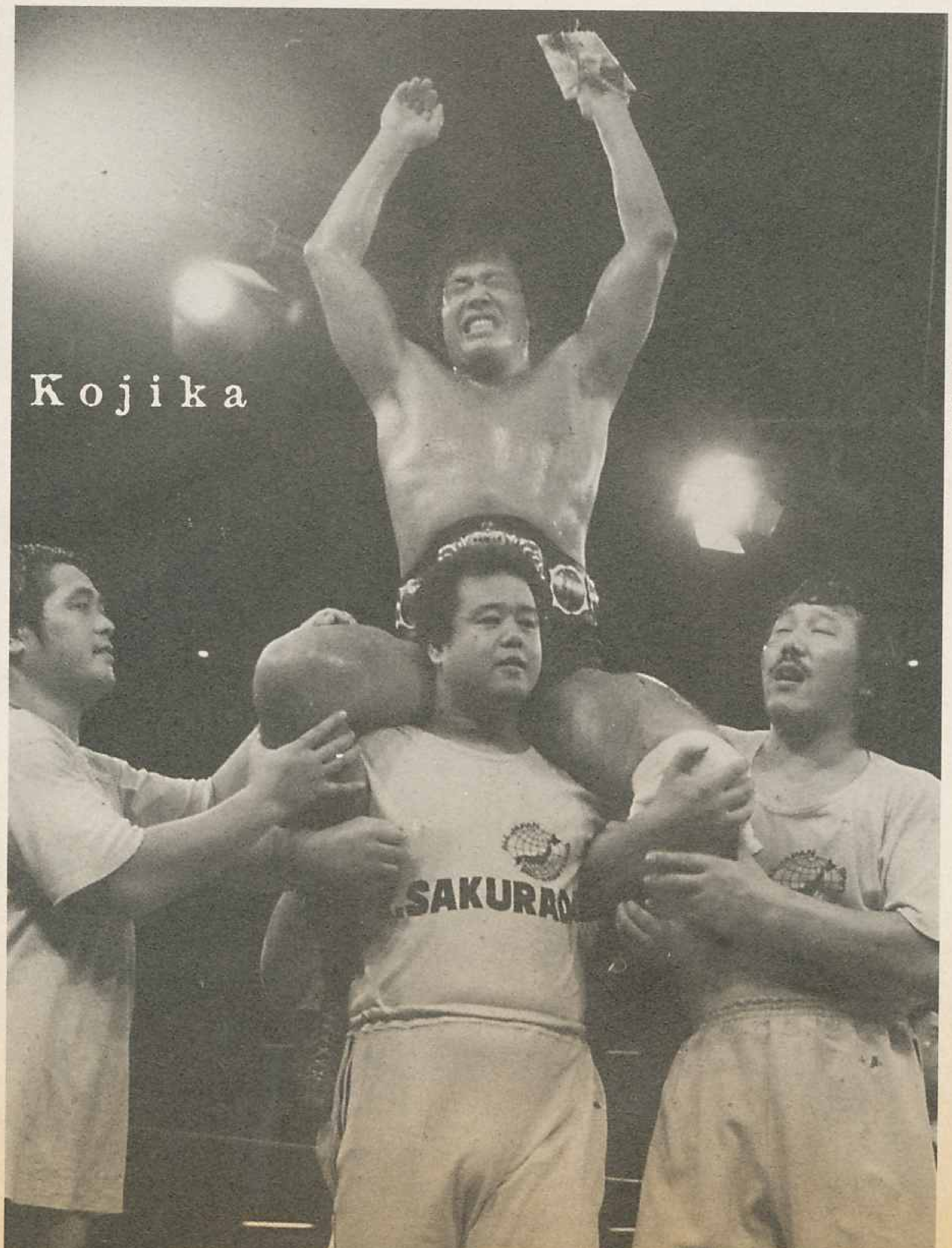
——やっぱり、最後まで日プロから移籍してきた外様ってことが尾を引いたんでしょうかね。

小鹿　だいたいさ、オレらは日プロから吸収合併じゃなくて対等合併って聞いて入ったんだよ。

——実際は吸収されちゃったんですけどね。

小鹿　そう。それでもオレは文句言わないで、馬場さんを親分

Great Kojika



セメント最強が囁かれた桜田（ケンドー・ナガサキ）が"怪物"鶴田を肩車で祝福する光景。小鹿はこういったレスラーたちと全日本プロレスを支えていたのだ。

としてな、一生懸命やって来た。そういう部分がなんにもないじゃん。去ったら他人か!? そうじゃないだろう。去ったたって、昔は昔じゃん。そういう部分がオレは不服だよ。いままでの功績や実績を考えたらそれはないだろうって。あの人にオレは何をしたって。何もしてない。

——タイガー戸口さんも、馬場さんが亡くなったときには門前払いされてましたよね。

小鹿　いや、戸口には戸口の事情があったんじゃないの。いまは全日の試合に出てるじゃん、あいつは。

——あのときはまだ望まれた客ではなかったわけですね。

小鹿　まあ、戸口は馬場さんのこと裏切って新日本に行ってるでしょ？　あのときだってな、戸口が裏切る前日に原軍司っていうアナウンサーが運転するワゴンの中で、戸口、天龍、鶴田、佐藤（昭夫）、クマさんらとビール飲みながら「新日本に負けないように頑張ろう！」とか言ってたんだよ。

——よりによって前日にですか（笑）。

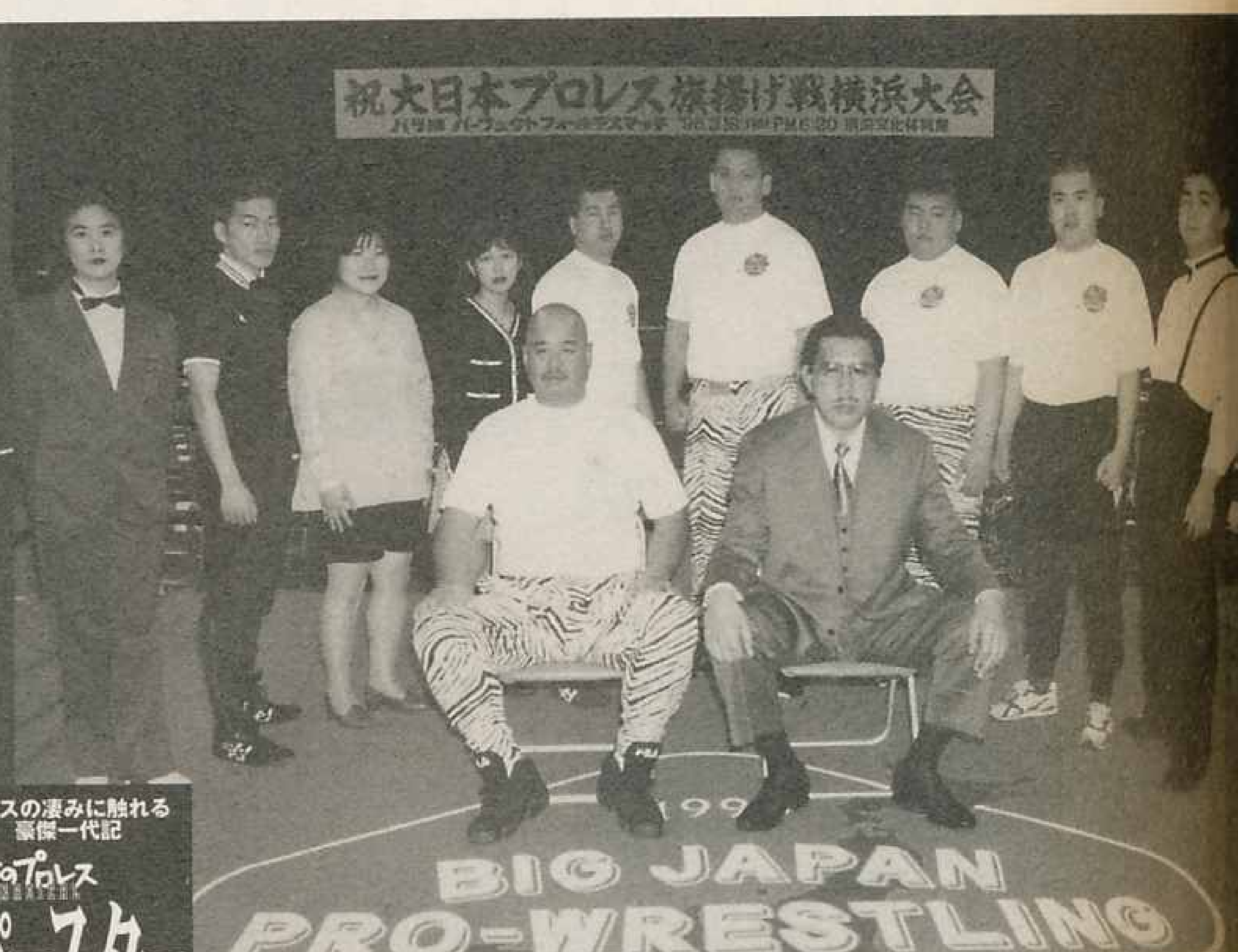
小鹿　オレが「戸口、オマエ裏切るようなことしねえだろうな？」って聞いたら、「そんなことしないですよ！」と。そう言って握手して別れた次の日に裏切ったんだよ！

——そりゃあ腹も立ちますね（笑）。

小鹿　それで何ヶ月あとに、大阪府立体育館で鶴田に挑戦するって全日のリングにやってきたじゃん。あのとき、オレはリングの上でブン殴ってやったよ（キッパリ）！

大日本プロレスは頭から2千万の借金のスタートでしたよ





本文にもあるように多くの借金、手薄な選手でスタートした大日本プロレス。旗揚げ時（写真右）と先日の横浜アリーナ（写真左）を見比べると、よくぞここまでと誰もが感じることであろう。

昭和プロレスの凄みに触れる 実録！豪傑一代記 紙のプロレス スーパースター列伝

——ダハハハ！　小鹿さんの性格だったらそうなりますよね（笑）。

小鹿　そしたら戸口が「何をするんですか!?」なんて言うから「何イ、この野郎！　オマエが来るような顔か!?」って。それで「新聞さんが話をつけてますよ！」とか言ってきて「何が新聞だ、この野郎！」って。冗談じゃねえよ！

——いやあ、隼隊ですねえ、ホント（笑）。

小鹿　当然だろう、そんなもの！　そんなことした人間がオマエ、馬場さんが死んで花をあげにきたら、オレだって門前払いにするよ！　でも、オレはそんなことしてないよ。何したんだよ!?　ハッキリ言ってくれよって。だからオレはプロレスの世界から何年も離れていたんだよ。ふざけんなですよ！　罪とはいわないけど、汚点を残した人間と一緒にしてもらっては困る。それはいまでも思ってるよ。

——小鹿さんが全日を辞めたときも、いろいろあったみたいですからね。

小鹿　そのときだってさ、馬場さんに「小鹿、オマエ来年ウチの会社契約しないらしいぞ。オマエどうするんだ？」って言われたら、「いやぁ、営業でもやらしてくださいよ」ってオレは言うよ。だけど、そしたら元子さんが「小鹿さ〜ん、ウチの会社はあなたと契約しないらしいよぉ」って言いだして。

——また軽いですね（笑）。

小鹿　「冗談ばっか（笑）」って笑ったら、「冗談じゃないわよ〜ぉ」って。それで馬場さんに聞いたら「オレは知らない。社長に聞け！」って。

——当時は日本テレビの役員が社長として出向してたんですよね。

小鹿　それが松根さんっていう人なんだけど、松根さんに聞いたら「何言ってんだよ、小鹿君。オレは日本テレビの人間だぞ。馬場の弟子に辞める辞めないなんて言えるわけないよ！」って。

——まあ、そうですよね（笑）。

小鹿　でも馬場さんは「松根に聞け！」の一点張りで、ボールの投げっこ。ふざけんなって！　普通、そんなことありゃせんだろう！　オレは全日本のちっちゃな柱一本ぐらい建てた力になってたと思うよ。それなにの、鼻にもひっかけないようだったら、人生たいしたことないよ！　そりゃあ、体力的なこともあって引退しろって言われたら、それは構わなかったけど。あんな辞めさせ方はないだろう！　いま大日本に年間50人ぐらい面接に来る。そのときクソミソな態度で応対したら、オレは忘れてもみんな一生覚えてますよ。オレは絶対そんなことしない。「辞めるときは一言挨拶して行ってくれ」「今度遊びにこいな」って言って、握手して別れますよ。

——いろんな選手から聞きますけど、全日本はホントにそういう別れ際がヘタですよね。

小鹿　ヘタっていうか、人のこと見下ろし過ぎてるよ。そんなだから、最初はもうこの世界には戻りたくなかったんだけどね。辞めるときが汚すぎるよって！……多分にね。

——そんな小鹿さんが引退後、WARの営業としてまたプロレス界に関わるようになるわけで





均衡が破れ
を取るも、
木が下から
まま腕十字
プ。またも、
にしてしま
ンネルを抜
この時点
カ勢の勝利
かし大将戦
戦と同じ位
近藤を下せ
を胸を張っ
り負けたら
てる」「スッ
ですよ、忘
（笑）」とい
信に満ち溢
ってしまう

すね。

小鹿　全日本を辞めた後も、天龍とは電話連絡はしてたんですよ。それで天龍が「小鹿さん、ウチの営業やってくださいよ」なんて言うから、「バカ野郎！　オマエのとこ行ってもマンマ喰えねえよ！」って断ったんだけど、「固いこと言わないで。また電話します」なんてやり取りが何回かあってな。意外とみんな言うほど天龍とは仲悪くないし。手が合うっていうかな。

――それは仲が悪いと誤解されそうなやり取りですけどね（笑）。

小鹿　ガッハッハッ！　オレもその当時やってた仕事に余裕ができてきてな。

――当時はパチンコ屋でしたっけ？

小鹿　いや、そのころは東京に来て別の仕事をしててさ。「1週間に1、2回の非常勤ってことなら、無給でいいよ」と。

――無給だったんですか！

小鹿　そう。でも、巡業のコースを組む以上は責任取らなきゃいけないから、常勤するようになってからは金をもらうようにはなりましたけどね。

――そして、ケンドー・ナガサキさんをエースにした大日本プロレスを旗揚げするわけですね

小鹿　あれは桜田（ケンドー・ナガサキ）がWARに参戦してきたとき、メシ食いに行ったら「ボクのNOWの権利を誰々さんが持ってるんですよ。もし、良かったら手伝ってくださいよ」って頼まれて。権利を借金の形に取られてたんだよ。それでその社長がリング代の維持費だけでも馬鹿にならないから、オレがやるなら金を貸してくれるって3千万貸してくれるってことになってさ。

――悪くない話じゃないですか。

小鹿　でも2回目に会ったら2千万で、最後は1千万さ。そのころはサイコロ振って動き始めてたわけだから、頭から2千万の借金のスタートよ（笑）。

――そこから、よくぞここまできたって感じですよね！　最初のころの大日本プロレスは、ナガサキさんのバーリトゥードでの敗北も含めて、ホント予定が狂いっ放しだったんじゃないですか？

小鹿　そうだねえ（しみじみと）。スタートは3人だもん。あんとき、まだそれなりにうまくやっていたんですよ。桜田を一発で倒したあの黒いの、何って言ったっけ？

――ジーン・フレジャーです。

小鹿　あれに桜田が勝ってくれてたら、また別な展開になったもんな。それも……人生なんだなあ（しみじみと）。病院に運ばれただろ？　それでCTの検査を受けて、その結果が出るまでの不安なことなあ……。ホント、ゾオーっとしたっけな。オレの人生でゾオーってしたのは力道山先生が刺されたときと桜田のときだけだから。

――それぐらいのショックだったんですか！　じゃあ、山川（竜司）さんのときとかは？

人を簡単に裏切る奴が議員の秘書？　大仁田もそんなの使うなって！



選手の裏切りは珍しくないが表だって殴打事件に発展するのは極めて稀なこと。火が付いた小鹿社長の隼隊魂は止まらないのだ。

小鹿　だから、桜田のことがあるから山川が3月17日の博多のスターレーンで頭打ったときはゾォーってしなかった。「絶対死なない、絶対大丈夫！」って確信があったんだな。ただ、医者が見て「社長、五分五分です」、と。「何が五分五分なんですか？」って聞いたら「生きるか死ぬか」が」って。ただ、その医者が診た患者さんは後遺症どころか、死んだ患者もいないって。だけど、桜田は凄い怪我だったもんな。

――そういえば、ある人から「ナガサキさんのセメント伝説は、日プロ時代に新弟子の足をホントのセメントで固めたことからきてる」って話を聞いたんですけど（笑）。

小鹿　さあ～、それはよく知らないな。ガッハッハッ！　でも、桜田はタフな選手でしたよ。あんときは歳を取ったってこともあったけども、あんな選手じゃないよ、アイツは（キッパリ）！

――そんなナガサキさんが離脱することになったのは、小鹿さん側から振り返ってみるとどういう事情だったんですか？

小鹿　一つはこういうことじゃないの？　大日本プロレスがお客が入らなくなったと。それで阪神淡路大震災のチャリティーやったわけよ。子供とかお年寄りが無料で入ってお客がたくさんいれば、それだけレスラーだっていい試合しようって気になるじゃない。50人と300人じゃ違うじゃん。それを、いまでもやってるんだけどね。そういう部分で、桜田が「小鹿さん、儲かってるじゃないんですか!?」ってなったのが、桜田の最初の不信感だよ。多分にな。

――他団体でも、やっぱり招待客を原因とした不信感で揉めることは多いみたいですね。

小鹿　だから一時招待やめたよ。でも、ガラガラになっちゃうこともあるから。レスラーにしてみれば、お客がたくさんいればそれだけいい試合しようって気になるじゃない。しかも100人入ろうが1000人入ろうが会場の使用料は一緒だし。それだったらガラガラな会場よりはいいじゃないですか。

――団体としてのイメージも違ってきますからね。

小鹿　それは新日本の新間さんが会場で猪木さんのノボリを建てたり、テープを投げ込ませたりしたのと同じことですよ。

――大日本にはポーゴさんや中牧さんも途中から加わりましたよね。

小鹿　そういう選手のブッキングのやり方にも不満があったんじゃないの、桜田は。多分にね。でも桜田は男気質があるからオレに挨拶して辞めてったよ。オレも桜田とは喧嘩するつもりはないから、桜田とは気分良く別れたと思ってますよ。

――その辺りは、中牧さんやポーゴさんとは違うと。

小鹿　違う（キッパリ）！　人間的に違うよ、あんなの！　給料貰って、「オーイ！　明日からまた頑張ろう！」って合宿所の若いやつにチャンコ代置いていって、次の日に記者会見……。そんな裏切りやったやつなんて、絶対日の目はみないよ！　どっかでコイツはつまずく！

――実際、ピンサロは閉店しちゃいましたけどね（笑）。それで小鹿さんが中牧さんの記者会見に乗り込んだ結果、「池袋路上殴打事件」が勃発したわけですけど。

小鹿　ホント、偶然だったよ！　オレらがバス停めて信号渡ろうと思ったら、あの野郎はオレが記者会見に来るって聞いて逃げ歩いていたらしいんだけど、偶然目の前にいたからな。

――よりによって、逃げた先にいたわけですね（笑）。

小鹿　それで「中牧！　オマエ、ふざけんな！」って言ったら「何ですか！」とかゴチャゴチャ言うから、ブン殴ってやったよ！

――またもや隼隊の魂が炸裂したわけですか（笑）。

小鹿　そしたら告訴しやがってな！　オレも殴って悪かったなって思うけど。あんな裏切りしてるわけだから、誰かを仲介して告訴を取り下げるとかあるのに。それで、ボクは罰金刑で前科モンですよ！

――あれで前科がついちゃったんですか!?

小鹿　そうですよ！　こないだもどっかの警察に講演会に行ったけど、「ところで、ボクはこういう理由で前科モンなんですけど。そんな人間は皆さんの前で講演会なんてダメなんじゃないですか？」って聞いてみたら、警察の人も理由が理由なだけに大笑いしてたよ（笑）。

—前科もネタにしたわけですね（笑）。

小鹿　中牧だっていまは何やってるかわからんけども……。何やってるの？

—大仁田さんの鞄持ちですね。

小鹿　私設私書か？　ああ、そう。大した出世だね（あきれながら）。人を簡単に裏切る人が参議院の秘書官？　だから、政治や世の中が乱れるんだよ。ふざけろや、そんなもん！　ああいうやつはどっかでミソをつけるから！

—ちなみに、大仁田さんについては何かありますか？

小鹿　大仁田も立派なこと言うんだったら、あんなやつを下に従えてんじゃねえよって。ミソつけんなって！　大きく書いてくれ、こんなの！　大仁田だってオレらの税金から給料貰ってんだから。そうだろ！　心を入れ替えて「社長あんときは申し訳ありませんでした」って頭下げてくるんならまだしも、秘書官にするんだったら堂々とオレのとこに来て謝れるような人間使えって。人間過ちはいっぱいあるよ。だけど、反省して悪いと思ったらゴメンなさいって言えなきゃ自分が進歩しないよ、ハッキリいって。

—結局、筋の問題ですからね。WWFで活躍中の田尻さんなんかも辞め際が問題になりましたよね？

小鹿　いや、田尻は大したモンだよ！　何でってアイツは向こうに行く前に謝ってきたもん。ただ、これとこれはいいけど、これは許せないよって話したから田尻については何もないよ。何ヶ月か前にも電話で話したけど。アイツは藤田と一緒だったんだよな。突然電話が掛かってきて「社長、元気ですか！」ってなんだかんだって話しして、アイツが「いやぁ、大日本の時代が良かったですよ！」って。まあ、お世辞かもしれんけど、うれしいもんだよ（しみじみと）。

—いまや世界のＴＡＪＩＲＩですからね！

小鹿　オレも「お前も頑張って名前売って金儲けようせーよ」って言ったら、「社長わかってます。だから大日本潰さないでください！」なんて言うから、「バカヤロウ！　潰れるか馬鹿！」って冗談言ったけど。お世辞でも「日本に帰ったときは大日本に上がりたいと思うんで、会社を維持してください」って言ってたしな（笑）。

—じゃあ、同じ若手選手で有望株だった藤田（穣）さんや本間（朋晃）さんについてはどうですか？

小鹿　藤田も何とも思ってないよ。アイツはウチからみちのく移った人間ですから。やはり、さっき言ったように今日の明日だったら許さない気持ちがあるけど、月日が解決してくるんじゃない？　本人と話をしたら悪くは思わないし。

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝
Great Kojika



「日本に帰ってきたときは大日本に上がりたい」って言ってたよ

大日本時代からそのレスリングセンスは高い評価を受けていたＴＡＪＩＲＩ（田尻義博）。小鹿社長あらずとも、大日本に凱旋するのは楽しみである。

—いまは素直に成功を祝福できるわけですね。

小鹿　そうそう。反省するところは反省しないと。人間なんだから間違いっていうのは多分にあるけどな。オレの三沢のやつだって、三沢は何も悪くないんだからな（笑）。ただ、本間は……アイツは煮ても焼いても喰えないんじゃない？

—そんなにダメですか（笑）。

小鹿　本間には天狗になった部分があるんじゃない？　人間はどこの世界でも天狗になっちゃいけないよ。会社があんだけしてやってんのに、簡単に「卒業させていただきました」って、そんなこと世の中通らないですよ！　大日本であと1、2年頑張ったら、どこの団体に行ってもいいとこ取れてたよ。

—いい試合してましたからね。

小鹿　こないだサムライＴＶで見たら筋肉落ちちゃってたけど、練習してないでしょ？　多分に。まあ、男の子だから、女の子に頭撫でられてカワイイカワイイされるのもいいし（笑）。

—それは●●選手のことですか？

小鹿　ガッハッハッ！　多分にな（笑）。まあ、男なんだから、キンタマついてるんだから、自分でピシッやらなきゃダメだよ！　たとえば本間がオレと同じ会場にいたら、アイツはどうすんだ？　隠れるだろ？　逃げるだろ、アイツは！　そういう人生送るなって、オレは言ってるんだよ！

—とりあえず、顔出して筋通せばいいじゃねえかって話ですよね。

小鹿　オレは昔からそうだよ。ちゃんと筋を通せば気まずい思いする必要ないんだから。

—実際、小鹿さんに会ったら気まずい思いをする人はたくさんいそうですけどね（笑）。

小鹿　多分にいるな（笑）。だけど、そういう人間は本間でも中牧でもポーゴでも遊び来ればいいんだよ！

—いいんですか、遊びにきちゃって（笑）。

小鹿　オレはそう思ってるよ。でも、遊びにくる前に「オイ、中牧！　何か一言ないのか!?」とはやる。そういう度胸があれば堂々とくればいいんだよ。それくらい許せる年齢だよ。何とも思わない。

—じゃあ、離脱組でも筋さえ通せば大日本のリングにカムバックできる可能性はあるわけですね。

小鹿　まあ、「ウチはこれだけ揃ってるからいいよ」って言うよ。それくらい、いまのウチは充実してるからね。

—大日本はリピーターが多いですし、マニア層からも評価が高いですからね。

小鹿　それは桜田がちゃんと練習を指導してやってたと。中牧とポーゴは練習しなかったけどな、あの野郎らは（笑）。いまは大黒坊（弁慶）とか松崎（駿馬）とか、ああいう先輩がしっかり指導してますよ。

—そして現在はＣＺＷ勢も高い評価を受けてますけど、いつかは小鹿社長との絡みも見てみたいんですね（笑）。

小鹿　あ、そう？　オレはああいう器具を使うのはあんま好きじゃないもんな。オレがやったの




均衡が破れ
を取るも、
木が下から
まま腕十字
プ。またも、
にしてしま
ンネルを抜
この時点
カ勢の勝利
かし大将戦
戦と同じ位
近藤を下せ
を胸を張っ
り負けたら
てる」「スッ
ですよ、忘
（笑）」とい
信に満ち溢
ってしまう

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記
紙のプロレス

スーパースター列伝

それこそ力道山vs木村みたいに何をするかわからないですよ

は海外でやった金網（デスマッチ）とクマぐらいだし。

――いや、それでも充分ですよ！

小鹿　何にしても、恐喝……じゃない。何て言うの、凶暴か（笑）。モノを使うから凶暴になるっていうのはあんまり好きじゃない。だけど、そのデスマッチに憧れてくる選手がいるんだよなあ。それは葛西（純）だったり、今度来た非道でもそうだし。そういった選手が活躍してお客さんに支持されてますしね。そういう選手に門を空けてやれば彼らが活躍して、それがお客さんに支持されれば、また大日本が潤うしね。

――潤うのが一番ですからね（笑）。実際、最近は総合格闘技的なものとエンターテイメント的なものの両極に分かれている中で、大日本のデスマッチ路線はいいところを突いてると思うんですよ。

小鹿　そういう部分で好みじゃないけど、デスマッチとかで世の流れに乗っていかないといけないっていうのがありますよね。

――ちなみに「ビヨンド・ザ・マット」という映画は御存知ですか？

小鹿　いや、知らない。

――一応、テリーファンクやカクタス・ジャックのプロレス人生のドキュメント映画なんですけど、プロレスの内側を暴いている部分もあるって騒がれてたんですよ。

小鹿　内側を暴く？　どんなんだった？

――まあ、試合前のプロレスラー同士の打ち合わせのやり取りが撮られているってことなんですけど。

小鹿　でも、オレらは機械じゃないから（キッパリ）！　ハッキリ言って、内輪でやっていても相手が気に食わなきゃ何するかわからないですから。「いい試合しような」って言ったって、リングに上がったら「テメエ、この野郎！」ってなるんだから。それこそ力道山vs木村みたいにね。だからこそ面白いし、プロレスは人気があるんですよ。

――同感です！　プロレスには、いわゆる真剣勝負とショー的な要素を含んで、どっちにも転がれるものじゃないですか？　どっちとも言い切れない部分が面白いのに、何で二つに分けようとするんだろうっていう。

小鹿　うん！　それは日本人の島国根性ですよ。どっちかに色付けてしまわなかったら、本人が納得しないっていうね。「プロレス？　あれはショーでしょ？」って、何言ってんだって！　スポーツはみんなショーでしょう。人生だってショーみたいなもんでしょうが。真剣勝負なんて何があるの？　アマチュアぐらいしかないでしょう。オレは昔そういうやつにはこう言ってやったよ。「あ、そうですか。でも、プロレスは民主主義だよ！」って。

――み、民主主義ですか⁉

小鹿　プロレスっていうのはみんな納得させなきゃいけないんだから。ある意味、民主主義ですよ！　だからアマチュアは共産主義だよってな。みんなを満足させるためにパフォーマンス、ショーマンシップがあるんですよ。日本人は真剣勝負のどっかに、そういったものがほしくてみんな見に来てると思ってるんだけどな。

――『PRIDE』などに代表されるような総合格闘技にしても、やっぱりエンターテイメント的な味付けがされてますからね。

小鹿　ああいう総合格闘技っていうのはボクは批判的なんですよ。ルールが違うスポーツが一つのルールでやるっていうのは難しいんです。極端な言い方すればレスラーは寝技で、K―1は立ち技しかないわけ。立ってやったらK―1なんかに太刀打ちできるわけないんだから。

――松永（光弘）さんが負けるのも無理ないと。

小鹿　立ち技なんかアンタ、下手糞なんだから。こないだの、高田とあれだってそうでしょう。

――膠着が続いたミルコ・クロコップとの試合ですね。

小鹿　高田なんか立ったら負けるから寝てたんでしょう。まあ、骨折したとかなんたら言っていたけども。

――高田さんにしてもミルコにしても、お互いに相手の土俵に踏み込む気はなかったですからね。

小鹿　金貰ったから闘えっていってもねえ。でも、お客さんを楽しませなきゃいけない。だから、パフォーマンスが必要なんですよ。

――プロレスにしても、やっぱり強さがベースにあった上でのエンターテイメントであるべきなんですよね。

小鹿　当然です（キッパリ）！　プロは、お客さんをどれだけ楽しめさせるか、どれだけ集められるかなんだからね。リングで腕や足を折ったりしたって誰も褒めないよ。オレらは腕組んだら相手の強さがわかる。それで強さを感じたら警戒しちゃうじゃん。それじゃ、試合は面白くならないし、プロモーターから文句言われるじゃん。そんときどっちがプロモーターに大事にされてるかってことで、クビになっちゃうんだからさ。

――小鹿さんが言われていたゴッチさんの話じゃないですけど、プロとは何かってことですね。

小鹿　プロレスラーとしての自覚をちゃんと持っていればわかることですよ！　そういう無鉄砲なことやるやつは絶対人気者にはなれないよ。リング外だって同じ。昔は事件起こしたらカバーしてたけど、いまは「ちゃんと裁いてください」って警察に突き出すよ。冷たいとか言われるかもしれないけど、それくらいこの商売では何事にもプロとしての自覚を持たないといけない。そうしたら、ちゃんとしたレスラーになるんですよ。

――小鹿さんも警察沙汰になってるわけですからね（笑）。

小鹿　ガッハッハッ！　後悔してるからな！

――オマエらはやるなと（笑）。

小鹿　そういうことですね（笑）。

Great Kojika

――いやあ、お話をたっぷり聞いて小鹿さんのプロレスに対する姿勢がよくわかりました！

小鹿　こんなもんで本当にわかったの（笑）。

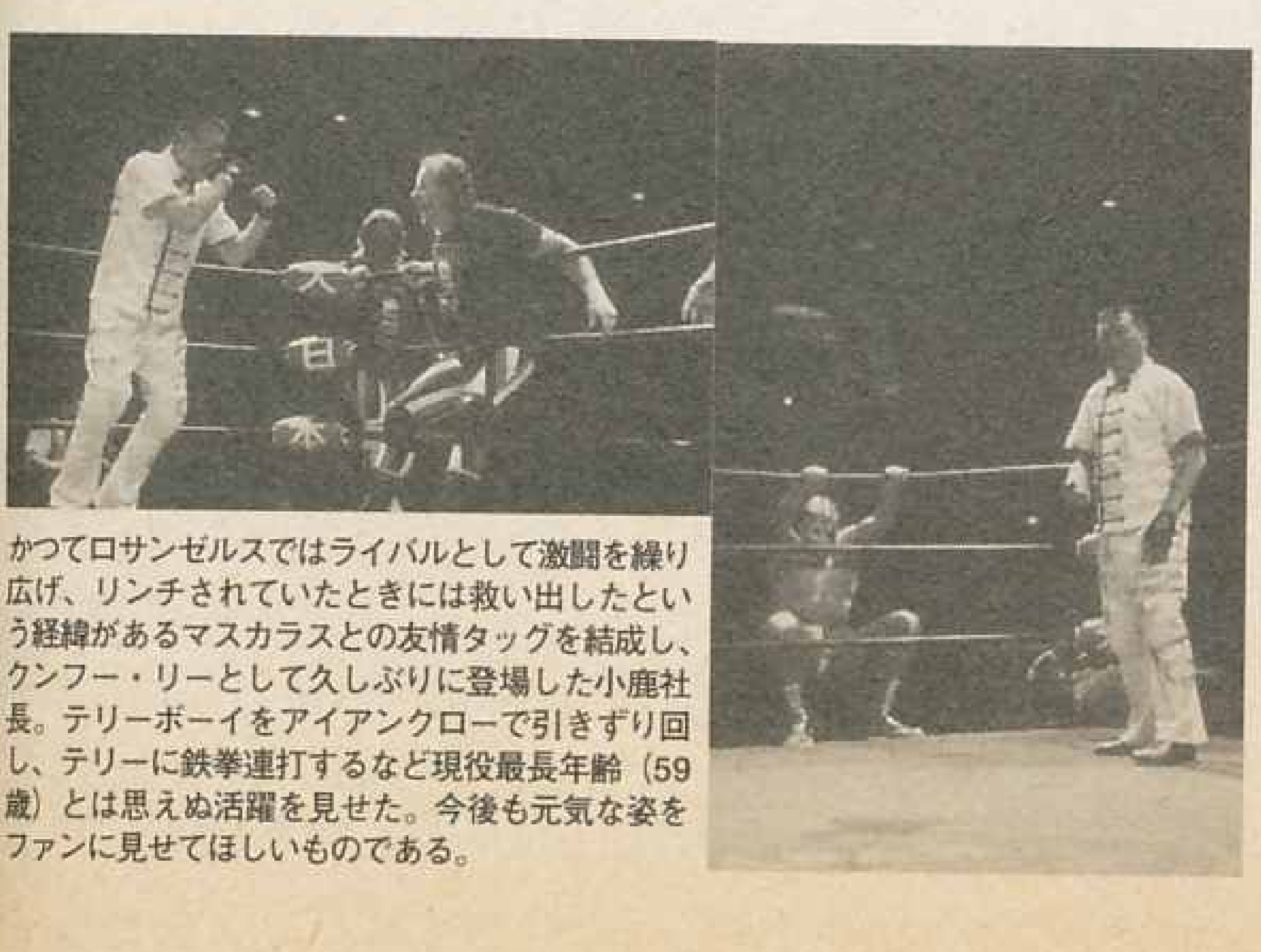
――はい！　それと同時に、小鹿さんの口癖が「ダニ」じゃなくて「多分に」だってこともわかりました（笑）。

小鹿　ガッハッハッ！　それはね、断言できない部分があるから「多分に」ということなんですよ。たとえば他の団体にウチの若いやつが行ったとする。そんとき「オマエのところの社長が悪口言ってるぞ！」って文句言われるでしょ？　だから、断言しないで「多分に」なんですよ。それは思いやりなんです、多分に（笑）。

――そういう理由だったんですね（笑）。

小鹿　多分に、だよ（笑）。

【11月5日／横浜・某ホテルにて収録】


かつてロサンゼルスではライバルとして激闘を繰り広げ、リンチされていたときには救い出したという経緯があるマスカラスとの友情タッグを結成し、クンフー・リーとして久しぶりに登場した小鹿社長。テリーボーイをアイアンクローで引きずり回し、テリーに鉄拳連打するなど現役最長年齢（59歳）とは思えぬ活躍を見せた。今後も元気な姿をファンに見せてほしいものである。

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

爆笑連載！？ 金原弘光 ボヤキングの部屋にようこそ！




No.5★高田延彦、樹海へ……ヒクソン戦直前大特集号
高田延彦／タイガーキング／長与＆飛鳥／藤原vs荒川／Puffyも登場


No.7★田村潔司・『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健吾／前田日明／富宅飛駈／垣原賢人／冬木弘道／松永高司／T・アボット


No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号！
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本


No.11★衝撃対談・高田延彦vsエンセン井上が実現!!
前田日明／高田VSヒクソン大予想大会／福田雅一／ザ・グレートカブキ



No.13★アレクサンダー大塚・「PRIDE」大ブレイク記念号
高田延彦／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘


No.15★小川直也、橋本を破壊！ 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき


No.16★猪木！ 前田！ エンセン！ ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／M・コールマン／語ろうジャンボ鶴田



No.17★UFO襲撃三昧！ オーちゃん大特集号！
桜庭和志／高田延彦／猪木／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／タイガー戸口


No.19★今度はM・ケアー！ 高田延彦の新たな挑戦!!
小川直也／高田延彦／前田日明／佐山聡／宇野薫／成瀬昌由／ドン荒川


No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介／WWF


No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之「紙プロ」初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規＆小路晃／ミスター高橋



No.26★世紀の大一番ホイス戦直前！ やっちゃってくれサク！
前田日明＆田村潔司／桜庭和志／小川直也／大仁田厚／村浜武洋／斉藤彰俊



No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史


No.29★ノアの鍵を握るのはこの男！ 秋山準「紙プロ」初登場記念号
ノア勢フルメンバー／桜庭和志／ジャンボ鶴田夫人／TKおかん／仲野信市／里村明衣子


No.30★「PRIDE10」直前！ 燃えよ！ 闘魂の火種!!
秋山準／小川直也／村上一成／金原弘光／桜庭あつこ／高阪剛／永源遙


No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／桜庭＆TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司


No.32★リングスvs新日！ 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村


No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり！ 特大号
小川直也／高田延彦／T・オーティズ／金原弘光／ヴォルク・ハン／藪下めぐみ


No.35★「純プロレス」を考え倒せ！「純プロレス」徹底検証号
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスKOK大特集


No.36★「面白くなきを面白く！「純プロレス復興記念号」
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鍋野ゆき江


No.37★小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻号
小川直也／橋本真也／安田忠夫／村上＆小路／田村＆ヘンゾ／アブダビ大特集


No.38★高田の"忘れ物"は小川!! ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」
高田延彦／小川直也／ジェラルド・ゴルドー／阿修羅原／力皇・杉浦・丸藤


No.39★どうなるんだ！ リングス!? 前田isデッド!?
前田日明／山憲・小川襲撃／金原弘光／田村潔司／田上明／藤原敏男／桜庭和志


No.44★サクの選択で「PRIDE」に語りかけるものは何か？
ノゲイラ＆スペーヒー／橋本真也／高山善廣＆杉浦貴／グレート小鹿／シーザー武志

バックナンバー申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。
【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス　【現金書留】〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金はNO.5～NO.10＝680円　NO.11～NO.19＝780円　NO.21・NO.24～NO.32・NO.35・NO.36～NO.39＝840円　NO23・NO.33・NO.34・NO.40～NO.44＝880円　送料1冊＝310円　2冊＝380円　3冊～4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●「紙のプロレス・RADICAL」バックナンバー常備店
アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングスパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷・レッスル池袋・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋・渋谷WEST・新宿アルタ・名古屋・大阪・札幌・福岡）・グレート・アントニオ

★NO.1～NO.4／NO.6／NO.8 NO.9／NO.12／NO.14／NO.18／NO.20～NO.23／NO.27／NO.33は完売!!



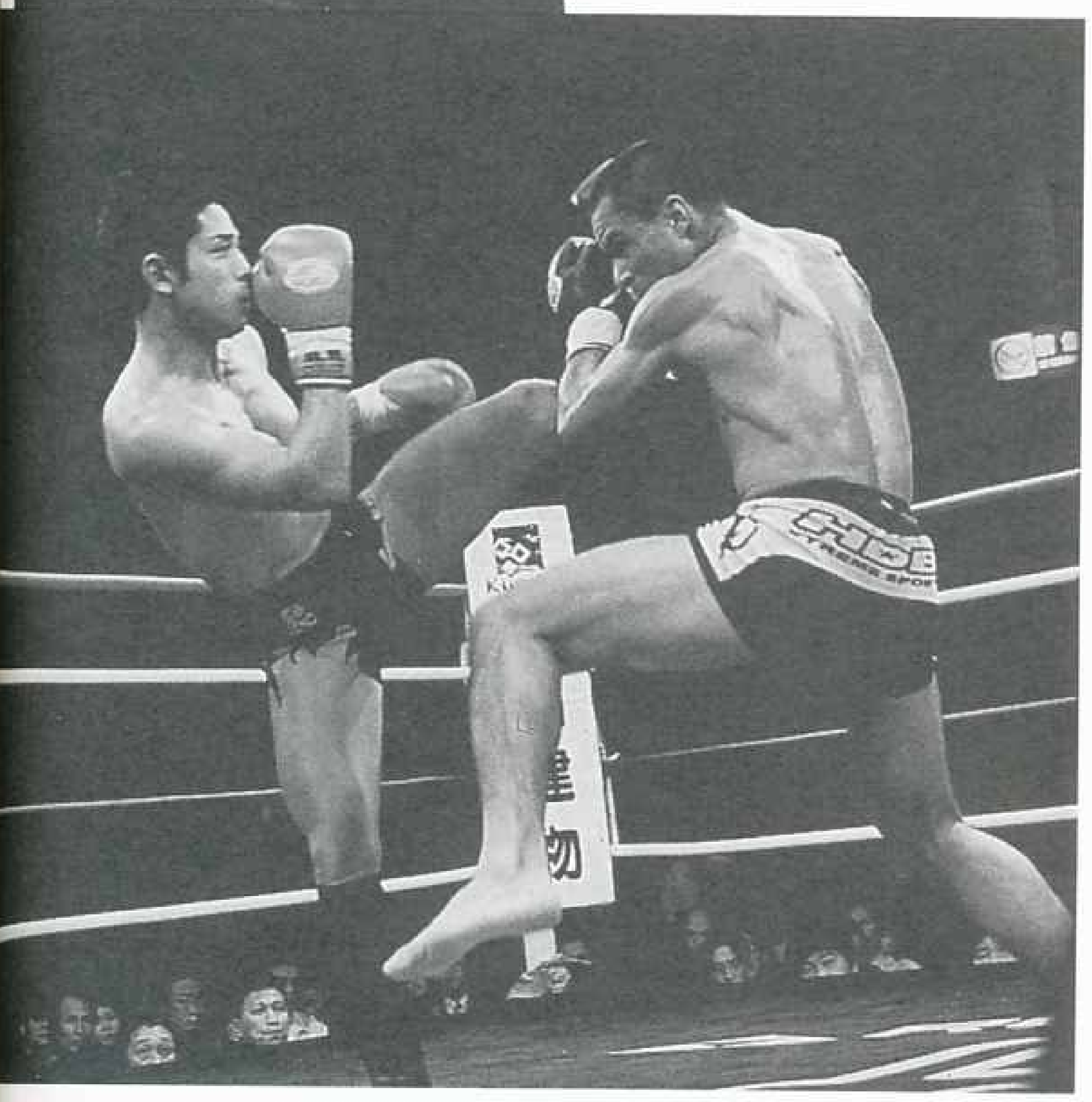
後楽園ホールに溢れかえる
東映Vシネマイズム

SB vs シュートボクセ 対抗戦は暮れに早い“男祭り”!!

前号のシーザーインタビュー大好評&シュートボクセに完全勝利記念SB観戦記

文／中村カタブツ君

designed by hisa (Two Three)



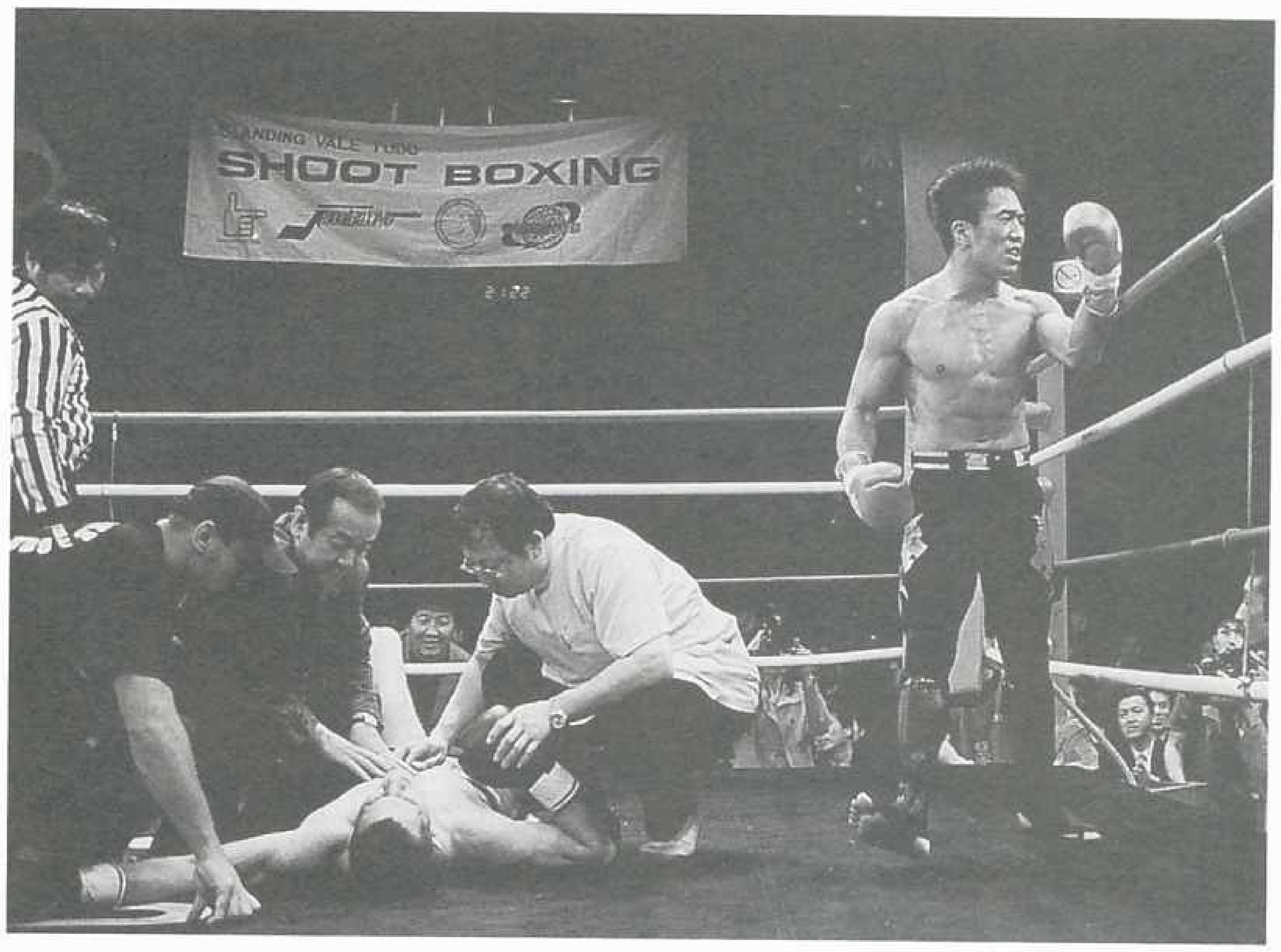
■SB vs シュートボクセ対抗戦

○前田辰也（寝屋川ジム）

3R0分42秒　TKO

オズマ・ディアス（シュートボクセ）

苦戦しながらも見事オズマを倒した前田は12月21日のリングス横浜大会に参戦が決定。対戦相手は現役警官でテコンドー2段のステファン・ギリンダー（リングス・オーストラリア所属）



■SB vs シュートボクセ対抗戦

○緒方健一（シーザージム）

2R2分36秒　KO

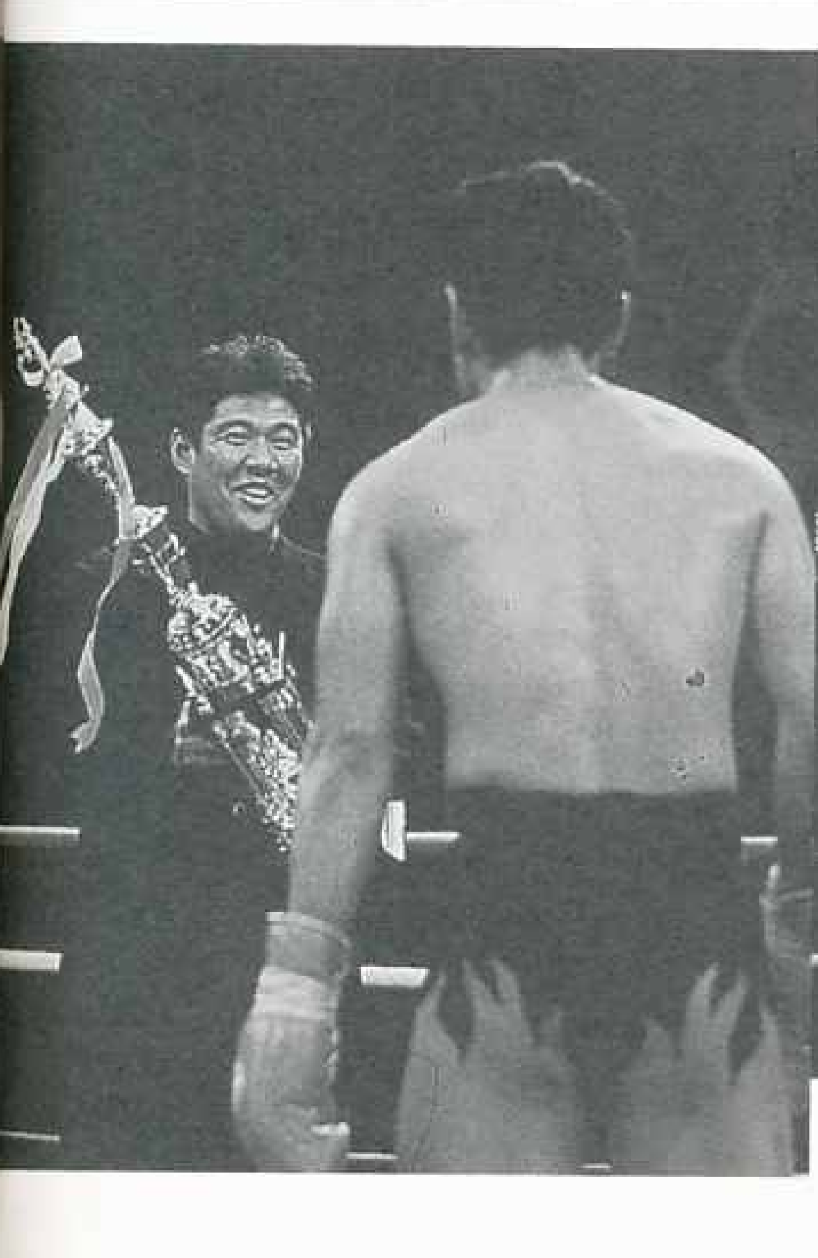
ダニエル・シウバ（シュートボクセ）

ＳＢの総大将としてシウバを撃破した緒形は試合後、「もう一度、リングスで闘いたい」と語る。10・20リングス横浜大会に参戦し、初挑戦の総合格闘技の試合で敗北した緒形。その雪辱に向けて始動！

シュートボクシング
Be a Champ
4th Stage
2001.11.20 後楽園ホール

飛び散る熱気! 火花散る睨み合い! そして豪華ゲストの数々!

先日、巨人軍を引退した斉藤雅樹もリングに登場。前田に勝利者トロフィーを渡す





巨人軍の名捕手として活躍した村田真一が緒形vsシウバ戦の試合前に登場。両選手に花束を贈呈する。シーザー会長の交友の広さを物語る

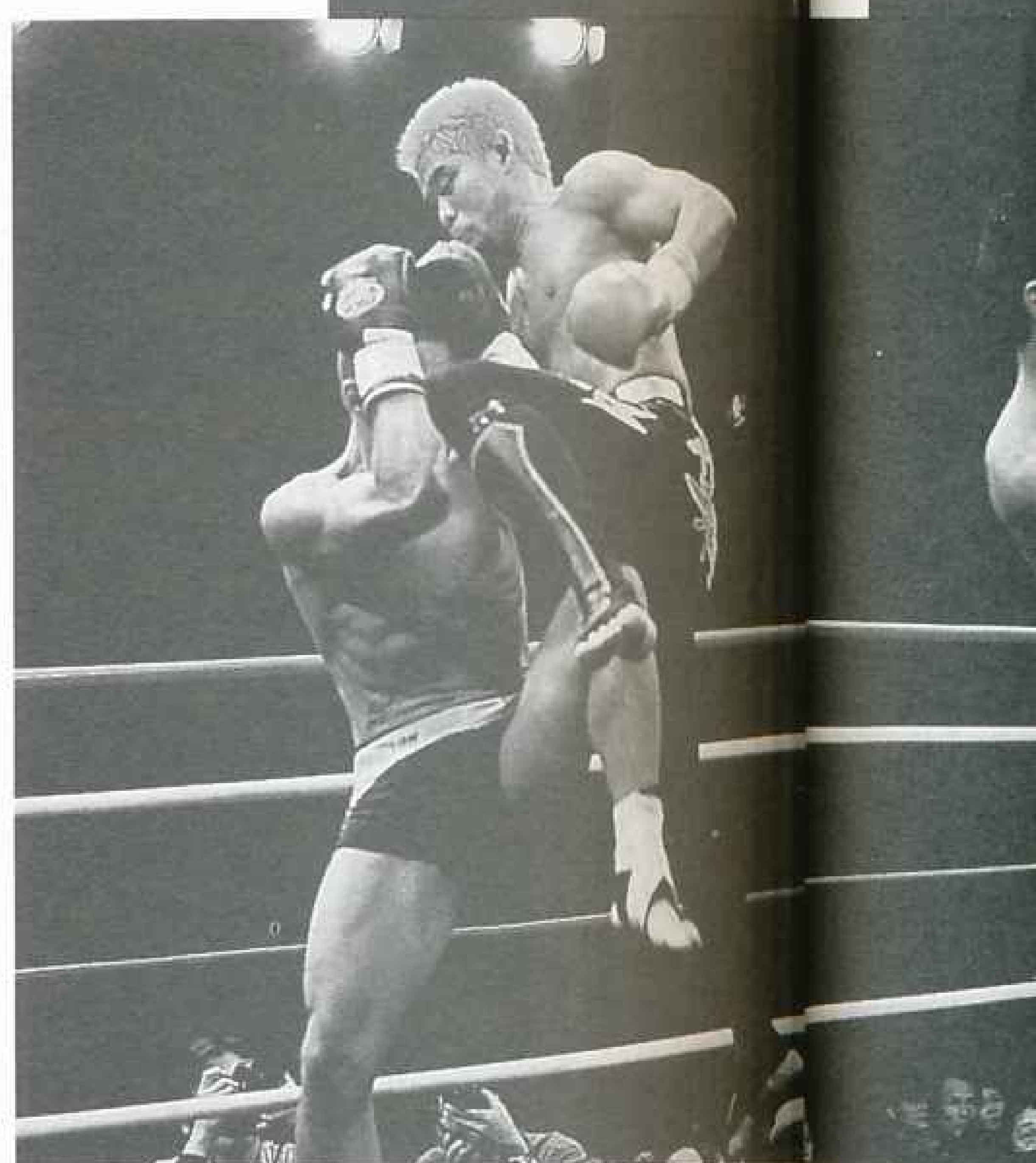


タテヒジでオズマを撃破した前田を祝福する前田日明総帥。リングインの時、タテヒジのポーズを作りながら、にこやかに上がって来たのが印象的

前号のインタビューでは、これぞ〝本物〟という凄味を披露してくれたシュートボクシングのシーザー武志会長。
　キックボクサー、手配師、興行師、歌手、役者、そして一時的にはヤクザの杯までもらっていたというから驚くべきはその職歴。男と生まれたからには一度はやってみたいと、ついつい夢想しがちな目眩く職業の数々を、たぎる血潮に任せて突っ走り切ったのだ。
　そんな怒濤の若気の至りを、いまもなお熱く持つシーザー会長が、またもや大博打に打って出た。あのヴァンダレイ・シウバが所属する世界最強立ち技軍団シュートボクセとの全面対抗戦を開始したのである。これはリポートしないわけにはいかないだろう。
　だが、その前にシュートボクシングについて説明したい。まず、技術的なことを言えば、打撃を主体に投げ技と立ち関節まで許される実戦指向の格闘技。立ち技主体で総合格闘技を闘うシュートボクセとはまさに手の合う相手だろう。名前も、英語とポルトガル語の違いだけで意味は一緒だし。どちらが本物のシュート団体か、雌雄を決しようというのがこの対抗戦だ。
　しかしシュートボクシングの魅力はそれだけではない。会場内に詰めかける男たちが濃くて熱いのだ。まずは安岡力也さん。かつて、キックのリングにも上がったこともある力也さんは、若かりし頃、メチャクチャにモテまくったのは当然としても、それだけでは熱い血潮は収まらず、ヤギとまでファックした経験を持つ暴れん坊だ。また、渡辺ジムでボクシングのトレーナーもする演歌の〝男舟〟山川豊も顔を出す。そして、ゴンタ・シネマの傑作『喧嘩の花道』の主演・やべきょうすけも常連。清水健太郎も、日焼けした油の乗った顔で会場の空気をヒートさせる。さらに、この日は元巨人軍の斉藤雅樹&村田真一、木之元亮ロッキー刑事まで訪れる豪華なもの。そして、前田日明総帥も、シーザー会長と並んで大阪新旧ゴンタコンビとして主催者席に陣取っているわけである。
　いい面子だ。顔がいい。このまま東映Vシネマに持っていきたいところだ。そんな男たちが見つめる中で、この対抗戦は始まったのである。
　さて、まず、注目だったのが開幕式。ボクセからの刺客の3人は、シュートボクシング勢の顔を睨み付けたまま、一瞬も目を放そうとしない。特に、大将戦に出場する〝第4のシウバ〟ダニエル・シウバの視線は、その名に恥じない凶悪さ。対戦相手の緒形健一も一歩も引かず、開幕式が終わっても2人はリング上で睨んだままだ。普段は優し気な緒形も、この時ばかりは「腹の底から怒りが沸いてきた」ほどエキサイトしたと言うのだから、場内が盛り上がらないわけがない。
　観客が食い入るように見守る中、対抗戦第1戦に登場したのは後藤龍治とマウリシオ・アマド。アマドはブラジルストームエタイチャンピオンであるようだが、後藤も元MAキックのチャンピオンだ。柔道の経験もあり、桜井速人とも練習する打撃も関節技も一流の男。負けるわけがない。1ラウンドでヒザ蹴りでダウンを奪い、2ラウンドでもローキックでダウンさせ、パンチのラッシュであっさり仕留めてしまった。見たか、ボクセ！
　続く第2戦は前田辰也 vs オズマ・ディアス。前田はシュートボクシングの中で最も立ち関節&打撃をこなす、SBを体現するイキのいい選手。ところが、その前田がディアスに押され気味に試合を進められてしまう。ディアスの打撃は威力もあり、前に出る圧力も強い。もちろん投げの技術も高い。シュートボクシング・ファンからしたら、あの前田が押されるなんて信じられない光景だ。
ところが、第2ラウンドの終盤に前田のタテヒジがディアスの額をズバッと切り裂き、出血。この一発でドクターストップを奪い、TKO勝利を奪った。
　さて、ここまでのところ、2戦2勝と戦績的にはシュートボクシングの圧勝状態。だが、ディアスの実力を見せ付けられたこちらとしてはまだまだ安心できない。やはり対抗戦のキモは大将戦にあるからだ。
　観客の不安と期待の中、緒形とダニエル・シウバが登場してきた。シウバは開幕式同様、緒形を睨み付けたまま、一切視線をそらさない。緒形もシウバを真っ向から見つめ続ける。固唾を飲む緊張感の中、ついに試合開始のゴングが鳴ったのである。
　第1ラウンド。荒削りだが力強いパンチをブンブン振り回してくるシウバ。接近戦になるとヒジまで出してきて緒形も若干押され気味だ。その展開は第2ラウンドに入っても変わらず、シウバはパンチで押してくる。緒形は後退を余儀なくされ、その背中にはコーナーマットが間近。ヤバイぞ！
　しかし、その時、緒形は左ハイキックを一閃！　これがシウバの顔面をまともに捕らえ、すぐさま左ミドルキックを脇腹にズバリと叩き込む。シウバは一瞬にして崩れ落ち、腹を押さえて悶絶だ！　見事なKOであった。まさに、〝憎いアイツの脇腹を蹴りで砕いて、それシュート！〟である。
　シュートボクシング対抗戦完勝！オールKO勝ち！　胸のすくような結末で、この対抗戦第1弾は終了したわけであるが、実はまだその続きがあった。後日送られてきたシュートボクセの会長フジマールのメッセージには「今回、出場させた選手はBクラス。次からの対抗戦が本当のスタート！」という文字が。負けず嫌いだ。もちろん、シーザー会長も「ウチはいつでも受けて立つ！　第4のシウバとか言ってないで、第1のシウバを出して来んかい！」とヤクザな血が騒ぐ。来年行われる第2弾も非常に楽しみ！
　ちなみに来年2月1日はSB vs ギルバート・アイブル軍団&ボブ・チャンチン軍団連合軍との対抗戦が企画され、本誌発売翌日の21日には前田辰也がリングス横浜大会に登場。総合格闘技界にも打って出る。
　どうだ、前に出まくるこの姿勢！　さすがはシーザー会長の創ったシュートボクシングなのである。

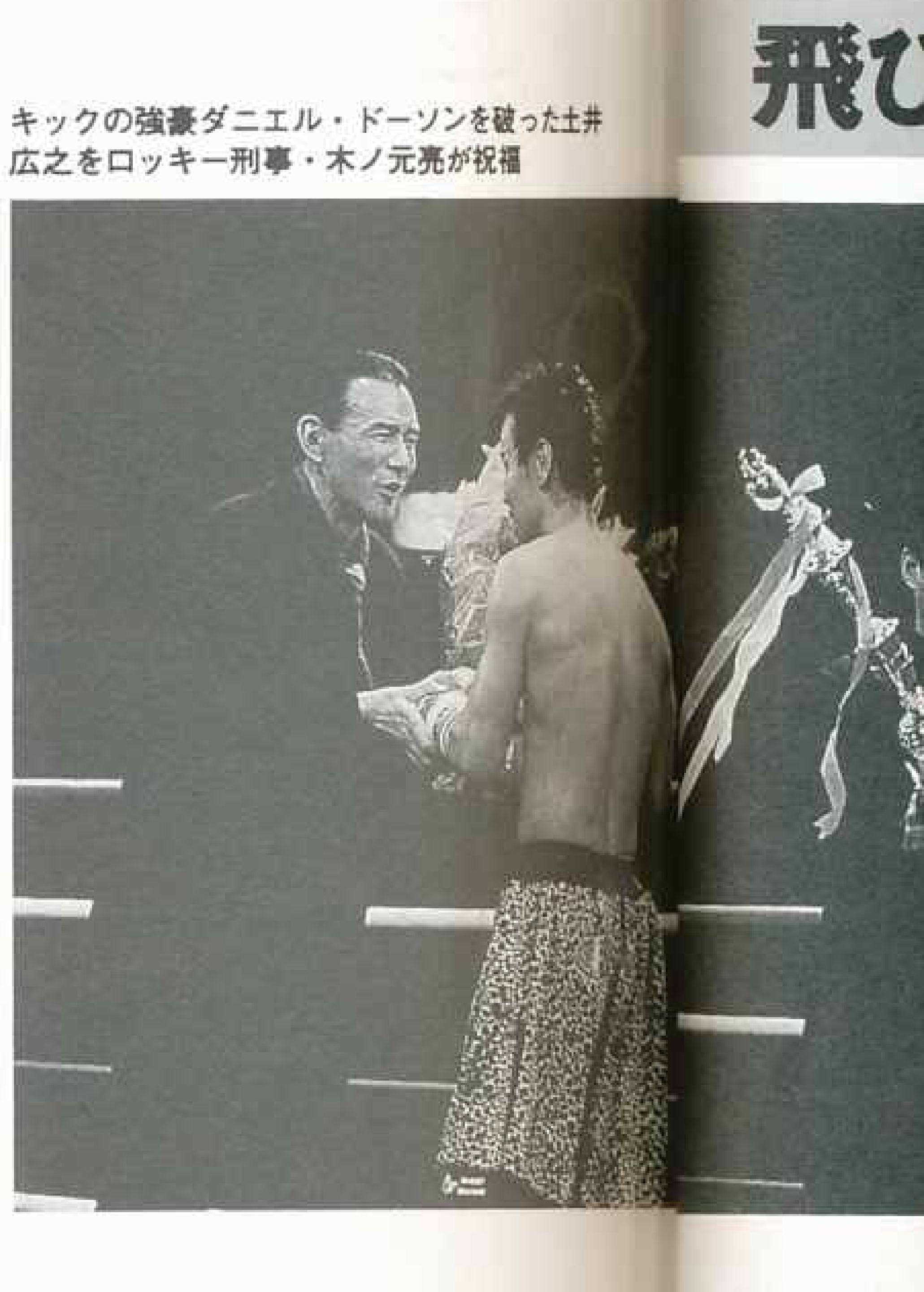


この日、力也さんは緒形の勝利を祝福。俳優陣、巨人軍選手たちがリングに上がる素晴らしい光景が目に出来るのもSBの魅力だ！



■SB vs シュートボクセ対抗戦
○後藤龍治（STEALTH）
2R1分15秒　TKO
マウリシオ・アマド（シュートボクセ）

試合後、後藤は「所詮、シュートボクセはこの程度です。俺が中量級最強の男です」と宣言！　ボクセをこきおろすとともに、来年2月に行われるK−1ミドル級トーナメントの制覇を誓う



キックの強豪ダニエル・ドーソンを破った土井広之をロッキー刑事・木ノ元亮が祝福



『多分に』EVENT 情報局

前号インタビューが大人気のグレート小鹿社長の口癖“多分に”（その真意はP104にレッツゴー！ヨロシクッ!!）をタイトルに付け、間違いがあっても“多分にだよ”と言い逃れする情報ページ（斉藤中）

忘年会・新年会はここだ！ ちゃんこ居酒屋カンちゃん



キミを“蒙古の怪人”がお出迎え

新宿に寄ったらゼヒとも行かねば「居酒屋カンちゃん」。大きいキラーカンさんらしく出される料理のビックサイズにビックリ！　写真のカンちゃん鍋（￥2800）は、多分に3人分はあると思われるほど鍋だ。他にもプロレスファンならずとも食べたくなる品揃え！　忘年会や新年会に最適！　何もなくても行くんだよ！



【場所】新宿歌舞伎町２－２７－１２新宿リービル２　５Ｆ
【TEL】０３－３２０７-３２１７
【営業時間】ＰＭ６：００～ＡＭ６：００
※ＡＭ５：００まで入店可
定休日／日曜・祝日

埼玉に、多分に行けないアナタに送る！



どーですか、プロレスファンを満足するこの店内！　カラーで見たきゃ行ってみよう！

31日は横浜“闘魂道場”ダーッ！

大晦日「猪木軍vsK-1」さいたまスーパーアリーナに行けないアナタに朗報！　横浜にある「プロレス居酒屋・闘魂道場」で「108回ダーッ」イベントが行われるぞ！　もちろん、「猪木軍vsK-1」の試合を100インチの大画面にて堪能し、気分が良くなったところで爆発ダーッ！　大掃除のあとは横浜に行け！

【日時】12月31日（月）　21：00
【場所】横浜市南区六ッ川1-341ベイシティ六ッ川1F（京浜急行「弘前寺」駅から徒歩10分）
【料金】￥3500（フリードリンク＆年越し豆腐パン付き）
【お問い合わせ】闘魂道場ＴＥＬ．045-713-9674

この「闘魂道場」にはプロレスにちなんだフード＆ドリンクメニューはもちろん、ビデオ、書籍、プロレス関連の有料チャンネルも完備！　大晦日ではなくても行け！

【営業】18：00～26：00（日曜は24：00まで・定休日火曜）



なんと、ロープをくぐらないと、多分に店内には入れない！　踏み出せるのか、この野郎ッ！

超多分に情報：11月7日、某格闘技団体社長が死亡との噂が広島で流れる。多分にな。

ゴルドーサンタが
笑顔でお出迎え！

ゴルドー『地獄のクリスマス』



地獄では12月10日がクリスマス（多分に）！

先月号の「死神通信」でお伝えしたように、『ゴルドー地獄のクリスマス』が、12月10日、黒い雪がちらついた（ように見えた）六本木で決行された。その死神のクリスマスは、会場となった「Grappie」の巨大スクリーンに、ＵＦＣでのゴルドー冷酷ファイトが流れる中で行われるという、とても聖夜とは思えない雰囲気。しかし、ゴルドーがサタン、いや、サンタの帽子を被っているのだから、絶対に何が何でもクリスマス。きっと、集まった客もそう自分に言い聞かせていたことだろう。そんな中、まずは黒山羊をあしらった（ように見えた）ケーキが出され、自らカットしてお客に配る優しいゴルドーサンタ。そのケーキを食べながら、ゴルドーサンタとの腐冷遭（ふれあい）タイムが始まり、握手やサイン、ツーショット写真を撮り始めるなどお客も徐々にリラックス。そして、メインイベントのゴルドーサンタの業火プレゼントが当たる悪魔のビンゴゲームが行われたのである！　普通は当たると嬉しいビンゴだが、ゴルドーサンタがクリアカードを丹念にチェックするから、背筋が凍る。無事、ごまかすような裏切り者も現れず、ＺＥＲＯ－ＯＮＥからの貢ぎ物もあり全員に賞品が配られるという気前の良さ！　そして、それ１つ１つに呪いをかけるようサインを入れるゴルドーサンタ。お客は知らず知らずのうちに死神と悪魔の契約を結んでいたとは知る由もない。そんな悪魔の宴は、神父による悪魔払いを知らせる鐘がなったところで終了。「次回はオレ様の手料理を味あわせてやる！」とゴルドーは言い残し、六本木の街に群がるブラザーたちをサミングで蹴散らして、地獄に帰還した。次回は『ゴルドー地獄の料理人教室』開催か!?　「死神通信」を、待て！

スクープ！
ゴルドーに
モーオタ疑惑!?





ステキなゴルドーイベントの開催場所は格闘技バー「Grappie」。プロレス・格闘技の多数のビデオが大型スクリーンで観賞できるぞ！
六本木3－3－18生雲ビル2F　TEL.03-5114-1974

多分に、ビックリ大会情報

我々は多分に数十何人の選手を確保した！

1/20『レインボープロモーション』

その他、多分に闘龍門より数名参加！　そんな豪華メンバーで送る「レインボープロモーション」！　一体、何が起こるのか!?　自分の目で確かめに後楽園に突撃だ！

【日時】1月20日　12:30
【場所】後楽園ホール
【入場料金】　スーパーシート¥7000
リングサイド¥5000　指定¥4000
ぴあ、後楽園ホール他プロレスショップで発売中

国会議員とその秘書も参戦だ！

◎大仁田厚　◎中牧昭二
◎松永光弘　◎本間朋晃
◎G・サスケ　◎保坂秀樹
◎田中将斗　◎日高郁人
◎石川雄規　◎日向あずみ
◎臼田勝美　◎倉垣翼
◎ディック東郷　◎大向美智子
◎非道　◎藤田愛



デンジャーロード第1章　相手はなんと藤原組長！

サッカーワールドカップを多分に応援

みちのくプロレス
我道勝負
わーるどかっぷ

「我道勝負」！　この大会名を付けいたがために、多分にサッカー「ワールドカップ」開催地横浜に乗り込むとしか思えないみちのくサスケ社長！　サッカー＆みちのくファンは絶対見逃せないぞ！



【日時】2月17日（日）　17:00
【場所】横浜文化体育館
【料金】特別席¥10000　1F指定席¥7000　2F指定席¥5000　3F自由席¥3000
【チッケト】チケットぴあ03-5237-9999
チャンピオン03-3221-6237
ローソンチケット03-5537-9999
後楽園ホール03-5800-9999

超多分に情報：本誌斉藤中、マーク・ハント＆フィリオ＆ホイスの会見中に熟睡。

ハガキを送れば多分に当たる



リングス 2002年カレンダー
どーですかッ！　このリングスカレンダーの格好良さ！　金ちゃんも多分にニンマリの出来映えカレンダーを5名様にプレゼントするぞ！　詳しくはP157の読プレ応募要項を参照！【リングス提供】￥1000　12月21日横浜大会より発売

プレイボーイ特別編集「鬼合コン」
ヒャッホー！　週プレでの連載「鬼合コン」が一冊のまとめられたぞ！　こいつは合コンには絶対必要なバイブルだ！　そんな「鬼合コン」をなんと5名様にプレゼント！　同じくP157の読プレ応募要項を見ろ！【発行・集英社￥895＋税】



多分にアナタは未来のエース！

新人さん、いらっしゃ〜い！

SPWF
津谷章嘉、多分に谷津親分が、新人レスラーを大募集!
【応募規定】18歳以上の健康な男子で身長170センチ以上、体重の規定は特になし（レスラー志望以外は、年齢以外の規定はなし）。
【応募方法】履歴書（身長、体重、スポーツ歴を明記）、全身、上半身の写真、80切手を同封し、〒299-4301千葉県長生郡一宮町一宮10073-2「SPWFプロレス新人募集」まで。

Jd'
新人オーディション開催
【応募規定】心身共に健康な16歳以上の女性／年齢、運動歴は不問
【応募方法】上半身と全身の水着写真、履歴書、自己PRを同封し、〒107-0052東京都港区赤坂2-3-4ランテック赤坂ビル4F吉本女子プロレスJd'「新人オーディション事務局」まで。応募締切は12月30日必着。書類審査合格者のみ後日連絡し、オーディション審査となります。

大日本プロレス
大日本プロレスが営業スタッフ、大日本のグッズ製作を携わっている四つ葉企画が営業企画スタッフを各1名ずつ募集中だ!
【応募資格】要免許（持ってない場合でも応相談なので、取得してないキミも多分に大丈夫）
【応募方法】履歴書に過去の経歴を詳しく記入し、〒224-0053神奈川県横浜市都築区池辺町4347「大日本プロレス・スタッフ募集係」まで送ろう。

その他ニュース

■ターザン山本「2002年完全予則!!」
闘道館おなじみのターザンライブ！　今年も炎上するのは間違いない！　多分に当たるターザンのマット界予測を聞け！
【日時】1月6日（日）　18：30
【料金】前売り￥1500　当日￥2000
【場所】闘道館　JR水道橋駅徒歩5分
TEL．03-3512-2080

■新宿プロレスが帰ってくる!
歌舞伎町を席巻した新宿プロレスが動き出した!　観戦後は多分にネオンに誘われる!
【日時】1月20日（日）　18:00
【料金】VIP席￥12000（弁当・おみやげ・フリードリンク）　特別テーブル席￥8000（フリードリンク）　自由席￥4500　※当日は500増
【場所】歌舞伎町クラブハイツ
【チケット】チケットぴあ・ロックウエスト
TEL.03-5459-7988

■ワールドスポーツプラザ KINGS梅田店　オープン企画第2弾
オープン企画続行ーッ!　オレの分も引いてくれ!　￥3000につきくじ引き
1等・格闘技プロレスTシャツ（10名様）
2等・格闘技プロレス雑貨（30名様）
3等・格闘技・プロレスフィギア（60名様）
4等・参加賞NWOステッカー（100名様）
【場所】大阪府大阪市北区大森町1-1-1 ヨドバシ梅田7F
【アクセス】JR大阪駅中央北口より
【お問い合わせ】TEL.06-6377-2280

■キミは島田を見たか!島田裕二「島田は見た」出版記念サイン会
シマエンタープライズの島田レフェリーのサインがもらえる!
「島田は見た」を買って見て、「島田は見た」出版記念サイン会でサインに励む島田レフェリーを見に行こう!
【日時】12月25日（火）18:00
【場所】水道橋チッケト&トラベルT-1
【サイン対象者】「島田は見た」購入者

■独占!　小島聡の60分!?
小島聡が「独占トークショー」を開催するぞ!　なんと午前と午後の2部形式!行くよな、テン!　オウ、コジ!（多分に、天山忘れてパチンコへ）
【日時】1月6日（日）
午前の部11:00　午後の部15:00
【場所】午前の部・岡山県岡山市高屋36-1 マルナカ高屋店　午後の部・岡山県倉敷市三島爪崎981-1マルナカ新倉倉敷店
※整理券発行でサイン色紙やツーショット写真プレゼント!詳しくは株式会社マルナカ
TEL.086-265-4431まで

■ユリオカ超特Qの渋谷ダイナミック
12月26日に多分に行われる「紙プロ」イベント。その司会を務めるユリオカ超特Qの恒例のお笑いイベントだ!
【日時】12月27日（木）　19:30
【場所】Za Hall
（喫茶室ルノアール渋谷公園通り店内）
【チケット】前売り￥1300　当日￥1500
【お問い合わせ】
アッシュ・アンド・ディ・コーポレーション
TEL.03-5456-8130

■闘龍門校長&社長がトークショー!
年末最後はウルティモ・ドラゴンと岡村社長が締めくくる!
【日時】12月30日（日）　神戸チキンジョージ大会終了後（20:00〜）
【場所】リングソウル　TEL.078-333-6690
【参加費】FC￥3000　一般￥4000

■Jd'年間フリーパスを手に入れろ!
全ての興行（イベントを除く）が10万円で見ることができる「Jd'年間フリーパス」の締切が迫ってきたぞ!　早く申し込め!
【お問い合わせ】
Jd'事務所　TEL.03-5561-0522

（株）ダブルクロス

来たれ!　即戦力!
編集部はそんなアナタを待っています!

1.『紙のプロレスRADICAL』編集者

【業務内容】『紙のプロレス』および小社刊行物の編集
【資　　格】経験2年以上の編集者
（要普通免許）
【待　　遇】要相談（経験に応じて多分に優遇します）
【学　　歴】不　問
【年　　齢】35歳以下
何でもいいから面白れェ本を作れれえと思っている人はいますぐ応募を！

2.編集見習い

【業務内容】（株）ダブルクロスの雑用全般
【資　　格】プロレス＆格闘技に興味がある人
（要普通免許）
【待　　遇】要相談
【学　　歴】不　問
【年　　齢】30歳以下の独身者
アメニモマケズ、カゼニモマケズ、オカネニコマラズ。
そんな人、いますぐ応募を！

応募要項

希望職種を明記の上、履歴書と「私と『紙プロ』」というテーマで400×2枚の作文を下記住所まで送ってください。
履歴書等を返却致しません。なお、面接に来ていただく方は、こちらから連絡致します。締切は1月20日です。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス　人事部係

健康的な職場で体調が良くなりました！　タバコと水しか飲まないので胃も小さくなり、肉類など一切受け付けません。狂牛病対策にはバッチリな仕事ですね。（斉藤中さん）



文章が書ければこんなに楽しい職場はないですよね！　3日寝ないでバイクで印刷所に行ったときに、居眠り運転で死にかけたのもスリル満点でしたし（経験者・片山ぽんさん）

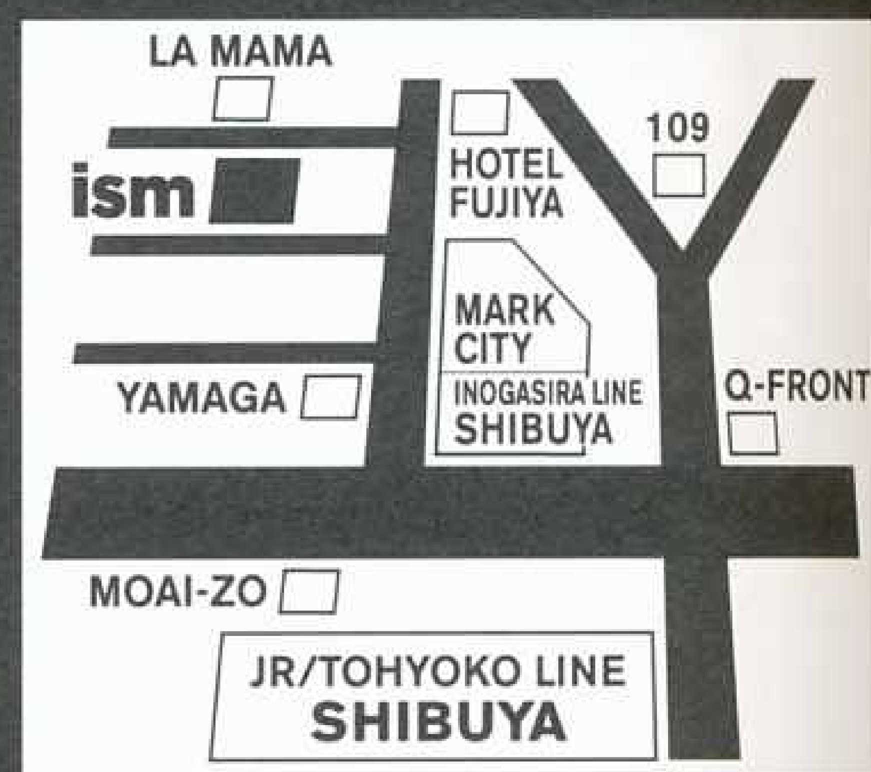


紙のプロレス 紙プロ発足10周年&『紙プロ』RADICAL 創刊5周年記念イベント

開催迫る!!



『紙プロ』ボンバイエ 2001



【日　　時】2001年12月26日(水)
開場:PM8時　開演:PM9時〜翌AM4時　完全無礼講オールナイト

【会　　場】ism 渋谷区道玄坂1-14-9 ソシアル道玄坂2F
TEL 03-3780-6320

【料　　金】当日券¥3.500 (PM19時よりismにて発売)
消費税込/記念品付(非売品)
ドリンク¥200〜　軽食¥300〜

【定　　員】ホントに200名限定!!

【司　　会】ユリオカ超特Q(ドラゴン・パフォーマー)

【ゲスト】『紙プロ』はすでに数十人のゲストを確保した(新間寿調)。
カール・ゴッチも来る!(これはウソ)
でもホントに10周年に相応しい超大物ゲストが続々登場!

問い合わせ:ダブルクロス　TEL03-3403-5142　随時

紙のプロレス Hand

有料サイト　月額/200円

au、ツーカー、セルラー――『EZ WEB』ユーザーに朗報だッ!!

本当か、本当なのか!?
『紙プロ』が『EZ WEB』が見れるのか!?
だ〜ったら見てやろう! だ〜ったら見てやる!
日々起こるマット界の熱いニュースを
『紙プロ』テイストで見ろ(火祭り刀でキメのポーズ)!

大好評発信中!!

↓【アクセス方法】

トップメニュー ▶ EZインターネット ▶ スポーツ ▶ 紙のプロレスHand

見てみ、この充実度!
紙のプロレス Hand メニュー

★日々のニュースをどこよりも速く濃く送る「メガNEWS速攻&試合速報」
★マット界の流れをもう一度見たいときに「メガNEWS保存版」
★コボレ話的な話題や情報もフォローする「マット界ブッコミTOPICS」
★団体別にニュースや情報を整理した「団体別TOPICS&団体別試合速報」
★12月からは動画対応の機種なら、動画も見れる!!
★他のサイトでは、絶対見れない画像付きニュース
★『紙プロ』表紙や、とんでもない画像も、あなたの携帯にダウンロード!「画像ギャラリー」
★1週間ごとに見れる「試合SCHEDULE(スケジュール)」
★『紙プロFils』には「マット界噂の万華鏡」などのお手軽に読めて濃い読み物も満載!!

夢の闘いが『紙プロ』バックナンバーで実現！

今なら50%OFFで激突!!

※「格闘男」「情念～夢一途なり」は50%OFFにはなりません。

猪木軍 VS K－1



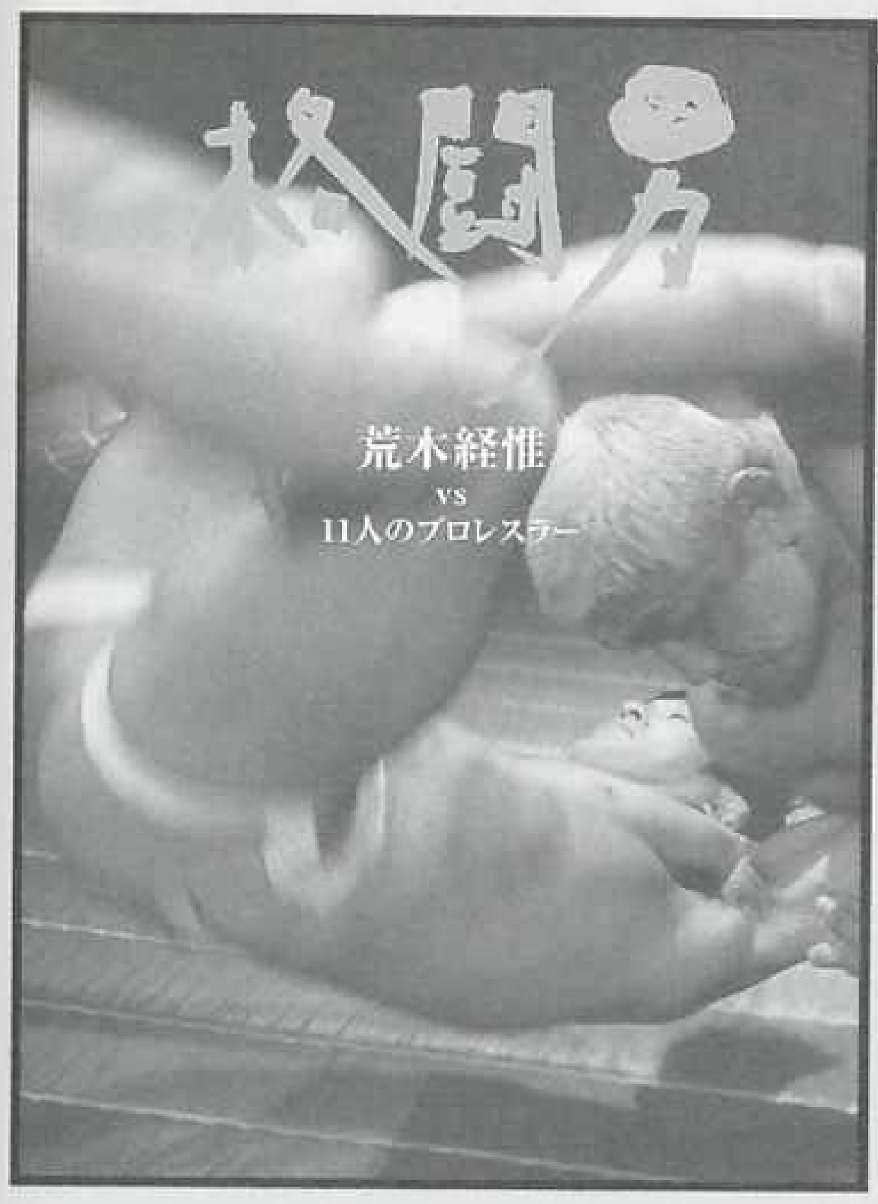
『紙プロ』16号
新日本凸凹大学校



『紙プロ』17号
実況！「北朝鮮・平和の祭典」



『紙プロ』15号
K-1とは何か？



藤田登場！
「格闘男」
撮影／荒木経惟　プロデュース／南部虎弾



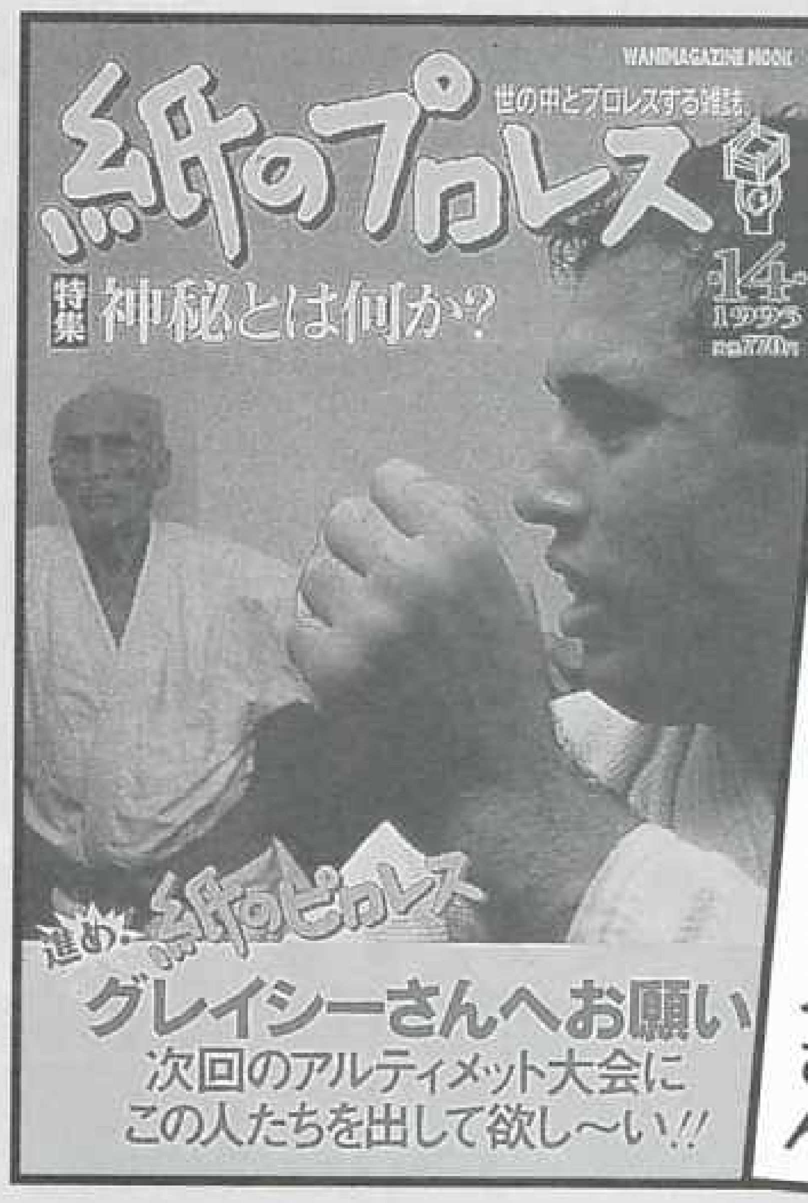
オレは"心の猪木軍"

情念
～夢一途なり～
石川雄規・著



オレは元K-1ファイター

『紙プロ』13号
道場破りとは何か？



K-1の参謀についたホイスさん

『紙プロ』14号
神秘とは何か？



第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！　２０ページにも及ぶ大特集！



パンクラス公式読本［矛］

９７年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！　鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！



極真魂溢れる１６人を直撃！
極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ベタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏



第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス

「紙プロ」を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

完売間近



パンクラス公式読本［盾］

９７年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！　船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！



紙の前田日明
インタビューという名の鉄拳史

「紙プロ」、「リンタマ」、「紙プロRADICAL」誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！



第21号 1995年12月号
特集 幻想格闘技

古武道を通して「強さとは何か？」を考える。あの寛水流空手二代目会長が登場・珍法創始者前田日明／ガッツ石松の男汁溢れるインタビューも掲載！

完売間近

50%OFF 衝撃通販方法

●その他の号、『猪木とは何か？』『猪木とは何か？　キラー編』『大山倍達とは何か？』は完売しました。
●代金は半額セールのため、８号は￥700→￥350、１１号～21号は￥780→390、パンクラス公式読本『矛』『盾』は￥1260→￥630、『極真とは何か？』は￥1530→￥630、『紙の前田日明』はサービス価格￥2000（送料込み）、「格闘男」は￥3000（送料込み）、「情念」は￥2100（送料込み）となってます。
●送料は１冊＝￥310/2冊＝￥380/3～4冊＝￥450/5冊＝￥520/6冊以上は￥700となります。
●申し込み方法は現金書留と郵便振替でお願いします（バックナンバーは通販しか取り扱っていません）。
【現金書留】――〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702（株）ダブルクロス
【郵便振替】――00130−3−769154（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

【『紙プロ』本誌・５０%OFFセールショップ】アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京店・チャンピオン大阪店・リングスパレス・バディスラム・タコシェ

●こんなとこからイベント情報－毎年好評（？）の福袋は、通信販売でもご購入いただけます。（返品交換は出来ませんので、予めご了承下さい。）

PART 2

この本は坂井君が作ったの？
日本には著作権の概念がないのでしょうか？
このゴーストライターは一体誰ですか？
直接対決したいです。
強く情報求めます。——（田中正志のメールより）

田中正志人生劇場

書評の星座？

話題沸騰ミスター高橋本。当然のように吉田豪が書評の星座でどのようにこの本を扱うか楽しみにされていた読者も多いことでしょう。しかし、すいません。諸事情により、今回吉田豪お休みです。たぶん次号でたっぷりやりますので、もうしばらくお待ち下さい。そのかわりといっては何ですが、強力な助っ人をお呼びしました。黄金時代の新日帝国のレフェリーだったミスター高橋が「シュート活字」革命軍に加わったことで、日本マット界の構造改革がいよいよ実行段階に突入したと鼻息が荒い。歌うシュート活字王・田中正志が今月の書評を努めます！



『流血の魔術　最強の演技　～すべてのプロレスはショーである～』（ミスター高橋／講談社／1500円）

12月5日は日本マット界における情報開示の革命記念日となった。新日本プロレス黄金時代のレフェリー・ミスター高橋が、「裁いた25年間の2万試合で真剣勝負は一試合もなかった。プロレスは全試合ショー」とカミングアウトしてくれたからだ。そして具体的に新宿伊勢丹デパート前のタイガー・ジェット・シンによる猪木夫妻襲撃は芝居であるとか、わずか二週間前に週刊ファイトが「ヤラセじゃない」とシンに言わせたばかりの事件をひっくり返した。なにしろ買い物が終わって出口に出てくるまで、シンを待機させてたのが高橋本人なのだ。当事者の説得力にはかないっこない。もちろんアンドレ・ザ・ジャイアントをさんざん飲ませて、やっと猪木の負け役を承諾させた体験談も綴られている。初代IWGPトーナメント決勝戦、猪木のベロ出し失神事件が自作自演だったことも、たけし軍団の刺客ビッグ・バン・ベイダーのデビュー戦興行で暴動が起こったのは、藤波が負け役を拒否したことが原因であることもしゃべっちまった。カミソリ流血の具体的なやり方まで、やらせの構造と演出がぜんぶバラされた。プロレスファン最大の論争であったヤオガチ論が、ついにこの出版を契機に無意味になってしまったのだ。

活字プロレス側は当然のごとく、シュート活字運動の新しい展開に無視を決め込んだ。この本をぜひともベストセラーにしよう！　まだ買えてないなら、スグに注文を出そう。そう、無知な存在だと勝手に決め付けられてきたファンが立ち上がる日がやってきたのだ。ありがとうピーター高橋、あなたは職務上の秘密は墓場まで持っていく「生涯関係者」の守秘義務を破ってくれた。もともとが裏切りのゲームなんだから、高橋の勇気に乾杯し、残された者は真の構造改革に着手するしかなくなった。

本文の書き出しは親指を上に上げたり下げたり（アップダウン）する動作で合図することで、マッチメイカーが試合の勝ち負けを選手に知らせる場面から。私が毎年末に「シュート活字トークライブ」として開催している講演会の冒頭も、まったく同じ説明から始まっている。目的は暴露本ではなく、あくまでマット界の底辺拡大のための提案であるという主張も一致。そこにWWFの成功例を絡めて、キング・オブ・スポーツでなく、キング・オブ・エンタテインメントを目指すという表現も定石を踏んでいる。そうすれば、あの忌まわしい「八百長」という間違った言葉からも解放されるからだ。

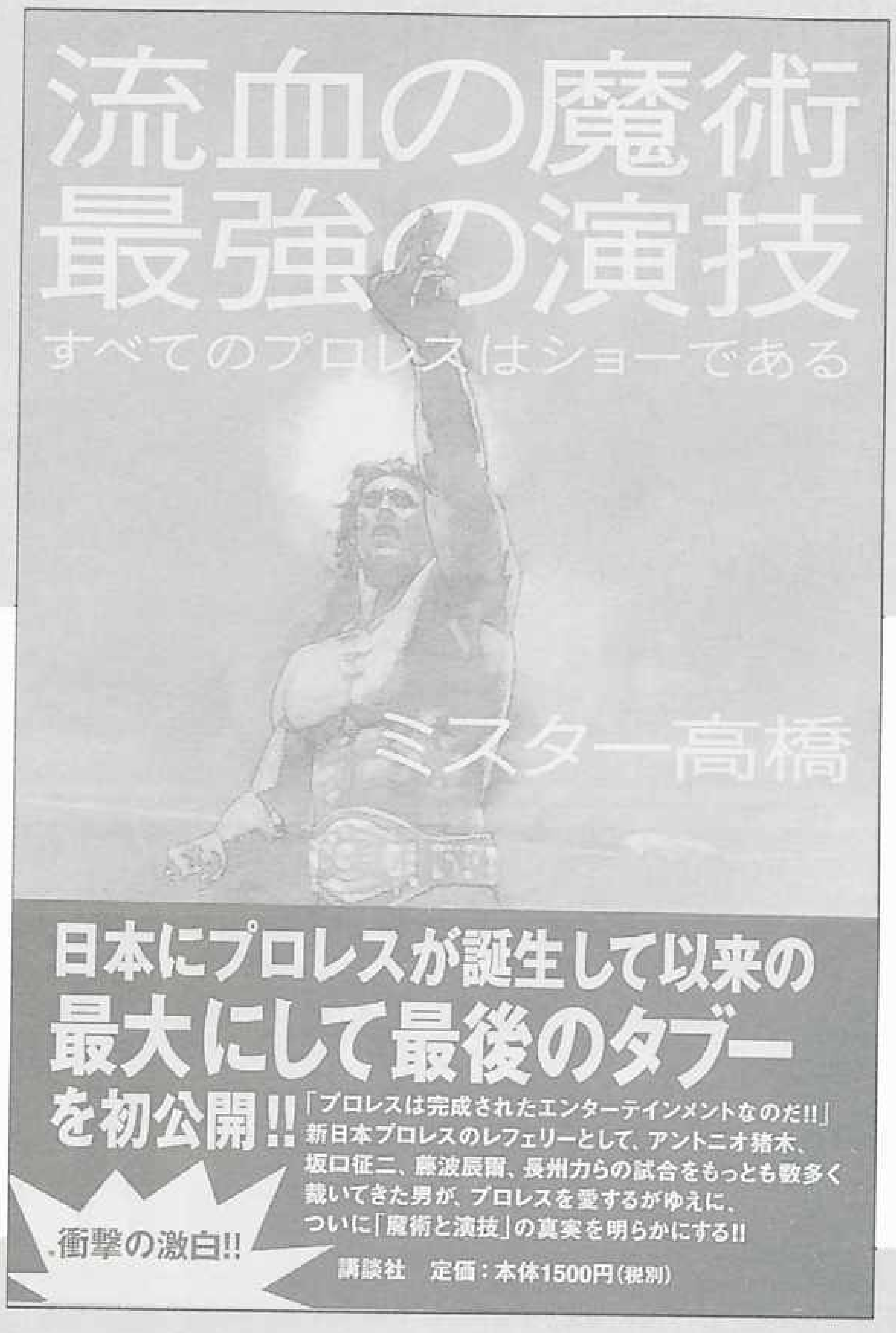
多くの方から「この本のゴーストライターは貴方ですか？」との連絡をいただいた。しかし私は、WORK（お仕事）をワークと表記しているし、負け役のJOBはジョブと書いてきた。年配の業界人にはウォーク、ジャブと聞こえるのかもしれないが、それだとWalkと勘違いしそうだ。ジャブだとボクシングになってしまう。この辺りは『紙プロ』のバックナンバーでもインターネット上でも公開している、私の作った業界用語集の英語表記に倣って欲しかった。

オビのタタキ文句には「日本にプロレスが誕生して以来の最大にして最後のタブーを初公開」——ようするにエンタテインメント宣言である。もしこれが「初公開」なら、私の本や紙プロのシュート活字特集はなかったことになる。外部のジャーナリストと内部の当事者では信憑度が違うということらしい。ところが猪木 x ホーガン戦のエピソードでは、そのレフェリーすらフィニッシュを教えられてなかったことを告白されている。内部、外部は関係ないのだ。SWSの社長さんからUインターの広報嬢まで、自分たちの団体が既存のプロレスと違い真剣勝負であると、本当にそう思っていたインサイダーなんかいくらでもいる。当事者の証言にこだわるなら、高橋が新日を辞めた後の小川 x 橋本戦は語らすべきではなかった。一気に本の信頼度にケチがついてしまったからだ。同じく高橋がレフェリーではないアリ x 猪木戦もあやふや。第一インタビューをしてテープを起こした編集者は、リアルタイムで昭和のプロレスを楽しんでいた年配者とは読めない。もっと突っ込んで聞いて欲しい箇所がアチコチにある。だから前田 x アンドレのセメント試合伝説も「大阪で行われた前田 x 藤波戦」で、藤波がマジに大流血したことなどが伏せんとなって、アンドレが前田を制裁しようとした試合だと書いてある。実際にはその藤波戦はプロレスが成立しなかったアンドレ戦の後に行われた。

テロリスト藤原の誕生となる雪の札幌で、藤波 x 長州戦をぶち壊したのも筋書き通りとバラすのは構わないが、藤波の「こんな会社辞めてやる！」の涙まで「とっさに出た演技」ってのは本当なのだろうか？　なんでもかんでもワークだったと説明するのは簡単だが、逆により深い真相を隠蔽してないか？

赤いトーンの表紙はかなりカッコいい。目立つ本は売れる本の基本でもある。チャンピオンベルトを巻いて明日の方向を指差している選手は一体誰なのか？　なんか私には船木誠勝かケン・シャムロック系のハイブリット・ファイターに見えてしまったが、高橋も「船木が新日に残っていたら」の追想を述べておられた。昭和のプロレス者にとって、それはファイナル・ファンタジーだったのかもしれない。金曜夜8時の素晴らしい夢の数々ありがとう！　新日本プロレス最強伝説は、未来に向けた高橋の提言と共にここにて完結した。

シュート活字第一人者（週刊SPA!風）
田中正志





RADICAL 海外トピックス

文・田中正志

ＷＷＦに対抗勢力遂に出現!?

ＸＷＦとは何か？

ＸＷＦは少なくとも単なるネタではなかった。実際には一度も開催されないまま消えていく幻の団体の一つかと思っていたからだ。11月13日（火）と14日（水）の2日間、フロリダ州のオーランドでＴＶ収録用の集中テーピングが行われ、一日で5回分づつ、全部で10番組用の通称「ＴＶマッチ」が撮影された。そして注目のホーガンだが、2日目にカート・ヘニング相手にとりあえずの楽勝パターンをお披露目。しかし、公式ネット・サイトにも当日のスケジュール表にも発表はされてないし、その試合がＸＷＦとして放送されるかどうかはまだ未定。何しろ肝心のホーガン先生、そもそもＸＷＦと契約していないのだ。それどころか、この十回分の放送が、そもそもいつ、どこでどう放送されるかすら未定なのである。

黒幕はジミー・ハート。長年の超人ファミリーの参謀兼マネージャーだ。だからホーガンは友情出演したに過ぎない。ブッカー（現場監督）はＷＣＷ『ナイトロ』初期のケビン・サリバン。場所はユニーバーサル・スタジオ。遊園地のアトラクション扱いである。ＷＣＷの全盛期、本拠地をアトランタからこのフロリダに移転する計画が正式に発表されたことがあった。何しろプロレスラーの人口が一番多いのがこの一帯になり、単純な飛行機代の節約効果を考えても、フロリダの常設会場からの中継にはメリットがあることも事実。もちろんマニアでない家族連れの無料客を入れてしまうデメリットもあるから、万事が好都合なわけでもない。

とりあえず地元のケーブル局で放送される可能性はあるようだが、そんなのだけで団体がペイするハズもない。ところが、その週刊ファイトの紙面には「武藤、蝶野らの参戦も」とか「サイトー氏、最後の大仕事」などの見出しが目に飛び込んでくる。「サムライ！」のトーク番組〝クロス・ウィザード〟で「ファイト読んでやっと新日のビジネス情報を知る」といつも同じ文句を言ってる武藤選手だが、そもそも一切概要すら聞いてないハズのマサ斎藤なんか、自分の顔写真まで載ってる紙面に驚くしかなかったのではなかろうか？

いい加減、カメラマンの特派員を仲介役にした〝ジャパン・マネー〟引出し作戦には関係者もファンもはっきりとＮＯをつきつける時期に来たようだ。そりゃ新興団体にとってみれば、「ホーガンも参加、ＷＷＦのショー・プロレスに対抗する本格派」などと記事を書いてくれて、おまけに新日本プロレス首脳部との会見までセットしてくれる日本人記者は最優先のビジネス・パートナーになる。もっとも実態と方向性のないロートル中心のインディーに恥をかくことになるのは、〝毎日風見鶏〟の藤波社長率いる新日経営陣なのだからお互い様。このＸＷＦというジャパン用ビジネス・アングルを、骨までしゃぶって面白がるというのも大人のファンの楽しみ方なのだ。いきなり六角形のリングでＵＷＦと複合関節技のルチャリブレを合体させたＴ2Ｐがデビューしたのと同じ頃、ＷＣＷ崩壊に伴ってＷＷＦからも声のかからなかった連中が醜態をさらすなら、どこまで酷いかをギャグにして楽しめば良いのである。

テーピングの結果を紹介するなら、ナスティー・ボーイズがタッグ王者になった。「おっさんたちは元気だった！」の報告だけで十分に嬉しい。バク・バクウェルが〝Ｙｏｕ ｇｏｔ ｆｉｒｅｄ〟（首にされた奴）とスマート客から一斉に合唱されてしまい、とてもじゃないが当初の予定のベビーフェイスでは使えなくなった話題は紙プロ読者向きかもしれない。もちろんＷＷＦを妻（ＫＡＴ嬢）の起用法を巡って自分から辞めてしまったジェリー・ローラーが復帰して毒舌を聞かせたが、そのスグ後にＲＡＷの実況席に電撃復帰。今後はつかえなくなってしまい、予定はまたも二転三転しそうな雲行きである。

最新情報としては12月28日インディアナ、29日ミルウォーキー、30日グリーンベイという初のハウスショーが企画されているが、ロディー・パイパー、レーナ・メロ（元セイブル）、カート・ヘニングが主役では、前売りがさっぱりなのも仕方ない。無事に開催できるのかも余談は許さない状況にある。

前歯がなくとも正すく生きる!
(エンペラー吉田調で)

やっぱり猿も好き

ウキッ ウキッ





ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!フガッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!ウキーッ!
別に原稿を落としたワケじゃないですよ。前歯がないってホントに不便なんです。うまく発音できないし、いつもフガフガ、怒ればウキーッと、すっかり猿モード。今まで子猫ちゃんが好きだったけど、これからは猿の時代!

今月もあんたが大将多分に。



「猪木イズムの清原とジャイアンツ愛(プロレス愛のパクリだろう)の原監督が合うわけが無いんだ」。そりゃそ〜だ。多分になっ!



今回もイキますイキます青木雄大四連発(コメント付き)「アンドレ最強幻想のありがたみと、それにすがらざるをえない情けなさ」



「田中正志の思惑がことごとくウルティモ・ドラゴンにスカされてるのが面白かった」。そんなところにビーターの強烈スマッシュ!

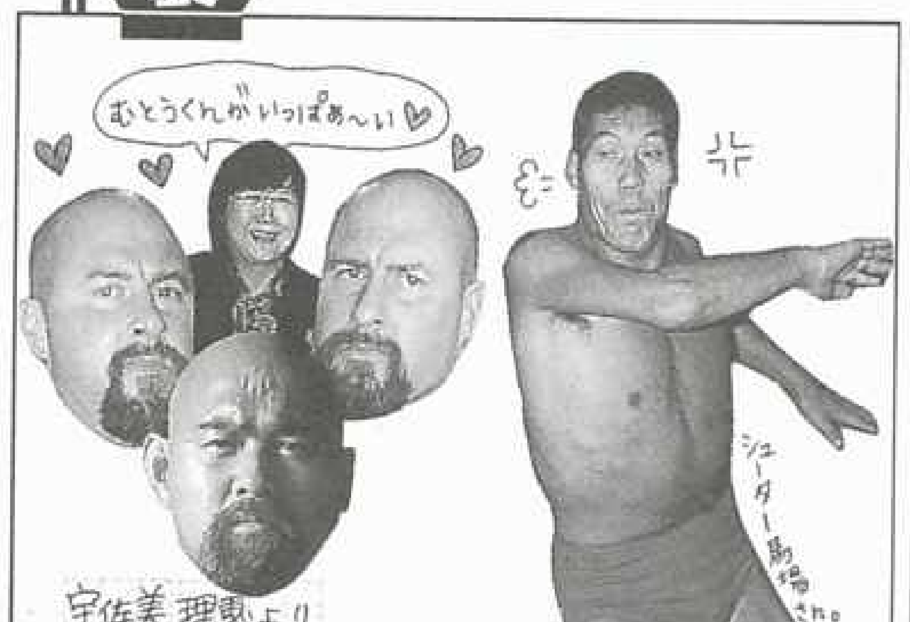


「滑川あたりにヘンゾ倒してもらいたいね」。同感!確かに浜口ジム出身となら誰とやっても面白そう。ミラコレ対ヘンゾも見たい!

今月のアンリミテッド王者

またもや理恵ちゃん防衛!!

裏



文句は、なに　ひとつないですよ!というわけで「紙プロ」認定アンリミテッド王座4度目の防衛に成功した宇佐美理恵ちゃん。な、なんとあと2回王座を防衛すれば理恵ちゃんには50万円が贈られます。恒例のマァ☆ティン日記をいってみよう!「無意味な攻撃はきらい。悲しくなるから。心ない攻撃はきらい。悲しくなるから。心あるフリした攻撃はもっときらい。きらい。だいきらい。操られてなんかないよ。ちゃんと自分で、自分の足で、心で、動いてるよ。もし仮に操られてるように見えても、ちゃんと自分で選んで操られる事を選択してるから平気なんだよ。もう自分の意志のない答えは出さないよ。マァティンを操る事なんかできないから。方向がちょっと違うだけなのに。どっちがイイとか悪いとか、そんなのどっちでもいいと思う」。俺のことかい?　でも今年のMVPは文句ナシにマァ☆ティンで決定!



表

今月のひよこピヨピヨ



年末進行やら新人の離脱やらでクソ忙しい年末の編集部に突如お歳暮が届いた。差出人は〝悲しき天才〟を名乗る男。中を開けてみると、そこには、なんと紅白黄のひよこのお菓子(各1個)とひよこのクッキーが1枚……。う〜ん、これは一体何なんだ?　編集部では早速緊急会議を開き「ひよこのお菓子」の真意について激論が交わされた。これは我々に対する何かのメッセージなのか?　それとも「紙プロ」に対する挑戦状なのか?　結局、ひよこ問題の結論が出なかった編集部では〝悲しき天才〟と思われる男にその真意を直撃すると、なんとも予想外の答えが返ってきた。その男いわく「真心です」。これには一同、ひよこのようにピヨピヨうなるしかなかった。全くトンチが効いてるね。ジニジニ。

今月のオ猿トリオ



(大阪府・関弥生)この3人(猿?)には葛西が持つサルベルトを賭け、巴戦でもやって欲しいものです。ルール?……お前が決めろ!

(ヒラデルヒア・アシッド他)大日本・横アリ大会控室前のホワイトボードにCZW勢が書いていたイラスト。正直、葛西の勝ち!



今月でグッバイCZW

1丁目 読者の声

★「面白かったのはグレート小鹿インタビュー。やっぱり吉田豪さんのインタビューはおもしろすぎ。馬場さんの『トルコつれてって!』は、ほのぼのとしたとてもいいエピソードだと思いますが、そんなことを書いてもいいのかと、とても心配になりました」【秋田県・佐々木桂・24歳・会社員】

➲正直、この返答の仕方は飽きたけど時間がないからしょうがない。

★「面白かったのはシーザー武志インタビュー。もう最高(★)今でこそ?中島らもさん風なボーッついたオヤジだけど(失礼!!)やっぱ若い頃はそうとうだったんだ……。シーザー会長、ほんとに腰の低いやさしい人だと思ってたのに、びっくり(★)でも、またファンになっちゃった! こういうスゴい人達の話をボクらは読みたいんです!」
【愛知県・田原和幸・27歳・フリーター】

➲正直、この返答の仕方は、もう古いけど来月で30だからしょうがない。

★「直接クレームをつけ、謝罪受けたら快く水に流す中野の男っぷりの良さ。それに較べて自分ン所にマイナスだからと言って猪木苦言を"検閲"しようとする新日の姑息な事。末期症状だよ、こりゃ」【青森県・青木雄大】

➲正直、雄大先生、次号もよろしく。

★「面白かったのは闘龍門勢のインタビュー。中でもミラノ。『プロレスファンに言いたいことは君たち何て格好してるんだ』。よくぞ言ってくれたって感じです。でもキミのパンツもいかがなものか…。あといつもCOOLなので笑顔を見れて良かった。あと福岡のTV番組『しんや君』で福岡吉本のトップタレントでコンビ(華丸・大吉さん)の大吉さんが『紙プロ』のことをホメまくっていた。プロレス雑誌ベスト5というコーナーで『紙プロ』は3位でした(『週プロ』1位、ゴング2位)。でも大吉さんは『僕の中では『紙プロ』が頂点です』と何とも嬉しいお言葉でした。前号の『ザ・検証・猪木を本当に許せるか』をアシスタント女の子ふたりにやらせていたが、どうも意味が分かっていないふたりだった」
【山口県・ゆずっ子・23歳・ローソンギャル】

➲正直、ゆずっ子ちゃん、みんなには内緒で、またメールくらはい。

2丁目 読者の声

★「つまらなかったのはタムタムインタビュー。老後の心配より鼻毛の心配を」【東京都・松本崇・29歳・カメラマン】

➲正直、もうしっかりしなさいよ、タムタム

★「つまらなかったのは、読者ページのコメント。正直くどい!!」【神奈川県・38・26歳・保育士】

➲正直、スマンもう一丁スマンもう一丁スマンもう一丁スマン!

★「格闘技的に説得力が無く、プロレス的にも見映えのしない新日勢のフロントスリーパーは自らを沈下させるだけだと思うんだが。ラリアットが流行ればラリアットをやり、スキンヘッドが流行れば頭を剃り、PRIDEが流行ればすかさずバーリ・トゥード特訓をするという健介のトレンド通ぶりに完敗」「今年のベストレスラーは美濃輪&ミノタウロ。それより2001年は新人王争いが面白い。ノアの杉浦、AX(ってよりスマック)のマァ☆ティン、リングスの横井、グラバカの三崎、P.O.Bの梁……、僕の興味のあるエリアだけでもこれだけの新星、怪物、天才がいる。マット界の未来は明るいぞ」【青森県・青木雄大】

➲正直、新人王候補の梁正基さん、来年はガツンと結果出してくれ!

★「個人的に橋本さん好き!! K-1や PRIDE に人気を奪われがちなプロレス界を動かしていっているのはZERO-ONEいや橋本さんだと思う。大谷晋二郎さんと一緒にZERO-ONEをこれからも引っ張っていってほしい」【山口県・石田真一・18歳】

➲正直、夜もヒッパレ!

★「面白かったのは、ザ・検証。ぬおぉぉぉーっ! ジョージが死んだぁぁぁーっ! せき詩郎よ、越中んとこ行ってくれ!!」
【静岡県・横田賢・33歳・牧場勤務】

➲正直、どうですか、せき詩郎さん?

★「つまらなかったのは、読者ページ。読者コーナーはだんだん内容が無くなってきている」【長崎県・西岡克章・32歳・医師】

➲正直、医者に診断された感じで軽くショック。

今月もさすがの一言



「なぜ「The独占サンデー」の超人王国のキックカランキングに川田利明が入っていないのでしょうか? ケンスキーは入っているのに」。これはね、きっとレガースの中から鉄パイプがポロリとか、そんな感じでしょ(適当)。ケンスキーの件は……正直わからん!

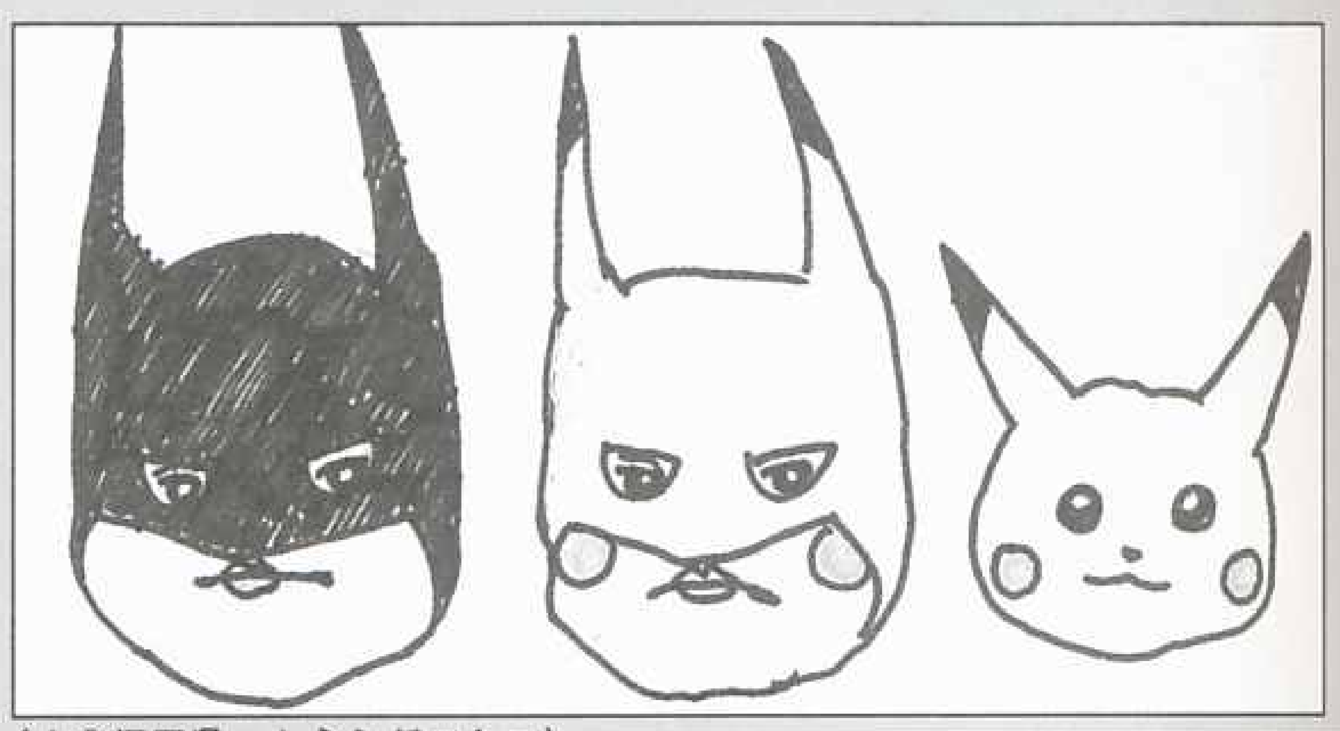


「栃東大裕の大関昇進どう思います? 自分は、もう一場所見た方が良かったと思います。坂田亘はもっと頑張れ!」。ちなみに、このイラストはエボリューション繋がりとのこと。栃東の大関昇進問題の件は……スモーノブじゃないんで、わかりましぇん。正直スマン!



中川画伯三連射ッ!「『ピュア・ダイナマイト』はスゴク面白かったです。自分が大好きな選手がたくさん出てきてワクワクしました」

今月もファットマン!





(上◎福岡県・トミシゲアキコ)(右◎香川県・正木浩二)前号で衝撃大のバットマン(つーかファットマン)姿を公開してくれた我らが破壊王。「真ちゃんのおメメがあんなにかわいかったとは今まで気付かずにいました。同郷(私の出身地は岐阜県可児市と言って、土岐市とは隣なので)のヨシミで勝手に真ちゃんと呼んでいます。ダメでしょうか?」とトミシゲさん。俺に聞かれても困るけど、真ちゃんでいいと思うぞ。ついでに大谷晋ちゃん。以上!

今月も何でもいいから出せコノヤロー!



(大阪府・英加直純)今年は大阪でのダーッ!で始まり埼玉でのダーッ!で年越し。瀬川暎子風に言えば、まさに猪木くれない(弱火以下)

今年も残りわずかとなりましたが、いつ何時、誰でもいいからハガキをちょうだい! 季節柄、年賀状でもかまいません。書いて書いて書きまくれ! ハガキ、イラスト、ご意見、ご要望、何でもござれ! メール(悪性ウィルスは正直、いらん!)でもオッケー! いますぐ、ピッ・ポッ・パッ!
choro@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702(株)ダブルクロス『ヒラデルヒアより愛を込めて』係まで。

今月の宣伝です

「先日、シュートボクシングの後楽園大会で突然ちらしをお渡ししたジェット聡志です。僕はシーザージムに通う練習生です。そんな僕の友人で『紙プロ』さんに何度かイラストを載せていただいた白鳥大輔という人がいます。彼も去年より入会し縁があって宍戸大樹選手のTシャツを作らせて頂きました。以前、他誌でそれが載ったところ、売って欲しいとの反響が結構あったので、今回、販売することになり、僕も手伝うことになりました。そのTシャツのホームページを載せていただければと思い、会場でいきなり話しかけてしまいました。アドレスはhttp://www.king-kabu.co.jp/fuzzです」。俺は、いつ何時、SB(シュートボクセも可)の宣伝は受け付けつける! なぜなら俺は性病、略して…。正直、失礼! 今月もアンタが大将、多分に。



中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡
目が覚メタロウ



●応募方法　プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく　ホントニ面白い　ヤツをたのむ。
▼毎月1名の作品をこのページで掲載　このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。
▼原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ〈S・M・L・XL〉をハガキに書いて下さい。〈例〉ディミータ・ペトコフのXL
●当選者にお知らせ　毎月一席に当選された方に「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼントします、なるべく早く届くようにしますので楽しみにしていて下さい

★目が覚メタロウさんへ=藤波選手の赤パンツは、まぶしいですね　御希望の小川T（M）楽しみにしていてくださいね。
★　紙のプロレスRADICAL　読者の皆さまへ=余った年賀ハガキの裏にでもチョイチョイっと書いて送って頂けば、あなたもアタシもうれしく幸せ♥よろしくお願いします。採用された方にはTシャツをプレゼント！！ハガキに好きな選手名を書いてください。いつ何時、誰のTシャツでもつくります！

CAT FIGHT WORLD

第16回 「『バトル』オリジナルビデオの魅力」

今月、来月と新作が続々リリースします！　ですので、ちょっ宣伝させてください（笑）。皆さん、『バトル』をレッツゴー、ヨロシク!!
（バトルビデオ企画製作部・担当　木根さん）

『バトル』はキャットファイトビデオのホームラン王です！ヒャッホー！！

バトルでは、年末・年始に向けて新作が続々リリースいたします！
ぜひお気軽にお越しください！



ヒャッホー！　ボクにもウマ乗りしてほしい！　見てみ、超ミニ姿のキャットファイターが顔面に股間を押しつけるこのシーン！　目つきも最高！　【バトルキャットファイトNO．58（BC-58）¥10000】



ヒャッホー！　キャットファイターに殴られるのなら本望です！　暴力賛成！　キャットファイトバンザイ！　早く天国に連れて行って！【バトルキャットファイトNO．59（BC-59）¥10000】



ヒャッホー！　ボクにもコブラツイストしてほしい！　卍固めが炸裂（？）し、食い込むコスチュームがたまらない刺激的な一本！　【バトルオリジナルコスチュームバトルNO．9（BTC-9）¥10000】



ヒャッホー！　アブナイ玩具でお互いを攻め合うぞ！　ボクもイカせてくださいな！　続きは見たけりゃ、ビデオでごゆるりとどうぞ！　【イカせっこバトルNO．10（B1-010）¥8000】

▼原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。（例）ディミータ・ペトコフのXL
●当選者にお知らせ　毎月一席に当選された方に「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼントします。なるべく早く届くようにしますので楽しみにしていて下さい。

紙のプロレス RADICAL

2001 No.45 CONTENTS

No.45 Main-Event



No.45 Semi-Final

Radical Fight

Radical Specil

Another

RADICAL特製ピンナップ

さようならジャイ子！　こんにちわガイ子！

※書評の星座、スーパーコラムはお休みです。ガイガイ。

Cover Model
アントニオ猪木

Art Director
出田さん● San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツくん● Kun Matsu
村松さん● San Muramatsu
グッチー● Gutty
タニやん● Yan Tani

Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae

ZERO graphics
海老沢勇● Isao Ebisawa
古賀ゆきえ● Yukie Koga

※RADICALの意味とは？　そう言われてもピンとこない並末やつはさておきます



驚異の22ページぶち抜き!!
幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ 現地潜入 SPECIAL
ULTIMO・DRAGON GYM MEXICO

90年代、日本、メキシコ、そしてアメリカでスーパースターとなった闘龍門の校長が、WCW時代、新日本プロレス、そしてアントニオ猪木を語る!

ウルティモ・ドラゴン

「プロレスという魔力の詰まった不思議なジャンル全体を繁栄させていきたい」

前号掲載の前編では、WCWでの経験を基にした闘龍門の独自性を探った校長インタビュー。後編の今回は、90年代に日本、メキシコアメリカで一時代を築いたレスラー・ウルティモ・ドラゴンの偉大さに"シュート活字王"田中正志氏が迫ります!



聞き手/田中正史
撮影/堀江ガンツ
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

"ブルース・リー最後の弟子"の歴史

――"ウルティモ・ドラゴン"の偉大さを知らない読者も少なくないんで、簡単に個人史をおさらいしましょうか?

校長 はい。お願いします(笑)。

――プロレスラーになる前にザ・ファンクスの前でバク転をやって拍手を貰ったとか、いくつかエピソードを読んだことがあります。

校長 ハハハ。ええ、小学校時代からのファンですよ。色紙持って、カメラ持って選手の泊まってるホテルをウロウロしてたという。佐山タイガーの追っかけとか。それでファンが高じて新日本の道場に、山本小鉄さんに頼んで裏口入学させてもらってね。

――新日道場に入った86年当時は闘魂三銃士や山田、船木だけでなく、のちにWCWで再会するクリス・ベノワやブライアン・アダムスまでいたんですよね? しかし新日は雇ってくれなかった。それで仕方なくメキシコ行ったんですか?

校長 いや、メキシコは最初から行きたかったんですよ。もちろん新日で若手の修行を数年やってから出るのが理想でしょうけど。その手順を踏まなかっただけであって。

――それがメヒコに入って2日後にはデビューしてたっていう伝説がありますよね。

校長 まぁ(当時メキシコ遠征していた)佐野(直喜=現・巧真)さん、畑(浩和=引退)さんの両先輩に恵まれたからですよ。だって彼らは日本でのキャリアがあった上に遠征してるでしょ? でも自分は練習生としての基礎はあっても、何も実績がなかったですから。本来ならゴミ扱いされてしかるべきだったのに、トリオ組ませていただいて同等に扱ってくれましたから。今の自分があるのは彼らのおかげですよ。UWAの事務所に寝泊りしてね。

――それから90年に栄光のユニバーサルに日本人エースとして迎えられる。凱旋帰国ってやつですね。ま、ギャラの面とか悪評もあったし、短命で終わったんですが、みちのくプロレスの母体でもあったんですよ

ね？

校長　ユニバーサルに関して自分は何も文句はないですよ。実際感謝してるし、自分を売り出してくれたわけですからね。だけど将来性がないと思ったんです（キッパリ）。

——ユニバーサルを見切った、と。

校長　というか、メジャーでやってみたいという意識が強くなった自分とギャップがあったんですよ。

——そこに怪物団体SWSが誕生した。

校長　そうですね。SWSに行けば天龍さんがトップで、自分は中堅でしかなくなるんですが、もう一度プロレスを勉強したかったんです。（移籍の理由が）単純なギャラだと誤解してる方が未だに多いんですが、当時の自分の月給は50万円なんですよ。

——え！　あのSWSで、たった50万ですか？

校長　そうですよ。そりゃ新日や全日から来られた方の高給が話題になってましたけどね。だから田中（八郎・SWS）社長から「そんな値段でいいのか？」って聞かれたくらいですから。ま、そんなこともあって、いまだに可愛がってもらってますけどね。

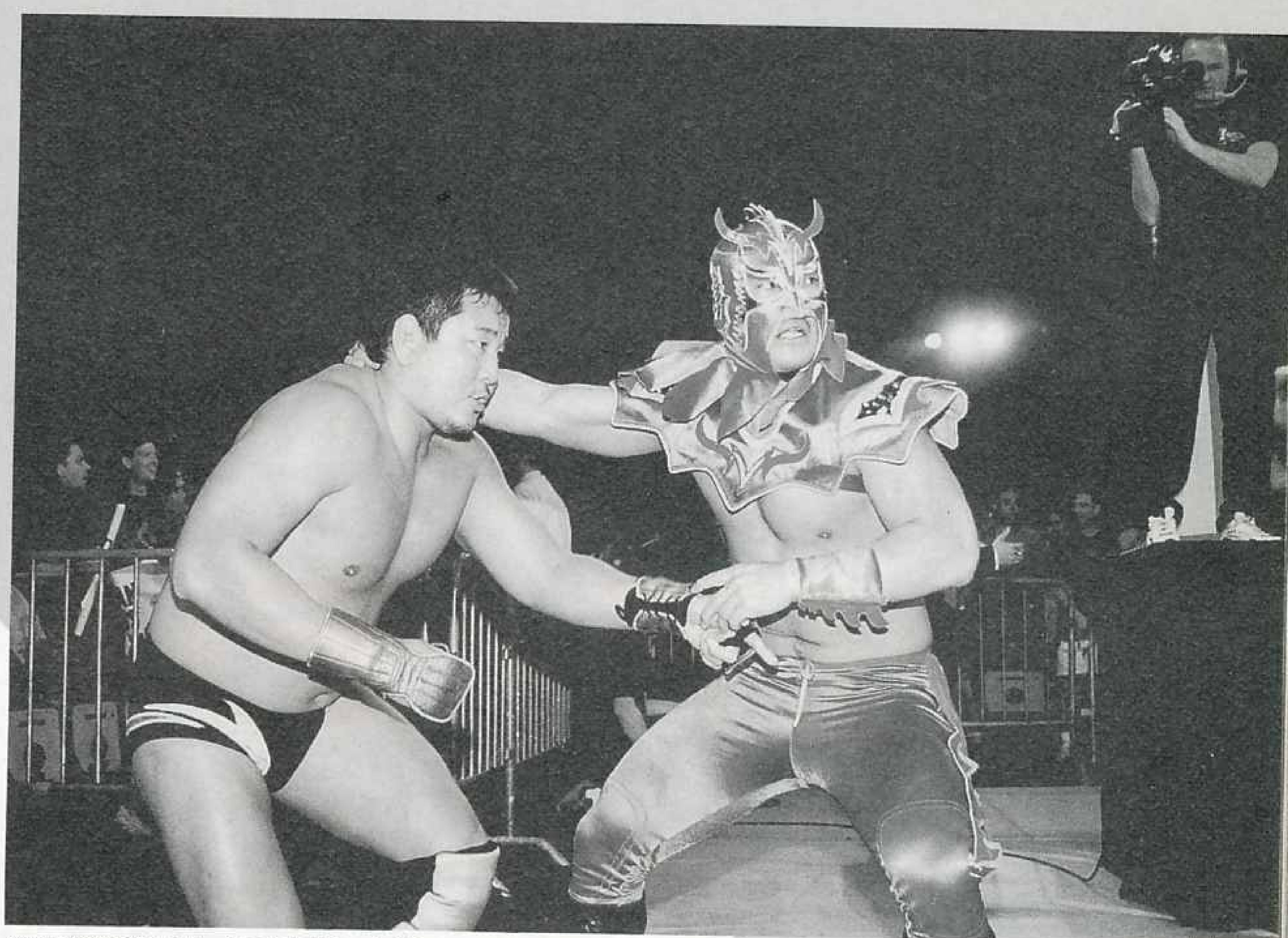
——そのSWSの「天龍部屋」がWARに発展していくわけですが、海の向こうの状況を説明すると、95年秋にWCWが『ナイトロ』を始めた。これは日本の常識では考えられないんですが、WWFの人気生中継番組『RAW』と同じ時間帯に、裏番組としてライバル団体が同じ規模のライブ興行をぶつけてきた。これはまさ「開戦！」なんです。戦争が始まったわけですよね。それと後発組として『ナイトロ』ならではの特色が、日本が世界に誇るジュニア級の試合を直輸入した点にあった。黒のリングポストから始まって、リングも日本式のに変わっていた。それまで伝統のNWA色を受け継ぐWCW番組を見ていた者にとっては、そのドラスティックな変貌はとても新鮮だったんです。しかも、記念すべき第一回のオープニング・マッチが、獣神サンダー・ライガーvs故・ブライアン・ピルマンという黄金カードだったというね。

校長　まぁ自分がWCWに入ったのは96年の8月でね。ちょうどPPVのメインイベントが、超人ホーガンvs大巨人ジャイアントでしたよ。ハルクが正式に親会社のTBS[注1]と契約して、ケビン・ナッシュやスコット・ホールと最初のNWOが出来たばっかりの頃で。だからアウトサイダーズの派閥にのちに入ることになるシックス（ショーン・ウォルトマン＝現・Xパック）は契約してなくて、楽屋でまだウロウロしてましたから。

——新日の黄金時代の成功フォーミュラが、タイガーマスクの試合から始まって、それで藤波さん、最後は猪木さんがトリというのがありましたよね？　『ナイトロ』の場合は、クリス・ベノワ、エディー・ゲレロ、ディーン・マレンコという日本マット経験者たちに、本物の日本人だけどメヒコ経由の華麗なるマスクマン"最後の龍"が加わって、二時間番組の最初のハイライトが光り輝いていた。だからトリのNWOに繋がったんですよ。実際この時期が、WCWが視聴率でWWFに勝っていた時期とピタリと重なるんです。

校長　そうそう、クルーザー級ですね。自分もベルトを巻かして貰ったばかりか、日本でのJ-Crownの八冠王座と合わせて、十冠王者[注2]になりましたからね。

——今、六冠王者の武藤が今年のMVPでしょうけど、あの十冠王者ってのはあとにも先にも校長だけでしょう。凄いことですよ！　プロレスの盛んな北米、メヒコ、日本という三大テリトリーを完全制覇して、文字通りに世界のファンから認められましたからね。こんな記録は空前絶後ですよ！　メジャーリーグ野球界でイチローの活躍は凄いことですけど、先駆者の野茂投手の方が偉いと思うんです。米国に住んでいた自分にとっては、その野茂よりも嬉しかったのが校長の活躍なんですよ。月曜のプライムタイムに毎週でてきたわけですからね。そんな選ばれた日本人なんか、スポーツやエンタテインメントに限らず、どのジャンルだって他にいませんよ！



WWFを視聴率で上回った90年代後半、全盛期のWCWでスーパースターの座についたウルティモ・ドラゴン。永田裕志もアメリカ修行時代、ウルティモ・ドラゴンの胸を借りていたのだ。

校長　ありがとうございます（笑）。

——それに校長の場合は、ヘビー級である英国紳士のスティーブン・リーガルとも素晴らしい試合をやりましたよね？　タイプやサイズが違う選手とも名勝負がやれてしまう。あれで北米での評価は確定したんです。業界関係者から絶対の支持を表明されましたからね。これは財産なんですよ！

校長　ええ、ありがたいことです。それで闘龍門の新人たちも、TVマッチ用の前座で使ってくれるようになりましたからね。

——ところが悲劇が勃発。痛めていたヒジの手術に失敗して、選手生命を絶たれてしまうんですね。

校長　（『ナイトロ』の舞台でやった）98年7月の、マグナムTOKYOとの師弟対決が最後になってしまうなんて、そりゃ自分にだってわかりませんでした。あの試合の二日後に、WCWが指名した医者によりアトランタで執刀したんです。

新日本プロレス論と大人のファン層

——闘龍門は、まずプロレスファンですらないというか、完全な初心者がたくさんいるし、半数以上占める会場もある女性客から応援されている。画期的なことだと思うんです。それでいて、新日から格闘技まで、全部を見ている超マニア組からも絶大に支持されている。ある意味では理想のコンビネーションなんですよ。それに比べて新日本プロレスさんの問題点は、自称プロレスマニアの中間層ばかりに目がいってる。一般大衆層の取り込みと、その反対側の大人

セカンド土井



5期生。現在、右足十字靱帯損傷により欠場中であるが、森kenとともに、T2Pの中では最もデビューがはやい。T2Pの名2番バッターを目指す。得意技はMVP、ゴールデングラブ。どんな技かは各自調査。

森Ken太郎



5期生。T2Pベビーフェースのトップ。おとぎ話に出てくる王子様のような存在。T2P逆上陸に先がけて、9月にはみちのくプロレスの巡業にも参加した。1月には日本でも鉄柱越えプランチャが見られるか？

メキシコで修行中のT2Pメンバー紹介

現在、闘龍門メキシコ道場は練習生を含めると25名の大所帯。新しいまだ見ぬ才能はこれからも次々と出てくるだろう。ここではインタビューした選手を除く全選手を紹介。1月23日のT2P第2弾までに予習しておこう。



の愛好者の基盤が揺らいでいるように思うんですよ。

校長　う〜ん。でも東京ドームに5万人とか入れるんですよ。今日の取材は『紙のプロレス』さんですから、マニア層が対象だと思うんですけど。でもねぇ、日本のプロレスっていうはイコール新日本なんですよ。だから地方に行くとね、「闘龍門って何？」が現状ですよ。やっぱり自民党なんですよ。ＮＨＫなんですよ。だから否定するのはどうかなぁ。あくまで新日本さんというメジャーがあって、それで闘龍門がいるんですよ。

——ああ、もちろん闘龍門は小回りのきくインディーですからね。単純比較したらアカンでしょうけど。

校長　ただ、今のアメリカみたいにＷＷＦの一党支配は駄目ですけどね。競争がなくなっちゃうから。名前だけＷＣＷとかＥＣＷを復活させても、ファンはわかってますからねぇ。馬場と猪木がいたから面白いんですよ。交流しない方がイイんです。対決カードを見ちゃったら、そこで興味が終わっちゃいますからね。だから馬場vs猪木戦は実現しなくて正解だったんです。

——それじゃ闘龍門に関しては、鎖国とまでは言わないけど、そんなに他団体と積極的に交流する方向ではないと。あの夢のＪ-ＣＵＰも予定はないとわけですか？

校長　闘龍門はパッケージで売ってますからね。Ｊ-ＣＵＰにしても企画に無理があった（キッパリ）。

——否定しちゃいますか！

校長　だって得をしたのは誰ですか？（今でも名前が覚えられているのは）ライガーとサスケと僕だけじゃないですか。あとの参加者はみんな損している。でも今は自分は裏方なんで、若い選手に光を当てたいんですよ。この三人の時代は長すぎました。

——ええっ!?　ご自分で長すぎると思うんですか？

校長　ええ。だってトップに居座ること十年ですよ。僕らだけで商売はできないですから。対抗勢力がでてこないと。サスケのみちのくプロレスだって次の選手が育ってない。（四代目）タイガーマスクは素晴らしい選手ですけど、一歩先に踏み出せなくて、くすぶってる印象がある。ライガーだって、田中みのるだ、成瀬だって外部から呼んできて、今まだ募集中なんでしょうが、もう遅いんですよ（キッパリ）。自分の団体で育ててきてないし。まぁそれだけライガー、サスケは偉大だったという解釈もあるんですけどね。

——校長のＷＣＷ時代、唯一、日本に帰ってきて魅せてくれた試合が東京ドームでの大谷晋二郎戦で、あれはその日のベストマッチでしたけど、その大谷選手はジュニアからも新日からもでちゃいましたね。

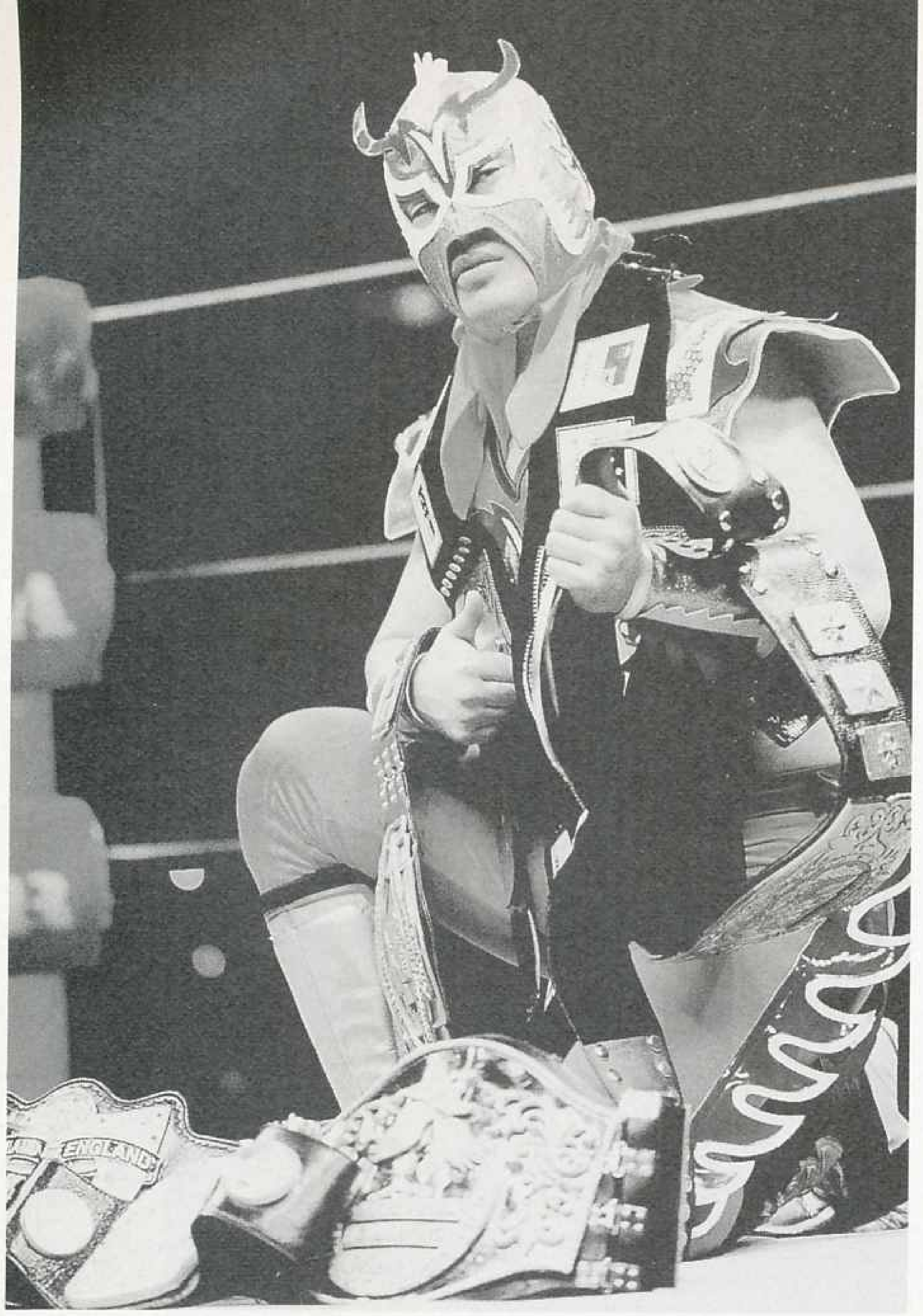
校長　ライガーを越せる人材がいなかった、と。それに会社としては金本タイガーに期待したんでしょうが、本人のマスクマンに関する考えとズレがあったりね。

——話を新日の危機に戻したいんですけど、パンクラスの持田コミッショナーっていますよね？　タイトルマッチ宣言を読み上げて、王者にベルト巻いてあげる役の方ですけど、あのオッサン、いつも闘龍門の会場に来てるんですよ（笑）。というか、一部の大人向きのネット掲示板でもこの傾向は顕著で、今年ホットな団体ということで、「格闘技見るならパンクラス、プロレス見るなら闘龍門」という、両方の会場で見かける組が結構いるんですよ。

校長　ああ、持田さん知ってますよ。それはねぇ、あっちは格闘技を追求してるじゃないですか。それでウチは、エンタテインメント的なプロレスを追及している。ところが新日本さんは中途半端、だから面白くない、と。

——それですよ。みんなブーブー文句言ってるんですよ。

校長　武藤さんも蝶野さんも、個人としてやりたいプロレスはあると思うんです。だ



96年10月にサスケを破り、ジュニア８冠王座を奪取したウルティモは、ホームリングのＷＡＲだけでなく、アメリカWCW、さらには夢ファクのリングでも防衛戦を敢行。まさに世界を股にかけた王者だった。

注釈1　TBSはターナー・ブロードキャスティングの略で、日本の同名局とは無関係。創業者のテッド・ターナーとプロレス中継の歴史は切っても切れない関係にあり、傘下のCNNを軸とした報道重視色と並んで、初期の企業体としての躍進の一端はジョージア州のプロレス中継から始まっている。インターネットのAOLとの合併を機会に事実上引退しており、そのことがWCWの崩壊に繋がったのは有名だ。

注釈2　十冠王者　世界のジュニア級の王者を統一する目的で８本のベルトを集めて開かれたのがJ-crownトーナメント。IWGPジュニア王座のグレート・サスケが96年8月6日に両国国技館で初代統一王者となった。他はＵＷＡ世界ライト、WARインターナショナルJr.、英連邦Jr、ＷＷＦ世界ライト、ＮＷＡ世界ウェルター、ＮＷＡ世界Jr、ＷＷＡ世界Jrライト。同年10月11日に大阪府立体育館でウルティモ・ドラゴンがサスケを破ったが、もともと持っていたのが権威と伝統のある方のNWA世界ミドル級王者（現在の王者はサスケ）。そこにWCWのクルーザー級王者が加わって、本当に一度に十冠の王者となったのだ。WCWで防衛戦があったときは、さすがにWWF王座はかけられなかったとか、苦しい言い訳が日本のマスコミに書かれていたが、アメリカでは誰もそんなこと気にしてなくて、ただドラゴンの「究極の世界統一」の事実だけが尊敬と賞賛を浴びた。

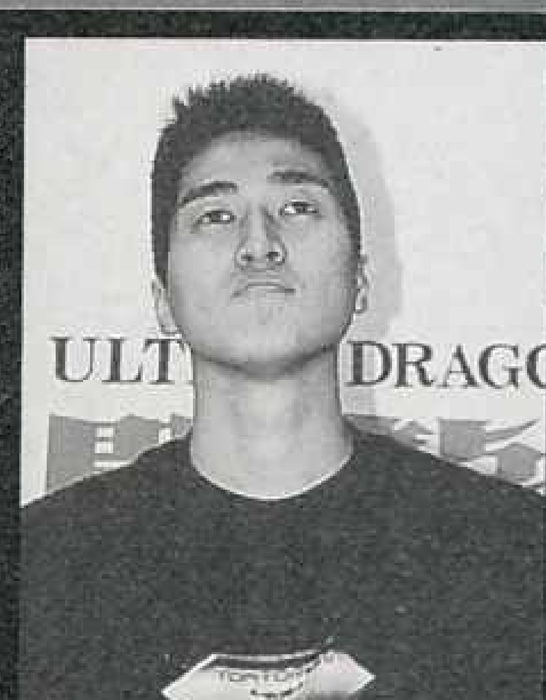
注釈3　米国のレスリング・オブザーバー紙は、選手や関係者が読むトレード・ジャーナル（業界紙）であり、実際最新号がでるたびに、ドレッシング・ルームで回し読みされている。この紙面でウルティモ・ドラゴンは常に年末の人気投票の常連なので、本人もよく知っているわけだ。もっともホーガン批判の急先鋒としても有名で、あの猪木にすらNGをつきつけてきた。そういった部分には校長は以前から懐疑的だったのだ。自分のことを誉めてくれているメディアだからといって、決して内容のすべてを肯定するわけではない。裏方の責任者として、バランス感覚が優れていることを端的に示すエピソードだと思う。ちなみに北米でシュート活字を展開する編集発行人のデイブ・メルツアーは、映画「レスリング・ウィズ・シャドウズ」や「ビヨンド・ザ・マット」にも登場。先日、選手の死亡する度に書いてきた追悼記事のみを再編集した単行本「トリビュート」が出版され、いよいよメインストリームに打って出た。ただし書かれてる内容は残酷で、「フォン・エリック家の呪い」だけを例にしても、ドラッグ絡みの事故を冷静に告発している。日本語版の出版が待たれる次第だ。

八木隆行



7期生。サブちゃんの歌に乗って、大漁旗を振りながらビニールの釣りパンツで現れる、T2P最年長の"格闘漁師"。得意技はヒレ折り固め、たこつぼ固めそしてお約束のフィッシャーマン。

福政淳也



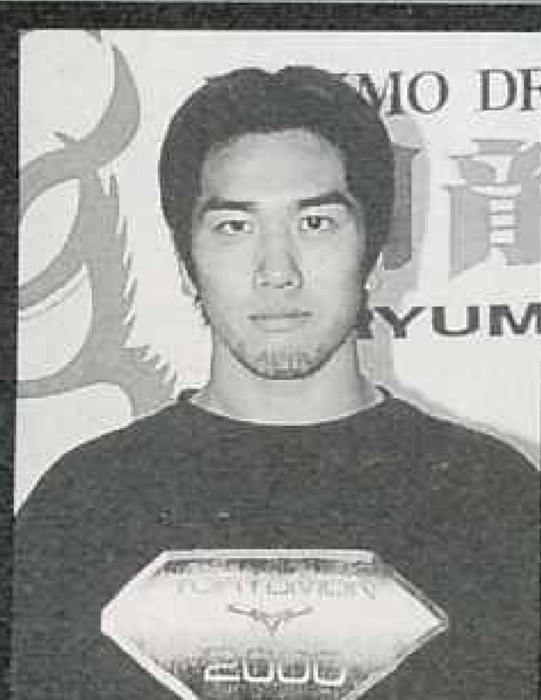
6期生。鎖骨骨折で出遅れてはしまったが、ミラノコレクションに次ぐ長身を誇るT2Pの大器。黒のショートタイツ、黒のリングシューズでストロングスタイルを信条としている。

近藤修司



8期生ながら、『ヤングドラゴン杯』で準優勝に輝いたT2Pの新生。ジャベ（関節技）を決め技とするT2Pの中で、ジャックハマーで決める異色の存在。相手をコーナーまで吹っ飛ばすタックルは必見。

小川内潤



8期生。闘龍門JAPANのシリーズにも参加して現在実戦経験を積んでいるT2Pの成長株。気迫とサムライ・スピリットがセールポイントで、得意技もサムライ・ロックと鬼風車。

選手たちを信頼して、暴走したらストップする。それが僕の役目

けどあれだけ大きな組織となると、意見が通らないこともある。それがスマートな人たちには「何やってるんだ？」と思うんでしょうね。ただね、試合のクオリティーに関しては、やっぱり新日のメインは凄いですよ。武藤さんのとかね。だけど他の試合に関しては、確かにつまらないのもありますよね。ウチは第一試合からメインと考えて、全部楽しめるように気配りしてますけどね。

偉大なるA・猪木とハルク・ホーガン

校長 もっとも、猪木さんの絡んでくるようなサイドストーリー、あれはスケールがデカ過ぎて、自分たちはマネできないですよ。ホントにケンカしてるのか、僕だってわかんないんですから。一般の大衆の興味を巻き込んでますよね。たとえば橋本さんを解雇したりとか、その解雇した人間が新日のリングに上がったり。そんなこと社会の常識では考えられないですが、それじゃウソなのかというと、実際に解雇されてるわけで、もうわけわかんない（苦笑）。

——新日本内部の人もわからないといいますからね（笑）。

校長 小川がらみだっていつも面白いでしょ。この間の秋山、永田組の（東京ドームの）メインにケチつけたネタだって、逆にあの試合に付加価値をつけたじゃないですか？ それで選手たち本人も逆に発奮して「なにクソ～」と。「俺たちが一番面白い試合をしてやるよ」と。仕掛け人としての凄さね。いや、ホントに嫌でけなしただけかもわかりませんよ。それは僕にすらわからないんですよ。ただ、そういう一連の騒動は猪木さんにしかできないですよ。あそこでケチつけたってのは。

——ふ～ん。その話は意外ですねぇ。そういえば、校長は以前からマジにホーガンを評価してましたね？

校長 猪木さんとホーガン。その二人のスーパースター[注3]あってのプロレス界ですからね。レスリング・オブザーバー紙の投票では、毎年「モスト・ヘイティド（最も嫌われ者）」がホーガンじゃないですか。でも嫌いってことは、それだけ注目されてるってことでしょ？ その二人が頂点なんだから。影響力はケタ違いなんだし。本当に新日がつまらなかったら、東京ドームは埋まりませんよ。スマートな超マニア層の意見は参考にしてますけど、頭の中を常にニュートラルにしておくことが重要なんです。今の自分の立場はプロデューサーですから。理想と現実は一緒にならないですよ。

——じゃぁ、闘龍門をやってきて、その理想と現実が違った苦労話とかありますか？

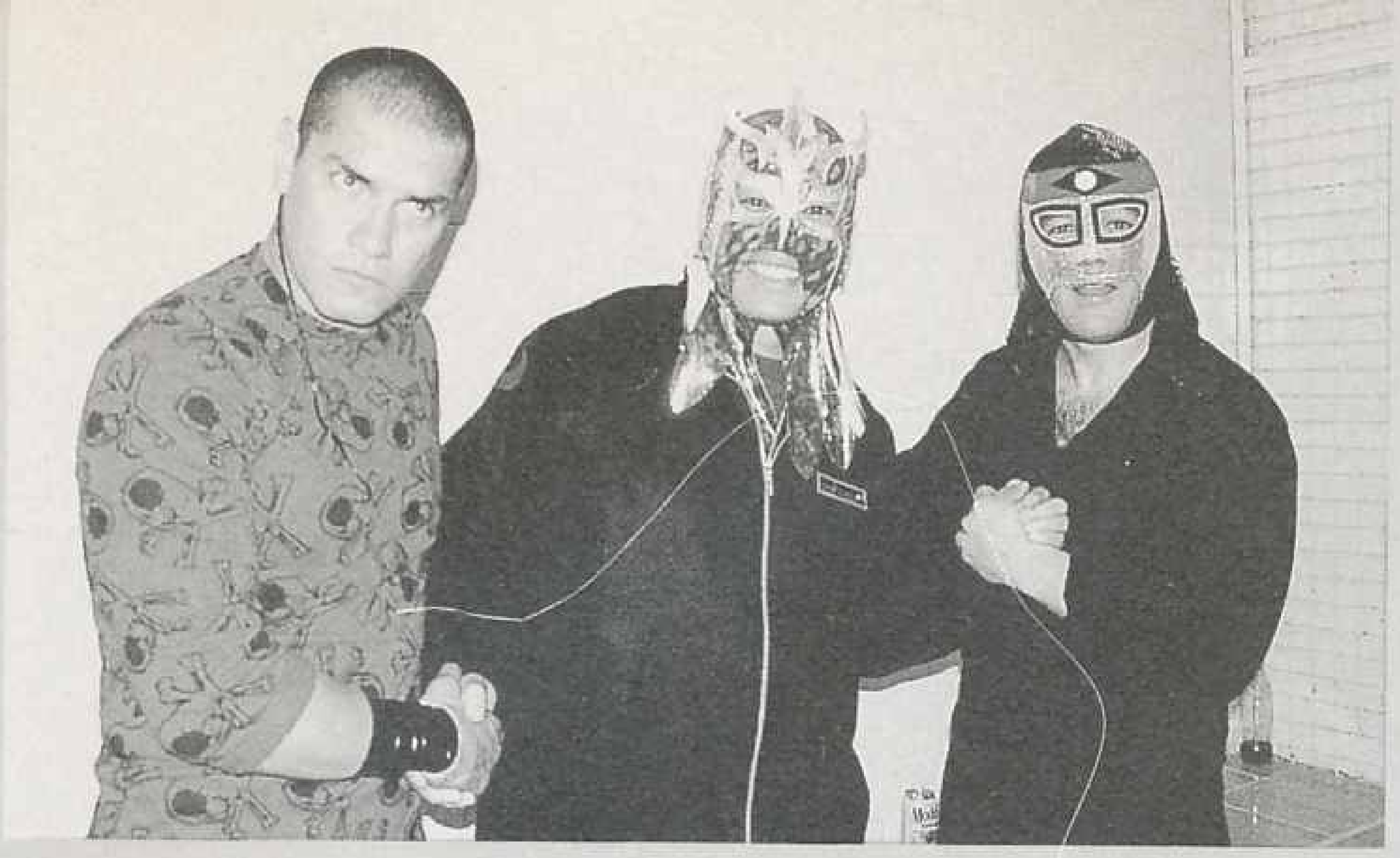
校長 選手は生身の人間ってことですかね。それぞれ考え方や感性も違うし。それをいかに把握して生かしてあげるか。操り人形だったら駄目なんですよ。あとは選手たちを信頼して、暴走したらストップすること。それが僕の役割ですから。

——最後にメッセージをお願いしたいんですけど。

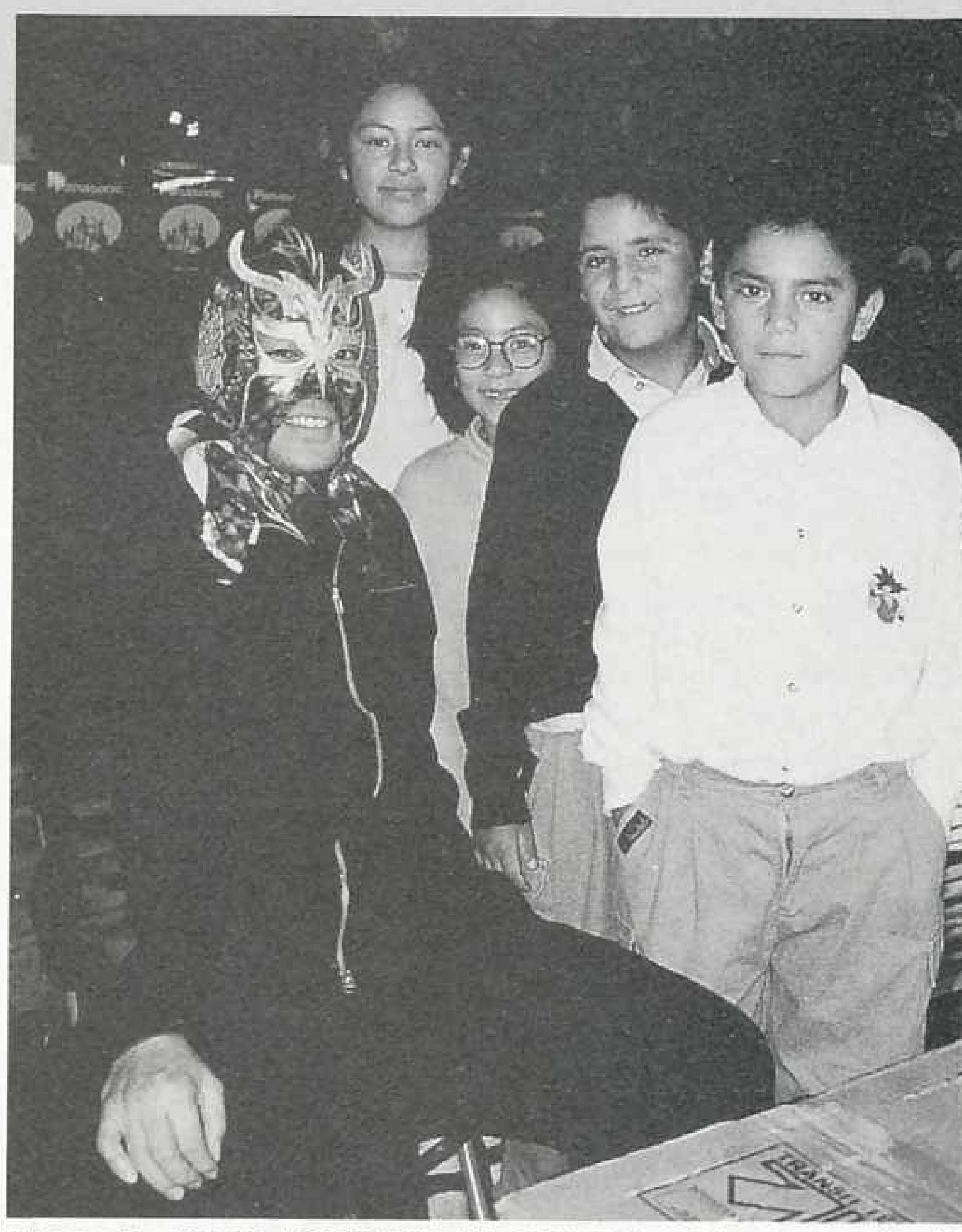
校長 常にチャレンジャーでいたいんです。いつもお客さんを驚かしていきたいし。「闘龍門はハイスパートのプロレスだ」とか、決め付けられちゃうとやっぱり反発したくなる。だから今度のT2Pではリング上だけで組み立てるプロレスをやってみせるとかね。ハーリー・レイスのクラシック・プロレスの復活ですよ。

——そのコンセプトは面白いですねぇ！

校長 闘龍門でがんばって、小さい力かも知れないけどプロレス界を盛り上げていきたいんです。共存共栄の精神ですよ。闘龍門だけが成功したって世間はまだ認めてくれないです。このプロレスという魅力の詰まった不思議なジャンル全体が繁栄しないと。自分はプロレスを一生続けていきたい。お客さんの期待は裏切りたくないですから。



今回、闘龍門メキシコ自主興行にはメヒコの超大物、オクタゴンとヘビー・メタルが参戦。こんなブッキングができるのもウルティモ・ドラゴンの名前があってのことだ。



「ウルティモ・ドラゴン」の名前はリングから離れて久しい今もメヒコではビッグネーム。会場ではメヒコのちびっ子ファンが次々とサインを求めて集まってくる。

後記

駒沢オリンピック公園大会は、CIMAがモッチーを丸坊主にして、ハッピィー・エンドの幕切れだった。とても会場が寒かったので、全員が喜んでくれた結末といえる。世界志向の超マニア層は、今年も世界最高のプロモーションは闘龍門だったと答えるだろう。もっとも問題はリング内外で山積みだ。万事が順調なわけではなく、むしろ難問が続出中なのが若いインディー団体の宿命でもある。

【11月8日／東京ドームホテルにて収録】

ホルへ・リベラ



T2Pにルチャリブレ・クラシカを叩き込む名コーチ。様々なルチャのムーブや複雑怪奇なジャベの数々はすべてこの人直伝の技なのだ。T2Pのリングでホルへの試合も見たい！

ベルリネッタ・ボクサー



8期生。菅原と同じく12月2日の自主興行でデビューした、サーキットの音速ボクサー。名前の由来はウルティモ・ドラゴン校長のダジャレだった気がしたが忘れてしまったので、今度調べておきます。

菅原拓也



12月2日の闘龍門メキシコ自主興行でデビューしたばかりの8期生。しゃちほこマシーンズを相手にしたデビュー戦では、初戦とはとても思えない落ち着いた闘いぶりを見せた。得意技は変形バックブリーカー。

川畑憲昭



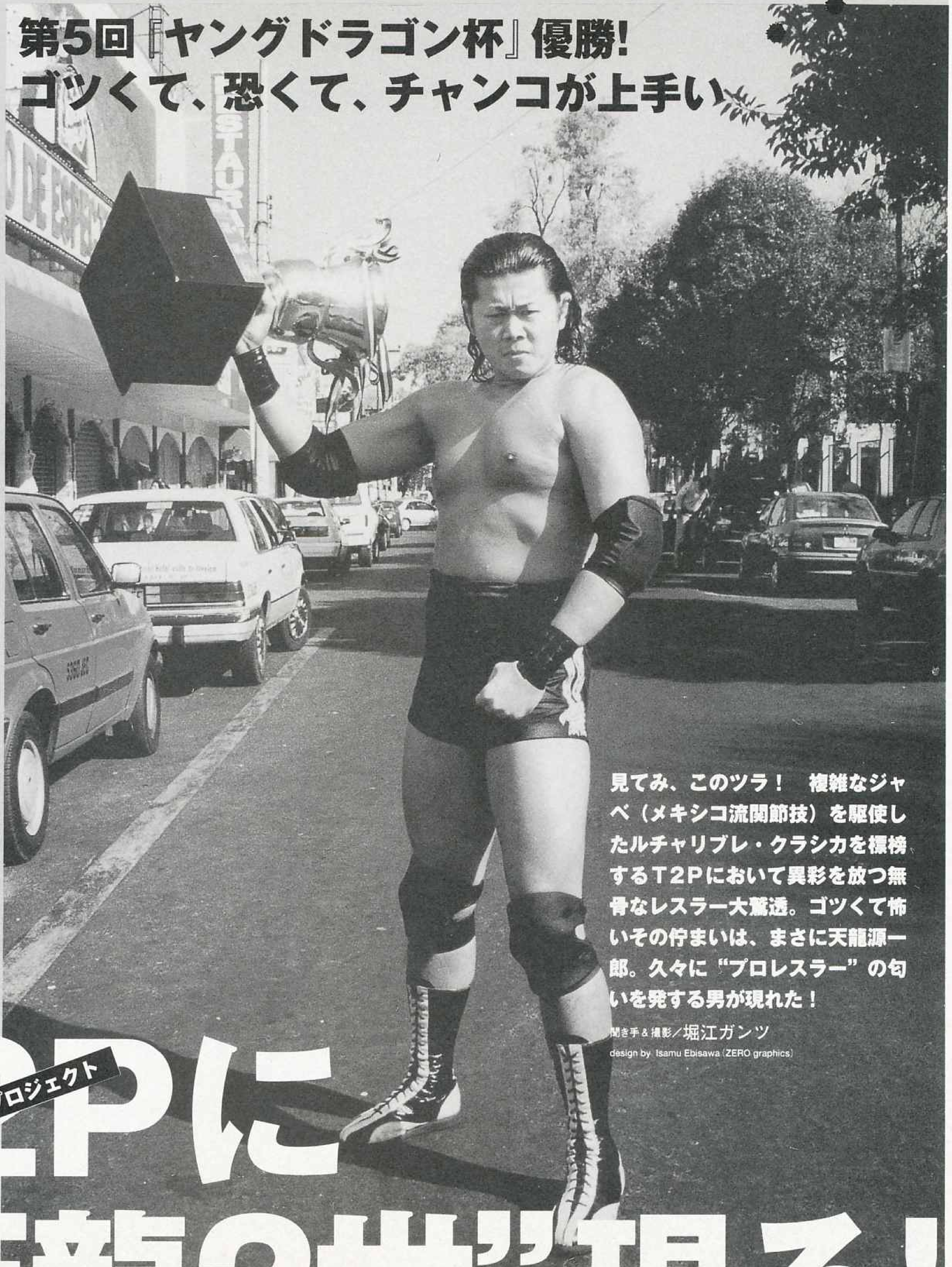
8期生。「闘龍門JAPAN営業のカワバタさん」と言った方が通りがいい、闘う営業マン。フロント業務が出来過ぎるためデビューが遅れた異色の存在。ファイトスタイルは飛びつき十字など格闘色が強い。

驚異の22ページぶち抜き!!
幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ
現地潜入
SPECIAL

ULTIMO・DRAGON GYM MEXICO

大鷲透

第5回『ヤングドラゴン杯』優勝!
ゴツくて、恐くて、チャンコが上手い



見てみ、このツラ！　複雑なジャベ（メキシコ流関節技）を駆使したルチャリブレ・クラシカを標榜するT2Pにおいて異彩を放つ無骨なレスラー大鷲透。ゴツくて怖いその佇まいは、まさに天龍源一郎。久々に“プロレスラー”の匂いを発する男が現れた！

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

闘龍門2000プロジェクト

T2Pに“天龍2世”現る!

——まずは『ヤングドラゴン杯』優勝おめでとうございます！

大鷲 ありがとうございます。

——それと昨日はちゃんこを振る舞っていただきありがとうございました（笑）。大鷲さんが作るチャンコはメチャクチャうまいですね！

大鷲 チャンコは若松部屋で6年やってましたからね、自然にですよ（笑）。

——あれはメヒコで味わえる味じゃないですよ！ 望月さんも「あのチャンコの味はM2Kに引き抜きたい」って言ってましたから（笑）。

大鷲 ハハハハ、でも今回は自主興行があってお客さんがいろいろ来るから僕が作りましたけど、普段は練習生が作ってますからね。

——昨日はスペシャルメニューだったわけですね（笑）。

大鷲 やっぱり、メヒコだと作るものが限られちゃうんですよ。だから普段はほとんど、野菜炒めとか……、野菜炒めとか……、野菜炒めとか（笑）。

——終わりなき野菜炒め（笑）。

大鷲 だからたまーにカレーなんかやった日にはお祭り騒ぎですね（笑）。

——では、そんなわけで今日はT2Pのチャンコ番長、大鷲選手の素顔を探っていきたいと思いますのでよろしくお願いします（笑）。先ほど若松部屋にいたと言ってましたけど、いつから相撲の世界には入ったんですか？

大鷲 17の時ですね。それまで中学からずっと柔道をやってたんですけど、椎間板ヘルニアになったり膝の靱帯を切ったりして部活を高校2年の時に辞めたんですよ。それと同時に高校も柔道で入ったんで、行ってる意味がなくなってやめたんです。そうしたら何故か不思議なことに椎間板ヘルニアが治ったんですよ。しかも1週間後に。

——そんなに早く！

大鷲 病院の先生もびっくりしまして。それで、治ったというか痛みが消えたんで、もう一度何かに挑戦しようと。それでまず、相撲をやろうと思ったんですよ。やっぱり親父が相撲取りであるし、相撲やらないと絶対後悔すると思って。で、相撲入ったんですけど、やっぱりここでもケガに泣かされて。入って2年目に右膝の十字靱帯断絶したんですよ。

——今度は靱帯断絶ですか！

大鷲 ええ。常に入退院を繰り返して何回も手術したんですよ。でも、もう相撲が半分怖くなったんですよね。自分が攻める気でいても、身体が怖くなっちゃってダメだったんです。それで3年近く入退院しながらやってたんですけど、引退したんです。それからウチがちゃんこ屋なんで実家へ帰ったんですけど、親父に「じゃあ、ここに修行に行け」って言われて、親父が昔世話になった有名な日本料理屋で修行することになったんです。

——家を継ぐ前に外で修行するわけですね。

大鷲 で、そこで入社式があったんですよ。そしたらそこで、この店に入った理由と、将来の希望をみんなの前で1人ずつ言うようなのがあって。みんな「華板になりたい」とか「この店は名前のある店だからここで修行して立派な板前になりたい」とか、言ってってたんですよ。でも、自分の前の人のところ辺きた時、「あれ、オレなんでここに来たんだろう？」と思って（笑）。

——順番のギリギリで（笑）。

大鷲 そして思わず言った言葉が「人に夢を与える仕事がしたい」なんです。その時初めて「ああ、そうかオレはレスラーになりたいんだ」と気づいたんですよ。

——日本料理屋の入社式で気づきましたか（笑）。

大鷲 それに気づいてしまったんで、入社式直後に「スンマセン、辞めさせて下さい」って言って。まあ、「ふざけるな！」って言われちゃったんですけど（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。

大鷲 それで「親父に言っとけ！」って言われたんで、殺されるのを覚悟で帰って「プロレスやりたい」って親父に言ったんです。そうしたら「勝手にしろ」って言ってくれて。じゃ、もう勝手にしようと。それですぐにアニマル浜口さんのジムに通い始めて。そん時に、闘龍門の募集見つけたんです。

——運命的なものを感じますね。それにしても、相撲からルチャっていうのも凄いですよね（笑）。

大鷲 いや、最初は飛べるヘビー級を目指して、一時期プロレス入る頃80キロ位まで絞ったんですよ。ところが道場に入ったらまたドンドンドンドン増えてきちゃって、なんか今、96キロ超えちゃったんです（笑）。

——みんななかなかメヒコじゃ太れないっていうのに（笑）。

大鷲 みんな悩んでるのに、僕は何も考えずに太ってしまって（笑）。

——じゃあ、メヒコの水ってのが合っているんですかね。

大鷲 そうですねぇ。どちらかというと合ってるんじゃないですかね。それとメヒコもそうなんですけど、プロレス入ってからこれといったケガもないんで、なんか自分合ってるなぁと。やっと自分のやりたいことが見つけられたって気がしますね。今まで挫折し続けてきて、やっとなんか今自分の進む道というか、自分の夢が見えてきたんで。

——なるほど。いまの大鷲選手のリング上での恐ろしい姿を見たら、挫折し続けてきた人にはとうてい見えませんけどね（笑）。デビューしたときから、いまみたいな怖さを全面に出すスタイルだったんですか？

大鷲 いや、最初本名の伊藤透でやってたときは普通の選手だったんですけど、「大鷲」になった瞬間、悪党に変わりました（笑）。

——変身願望があったりしたんですか？

大鷲 いや、やっぱり自分をアピールするポイントは、T2Pの中では大きさが一番だと思ったんで、それをさらに魅せるには、悪党になって怖さを全面に出そうと。そう思ったんですよ。

——大鷲選手のスタイルはプロレスラー的という感じはありますけど、闘龍門の中では実はいなかったタイプですよね。

大鷲 だから僕はT2Pですけど、関節技を使わないんです。フィニッシュに使っている「千秋楽固め」。あれ一個で十分なんです。僕はそんな細かい技を使わなくて勝

本名のときは普通の選手だったんですけど、「大鷲」にしたとたん、悪党に変わりました（笑）



これが大鷲のオリジナルジャベ「千秋楽固め」。体中を極められる、まさに拷問のような技だ。



マグナム、ミラコレらを輩出した『ヤングドラゴン杯』で見事優勝。これからトップ戦線に食い込むのは確実だ。

『ヤングドラゴン杯』歴代優勝者

第1回	マグナムTOKYO
第2回	堀口元気
第3回	神田裕之
第4回	ミラノコレクションAT
第5回	大鷲透

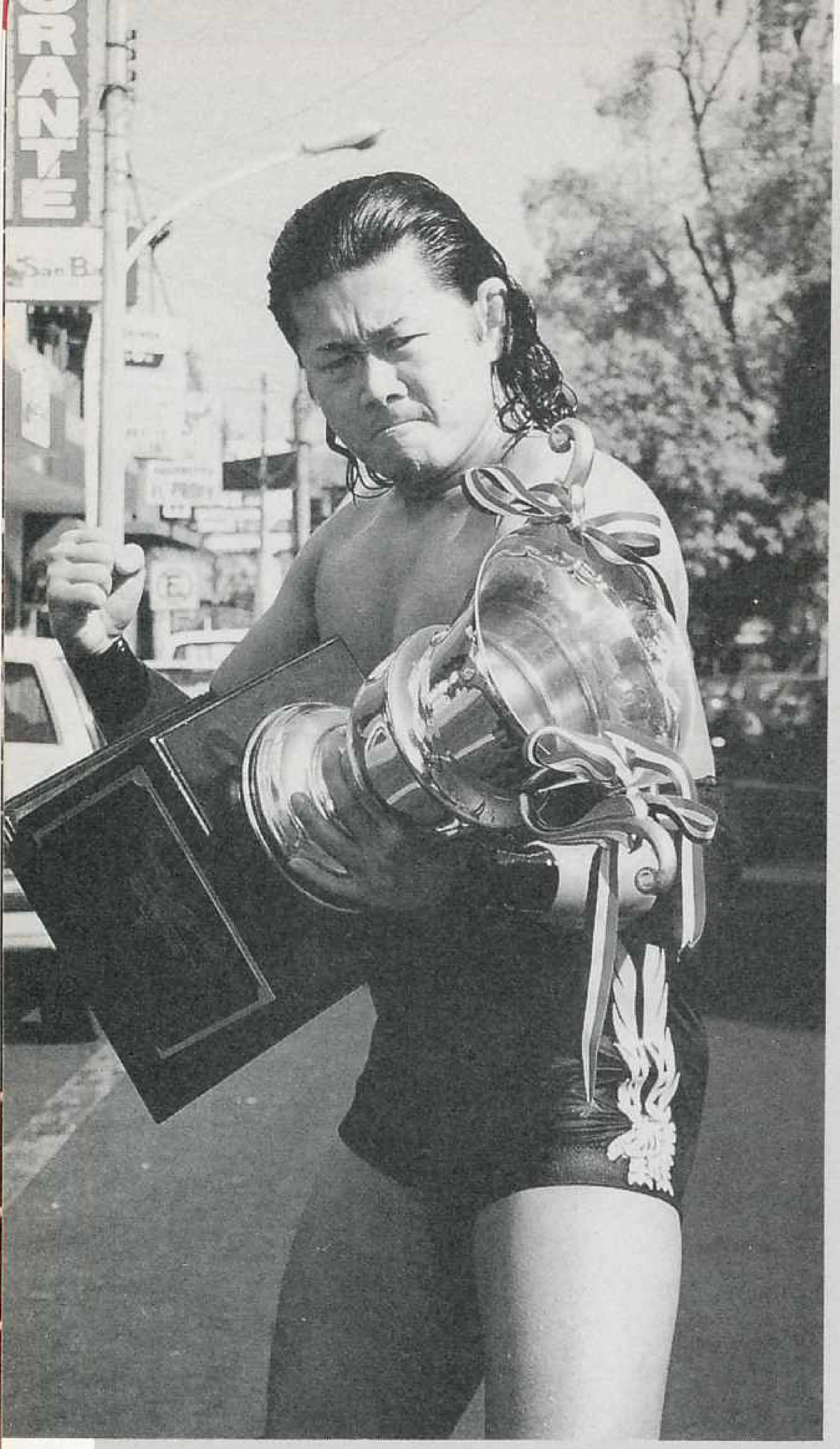
てる自信があるんで、あえて使わないんで

ソックリでしたよ。

すよ（笑）。

大鷲 なんて言うんですかね、日本でもあ

——前途に暗雲が立ちこめたと（笑）。



【おおわし・とおる】本名・伊藤透。1975年12月24日、長野県佐久市出身。大相撲若松部屋出身（四股名は朝鷲）。Ｔ２Ｐの中にありながら、パワーと怖さを全面に出したファイトスタイルで異彩を放つ。闘龍門一の大型ファイター。185cm、96kg。

今まで何をやっても中途半端だった
今度こそ納得できるまでやりたい

てる自信があるんで、あえて使わないんですよ。

——大鷲選手は試合スタイルもそうですけど、リングシューズに黄色いラインが入っていたりするところを見ると、やはり天龍選手を意識しているんですか？

大鷲　意識してるというより、子供の頃から天龍さんに憧れてたんですよ。実は天龍さんのことは昔からよく知ってるんです。

——どういうことですか？

大鷲　自分の父親が、相撲の時、天龍さんとは仲が良かったんですよ。それで僕がちっちゃい頃からよく家に遊びにきてくれて。「おじさん」と言ったらなんですけど、ずっと面倒見てもらって、子供の頃から「ああ、かっこいいなぁ」って凄い憧れていたんです。

——そうだったんですか。

大鷲　だからプロレスラーとして、天龍さんに一歩でも近づくのが目標ですね。

——昨日出した延髄切りなんか天龍さんにソックリでしたよ。

大鷲　あれ昨日初公開なんですよ。『ヤングドラゴン杯』の切り札として、暖めておいたいですけど、ハイ（笑）。延髄斬りも出せたし、優勝もしたんで、昨日の試合は自分としたら大満足でしたね。

——お客さんの反応もよかったですよね。もう大鷲選手に凄いブーイングで（笑）。

大鷲　最近、お客さんに嫌われるのがもう快感になってきましたね（笑）。

——メキシコのお客さんは熱くていいですよね（笑）。

大鷲　場外に落ちたら熱くなったお客さんにバチバチ殴られたりしますからね。この間なんかも場外で誰が叩いてるのかと思って見たら、ヨボヨボのおばあちゃんがバチバチ背中叩いてるんですよ（笑）。

——真剣な顔して（笑）。

大鷲　ビールかけられたりするのなんかしょっちゅうですからね。あとは、ある時トマトを凄い数ぶつけられたことがあるんですよ（笑）。

——トマト！（笑）。

大鷲　トマトの時は危なかったですね。試合後なんか痒くて痒くて（笑）。

——なんでトマトなんて持ってるですか⁉

大鷲　市場とかで試合するんですよ（笑）。

——いろんなトコで試合するんですね（笑）。

大鷲　市場でやったり、ホントにお祭りとかの会場とかですね。メキシコに来て1年2ヶ月間位なんですけど、80～90位試合してるんで、凄いいろんな経験させてもらってます。

——こっちに入ってくる情報ってほとんど自主興行の情報しか日本じゃ入ってこないんですけど、かなりやってるんですね。

大鷲　結構やってますね。週に1～2回のペースでやってるんで。あと刑務所でやったこともありますよ。

——刑務所ですか！　それってどういう経緯なんですか？

大鷲　なんて言うんですかね、日本でもあると思うんですけど、慰問みたいな形で。最初に刑務所で試合だって聞いたとき、みんな「イヤだ！」て、かなりビビってたんですけど。

——そりゃメヒコの悪党が集まってるところですからね（笑）。

大鷲　そうですよ。選りすぐりの悪党が集まってるところで試合をするんですからね。熱くなったお客さんがそれこそ（笑）。でも、意外と行ってみたらすごく歓迎の意を表してくれて。試合もすごい声援が飛ぶし、ヒールでも罵声を飛ばしてくれるんで、すごいやりやすくて、もうイイ会場でしたよ。終わってみたら「また来たい」くらいの（笑）。ホント面白かったですよ。

——日本では体験できないことがたくさんありそうですね。

大鷲　そうですね。メキシコはホントその辺の道路の交差点だとかにリングがありますからね。

——メキシコって結構ローカル・プロモーションがたくさんあるんですか？

大鷲　その地方地方にたくさんありますよ。メキシコには5千人のプロレスラーがいるって言われているんで、もう、いたるところで毎日試合が行われているんで。多分、州でやってないところはないんじゃないですかね。毎日のようにやっている。普段は八百屋のおっちゃんやってる人が、週末はリングで試合してるんですよ（笑）。

——それはある意味底辺が広いというか（笑）。

大鷲　いや、ホント幅広いですよ。ひとことでルチャドールっていっても、いろんな人がいますからね。

——では、いままでやってきた中で、一番印象深いのはどんな会場でした？

大鷲　いろんなところでやりましたけど、ナウカルパンの体育館で今のＴ２Ｐっていう形で初めて自主興行をやったときですね。そのとき観客が36人だったんですよ。

——たった36人！

大鷲　あの時は、これからどうしていけば良いんだろう。大丈夫なのかなぁと（苦笑）。

——前途に暗雲が立ちこめたと（笑）。

大鷲　でも、それを乗り越えて、少しずつ観客も増やしていった結果が、Ｔ２Ｐ逆上陸で後楽園が一杯になったことだと思うんですよ。すべては36人のあそこがスタートだったと思いますね。

——実際に逆上陸という形で初めて日本で試合してみていかがでしたか？

大鷲　そうですね、シリーズの最終戦が凱旋興行だったんですよ。それがすごく印象ぶかいです。

——かなり盛り上がったらしいですね。

大鷲　ええ、両親がいろいろやってくれたんですよ。親に感謝したいですね。その恩をなにで返せるかといえば、プロレスで返していくしかないんで。ホントは親は家に帰ってきてちゃんこ屋継いでほしいみたいなんですけど、「納得するまでもうちょっと待ってくれよ」と言ったんです。

——ようやく実り始めたんですからね。

大鷲　そうですね。今まで何やっても中途半端なところでケガして駄目だったんで。今度こそ納得するまで頑張りたいですね。僕だけじゃなくて、いまのＴ２Ｐのメンバーって苦労人が多いんですよ。だからこその人間関係っていいと思うんですよ。いろんな境遇にあった人が集まって、みんなで夢を目指してるわけですからね。

——なるほど。では、最後に1月23日にＴ２Ｐ逆上陸の第2弾が決定しましたけど、その意気込みをお願いします。

大鷲　そうですね。まだ、どんなカードが組まれるかわからないですけど。もし変な二匹と組まれたら、あいつらだけは殺しましょう、と（笑）。

——ガハハハ、金色の二匹と組まれそうなんですか？（笑）。

大鷲　わかんないですけどね（笑）。もし組まれたら、二匹いっぺんに喉輪で叩きつけてやりますよ。

——では、逆上陸第2弾期待してます！

【01年12月3日／メキシコ・闘龍門メキシコ道場にて収録】

驚異の22ページぶち抜き!!
幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ
現地潜入
SPECIAL

ULTIMO・DRAGON GYM MEXICO

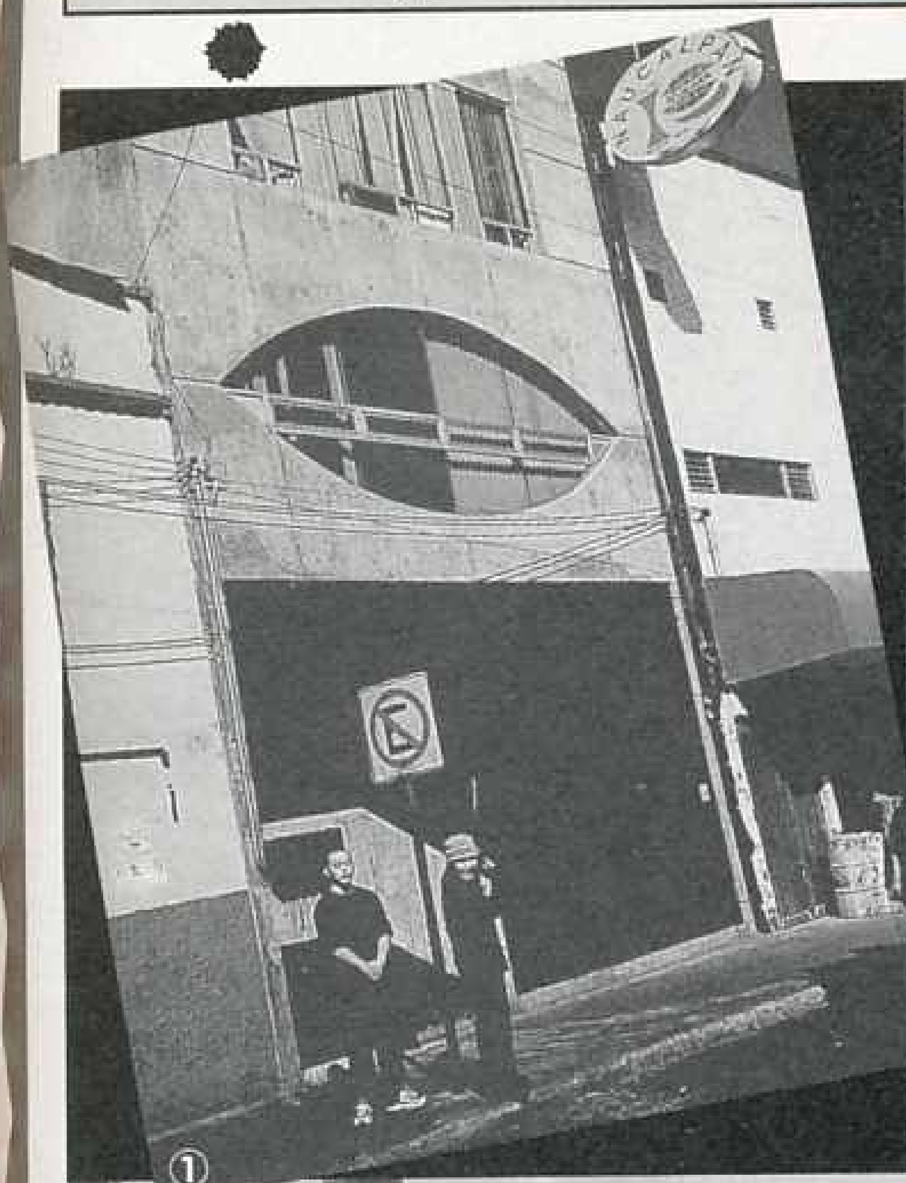
TARUシートの

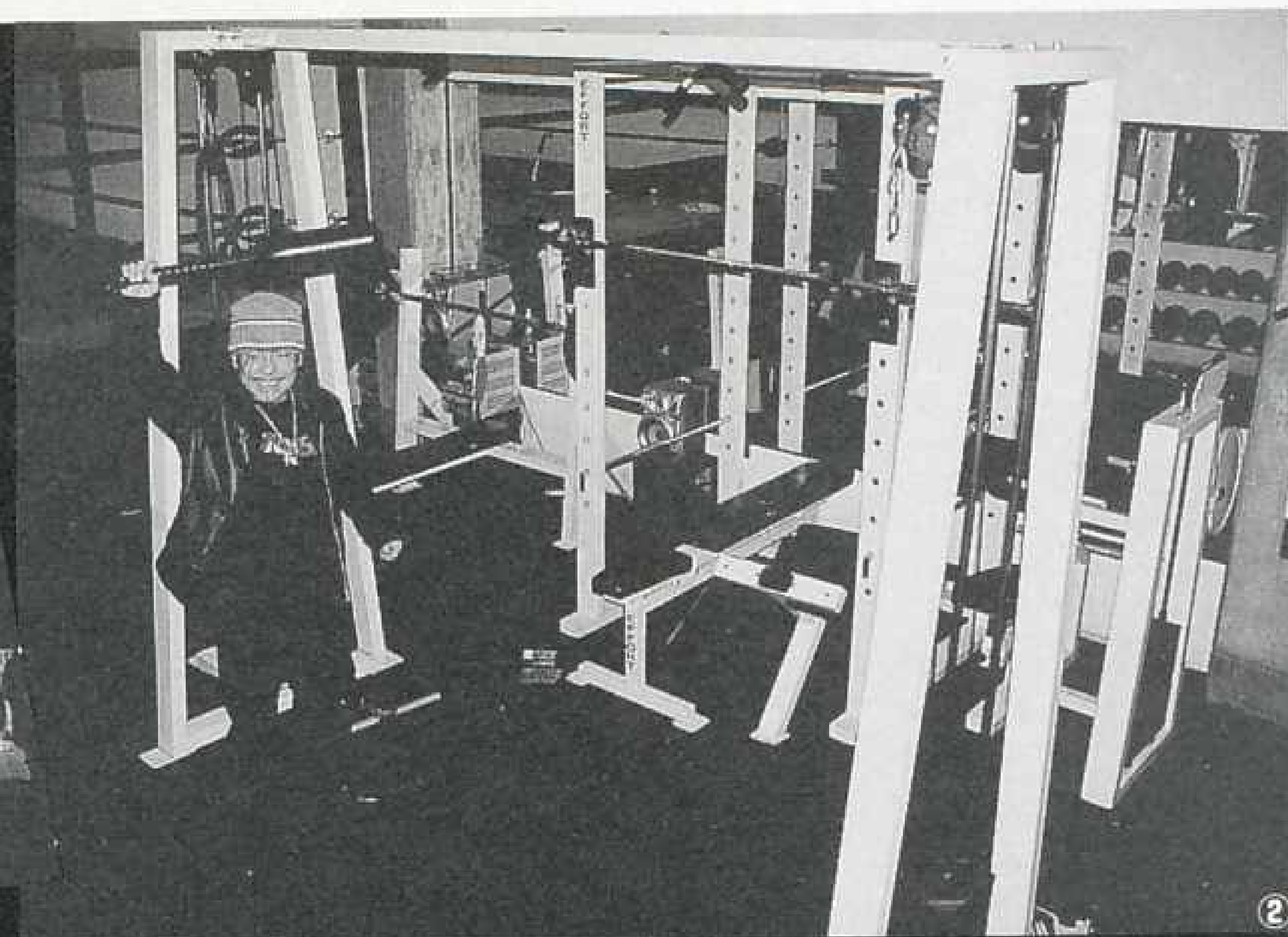
オレが闘龍門メキシコ道場案内したる

design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)



みなさん２号連続の登場となりますＴＡＲＵシートと申します。前回は私服で来てしまったんで、今回はなるたけＴＡＲＵさんに近い格好してきたわ。で、今回は『紙プロ』さんに「ゼヒ」言われたんで、俺が道場案内したる！　ほな、いくで！











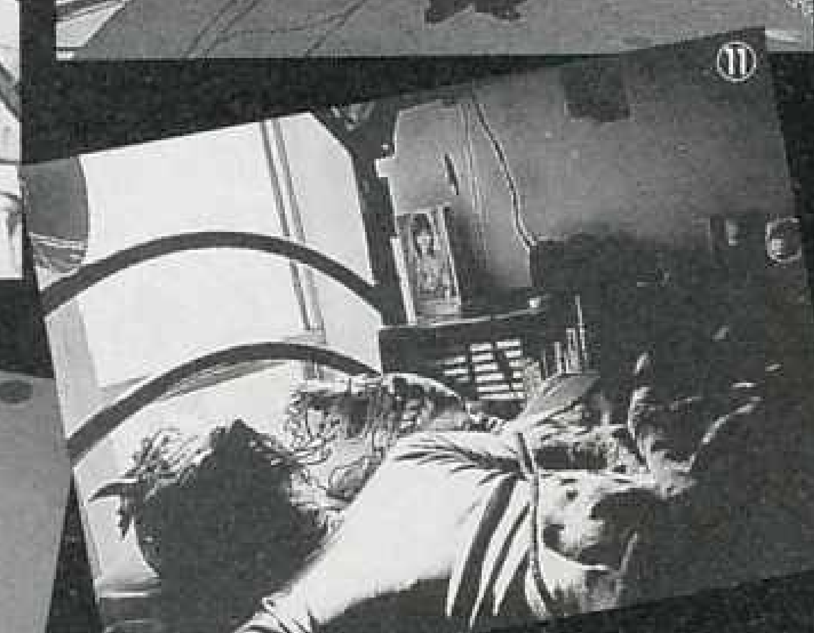
















① これがウルティモ・ドラゴン・ジムや！　どや、立派な建物やろ。　②③ 1Fはリングとウエートトレーニングジム。メヒコでこんだけの器具がそろってるところはなかなかないやろな。俺もここでのウエートトレで身体がみるみるデカく（？）なっていったんや。　④ リングでは毎日“バレトドの達人”ホリヘ・リベラにルチャリブレ・クラシカを叩き込まれているんや。もちろん壁には校長のパネル。俺らがあるのは校長のおかげです。　⑤ 2Fにはみんながチャンコ食べる食堂。俺は大メシぐらいやから、どんぶり10杯はいくけどな。おい、たろう！　お前なにしとんねん！　⑥ 食堂にはパソコンも。これで日本の情報もリアルタイムで仕入れているんや。いま使ってるのは俺らの世話をしれくれてるペオノノさん。甘いモノあげればなんでもしてくれる（？）んや。　⑦ 壁を隔てた向こうにあるのが貴重なマスクやベルトなどお宝満載の校長室。ま、普段は俺が使うとるんやけどな。　⑧ その反対側にはくつろぎスペースのリビングもあるんや。おい、練習生！　俺のビデオを見てよく研究しとけや。　⑨ キッチンでは練習生がチャンコ番やって料理するんやけど、メヒコだけに味はあまり期待できん。元お相撲さんの大鷲が作るチャンコはマジでうまいんやけど自主興行がある日しか作ってくれないんや。　⑩ 屋上にも上がれるんや。メヒコはメヒコは日差しが強いから、天然の日焼けサロンにもなる！　便利な建物や。　⑪ 3F4Fは合宿所。1ヶ月半前から９期生が入ったんで、いま合宿所は満員。しゃちほこマシーンなんか二人で一つのベッドや。　⑫ 2F3F4Fと天井吹き抜け。いつでも自然の光が射し込むようになってるんや。メチャメチャお洒落やろ。　⑬ しゃちほこマシーンズのプライベートルームを初公開！　こいつらプロレスマニアやと思うとったら、アイドルマニアでもあるんかい！

ULTIMO·DRAGON GYM MEXICO

ULTIMO·DRAGON GYM

MEXICO

メキシコに行こう そこにはプロレスがある



闘龍門メキシコ現地潜入総力特集

photo Shinya Inui

ULTIMO·DRAGON GYM MEXICO

見たぞ! 闘龍門 メキシコ自主興行

驚異の22ページぶち抜き!! 幸せ気分でコモエスタ! 闘龍門メキシコ現地潜入SPECIAL

ULTIMO DRAGON GYM MEXICO

12.2メキシコ州ナウカルパン ヒムナシオ セグロソシアル (観衆1836人)

そこにはプロレス本来の姿があった

文&写真／堀江ガンツ

design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

日本から約15時間の長いフライト。はるばるきたぜメキシコ!

飛行機の中、暇つぶしで熟読した「地球の歩きかた」によれば、メキシコシティーは都市人口としては世界最大なのだという。それを実感したのは着陸間際。飛行機の窓からシティーを見下ろすと見渡す限り辺り一面の街明かり。メキシコは街が汚い汚いと言われるが、少なくとも空から見たメキシコシティーはどこよりも美しかった。

ここが闘龍門のあるメキシコ。C-MAもマグナムTOKYOも、そしてミラノコレクションATも、みんなここで誕生したのだ。

99年1月の逆上陸以来、次々と優秀な人材を生み出す闘龍門メキシコ道場とはどんな場所なのか? それを知ることは、これからのプロレスを考える上で重要なヒントとなるかもしれない。そんな期待を胸にこの地を踏んだ。

闘龍門メキシコ道場は、メキシコシティー中心部から車で30分～2時間。もう一度書く。車で30分～2時間。

なんでこんなに誤差があるのかと言うと、時間帯、曜日によってメヒコ名物大渋滞があるからなのだ。とにかく車の数が凄い。そして運転が荒い。"路上のケンカ王"カト・クン・リーがタクシーの運ちゃんとのストリートファイトが絶えないというのも実にうなずける話なのだ。

余談だが、メキシコにはシティオという正規のタクシー以上に、リブレという流しのタクシーが大量に走っている。リブレ（自由）という響きから、何かとても楽しい乗り物のように聞こえるが、こいつが実にくせ者らしい。

以前からメヒコのタクシーは危険だとは聞いていたが、なんでもこのリブレ、一説には運転手の4分の3がピストルを携帯しており、サスケ、邪道、外道らがみんなタクシー強盗に遭って金銭を巻き上げられているというのだ。怖すぎる!

そんなわけで、割高になるホテルのタクシーで闘龍門メキシコジムに向かう。

着いたのはナウカルパンという街。メキシコシティーとは違い、歩道という歩道に屋台が溢れ、いかにも下町という趣。

そんな街のイメージとは少し異なる、コンクリートのお洒落な建物が闘龍門メキシコ道場だ。

闘龍門ジムは1Fが練習場になっており、2Fが食堂やリビング。3F4Fが合宿所になっている。

2Fに上がると、11・13後楽園で衝撃デビューをはたしたT2Pの面々が出迎えてくれた。彼らひとりひとりと挨拶したのだが、挨拶しても挨拶しても途切れることなく、次々と選手が現れてくる。一体何人の選手がいるのか?

聞くと1ヶ月半前に9期生がメキシコ入りしたため、現在は練習生を含めるとなんと総勢23人。合宿所に入りきれなくなったため、ミラノコレクションATら4選手は合宿所を出て、ペンション住まいをしているのだという。

いまやどこの団体も練習生不足の中、お金を払って「入学」するメキシコのプロレス学校にこれだけの人間が集まっているのは実に驚異的だ。これは闘龍門がどこよりもプロレスラーを目指す若者に夢を与えている証拠だろう。





これが闘龍門自主興行が行われた体育館の内観。普段はルチャには貸していないが、U・ドラゴンの名前で使うことができたという。



メインの勝者チームと『YD杯』優勝者へ、スポンサーのパナソニックからテレビとミニコンポが贈られた。



これが今大会の対戦カードつきのチラシ。みよ、このスポンサーの数! メキシコの文化を日本人がやっているということで、日本企業のメキシコ支社が応援してくれているのだという。



闘龍門のマスコットキャラクター「ウルティ」メヒコにも登場! 写真はちびっ子じゃないけど、子供に大人気だった。

闘龍門MEXCO第19回自主興行

ベルリネッタ・ボクサー 菅原拓也 1－0 しゃちほこマシーン壱号 しゃちほこマシーン弐号
◎菅原(変形背骨折り、8分12秒)壱号

第5回ヤングドラゴン杯準決勝　30分1本勝負
近藤修司(ゴリラ・クラッチ、7分40秒)小川内潤
大鷲透（千秋楽固め、6分20秒）川端憲昭

第5回ヤングドラゴン杯決勝　45分1本勝負
大鷲透（千秋楽固め、9分38秒）近藤

●3対4変則マッチ
ミラノ&吉野&ツジモト　2－0　森&大柳&八木&TARUシート
1　吉野　（11分38秒　ソルナシエンテ）八木
2　ミラノ（12分23秒　ATロック）森

オクタゴン&ヘビーメタル　2－1　望月成晃&望月享
1　ヘビー（7分22秒　ラ・マヒストラル）成晃
2　享（1分36秒　反則勝ち）ヘビー
3　オクタゴン（2分56秒　反則勝ち）享















　しかも選手のキャラクター的に公ににてはならない人もいるのだろうが、闘龍門の選手はみんなナイスガイぞろい。英語すらほとんど通じないメキシコでの取材は、スペイン語がしゃべれる彼らの協力なしではできなかった。この場を借りてお礼を言わせてもらいます。ありがとう！

　さて、この日は試合前日ということで、夜選手は会場設営へ。翌日は試合、そしてスポンサーである日本の企業の方と日本からのツアー客を招いて打ち上げがあるという。

　試合カードが印刷されたチラシをみてもわかるとおり、闘龍門はパナソニックやヤマハなど、一流企業が応援してくれている。こういう面でも日本の他の団体より遥かに進んでいるといえるだろう。

　第19回目を数える闘龍門メキシコ自主興行は、道場から徒歩3分のところにある体育館で行われた。会場はちょうど日本の横浜文化体育館のような大きさ。

　会場の外ではメヒコ名物、マスクの路上販売が2つ店を出していた。オバチャンの「マスカーラー、マスカーラー」の声に誘われ早速覗いてみる。マスクはいま人気のAAAの選手が中心かと思いきや、マスカラス、ドスカラス、カネックら日本でもお馴染みのルチャドールたちのマスクが以外に多い。

　マスクの出来自体は布の質感こそ本物マスクに劣るが、作りは思ったよりもいい。これで50ペソ。600円弱。バカバカしいくらい安い。値切ればもっと安くなりそうだ。ちなみにフィギュアは30ペソだ。メヒコのちびっ子ファンはここでマスクを買ってもらい（子供用ミニマスクはさらに安い）、被って応援する。フィギュアを友達同士で闘わせたりするのは日本と同じだ。

　事実、会場には次々と子供のファンが集まってきた。彼らはルチャドールがリングを降りるたびに近づきサインをもらう。そして休憩時間は開場の隅でみんなでプロレスごっこをするのだ。そこには、日本では失われてしまった、プロレス会場の風景が確かにあった。

　会場に入るとリングサイドは日本からのツアー客と、現地の日本企業の方々が中心。スタンド席は地元のお客さんという感じで自然と色分けされていた。

　T2Pの面々は普段は、毎週末メヒコの地方興行に出場している選手ばかりなので、客を煽る姿も実に堂に入っている。むしろ日本逆上陸の方がよそ行きファイトで、メヒコでの試合の方が生き生きしているように見えるくらいだ。

　今回組まれたカードは6試合。噂の「しゃちほこマシーンズ」のデビュー戦、『ヤングドラゴン杯』決勝、ミラノコレクション、吉野正人、ブラザー・ツジモトのトリオ結成。そしてメインは望月成晃、望月享のM2Kがメヒコのスペル・エストレージャであるオクタゴン＆ヘビーメタルと対戦するという、日本のファン注目の豪華版。

　場所はメヒコながら、やっていることは日本と同じルチャリブレ・クラシカを披露。もちろんテーマ曲も日本で使用しているものと同じものを使っているため、大柳錦也の入場では「宇宙戦艦ヤマト」のテーマが高らかに鳴り響き、しゃちほこマシーンの入場では「燃えよドラゴンズ」がこだました。

　この日、特に動きの良さが目立ったのは、ミラノコレクションAT、吉野正人、スティービー"ブラザー"ツジモトのトリオ。特にミラノは11・13後楽園ではジャベ（関節技）にこだわった闘いだったのに対し、この日は長い手足を使ったダイナミックな動きの中で要所要所をジャベで締めるという、メリハリのある素晴らしい闘いぶり。T2P逆上陸第2弾興行となる1・23後楽園では、このトリオでの登場が予定されており、T2Pの面白さをさらに見せつけてくれるだろう。

　一番面白かったのはやはりメインイベント。M2Kが完全にルードに徹し、オクタゴン、ヘビーメタルは完全なリンピオ（ベビーフェース）。

　1本目はモッチーがヘビーメタルのラ・マヒストラルで丸め込まれ、2本目は享が急所を蹴られたと主張（ホントはちっとも蹴られてない）したのが認められ反則勝ち。3本目は逆に享がレフェリーのブラインドを付いて急所を蹴り上げて3カウントを奪うという見事な決まり手。もちろん場内はヤバイくらいの大ブーイング。すると享の反則がなぜかバレてしまい、判定が覆りメキシコ側の判定勝ちに。このあまりにもど真ん中な「正義は勝つ」的な結末に場内は大歓声。いや〜、いい加減で実にいい！　完全決着なんかじゃなくても、観客は楽しめるのだ。プロレスはこういう判定を許容できるからこそ、おもしろいという事実を思い出させてくれる試合だった。

　プロレスはもっと自由でいいはずだ。自由なる闘い、ルチャ・リブレ。プロレス本来の姿がそこにあった。

①これがしゃちほこマシーンズのオリジナル合体殺法「しゃちほこクラッチ」。まず壱号（もしかしたら弐号）が相手にコルバタを仕掛け、ホイップせずにおんぶスリーパーの体勢に入る。その体勢のまま一気に外道クラッチに捕らえて、そこに弐号（もしかしたら壱号）がジャックナイフを決めて完成。ま、実際に見なけりゃわかないだろうから、1・23後楽園での日本デビューをお楽しみに。　②ミラノ＆吉野＆ブラザーの相手を努めたのはこの4人。3vs3.5のハンディキャップマッチだったのだ。ミラノと大柳錦也の夢の（？）対決もちゃっかり実現。日本でもいつか見れるか？　③M2Kはメヒコでも大ルード。この日は、メキシコでの経験が豊富な享がチームリーダーとなって引っ張り、モッチーがサポートにまわるという、貴重な試合が見られた。　④メヒコでもミラノコレクションのジャベは冴えまくる。完成形はダブルリストロックとほとんど同じながら、ATロックは技への入り方が独特。　⑤日本でも人気を呼ぶであろうミラノ、吉野、ブラザーのトリオ。吉野とブラザーが早い動きでかき回して、ミラノコレクションが極めるという実に理想的なチームだ。1・23後楽園では、この3人が六角形のリングでまったく新しい6人タッグマッチを見せる！　⑥全試合終了後、M2Kがミラノ、吉野、ブラザーをM2Kに勧誘。「そんなダサいスカジャン着れるわけないじゃないですか」とミラノは拒否したが、モッチーは1・23後楽園への乱入を予告。ホントにT2PのリングにM2Kは現れるのか？　⑦メイン終了後、かつてのパートナー同士であるウルティモ・ドラゴンとオクタゴン、そしてヘビーメタルが記念撮影。



闘龍門のパッケージとしての面白さは新日本にだって決して負けない

速報!!
12.10駒沢でCIMAに敗れ丸坊主に

驚異の22ページぶち抜き!!
幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ現地潜入SPECIAL
ULTIMO·DRAGON GYM MEXICO

MASAAKI MOCHIZUKI

『髪切りマッチ』前、最後の特写&インタビュー

望月成晃 in MEXICO

「最強ヒールの素顔」

今年もっとも元気があった団体、闘龍門JAPAN。その原動力となったのがヒール集団M2Kを率いる望月成晃である。外様でありながら、そのプロレスセンスとプロレス頭でいまや闘龍門の最重要人物となったモッチー。かつて他団体男と呼ばれた彼は、いかにして闘龍門のトップヒールとなったのか。そのルーツを探る！

聞き手&撮影／堀江ガンツ

design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)



—望月さんは『紙プロ』初登場ですけど、実はかつてバトラーツの両国大会で『紙プロ賞』を受賞したこともあるんですよね（笑）。

望月 ありましたね〜、ジャイ子さんにいただきました（笑）。確か商品は『紙プロ』1年分で、ホントに1年間武輝道場に送られてきてたんですよ。

—しょぼすぎる商品でどうもすいませんでした（笑）。今日はそんな知られざる過去を含めて、望月選手の素顔に迫りたいと思いますんで、よろしくお願いします。望月さんってもともと凄いプロレスファンだったらしいですね？

望月 そうですね。もう子供の頃からプロレスファンで、空手を始めたのも高田延彦vs北尾光司の一戦で、高田さんのハイキックに衝撃を受けて蹴りを習いたいと思ったのがきっかけですから。

—それはお幾つぐらいの話ですか？

望月 23のときですね。

—あ、結構遅かったんですね。

望月 一応、高校のときからプロレスラーになりたくて、プロレスラーになるためにアマレスをやってたんですよ。でも小中高とずっと真面目に部活をやってたんで、そこらへんでちょっと運動に疲れちゃって普通に就職してしまったんですよ（笑）。

—プロレスラーになる前に疲れちゃいましたか（笑）。

望月 でも、就職してからもプロレスが好きで、実はＵＷＦとかリングスのファンクラブにも入ってたんですよ（笑）。それでジムなんかで身体を鍛えたりもしてたんですけど、あの高田vs北尾戦からまた火がついて、士道館に入門して。で、結構毎日仕事帰りに真面目に道場行ってたところ、添野館長から「北尾（光司）さんの新団体に士道館から選手を出すから、お前行け」と。それでなぜか負けた方の北尾さんの下に付いてプロレス人生スタートしたんですよ（笑）。

—妙な因縁ですね（笑）。ではデビューのときは、プロレスラーっていうよりは単なる空手家だったんですか？

望月 そうですね。デビュー戦は士道館を名乗って、あくまでも対プロレスラーっていうことでやりましたから。

—しかも相手はあのタズ（当時はピート・タンジーロ）ですよね。

望月 最初に写真見たとき、殺されるんじゃないかと思いましたね（笑）。これはヤバいと思って、仕事を1ヶ月前から休んで特訓したんですけどね、スープレックスで頭のてっぺんから落とされて3分ほどで敗れました。

—もうそれからはプロレスラーとしてやっていこうと思っていたんですか？

望月 いや、やる前は1回やっていい記念になればいいな、ぐらいに思ってたんですけど。試合終わったあとに、ふと「そういえば俺、プロレスラーになりたかったんじゃない？」って思い出したんですよ。頭打ったからかわかんないですけど（笑）。それで北尾さんにお願いして、もう一度プロレスに賭けてみようと思ってたんです。

—最初は武輝道場の自主興業だけだったんですか？

望月 そのつもりだったんですけど、半年後ぐらいに第2弾興行があってそのときからＷＡＲとの対抗戦が始まって、その1ヶ月後に両国国技館の6人タッグトーナメントに北尾さんのパートナー出場というチャンスを得たんですよ。

—いきなり大舞台じゃないですか！

望月 しかもそのときが初めて3カウントありの試合でしたからね（笑）。30秒ぐらいでアッサリ丸め込まれて負けたんですけど、「お前ら、ＷＡＲのリングに二度と上がるな！」っていう罵声を客席から浴びせられて悔しかったですね。僕としては空手家というよりも、あくまでも蹴りが得意なプロレスラーと思ってやってたんですけど、ね、認められずに悔しい日々を送ってましたよ。

—当時空手家だった望月選手は、誰にプロレスを習っていたんですか？

望月 ぶっちゃけて言いましょうか？ 一切したことありません！

—え！ まったくプロレス習わずに北尾さんのパートナーだったんですか？

望月 はい。当時、武輝道場の道場があったんですけど、そこにはリングがなかったんですよ（笑）。だからロープワークさえわからないまま出てたんで。ホントに試合の中で覚えていきましたね。だからいまでもときどき、「若いうちにもっとそういう機会があったらな」って、闘龍門の選手とか羨ましく思いますよ。

—では、ホントに実戦の中でプロレスを覚えていったわけですか？

望月 そうですね。あとはＷＡＲのシリーズに出してもらったときに、試合前の少ない時間の中でロープワークとかチョコチョコ練習して。当時ウルティモ・ドラゴン校長を始めとして、いろんな方にアドバイスいただきながら、短い時間の中でなんとか自分をプロレスラーに育て上げていったというか。だからＷＡＲさんには感謝しきれ



「武輝の魂」がいまどこにあるかって？……ノーコメント！

ないですね。試合プラス練習の場まで提供してもらったような感じですから。

——その試合なんかでも北尾さんのパートナーとなると上の方で組まれるから、そうとうキツかったんじゃないですか？

望月　ホントにキツかったですよ。毎日ヘビー級とやってましたからね。1回、「天龍、エル・ヒガンテ組 vs 北尾、望月組」っていうカードが組まれたことがあるんですよ。

——ガハハハ、ヒガンテ！　とんでもないカードですね（笑）。

望月　そのときはちょうど開幕戦でヒガンテが怪我して流れたんですけど、そんなカードを組まれるぐらいのところでやってたんですよ。ブッ飛びましたよ、最初にカード見たときは（笑）。

——そりゃそうでしょうね（笑）。WARは結構巡業もあったと思うんですけど、プロレスの巡業というのを初めて経験してみて、いかがでした？

望月　いやぁ、プロレスラーのタフさを思い知らされましたね。10何連戦とかあったんで、毎日移動して試合やって毎日朝まで飲むんですよ（笑）。

——毎日ですか！

望月　ホント、この人たちはタフだなと思いましたね。そこで、そういう部分も鍛えられて、おかげで酒嫌いになってしまって、いまはほとんど飲まないですから（笑）。

——当時だけでもう一生分ぐらいの酒を飲んだと（笑）。

望月　飲みましたねぇ。そこに付いて行くのが一番大変でしたけど、そんななかで自分もプロレスラーになっていったと思いますよね。

——ところで武輝道場塾頭であった北尾さんてどんな方だったんですか？

望月　………ウェイトトレーニングの教え方が上手い方でしたね。以上！

——それだけですか（笑）。しばらくして、北尾さんは突如引退してしまいましたけど。

望月　そうですね。そのときも引退発表の前の日に聞いたんですよ。

——前の日！　それも急ですね。北尾さんから説明があったんですか？

望月　いや、プロデューサーの方に呼ばれまして、「引退することになった」んで、あとは任せたぞ」と言われたんで。

——いきなり「任せたぞ」っていうのも凄いですね（笑）。そして『PRIDE』のリングで引退式となるわけですね。

望月　あのとき初めて東京ドームのリングに上がりましたね。なんか恥ずかしかったんですけど、電光掲示板に自分の名前もデカデカと出たんで、よかったなと素直に思いましたね。

——あのときは北尾さんから「武輝の魂」という刀を譲り受けてましたけど、あの刀はいまどうなってるんですか？

望月　う～ん……ノーコメント！

——次行きます（笑）。塾頭がいなくなった後の武輝道場ってどうなったんですか？

望月　引き続きWARさんのリングに出させていただけたんですけど、WARさんも徐々に興業数が減っていきまして、これからどうしようかと思いましてね（笑）。正直、岡村、TARUと3人で悩みましたね。ちょうどそのときぐらいにバトラーツさんから話をいただいて、その流れからみちのくさんの方にも出れるようになって、なんとか僕自身は話をいただけるようになって。

——その他団体に出たっていうのも、ハンパじゃない数ですよね。

望月　そうですね。試合しないと食えないんで、とにかく話いただいたところは出してもらってましたね。多いときで年間160試合したんで。

——160試合！　フリーでその数字は凄すぎますね。その中で印象深い団体とか、印象深い試合って何ですか？

望月　バトラーツでは田中稔選手との出会いですね。いまは新日本で活躍してますけど、いまでも僕の中ではライバルなんで。向こうはIWGPのチャンピオンにまでなりましたからね、負けてられないっていうのはいまでも思ってますよ。

——望月選手も新日本のリングには上がったことがあるんですよね？

望月　ありますね。その前に時期は前後するんですけど、95年にJ-CUPに出させてもらって、その時の相手が当時新日本の大谷（晋二郎）選手だったんですよ。初めてメジャーの選手とやって、ここから僕はジュニアで生きていこうと決意したんですよ。

——大谷戦でホントの意味でプロレスの面白さを知っちゃった、みたいな。

望月　そうですね。それ以降も新日本には出たいと思っていて、ライガーさんからも声をかけていただいたんですけど、タイミングが合わずにでれなかったんですよ。ところがひょんなところからSASUKE組に入ることになって、その流れでSASUKE組 vs 新日ジュニアっていうのが武道館で組まれて、その時初めて新日本のリングに上がれたんですよ（笑）。

——記念すべき新日初登場がSASUKE組の一員としてでしたか（笑）。

望月　でも、SASUKE組に入って良かったのはそれだけですね。あとはハッキリ言ってレスラー人生の中で汚点とも言えるときですから。

——汚点ですか（笑）。

望月　汚点です（キッパリ）。CIMAXもSASUKE組に入っていたことは「汚点」て言ってるみたいですけどね（笑）。

——そういえばCIMAXもSASUKE組でしたね。カレーで買収されて（笑）。

望月　だからいまの闘龍門のファンには考えられないかも知れませんけど、SUWAと組んでスペル・デルフィンとかとやってましたからね。スモーさんとやったり。（ビッグ・フジ）と組んで新崎（人生）とも結構ありましたけどね。まぁ、面白かったこともありましたけどね。

——たとえばどんなことが？

望月　デルフィンポーズとかやってましたからね、そういうのは。試合以外のところで面白かったです。

——シュートなものをアングルに変えていくという面白さですね（笑）。そのあと本格的に闘龍門に参戦するわけですけど、他団体男だった望月さんが闘龍門一本に定着するようになったのはなぜなんですか？

望月　フリーとして色んな団体に出させてもらって、新日本さんに出てたときも雑誌で大きく書いてもらえたりして、自分でもよくやれたという実感はあったんですけど、帰る団体がないとあとに残らないんですよ。次のシリーズに参戦するかどうかもわからない団



95年12月、第2回J-CUPに出場し大谷と好勝負を展開。この一戦で「北尾の子分」のイメージから脱却に成功した。



98・10・11『PRIDE・4』北尾光覇の引退式にモッチー登場！　4万の大観衆の前で「武輝の魂」を北尾から譲り受けた。



94・1・21後楽園。士道館の空手家として出たモッチーのプロレスデビューの相手はなんとあのタズ。

体で活躍しても、その場で終わってしまうことにふと気付いたんですね。

—あくまでその場限りの助っ人だと。

望月 そんな時期からいろいろ悩み始めてですね。99年1月に闘龍門が逆上陸したあと、知らない間に岡村が社長になってたんですけど（笑）、最初はあくまでゲスト参戦だったんですよ。でもそこで僕にとって納得のいかないことがあったんです。

—どんなことですか？

望月 マグナムとタッグを組んだときにですね、マグナムより前にコールされたんですよ。

—あ、試合前のリングアナのコールが先だったと。

望月 でも会社もCIMA、マグナムを売りたいだろうし、それは納得できたんですよ。（ドラゴン）キッドより前だった時もしょうがないかなって。で、アラケン（新井健一郎）よりも前だったんですね。

—3期生以降あたりだとさすがに……（笑）。

望月 だけど武輝道場を名乗ってる分、闘龍門の興業なんでね、それは致し方ないだろうと思ったんですよ。でも、あるときに堀口（元気）とタッグが組まれたら堀口よりは後だったんですよ。それでふと気付いたんです。「なんだ俺、順番つけられてんじゃん」て。

—武輝だからとかじゃなくて。

望月 そう、武輝だからとかじゃなくて、順番つけられてたんですよ。ってことは、俺は堀口より上だけど、アラケンより下なのか、と。もうそこからすべてが冗談じゃねえやと思って（笑）。あちこち出るのもいいんですけど、一つの団体で集中してのし上がってやろうと。団体全体を敵に回して、団体を根底から覆すような波風を立てないと上に行けないなと思ったんですよ。で、そのときにちょうど神田と（望月）享がルード（ヒール）宣言をしたんで、こうなったら闘龍門を敵に回してルードになって、団体に波風立ててやると思ってM2Kができたんですよ。

—そこから望月さんは見事に化けましたよね。M2Kとなって「両者リングアウト推進委員会」なんてものまで作って（笑）。

望月 あの両者リングアウト推進委員会はですね、実は去年ヒロ斉藤さんがG1で両者リングアウトを連発するのを見て「これだ！」と思ったんですよ（笑）。

—あ、モチーフはヒロ斉藤さんだったんですか（笑）。あれは面白かったですよね。

望月 ルードって言っても反則負けって結構簡単で、ある意味試合に捻りがないというか、終わったときに捻りがないじゃないですか。だけど両者リングアウトって、思いっきり捻りの効いた両者リングアウトができるんじゃないかっていう構想もあったんで。勝ち負け以外の部分での興味とか。リングに戻る、戻らないだけでも、もう一つスリルができるという部分があると思ったんですよ。

—あれも忘れかけていたプロレスならでは面白さみたいな部分がありますよね。

望月 そう、だから闘龍門は昭和のプロレスも取り入れてるんですよ。アメプロだったりルチャだったりというインターナショナルプラス、昔のプロレスも味わえるという。

—望月さん自身、闘龍門でM2Kを結成して以来、そういうプロレスの新たな面白さに目覚めた部分もあったりするんじゃないですか？

望月 そうですね。やっぱりそれまでは、いろいろ培ってきたものもあると思うんですけど、結構頭が固かったと思いますよ、プロレスに対して。でも闘龍門に来て、別の部分のたとえばアメプロ的な部分での面白さとかを知りましたね。アメプロなんて昔は見ませんでしたからね。違うもんだと思ってましたから。だけど、いまはやってて楽しいですよ。

—いま、闘龍門っていろんな部分でプロレスらしいという気がしますよね。

望月 全て取り入れてると思うんですよ。エンターテイメントだけにも走ってないと思いますし、ストロングスタイル的な部分も捨ててはいないですしね。

—では、いろんな団体を渡り歩いてきた望月さんから見て、他と闘龍門の一番の違いってなんだと思いますか？

望月 そうですね……やっぱりキャラクターもしっかり確立されてますし。個人個人が自分の役割をわかってるっていうのが一番大きいんじゃないですかね。前座からメインまで選手全員が自分の役割をわかっているから、ここまで成功しているんだと思いますよ。

—なるほど。それは確かに言えますね。

望月 逆に言うとそれができてないから、選手が辞めたり、離脱したりしちゃう団体があるんじゃないでしょうかね。僕も心の中では考えが合ってない選手っていうのは、他団体でたまに見てたんで。それができているのはウルティモ・ドラゴン校長の統率力と指導力のなせる技じゃないかなと思いますけど。

—ではぶっちゃけた話、CIMA選手やマグナム選手って望月さんから見てどう思いますか？

望月 素晴らしいと思いますよ。マグナムなんて入場であれだけ沸かせる人はいないと思うんで、素晴らしいと思いますし。CIMAにいたっては何十年に一度の天才じゃないかと思いますね。

—そこまで評価してますか！

望月 ええ。実を言うと僕がM2Kでルードになろうと決意したのが、シーマのJ-CUP準優勝なんですよ。それを見たときに、これはもう伸びて行くのは確信しましたし、闘龍門一本で行こうと思ったところがあるんで、CIMAの存在っていうのは、いまの僕を作る上で大きかったですね。

—M2KとCIMAXの抗争なんかも、試合内容的にはこれ以上ないくらいまで来てますよね？

望月 自分自身、やってて楽しかったですからね。若いうちにプロレス修行してなかったから、ついてくのが結構大変ていう部分もあるんですけど。僕の一番の売りは蹴りなんで、そこをうまくアレンジしていけば、噛み合わない部分も噛み合っていく、みたいな部分はあるんで。うまく溶け込んでいけてるっていう自負はありますね。正直言って、空手家出身の中で、ここまで順応したヤツはいないだろうっていう部分での自負はありますから。

—確かにいまの闘龍門は完全にM2Kを中心に回ってますもんね。

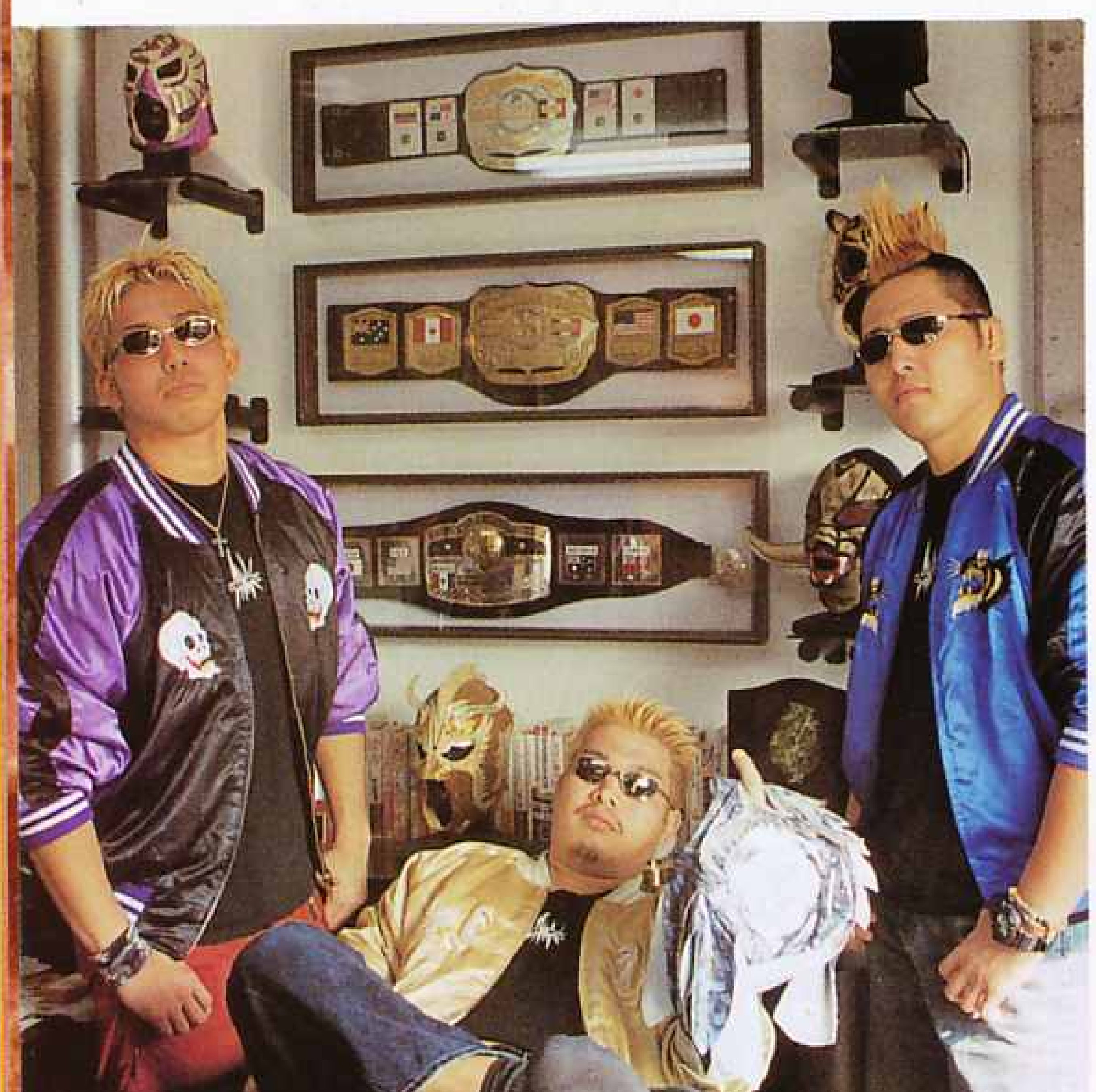
望月 去年まではねCIMAX中心で、CIMAX vs 正規軍、CIMAX vs M2Kだったんですけど、立場が入れ替わったんで、いい仕事したなって思いますよ。闘龍門で年間最大の試合といわれてる、神戸ワールド記念ホールの試合でも、マグナムとシングルが組まれましたし。あのときは負けてはしまいましたけど、やっぱりそういう大事なビッグマッチでシングルでメインで組まれたって時点で誇っていいと思うんですよ。セミで勝てるような選手とやるよりは、大会場のメインでシングルが組まれるっていうのがいまの最大の目標ですね。

—それは勝っても負けても。

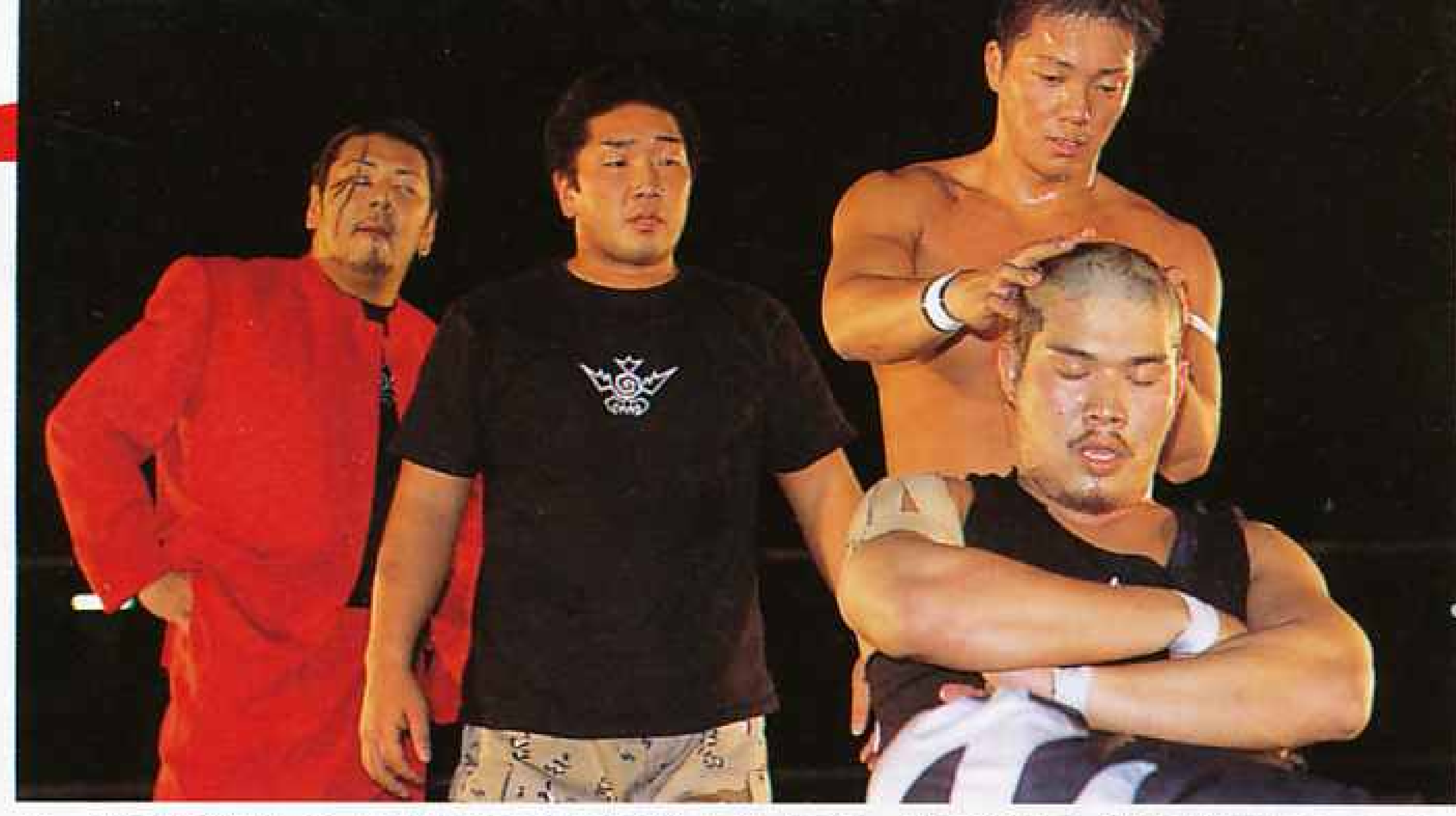
望月 うん、勝ち負けなんて、そんなもん二の次ですよ。メインを勝ち取ることを大切にしたいっていうのが自分に身についてきたっていうか。9月の大田区（体育館）もそうだし。大田区も最後に美味しいところでスイングしたんで、そういう意味ではいい仕事してきたなって思いますね。

—年末年始にはプロレス大賞なんていうのもありますけど。あれは、かな

ビッグマッチのメインを張る事が誇り。勝敗は二の次ですよ



CIMAは何十年に一度の天才じゃないかと思いますよ。



12・11駒沢球技場　C−MAXとM2Kの抗争の集大成とも言うべきCIMAとの「敗者髪切りランバージャックデスマッチ」は、「ランバージャックマッチ」史上最高とも言える素晴らしい内容に。結果はCIMAの切り札「シュバイン」の前に敗れたものの、潔く丸坊主になったその姿に「モッチー、男だ！」の声が数多く飛んだ。

り旧態依然としてるんで、メジャー以外が貰うのは難しいとは思いますけど（笑）、意識はしますか？

望月　基準は難しいと思うんですよ。でも、ＣＩＭＡ、マグナムが新人賞獲れなかったっていうのは、僕は非常に不思議に思いますし。あれはないんじゃないですかねぇ？

——正直、実に不思議です！

望月　来たお客さんに見てもらえれば、わかると思うんですけどね。強さを競うだけだったらね、高校生がプロ野球に勝てるかっていったら勝てないですよね。でもね、日本シリーズよりも、甲子園の決勝が面白かったっていうことだってあるじゃないですか。だからそれと同じで、僕も新日本のヘビー級の人に勝てるかって言われれば「はい、勝てません」って胸を張って言えますけど、でも団体としての面白さでは決して劣っているとは思いませんから。

——団体として面白いというのは、ある意味一番重要な部分ですよね。

望月　あちこち見てても、他団体の選手が集まってやっても、果たして入ってるのかっていったら、入ってないじゃないですか。いまは団体をパッケージ一つとして見て、その団体が面白いか、面白くないかっていう部分の興味が、ファンの人には一番大きいと思うんで、闘龍門という枠組の中で、面白いことをしていくのが大事なんじゃないかな、と思いますね。

——望月さんが限界を感じた、点でしかできなかったことですよね。

望月　そうですね。やっぱり所属があって、線で見せていかないと。それは『ＰＲＩＤＥ』もしかりだと思うんですよ。やっぱり『ＰＲＩＤＥ』も、ああいう戦いですけど、やっぱり線になっていたから面白かったんだと思うんですよ。だけど、いまはあちこちから選手を入れてなにかをやろうっていうのは点で終わってるんじゃないかなって感じがしますね。やっぱり団体として線で見せていかないと、どっかで限界はくると思いますね。

——それは実に同感です！　では、望月さんがどんな線を作っていくかが非常に興味深いんですけど。先日、メヒコではＴ２ＰのミラノコレクションをＭ２Ｋに勧誘していましたけど、これは続いていくんですか？

望月　どうでしょうね？　ただやっぱりルチャリブレ・クラシカっていう地味と言われがちな攻防の中で、しっかりお客さんを沸かせてるし。面白いと思いますよ。対決はかなり先になるとは思いますけど、まぁいいんじゃないですかね。何年先になるかわからない対決を見据えて、子分も作りたいので。

——ミラノ選手なんかでもデビューして1年半とは思えないですよね。

望月　っていうか、半年にも満たないヤツがいるわけですからね（笑）。それでも一興業後楽園を満員にするっていうのは凄いことだと思いますけどね。それをプロデュースしたウルティモ・ドラゴンていうのはね、頭が自由なんですね。

——闘龍門ＪＡＰＡＮの後輩としてじゃなくて、別枠にするっていうのは凄いですよね、あの発想は。

望月　別枠にしてもスタイルが一緒だったら、2軍て見られ方をしたと思うんですけど、スタイルが違うだけにね、ああいう形になるっていうね、それがやっぱり凄いなと思いましたね。

——今後の闘龍門ていうのは、どうなっていくんでしょう？

望月　駒沢の結果を見てからでしょうね。見てからっていうか、自分がやるんですけど（笑）。

——残念ながら、このインタビューは駒沢が終わったあとに出てしまうんですけど（笑）。

望月　勝ったら勝ったで考えてることがありますしね、両リンで終わったら、両リンで終ったで考えてることがあるし。負けることはないでしょうしね。万が一、負けても負けたあとのことをしっかり来年に向けて考えてるんで、これからも頭を使っていきますよ。

——では来年も期待してます！

12.10駒沢髪切りデスマッチ勝者 CIMAを試合翌日に独占取材！



カベジェラ・コントラ・カベジェラ
ランバージャックデスマッチ
○CIMA（シュバイン）望月成晃●



「これが闘龍門の試合や」と胸を張りたい

——昨日の望月戦、率直な感想を聞かせて下さい。

ＣＩＭＡ　ハッキリ言って、俺のベストマッチやね。いままで俺のベストマッチはＪ・ＣＵＰで佐野さんとやった試合なんやけど、お客さんのノリも充実感も超えたと思う。自分で言うのもナンですけど、あれ程の出来のランバージャックっていうのは、たぶん今後もないんちゃうかなって。出来うる限りのもの全て詰め込んだランバージャックでしたから。普通に考えたら、ただセコンドが選手をリングに戻すルールやからね。それがセコンド全員リングに上がって、串刺し16連打とかやりましたからね。16連打なんて今までみたことないでしょ（笑）。

——ないです（笑）。しかも、ちゃんと絶妙に今までの因縁が16連打の中に入ってて。

ＣＩＭＡ　最後に斉藤了がやられて、堀口（元気）が突っ込んだところにフジがカットしたから良かった（笑）。これが闘龍門のスタイルですから。ＣＩＭＡと望月の因縁だけじゃなくて、闘龍門全体の集大成。今いろんなスタイルが日本にもあるじゃないですか。そんな中で「これが闘龍門の試合や」と胸張れる、あれが、オレらが2年ちょいＪＡＰＡＮ旗揚げからやっていたスタイルの2001年型ですね。だから、このスタイルは、他の団体の人がやっても出来ないと。

——望月成晃相手だったからできたという部分も。

ＣＩＭＡ　あいつがいたからあの試合が出来たっていうのはあるね。Ｍ２Ｋが出来て2年間クレイジーとやってて、そん中の望月とＣＩＭＡでずっと闘争してて、そのホンマの決着戦みたいな感じで。だから、望月がいなかったら出来なかったし、望月もＣＩＭＡがいなかったら出来なかったというところで、だから負けた後あれだけ潔く彼は言ってたんじゃないですかね。結果には満足したんじゃないですかね。だから味方の１／３も泣いてましたしね。やったオレも泣いてしまいましたしね。

——いろんなプロレスの良い部分がブレンドされて昇華されたような感じでしたね。

ＣＩＭＡ　結局会場にいたファンは分かると思うんですけど、髪切りマッチが終わった最後に残るのは空しさじゃないですか。あの会場の雰囲気を見てると。やっぱり、それがプロレスだと思うんですね。いくらお笑いでやってても、いくら交戦を繰り広げていても、いくら憎しみ合っていても、最後のに残るのは空しさなんですよ。それがオレらにしか出来ない髪切りデスマッチなんですよ。オレらの身体で表現出来るデスマッチというのはあれですね。

——ある意味残酷ですよね。

ＣＩＭＡ　そう。あれは心に残酷。結構、お客さんでも泣いてる人もいましたし。やっぱり髪切りっていうのは残酷やなと。またそこが髪切りマッチの面白いところというか、心理を突くところですよね。

——昨日あの試合で完全決着ですか。

ＣＩＭＡ　これでもう、闘龍門の第2章は終わり。第1章はメキシコまでだったんで。ＪＡＰＡＮが始まってからの、第2章が終わりましたね。次の第3章はもの凄く面白くなりますよ。やってて面白いんですから観てたらもっと面白いと思う。やっててワクワクしますもん。

【試合翌日、お台場で収録。次号、ＣＩＭＡロングインタビュー掲載決定。お楽しみに】



驚異の22ページぶち抜き!!
幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ
現地潜入
SPECIAL

はずかしながら帰って参りました

最後の日本兵(?)
大柳錦也物語

The Last of Japanese Army Ohyanagi-Nitouhei

T2Pが誇る超絶キャラクター、“最後の日本兵”大柳錦也のインタビューに遂に成功！（敬礼）　戦時の最中、フィリピンのジャングルに取り残され、その後いかだで日本に戻ろうとするも遭難。記憶を失いメキシコに流れついた男の正体とはいかに！

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

大柳　恥ずかしながら、私などの話を祖国の出版物に掲載していただけるとは、感激の極みであります！（敬礼）

――い、いえいえ（つられて敬礼）。今日は謎に包まれた大柳選手の素性を少しでも解き明かそうと思いますので、よろしくお願いします（笑）。まず、出身はフィリピンのルソン島とのことですけど、日本人じゃないんですか？

大柳　（力強く）いえ！　私は日本人です！　ただ、フィリピンから漂流してから祖国にいたころの記憶が思い出せないのであります！

――そうですか（笑）。では、なぜメキシコでプロレスをやってるんですか？

大柳　漂流した際、なぜかメキシコに流れ着き、プロレスをやっていれば、いつか祖国に帰れると聞き闘龍門に入隊したであります！

――それは……ちょっと強引ですね（笑）。確かデビュー当時は「大柳二等兵」というリングネームだったと思うんですけど、なぜ変わったんですか？

大柳　デビュー当時は名前が思い出せなかったからであります！（敬礼）

――でもリングネームなんだから二等兵でいいような気がしますけど。

大柳　……。（小声で）「二等兵」という名前を日本で使うのはちょっとヤバイみたいという話もあるようであります（小さく敬礼）。

――ガハハハ、クレームが来たりしちゃう可能性もある（笑）。

大柳　（小声で）……実際、この軍服もギリギリであります（小さく敬礼）。

――では、もしかしたら急に記憶が戻って違うキャラクターになるかもしれない（笑）。

大柳　祖国に帰還でき、私の記憶が戻った暁にはあるかもしれないであります（敬礼）。









とにかく一日も早く祖国に帰還することが目標であります（敬礼）



――変わるとしたらたとえばどんなキャラがいいですかね？

大柳　以前、闘龍門に入隊したばかりのころ、校長が「『ホームレス大柳』もいいなぁ」と言っていたらしいであります（笑）。

――ガハハハ、猪木さんより早くホームレスになっていたかもしれなかった、と（笑）。

大柳　「ストーカー二世もいい」と言っていたという話も（笑）。

――ストーカー二世！（笑）。さすがU・ドラゴン校長だなぁ。大柳選手はプロレスはメキシコに来てから知ったわけですか？

大柳　はっ、そうであります！

――祖国日本にいたころプロレスを見ていた記憶はないんですか？

大柳　いやぁ……、でも、よく思い出してみるとなんとなく三沢選手の姿が……あ、頭が痛い！（うずくまる）

――もしかしたら三沢ファンだったかもしれない（笑）。

大柳　なぜだかわからないんですけど、三沢選手が虎のマスクを脱いだシーンがかすかに記憶に残って……あぁぁぁぁ頭がぁぁ……。

――では、あの敬礼ローリング・エルボーもなんらかのメッセージが込められてるかもしれないんですね（笑）。

大柳　あの技は自然に出たであります（敬礼）

――では、話題を変えまして、簡単な質問で。好きな食べ物はなんですか？

大柳　乾パンとチョコレートであります！

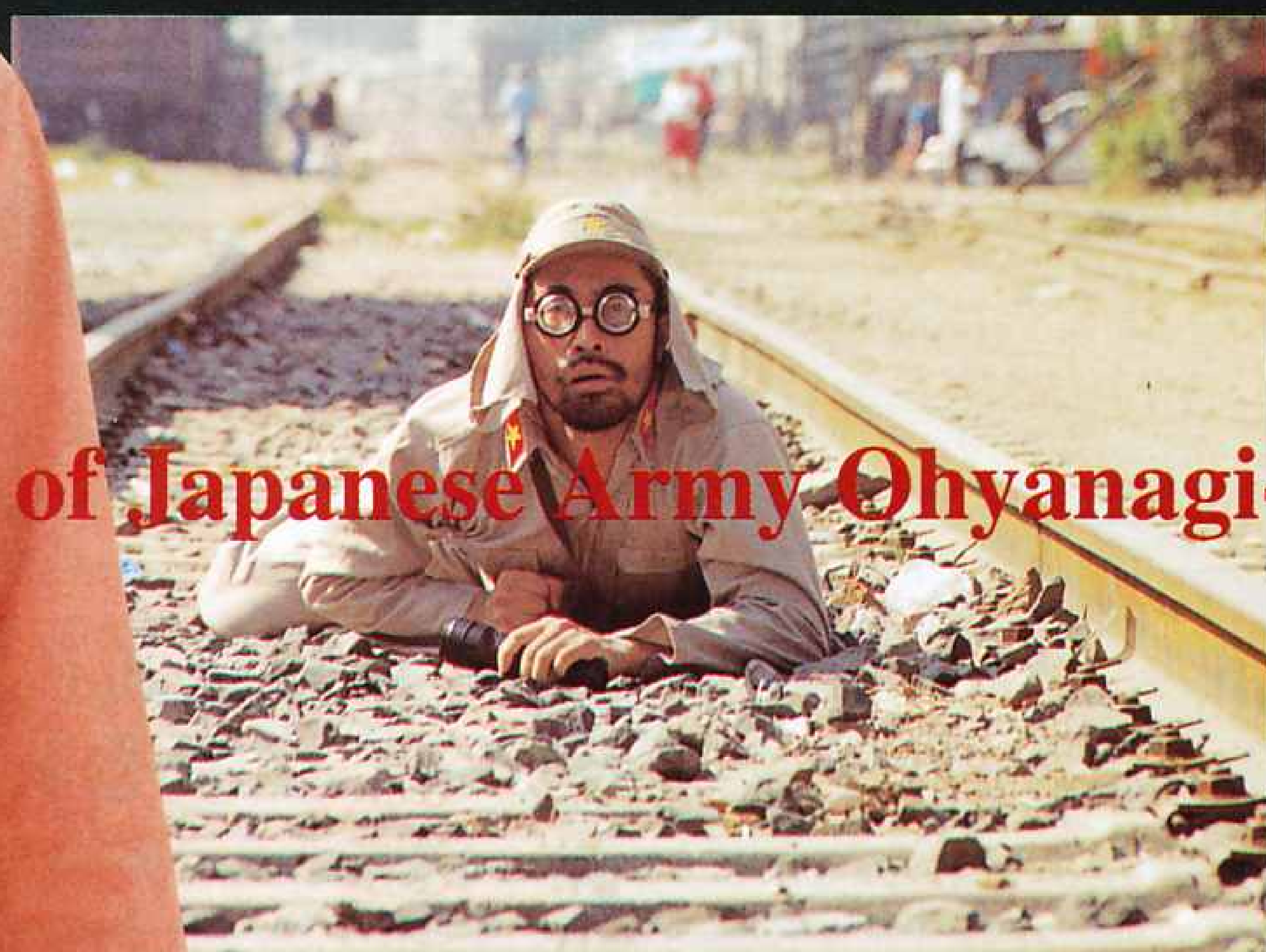
――ホントですか？（笑）。メキシコで



タコスとかは食べないんですか？
大柳　いや、私はお腹があまり強くないものですから……。
――フィリピンのジャングルにいたのに、お腹が弱い（笑）。
大柳　い、いや……ジャングルでは果物しか食べてませんでしたから（汗）。
――趣味はなにかありますか？
大柳　趣味は満州で覚えた麻雀であります！
――麻雀ですか。メキシコの道場でもやったりするんですか？
大柳　はい！　なぜかメキシコに流れついたとき麻雀牌一式も一緒に流れてきたであります！（笑）。
――ウソつけ！（笑）。でも麻雀は相当好きそうですね？
大柳　はい！　大学の頃、単位がヤバいときでも徹マンしてましたから（笑）。
――ガハハハ、単位そっちのけで徹マン（笑）。でも……大柳さん大学行ってたんですか？
大柳　い、いや……り、陸軍士官学校の間違いであります！（汗）
――もしかして、記憶戻って来てるんじゃないですか？
大柳　い、いや……そんなことは……。
――大柳さんが電気グルーヴの大ファンだって噂も聞いたんですけど？
大柳　い、いや……あ、頭が痛いぃぃい。
――なんでもラジオのエアチェックを欠かさなかったという（笑）。
大柳　ああああああ、頭があぁぁ…



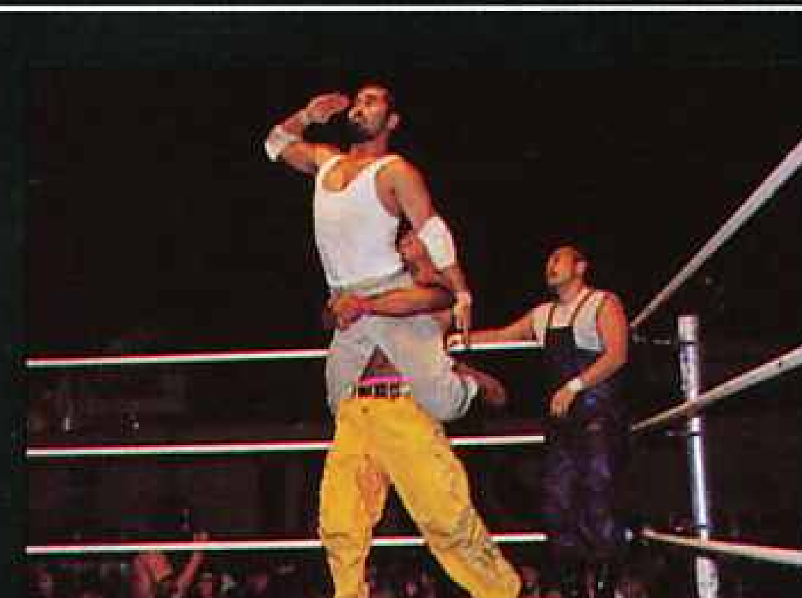
The Last of Japanese Army Ohyanagi-Nitouhei



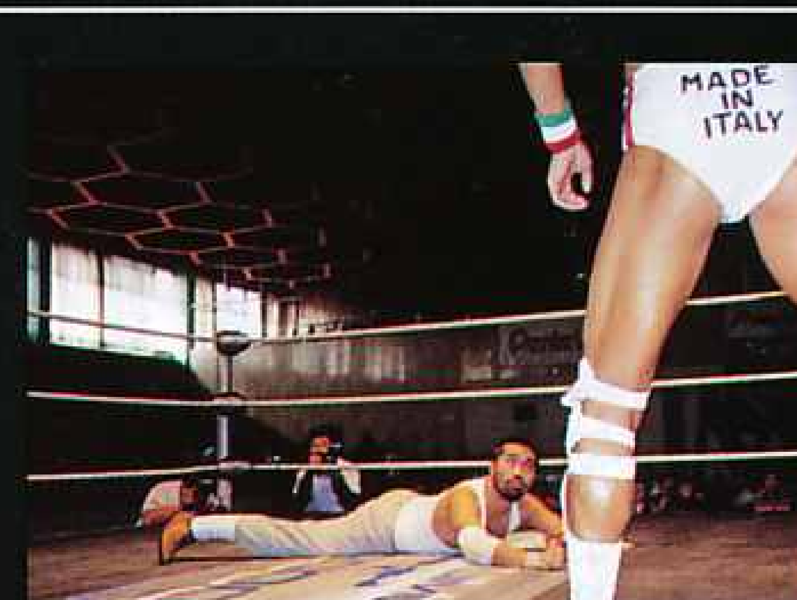




大柳錦也の代名詞とも言える、敬礼コブラツイスト。技をかけたときの表情はザンギエフのそれと並ぶぐらいに素敵だ。



数々の敬礼テクニックの中でも完成度が高いのが、この敬礼ローリングクラッチ。この体勢で一瞬止まるのがいい。



ミラノコレクションＡＴと大柳錦也という夢の対決が実現！　手足が長いミラノに対抗して大柳は匍匐前進だ。

…！
――さらに伊集院光のラジオも好きだとか（笑）。
大柳　ああああああああぁぁぁ！！
――苦しそうなんで、噂話はこれくらいにしておきましょう（笑）。
大柳　そうしていただけるとありがたいであります！（敬礼）
――では、少し試合のことを聞きましょう。Ｔ２Ｐ日本逆上陸から、ＴＡＲＵさんと抗争が始まったようですけど、なぜＴＡＲＵさんと闘い続けるんですか？
大柳　はい！　ＴＡＲＵさんのような米国かぶれには愛国心を注入しなければならないからであります！
――１月23日もＴＡＲＵ選手と闘うわけですか？
大柳　は、そうなることと思います！（敬礼）
――では、最後に大柳さんのプロレスラーとしての目標を聞かせてください。
大柳　私はプロレスラーとしての夢というよりも、とにかく一日も早く祖国に帰還することが目標であります！（敬礼）
――そうですか（笑）。それでは、１月23日、二度目の祖国帰還に期待しております（敬礼）。
【01年12月2日／闘龍門メキシコ道場にて収録】

驚異の22ページぶち抜き!! 幸せ気分でコモエスタ!
闘龍門メキシコ 現地潜入 SPECIAL
ULTIMO DRAGON GYM MEXICO

衝撃の"ルチャリブレ・クラシカ" 1.23後楽園に再上陸決定!!

今度は全く新しい6人タッグをお見せしましょう

ミラノコレクションAT×吉野正人×スティービー"ブラザー"ツジモト



日本のプロレスファンが見たこともないような複雑怪奇なジャベと、六角形のリングで我々の度肝を抜いたＴ２Ｐ。その中でも特にルチャリブレ・クラシカを体現したトップ３人が、１・23後楽園ではトリオで登場。次は誰も見たことがない６人タッグを見せる！

聞き手&撮影／堀江ガンツ
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

――今回の闘龍門メキシコ特集のラストを飾る企画として、T2Pのトップ3、ミラノコレクションAT選手、吉野正人選手、スティービー"ブラザー"ツジモト選手にお越しいただきました。前号でインタビューしたミラノ選手はともかく、お2人のこと知らない読者はかなりいると思うんで、自己紹介してほしいんですけど、まずはツジモト選手から。

ブラザー　ツジモト選手やなしに、呼び方は「ブラザー」がええな。

――あ、じゃあ、ブラザーどうぞ（笑）。

ブラザー　まぁ、出身はジャマイカやな。

――ジャマイカぁ？（笑）

ブラザー　何がおかしいんや、ジャマイカやんか！　笑うとこちゃうがな。

――すいません（笑）。

ブラザー　まぁ、リング上で試合してるいうか、遊んでるいう感じやな。ミラノさんと吉野ッチは華のあるタイプやけど、オレはまたそれをアシストするって感じで、その華をより目立たそうっていう感じで立てとるような。オリジナルで2・5枚目。そんな感じやな（笑）。

――言葉の意味はよく分かりませんが、そういうコトで（笑）。じゃあ、次は吉野さん。

吉野　出身は大阪の東大阪市。キャラクターはターザン。リングをジャングルだと思って、そのままナチュラルに、本能の赴くままに暴れて。けっこう見た目的にも今まで無かったような動きからのジャベ、関節技とか多いんで。そういうのを見てもらえれば。

――3人が組むようになったのはどんなきっかけからなんですか？

ミラノ　C－MAXが今年5月にメキシコに来た時に、T2Pの最強メンバーで挑もうというか、闘ってやろうということになったんです。その時にたまたま、T2Pのトップだった3人が組んだっていう。そこからが始まりですね。そしてT2Pのトップ3ですから、もちろん今でも負けナシです。

――3人でどの位試合をしているんですか？

吉野　結構してるよな？

ブラザー　メキシコの地方とか入れれば、まあ20～30はやっとるな。

ミラノ　だいたいこの3人とメキシコ人3人でやったりとかしてますけど、まあ、相手にならないですね。

――11・13のT2P日本逆上陸では、ミラノ選手がシングル、吉野選手とブラザーがタッグでしたけど、ご感想は？

ミラノ　まぁそうですね、僕はメインで斉藤（了）さんとシングルでしたけど。斉藤さんは強いですよね。強いと思います。でも、ルチャリブレ・クラシカの中だとあんなモンですよね。あとはやっぱりお客さんが、もっと「ルチャリブレ・クラシカ」というものをわかって頂ければいいなぁと。とりあえず、11月13日後楽園で「これはなんなんだ？」と、？マークがみんなに付いたと思うんで。そこからちょっとでも興味を持ってくれたりとか、関心を持ってくれて中に入って来てもらえればいいですね。

――では、お2人のタッグもかなり評判が良かったみたいですけど、ご自身の出来としてはいかがだったでしょう？

吉野　好きなことやって勝ったし、それなりに良かったよな。観たことない技ばっかりで、客も戸惑ってた部分はあるとおもうんやけど、さっきミラノさんが言たように、興味持って観たら面白いと思いますよ。

ミラノ　ジャパンとは違う独自のファンとか開拓できる自信はありますね。

ブラザー　だから昔、C－MAXが「俺らは世紀末の超特急列車や」言うてたけど、俺らはそれに対抗して21世紀の……う～ん、なんやろなぁ？

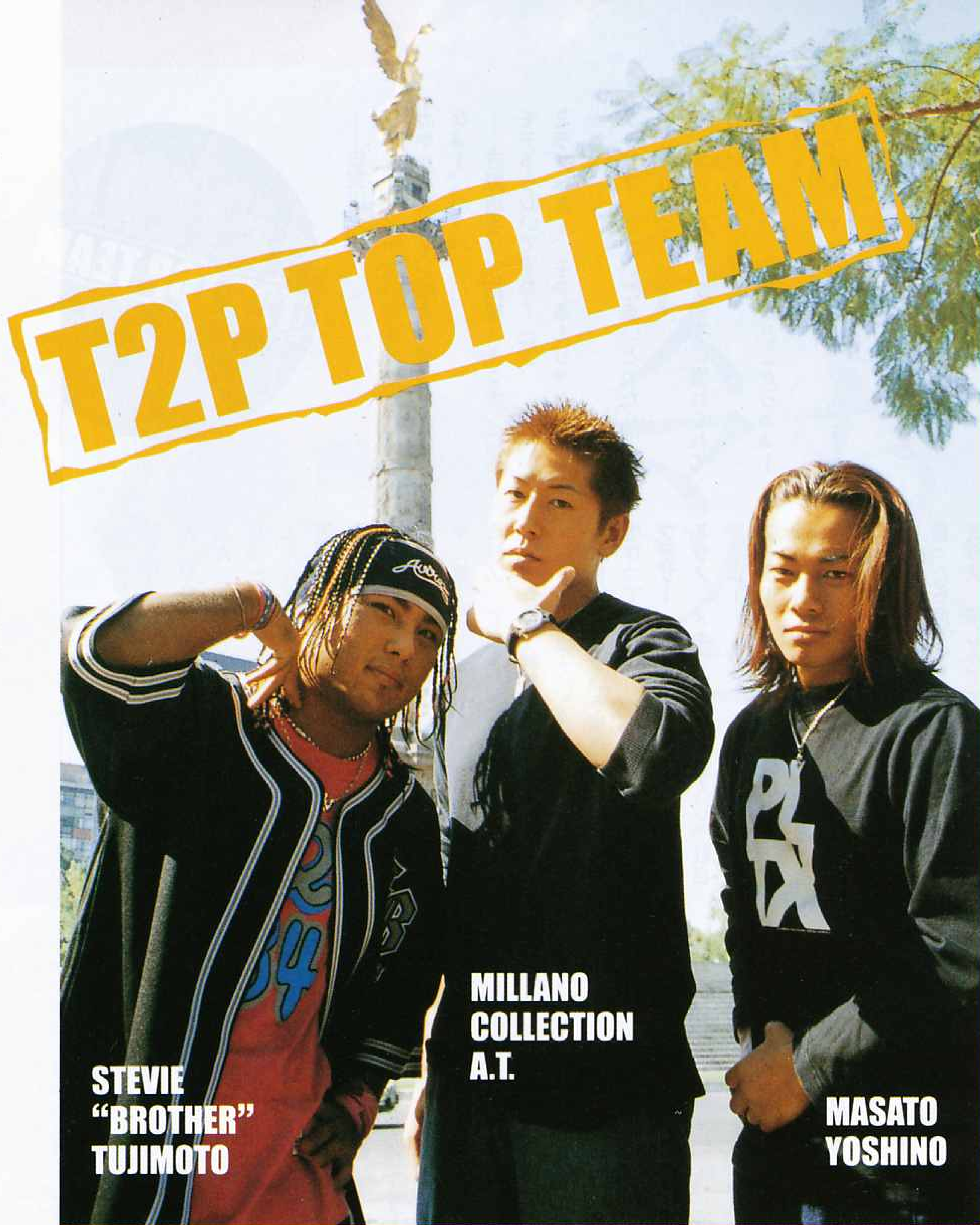
吉野　なんだよ（笑）。

ミラノ　考えてから言えよ！（笑）。

ブラザー　超特急ならぬ超豪華客船ってトコか？　クラシカだけに。ウン、ウマイこと言うやろ。ヒャヒャヒャ。な、吉野ッチ。

吉野　豪華客船てスピード遅いんじゃないの？（笑）。

ブラザー　イヤイヤ、それでエエねん。



それでエエねん！　遅くてエエねん。
ミラノ　ただデカイだけ（笑）。
ブラザー　豪華なんや！　遅くても中身が豪華！　ウン、遅くても魅せるトコ魅せて。試合の流れもそうやけど、遅くてエエねんオレらは、速いヤツもおるけど。
——その意見についてどうですか？　リーダーとしては。
ミラノ　彼は何を言いたいのかわからないですね（笑）。まだ彼とは意思の疎通が図れないんです。
ブラザー　はよ、わかってほしいわ（笑）。



——ブラザーと吉野選手のお2人は、T2P逆上陸の前にみちのくプロレスに出てらしたんですよね？
吉野　まあ、2週間位やってましたね。
ブラザー　まぁ、全部で10試合出てきてるな。
——みちプロの巡業っていうのはいかがでしたか？
吉野　みちプロに行った元々の理由ってのはディック東郷さんからお誘いを受けて、それでブラザーとオレが行ってきたんやけど。
ブラザー　ハッキリ言ってこれガチンコ話で、東郷さんの下でやって、やっぱり凄いなぁ～って思ったなぁ。なあ、吉野ッチ。
吉野　そうやな。
ブラザー　いろいろオレ的には、ファイトスタイルで憧れてる男気があるボスやったから。学ぶところが凄げぇ多かった。口じゃ言えへんけど、組んでてなんか……安心出来るっちゅうか、頼れるちゅうか。

——じゃあ、かなりみちのくの巡業は収穫ありと。
吉野　収穫アリ。
ブラザー　すごい勉強んなった。
——初めて日本で巡業するってどんな感じでしたか？
吉野　メキシコでは8時間10時間の移動なんて当たり前なんで、別にそんな苦労したりとか全然ないですよ。
ミラノ　アメリカの国境沿いまで、だいたい17時間かけて行ったりしてますから。
——17時間！
ブラザー　なんかちっこい車にぎゅうぎゅう詰めにされて、かなわんで！
ミラノ　自分で知り合いのルチャドールの車にみんなでぎゅうぎゅうに詰め乗って行ったりですとか。あと、6～7時間くらいのとこは、一応、バスが出てるんですけど、バスにみんなで乗ってそれで移動とか、そんな感じですかね。もうちょっと待遇を良くして貰ってもいいんじゃないかと思うんですが（笑）。
ブラザー　ミラノの兄さんがなんであんなバス乗んのや、と。飛行機使え！　飛行機!!
ミラノ　まあ、飛行機が一番いいんじゃないですかね。この3人を試合会場運ぶには。
——こちらに取材で来るまでに、なんだかバスとか地下鉄とか乗り慣れてる気はしましたけど（笑）。みなさん、休日はどんな過ごし方をしてるんですか？
ブラザー　ミラノさんからお願いしまっす！
ミラノ　僕はいつもメキシコにマサリクっていう通りがあるんですけど、そこにエンポリオ・アルマーニの店もありますし、グッチ、ビトン、それからブルガリ。いろいろあるんで、いつも新作チェックに行ってますね。
——そうなんですか（笑）。
ミラノ　でも、やっぱりメキシコなんであんまり品揃え良くないですね。やっぱり、自分の故郷のイタリアとかは、そういうところはかなり良いですけど。ちょっと、メキシコでは買う気はしないですね。
——じゃあ、そういうところには5ペソの乗り合いバスとかで行かれるんですかね（笑）
ミラノ　イヤ、いつもタクシーです！
——5ペソのタクシーですか（笑）。
ミラノ　何を言ってるんですか!?　いつもちゃんとしたタクシーですよ。吉野さんなにを笑っているんですか!?
吉野　いやいや（笑）。
ミラノ　いつもタクシーでしょ？
吉野　いつもタクシーです（笑）。
ミラノ　で、ブラザーを誘おうとしてるんですけど、いつもいないんですよ。
——どこ行ってるんですか？
ミラノ　夜遅～くに帰ってきますよ。
ブラザー　いや、まぁすごいインターネットカフェがあんねん。なんか、日本語書けるからあそこに居座ってんけどなぁ。ウン。あの辺ブラブラ～ってなぁ。
ミラノ　なんか、スペイン語憶えるのが急激に速いんですよ（笑）。
——なにか秘訣があるんですかね？
ミラノ　TARUさんが言ってたみたいですけどねぇ。スペイン語上達法ってね（笑）。
ブラザー　ああ～…ああ～……
ミラノ　どういうことか言えば，それを実践してるんじゃないんですか？（笑）。



前回の初上陸を見逃した方は、今度こそ乗り遅れのないように





―忠実に（笑）。

ブラザー　イヤァ、出身地がジャマイカやからスペイン語よう喋ってたからなぁ～。ハッハッハ。

―吉野選手は、結構メキシカンにもモテるらしいですね？（笑）。

ミラノ　あ～、モテるんじゃないですかねぇ。

ブラザー　こないだ歩いとったら、声掛けられとったしなぁ。

―マスク売りの女の子に惚れられてるんですよね（笑）。

吉野　えぇ!?　それはどこからぁぁ～っ!?

ブラザー　ダハハハハ！　なんでそんなこと知ってんの（笑）

―いろいろ話を総合的に聞くと（笑）。

吉野　でも、まぁ13歳ですから……。

―13歳!!

ブラザー　メキシコの女ってあれやねん、早熟やから、13歳でも結構大人やねん。あれ大人になったら、エエ女になんねんて（笑）。ツバつけといたらエエんちゃうん？

吉野　いいんだよ。捕まるから。

―そしてその女の子に某練習生が恋焦がれているらしいですね（笑）。

ブラザー　なんでそこまでしっとんのや（笑）。

ミラノ　でも、練習生は愛だの恋だの言ってないで練習しなきゃ駄目だよ！　メキシコに来ている意味がないですよ。日本のそういう誘惑から避けて環境作ってるのに。

ブラザー　そうそう、ほんまやで。

ミラノ　メキシコに来て遊んじゃ駄目ですよ！

ブラザー　そうや！　今の練習生アッカンわホンマ!!　でもミラノさんが言うのは（笑）。

ミラノ　ブラザーむかつく。

―では、いま生活の中の楽しみって言ったら何ですか？

ミラノ　楽しみですか？　楽しみ……。

こんだけ考えても出てこないっていうのは、ないんでしょうね（笑）。ホント、日本帰れる日を今か今かと待ってる。日本で早くみんなの前で僕ら自身を見せたいと。そういう日が来るのを待っているんですよね。

ブラザー　音楽いっぱいあるしな。

ミラノ　早く試合したいですね。日本で。

―それで急遽、来年1月23日後楽園ホールで試合が決まったみたいですけれど。

ミラノ　そうですね、今回はたぶんシリーズじゃなくて一発だと思うんですけど。やっぱり中には、この間の初上陸の試合が雑誌で結構大きく取り上げられたりして「あ～、観にいきゃ良かった」って後悔してるアホな人たちもいると思うんですよ。

―アホな人！（笑）。

ミラノ　流行に乗り遅れるというか、自分から先取り出来ない人たちがいると思うんですよ。そういう人たちの為の、もう1回のチャンスですね。

―アホな人の為の（笑）。

ブラザー　タコ共になぁ！　今度来なかったら、「いー」するぞ、「いー」！

ミラノ　カードはまだ決まってないんですけれども、今度はこの3人で組むかもしれないですね。まぁ、組んだら結果は見えてしまいますけど。

ブラザー　相手おらへんねん!!

ミラノ　お客さんはあんまり面白くないかも知れませんね。結果がもう分かっているから。

―前回は初めてルチャリブレ・クラシカっていうのを見せようってことでしたけれども、今回のテーマは？

ミラノ　この前は初めてルチャリブレ・クラシカっていうものを見せることがテーマだったんですけど、次回1月は六角形のリングでの6人タッグマッチ。六角形のリングの使い方、今までのプロレス界に無かった動き、そういうのを披露したいと思います。

―それはまた楽しみですねぇ。で、1月の後楽園はM2Kが乱入を予告してますけど。

ミラノ　両者リングアウトをやってるとかいってましたけど。あんなことしても無理ですよ、僕らには。だいたいM2Kに興味ないですからね。僕らは僕らでT2Pっていう新しいものを確立していければ良いと思いますしね。

―なんかM2Kに入らないか、という誘いもあったみたいですけど。

ミラノ　あんなださいスカジャンなんて僕ら着れるわけないですよ。もっとおしゃれで高級なジャケットを買いなさいと（笑）。

―では、最後に意気込みでもなんでもいいんですけれども、お一人ずつコメントをお願いします。まずブラザー。

ブラザー　オレたち今度東京で暴れるから観に来いよっシスター！　オラッ!!

―シスター（笑）。

ブラザー　シスター・ブラザー・ベイベー！

吉野　これからまぁ、どんどん日本に行く機会も増えて来ると思うんで、オレら3人の凄くてそして華のある、今まで観たことないような試合を見せるんで。

―それでは最後にミラノ選手。

ミラノ　さっきも言いましたけど、初上陸を見逃した人たち、乗り遅れたあなたたちの為に、もう1回やってあげるわけですから。今度こそ乗り遅れることのないように。そして、前回見た人はもっと勉強して、ルチャリブレ・クラシカのそういうところに入っていけるようにお金を貯めて観に来て下さい。

―わかりました。では、期待しています。

ミラノ　グラッチェ。

【01年12月3日／メキシコシティ「VIPS」にて収録】

スティービー"ブラザー"ツジモト
本名・辻本恭史。1982年1月26日、ジャマイカ・キングストン出身。173cm、75kg。レゲイテイスト溢れる闘いぶりで、何をしでかすかわからないトンパチ者。いつも連れているカエルの名前は「ラナメックス」通称・ラナちゃん。得意技はウラカン・リナ。

ミラノコレクションAT
本名　アキヒト・テルイーノ。1976年8月27日、I（イタリアか岩手）県M（ミラノか盛岡）市出身。183cm、81kg。右手に透明犬ミケーレを連れて歩く、ルチャリブレ・クラシカを体現するＴ２Ｐのエース。56のジャベを持ち、得意技はＡＴロック。

吉野正人
本名　同じ。1980年7月17日、大阪府東大阪市出身。172cm、72kg。ジャングルの王者・ターザンをモチーフにした、野性的なバネのある動きが信条。ジャベへの入り方や素早さも魅力のひとつ。得意技はソル・ナシエンテ。トルベジーノ。

ルチャリブレ・クラシカ再び！
今度こそ見逃すな！　T2P日本逆上陸第2弾決定！

「DESEMBERCAMIENTO」
2002年1月23日（水）　東京・後楽園ホール
OPEN：17:30～　START：18:30～
前売り料金　特別RS：￥7000　RS：￥6000
指定A：￥5000　指定B：￥4000
プレイガイド
チケットぴあ　03-5237-9999
後楽園ホール　03-5800-9999
チャンピオン　03-3221-6237
大山アメリカン　03-3962-6443
チケットトラベルT-1　03-5275-2778



葛西純

2001年マット界で一番ブレイクした男（猿）

［大日本プロレス from ヒラデルヒア］

俺っちにはよぉデスマッチしかねえんだよ！

今や多くの雑誌で取り上げられ、彼メインのイベントまで開かれるくらいインディ界では突出した人気を誇っている葛西純。本能覚醒、サル化のとたんに会場人気を一気につかんでしまった。これでもかってくらいに蛍光灯の山に突っ込んでいく姿は、凄惨さとともになぜかコミカルさを感じてしまうのだ。まさに今までになかったスタイルのデスマッチファイター！　ギザギザの背中の真相に迫れ！

聞き手／イナズマK　構成／松澤チョロ
撮影／松本崇　試合写真／菊池茂夫
designed by hisa（Two Three）





ＣＺＷ勢と蛍光灯２００本使用４ＷＡＹデスマッチを敢行した葛西純。試合前にヒラデルヒアからクルーザー（バナナボート）に乗って横アリに向かうシーンがオーロラビジョンに流されると会場は大爆笑に包まれた。一転、試合では蛍光灯顔面スライディングキックなどの戦慄シーンの連続で観客を凍り付かせた。最後は葛西がザンディグの体の上に大量の蛍光灯を置いてのパールハーバーアタックで勝利。葛西はそのまま汗はもちろん血も拭かずに非道と共にグッズ売場に直行！　背中から額から血を流しまくって販売に精を出した。さすがはクレイジーモンキー！





―ではまず、先日の横浜アリーナ大会の感想を聞かせてください。

葛西　（いきなり頭を抱えて）最悪だね。なんもオイシイとこねーじゃん。オメエ！

今年引っ張ってきたのは誰だよ？

―も、もちろん葛西さんですよ。

葛西　その通り！　俺っちが第5試合の4ウェイってのは納得いかないよな。蛍光灯200本デスマッチにすれば何とかなるかなと思ったけど、いかんせん相手がショッパイんで最悪だったね。あんなんだったらダチョウ倶楽部とやった方がいいよ。

―そんな（笑）。

葛西　おべっかだか分かんないけど、『ファーストメインイベント』なんて付けやがってよぉ。いらぬお世話だよ。

―『ファーストメインイベント』とはいえ、試合の後は休憩でしたね（笑）。

葛西　ホントだよ！　もう横アリのことは忘れたいね。

―でも、大会場なんで初めての人も多かったし、ビデオだけでも面白いって評判でしたよ。葛西さん的には、やっぱり試合で評価されないと納得いかないでしょうけど。

葛西　あったりめーだよ！　俺っちは芸人じゃねーんだからよぉ！　レスラーなんだからよぉ！　ま、素で言うとそっちの方が試合より優ってるっていう声もあるんで、今後も頑張ります（謙虚に）。

―アレ、いきなり素ですね（笑）。さて横アリではサクベルトならぬサルベルトも披露されましたが。

葛西　アレはよぉ、知り合いが勝手に作っちゃったんだよ。サクと一緒だよ。ただ持ってるだけじゃしょうがないから、サル顔、ゴリ顔のヤツら相手に防衛していきたい。田村潔司、高阪剛、藤田和之、あとは須藤元気、そこら辺だな。

―ガレッジセールのゴリとか大御所いかりや……。

葛西　そりゃ芸人じゃねーか！　素人とやらせてどうするんだよ。俺っちのプライドが許さないよ。

―では、サル選手権はどんなルールで行なわれるんですか？

葛西　深く考えてないから突っ込むなよ！　まあ、前も藤田とかにはアプローチしたんだけど無反応だったなぁ。耳に入ってないんじゃないの。ガチンコばっかやってると頭固くなちゃうからな。

―それじゃ、葛西さんがガチンコやってないみたいじゃないですか。

葛西　俺はやってるよ！　ヒラデルヒアで。ストリートファイト、スゲーよ。ロッキーともやったね。昔の面影なかったなあ、ウン。どってことねえよ！

―ずいぶん最近で（笑）。ストリートファイトの方は無敗なんですか。

葛西　昔、弱かった頃は負けたこともあっけど、ヒラデルヒアでは無敗だね。

Jun Kasai

○ ザンディグ　10分38秒 蛍光灯式キャメルクラッチ　松永光弘 ×





○大谷晋二郎　17分9秒 TKO　関本大介 ×





大日本プロレスに大谷晋二郎が初登場！　大日本期待のホープ関本大介相手にデスマッチ色で染まったリングで大谷劇場を展開した。試合はリック・フレアー張りの大谷ムーブにつられた関本の頑張りもあって大熱戦！　試合後は大谷はもちろん、最初は嫌がるフリをしていた関本に火祭り刀でポーズをキメさせた！



―最近は地元のヒラデルヒアはいかがですか？

葛西　最近は非道クンとつるんで良く酒飲み行ってるね。

―女の子もバッチリゲットですか？

葛西　ウン、こっそりと目薬使うけどな。

―アハハハ！　そんな姑息な手段を。

葛西　姑息じゃねーよ！　常套手段だよ！

―ナンパもアイテムが必要ですか（笑）。

葛西　そうだね。プロレスでもそうだけど、プロレスあってのアイテムだから。ナンパも一緒、俺の美貌あっての目薬だから。

―さすが『美獣』を一瞬名乗ったことだけはありますね。

葛西　あぁ～…（恥ずかしそうに）。そんないにしえの話は忘れたよ！

―スミマセン。でも来年からCZWの選手が来ないとか言ってるんですけど。

葛西　アイツらの言ってることは分かんねーよ。来なかったら来ないでいい。眼中にねえから。俺っちは自分のことで精一杯。イッパイイッパイだよ。

―あと、横アリでは山川選手の復帰もありましたが。

葛西　ちらっと観たけどね、ありゃダメだな（キッパリ）。あんなの素人以下だよ。

―もらい泣きとかは？

葛西　するわけね～じゃん、そんなもん。周りは泣いとったけどね。むしろ、おいしいとこ持ってかれて悔し泣きだよ。ヤツの休んでる間、俺っちがドンだけ大変だったか。ヤツに関してはどってことないね。

―来年の完全復帰後には対戦するかもしれないですね。

葛西　いや、あのショッパさじゃメインの俺っちのとこまで来れないね。第一試合でお茶濁すしかないな。

―では、スーパースター葛西純のルーツを聞かせてください。レスラー以前に『紙プロ』にハガキ職人として何度か登場して



落ちたのが悔しくて、アポ無しで北海道から大日本の後楽園に行ったんだよ

ました。その頃のイラストは、桜庭選手や金原選手が多かったんですけど、当時は、格闘技系の方が好きだったんですか？

葛西　たまたま書きやすかったのが桜庭、金原だっただけで、そういうわけじゃないよ。じゃあなんだよ？　俺っちがカタブツ君やのものも描いてたから好きだったってことになるじゃね～か！　断固としてそういうのは否定すっからな！

―そりゃそうですね（笑）。では、レスラーにはいつぐらいからなろうと？

葛西　小学校の時はなりたかったけど、いかんせん背が小さかったんで、中学、高校の時は普通に生活しようと思って、上京してガードマンに就職してさ。で、インディー観に行ってたら、自分の背くらいの選手がいっぱいいて、「それなら俺っちでもできるじゃないか？」と思って、それで目指すようになったんだよ。

―まず最初にバトラーツを受けたんですよね。

葛西　レスラーになりたくて警備の会社辞めて北海道に戻って、体鍛えながらの生活を1年ぐらい続けたんだよ。んで、履歴書送って一ヶ月くらい返事を待ったのかな。そしたら「不合格」の一言だけ書いた通知が来たんだよ。で、バトラーツ落ちたの悔しかったから、飛行機乗ってアポ無しで北海道から大日本の後楽園に行ったんだよ。

―いきなりですか？

葛西　そう、前日にカプセルホテルの電話から大日本の事務所に電話してたら、「3時にホールに来てください」って。そしたら試験官が今の某先輩で、スクワットだの、腕立てだの、腹筋だの、背筋だのブリッジだの、あとブリッジターンだのをドロドロになってこなしたんだよ。ようやく終わった時にヤマ（山川）の野郎に呼び出さ



頭蓋骨骨折等で選手生命も危ぶまれていた山川竜司が、エキシビジョンながらも奇跡の復活を果たした。登場の際から、リングに立てる喜びのため涙が止まらない山川。試合は敗れたものの、心配された頭部への攻撃をクリアするなど今後のレスラー人生に自信をつけた。試合後はリング上で小鹿社長を筆頭に選手全員で記念撮影。横浜アリーナに到達した記念と、これからの大日本の新たなる門出を祝した。乾杯！

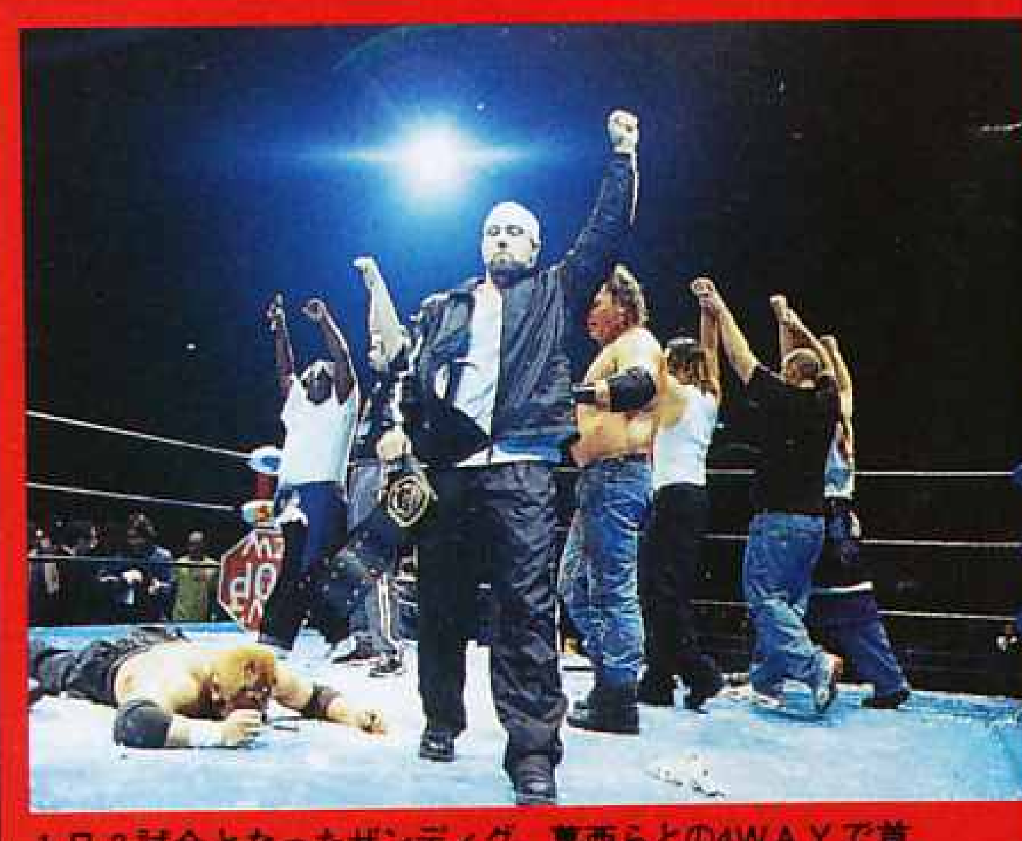
M・テイオー
○ 関本大介

7分40秒
片エビ固め

山川竜司 ×
金村キンタロー







1日2試合となったザンディグ。葛西らとの4WAYで首を負傷しテーマ曲が鳴り終わっても現れず。ドクターも試合中止を宣告するなど会場が騒然となったが、不意にCZWテーマが鳴り響き復活登場！　あっけにとられる松永をガラス爆破させるなどで葬り、CZW勢の大日本撤退を宣言。松永も大日本への不満とも取れるマイクアピールをし、こちらも撤退を匂わせた。どうなる、大日本!?



ケガで欠場って一度もないんだよね。（デスマッチは）一生やると思う

れて「テストは全部こなしたけど、お前背が小さいから受かんないと思うよ」って終わってから言いやがってよぉ。北海道の実家帰って通知を待ってたけどずっとこねえし。催促の電話入れたら『もうちょっと待ってください』って。何度か催促したら『帯広の大会に来てください』って言われて、その時、試合前に社長の面接受けたら（小鹿のマネで）「じゃあ来い」ってアッサリ合格。何でそんな時間かかったと思ったら、その先輩の野郎が履歴書なくして連絡がつかなかったってオチだったんだよ（笑）。

――アハハハハ！　まあでも、どこの団体でも良かったわけじゃないんですよね。

葛西　俺っちは痛みの伝わるプロレスがやりたかったんだよ。その頃バトラーツはバチバチで波に乗ってたからな。それで対極だけど、大日本はデスマッチで痛みの伝わるプロレスをやってたから。

――観に行ったりは？

葛西　バトラーツは何度も行ってるよ。大日本は一回もねえな（笑）。

――アハハハ！　その頃、大日本には、あんまり興味は無かった？

葛西　行くわけねえよ。あの頃大日本にはドロくさかったからな。

――プロレスはずっと好きだったみたいですけど、中でも印象に残ってる試合とかありますか？

葛西　カブキさんが日本に帰って来て、たぶん鶴見（五郎）さんとやったんだ。その試合は良く覚えてるな。当時ウチのビデオでネーチャンに頼んで録画してもらって、毎日のように見てた。来日する前にテレビで煽るわけですよ。アメリカの試合をちらっと。「おぉ、スゲー、口からなんか吐いてるよ！」って。何回も見てたなあ（しみじみと）。

――日本人で好きな選手は？

葛西　素になっちゃうけどよぉ、折原（昌夫）さんが大好きで。プロレス入るきっかけになるくらい。WARで外道さんと抗争してる頃から好きになり始めて。コスチュームも奇抜で、頭もモヒカンだったし。折原さんの試合見たさに、東京プロレスの両国大会も行ったよ。

――ワハハハ！　あのガランとして逆に豪華だった国技館に。でも折原選手とは意外ですね。じゃあ、今のスタイルのきっかけになった人とかいるんですか。

葛西　あ〜〜、（背中や頭をボリボリ掻きながら）いねえな。ただW★INGとかで、松永さんには凄い影響受けてたから。バルコニーダイブなんて、あそこから飛び下りるって発想が当時はないよ。あれは素人ながらやられたって感じだったもんなあ。

――折原さんも松永さんも2人ともトンパチ系ですね。

葛西　そうだね。自分は素がマトモな人間なんで（照れ臭そうに）。ちょっと外れた人間に惹かれるっちゅ〜か。

——惹かれたとしても、実際自分がやったりはなかなかできないもんですよね。

葛西 ただ、松チャンと闘ってても、この人が昔憧れてた人かとかいうのは実感ないね。昔っから観てたブッチャーも、タッグだけどピンフォールとった時もねえ、なんか夢の中にいるみたいちゅーか、実感がないんだよね。

——でも体が小さいのに、こうやってメインを張れるようになったのは、それくらいやってやろうって思いが強かったのかなと。

葛西 もうブッちゃけて言うけど、同期が自分含めて4人いてさ。中でも一番デキが悪かったのは自分。練習中も、某先輩に「お前センスねえなあ。お前が夜逃げしても誰も悲しまないから辞めちまえ！」ってずっと言われてて。それがバネになった。その悔しさだよね、辞めないでここまで来たのは。単純に恨みがあんだよ（笑）。

——精神面で鍛えてたんじゃないですか？

葛西 っていうより、向こうからしてみれば、ただ単にイジメだね。

——アハハハハ！ 嫌なヤツだと。

葛西 嫌なヤツだよ〜。

——辞めなかったのは負けず嫌いだったからですかね。

葛西 それもあるね。あとプロレスが好きだっていうのが一番デカいと思う。辞めて他に何やるって思い浮かばないもん。

——ちょっと戻って、北海道時代はどういうトレーニングをしてたんですか。

葛西 ひたすらウェイト。その頃の方が今より身体デカかったよ。それが今はなまくらでおっこったな（笑）。あと、ぶっちゃけた話、関本（大介）が入ってきた時に考えが変わった。アイツ凄いじゃん。そいつと同じことやったって勝てっこないし。じゃあアイツに勝てることっていったらデスマッチしかないって思ったんだよ。

——それを転機にデスマッチしかないって決めちゃったんですか。やってみたら向いてたってよりも、決心の元でデスマッチを選んだわけですか。

葛西 大日本にはデスマッチをやろうと思って入ったけど、ぶっちゃけた話、ここまでやるつもりはなかった。

——デスマッチを始めた試合は？

葛西 ウィンガーと組んで松永&山川組とやってからだね。やられてばっかだったけど、凄い評判良くて。ここ最近はCZWとばっかだったんで、そういう色が出せなかったね。出したかったけどアイツら相手にはムリ。大味なんだよね、やってるとつまんない。観てる人もつまんなくなっちゃうよ。そこが良く分かってねえんだよ。

——でもCZW勢が来てから、今の大日本カラーができたと思うんですが。

葛西 本間（朋晃）がいる辺りまではCZWもそういう考えがあったんだけど、俺っちとボスが組み始めた頃からだんだんそういうのがなくなってきてよ。大したことやんなくてもワーワー言われて人気も出て、そんで勘違いしちゃったんだろうな。そっから、どんどん試合がつまんなくなってきた。でもこっちからしてみたらたまんねえよ。ザンディグの尻拭いばっかりだから、今年後半は試合してても面白くなかった。前半このキャラで飛ばしたけど、その貯金ドンドン使って、横浜で全部使い果たしちゃって、スッカラカンだよ、オメエ！

——ボ、ボクは知りませんよ。「デスマッチをなんであそこまでやるの？」って声もあるんですが、やっぱりプロ意識なのか、それとも、お客さんに乗せられてやっちゃうものなんですかね？

葛西 乗せられてやっちゃうんじゃない？（笑）。「何が一番痛かったですか？」って、よく聞かれるけど、純粋な痛さでいえばザンディグとのガラスマッチの時のガラスだな。でもある意味一番痛かったのが、自分がペーペーの時、有刺鉄線ボードデスマッチをやったんだよ。時期が冬で、しかも凄い会場が寒くて、キャパが7〜800人るとこにお客が30人くらいなんだよ（笑）。

——贅沢さで東京プロ越えましたね（笑）。

葛西 そこでやったデスマッチが痛かった。ぶつかってもお客がうんともすんとも言わない。寒いし、アドレナリンも出ないし、あれが一番痛かったよ（キッパリ）。やっぱお客さんの存在はデカイですよ。

——葛西さんはお客さんを巻き込んだ所が新しいですよね。大仁田さんは無理矢理『オイ、オイ、お前らー』『シェー！』だったけど、それとは違いますよね。

葛西 ガハハハハ！ でも、最近じゃ人気も落ちてきてっからな。

——そんなこともないですよ（笑）。

葛西 CZWにつきあってたのがダメだったね。アイツらとカラんでたらダメだよ。自分のモチベーションも下がってくるしよ。

——でもあれだけのデスマッチを続けてると選手寿命も短くなりそうですよね。10年持つ体がとか、そういうことを真面目に心配したりはしないですか？

葛西 そんなの一度もね〜よ。でも大日本で一番過激なデスマッチやってるのは俺っちだとは思ってるよ。『神風』なんて普通のレスリングだし、（シャドウ）WXだってやる方はあっても喰らう方は少ねえだろ？ でも俺っちはケガで欠場って一度もないだよね。だから、自分の中では一生やると思ってる（キッパリ）。

——まさに死ぬまでデスマッチ魂ですね。いまWWFで大日本出身のTAJIRIさんが活躍してますけど、TAJIRIさんとはやってみたいですか？

葛西 やりたいね。大日本では自分と入れ違いだったから。後楽園の入門テストで一回話しただけで。でもその時、体ゴッかったから覚えててくれてて、何度か電話では話をしたんだよ。やりたかったなぁ。

——デスマッチファイターで、TAJIRIさんと噛み合いそうって思える人、他にはいないですよね。

葛西 こんなのが何人もいたら困っちゃうよ（笑）。以前だと、ヨネ原人がいたし。でもこういうキャラがいない時に、俺っちもいいタイミングで覚醒したね。

——これからは、非道選手と組んでガンガン行く感じですか？

葛西 2人でも充分だけど、あと1〜2人は欲しいよな。日本人でも外人でも強くてルックスの良いヤツ。俺らのルックスと



Jun Kasai

つり合うような人間いいけどな。あと酒が強いヤツ。非道クンも俺っちも結構イケる口なんで。

—それについて来れないヤツは……。

葛西 ダメダメ。最近の若いヤツは呑めないのばっかりだから。大日本の連中も酒呑まないのばっかだしよぉ。酒呑んでナンボだよ、レスラーは。良く呑み、良く食うっていうのは基本だね。呑んでスナックで暴漢に刺されるくらいがちょうど良いんだよ。

—レスラーはそうあって欲しいですね。酒呑めないプロレスラーってのもねぇ。ちょっと思ったんですがパンチドランカーみたいな感じで、デスマッチドランカーっていうのはあるんですか？

葛西 試合で頭打つんで記憶飛んだりはあるけど。記憶力悪くなったり、ろれつが回らなかったり。それは、普通のプロレスでもあるからなぁ。デスマッチだと……背中が痒くなる（笑）。あとは額に川の字ができる（笑）。それと自分だけなんだけど、蛍光灯やり始めたらションベンの回数が増えたような気がするな。ただの糖尿じゃねえかって（笑）。

—それ飲み過ぎじゃないですか（笑）。

葛西 何か早いんだよな。

—今後はデスマッチファイター志望者がドンドン増えていって欲しいですか？

葛西 でも、増えた分ライバルも増えるしな。ただ出てこないとそれはそれで寂しいし。微妙なとこだな。ただウチに入門してくるヤツでも、デスマッチやりたいって入ってくるヤツはまるっきりいねえからよ。

—あの凄さ見て、「オレも血まみれになりてぇ！」ってなかなか思わないですよね。

葛西 まあ、普通じゃ勤まんねえだろ（笑）。

—非道選手も、W★INGの松永さんが飛んだ時に『これや！』って思ったって言ってますからルーツ的には近いですね。では、デスマッチ食わず嫌いの人に葛西純のどこをアピールしますか？

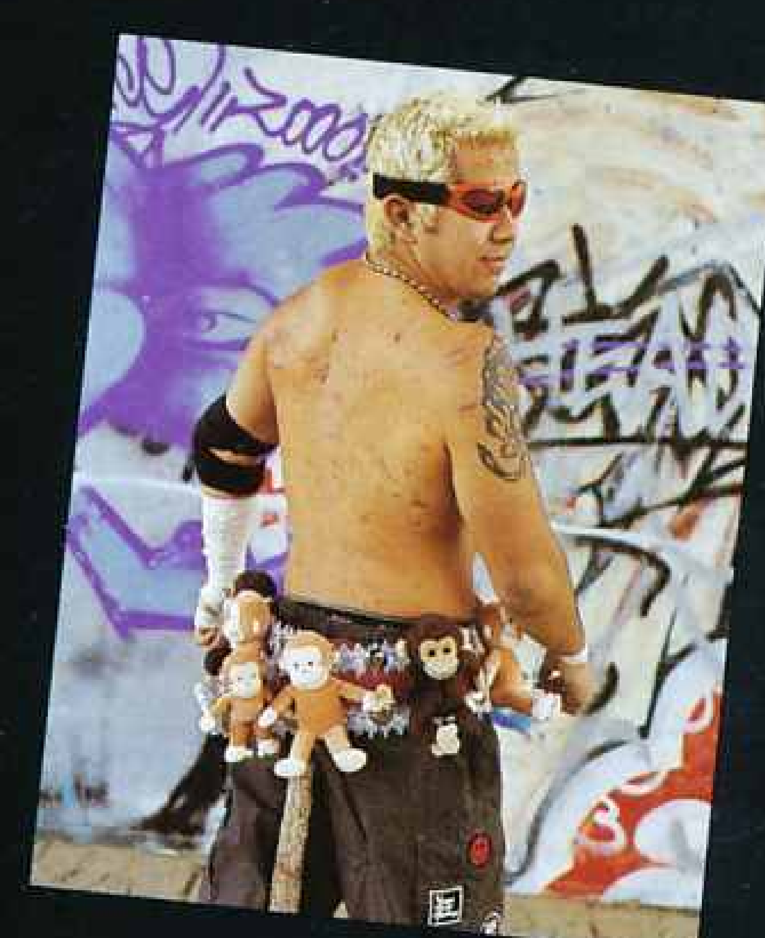
葛西 でもデスマッチでもいろいろあっからよ。中牧vsミスターポーゴみたいのもあるし（笑）。デスマッチの中にもプロレスの醍醐味を織りまぜた新世代デスマッチもあれば、オレッちと松チャンの裸足画鋲みたいな、デスマッチなのになんか笑えるようなのもあるし。デスマッチの新しいあり方を見せられたかなと思うね。

（体に）ガラスが埋まって、掻いていると自然にボロボロ出てくる



「小2の時、地元で観た全日最強タッグが豪華で、ブロディ・スヌーカ組、ファンクス、レイス・ヘニング組、カールクラップ・ラシク組、あと極道コンビもエントリーしてたな（笑）」。それ以来、熱狂的なプロレスファンに。小さいながらも、その心意気でプロレスラーになり、現在では大日本を引っ張る日本人選手の中心的存在。今までにない、過激さと笑えるデスマッチの融合に日々爆進中！

Jun Kasai



—笑えるっていうのは無かったですよね。

葛西 金村とやった、はしごから落っこちるヤツとかさぁ。「シェー！」で机割れないで顔打ったり。

—そこら辺は葛西さんが確立したと。

葛西 俺っち以外に今まであんなデスマッチやった人間いなかったよな。デスマッチで笑いが起こるなんてことはよぉ。自分としては凄惨なデスマッチもできれば、子供にも見させられる笑えるデスマッチもできてっていう両方をやっていきたい。嫌なヤツは見なきゃいいしな。そういうヤツらがプロレスとして認めないって言うのも、それはそれでいいんじゃない？ どってことねえよ！

—でも、デスマッチと限定しないで、自分の試合を一度でも観れば、もう一回観たくなるはずだっていう自信は？

葛西 そういうのはあるね。ただ、外でそういうのやる機会がないからな。

—さて、ちょっと音楽の話を。パンクは昔から好きだったんですか？

葛西 昔はボウイとか聴いてた（笑）。6、7年前からだね、ハイスタ、ココバットとか聴き始めて。最近はスリップノットとか。（ボリボリ背中をかき始めて）だんだん背中が痒くなってきた。

—どうしたんですか？ サルだけにのみでも？（笑）。

葛西 いねぇよ。痛痒いんだよ。ガラスが埋まってて、掻いてると自然とポロポロ出てくるんだよ。ボリボリ…ホラッ、蛍光灯（笑）。

—凄い！ ビックリ人間みたいですね（笑）。ガラスの破片はそのままですか？

葛西 そのまま放っとく。放っとくと勝手に出てくんだよ。掻いて出てきたら、「あっ、ガラス出てきたよ」ってぐらいのもんだね。

—そんなに体を酷使してるのに、割に合わないですよね。いつかはビッグマネーを掴みたいとかって願望はあるんですか？

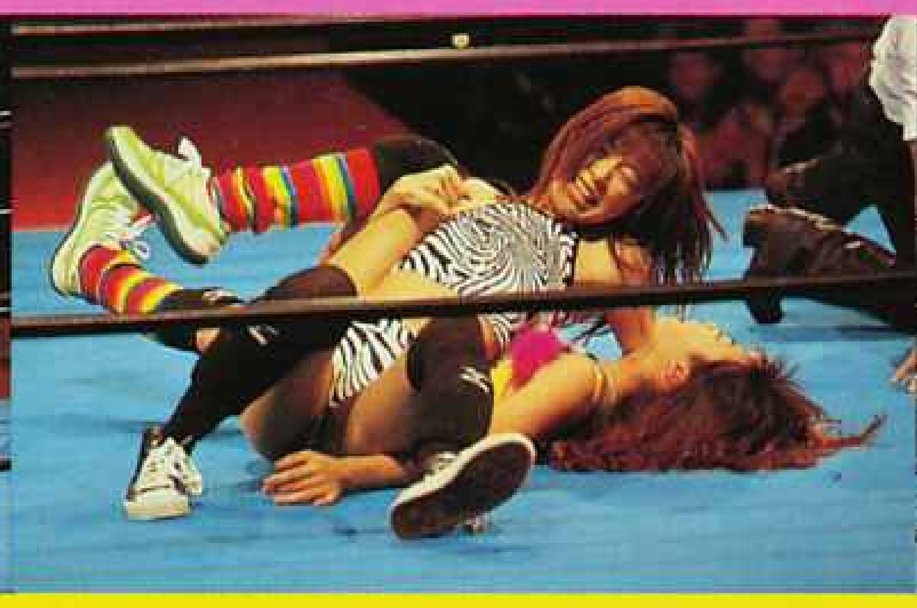
葛西 お金にしていきたい気持ちはあるけど、ただ、お金が欲しいんなら他の仕事してるわけだし。でもあるもんはあった方がいいけど、それも大日本次第だから。まあ俺っちが頑張ってそうなるんなら、体張って頑張るよ。

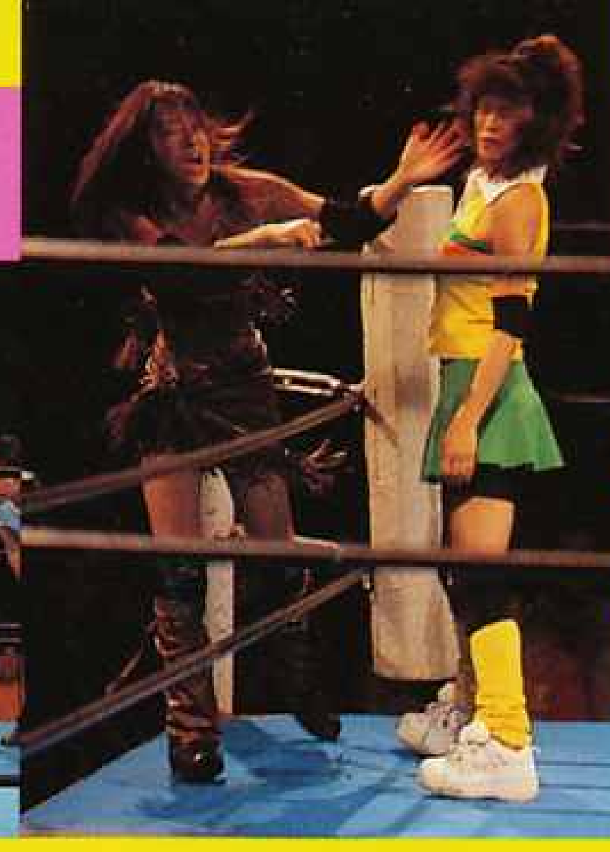
—さすが、デスマッチの申し子！ サルベルト防衛戦目指して頑張ってください。

葛西 言われなくても頑張るってぇ〜の！

【12月7日／米国・ヒラデルヒアにて収録】

こんな女子プロなら何度でも見たい!!




女子プロの可能性はここにあり!!

渋谷系女子プロレス

構成／松澤チョロ
助っ人／寺島ジャイ夫
撮影／丸山剛史
designed by matsu（Two three）

11.21『渋女』ディファ有明、最初で最後の旗揚げ戦

大・成・功♥



忘れた頃にやってきた！ 何のことかというと、渋谷系女子プロレス、略して『渋女』のことである。本誌では放映前から、どこよりも詳しく『渋女』情報を伝えてきたが、実際にテレビ放送が始まると急にトーンダウン。最終回を前に何と興行を行うとのことで会場へ。そこで見たプロレスは……女子プロの可能性はここにあった！



女子プロレスラーの皆様！
目を覚ましてください!!

なんといってもリング上での表情が抜群に良かった西村優子。ドラマの中では、それほど目立った活躍はなかった西村だが、リングの上で大爆発！

１日２試合となった西村、１戦目ではキレイなブレンバスター、そして大見得を切ってピープルズ・エルボーで衝撃のデビュー戦を飾った！

19歳で身長は170cmという抜群の体格を誇る西村優子。もちろんアイドル、顔だってカワイイ。本人は本気でプロレスのリングに上がりたがっている。

最後は井上京子演じるジョーカーの高速ジャイアントスイングで必要以上にまわされ、フィッシャーマンでフォール負け。試合後、花道で涙がキラリ

なんと必殺技はピープルズ・エルボーだ！

渋谷系女子プロレス、遂に始動！といっても、今後興行を打っていく訳でもなく、いわゆるテレビの収録という形で行われた。観覧募集で集まった約500人のファンの前で、遂に渋女のベールが解かれた。

ズバリ言って、今回観戦に来た全ての人が、今まで『渋女』で繰り広げてきたドラマを完全に把握し、それぞれ選手（タレント？）のストーリーも理解しているとは限らないし、『紙プロ』読者の中でも、完全にストーリーを理解している人は、正直微々たるものであっただろう。

ある意味、プロレスは観る前に選手に対する多少の思い入れがないと試合に乗り切れない部分があるのも事実。その点で、渋女は言わばマイナスの状態で、眼の肥えたプロレスファンの前で試合を披露しなければならなかったわけである。しかも、今日が初めての試合となる彼女達の気持ちを考えると、こっちが心配しちゃうぐらいだ。

が、その心配は直後に無用であることに気付かされる。

正直、オモロかった！　実は筆者も予備知識を全く持たずに、ナメた意識で観戦に挑んだのだが、そんな意識も軽く吹き飛ばす程の衝撃を受けた！

試合の方は、観客が思っていた以上の内容だったのではないか。台本があるにしろ、自分の必殺技までもっていく展開を大事にした試合内容で、十分に楽しめる内容だった。多少の技の失敗は目をつぶろうじゃないか。

なかには「本格的にプロレスラーとしてやれるんじゃないか？」とも思える選手もおり、事実、この大会に参加した〃



いまやグラビアアイドルとして、すっかりお馴染みの市川由衣もプロレスデビュー。可愛らしさ満点（しかしエグイ）のジャンピングニーやキャイ～ンジャンプ（？）を連発。もう一丁！



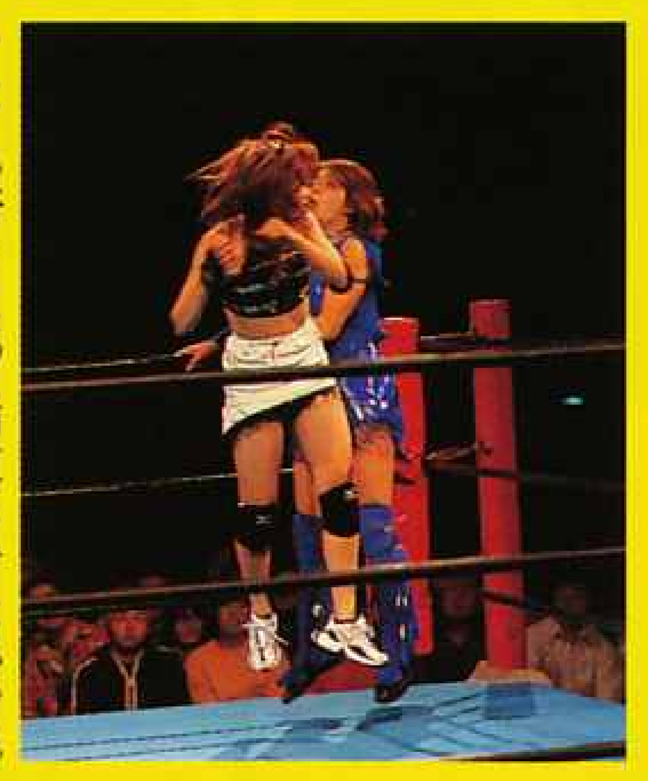
「渋女」のメンバーは自分のアイデアを取り入れたコスチュームを身に付け闘った。それほど奇抜なデザインはなかったが、最近の女子プロのコスチュームと比べると、ちょっとだけ斬新だった



もともとプロレスにはあまり興味のない女の子ばかりだった「渋女」メンバー。数ヶ月の特訓のおかげか、果敢にサブミッションにチャレンジする娘も



ドラマの中では街で男相手にストリートファイトを仕掛けまくっていた藤井真喜子。試合でもキャラ通りに鋭い蹴りや張り手をビシバシかまし、最後は変形のストレッチ技で勝利！



レスラー宣言をしたのは西村だけではなかった。武藤ばりの側転エルボー（＆前宙バージョンもあり）を披露した若干14歳の高田衣李紗。彼女もプロレスに興味があると発言

台本を吹っ飛ばす熱いファイトが続出!!



ドラマの中のワンシーンとは言え、何年振りかに復帰した工藤めぐみから3カウントを奪った「渋女」リーダー宮本麻弥。「渋女」第2弾興行、よろしくお願いしま～す！



番組終了間際になって、サイン会やら、DVD販売等、ようやく盛り上がりを見せつつある「渋女」。女子プロ顔負け、本家アイドル（＆予備軍）グループがリング上で歌って踊って闘っての大騒ぎ。こんな女子プロ団体があったら、通いつめてやる。

この日のMVP 西村優子を直撃！

またプロレスやってみたいです！



渋女、楽しかったです！　自分たちはどう上手く格好良く見せるかとか、痛く見せるかっていうところをやってきたから、それできっと渋女は楽しいんだと思います。ホントにはやらないんだけど、でもお客さんを楽しませるって感じで。でも、勝てて嬉しいっていうのもあるし、分かってて負けるんだけど、でも悔しいっていうのもあるし、みんなが応援してくれるっていうのも嬉しくて……。だから、投げられるのもいままで全然やってなかったから、歯で噛んじゃって舌切っちゃって。昨日夜に夢で舌が千回切れちゃう夢見ちゃって（笑）。やっぱりわかってても、そんくらいやる前はすっごい怖いんですよ。なんでも全てが。あとで凄いことやっちゃったと思いました。ホント全部嬉しかったです！　なんかこれからも渋女みたいな気持ちでプロレスやりたいなって思いました。ホントにありがとうございましたって感じです。私、良かったですか！　キャハハハ!!

本物の"女子レスラーからも「スカウトしたい」との発言も飛び出した。

また、興行としても、歌あり、踊りありといった、往年の女子プロ全盛期のそれがふんだんに織り込まれているので、お得感満載の内容。しかも、レスラーはホントに若くてカワイイ。

まさかこの試みが、こんなにも新鮮で衝撃的なものだったということに改めて気付き、ちょっと恥ずかしくなってしまった。ナメててスイマセン。

と、ココまでベタボメだったが、もちろん反省点もないわけではない。

この試合までのストーリーを見せていった肝心のドラマ自体が、あまり高いレベルのクオリティーではなかった。TV界で一線級の作家を投入してストーリー作りに挑んだのが、ことプロレスが題材となると難しいと言うことか。

しかしながら、今回、渋女が示した女子プロレスの新しいスタイルは、旧泰然としている女子プロ界に今後、何かしらの影響を与えていくことは確か。現に『めちゃイケ（CX）』での『めちゃ日本女子プロレス』は、現役バリバリのアイドルが、感情丸出しで完成度の高いプロレスを展開し、しかも抜群の面白さを誇っていることを考えると、無視できない存在であることは間違いない。

やはり、渋女のように、若くてかわいいレスラーが活躍することは、女子プロの活性化にとっていいことなのだろう。女子プロが、再び一大ムーブメントを巻き起こすためには、それぐらい大幅に変革するしかないのだ。

女子プロよ、変われんのかーッ!?

（文・寺島ジャイ夫）

まだまだあるぞ、女子プロ&格闘技の新風！ お前が見たいのはどれだ？

果たしてお色気路線に未来はあるのか？

Aky、キャットファイト団体を旗揚げ！



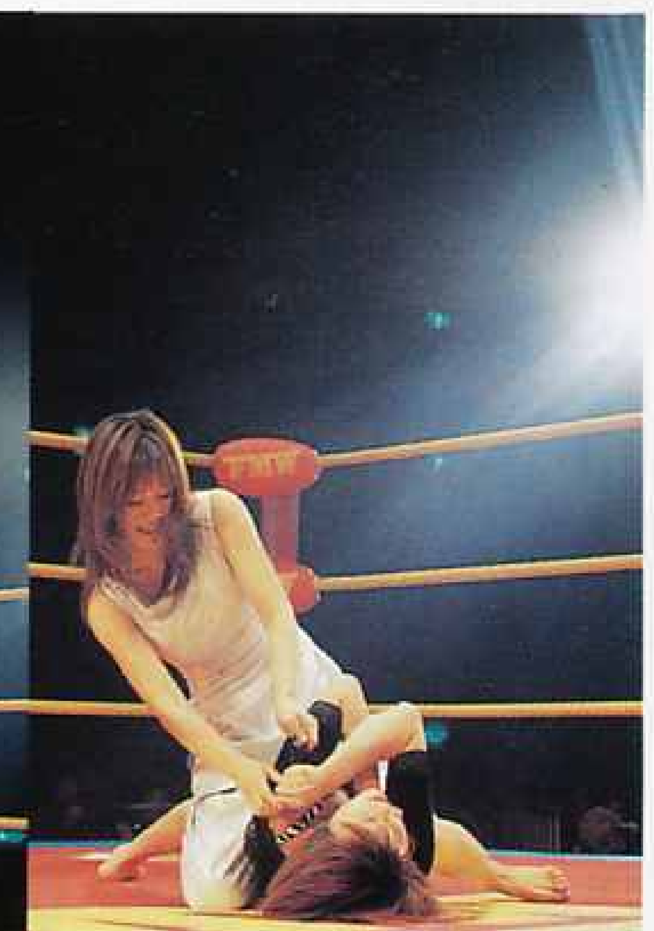


あの現役女子プロレスラー・Aky（ミス・モンゴル）が自身で旗揚げしたキャットファイト団体がこのCPE。参加レスラー（？）の中には、ギャル系・AV女優・女王様・キ○ガイ・なぜかつぼ原人とまさにゴッタ煮な内容。しかし、AKIRAvs松井恵梨改め鮎川忍のKO・ギブアップのみのガチンコマッチは必見。あの新宿の魔窟・ロフトプラスワンにもの凄い熱気が立ちこめるのは必死だ！

～Cat Panic Entertainment～
CPE「プレ旗揚げイベント」
■日時：12月25日（火）OPEN 18:00／START19:00
■会場：新宿・ロフトプラスワン
■入場料金：3.500円（ロフトプラスワン店頭＆バトルにて発売）
■対戦カード：梅宮貴子（CPE）vsつぼ原人（つぼプロ）　風音（CPE）vsLa.malcriada（CPE）AKIRA（CPE）vs鮎川　忍（フリー）荒莓（CPE）vsセリカ（静岡CFC）Mr.MANAI（CPE）vsアムリタ（中野貴雄軍団）
■お問い合わせ：C.P.E.事務局　0120-105-434

FMW、ドレス剥ぎマッチ敢行！







WWFでのパンティー＆ブラマッチは相変わらず抜群らしいが、FMWも負けじと11月の横浜大会で敗者追放ドレス剥ぎマッチを敢行した！ エロ関係には、なにげに強いFMWだけに、WWFに負けないドレス剥ぎが見られるかとリングサイドで大いに盛り上がっていた（どこが？）。今回対戦したのは、美玲ちゃんとミスター雁之助の愛人MAKIKO。ボリューム的にはさすが洋モノにはかなわないが、タレント的には、なかなかの上玉。しかし、WWFと決定的に違うのが、やはり女の子のプロ意識だろう。WWFと同じように、FMWにも台本があるのだろうが、どうにも迫力もエロも伝わってこない。時折恥ずかしそうに笑みを浮かべながら闘っていた2人。これには興ざめ。やるんだったら、とことん馬鹿にやれッ！

女子総合格闘技をリードするのはどっちだ？

スマックガール 2月3日からダッシュ！



2月大会で、いよいよプロデビューをはたす篠原光。日本全国の喧嘩娘。よ。3日はディファに集合！

右の『AX』との分裂騒動があったスマックガールも来年2月からリニューアルして再スタート！ 前号での篠社長インタビューでご存知の通り、名称も『渋谷系女子格闘技SMACK GIRL』から、『格闘エンタテインメントSMACK GIRL』と正式に変更し、よりエンタテイメント色を強く打ち出した“新生”スマックガールが帰ってくる! 選手の離脱はあったものの、お馴染み“東京喧嘩娘”篠原光や“ミクロの決死隊”ナナチャンチンの参戦は確実で、スマックガールをよりいっそう盛り上げてくれることは間違いないだろう。噂では現役モデルで身長が180゜級（！）という超大型選手が参戦するとの噂も流れている。もし“闘うレースクイーン”中島智希との対戦があれば、モデル対レースクイーンという女の仁義なき闘いが見られるかも知れないのだ。とにかく演出面においても凄いらしい新生スマックガールは、やっぱり要チェキだ!

『格闘エンタテインメントSMACKGIRL』
2001年2月3日　ディファ有明　※詳細は後日発表。刮目して待て！

マァ☆ティンvsアマメダリストが実現!



【星野育蒔】デビュー以来7戦無敗の星野。今回の相手は体格差も変わらず、しかもレスリングの強豪とのことで楽しみ

VS



【辻　結花】1年10ヶ月の間、スウェーデンにレスリング留学していた辻。国際大会での優勝経験も2度あるという

『AX』の第2戦が東京・六本木のCCCホールで行われる。もちろん『AX』の最注目は星野育蒔につきる。デビュー以来、破竹の連勝記録を伸ばしまくるマァ☆ティン。年の暮れにスウェーデン帰りの強豪との対戦となるが、ここでインパクトのある勝利を収めたら、文句なしに今年度の女子格闘家MVPと言えるだろう! もちろん、辻ちゃんも頑張って! そして『AX』を観たら渋谷での『紙プロ』イベント（P111参照）へ向かえ!

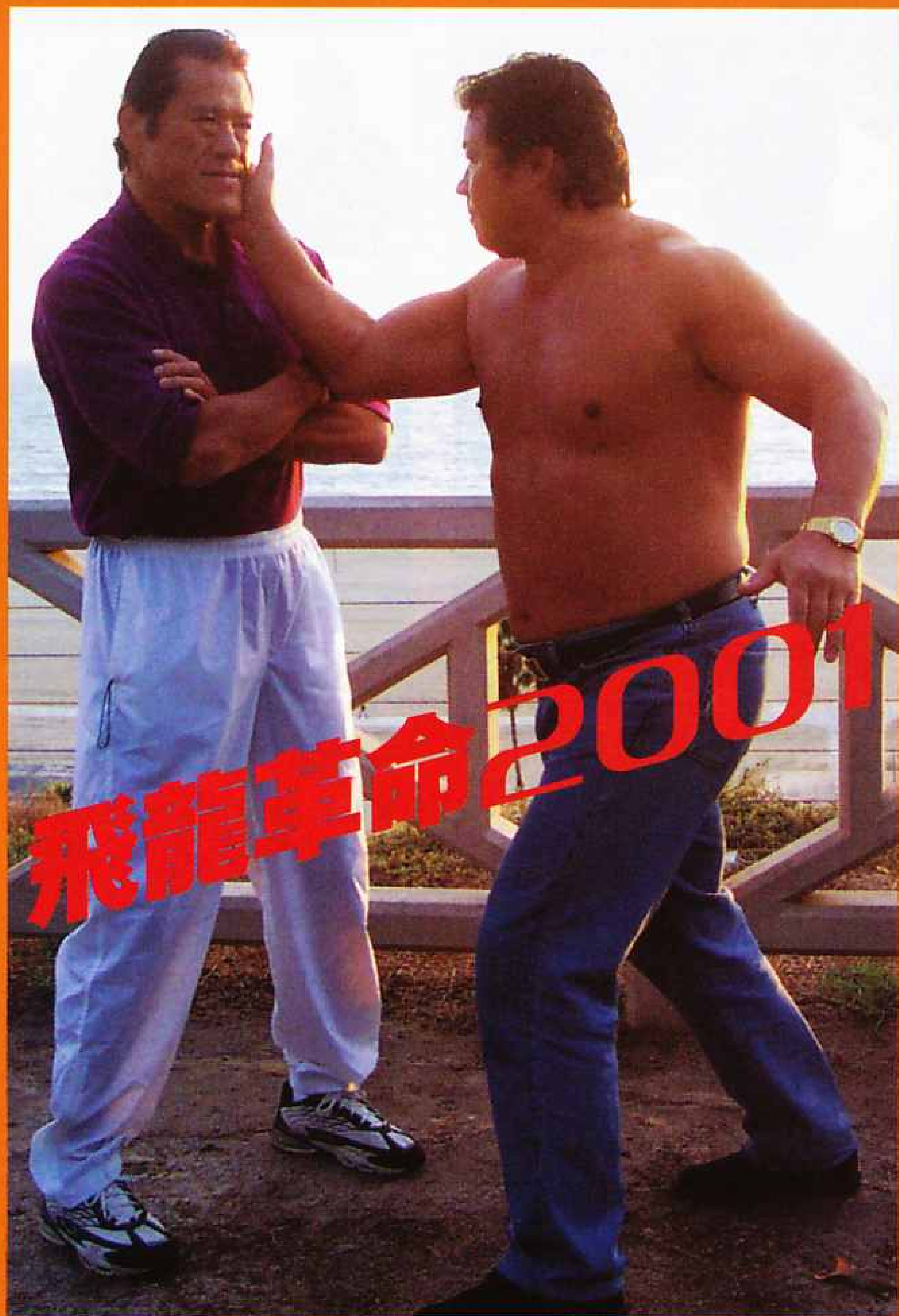
女子総合格闘技AX　旗揚げ第2戦
「We Want To Shine ～輝きたいの」
■日時：12月26日（水）　開場 18:30／開始 19:00
■会場：六本木・TSKビル　CCCホール
■入場料金：スーパーシート：6,000円　特別リングサイド：4,500円　hi-hoシート：7,000円（星野育蒔応援席／特典付き 限定16席）立見：3,000円（当日のみ）中高生、55歳以上：1,000円（当日のみ／要身分証）小学生以下：無料
■決定カード：星野育蒔（米里倶人満）vs辻　結花（総合格闘技・闇愚羅【アングラー】）
■チケット販売：チケットぴあ　03-5237-9999　ＤＤＴステーキ　03-3515-6465
米里倶人満・小伝馬町支店　03-3639-8605
※尚、hi-hoシートはＤＤＴステーキ、米里倶人満のみの取り扱い
■お問い合わせ：女子総合格闘技AX　03-5286-7921

紙の新聞

●マット界の1ケ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ
助っ人／佐藤耳男

11/17➡12/13



飛龍革命2001勃発！ 年の瀬を迎え、ドラゴンが狂い咲きを見せている！ ストロングスタイルの象徴である黒のショートタイツを脱ぎ捨て、突如、赤いパンツに変身。赤い彗星シャア専用ドラゴン（でも機能は旧ザク）となり、マット界に打って出る決心をした！ そのためには師匠、猪木の頬に寸止めビンタをすることもいとわない！（脱いだシャツはいったいどこにいたのだろう）このまま突っ走れ、ドラゴン！

11/23



【新日本プロレス】

健介、破壊王に決着戦要求

正直、血迷った！ 例によって1・4東京ドーム大会で巴戦に出場が決まっている佐々木健介さん（ちなみに息子の名前は健之助）が、その巴戦に出ることを渋っていた現IWGP王者・藤田和之対し「面倒くさい。もう来なくていい」と、藤田に三行半を叩きつけ、しかも小川には「橋本を連れてこい！」と、以前失神KOされられた因縁の相手、橋本真也の名前を挙げた。「もう名前あげたからな！ 逃げるなよ！」と、遺恨決着戦の様相になってきた。しかし、猪木祭や「PRIDE」に流れが向いているこの時期。あまりに健介さんらしい、的をはずした言動だった。

11/21

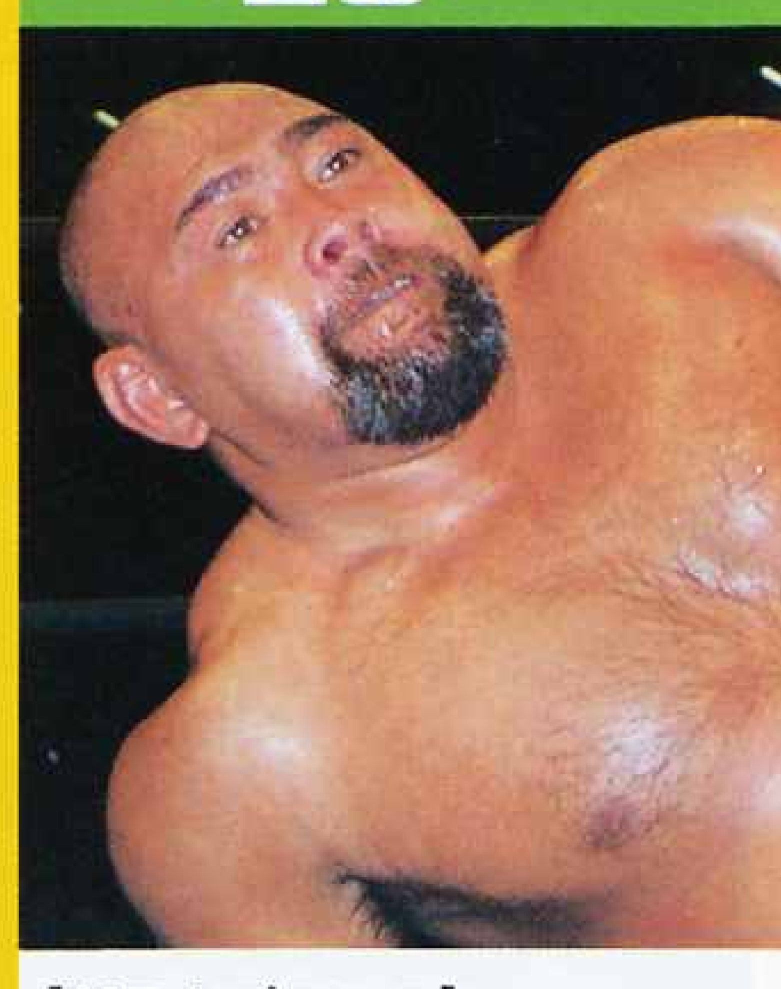


【キングダム・エルガイツ】
後楽園ホール

涙のカリスマ入江がパンクラスを下す

「ヒ、ヒクソンと闘わせてくださぁ〜い！」やわらそう言うと号泣しては関係者を困惑させ続けた、あのキングダム・エルガイツ代表、入江秀忠が遂に現役パンクラシストと対戦、そして勝利してしまった。そのパンクラス代表はこれが久々の試合となる稲垣克臣。その稲垣から入江の執念が優ったのか見事、判定勝ちをもぎ取った。試合後入江は「あと2つのことをクリアすれば隣の白い屋根での闘いが可能になります！」と、なんと東京ドームでヒクソンに挑戦する事をほのめかした。その2つとはスポンサーと実績だという事だが、どちらにしても関係者は困惑顔だった。

11/20

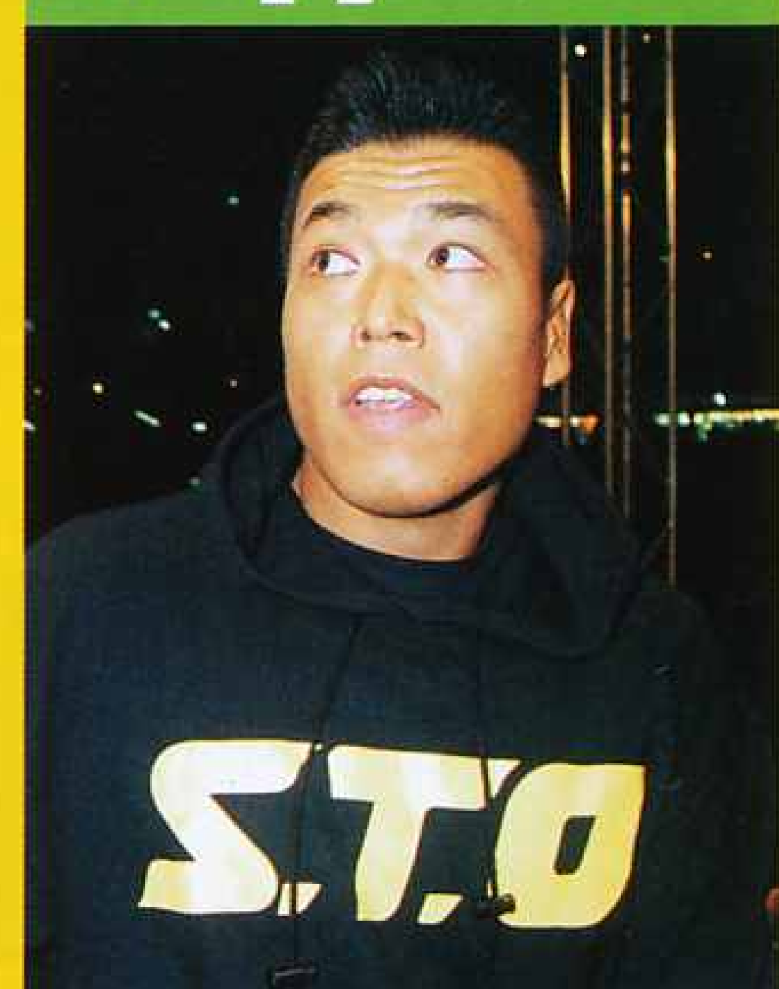


【新日本プロレス】

武藤 “社長争奪マッチ”迫る

ドラゴン、社長解任のピンチ！ 念願の3冠挑戦が決定しながら、なぜかIWGPタッグ戦とWヘッダーで開催という意味不明な要求に武藤がキレた！「社長の立場もわきまえず、現場を無視する失言ばかり。おれが好意で3冠挑戦の資格を与えたのに勘違いしてダブルヘッダーなんか持ち出してさ、みんなが迷惑しているよ。もう3冠戦のことは考えない。どうしても3冠戦をやりたいなら、次期社長の座をかけろ。ダメな社長の代わりにおれが新日本を仕切って社長業をやってやるよ」己の失言によって招かなくてもいいピンチをいちいちまねくドラゴン。その学習能力のなさに乾杯だ。

11/17

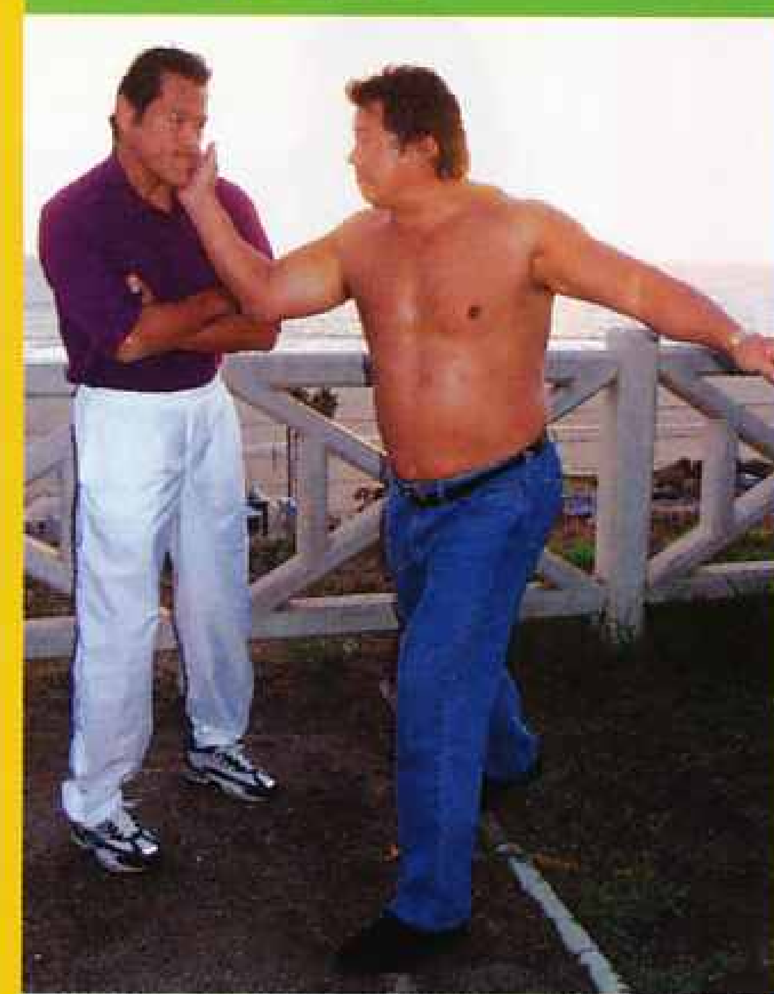


【新日本プロレス】

健介、小川に秒殺指令

正直、秒殺で勝て！ 「正直、スマンかった！」が一部で流行語大賞に推されていた佐々木健介さん（九州男児）が、現在1・4東京ドーム大会にて、巴戦で当たる事が決まっている小川直也に不敵なエールを送った。今現在、小川の猪木祭参戦は決まっていないが、健介さんは「（もしK−1との対抗戦に）出るのなら秒殺してこい」と偉そうに発言をした。生真面目な健介さんにはめずらしい、試合前の駆け引きとも取れる発言。しかし、フロリダ修行の成果からか、最近絶好調の健介さんが、小川に対す「お互いにいい状態で闘おう」という意思表示なのだろう、多分。

11/24

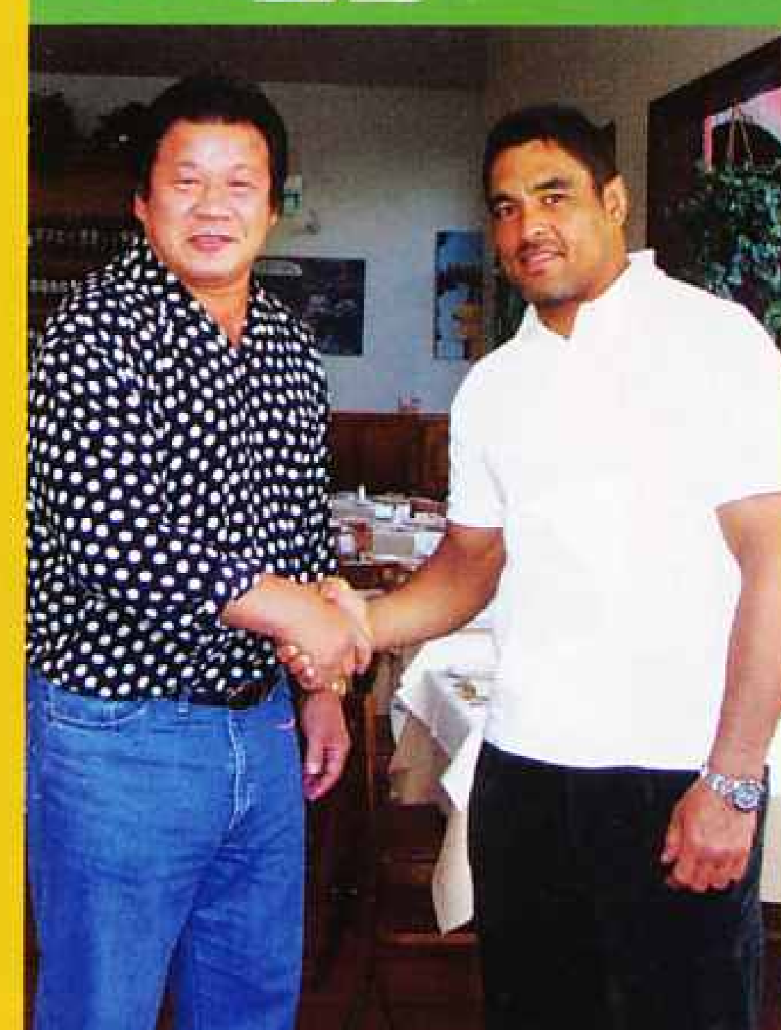


【新日本プロレス】

ドラゴン、半裸でビンタ！

笑撃！「猪木さんにちょっかい出されても何も言えないグズ」（by武藤）と言われてきたドラゴンが、なぜか上半身裸になって猪木の頬を張った！（手を置いた？） 常に意味不明な行動をとってきたドラゴンだけにその行動の真意はわかりかねたが、翌日、その理由が明かされた。「格闘技界の頂点に君臨する猪木さんの毒をのみ込むことにしました。猪木さんの毒をのみ込むということは、格闘技界すべてをのみ込むということです。猪木祭りに負けない大きなイベントを開催します」 おお！ っていうか、ドラゴンがロスに来てまで、アントンにすっかり騙され毒を飲まされただけのような……。

11/25



【新日本プロレス】

ドラゴン、ロスでヒクソンと遭遇

歴史的握手が遂に実現！ あのヒクソン・グレイシーとドラゴンがロスのレストランで偶然遭遇。ガッチリ握手を交わした。前日、アントンに対し半裸ビンタをかましゴーゴードラゴン状態に突入している藤波辰爾（48）は、ヒクソンとの遭遇を興奮気味に語った。「彼もプライベートだから、挨拶ていどしかできなかったけど、やっぱりボクを見た瞬間、彼の目がギラギラ光ってファイターの目になったね」……まさか、来年予定されているヒクソン・グレイシーとの試合に今にも名乗り上げんばかりのドラゴン。ヒクソンvsドラゴン……見たい！

11/26



【新日本プロレス】

健介、すぐに橋本戦を見切る

正直、身勝手！ つい3日前に、1・4東京ドーム大会で橋本真也との遺恨決着戦を提案した佐々木健介さん（奥さんは北斗晶）は、「（新日本に）利用されるだけ」と、全く興味ゼロな破壊王の態度を受けて、「そんな言葉出されたら、正直、力抜けたよ」と久々に正直節を炸裂させるなど橋本に対して失望感をあらわにした。「やる気のない奴とレベルの低い争いはしたくない」と、一方的に参戦を要求したくせに、こちらも一方的に見切りをつけるという健介さんらしさを爆発させて、「これがホントの3日坊主」という体を張ったギャグも見せつけられる形となった。

11/27



【ZERO−ONE】

破壊王と天龍が岐阜城で開戦！

"破壊王"橋本真也と"風雲昇り龍"天龍源一郎が岐阜城をバックにしてガッチリ握手！ ここまで天龍が「世界最強タッグリーグ戦」のパートナーに橋本を指名し、橋本も「光栄です」と、お互いマスコミを通して共闘ムードを漂わせていたが、この日の直接会談で橋本が「胸を借りたい」と頼めば、天龍も「熱い闘いがしたい」と開戦or共闘OKの姿勢を打ち出した。今後ZERO−ONEのリングで、橋本vs天龍の名勝負数え歌が甦る可能性が高くなってきた。橋本は地元でもある岐阜で自主興行することも考えており、岐阜城で握手した縁から、ここで天龍参戦か？

12/3



【新日本プロレス】

"赤い龍" "シャイニング・ドラゴン"

掟破りの逆シャイニング！ 武藤敬司の持つ三冠王座に挑戦を控えた、ご存知トンチキ社長・ドラゴンが必殺技を思いついたという。その名も"シャイニング・ドラゴン"。今まで武藤にはドラスク、足4の字などの必殺技をさんざんパクられた経験から、最近の武藤の必殺技、シャイニング・ウィザードをパクリ返すつもりらしい。また燃えるドラゴンは、その気持ちを表現しようと赤いタイツに赤いシューズで三冠戦に挑むということを考えているのだ。果たして"赤い龍"は武藤の前に表れたのか？ やっぱりドラゴンのトンチキぶりには目が離せないのだ。

12/4

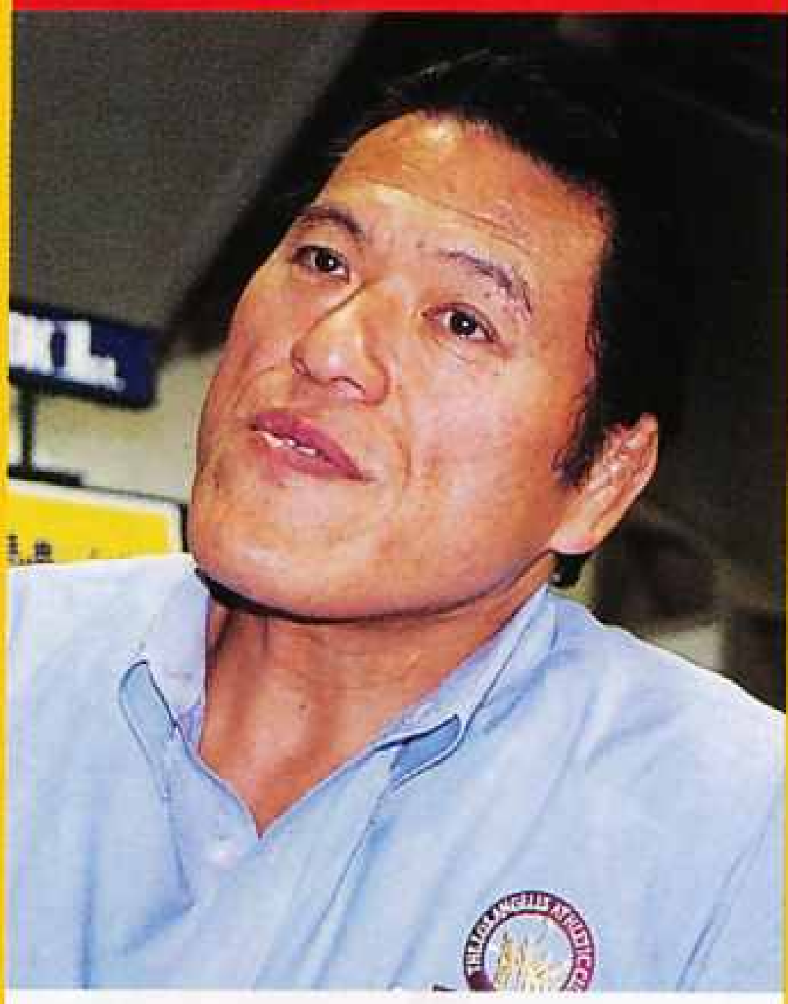


【新日本プロレス】

ドラゴン、猪木戦を要求

「鶴田とやりたい」「前田とやりたい」「俺だって三沢とやりたい」などちっとも実現しない夢を語りまくる「やりたい病患者」ドラゴンの病気がまた発症した！ ロスで半裸ビンタ踊りを披露したドラゴンはなぜかあれで燃えてしまったらしく、突然猪木との対戦を要求！「新日本の総決算をお見せしたい。リングシューズとタイツを持ってきてくれればそれに越したことはありません、とあいさつしたら、猪木さんの顔色がみるみる変わった。目もギラギラって光り出した」……ドラゴン、これって猪木を怒らせただけのような……。

12/5



【新日本プロレス】

ドラゴンの一騎打ち要求アッサリ却下

「猪木さんの顔色がみるみる変わり、目がギラギラとひかりだした」というドラゴンの証言から、もはや実現秒読みかと思われた藤波vs猪木戦だか、「もう何もしたくねえよ。そんなつまらねえもんには乗らねえっての。素っ裸でリングに上がれと言うなら、喜んでやってやるがな」とアントンはアッサリ全面否定。「目がギラギラ」は大方の予想通りドラゴンの単なる勘違い、思いこみ、自分に都合のいい解釈であったことが判明。それにしても、素っ裸でリングに上がることを喜んでやってしまうアントンって一体……。

12/6



【新日本プロレス】

ドラゴン、高熱で会社お休み

かつて出社拒否をした前科があるドラゴンがこの日の朝、「40度の熱が出た。吐いた。これから病院に行く」という小学生のズルやすみのような電話を会社にいれ、お休みしたことが発覚。「目がギラギラ」していたはずの猪木に一騎打ちをアッサリと却下されたショックか、はたまた「ミスター高橋本」を遂に読んでしまい、自分があまりにもダメ人間に書かれていたことにショックを受けてしまったためか、もうすぐ50歳になる人間が出すとは思えない40度の熱で倒れてしまった。

12/14



【ZERO−ONE】

橋本、NWAヘビー級王座奪取へ渡米

アメリカに怒りをぶつけに、破壊王が再びNWA王座取りに旅だった! 今年、10月13日にもNWA世界ヘビー級王者に挑戦、ZERO−ONEに来たことがある王者コリノを一方的に下しながら、NWA側から「ルール規定にない勝利」と言われ王座移動を認められなかった。これを米国進出の足がかりにしたい破壊王は「米国の公正な態度を期待したい」とNWA名物、理不尽決着に釘をさした。破壊王の世界戦略、はたして結果やいかに。

12/12



【新日本プロレス】

長州、武藤に挑戦状?

IWGP王者・藤田和之の右アキレス腱断裂によって、12・31「イノキ・ボンバイエ」だけでなく、藤田vs永田のIWGP戦も消滅。この時期になってまた一からマッチメイクを練りなおす非常事態となった。ここで立ち上がったのが我らが親方・長州力。シャイニング・ドラゴンの無駄な奮闘ぶりに触発されたか、「今度こそ我々の世代でベルトを回し合う」とばかりに、武藤敬司の3冠王座への挑戦に意欲を見せているという。

12/8



【ZERO−ONE】

破壊王のプロレスW杯構想

ZERO−ONE・橋本真也がとんでもねぇことをわめきだした! この会見で「来年以降は大会の形式が変わる。国別の5対5とかでシングル団体戦が面白い」と、サッカーにW杯に触発されてか、そのW杯が行われる2002年に「プロレスW杯」を計画していることを明かにした。参加国は現在ZERO−ONEに参加している米国、オランダ、韓国などが候補に上がっており、試合は格闘技色の強い真撃に近いものになるとのこと。「何を夢みたいなこと言ってるんだ?」と思うなかれ。今まで不可能や、奇跡がといわれてたことが実際に起こってきたのだ。期待して待て!

12/6



【プロレスリングX】

大仁田「X」本格発進! 猪木にも宣戦布告!

邪道の象徴・革ジャンを伝承するような人材の育成を旗印に、大仁田が新プロジェクト「プロレスリングX」の旗揚げをこの日発表した。「「大仁田興行」では大仁田色が出過ぎて若手が育たない。インディー魂を受け継ぐ選手がでてればいい」と語る大仁田はハードコア・プロレスの本来の姿を日本に立ち上がらせるつもりだ。また、大仁田は「12月31日、覚悟しておけ! 藤波の挑戦をうけるといったら、その時点で現役復帰。あんたも嘘つきじゃ!」と、かねてからアントン総帥の首を狙い、大晦日の「猪木祭り」への乱入を予告していた大仁田の刃が再び向けられた。

番外



【闘龍門JAPAN】

闘龍門駒沢3時間スペシャル

2001年の闘龍門の集大成ともいいうべき、見事な試合となったCIMA vs望月成晃の「カベジェラ・コントラ・カベジェラ(敗者髪切り)ランバージャックデスマッチ」。その12・10駒沢大会(暖房ナシのため史上最強レベルに寒かった)の様子をCS放送GAORAにて3時間スペシャルで放映されることとなった。放送日時は1月2日(水)20時30分〜23時30分。生でこの試合を見た人も、寒さに耐えず、試合に集中するためにもう一度みよう。

【問い合わせ】
0570-000-302
GAORA視聴者センター

12/13



【プロレスリング・ノア】

金髪の小橋が2・17武道館で復帰

今年の1月から右ヒジ、両ヒザ手術のため、長期欠場がやむなくされた小橋健太がノア事務所で会見。来年、2月17日の日本武道館で復帰することが発表された。それにしても誰もが気になるのがこの見事な金髪。「すわ、小橋ノーフィアー入りか?」と誰でも思ったことだろうが、ただ単に気分転換を兼ねてということだけだということ。しかし、かつて"青春の握り拳"と呼ばれいた、さわやか好青年だった小橋だけに、戸まどうファンも出てきそう。金髪とスーツという取り合わせも違和感を増大させているのかもしれない。

12/11



【新日本プロレス】
大阪府立体育会館

ブラック・ドラゴン王座奪取ならず!

今シリーズ「燃える気持ちを表現する」と赤いタイツ&シューズでリングに上がり、"レッド・ドラゴン"となったドラゴンがこの日、武藤敬司の持つ三冠ヘビー級王座に挑んだ。しかし、リングに上がったドラゴンは、なぜかいつもの黒パンツに逆戻り。相変わらず行動が意味不明なところを見せつけた。試合はドラゴンが"シャイニング・ドラゴン"を決める場面こそあったが、最後はアップアップのドラゴンに正統シャイニング・ウィザード! 武藤が、48歳の野望を打ち砕いた。



【リングス】

ボビー・ホフマンのランキングはく奪!

ケリー・ショールや田村潔司も名をつらねるリングスオフィシャルランキング。この日、リングス審議委員会がヘビー級1位にランキングしているボビー・ホフマン選手から、ランキングをはく奪することを発表した。あ、ホフマンも「PRIDE」に行くのか。とかそういう問題ではなく、リングスが独自に調査を行ったところ、ホフマンはアメリカでと懲役2年の判決を受けており、来年のリングス大会に参戦する可能性が見られないことがその理由。これによって、ヘビー級1位は空位となった。



読プレにも逆上陸！

闘龍門2000プレゼント

T2P

堀江ガンツ
メキシコみやげ

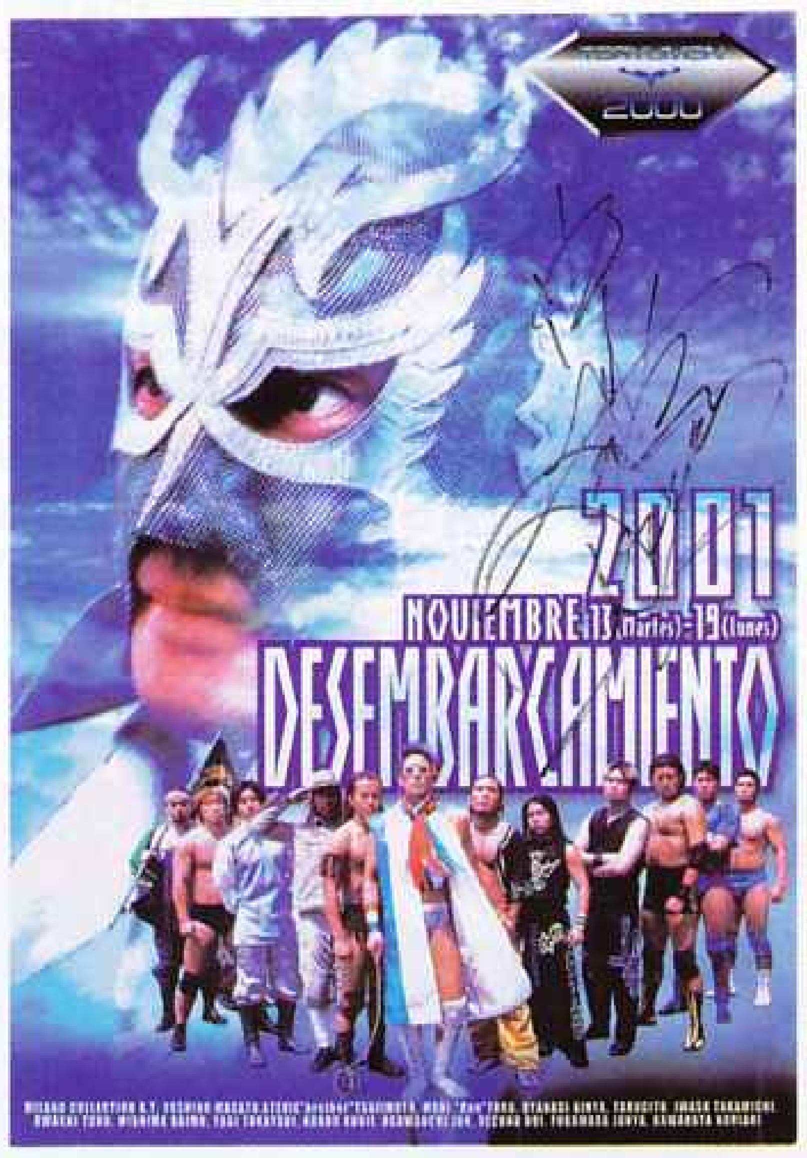




ウルティモ校長&
T2P全選手サイン入り
パンフレット

話題沸騰のT2Pの全選手サインが逆上陸だ！ 表紙を飾るのはもちろん校長だ！
【ガンツ提供】

限定 1 名様



各 2 名様

ルチャ・マスク

ルチャドールが命よりも大切なもの！ それはマスクだ！ 誇りを持って被るように！
【ガンツ提供】



限定 1 名様

TARUシート
試合コスチューム

TARUシートがメキシコ自主興行で着用した超レアなブツだ！ メキシコの匂いを嗅げ！【TARUシート 提供】





T2Pメキシコ自主興行
記念Tシャツ

フロントのスポンサー名がとにかくビックリの大会Tシャツ！ ズバリいってこれもかなりレア！
【ウルティモ・ドラゴン提供】

限定 1 名様

赤いミットの頑固者



U-FILE CAMP使用ミット

赤いミットの頑固者（ブルーが混じってるのを無視して）！ 田村はもちろん、上山龍紀、大久保一樹、佐々木恭介らのサインが入り、汗と涙が染み込んでいるぞ！ ただし、壊れています（冷静に）
【U-FILE CAMP提供】

1 名様

SWS選手ジャンパー

1 名様



SWSジャンパー

あの伝説の団体の選手ジャンパーがついに登場！ 一体、どの選手のジャンパーなのか？ 手に入ればわかるさ！ ありがとーッ！ 【編集部提供】

葛西純変身セット



1名様

葛西純変身セット
スコープ、バンダナ、狂猿Tシャツ、フィギア（ザンディグ付き）、そして横浜アリーナで共に闘ったウサちゃん人形（血塗れ）と全て身につければ葛西純に早変わり！ こいつはモンキービジネスだ！
【葛西純提供】

今月のアントン、ダーッ！

3名様

DVD「猪木語録」
大人気の「猪木語録」ビデオが1枚のDVDになったぞ！ 何とDVD版にはアントン総裁のホームレスなどのコスプレ特集が特別収録！ これは必見というか。
【パイオニアLDC提供】



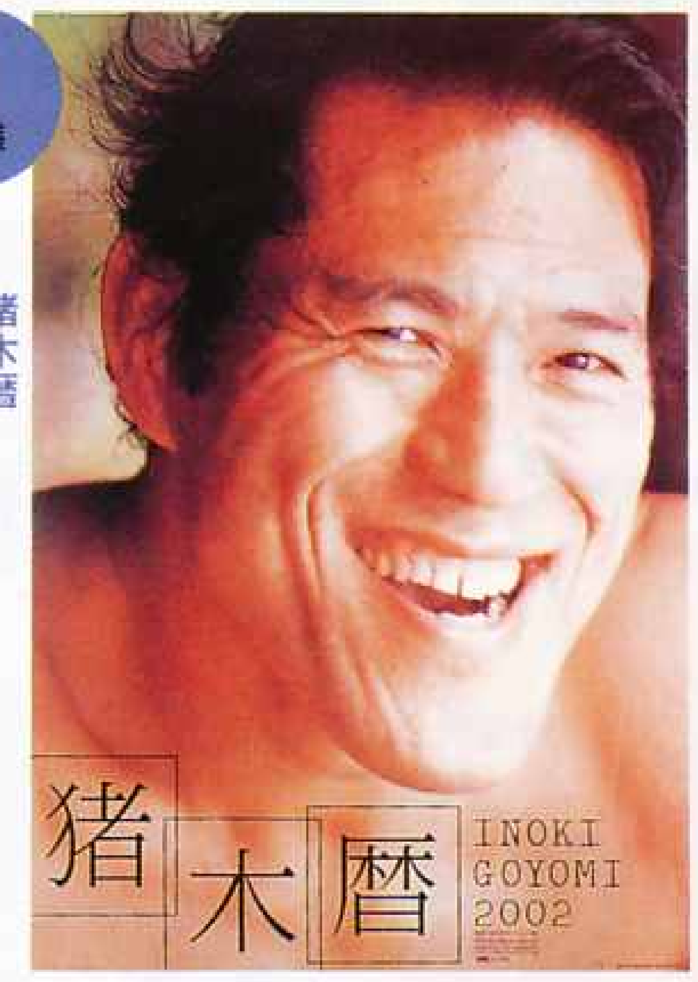
1名様

アントン・タオル
吉田豪秘蔵のアントンタオルのお目見えだ！ 決して汗が拭けない逸品ダーッ！
【吉田豪提供】



3名様

猪木暦
アントン総裁の笑顔がステキなカレンダー！ 1日中見ていよう！ 【新日本プロモーション提供】
お問い合わせTEL.03-3403-3111



今年の冬はこれでキメろ！



各1名様

BACK DROPトレーナー
「USE YOUR STRENGTH（ヘソで投げろ」とヘソの部分とバックにプリントされている「BACK DROP」トレーナー！ キミは鶴田派か、後藤達俊派か、それともマサさん式か？ とにかくバックドロップが大好きなアナタに！
【EMITAI提供】
TEL.0897-43-3869 http://www.emitai.com



1名様

修斗チャッカル大石真丈Tシャツ&ステッカー
先日、見事修斗フェザー級王者に輝いた大石真丈の輝かしいTシャツ！ キミも輝け！
【ART JUNKIE提供】お問い合わせTEL.053-451-5507
keito@tokai.or.jp ※Tシャツ¥3,800 ステッカー¥300



1名様

フードマスク
『紙プロ』ウエア販売でもおなじみの「スクワット」からフードマスクが登場！ 手に入れたいなら、みちのくに飛べ！
【スクワット提供】
お問い合わせ スクワット仙台TEL.022-264-8160
スクワット秋田TEL.018-836-2817 ※フードマスク¥10,800

今年の冬、必読！





各1名様

ルチャ雑誌
こちらもメキシコみやげ！ 何と書いてあるかなんて気にするな！ とにかく必読、現地のプロレス本！
【ガンツ提供】



1名様

ミセスのチューブ貯筋体操／ミスター高橋著
体操にも革命だ！ 「流血の魔術 最強の演技」執筆で話題騒然のミスター高橋のチューブ体操本。ミセス～とあるがミスや男子も読まねばダメだ！
【ミスター高橋提供】

SAKUベルト



3名様

桜庭和志ベルトストラップ
サクのベルトがキミの元に！ 飾っても良し！ サクベルトストラップ！
【インスパイア提供】お問い合わせ
TEL.03-5670-5523（月～金10～18時）

クイック・キック



クイック・キック・リー完成記念Tシャツ
クイック・キック・リーTシャツが完成した記念に30枚だけ作られた限定Tシャツ！ 早く神保町に駆け込むんだ！
【グレート・アントニオ提供】
お問い合わせTEL.03-33219-9550

1名様

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼2001年のベスト&ワースト試合はどれですか？

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ジャブ」係まで
※締切は2002年1月20日（日）当日消印有効

今月のヴァリス

ケンドー・カ・シン 石澤常光
見ているだけで津軽訛りになってしまう!? カシンと石澤のファイトがたっぷり収録の一本！ 暴言特集はそろそろか!?



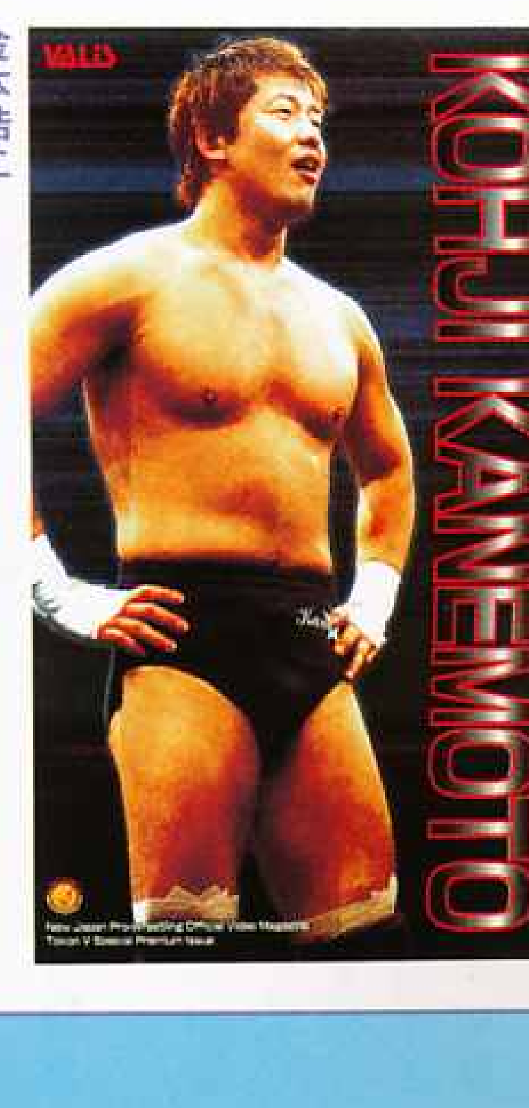


蝶野正洋～黒の歴史～
蝶野の黒い革命の流れがよくわかるブラックビデオ！ マット界を自分の色に塗りつぶした蝶野をとくと見よ！

各2名様

【ヴァリス提供】 ●お問い合わせTEL.03-5351-5181

金本浩二
ヒール転向で嵐を呼ぶ金本浩二特集ビデオ！ かつてのファイト振りから何かが伝わってくる！ インタビューも収録！



コンニチワ、リングアフロ!!

紙プロ旗揚げ10周年だけに、10要なお知らせです！

……くだらねぇな、これは!!

紙プロシンボルキャラにも世代交代の波!!



約8年半前、まだ版型がちっちゃい頃の『紙プロ』本誌に、突如シンボルキャラとして登場した「リングおじさん」。まだ、花くまゆうさく先生が工場に勤めながら漫画を描いていた時代の作品だ



そしていまや花くま先生も売れっ子となり、柔術漫画家となった。シンボルキャラも世代交代！ これからマット界を支えていくのは「リングアフロ」だ。若くてイキがいい(?)のが取り柄です

Kapraパーカー



チャコールグレー

¥6,000

［サイズ］M or L

朗　報!!

衣料部発足3周年を記念して「リング・アフロ」「Kapra」お買い上げの方全員に紙プロオリジナル特製缶バッジ（非売品）を差し上げます（初回製造枚数のみ。6種類のうちいずれか1個。申し訳ないけど選択不可です。お楽しみに）。

※通販方法は、P161を参照して下さい。



巷で評判の『紙プロ』特製ピンバッジ（非売品）を、P158〜159に掲載の『リングアフロ』or『kapra』のTシャツorパーカーお買いあげの人にプレゼント！　どうよ？

リングアフロ満を持してデビュー!!

「1991年旗揚げ以来、お陰様で『紙プロ』発足10周年＆RADICAL創刊5周年を迎えることが出来ました。これも皆様のおかげで〜す。ありがとうございま〜す。へ、へ、へ、へ〜ックション!!」（カトちゃん風）

10周年？　私個人としては、「勝手に10年も経っちゃって、歳が増えた、皺が増えた、脂肪も増えた、オマケに借金も増えた。増えた増えたの四重奏だけじゃ〜ん！」と100回くらい吠えたい気分で〜す。ダメだこりゃ（いかりや長介風）

ついでに地味ながら衣料部も、〈誰も気付いてない〉3周年を迎えちゃいました。「良く頑張ました。花◯」と自分で自分を誉めてあげたいで〜す。

そもそも衣料部などを始めるハメになっちゃったのは、何年か前に我らが鬼畜編集長（山口日昇）に「し、資金繰りが苦しいんじゃぁ〜」という話題をしちゃった時に、「経理なんて鼻くそにもならないことやってないで、自分で生産性のある仕事しろ！」と、一刀両断されたことが始まりでした。ブブウゥ〜（白豚風）。

生産性？　経理の仕事は生産性ないの？「全国、いや世界の経理の仕事に携わっているみなさ〜ん、聞いてくださ〜い。この人こんなこと言うんですよ〜ん」と、また吠えたくなっちゃいました。ブッブー（黒豚風）。

そこでヘックションは考えました。生産性＝現金収入＝なぜかTシャツ。

衣料部の誕生です。コレがけっこう評判で、無事3周年を迎えるわけで〜す。

いつだったかスモーノブが、口をポカンと空けて「たまには、給料袋が立つぐらい給料をもらいたい」とふざけたことを言ったので、給料日に全部500円玉（通販の送料）で渡して、「立つでしょ！　末広がりに！　重いでしょ？」と言ってやりまし

サヨウナラ、リングおじさん!!

リングアフロデビュー作品だ!! 紙のプロレス 旗揚げ10周年 限定記念Tシャツ

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ



グレー×ブラック
¥4,500 [サイズ] S or M or L

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ



ブラック×グレー
¥3,800 [サイズ] S or M or L

2002年もパロリスト!! 紙のプロレス RADICAL 創刊5周年 記念Tシャツ＆パーカー

Kapra半袖Tシャツ



ホワイト
¥3,500
[サイズ] S or M or L

Kapra半袖Tシャツ



グレー
¥3,500
[サイズ] S or M or L

Kapra半袖Tシャツ



デニム
¥3,500
[サイズ] S or M or L

た。

そんなスモーも退社して半年になりますが、いまもなぜか会社帰りに来て、口をポカンと空けて、ホワイトシャツにネクタイ、下はジャージ姿で編集作業をしています。またお手伝い料（ギャラ＝もちろん500円玉）を渡す楽しみが増えちゃいました。

そんな訳でもうしばらく、いま時原始的な、現金書留による通販につきあってくださいませませ。

話は変わりますが、事件が起きました。小さな版型のころの『紙プロ』第6号からシンボルマークとして活躍してくれた『リングおじさん』が「引退したい」とつい先日言い出したのです。

突然、私の目の前に現れてリングをリフトアップして、「マット界の底上げを一緒にしよう！」と言った、リングおじさんとの約8年半前の出会いが思い出されます。

引退の理由は「もう俺の役割は終わった。紙プロも大きくなった。だから闘うリングも重くなった。これからは『リングアフロ』がそのリングを支えるんだ」と言うのです。

ところで「リングおじさんは何処へ行っちゃうの？」と聞くと、「世界一周闘いの旅へ出る」と言うのです。そしてこんなメッセージを最後にくれました。

『最初は背中を向けていても、闘うときは、地球を一周してでも相手と向き合って、正々堂々闘うんだ』

ありがとう、リングおじさん！　こんにちわ、リングアフロ！

そんなリングおじさん最後の思いを込めたのと、『紙プロ』発足10周年＆RADICAL創刊5周年を記念して、新作Tシャツ＆パーカーを発売します。

これからマット界を支える役割を背負わされた『リングアフロ』は、まだまだ若くて頼りないですが、みなさんぜひ可愛がってくださ〜い。衣料部もガンバリマ〜ス。へ、へ、へ、へ〜ックション!!（ダメだ、こりゃ）

林“ベックション”一枝

紙のプロレス RADICAL
No.45
2002年1月25日発行

No.46は 1月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇

●編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
斉藤中
八木賢太郎(「密売KGYダビッドソン」のバンド練習に励むため非番)

●スーパーバイザー
吉田豪

●スーパーイビキ助っ人
スモーノブ

●助っ人
中村カタブツ君
佐藤耳男
スエヒロ・ガイコ

●アートディレクター
出田さん(TwoThree)

●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇 (Zero graphics)
石田理恵

●出前
出前持ち入江(TwoThree)

●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫

●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

●耳男は“心のジャイ子軍”
ジャイ子

●お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

●印刷
図書印刷株式会社

●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

紙のプロレスRADICAL WANIMAGAZIN MOOK 190 2002 NO.45
猪木軍vsK-1は命がけのエンターテインメントだ!!
平成14年1月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税

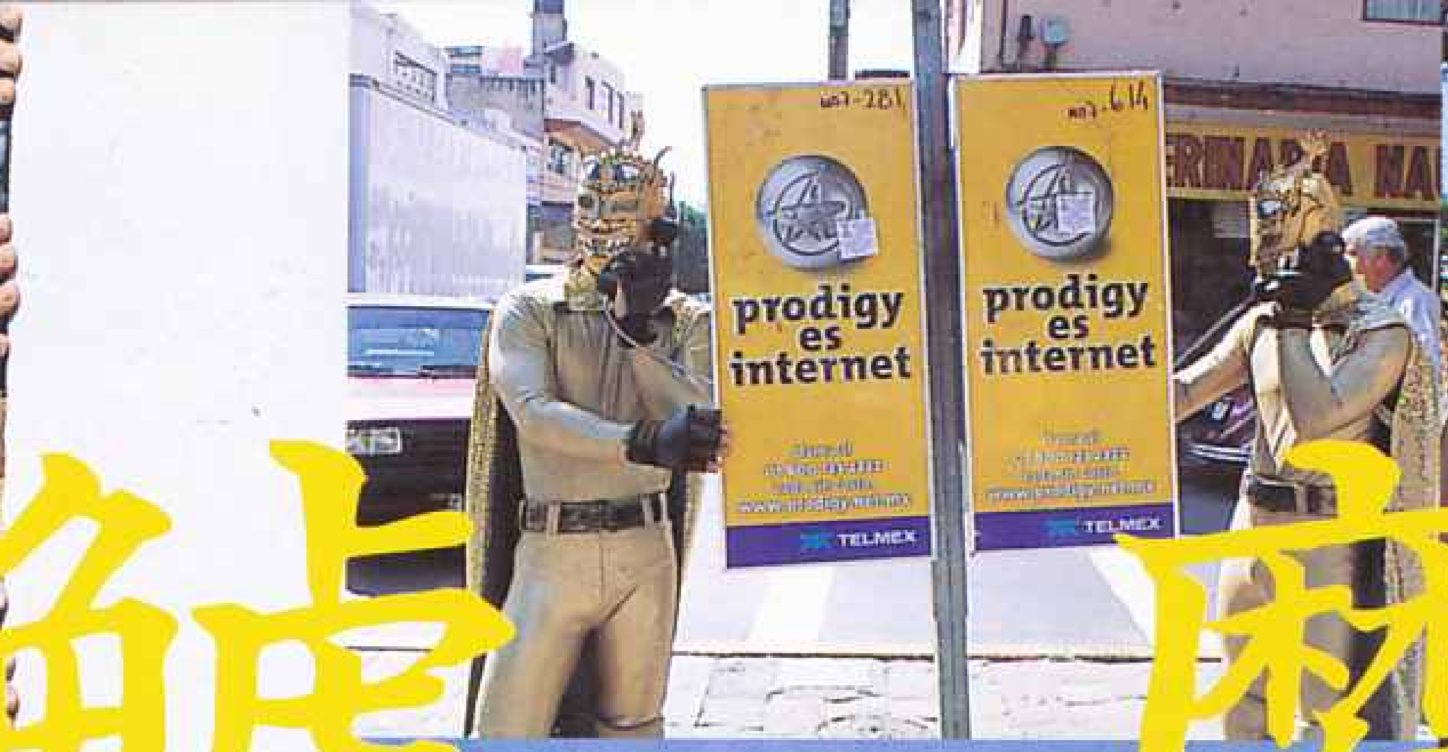
9784898296714
ISBN4-89829-671-8
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69862-90

印刷：図書印刷株式会社

☎ INDEX

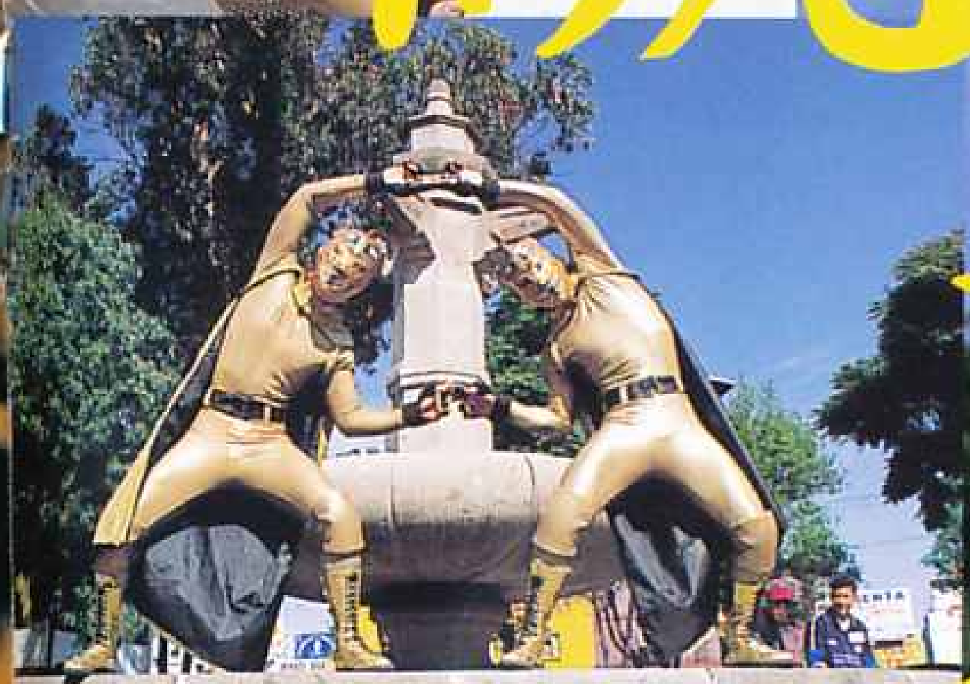
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	➡03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	➡03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	➡03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	➡03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	➡03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	➡06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901
ダイプロデュース（大仁田興行）	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11
掣圏道	➡03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
U-FILE CAMP	➡044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
高山堂	➡03-3386-3324	〒161-0032 東京都新宿区中落合2-12-23-602
つぼプロモーション	➡03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E
トータルワークアウト	➡03-3280-5557	〒108-0073 東京都港区三田4-7-24 明るいビル
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	➡03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201
T.A.M.A	➡042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	➡075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	➡03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K－1 事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	➡03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION（和術慧舟會、A'GYM、RJW）	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
DEEP 2001事務局	➡052-339-0303	〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	➡03-5473-3148	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	➡03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105
GAEA JAPAN	➡03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
アルシオン	➡03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
エヌ・イー・オー	➡03-3796-7461	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13 ドミシール平野503







鯱魔神襲来









闘龍門メキシコで遂に捕獲に成功！

芋づるマスクマン軍団

しゃちほこマシーン壱号弐号

T2P1・23後楽園で

日本デビュー決定!!



“Ｔ２Ｐの秘密兵器”しゃちほこマシーン壱号＆弐号が１・23後楽園ホールで遂にそのベールを脱ぐことが決定した！　闘龍門ファンの間では早くからその存在が話題となりながらも、名古屋城出身ということ以外すべて謎に包まれていた二人いや二匹（でいいのか？）だが、今回メキシコ現地取材によってその素性が判明したので、独占公開することにしよう。

名古屋城にある金のシャチホコの化身であるという彼らの年齢は築250年。みそカツ、ういろう、天むす等を好んで食し、尊敬する人物は星野仙一（阪神監督就任により変更の可能性あり）、好きな芸能人は壱号が後藤真希、弐号が中島玲香という闘龍門らしいプロフィールを持つ。しかし、その闘いぶりはオリジナルの合体殺法を数多くもつ、Ｔ２Ｐ随一のタッグチームであり、ウルティモ・ドラゴン校長があらゆる面で太鼓判を押す文字通りＴ２Ｐの秘密兵器なのだ。しかも現在は弐号までしかいないこのマシーンだが、あのストロング・マシーンズのごとく、これから増殖していく可能性も秘めているという。注目の日本デビュー戦の相手は12月11日現在発表されていないが、この撮影の最中に因縁が生まれた“天龍二世”大鷲透とのハンディキャップマッチとなることが濃厚。はたしてしゃちほこマシーンは強いのか？　弱いのか？　お笑いなのか？　日本初公開の合体技「しゃちほこクラッチ」共々注目だ！


葛西純からの
“お祝い”だっつの…
周年だって？
ってことねえよッ！
WANTED
MONKEY

元・本誌投稿戦士サル・ザ・マン（葛西純）も今やすっかりビッグに！

紙のプロレス RADICAL

2002 45



『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江　◎ 斉藤中

:00) ★

0)

)

0)

全日本■大阪・大阪市中央体育館（18:30）
アルシオン■茨城・ひたちなか市松戸体育館（18:30）

12 SAT.

ノア■香川・高松市市民文化センター（18:00）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）

13 SUN.

GAEA■愛知・名古屋市体育館（13:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
アルシオン■東京・後楽園ホール（12:00）
Jd'■東京・後楽園ホール（12:00）

14 MON.

みちのく■宮城・Zepp sendai（14:00）
ノア■京都・京都KBSホール（15:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
全日本■神奈川・横浜文化体育館（15:00）
大阪■愛知・名古屋・club OZON（16:00）

15 TUE.

IWA■東京・後楽園ホール（18:30）

16 WED.

ノア■大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:00）

17 THU.

ノア■岐阜・岐阜産業会館（18:30）

18 FRI.

全女■千葉・千葉公園体育館（18:30）
Jd'■東京・北沢タウンホール（18:45）

19 SAT.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
BATTLE JAM■東京・金町地区センター5F文化ホール（18:30）

20 SUN.

ノア■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
全女■千葉・木更津倉型形スポーツセンター（18:30）
レインボープロモーション■東京・後楽園ホール（12:00）
Jd'■大阪・なんばグランド花月（18:00）
新宿プロレス■東京・歌舞伎町クラブハイツ（18:00）

23 WED.

T2P■東京・後楽園ホール（18:30）◆

25 FRI.

JWP■東京・板橋区立産文ホール（19:00）

26 SAT.

GAEA■大阪・梅田ステラホール（18:00）

27 SUN.

パンクラス■東京・後楽園ホール（12:00）
NEO■東京・板橋区立産文ホール（18:00）
K-1■静岡・グランシップ大ホール[海]（13:00）
Jd'■東京・ディファ有明（18:00）

2 February

1 FRI.

NEO■東京・板橋区立産文ホール（19:00）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール（18:30）

2 SAT.

ノア■東京・ディファ有明（18:00）

3 SUN.

ノア■東京・メッセ昭島（15:00）
SMACK GIRL'■東京・ディファ有明（18:30）♠

4 MON.

FMW■東京・後楽園ホール（19:00）

6 WED.

ノア■愛知・東海市民体育館（18:30）

7 THU.

ノア■広島・福山ビックローズ（18:30）

8 FRI.

NEO■東京・板橋区立産文ホール（19:00）

9 SAT.

ノア■三重・メッセウイングみえ（18:00）

10 SUN.

ノア■兵庫・神戸ワールド記念ホール（15：00）

11 MON.

ノア■愛知・豊田市体育館（17：00）
K－1 WORLD MAX■東京・国立代々木競技場第二体育館（時間未定）

13 WED.

ノア■和歌山・田辺ハナヨアリーナ（18:30）

14 THU.

ノア■滋賀・滋賀県立体育館（18:30）

15 FRI.

リングス■神奈川・横浜文化体育館（未定）

17 SUN.

みちのく■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
パンクラス■大阪・梅田ステラホール（14:00）
アルシオン■東京・後楽園ホール（12:00）
ノア■東京・日本武道館（15:00）

RADICAL CALENDAR

12 November

20 THU.

闘龍門■伊勢・伊勢県営サンアリーナ(18:30)

21 FRI.

FMW■東京・後楽園ホール(19:00)
リングス■神奈川・横浜文化体育館(19:00)◆
みちのく■新潟・新潟フェイズ(19:00)

22 SAT.

大阪■大阪・デルフィン・アリーナ(18:00)
Jd'■宮城・メイフェアプラザ仙台ワッセ(18:30)
みちのく■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■山口・海峡メッセ下関(18:30)

23 SUN.

DEEP■東京・ディファ有明(16:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
DSE『PRIDE.18』■福岡・福岡マリンメッセ(16:00)★◎
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪■大阪・デルフィン・アリーナ(14:00)
みちのく■埼玉・桂スタジオ(14:00)
SGP■愛知・名古屋市中スポーツセンター第2競技場(17:30)
Jd'■東京・国際フォーラムB2F展示場ホール(11:15)
大仁田興行■静岡・ツインメッセ静岡(16:00)
闘龍門■広島・広島市佐伯区スポーツセンター(16:00)
SPWF■千葉・一宮SPWF道場(14:00)
T.A.M.A■ニューシティ国立特設シート(11:309

24 MON.

全女■東京・後楽園ホール(12:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィン・アリーナ(14:00)
ノア■東京・ディファ有明(16:00)
闘龍門■和歌山・和歌山県立体育館(17:30)

25 TUE.

大仁田興行■東京・後楽園ホール(19:00)
NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)

26 WED.

『AX』■東京・六本木TSKビルCCCホール(19:00)♠

28 FRI.

JWP■福岡・小倉西日本総合展示場(18:00)
闘龍門■愛知・名古屋レインボーホール第3競技場(17:30)

29 SAT.

Jd'■東京・後楽園ホール(18:30)

30 SUN.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(16:00)

31 MON.

猪木ボンバイエ■埼玉・さいたまスパーアリーナ(18:00)★

1 January

2 WED.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)

3 THU.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大阪■大阪・大阪府立臨海スポーツセンター(16:00)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)

4 FRI.

新日本■東京・東京ドーム(16:00)
全女■東京・後楽園ホール12:00)

5 SAT.

LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
ノア■東京・ディファ有明(15:00)
FMW■大阪・大阪府立体育館第2競技場(16:00)
全日本■福岡・博多スターレーン(18:00)

6 SUN.

アルシオン■東京・ディファ有明(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(12:30)
FMW■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館(17:00)
全日本■長崎・長崎NCC&スタジオ(18:00)
ZERO―ONE■東京・後楽園ホール(19:00)
全女■埼玉・桂スタジオ(13:00&17:00)

7 MON.

JWP■東京・東京キネマ倶楽部(19:00)
大日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
全日本■長崎・佐世保市体育文化館(18:30)

8 TUE.

大日本■岡山・岡山オレンジホール(18:30)
全日本■福岡・小倉北体育館(18:30)

9 WED.

ノア■広島・広島市東区スポーツセンター(18:00)
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
全日本■鹿児島・鹿児島県立体育館(18:30)

10 THU.

ノア■福岡・博多スターレーン(18:30)

11 FRI.

NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
「一撃」■東京・代々木第2体育館(18:30)◎

全日本■大阪・大阪市
アルシオン■茨城・ひ

12 SAT.

ノア■香川・高松市市
修斗■東京・後楽園ホ

13 SUN.

GAEA■愛知・名古屋
大阪■大阪・デルフィン
アルシオン■東京・後
Jd'■東京・後楽園ホ

14 MON.

みちのく■宮城・Zepp
ノア■京都・京都KBS
GAEA■東京・後楽園
全日本■神奈川・横浜
大阪■愛知・名古屋・cl

15 TUE.

IWA■東京・後楽園ホー

16 WED.

ノア■大阪・大阪府立

17 THU.

ノア■岐阜・岐阜産業

18 FRI.

全女■千葉・千葉公園
Jd'■東京・北沢タウン

19 SAT.

大阪■大阪・デルフィン
BATTLE JAM■東京・

20 SUN.

ノア■東京・後楽園ホー
大阪■大阪・デルフィン
全女■千葉・木更津倉型
レインボープロモーション
Jd'■大阪・なんばグラ
新宿プロレス■東京・歌

23 WED.

T2P■東京・後楽園ホー

25 FRI.

JWP■東京・板橋区立産

26 SAT.

GAEA■大阪・梅田ステ

27 SUN.

パンクラス■東京・後楽
NEO■東京・板橋区立産
K-1■静岡・グランシップ
Jd'■東京・ディファ有明